三菱重工

ビル空調システム

室内ユニット （冷媒センサ内蔵）

技 術 資 料

天井埋込形4方向吹出し(FDT)

天井埋込形小容量4方向吹出し(FDTC)

天井埋込形2方向吹出し(FDTW)

天井埋込形小容量1方向吹出し(FDTSC)

本資料は室内ユニットに関する事項を記載しております。
室外ユニットについては，下記をご覧ください。

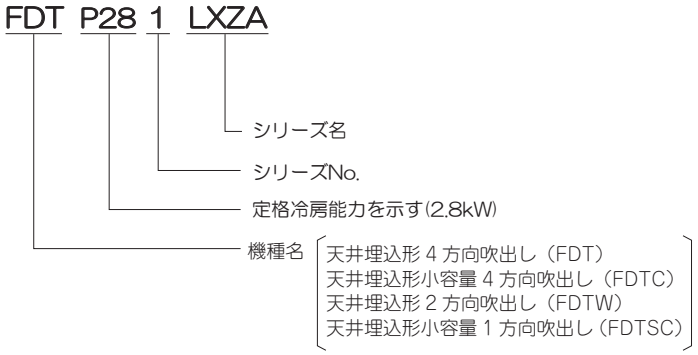
マルチLXZシリーズ	R32安全対策マニュアル ……	4-612-1-D
マルチLXZシリーズ	4, 5, 6HP ……	4-589-1-D
マルチLXZYシリーズ	8, 10HP ……	4-590-1-D
マルチLXZシリーズ	8-24HP ……	4-591-1-D

4-611-1-D
'26-11 発 行

目　次

1. 仕　　様（運転特性）…… 2
2. 外　形　図 …… 11
3. 電気配線図 …… 21
4. 気流分布 …… 26
5. 運　転　音 …… 38
6. 塗　装　色 …… 41
7. 防振設計用参考資料 …… 43
8. 据付関連事項 …… 45
9. マイコン運転制御機能 …… 190
10. 電装品故障診断要領 …… 218
11. 別売品 …… 274

● 形式名称の見方



1. 仕　　様

(1) 天井埋込形 4 方向吹出し（FDT）

項目 ＼ 形式				FDTP281LXZA	FDTP361LXZA	FDTP451LXZA
電源				単相 200V 50/60Hz		
(1) 能力	冷房能力		kW	2.8	3.6	4.5
	暖房能力			3.2	4.0	5.0
定格冷房時の顕熱比				0.93	0.81	0.73
運転音	パワーレベル		dB(A)	P急：48，急：46，強：45，弱：42	P急：48，急：46，強：45，弱：42	P急：49，急：48，強：46，弱：42
	音圧レベル			P急：33，急：31，強：29，弱：25	P急：34，急：31，強：29，弱：25	P急：35，急：33，強：31，弱：25
外形寸法	高さ×幅×奥行		mm	本体：226（346/236）× 840 × 840，パネル：(35) × 950 × 950(4)		
製品質量			kg	本体：22，パネル：下記参照		
空気熱交換	形式			アルミフィン＆銅チューブ式		
	冷媒制御器			電子膨張弁		
送風装置	形式・台数			ターボファン（モータ直結）× 1		
	風量		m^3/min	P急：13.5，急：12.5，強：11，弱：9	P急：14.5，急：13，強：11.5，弱：9	P急：15.5，急：14，強：12，弱：9
	機外静圧		Pa	0		
	電動機	定格出力	W	58 × 1		
	エアフィルタ			プラスチックネット（防カビ仕様），ロングライフフィルタ，洗浄可能		
	新鮮空気取入口			側板を利用して可能（65 × 112 ダクト接続）		
運転調整	操作スイッチ			RC-DX3F		
	温度調節			マイコン式サーモスタット		
	表示			液晶表示〈リモコン〉		
	表示灯			緑色：運転，赤色：点検〈リモコン〉		
加湿器・加熱器	補助電気ヒータ			——（取付不可）		
	温水・蒸気ヒータ			——（取付不可）		
	加湿器			——（気化式加湿器取付可能）(6)		
排水	ドレンポンプ			ドレンポンプ内蔵		
	ドレンアップ高さ		mm	ユニット下面から 850 以下		
高性能フィルタ				——（組込可能）(6)		
遠方発停用機能				遠方発停入力用コネクタ（CNT：6P，CNTA：2P）を保有（室内基板上）		
冷媒漏えい安全対策機能				冷媒センサ内蔵・安全遮断弁・冷媒検知警報器接続可，インターロック解除ピン付属		
遠方表示用出力機能				運転表示・異常表示出力用コネクタ（CNT：6P）を保有（室内基板上）		
保護機能				ファンモータ：マイコン式過負荷保護，フロートスイッチ，凍結防止サーモ		
防振装置				送風用電動機：防振ゴム		
防音・断熱材				外板：吸音断熱材内貼		
冷媒				R32		
配管寸法（室内側）	冷媒配管（外径）	液管	mm	φ6.35（フレア / ねじ接合継手）		
		ガス管		φ9.52（フレア / ねじ接合継手）	φ12.7（フレア / ねじ接合継手）	
	排水管			VP25（I.D.25，O.D.32）の排水管接続可能		
IPコード				IPX0		

注(1) 冷房・暖房能力および電気特性はJIS B 8616：2015条件により運転した値です。
(2) 運転音（パワーレベル）は，JIS B 8616：2015に基づいた音響パワーレベルの数値です。
(3) 運転音（音圧）は，JIS B 8616:2006に準拠し，反響の少ない無響室で室内ユニットの中央下方 1.5mの位置で測定した値（Aスケール）です。実際に据付けた場合は，周囲の騒音や部屋の反響を受け表示値より大きくなります。
(4) （ ）内寸法は次の高さ寸法を示しています。本体：天井内部の寸法（お掃除パネル / その他），パネル：天井から露出する部分の寸法
パネル本体高さは標準，エアフレックス：50mm，ラクリーナ：90mm，お掃除ラクリーナ：195mmです。
(5) エアフレックスパネル・ラクリーナパネル・お掃除ラクリーナパネルには，ドラフト防止機能・人感センサを搭載しています。
(6) お掃除ラクリーナパネル（T-PSCLS-6AW）使用時は，本オプションとの組合せはできません。騒音は弱で約 1dB(A)高くなります。
(7) 室内ユニット内蔵の冷媒センサまたは冷媒検知警報器が，漏えいした R32 冷媒を検知した場合、リモコンまたは冷媒検知警報器から、ブザー音と赤色 LED による警報を発します。冷媒漏えいを検知した際，直ちに適正な処置をしてください。
(8) 別売品

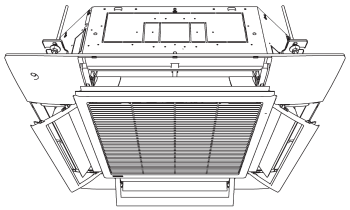
名称	形式
安全遮断弁	SV-KIT-S1，L1
冷媒検知警報器	RLD-KIT

■パネル形式（オートスイング付）

名称	パネル形式	質量(kg)	ワイヤレス受信部形式	ワイヤレスリモコン
標準パネル	T-PSA-6AW	5	LA-T-5BW1	RCN-D5
	T-PSA-6AB		LA-T-5SB1	
	T-PSA-6AC		–	–
エアフレックスパネル	T-PSAE-6AW	6	LA-T-5BW1	RCN-D5
	T-PSAE-6AB		LA-T-5SB1	
ラクリーナパネル	T-PSCL-6AW	7	LA-T-5BW1	
	T-PSCL-6AB		LA-T-5SB1	
お掃除ラクリーナパネル	T-PSCLS-6AW	12	LA-T-5BW1	

PJF000Z906

天井埋込形 4 方向吹出し（FDT）

項目 ＼ 形式						
				FDTP561LXZA	FDTP711LXZA	FDTP801LXZA
電源				単相 200V 50/60Hz		
(1)能力	冷房能力		kW	5.6	7.1	8.0
	暖房能力			6.3	8.0	9.0
定格冷房時の顕熱比				0.91	0.86	0.80
運転音	パワーレベル		dB(A)	P急：60，急：48，強：46，弱：43	P急：62，急：50，強：46，弱：44	P急：62，急：54，強：51，弱：46
	音圧レベル			P急：45，急：34，強：31，弱：29	P急：47，急：35，強：32，弱：28	P急：47，急：38，強：35，弱：30
外形寸法	高さ×幅×奥行		mm	本体：226（346/236）× 840 × 840，パネル：(35) × 950 × 950(4)		
製品質量			kg	本体：23，パネル：下記参照		
空気熱交換	形式			アルミフィン＆銅チューブ式		
	冷媒制御器			電子膨張弁		
送風装置	形式・台数			ターボファン（モータ直結）× 1		
	風量		m^3/min	P急：25，急：15，強：13，弱：11	P急：28，急：16，強：14，弱：12	P急：28，急：18，強：17，弱：13
	機外静圧		Pa	0		
	電動機	定格出力	W	58 × 1		
	エアフィルタ			プラスチックネット（防カビ仕様），ロングライフフィルタ，洗浄可能		
	新鮮空気取入口			側板を利用して可能（65 × 112 ダクト接続）		
運転調整	操作スイッチ			RC-DX3F		
	温度調節			マイコン式サーモスタット		
	表示			液晶表示〈リモコン〉		
	表示灯			緑色：運転，赤色：点検〈リモコン〉		
加湿器・加熱器	補助電気ヒータ			——（取付不可）		
	温水・蒸気ヒータ			——（取付不可）		
	加湿器			——（気化式加湿器取付可能）(6)		
排水	ドレンポンプ			ドレンポンプ内蔵		
	ドレンアップ高さ		mm	ユニット下面から 850 以下		
高性能フィルタ				——（組込可能）(6)		
遠方発停用機能				遠方発停入力用コネクタ（CNT：6P，CNTA：2P）を保有（室内基板上）		
冷媒漏えい安全対策機能				冷媒センサ内蔵・安全遮断弁・冷媒検知警報器接続可，インターロック解除ピン付属		
遠方表示用出力機能				運転表示・異常表示出力用コネクタ（CNT：6P）を保有（室内基板上）		
保護機能				ファンモータ：マイコン式過負荷保護，フロートスイッチ，凍結防止サーモ		
防振装置				送風用電動機：防振ゴム		
防音・断熱材				外板：吸音断熱材内貼		
冷媒				R32		
配管寸法（室内側）	冷媒配管（外径）	液管	mm	φ6.35（フレア / ねじ接合継手）	φ9.52（フレア / ねじ接合継手）	
		ガス管		φ12.7（フレア / ねじ接合継手）	φ15.88（フレア / ねじ接合継手）	
	排水管			VP25（I.D.25，O.D.32）の排水管接続可能		
IPコード				IPX0		

注(1) 冷房・暖房能力および電気特性はJIS B 8616：2015条件により運転した値です。
(2) 運転音（パワーレベル）は，JIS B 8616：2015に基づいた音響パワーレベルの数値です。
(3) 運転音（音圧）は，JIS B 8616:2006に準拠し，反響の少ない無響室で室内ユニットの中央下方 1.5mの位置で測定した値（Aスケール）です。実際に据付けた場合は，周囲の騒音や部屋の反響を受け表示値より大きくなります。
(4) （ ）内寸法は次の高さ寸法を示しています。本体：天井内部の寸法（お掃除パネル / その他），パネル：天井から露出する部分の寸法
パネル本体高さは標準，エアフレックス：50mm，ラクリーナ：90mm，お掃除ラクリーナ：195mmです。
(5) エアフレックスパネル・ラクリーナパネル・お掃除ラクリーナパネルには，ドラフト防止機能・人感センサを搭載しています。
(6) お掃除ラクリーナパネル（T-PSCLS-6AW）使用時は，本オプションとの組合せはできません。騒音は弱で約 1dB(A)高くなります。
(7) 室内ユニット内蔵の冷媒センサまたは冷媒検知警報器が，漏えいした R32 冷媒を検知した場合、リモコンまたは冷媒検知警報器から、ブザー音と赤色 LED による警報を発します。冷媒漏えいを検知した際，直ちに適正な処置をしてください。
(8) 別売品

名称	形式
安全遮断弁	SV-KIT-S1，L1
冷媒検知警報器	RLD-KIT

■パネル形式（オートスイング付）

名称	パネル形式	質量(kg)	ワイヤレス受信部形式	ワイヤレスリモコン
標準パネル	T-PSA-6AW	5	LA-T-5BW1	RCN-D5
	T-PSA-6AB		LA-T-5SB1	
	T-PSA-6AC		–	–
エアフレックスパネル	T-PSAE-6AW	6	LA-T-5BW1	RCN-D5
	T-PSAE-6AB		LA-T-5SB1	
ラクリーナパネル	T-PSCL-6AW	7	LA-T-5BW1	
	T-PSCL-6AB		LA-T-5SB1	
お掃除ラクリーナパネル	T-PSCLS-6AW	12	LA-T-5BW1	

PJF000Z906

天井埋込形 4 方向吹出し（FDT）

項目 ＼ 形式				FDTP901LXZA	FDTP1121LXZA	FDTP1401LXZA	FDTP1601LXZA
電源				単相 200V 50/60Hz			
(1) 能力	冷房能力		kW	9.0	11.2	14.0	16.0
	暖房能力			10.0	12.5	16.0	18.0
定格冷房時の顕熱比				0.82	0.81	0.72	0.68
運転音	パワーレベル		dB(A)	P急:65, 急:54, 強:51, 弱:47	P急:65, 急:54, 強:52, 弱:47	P急:65, 急:57, 強:53, 弱:47	P急:65, 急:57, 強:55, 弱:48
	音圧レベル			P急:49, 急:38, 強:36, 弱:31	P急:49, 急:39, 強:37, 弱:31	P急:49, 急:42, 強:39, 弱:32	P急:49, 急:42, 強:40, 弱:33
外形寸法	高さ×幅×奥行		mm	本体：288（408/298）× 840 × 840, パネル：(35) × 950 × 950(4)			
製品質量			kg	本体：28, パネル：下記参照			
空気熱交換	形式			アルミフィン＆銅チューブ式			
	冷媒制御器			電子膨張弁			
送風装置	形式・台数			ターボファン（モータ直結）× 1			
	風量		m^3/min	P急:37, 急:24, 強:21, 弱:16	P急:37, 急:24, 強:22, 弱:16	P急:37, 急:27, 強:24, 弱:17	P急:37, 急:28, 強:25, 弱:18
	機外静圧		Pa	0			
	電動機	定格出力	W	105 × 1			
	エアフィルタ			プラスチックネット（防カビ仕様）, ロングライフフィルタ , 洗浄可能			
	新鮮空気取入口			側板を利用して可能（65 × 112 ダクト接続）			
運転調整	操作スイッチ			RC-DX3F			
	温度調節			マイコン式サーモスタット			
	表示			液晶表示〈リモコン〉			
	表示灯			緑色：運転，赤色：点検〈リモコン〉			
加湿・加熱	補助電気ヒータ			——（取付不可）			
	温水・蒸気ヒータ			——（取付不可）			
	加湿器			——（気化式加湿器取付可能）(6)			
排水	ドレンポンプ			ドレンポンプ内蔵			
	ドレンアップ高さ		mm	ユニット下面から 850 以下			
高性能フィルタ				——（組込可能）(6)			
遠方発停用機能				遠方発停入力用コネクタ（CNT：6P，CNTA：2P）を保有（室内基板上）			
冷媒漏えい安全対策機能				冷媒センサ内蔵・安全遮断弁・冷媒検知警報器接続可，インターロック解除ピン付属			
遠方表示用出力機能				運転表示・異常表示出力用コネクタ（CNT：6P）を保有（室内基板上）			
保護機能				ファンモータ：マイコン式過負荷保護，フロートスイッチ，凍結防止サーモ			
防振装置				送風用電動機：防振ゴム			
防音・断熱材				外板：吸音断熱材内貼			
冷媒				R32			
配管寸法（室内側）	冷媒配管（外径）	液管	mm	φ 9.52（フレア / ねじ接合継手）			
		ガス管		φ 15.88（フレア / ねじ接合継手）			
	排水管			VP25（I.D.25，O.D.32）の排水管接続可能			
IPコード				IPX0			

注(1) 冷房・暖房能力および電気特性はJIS B 8616：2015条件により運転した値です。
(2) 運転音（パワーレベル）は，JIS B 8616：2015に基づいた音響パワーレベルの数値です。
(3) 運転音（音圧）は，JIS B 8616:2006に準拠し，反響の少ない無響室で室内ユニットの中央下方 1.5mの位置で測定した値（Aスケール）です。実際に据付けた場合は，周囲の騒音や部屋の反響を受け表示値より大きくなります。
(4) （ ）内寸法は次の高さ寸法を示しています。本体：天井内部の寸法（お掃除パネル / その他），パネル：天井から露出する部分の寸法 パネル本体高さは標準，エアフレックス：50mm，ラクリーナ：90mm，お掃除ラクリーナ：195mmです。
(5) エアフレックスパネル・ラクリーナパネル・お掃除ラクリーナパネルには，ドラフト防止機能・人感センサを搭載しています。
(6) お掃除ラクリーナパネル（T-PSCLS-6AW）使用時は，本オプションとの組合せはできません。騒音は弱で約 1dB(A)高くなります。
(7) 室内ユニット内蔵の冷媒センサまたは冷媒検知警報器が，漏えいした R32 冷媒を検知した場合、リモコンまたは冷媒検知警報器から、ブザー音と赤色 LED による警報を発します。冷媒漏えいを検知した際、直ちに適正な処置をしてください。
(8) 別売品

名称	形式
安全遮断弁	SV-KIT-S1, L1
冷媒検知警報器	RLD-KIT

■パネル形式（オートスイング付）

名称	パネル形式	質量(kg)	ワイヤレス受信部形式	ワイヤレスリモコン
標準パネル	T-PSA-6AW	5	LA-T-5BW1	RCN-D5
	T-PSA-6AB		LA-T-5SB1	
	T-PSA-6AC		–	–
エアフレックスパネル	T-PSAE-6AW	6	LA-T-5BW1	RCN-D5
	T-PSAE-6AB		LA-T-5SB1	
ラクリーナパネル	T-PSCL-6AW	7	LA-T-5BW1	
	T-PSCL-6AB		LA-T-5SB1	
お掃除ラクリーナパネル	T-PSCLS-6AW	12	LA-T-5BW1	

PJF000Z906

(2) 天井埋込形小容量 4 方向吹出し（FDTC）

項目 ＼ 形式						
				FDTCP221LXZA	FDTCP281LXZA	FDTCP361LXZA
電源				単相 200V 50/60Hz		
(1) 能力	冷房能力		kW	2.2	2.8	3.6
	暖房能力			2.5	3.2	4.0
定格冷房時の顕熱比				0.66	0.66	0.65
運転音	パワーレベル(冷/暖)		dB(A)	P急：49/49，急：48/46，強：46/43，弱：43/39		P急：54/53, 急：52/50, 強：48/46, 弱：43/40
	音圧レベル			P急：35，急：32，強：29，弱：25		P急：39，急：36，強：31，弱：26
外形寸法	高さ×幅×奥行		mm	本体：213（248）× 570 × 570, パネル：50 (10) × 620 × 620(2)		
製品質量			kg	本体：13, パネル：3.0		本体：14, パネル：3.0
空気熱交換	形式			アルミフィン＆銅チューブ式		
	冷媒制御器			電子膨張弁		
送風装置	形式・台数			ターボファン（モータ直結）× 1		
	風量		m^3/min	P急：9，急：8，強：7，弱：6		P急：10，急：9，強：8，弱：6
	機外静圧		Pa	0		
	電動機	定格出力	W	50 × 1		
	エアフィルタ			プラスチックネット（防カビ仕様），ロングライフフィルタ，洗浄可能		
	新鮮空気取入口			側板を利用して可能（100 × 100 ダクト接続）		
運転調整	操作スイッチ			RC-DX3F		
	温度調節			マイコン式サーモスタット		
	表示			液晶表示〈リモコン〉		
	表示灯			緑色：運転，赤色：点検〈リモコン〉		
加湿・加熱	補助電気ヒータ			―（取付不可）		
	温水・蒸気ヒータ			―（取付不可）		
	加湿器			―（取付不可）		
排水	ドレンポンプ			ドレンポンプ内蔵		
	ドレンアップ高さ		mm	ユニット下面から 850 以下		
高性能フィルタ				―（取付不可）		
遠方発停用機能				遠方発停入力用コネクタ（CNT：6P，CNTA：2P）を保有（室内基板上）		
冷媒漏えい安全対策機能				冷媒センサ内蔵・安全遮断弁・冷媒検知警報器接続可，インターロック解除ピン付属		
遠方表示用出力機能				運転表示・異常表示出力用コネクタ（CNT：6P）を保有（室内基板上）		
保護機能				ファンモータ：マイコン式過負荷保護，フロートスイッチ，凍結防止サーモ		
防振装置				送風用電動機：防振ゴム		
防音・断熱材				外板：吸音断熱材内貼		
冷媒				R32		
配管寸法（室内側）	冷媒配管（外径）	液管	mm	φ6.35（フレア / ねじ接合継手）		
		ガス管		φ9.52（フレア / ねじ接合継手）		φ12.7（フレア / ねじ接合継手）
	排水管			VP25(I.D.25，O.D.32)の排水管接続可能		
IPコード				IPX0		

注(1) 冷房・暖房能力および電気特性はJIS B 8616：2015条件により運転した値です。
(2) （ ）内寸法は次の高さ寸法を示しています。本体：天井内部の寸法，パネル：天井から露出する部分の寸法
(3) 運転音（パワーレベル）は，JIS B 8616：2015に基づいた音響パワーレベルの数値です。
(4) 運転音（音圧）は，JIS B 8616:2006に準拠し，反響の少ない無響室で室内ユニットの中央下方 1.5mの位置で測定した値（Aスケール）です。実際に据付けた場合は，周囲の騒音や部屋の反響を受け表示値より大きくなります。
(5) エアフレックスパネルは，ドラフト防止機能・人感センサを搭載しております。
リモコン RC-DX3F から設定します。
(6) 室内ユニット内蔵の冷媒センサまたは冷媒検知警報器が，漏えいした R32 冷媒を検知した場合、リモコンまたは冷媒検知警報器から、ブザー音と赤色 LED による警報を発します。冷媒漏えいを検知した際、直ちに適正な処置をしてください。
(7) 別売品

名称	形式
安全遮断弁	SV-KIT-S1, L1
冷媒検知警報器	RLD-KIT

■パネル形式（オートスイング付）

名称	パネル形式	ワイヤレス受信部形式	ワイヤレスリモコン
エアフレックスパネル	TC-PSAE-5BW	LA-TC-5W1	RCN-D5

PJF000Z911

天井埋込形小容量 4 方向吹出し（FDTC）

形式 / 項目					
				FDTCP451LXZA	FDTCP561LXZA
電源				単相 200V 50/60Hz	
(1)能力	冷房能力		kW	4.5	5.6
	暖房能力			5.0	6.3
定格冷房時の顕熱比				0.66	0.66
運転音	パワーレベル(冷/暖)		dB(A)	P急：58/57, 急：54/53, 強：52/50, 弱：45/43	P急：60/60, 急：58/57, 強：54/52, 弱：48/46
	音圧レベル			P急：43, 急：39, 強：36, 弱：28	P急：47, 急：43, 強：39, 弱：31
外形寸法	高さ×幅×奥行		mm	本体：213（248）× 570 × 570, パネル：50 (10) × 620 × 620(2)	
製品質量			kg	本体：14, パネル：3.0	
空気熱交換	形式			アルミフィン＆銅チューブ式	
	冷媒制御器			電子膨張弁	
送風装置	形式・台数			ターボファン（モータ直結）× 1	
	風量		m^3/min	P急：12, 急：10, 強：9, 弱：7	P急：14, 急：12, 強：10, 弱：8
	機外静圧		Pa	0	
	電動機	定格出力	W	50 × 1	
	エアフィルタ			プラスチックネット（防カビ仕様）, ロングライフフィルタ , 洗浄可能	
	新鮮空気取入口			側板を利用して可能（100 × 100 ダクト接続）	
運転調整	操作スイッチ			RC-DX3F	
	温度調節			マイコン式サーモスタット	
	表示			液晶表示〈リモコン〉	
	表示灯			緑色：運転, 赤色：点検〈リモコン〉	
加湿・加熱	補助電気ヒータ			ー（取付不可）	
	温水・蒸気ヒータ			ー（取付不可）	
	加湿器			ー（取付不可）	
排水	ドレンポンプ			ドレンポンプ内蔵	
	ドレンアップ高さ		mm	ユニット下面から 850 以下	
高性能フィルタ				ー（取付不可）	
遠方発停用機能				遠方発停入力用コネクタ（CNT：6P, CNTA：2P）を保有（室内基板上）	
冷媒漏えい安全対策機能				冷媒センサ内蔵・安全遮断弁・冷媒検知警報器接続可, インターロック解除ピン付属	
遠方表示用出力機能				運転表示・異常表示出力用コネクタ（CNT：6P）を保有（室内基板上）	
保護機能				ファンモータ：マイコン式過負荷保護, フロートスイッチ, 凍結防止サーモ	
防振装置				送風用電動機：防振ゴム	
防音・断熱材				外板：吸音断熱材内貼	
冷媒				R32	
配管寸法（室内側）	冷媒配管（外径）	液管	mm	φ6.35（フレア / ねじ接合継手）	
		ガス管		φ12.7（フレア / ねじ接合継手）	
	排水管			VP25(I.D.25, O.D.32)の排水管接続可能	
IPコード				IPX0	

注(1) 冷房・暖房能力および電気特性はJIS B 8616：2015条件により運転した値です。
(2) （ ）内寸法は次の高さ寸法を示しています。本体：天井内部の寸法, パネル：天井から露出する部分の寸法
(3) 運転音（パワーレベル）は, JIS B 8616：2015に基づいた音響パワーレベルの数値です。
(4) 運転音（音圧）は, JIS B 8616:2006に準拠し, 反響の少ない無響室で室内ユニットの中央下方 1.5mの位置で測定した値（Aスケール）です。実際に据付けた場合は, 周囲の騒音や部屋の反響を受け表示値より大きくなります。
(5) エアフレックスパネルは, ドラフト防止機能・人感センサを搭載しております。
リモコン RC-DX3F から設定します。
(6) 室内ユニット内蔵の冷媒センサまたは冷媒検知警報器が, 漏えいした R32 冷媒を検知した場合、リモコンまたは冷媒検知警報器から、ブザー音と赤色 LED による警報を発します。冷媒漏えいを検知した際、直ちに適正な処置をしてください。
(7) 別売品

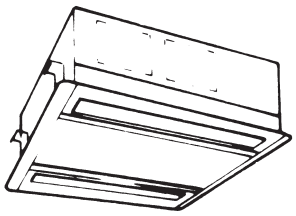
名称	形式
安全遮断弁	SV-KIT-S1, L1
冷媒検知警報器	RLD-KIT

■パネル形式（オートスイング付）

名称	パネル形式	ワイヤレス受信部形式	ワイヤレスリモコン
エアフレックスパネル	TC-PSAE-5BW	LA-TC-5W1	RCN-D5

PJF000Z911

(3) 天井埋込形２方向吹出し(FDTW)

項目 ＼ 形式							
				FDTWP221LXZA	FDTWP281LXZA	FDTWP361LXZA	FDTWP451LXZA
電源				単相 200V 50/60Hz			
(1)能力	冷房能力		kW	2.2	2.8	3.6	4.5
	暖房能力			2.5	3.2	4.0	5.0
定格冷房時の顕熱比				0.82	0.82	0.82	0.78
運転音	パワーレベル		dB(A)	P急：57，急：53，強：49，弱：46			
	音圧レベル			P急：42，急：38，強：34，弱：31			
外形寸法	高さ×幅×奥行		mm	本体：275（325）× 820 × 620, パネル：79（20）× 1120 × 680(2)			
製品質量			kg	本体：20, パネル：下記参照			本体：21，パネル：下記参照
空気熱交換	形式			アルミフィン＆銅チューブ式			
	冷媒制御器			電子膨張弁			
送風装置	形式・台数			ターボファン（モータ直結）× 1			
	風量		m^3/min	P急：14.5，急：12，強：10，弱：9			
	機外静圧		Pa	0			
	電動機	定格出力	W	30 × 1			35 × 1
	エアフィルタ			プラスチックネット（防カビ仕様），ロングライフフィルタ，洗浄可能			
	新鮮空気取入口			側面を利用して可能（100 × 200 ダクト接続）			
運転調整	操作スイッチ			RC-DX3F			
	温度調節			マイコン式サーモスタット			
	表示			液晶表示〈リモコン〉			
	表示灯			緑色：運転，赤色：点検〈リモコン〉			
加湿器・加熱	補助電気ヒータ			―（取付不可）			
	温水・蒸気ヒータ			―（取付不可）			
	加湿器			―（気化式加湿器取付可能）			
排水	ドレンポンプ			ドレンポンプ内蔵			
	ドレンアップ高さ		mm	ユニット下面から 750 以下			
高性能フィルタ				―（組込可能）			
遠方発停用機能				遠方発停入力用コネクタ（CNT：6P，CNTA：2P）を保有（室内基板上）			
冷媒漏えい安全対策機能				冷媒センサ内蔵・安全遮断弁・冷媒検知警報器接続可，インターロック解除ピン付属			
遠方表示用出力機能				運転表示・異常表示出力用コネクタ（CNT：6P）を保有（室内基板上）			
保護機能				ファンモータ：マイコン式過負荷保護，フロートスイッチ，凍結防止サーモ			
防振装置				送風用電動機：防振ゴム			
防音・断熱材				外板：吸音断熱材内貼			
冷媒				R32			
配管寸法（室内側）	冷媒配管（外径）	液管	mm	φ6.35（フレア / ねじ接合継手）		φ6.35（フレア / ねじ接合継手）	
		ガス管		φ9.52（フレア / ねじ接合継手）		φ12.7（フレア / ねじ接合継手）	
	排水管			VP25（I.D.25，O.D.32）の排水管接続可能			
IPコード				IPX0			

注(1) 冷房・暖房能力および電気特性はJIS B 8616：2015条件により運転した値です。
(2) （ ）内寸法は次の高さ寸法を示しています。本体：天井内部の寸法，パネル：天井から露出する部分の寸法
(3) 運転音（パワーレベル）は，JIS B 8616：2015に基づいた音響パワーレベルの数値です。
(4) 運転音（音圧）は，JIS B 8616:2006に準拠し，反響の少ない無響室で室内ユニットの中央下方 1.5mの位置で測定した値（Aスケール）です。実際に据付けた場合は，周囲の騒音や部屋の反響を受け表示値より大きくなります。
(5) 室内ユニット内蔵の冷媒センサまたは冷媒検知警報器が，漏えいした R32 冷媒を検知した場合、リモコンまたは冷媒検知警報器から、ブザー音と赤色 LED による警報を発します。冷媒漏えいを検知した際、直ちに適正な処置をしてください。
(6) 別売品

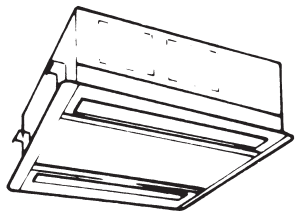
人感センサキット	安全遮断弁	冷媒検知警報器
LB-TW-6W	SV-KIT-S1, L1	RLD-KIT

■パネル（オートスイング付）

名称	パネル形式	質量(kg)	ワイヤレス受信部形式	ワイヤレスリモコン
標準パネル	TW-PSA-27W	8.5	LA-TW	RCN-D5
ラクリーナパネル	TW-PSL-27W	10		

PJF001Z934

天井埋込形 2 方向吹出し（FDTW）

項目 ＼ 形式						
				FDTWP561LXZA	FDTWP711LXZA	FDTWP801LXZA
電源				単相 200V 50/60Hz		
(1)能力	冷房能力		kW	5.6	7.1	8.0
	暖房能力			6.3	8.0	9.0
定格冷房時の顕熱比				0.72	0.71	0.68
運転音	パワーレベル		dB(A)	P急：57，急：53，強：49，弱：46	P急：58，急：54，強：50，弱：47	P急：61，急：56，強：54，弱：50
	音圧レベル			P急：42，急：38，強：34，弱：31	P急：42，急：38，強：34，弱：31	P急：45，急：40，強：38，弱：34
外形寸法	高さ×幅×奥行		mm	本体：275（325）× 820 × 620，パネル：79（20）× 1120 × 680(2)		
製品質量			kg	本体：21，パネル：下記参照	本体：23，パネル：下記参照	
空気熱交換	形式			アルミフィン＆銅チューブ式		
	冷媒制御器			電子膨張弁		
送風装置	形式・台数			ターボファン（モータ直結）× 1		
	風量		m³/min	P急：14.5，急：12，強：10，弱：9		P急：16.5，急：13，強：12，弱：10
	機外静圧		Pa	0		
	電動機	定格出力	W	35 × 1	40 × 1	50 × 1
	エアフィルタ			プラスチックネット（防カビ仕様），ロングライフフィルタ，洗浄可能		
	新鮮空気取入口			側面を利用して可能（100 × 200 ダクト接続）		
運転調整	操作スイッチ			RC-DX3F		
	温度調節			マイコン式サーモスタット		
	表示			液晶表示〈リモコン〉		
	表示灯			緑色：運転，赤色：点検〈リモコン〉		
加湿暖房	補助電気ヒータ			——（取付不可）		
	温水・蒸気ヒータ			——（取付不可）		
	加湿器			——（気化式加湿器取付可能）		
排水	ドレンポンプ			ドレンポンプ内蔵		
	ドレンアップ高さ		mm	ユニット下面から 750 以下		
高性能フィルタ				——（組込可能）		
遠方発停用機能				遠方発停入力用コネクタ（CNT：6P，CNTA：2P）を保有（室内基板上）		
冷媒漏えい安全対策機能				冷媒センサ内蔵・安全遮断弁・冷媒検知警報器接続可，インターロック解除ピン付属		
遠方表示用出力機能				運転表示・異常表示出力用コネクタ（CNT：6P）を保有（室内基板上）		
保護機能				ファンモータ：マイコン式過負荷保護，フロートスイッチ，凍結防止サーモ		
防振装置				送風用電動機：防振ゴム		
防音・断熱材				外板：吸音断熱材内貼		
冷媒				R32		
配管寸法（室内側）	冷媒配管（外径）	液管	mm	φ6.35（フレア / ねじ接合継手）	φ9.52（フレア / ねじ接合継手）	
		ガス管		φ12.7（フレア / ねじ接合継手）	φ15.88（フレア / ねじ接合継手）	
	排水管			VP25(I.D.25，O.D.32)の排水管接続可能		
IPコード				IPX0		

注(1) 冷房・暖房能力および電気特性はJIS B 8616：2015条件により運転した値です。
(2) （ ）内寸法は次の高さ寸法を示しています。本体：天井内部の寸法，パネル：天井から露出する部分の寸法
(3) 運転音（パワーレベル）は，JIS B 8616：2015に基づいた音響パワーレベルの数値です。
(4) 運転音（音圧）は，JIS B 8616:2006に準拠し，反響の少ない無響室で室内ユニットの中央下方 1.5mの位置で測定した値（Aスケール）です。実際に据付けた場合は，周囲の騒音や部屋の反響を受け表示値より大きくなります。
(5) 室内ユニット内蔵の冷媒センサまたは冷媒検知警報器が，漏えいした R32 冷媒を検知した場合、リモコンまたは冷媒検知警報器から、ブザー音と赤色 LED による警報を発します。冷媒漏えいを検知した際，直ちに適正な処置をしてください。
(6) 別売品

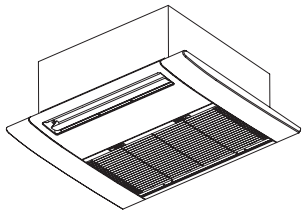
人感センサキット	安全遮断弁	冷媒検知警報器
LB-TW-6W	SV-KIT-S1，L1	RLD-KIT

■パネル（オートスイング付）

名称	パネル形式	質量(kg)	ワイヤレス受信部形式	ワイヤレスリモコン
標準パネル	TW-PSA-27W	8.5	LA-TW	RCN-D5
ラクリーナパネル	TW-PSL-27W	10		

PJB001Z934

(4) 天井埋込形小容量 1 方向吹出し（FDTSC）

項目 ＼ 形式						
				FDTSCP221LXZA	FDTSCP281LXZA	FDTSCP361LXZA
パネル形式				TSC-PSA-1AW		
電源				単相 200V 50/60Hz		
(1) 能力	冷房能力		kW	2.2	2.8	3.6
	暖房能力			2.5	3.2	4.0
定格冷房時の顕熱比				0.76	0.71	0.65
運転音	パワーレベル		dB(A)	〔50HZ〕P急：60，急：55，強：53，弱：49 〔60HZ〕P急：62，急：55，強：53，弱：49		
	音圧レベル			〔50HZ〕P急：45，急：40，強：38，弱：34 〔60HZ〕P急：47，急：40，強：38，弱：34		
外形寸法	高さ×幅×奥行		mm	本体：269（250）× 570 × 570, パネル：68（35）× 780 × 650 (4)		
製品質量			kg	本体：221/281…18, 361…18.5, パネル：3		
空気熱交換器	形式			アルミフィン＆銅チューブ式		
	冷媒制御器			電子膨張弁		
送風装置	形式・台数			シロッコファン（モータ直結）× 1		
	風量		m^3/min	P急：8，急：7，強：6，弱：5		
	機外静圧		Pa	0		
	電動機	定格出力	W×台	35 × 1		
	エアフィルタ			プラスチックネット（防カビ仕様），ロングライフフィルタ，洗浄可能		
	新鮮空気取入口			側面または背面を利用して可能		
運転調整	操作スイッチ			RC-DX3F		
	温度調節			マイコン式サーモスタット		
	表示			液晶表示〈リモコン〉		
	表示灯			緑色：運転，赤色：点検〈リモコン〉		
加湿・加熱	補助電気ヒータ			——（取付不可）		
	温水・蒸気ヒータ			——（取付不可）		
	加湿器			——（取付不可）		
排水	ドレンポンプ			ドレンポンプ内蔵		
	ドレンアップ高さ		mm	ユニット下面から 600 以下		
高性能フィルタ				——（取付不可）		
遠方発停用機能				遠方発停入力用コネクタ(CNT：6P)を保有(室内基板上)		
冷媒漏えい安全対策機能				冷媒センサ内蔵・安全遮断弁・冷媒検知警報器接続可，インターロック解除ピン付属		
遠方表示用出力機能				運転表示・異常表示出力用コネクタ(CNT：6P)を保有(室内基板上)		
保護機能				ファンモータ：マイコン式過負荷保護，フロートスイッチ，凍結防止サーモ		
防振装置				送風用電動機：防振ゴム		
防音・断熱材				外板：吸音断熱材内貼，断熱材外貼		
冷媒				R32		
配管寸法（室内側）	冷媒配管（外径）	液管	mm	φ6.35（フレア / ねじ接合継手）		φ6.35（フレア / ねじ接合継手）
		ガス管		φ9.52（フレア / ねじ接合継手）		φ12.7（フレア / ねじ接合継手）
	排水管			VP25(I.D.25，O.D.32)の排水管接続可能		
IPコード				IPX0		

注(1) 冷房・暖房能力および電気特性はJIS B 8616：2015条件により運転した値です。
(2) 運転音 パワーレベルは JIS B 8616：2015 に基づいた音響パワーレベルの数値です。
(3) 運転音（音圧）は，JIS B 8616:2006に準拠し，反響の少ない無響室で室内ユニットの中央下方 1.5mの位置で測定した値（Aスケール）です。実際に据付けた場合は，周囲の騒音や部屋の反響を受け表示値より大きくなります。
(4) （ ）内寸法は次の高さ寸法を示しています。本体：天井内部の寸法，パネル：天井から露出する部分の寸法
(5) ワイヤレスリモコン使用時は風量設定が 3 速（急・強・弱）となります。P急モードをご使用の場合は高天井設定（P急・急・強）としてください。
(6) 室内ユニット内蔵の冷媒センサまたは冷媒検知警報器が，漏えいした R32 冷媒を検知した場合、リモコンまたは冷媒検知警報器から、ブザー音と赤色 LED による警報を発します。冷媒漏えいを検知した際、直ちに適正な処置をしてください。
(7) 別売品

名称	形式
ワイヤレスキット	RCN-KIT4
人感センサ 個別設置形	LB-KIT2
安全遮断弁	SV-KIT-S1, L1
冷媒検知警報器	RLD-KIT

PJC001Z557

運転特性

●FDTシリーズ

項目＼容量	FDTシリーズ									
	P281形	P361形	P451形	P561形	P711形	P801形	P901形	P1121形	P1401形	P1601形
消費電力(kW)	0.023	0.025		0.07	0.08		0.13			
運転電流(A)	0.25	0.28		0.71	0.78		1.2			

●FDTCシリーズ

項目＼容量	FDTCシリーズ				
	P221形	P281形	P361形	P451形	P561形
消費電力(kW)	0.03		0.04	0.05	0.06
運転電流(A)	0.28		0.42	0.48	0.60

●FDTWシリーズ

項目＼容量	FDTWシリーズ						
	P221形	P281形	P361形	P451形	P561形	P711形	P801形
消費電力(kW)	0.09			0.10		0.14	0.16
運転電流(A)	0.45			0.55		0.75	0.85

●FDTSCシリーズ

(50/60Hz)

項目＼容量	FDTSCシリーズ		
	P221形	P281形	P361形
消費電力(kW)	0.05/0.07		
運転電流(A)	0.3/0.4		

注(1) 上表は JIS B 8616：2015 条件によります。
(2) 上表の値は冷房・暖房運転共通です。

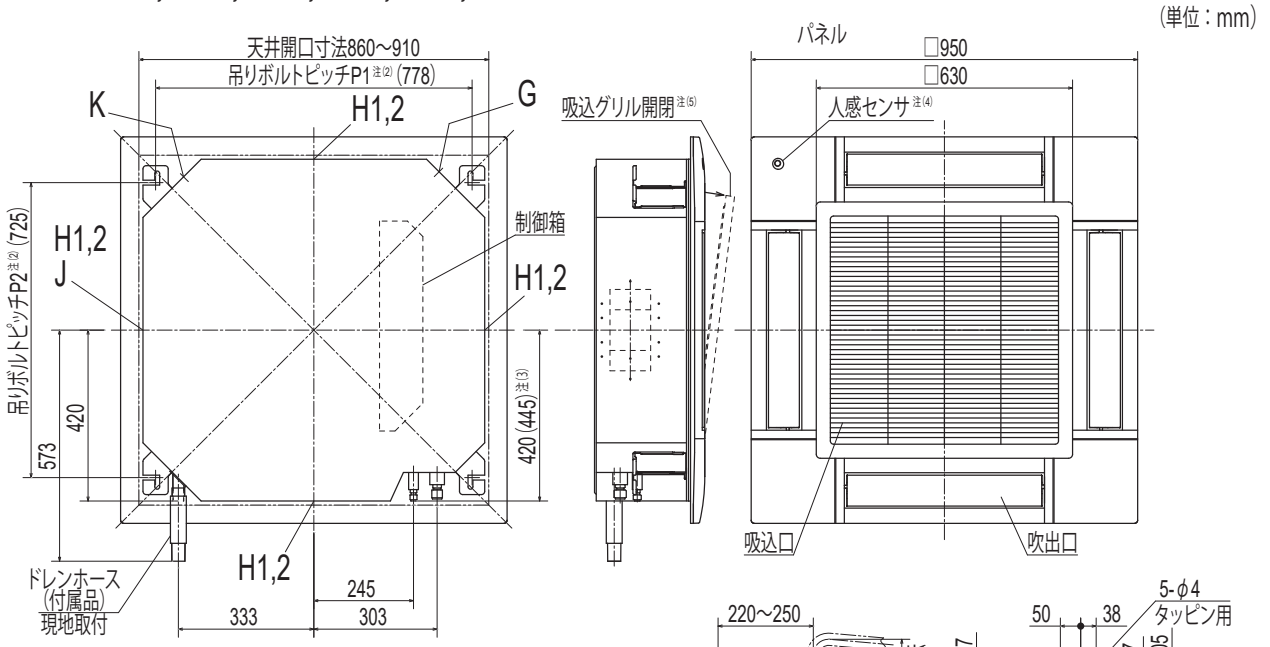
2. 外 形 図

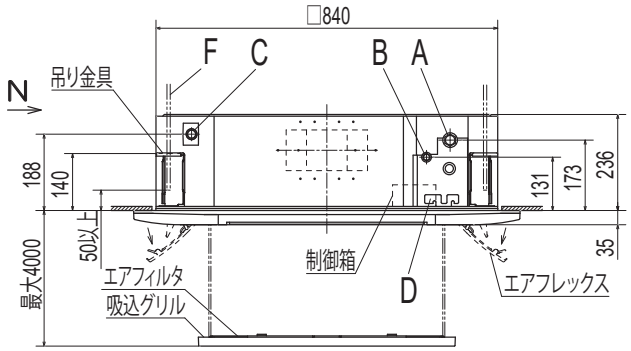
(1) 天井埋込形 4 方向吹出し（FDT）

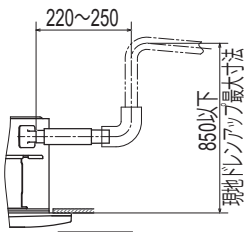
(a) 標準パネル・エアフレックスパネル・ラクリーナパネル仕様

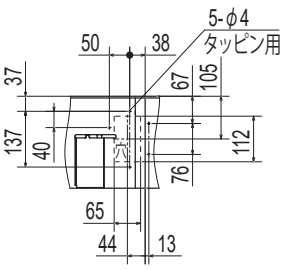
FDTP281, 361, 451, 561, 711, 801LXZA

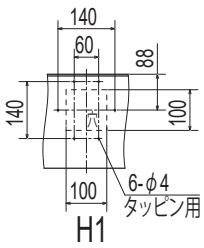
（単位：mm）

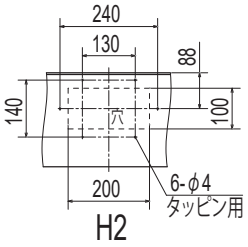




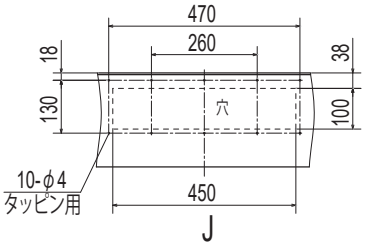


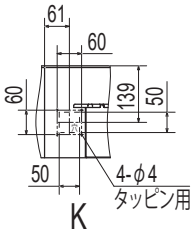


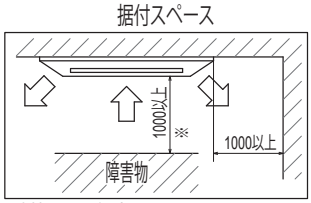




吸込グリル昇降範囲内に障害物を置かないでください。







隣接設置の場合は、ユニット間を4000以上離してください。
ラクリーナパネル仕様の場合、※寸法は1400です。

●記号説明

記号	内容			
	機種	P28	P36,45,56	P71,80
A	冷媒ガス側配管注(3)	φ9.52(フレア)	φ12.7(フレア)	φ15.88(フレア)
B	冷媒液側配管注(3)	φ6.35(フレア)		φ9.52(フレア)
C	ドレン配管	VP25(I.D.25,O.D.32)		
D	電源取入口			
F	吊りボルト	M10またはM8		
G	OA取入口			
H1	吹出分岐ダクト接続口	φ125		
H2		φ200		
J	加湿器接続口			
K	加湿器余剰水接続口			

注(1)装置銘板は制御箱の蓋に付いてます。
(2)吊りボルトピッチP1,P2は下表のパターンで調整可能です。

吊りボルトピッチ範囲表

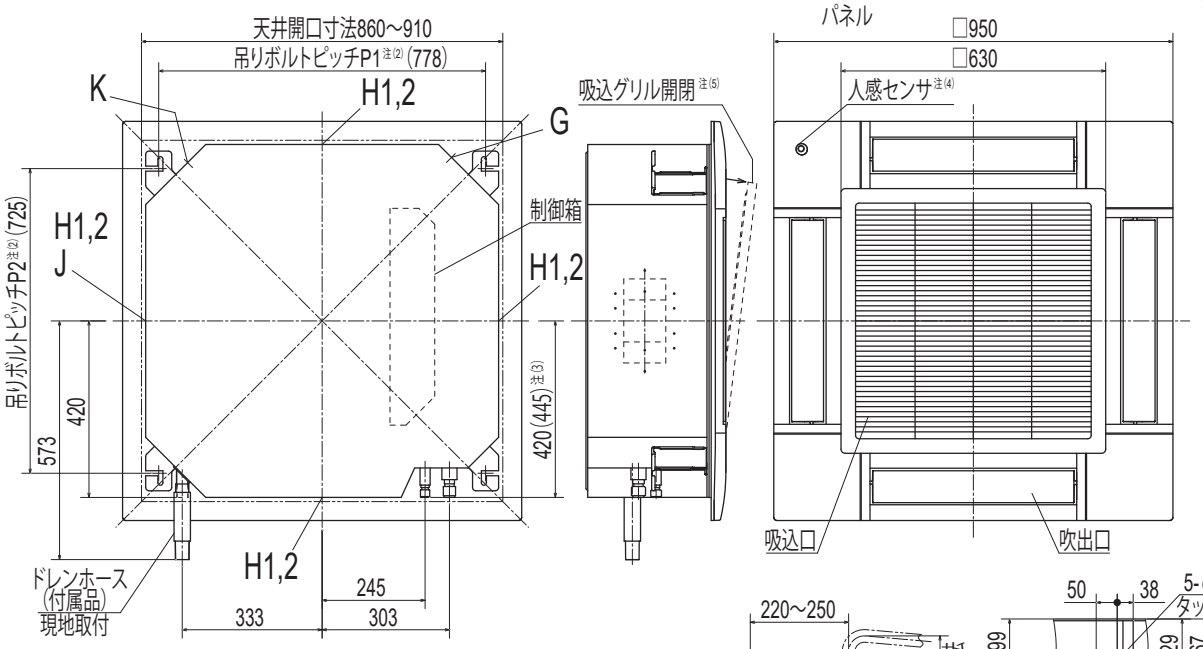
パターン＼記号	P1	P2
1	770	725～770
2	770～800	725

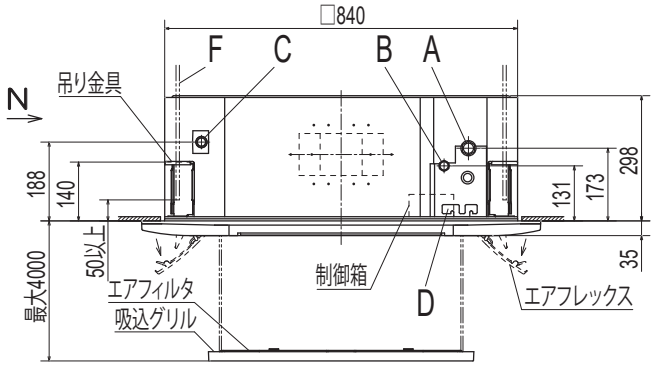
(3)ねじ接合継手の場合は、括弧内の寸法になります。
(4)人感センサは標準パネルには付属しておりません。
(5)標準パネルとエアフレックスパネルの場合を示します。

PJF000Z840 A
PJF000Z842 A
PJF000Z844 A

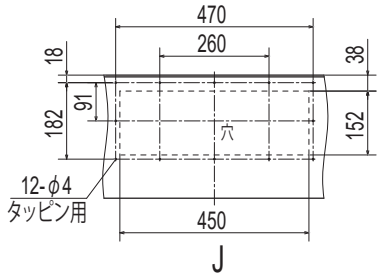
FDTP901, 1121, 1401, 1601LXZA

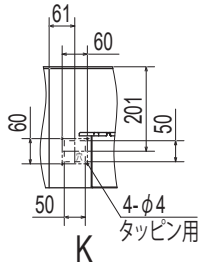
（単位：mm）

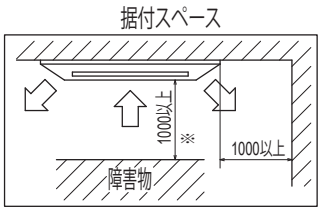




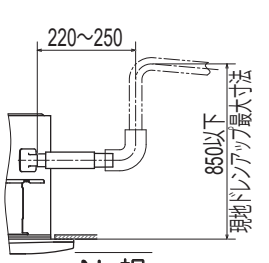
吸込グリル昇降範囲内に障害物を置かないでください。

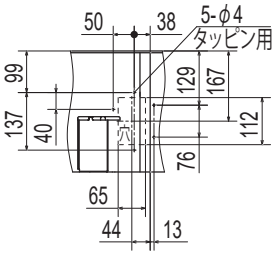


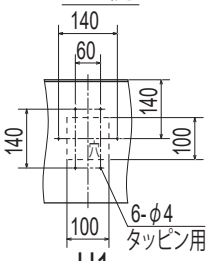


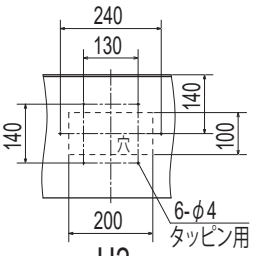


隣接設置の場合は、ユニット間を5000以上離してください。
ラクリーナパネル仕様の場合、※寸法は1400です。









●記号説明

記号	内容	
A	冷媒ガス側配管注(3)	φ15.88(フレア)
B	冷媒液側配管注(3)	φ9.52(フレア)
C	ドレン配管	VP25(I.D.25,O.D.32)
D	電源取入口	
F	吊りボルト	M10またはM8
G	OA取入口	
H1	吹出分岐ダクト接続口	φ125
H2		φ200
J	加湿器接続口	
K	加湿器余剰水接続口	

注(1)装置銘板は制御箱の蓋に付いてます。
(2)吊りボルトピッチP1,P2は下表のパターンで調整可能です。

吊りボルトピッチ範囲表

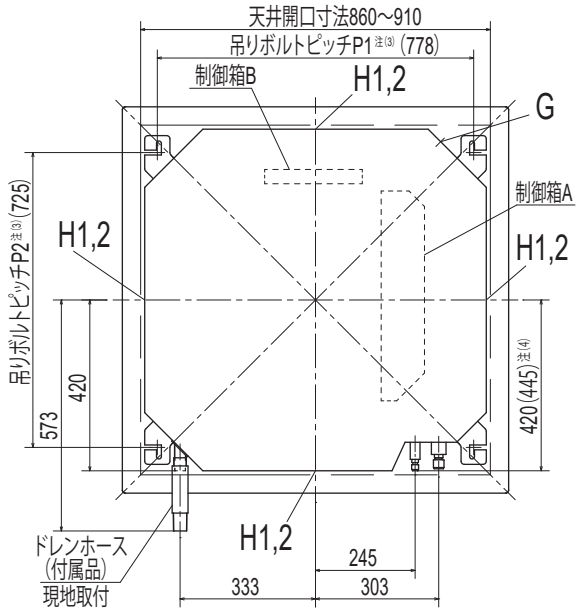
パターン＼記号	P1	P2
1	770	725～770
2	770～800	725

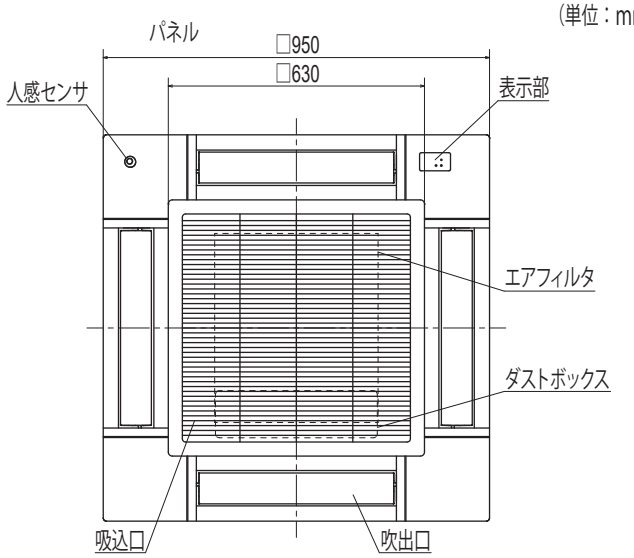
(3)ねじ接合継手の場合は、括弧内の寸法になります。
(4)人感センサは標準パネルには付属しておりません。
(5)標準パネルとエアフレックスパネルの場合を示します。

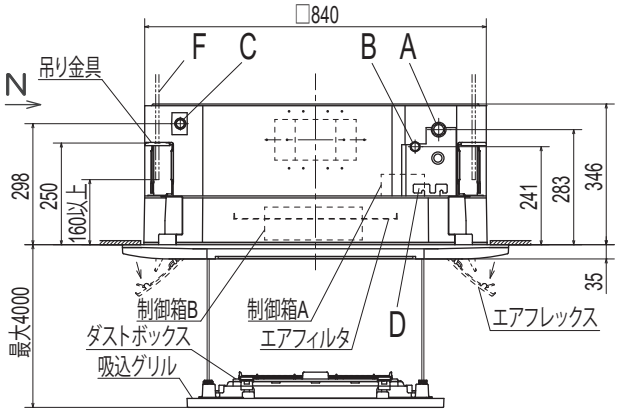
PJF000Z841 A
PJF000Z843 A
PJF000Z845 A

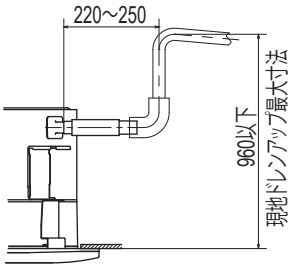
(b) お掃除ラクリーナパネル仕様
FDTP281, 361, 451, 561, 711, 801LXZA

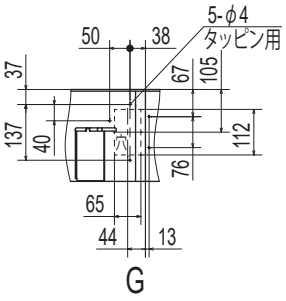
(単位：mm)

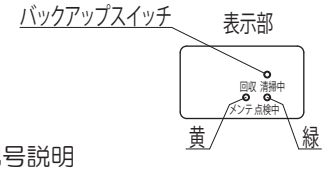




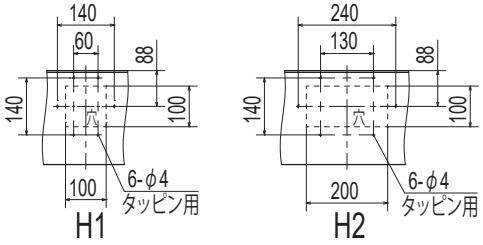


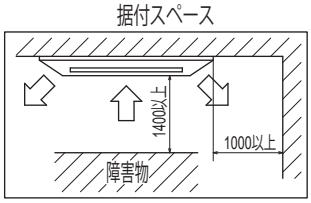






吸込グリル昇降範囲内に障害物を置かないでください。





隣接設置の場合，ユニット間を4000以上離してください。

●記号説明

記号	内容			
	機種	P28	P36,45,56	P71,80
A	冷媒ガス側配管注(4)	φ9.52(フレア)	φ12.7(フレア)	φ15.88(フレア)
B	冷媒液側配管注(4)	φ6.35(フレア)		φ9.52(フレア)
C	ドレン配管	VP25(I.D.25,O.D.32)		
D	電源取入口			
F	吊りボルト	M10またはM8		
G	OA取入口			
H1	吹出分岐ダクト接続口	φ125		
H2		φ200		

注(1)装置銘板は制御箱Aの蓋に付いてます。
(2)吸込グリルには方向性があります。
(3)吊りボルトピッチP1,P2は下表のパターンで調整可能です。

吊りボルトピッチ範囲表

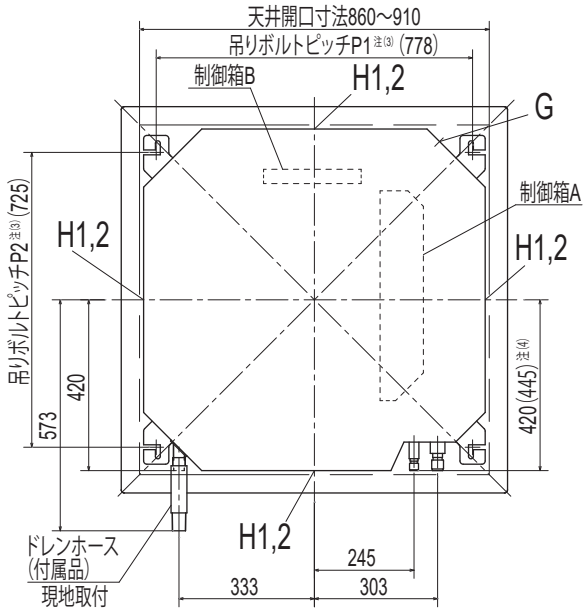
パターン＼記号	P1	P2
1	770	725～770
2	770～800	725

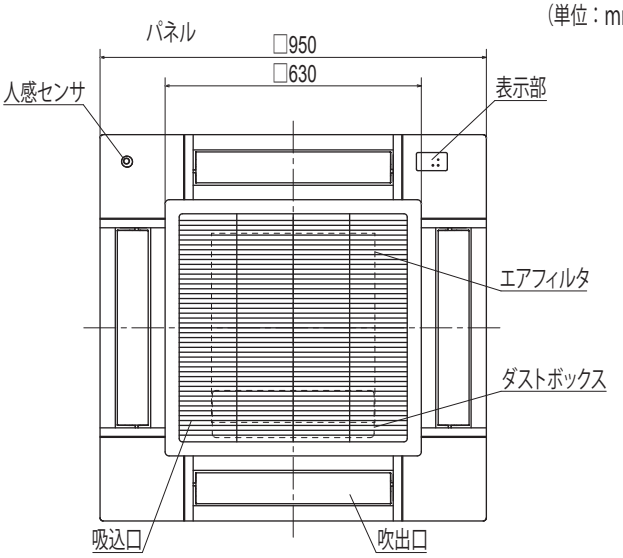
(4)ねじ接合継手の場合は，括弧内の寸法になります。

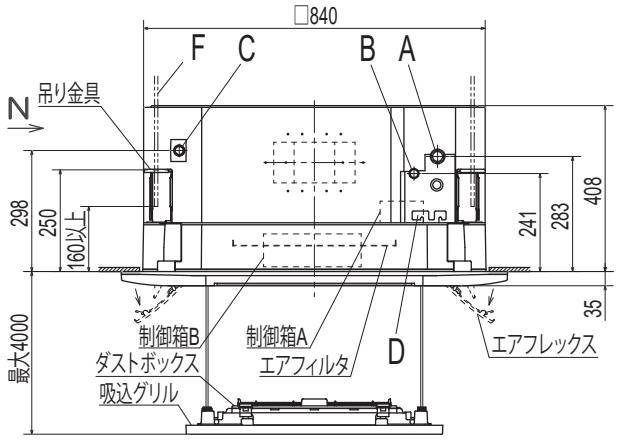
PJF000Z846 A

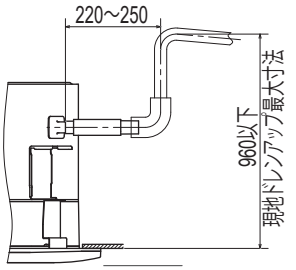
FDTP901, 1121, 1401, 1601LXZA

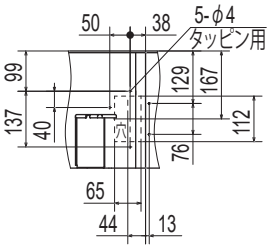
(単位：mm)

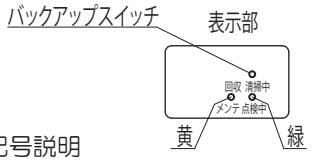




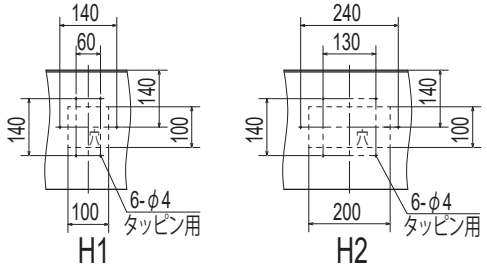


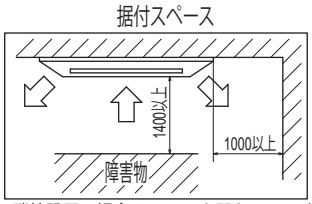






吸込グリル昇降範囲内に障害物を置かないでください。





隣接設置の場合は、ユニット間を5000以上離してください。

●記号説明

記号	内容	
A	冷媒ガス側配管注(4)	φ15.88(フレア)
B	冷媒液側配管注(4)	φ9.52(フレア)
C	ドレン配管	VP25(I.D.25,O.D.32)
D	電源取入口	
F	吊りボルト	M10またはM8
G	OA取入口	
H1	吹出分岐ダクト接続口	φ125
H2		φ200

注(1)装置銘板は制御箱Aの蓋に付いてます。
(2)吸込グリルには方向性があります。
(3)吊りボルトピッチP1,P2は下表のパターンで調整可能です。

吊りボルトピッチ範囲表

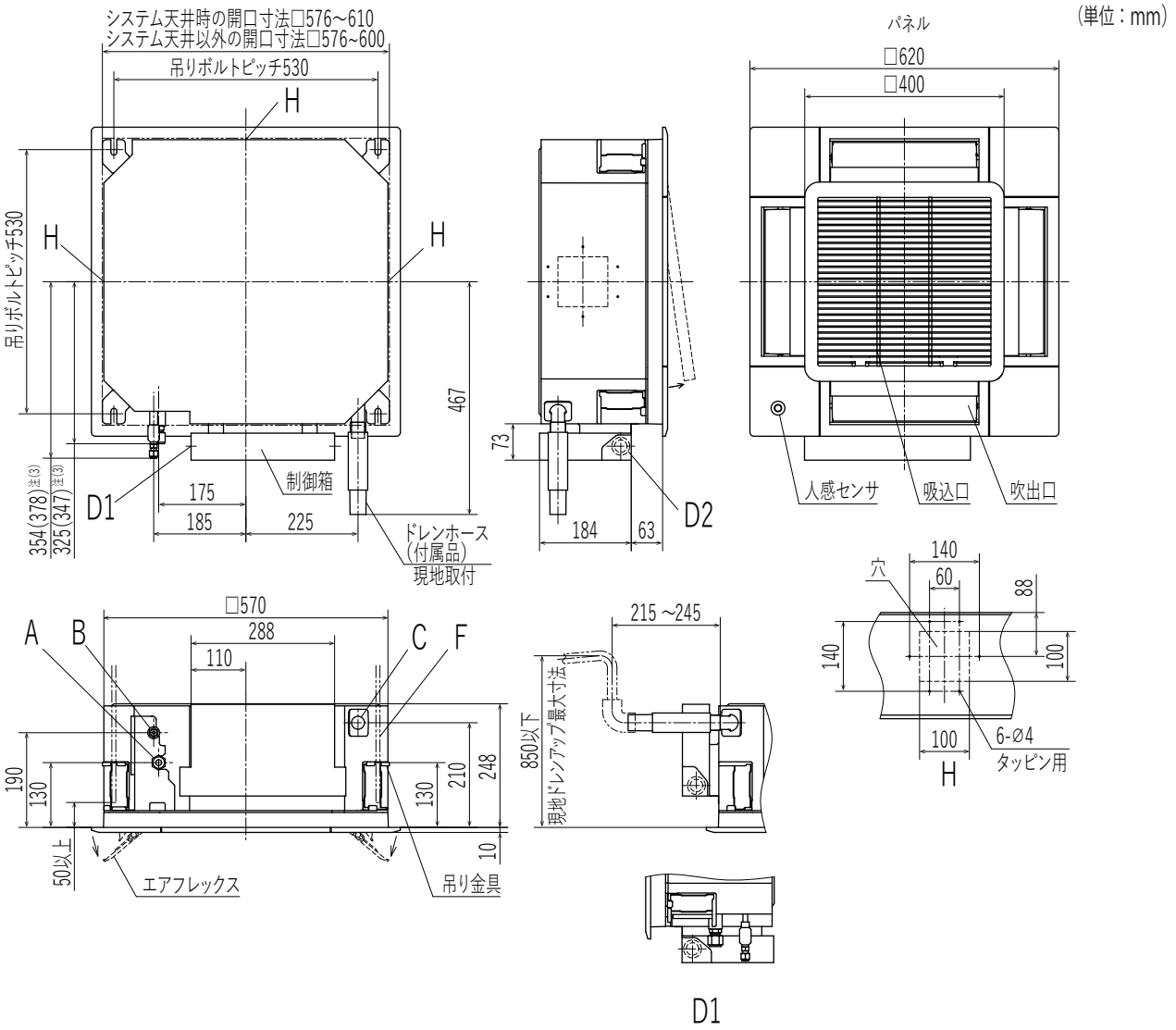
パターン＼記号	P1	P2
1	770	725～770
2	770～800	725

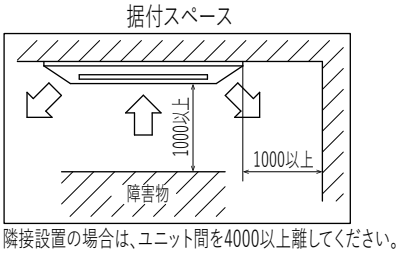
(4)ねじ接合継手の場合は，括弧内の寸法になります。

PJF000Z847 A

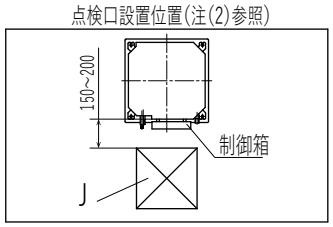
(2) 天井埋込形小容量 4 方向吹出し（FDTC）
FDTCP221, 281, 361, 451, 561LXZA

（単位：mm）





隣接設置の場合は、ユニット間を4000以上離してください。



●記号説明

記号	内容		
	機種	P22,28	P36,45,56
A	冷媒ガス側配管注(3)	φ9.52（フレア）	φ12.7（フレア）
B	冷媒液側配管注(3)	φ6.35（フレア）	
C	ドレン配管	VP25(I.D.25,O.D.32)	
D1	電源線取入口		
D2	リモコン線・通信線取入口		
F	吊りボルト	M10またはM8	
H	吹出分岐ダクト接続口	φ125	
J	点検口	450X450	

注 (1) 装置銘板は制御箱の蓋に付いてます。
(2) このユニットは、システム天井用に設計されています。
もし、システム天井以外に据付ける場合は、制御箱側に点検口を設置してください。
(3) ねじ接合継手の場合は括弧内の寸法になります。

PJF000Z853 A

(3) 天井埋込形２方向吹出し（FDTW）

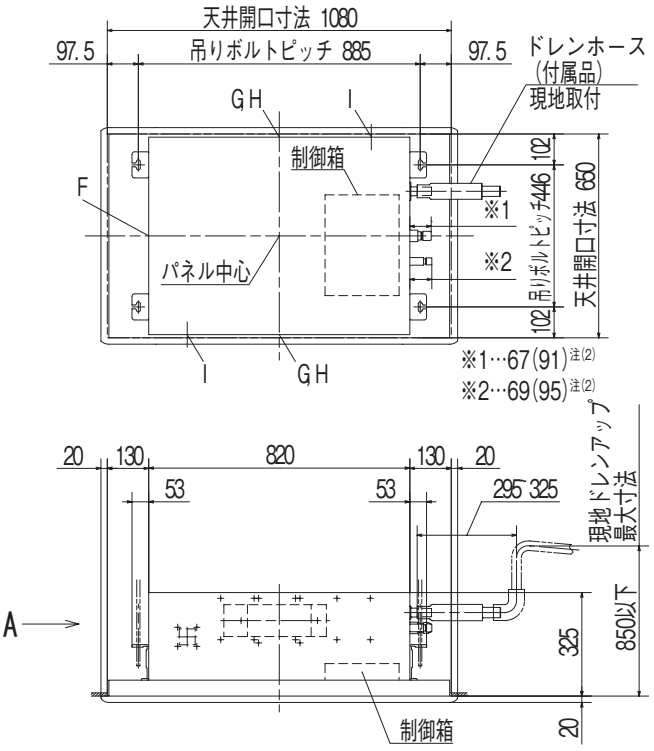
(a) 標準パネル仕様

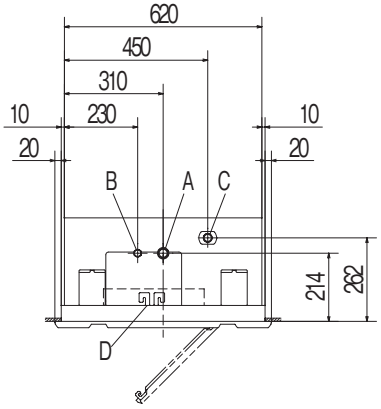
FDTWP221, 281, 361, 451, 561, 711, 801LXZA

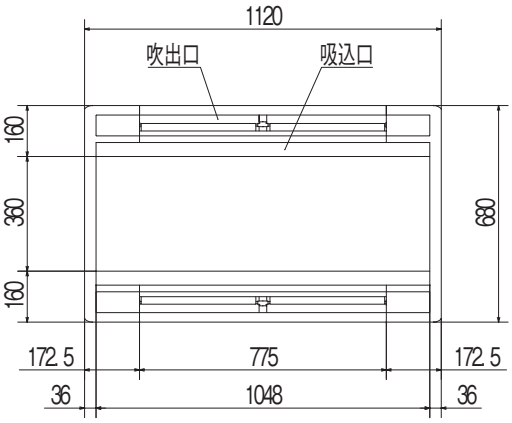
（単位：mm）

●記号説明

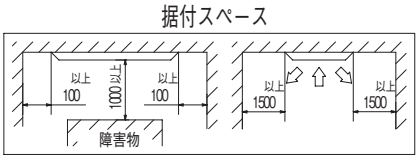
記号	内容			
	機種	P22, 28	P36, 45, 56	P71, 80
A	冷媒ガス側接続口注(2)	φ9.52（フレア）	φ12.7（フレア）	φ15.88（フレア）
B	冷媒液側接続口注(2)	φ6.35（フレア）		φ9.52（フレア）
C	ドレン配管接続口	VP25（I.D.25, O.D.32）		
D	電源取入口			
E	吊りボルト	M10		
F	OA取入口			
G	吹出分岐ダクト接続口			
H	加湿器接続口			
I	加湿器余剰水接続口			



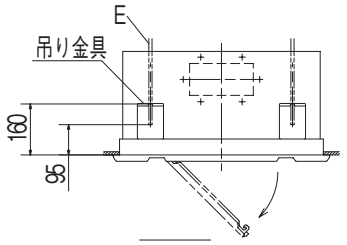




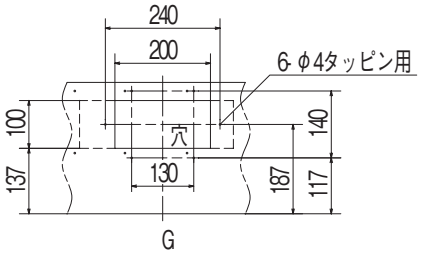
注(1) 装置銘板は制御箱の蓋に付いてます。
(2) ねじ接合継手の場合は、括弧内の寸法になります。

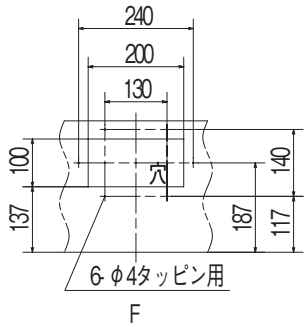


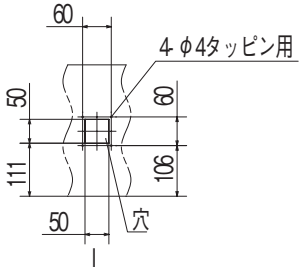
隣接設置の場合は、ユニット間を4000以上離してください。

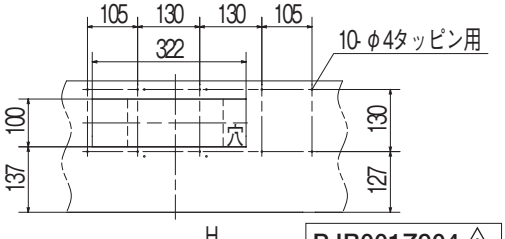


A 視









PJB001Z904 A

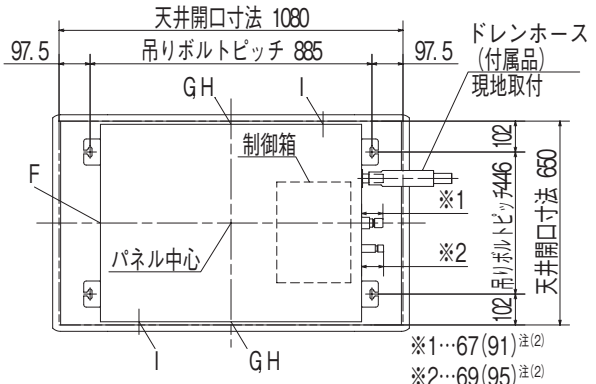
(b) ラクリーナパネル仕様

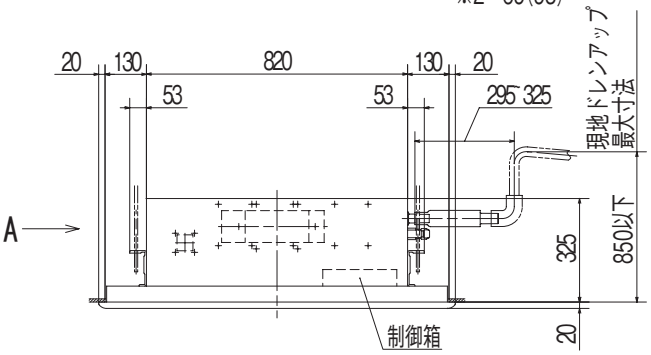
FDTWP221, 281, 361, 451, 561, 711, 801LXZA

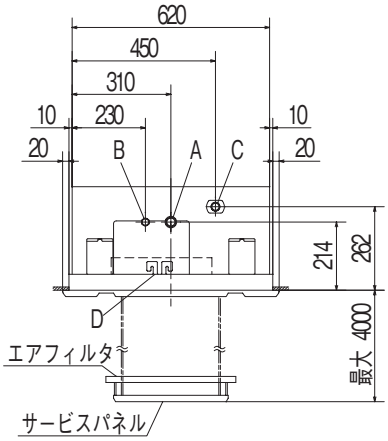
(単位：mm)

●記号説明

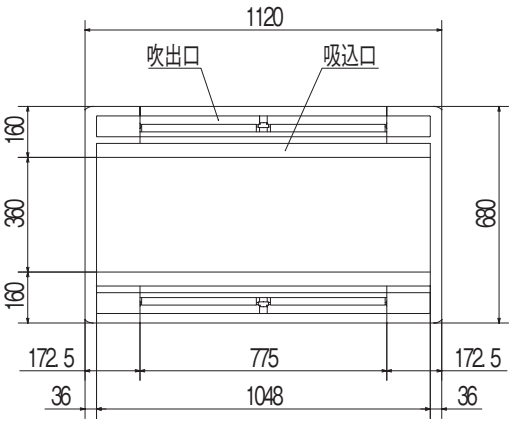
記号	内容			
	機種	P22, 28	P36, 45, 56	P71, 80
A	冷媒ガス側接続口注(2)	φ9.52 (フレア)	φ12.7 (フレア)	φ15.88 (フレア)
B	冷媒液側接続口注(2)	φ6.35 (フレア)		φ9.52 (フレア)
C	ドレン配管接続口	VP25 (I.D.25, O.D.32)		
D	電源取入口			
E	吊りボルト	M10		
F	OA取入口			
G	吹出分岐ダクト接続口			
H	加湿器接続口			
I	加湿器余剰水接続口			





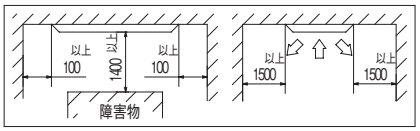


パネル

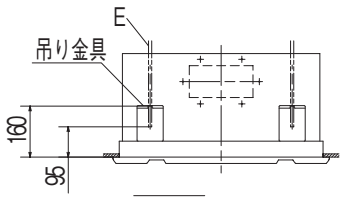


注(1) 装置銘板は制御箱の蓋に付いてます。
(2) ねじ接合継手の場合は、括弧内の寸法になります。

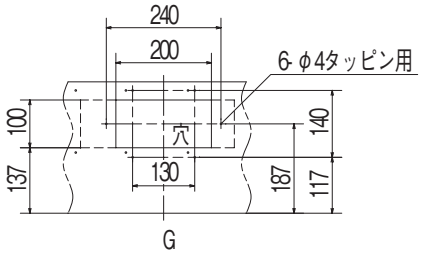
据付スペース

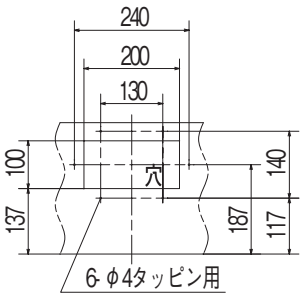


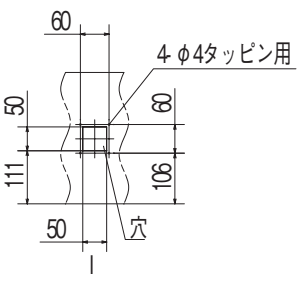
隣接設置の場合は、ユニット間を4000以上離してください。

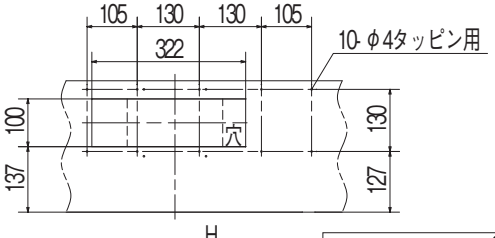


A 視









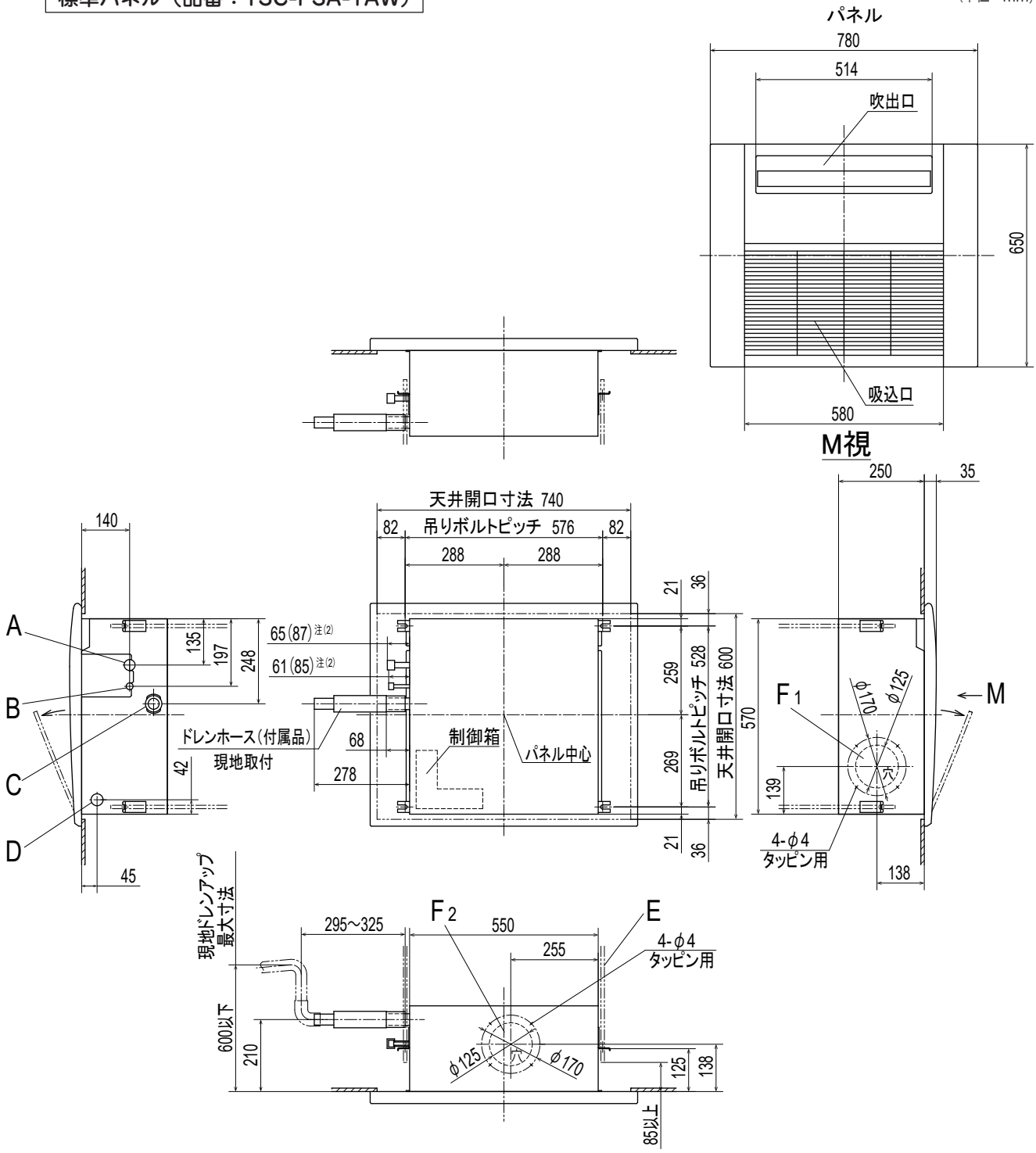
PJB001Z906 A

(4) 天井埋込形小容量 1 方向吹出し（FDTSC）

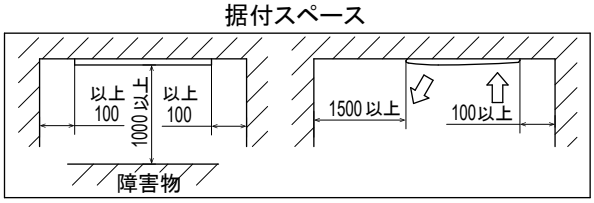
FDTSCP221, 281, 361LXZA

標準パネル（品番：TSC-PSA-1AW）

（単位：mm）



据付スペース



隣接設置の場合は、ユニット間を3000以上離してください。

●記号説明

記号	内容		
	機種	P22,28	P36
A	冷媒ガス側配管注(2)	φ9.52(フレア)	φ12.7(フレア)
B	冷媒液側配管注(2)	φ6.35(フレア)	
C	ドレン配管	VP25(I.D.25,O.D.32)	
D	電源取入口	φ30	
E	吊りボルト	M10	
$F_{1,2}$	OA取入口	ノックアウト	

注(1)装置銘板はファンケース正面に付いてます。
(2)ねじ接合継手の場合は括弧内の寸法になります。

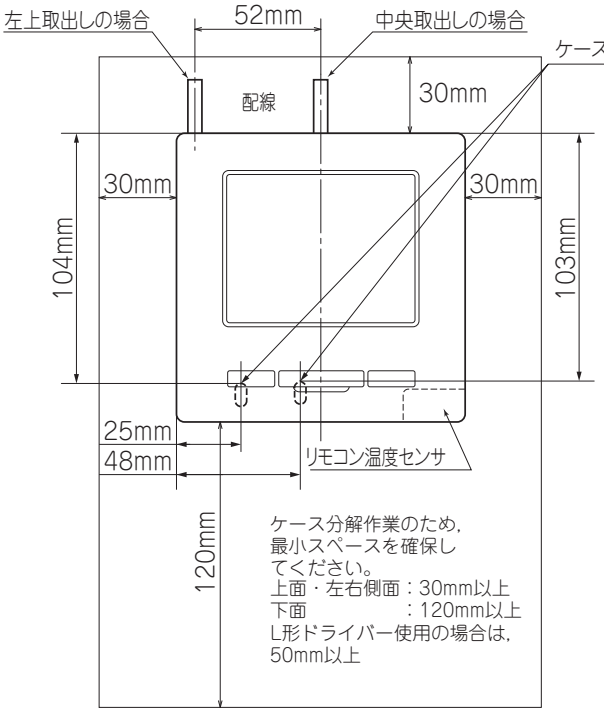
PJC001Z519 B

(5) リモートコントローラ

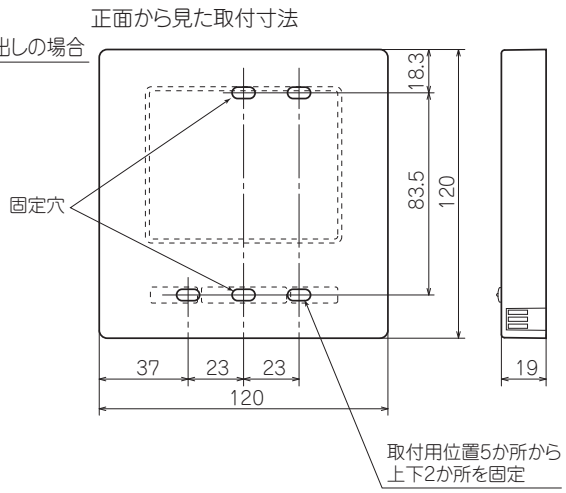
(a) ワイヤードリモコン（別売品）：RC-DX3F

（単位：mm）

設置スペース



リモコン取付寸法



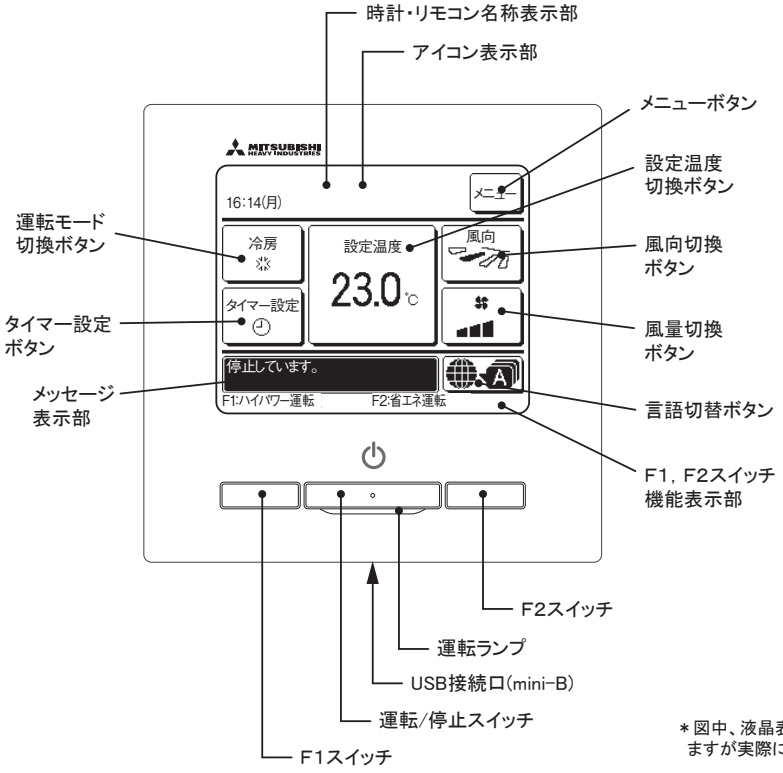
リモコンコードを延長する場合の注意　最大総延長600m

●リモコンコードは0.3mm²×2心です。

延長は600mまで可能です。延長距離が100mを超える場合は，下記サイズに変更してください。ただし，リモコンケース内を通る配線は最大0.5mm²以下とし，リモコン外部の近傍で配線接続により，サイズを変更してください。配線接続する際は，水分等が浸入しないような処置を行ってください。また，配線の接続は，接触不良のないように確実に行ってください。

100～200m以内…0.50mm²×2心
～300m以内…0.75mm²×2心
～400m以内…1.25mm²×2心
～600m以内…2.00mm²×2心

●操作部（フルドット表示，タッチパネル操作）



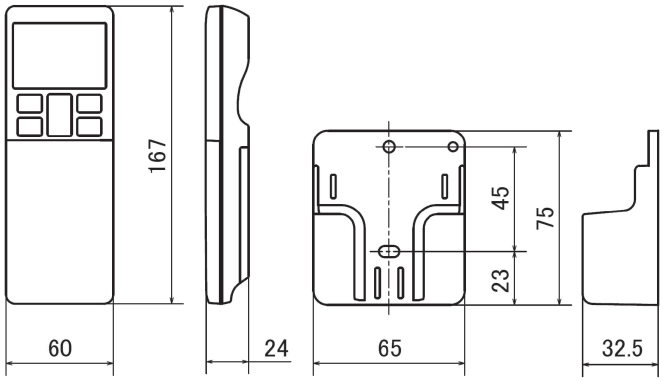
＊図中、液晶表示部は説明のため全部同時に表示してありますが実際には該当部分にのみ表示されます。

PJZ000Z390

(b) ワイヤレスリモコン（別売品）：RCN-D5

(i) リモコン

（単位：mm）

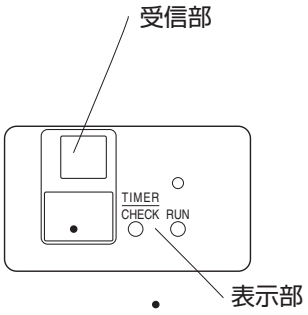


リモコン　　リモコン用ホルダー

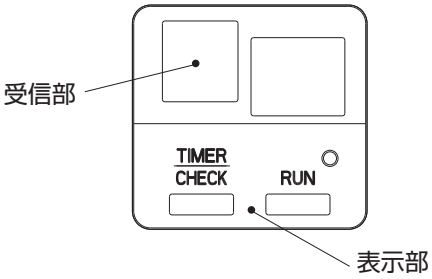
PJZ000Z324 A

(ii) 本体受信・表示部

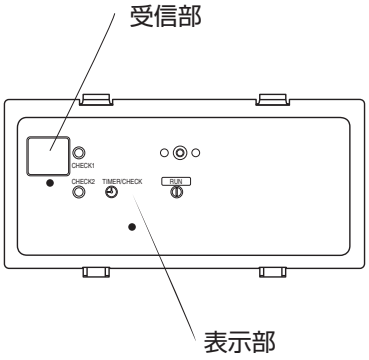
■天井埋込形（FDT）



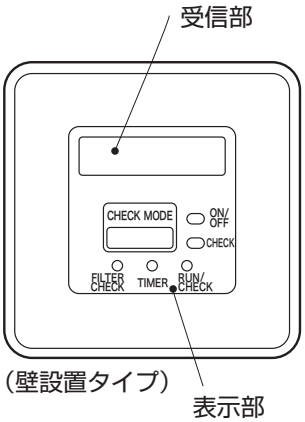
■天井埋込形小容量（FDTC）



■天井埋込形（FDTW）



■天井埋込形（FDTSC）

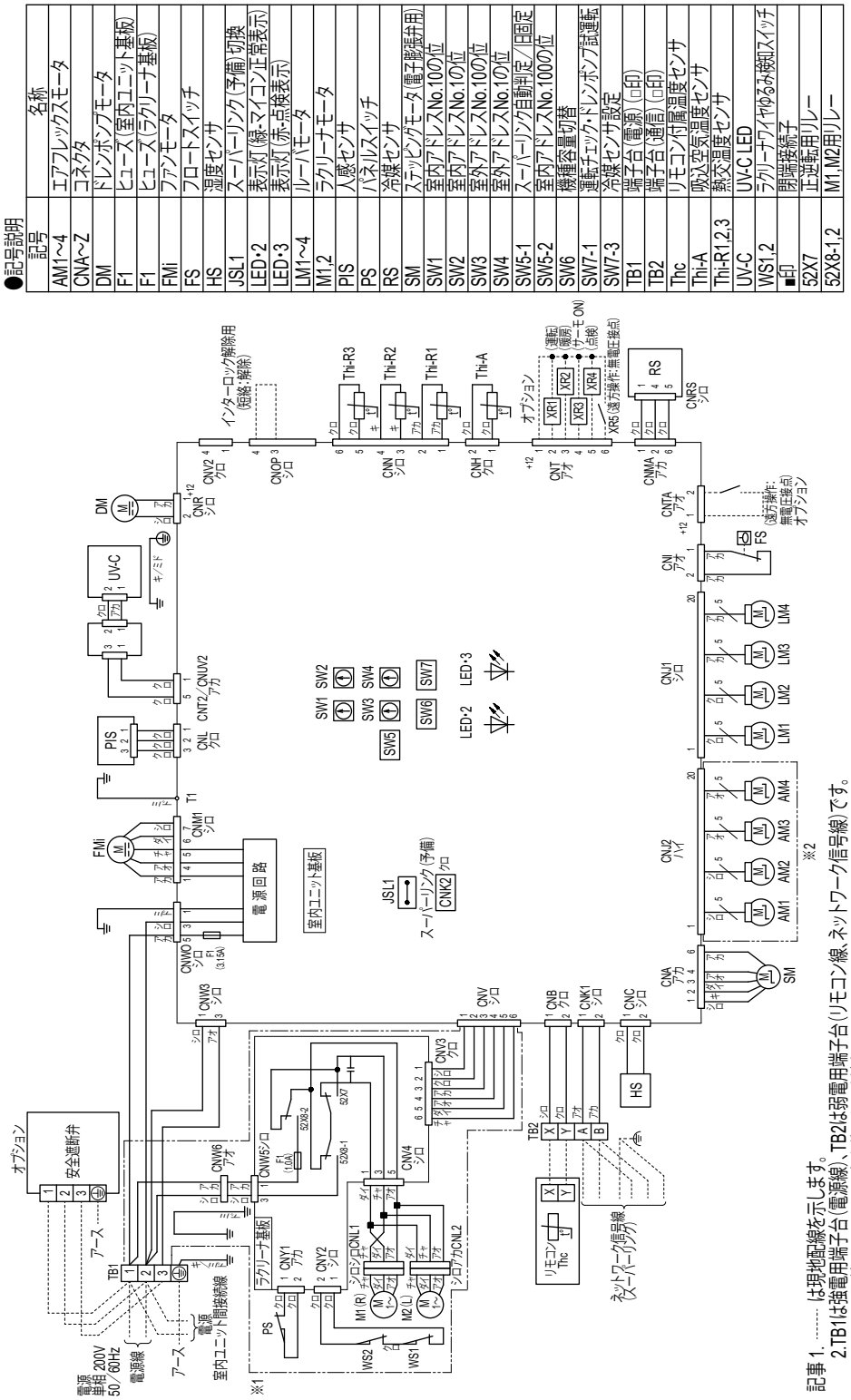


3. 電気配線図

(1) 天井埋込形 4 方向吹出し（FDT）

FDTP281，361，451，561，711，801，901，1121，1401，1601LXZA

（注）本図はエアコン本体部分について示しています。お掃除パネル部分については、次ページをご覧ください。

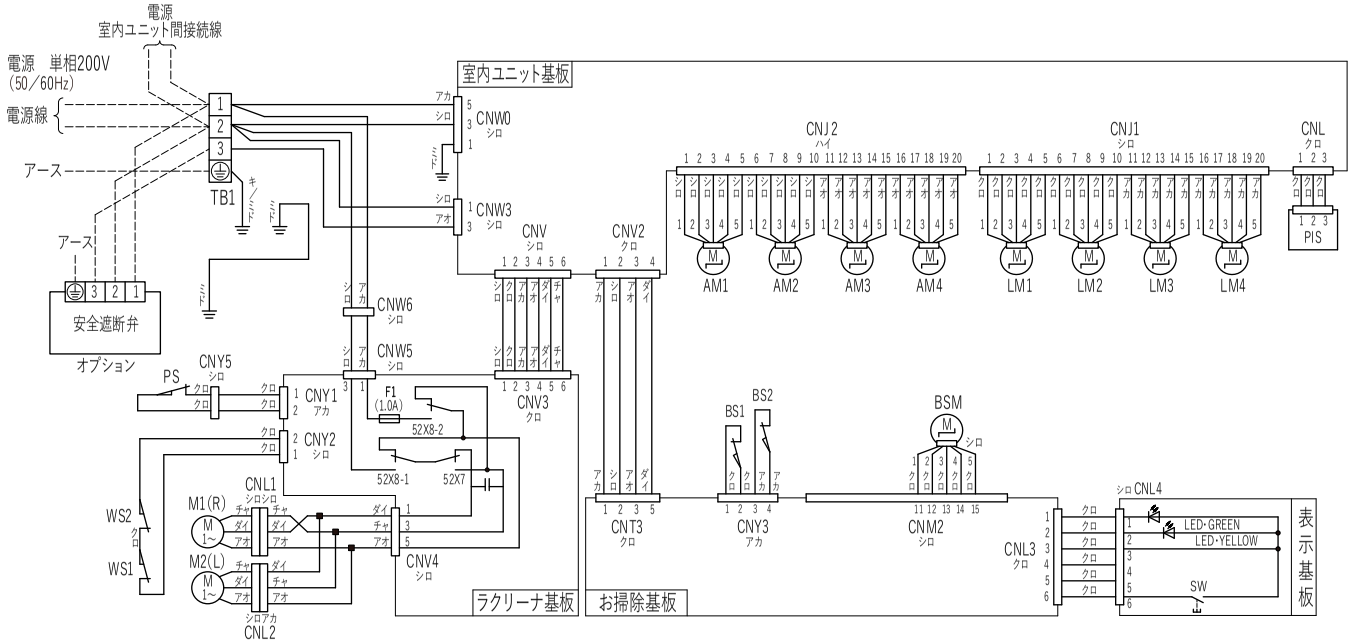


記事 1. ------ は現地配線を示します。
2.TB1は強電用端子台（電源線）、TB2は弱電用端子台（リモコン線、ネットワーク信号線）です。
3.リモコン配線は0.3mm² × 2心を使用してください。
延長距離が100mを超える場合の仕様についてはリモコン<納入仕様書>をご覧ください。
4.ネットワーク（スーパーリンク）信号線は、
・シールド線、太さ0.75mm² を使用する場合は1500mまで
・シールド線、太さ1.25mm² を使用する場合は1000mまで
5.リモコン配線、ネットワーク信号線は電源線や他の動力線と並行配列しないでください。
6.標準パネルまたはエアフレックスパネルの場合は、※1のラクリーナ基板および配線等はありません。
7.標準パネルの場合は、※2箇所の配線等はありません。

PJF000Z907
PJF000Z908
PJF000Z909

FDTP281，361，451，561，711，801，901，1121，1401，1601LXZA

（注）本図はお掃除パネル部分について示しています。エアコン本体側部分については，前ページをご覧ください。



●記号説明

記　号	名　称
AM1～4	エアフレックスモータ
BS1,2	ブラシ位置検知スイッチ
BSM	シャフト駆動モータ
CNA～Z	コネクタ
F1	ヒューズ(ラクリーナ基板)
LED･GREEN	表示灯(緑)右表参照
LED･YELLOW	表示灯(黄)右表参照
LM1～4	ルーバモータ
M1,2	ラクリーナモータ
PIS	人感センサ
PS	パネルスイッチ
SW	バックアップスイッチ
TB1	端子台(電源)(□印)
WS1,2	ラクリーナワイヤゆるみ検知スイッチ
■印	閉端接続子
52X7	正逆転用リレー
52X8-1,2	M1,M2用リレー

パネル表示部	内容
緑の点灯	お掃除運転中
黄の点灯	ダスト回収表示
緑の1回点滅	ブラシ移動不良
緑の2回点滅	ブラシ移動不良
緑の3回点滅	位置検知スイッチ異常
緑の4回点滅	位置検知スイッチ異常
緑の5回点滅	吸込グリル収納不良
緑の6回点滅	位置検知スイッチ同時ON異常

記事1. 本図はパネル部分について示しています。
エアコン本体側部分については、前ページを参照ください。

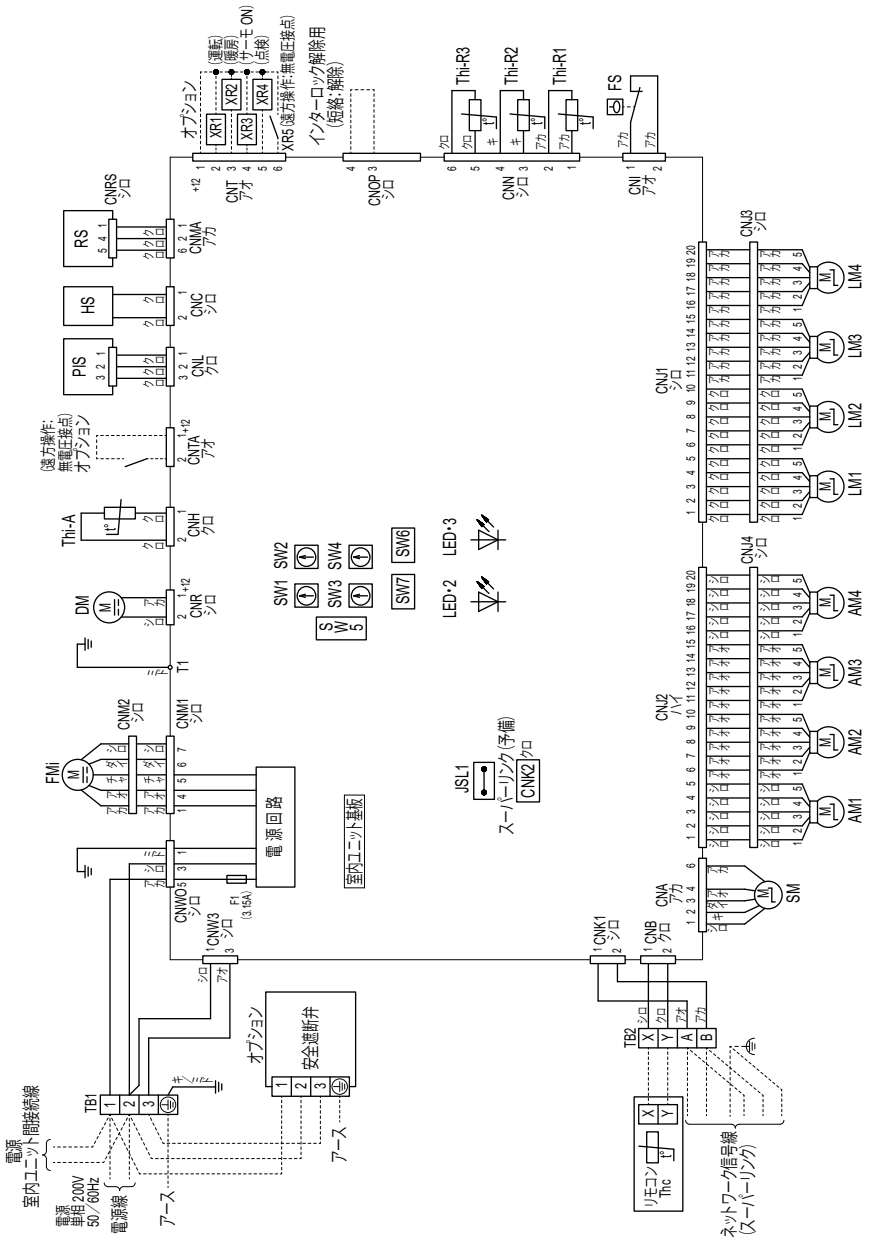
PJF000Z910

(2) 天井埋込形小容量 4 方向吹出し（FDTC）

FDTCP221，281，361，451，561LXZA

●記号説明

記号	名称
AM1~4	エアフレックスモータ
CNA~Z	コネクタ
DM	ドレンポンプモータ
F1	ヒューズ
FMi	ファンモータ
FS	フロートスイッチ
HS	湿度センサ
JSL1	スーパーリンク（予備）切換
LED･2	表示灯（緑・マイコン正常表示）
LED･3	表示灯（赤・点検表示）
LM1~4	ルーバモータ
PIS	人感センサ
RS	冷媒センサ
SM	ステッピングモータ（電子膨張弁用）
SW1	室内アドレスNo.100の位
SW2	室内アドレスNo.1の位
SW3	室外アドレスNo.100の位
SW4	室外アドレスNo.1の位
SW5-1	スーパーリンク自動判定／旧固定
SW5-2	室内アドレスNo.100の位
SW6	機種容量切替
SW7-1	運転チェック・ドレンポンプ試運転
SW7-3	冷媒センサ設定
TB1	端子台（電源）（□印）
TB2	端子台（通信）（□印）
Thc	リモコン付属温度センサ
Thi-A	吸込空気温度センサ
Thi-R1,2,3	熱交温度センサ



記事 1. ------ は現地配線を示します。
2.TB1は強電用端子台（電源線）、TB2は弱電用端子台（リモコン線、ネットワーク信号線）です。
3.リモコン配線は0.3mm² × 2心を使用してください。
延長距離が100mを超える場合の仕様についてはリモコン＜納入仕様書＞をご覧ください。
4.ネットワーク（スーパーリンク）信号線は、
・シールド線、太さ0.75mm² を使用する場合は1500mまで
・シールド線、太さ1.25mm² を使用する場合は1000mまで
5.リモコン配線、ネットワーク信号線は電源線や他の動力線と並行配列しないでください。

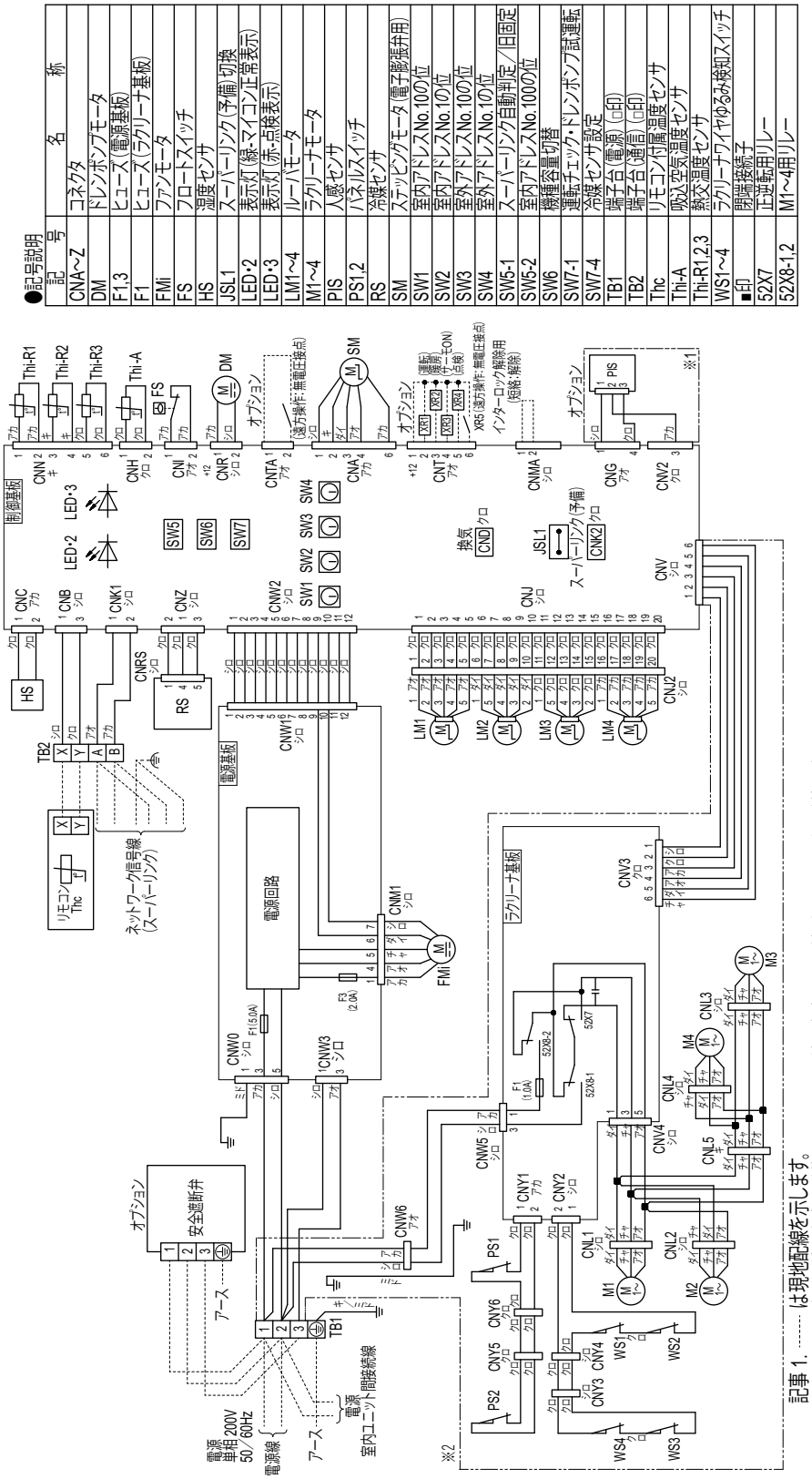
PJF000Z912

(3) 天井埋込形２方向吹出し（FDTW）

FDTWP221，281，361，451，561，711，801LXZA

●記号説明

記号	名称
CNA~Z	コネクタ
DM	ドレンポンプモータ
F1,3	ヒューズ(電源基板)
F1	ヒューズ(ラクリーナ基板)
FMI	ファンモータ
FS	フロートスイッチ
HS	湿度センサ
JSL1	スーパーリンク(予備)切換
LED･2	表示灯(緑･マイコン正常表示)
LED･3	表示灯(赤･点検表示)
LM1~4	ルーバモータ
M1~4	ラクリーナモータ
PIS	人感センサ
PS1,2	パネルスイッチ
RS	冷媒センサ
SM	ステッピングモータ(電子膨張弁用)
SW1	室内アドレスNo.10の位
SW2	室内アドレスNo.1の位
SW3	室外アドレスNo.10の位
SW4	室外アドレスNo.1の位
SW5-1	スーパーリンク自動判定／旧固定
SW5-2	室内アドレスNo.100の位
SW6	機種容量切替
SW7-1	運転チェック･ドレンポンプ試運転
SW7-4	冷媒センサ設定
TB1	端子台(電源)(□印)
TB2	端子台(通信)(□印)
Thc	リモコン付属温度センサ
Thi-A	吸込空気温度センサ
Thi-R1,2,3	熱交温度センサ
WS1~4	ラクリーナフライヤゆるみ検知スイッチ
■印	開端接続子
52X7	正逆転用リレー
52X8-1,2	M1~4用リレー



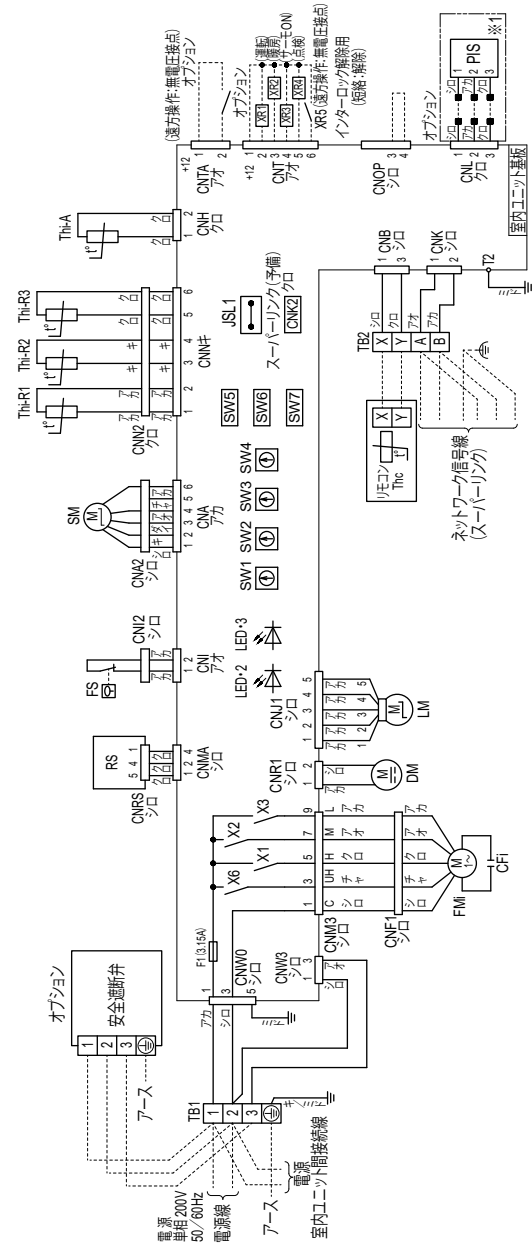
記事 1. ------ は現地配線を示します。
2.TB1は強電用端子台(電源線)、TB2は弱電用端子台(リモコン線、ネットワーク信号線)です。
3.リモコン配線は0.3mm² × 2心を使用してください。
延長距離が100mを超える場合の仕様についてはリモコン<納入仕様書>をご覧ください。
4.ネットワーク(スーパーリンク)信号線は、
・シールド線、太さ0.75mm² を使用する場合は1500mまで
・シールド線、太さ1.25mm² を使用する場合は1000mまで
5.リモコン配線、ネットワーク信号線は電源線や他の動力線と並行配列しないでください。
6.2点鎖線内(※1印)の回路は人感センサ(オプション)無しの場合配線されていません。
7.ラクリーナパネルを使用しない場合は、※2箇所のパネル基板および配線はありません。

PJB001Z935
PJB001Z936

(4) 天井埋込形小容量 1 方向吹出し（FDTSC）

●記号説明

記　号	名　称
CFi	FMi 用コンデンサ
CNA~Z	コネクタ
DM	ドレンポンプモータ
F1	ヒューズ
FMi	ファンモータ（サーモ付）
FS	フロートスイッチ
JSL1	スーパーリンク（予備）切換
LED･2	表示灯（緑･マイコン正常表示）
LED･3	表示灯（赤･点検表示）
LM	ルーバモータ
PIS	人感センサ
RS	冷媒センサ
SM	ステッピングモータ（電子膨張弁用）
SW1	室内アドレスNo.10の位
SW2	室内アドレスNo.1の位
SW3	室外アドレスNo.10の位
SW4	室外アドレスNo.1の位
SW5-1	スーパーリンク自動判定／旧固定
SW5-2	室内アドレスNo.100の位
SW6	機種容量切換
SW7-1	運転チェック・ドレンポンプ試運転
SW7-3	冷媒センサ設定
TB1	端子台（電源）（□印）
TB2	端子台（通信）（□印）
Thc	リモコン付属温度センサ
Thi-A	吸込空気温度センサ
Thi-R1,2,3	熱交温度センサ
X1~3,6	FM用リレー
■印	開端接続子



記事 1. ------ は現地配線を示します。
2.TB1は強電用端子台（電源線）、TB2は弱電用端子台（リモコン線、ネットワーク信号線）です。
3.リモコン配線は0.3mm² × 2心を使用してください。
延長距離が100mを超える場合の仕様についてはリモコン<納入仕様書>をご覧ください。
4.ネットワーク（スーパーリンク）信号線は、
・シールド線、太さ0.75mm² を使用する場合は1500mまで
・シールド線、太さ1.25mm² を使用する場合は1000mまで
5.リモコン配線、ネットワーク信号線は電源線や他の動力線と並行配列しないでください。
6.2点鎖線内（※1印）の回路は人感センサ（オプション）無しの場合配線されていません。

PJC001Z558

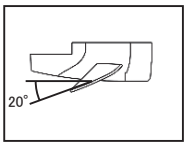
4. 気流分布

(1) 天井埋込形 4 方向吹出し（FDT）

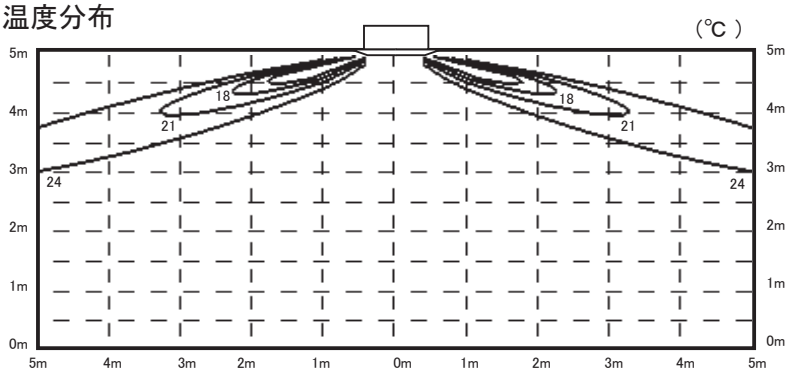
FDTP281, 361, 451LXZA

(a) 冷房　風量：P 急

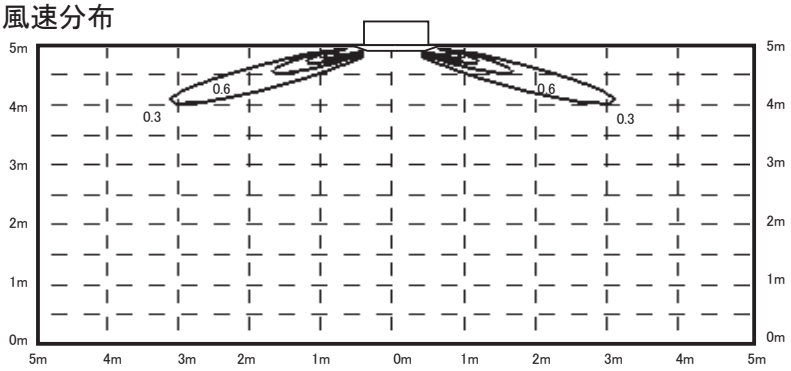
ルーバ位置



温度分布

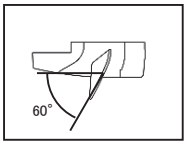


風速分布

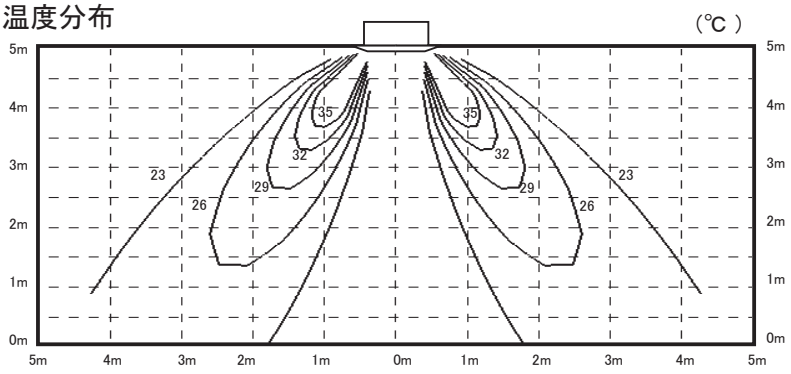


(b) 暖房　風量：P 急

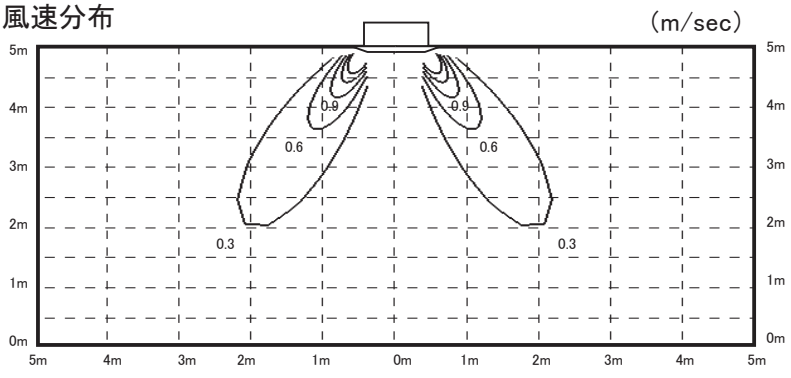
ルーバ位置



温度分布



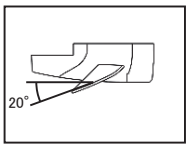
風速分布



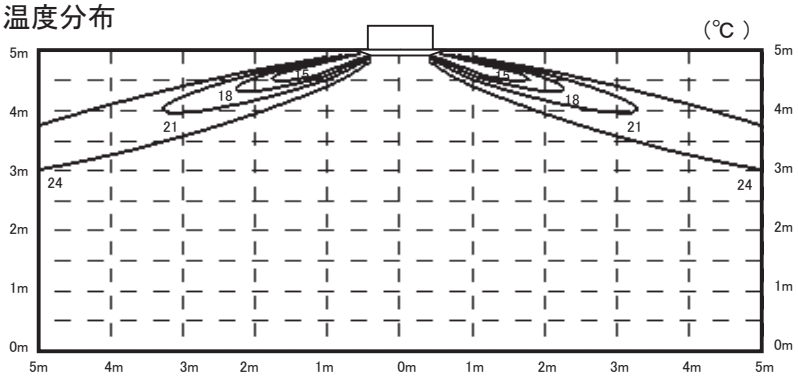
FDTP561LXZA

(a) 冷房　風量：P 急

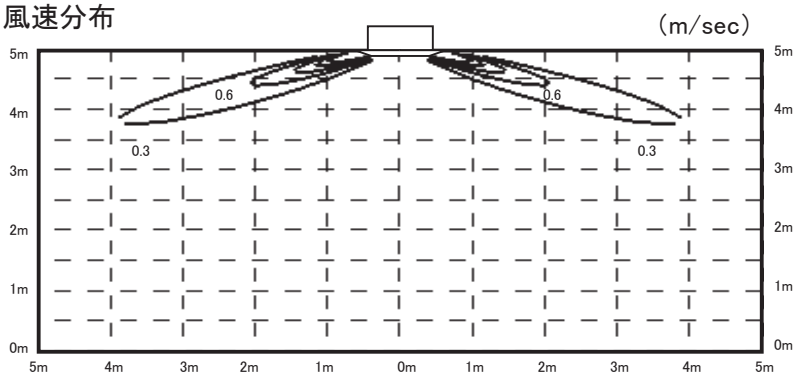
ルーバ位置



温度分布

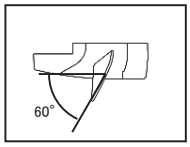


風速分布

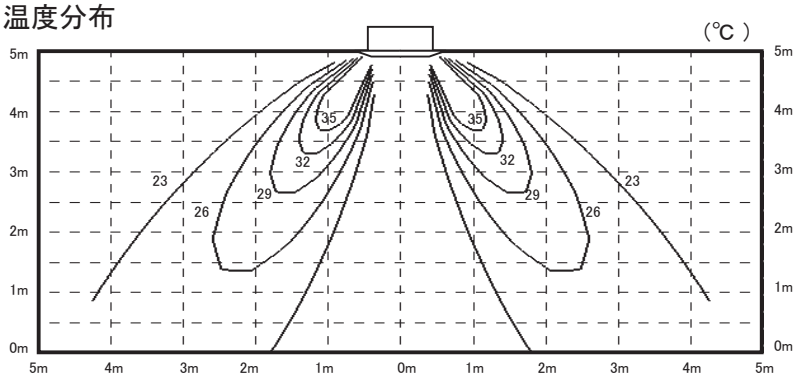


(b) 暖房　風量：P 急

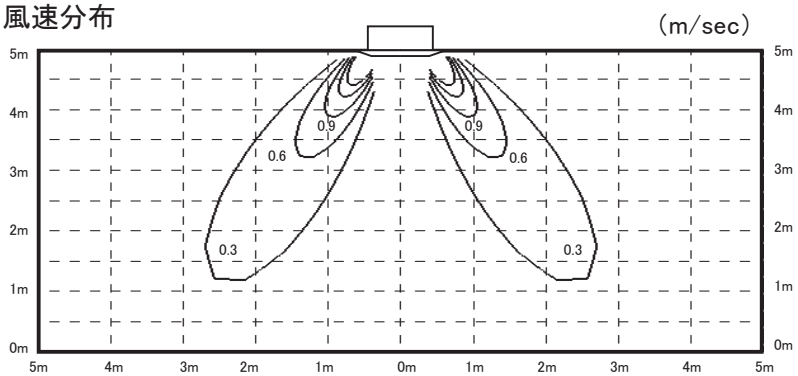
ルーバ位置



温度分布



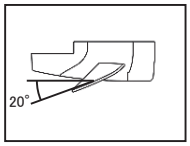
風速分布



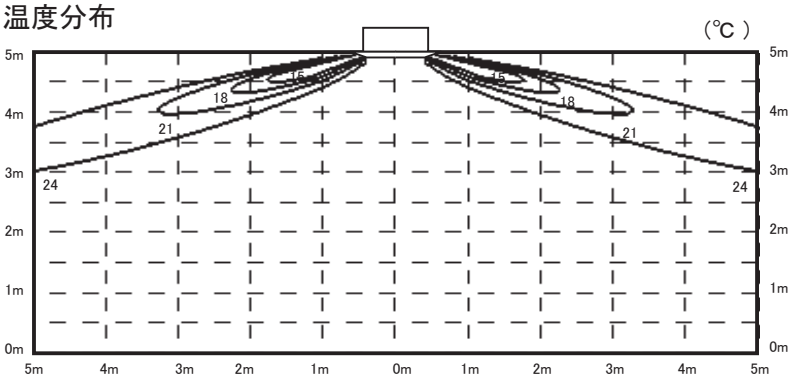
FDTP711, 801LXZA

(a) 冷房　風量：P 急

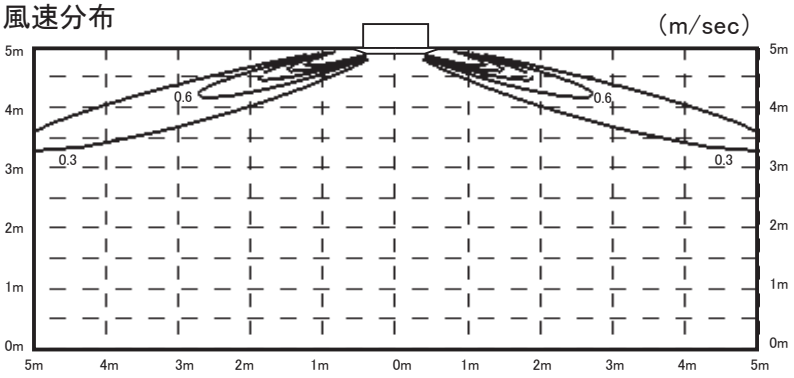
ルーバ位置



温度分布

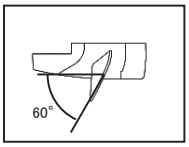


風速分布

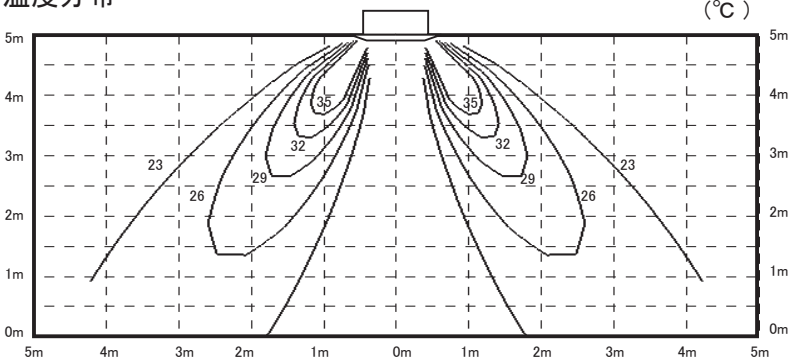


(b) 暖房　風量：P 急

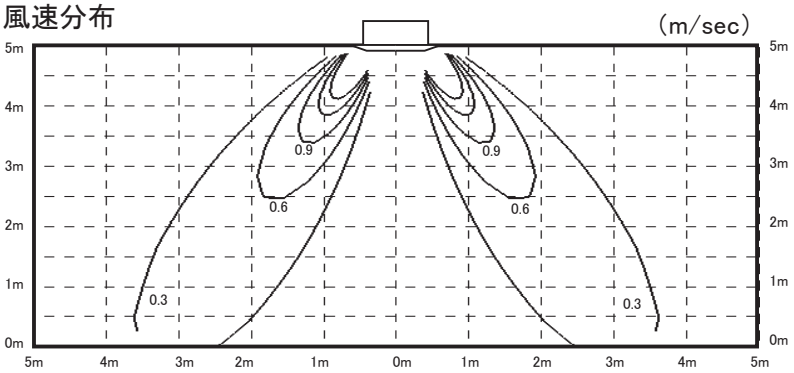
ルーバ位置



温度分布



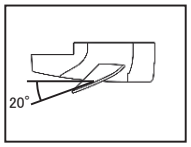
風速分布



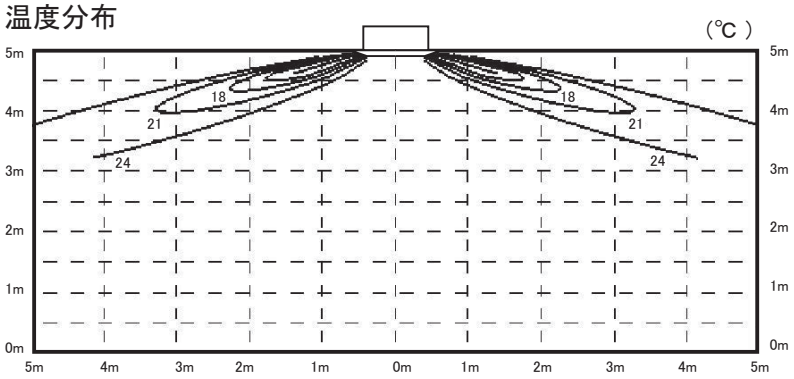
FDTP901LXZA

(a) 冷房　風量：P 急

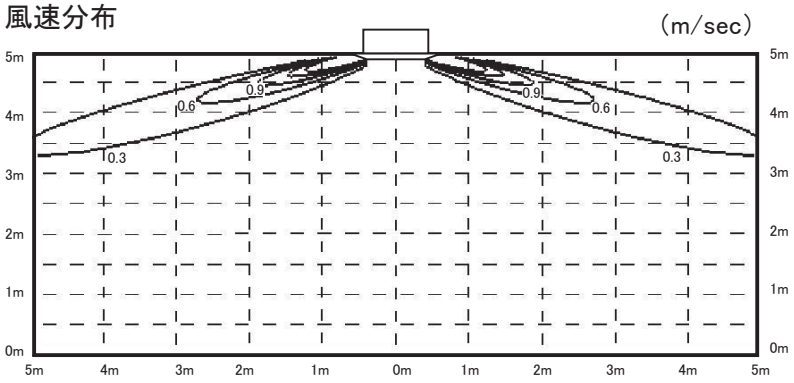
ルーバ位置



温度分布

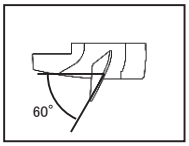


風速分布

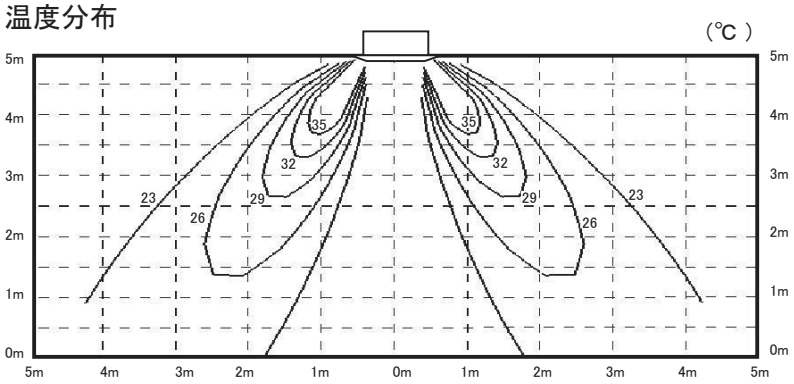


(b) 暖房　風量：P 急

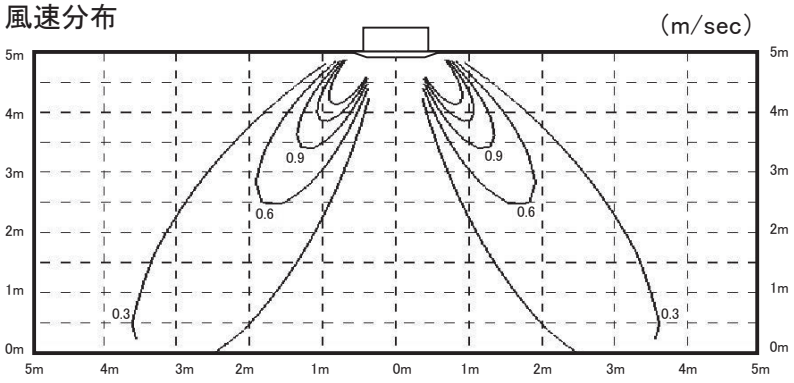
ルーバ位置



温度分布



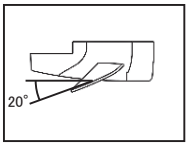
風速分布



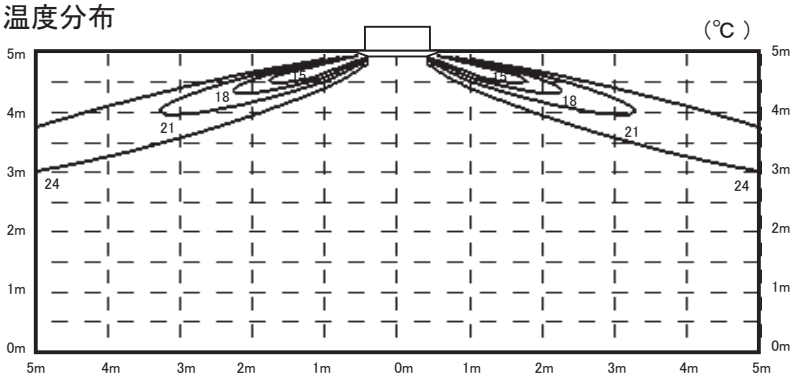
FDTP1121, 1401, 1601LXZA

(a) 冷房　風量：P 急

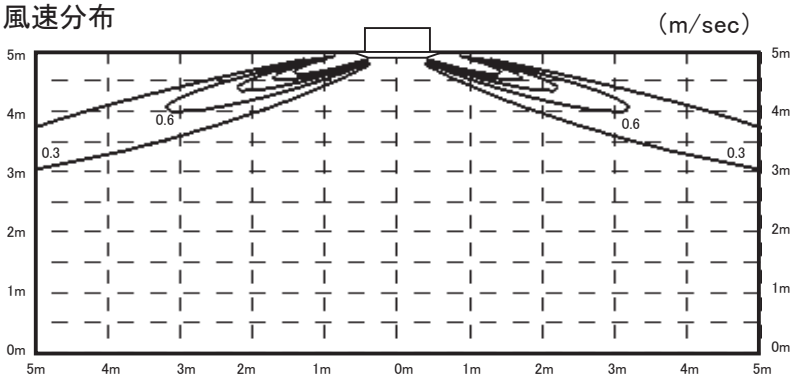
ルーバ位置



温度分布

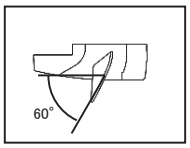


風速分布

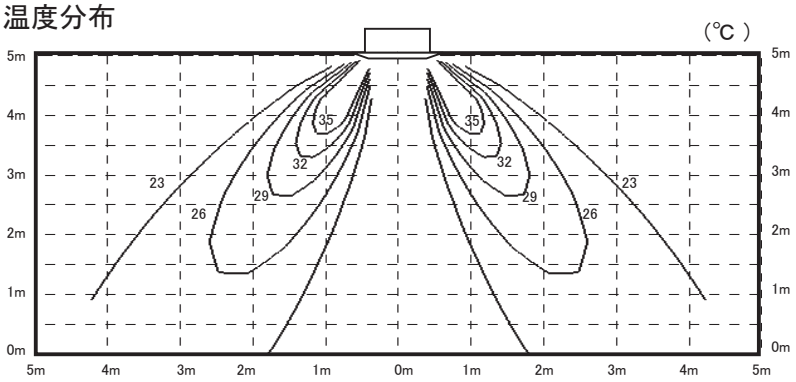


(b) 暖房　風量：P 急

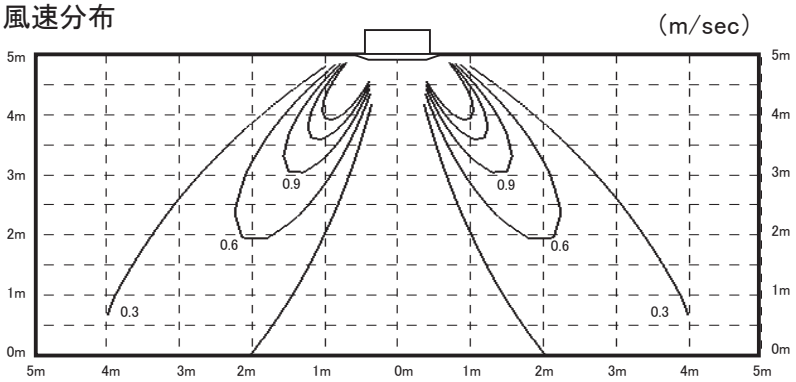
ルーバ位置



温度分布



風速分布

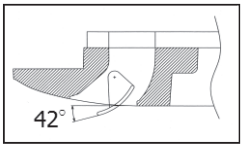


(2) 天井埋込形小容量 4 方向吹出し（FDTC）

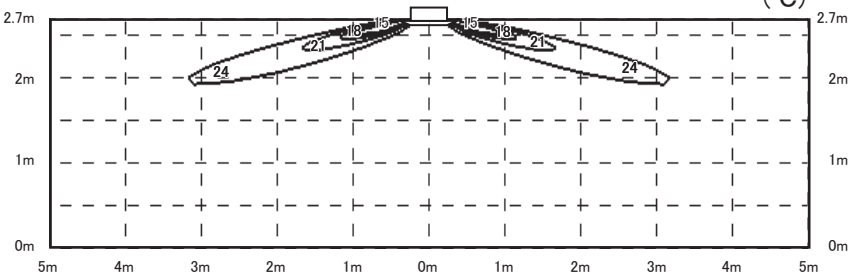
FDTCP221, 281LXZA

(a) 冷房　風量：P 急

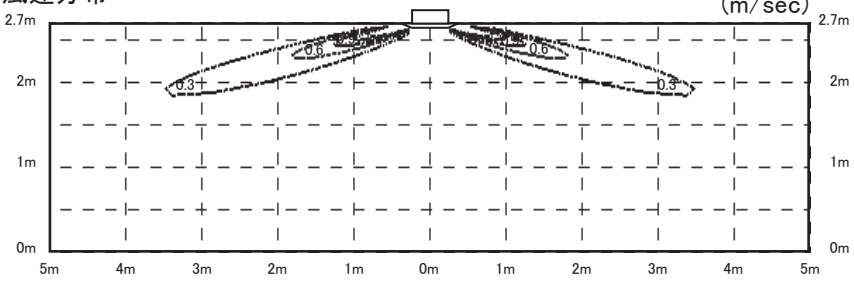
ルーバ位置



温度分布

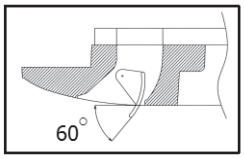


風速分布

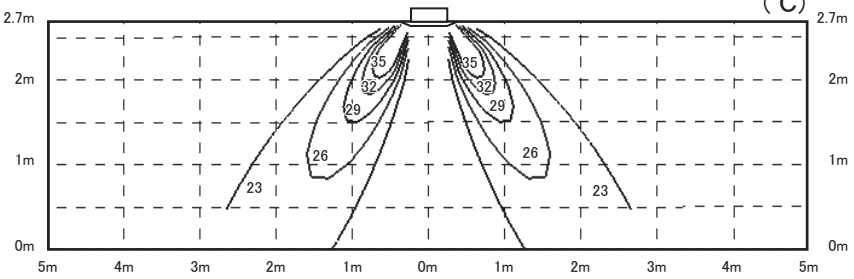


(b) 暖房　風量：P 急

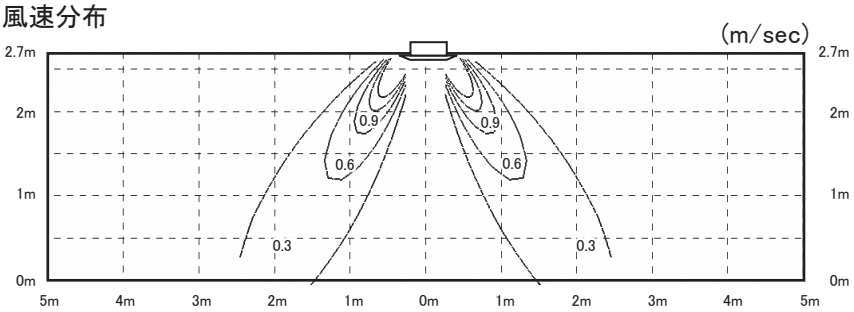
ルーバ位置



温度分布



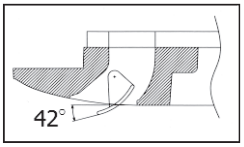
風速分布



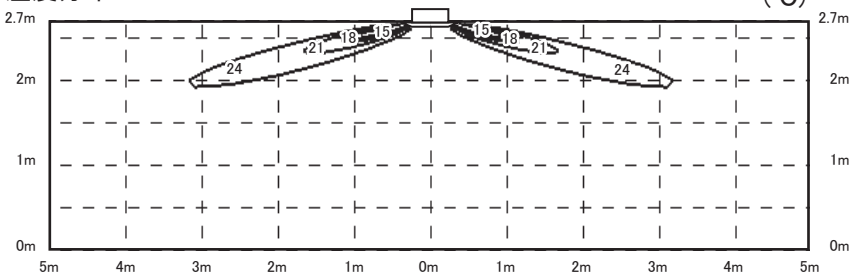
FDTCP361LXZA

(a) 冷房　風量：P 急

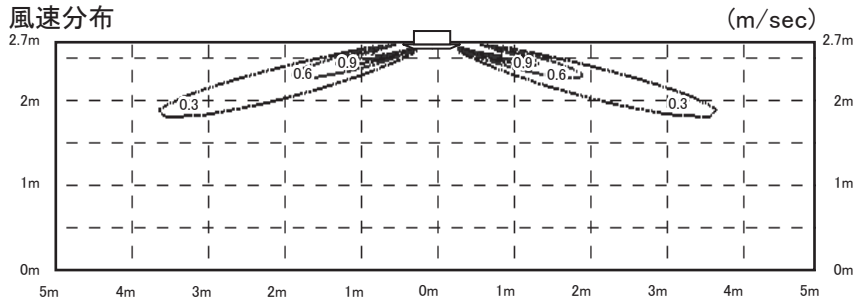
ルーバ位置



温度分布

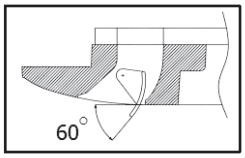


風速分布

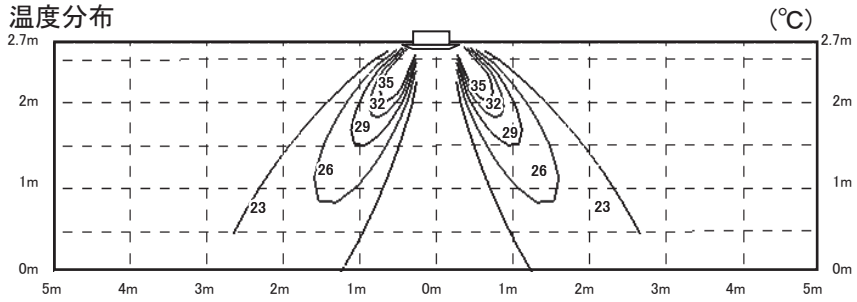


(b) 暖房　風量：P 急

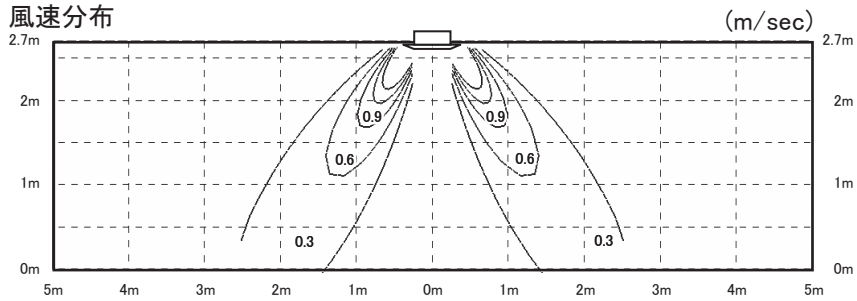
ルーバ位置



温度分布



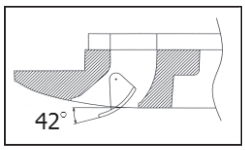
風速分布



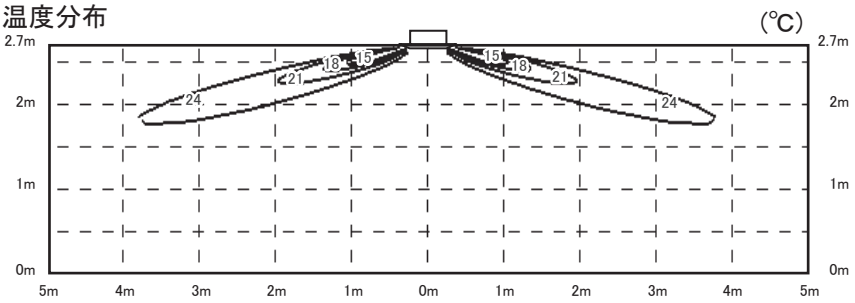
FDTCP451LXZA

(a) 冷房　風量：P 急

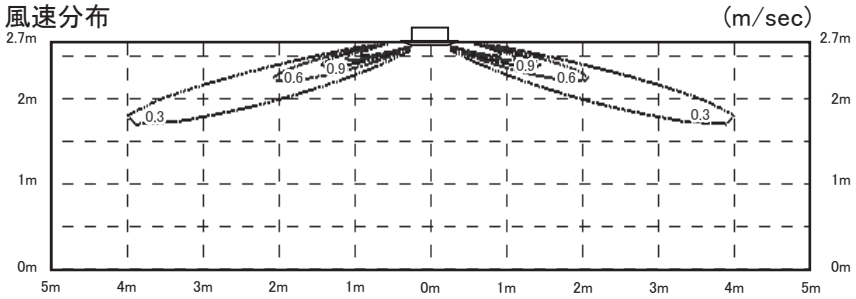
ルーバ位置



温度分布

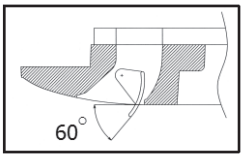


風速分布

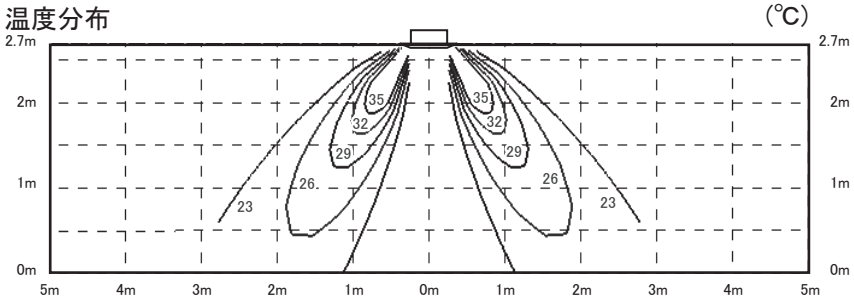


(b) 暖房　風量：P 急

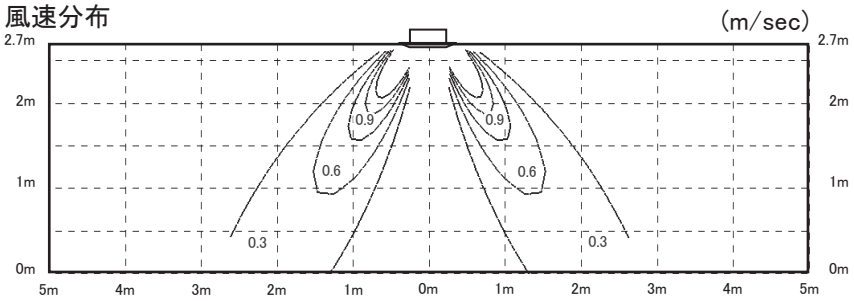
ルーバ位置



温度分布



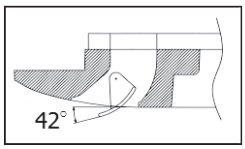
風速分布



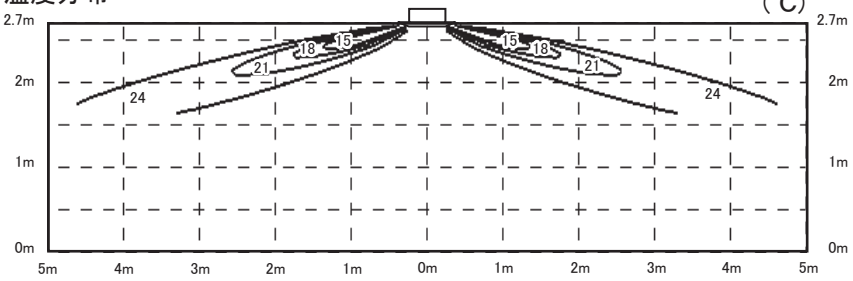
FDTCP561LXZA

(a) 冷房　風量：P 急

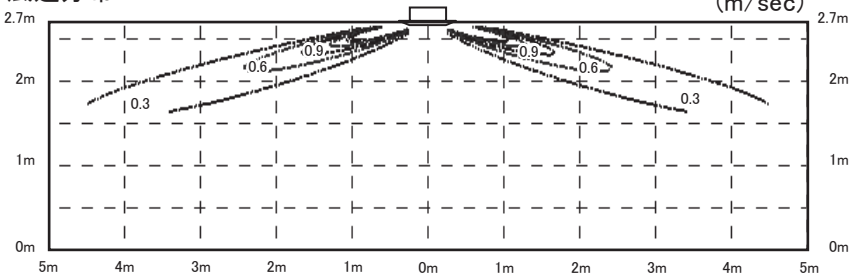
ルーバ位置



温度分布

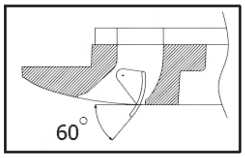


風速分布

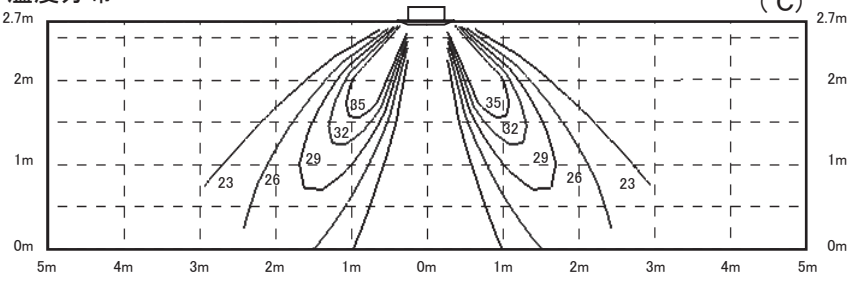


(b) 暖房　風量：P 急

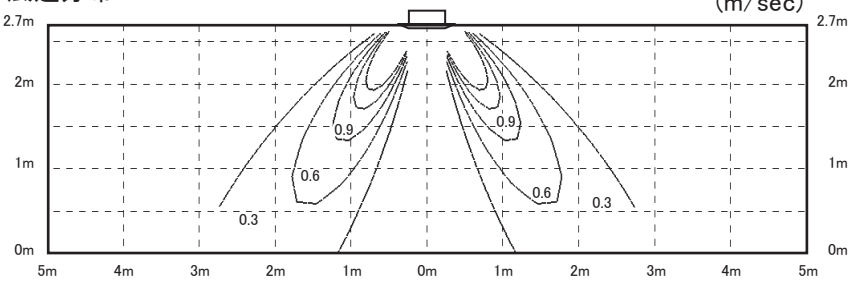
ルーバ位置



温度分布



風速分布

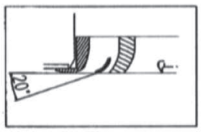


(3) 天井埋込形 2 方向吹出し(FDTW)

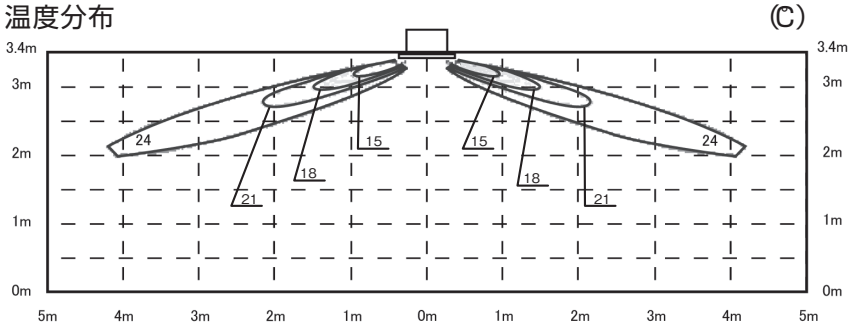
FDTWP221, 281, 361, 451, 561, 711LXZA

(a) 冷房　風量：P- 急

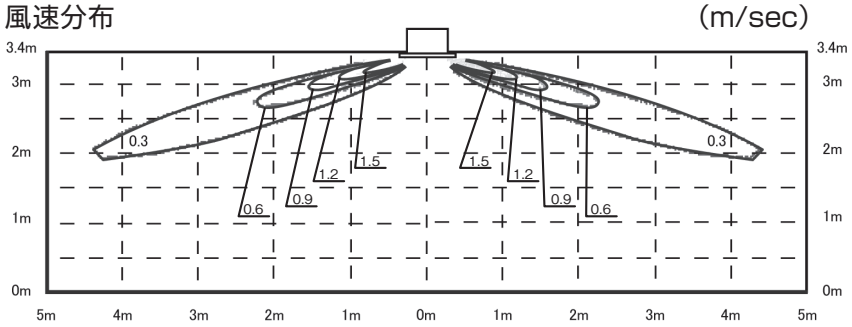
ルーバ位置



温度分布 (℃)

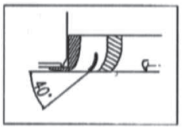


風速分布 (m/sec)

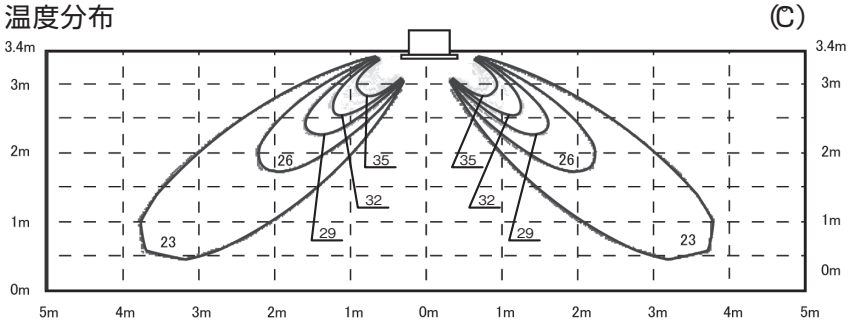


(b) 暖房　風量：P- 急

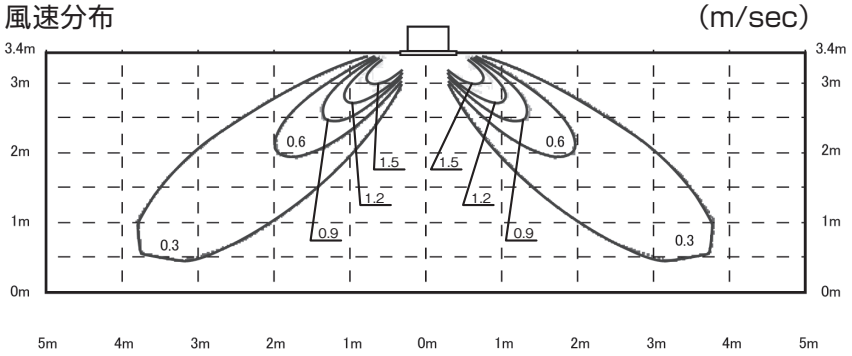
ルーバ位置



温度分布 (℃)



風速分布 (m/sec)

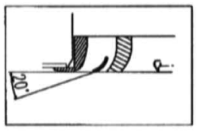


ISD11579

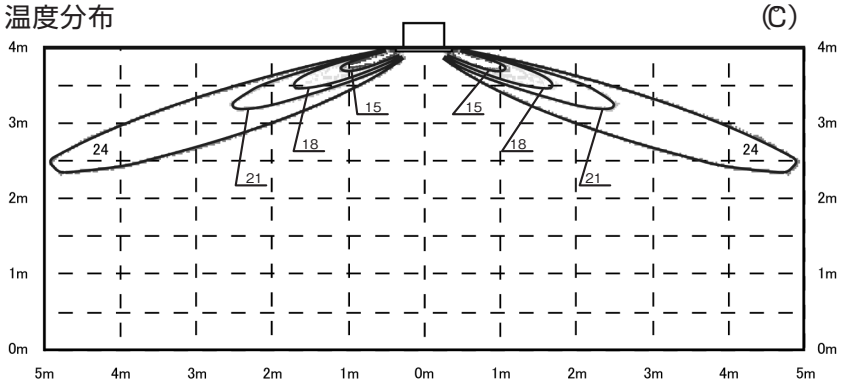
FDTWP801LXZA

(a) 冷房　風量：P 急

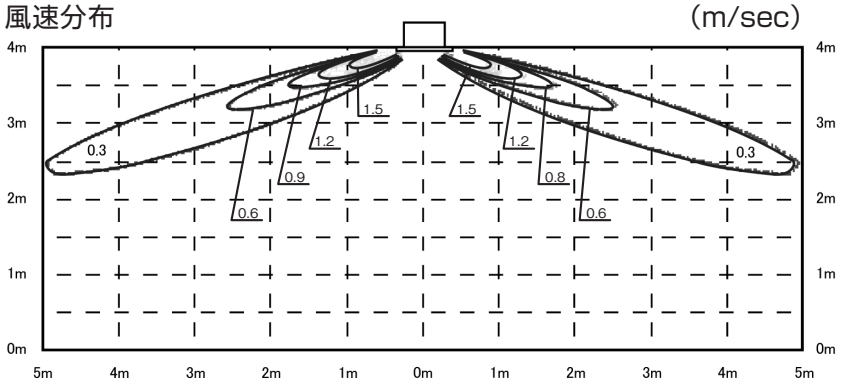
ルーバ位置



温度分布 (℃)

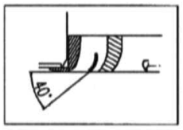


風速分布 (m/sec)

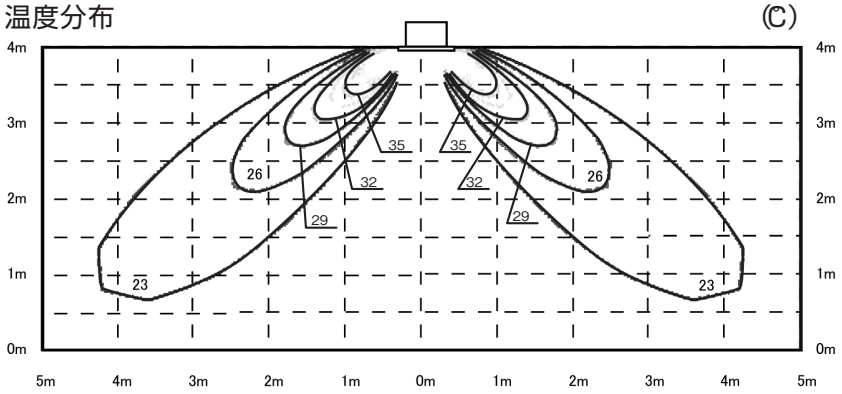


(b) 暖房　風量：P 急

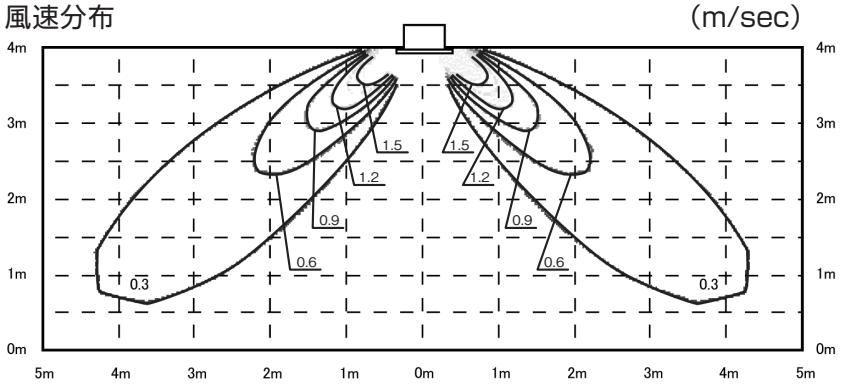
ルーバ位置



温度分布 (℃)



風速分布 (m/sec)



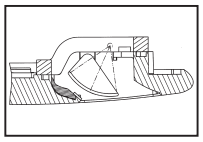
ISD11579

(4) 天井埋込形小容量 1 方向吹出し（FDTSC）

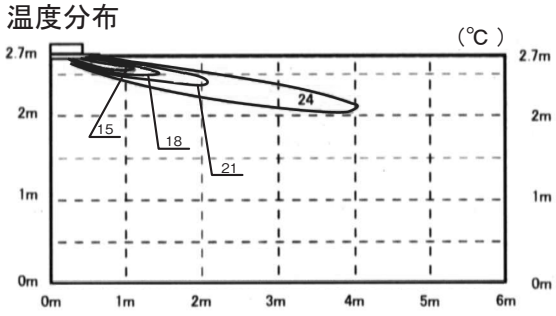
FDTSCP221, 281, 361LXZA

(a) 冷房　風量：P 急

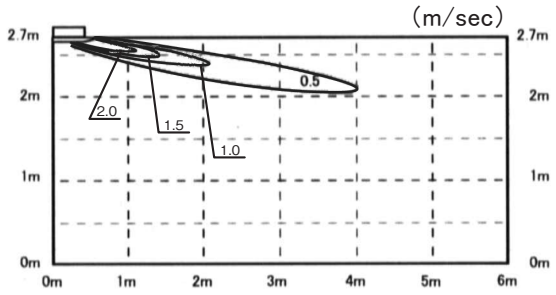
ルーバ位置



温度分布

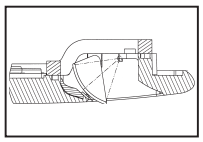


風速分布

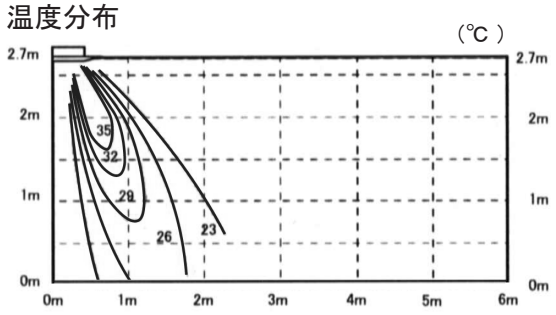


(b) 暖房　風量：P 急

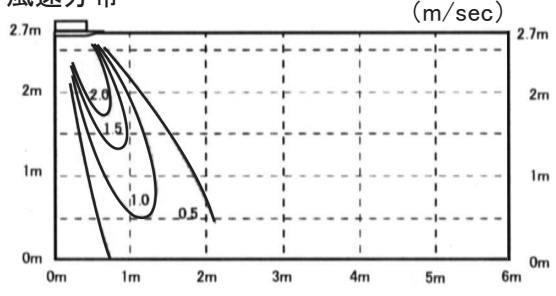
ルーバ位置



温度分布



風速分布

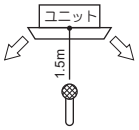


5. 運 転 音

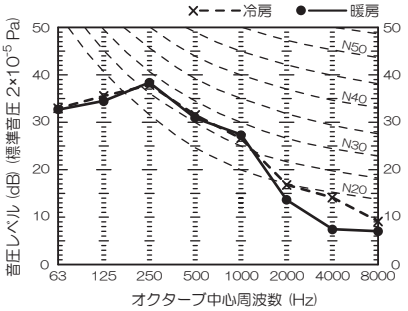
運転音は，JIS 規格に準拠し，反響の少ない無響室にて測定した値です。実際に据付けた場合は，周囲の騒音や部屋の反響を受け表示値より大きくなるのが普通です。

⑴ 天井埋込形 4 方向吹出し（FDT）

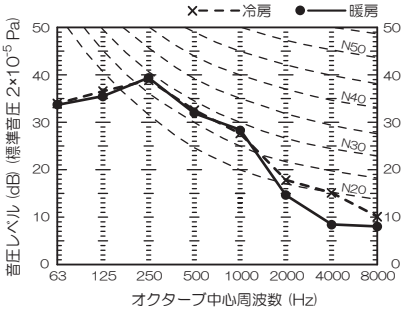
（測定場所：無響室
マイク位置：ユニット中央下方 1.5m）



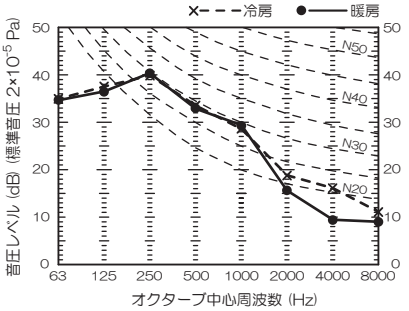
FDTP281LXZA



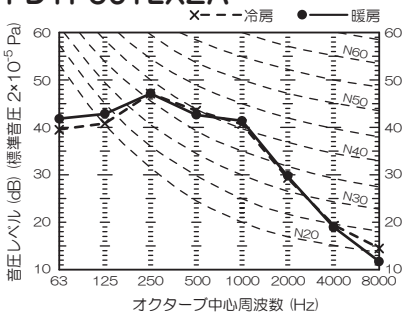
FDTP361LXZA



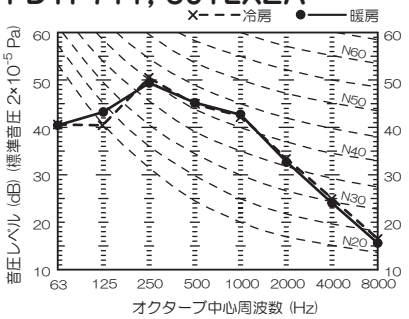
FDTP451LXZA



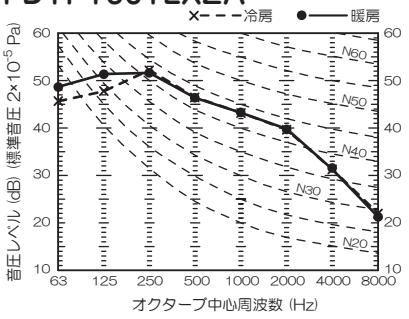
FDTP561LXZA



FDTP711, 801LXZA



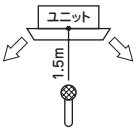
FDTP901, 1121, 1401LXZA
FDTP1601LXZA



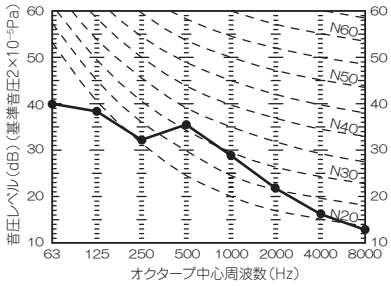
ISD23020

(2) 天井埋込形小容量 4 方向吹出し（FDTC）

（測定条件：冷房　測定場所：無響室
マイク位置：ユニット中央下方1.5m）

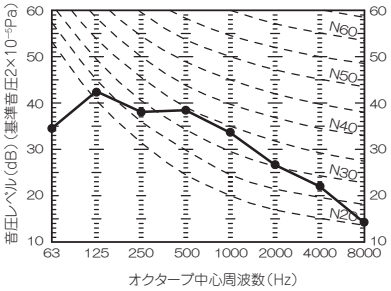


FDTCP221，281LXZA



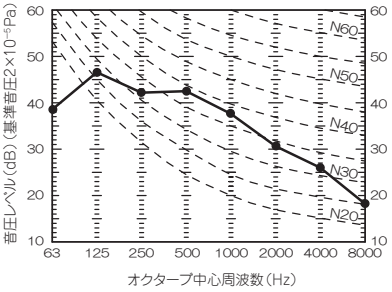
注(1)　暖房時もほぼ同じです。

FDTCP361LXZA



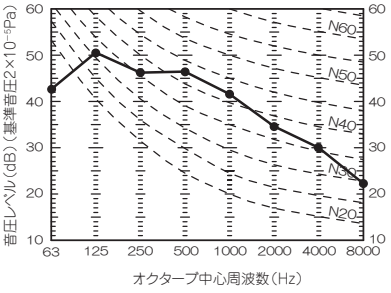
注(1)　暖房時もほぼ同じです。

FDTCP451LXZA



注(1)　暖房時もほぼ同じです。

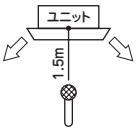
FDTCP561LXZA



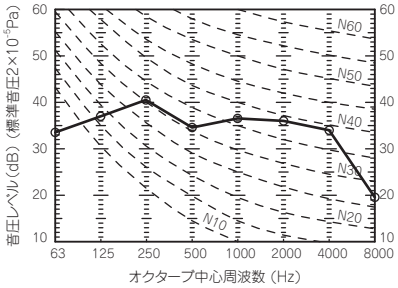
注(1)　暖房時もほぼ同じです。

(3) 天井埋込形 2 方向吹出し（FDTW）

（測定条件：冷房　測定場所：無響室
マイク位置：ユニット中央下方1.5m）

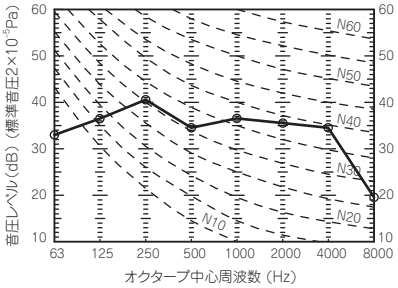


FDTWP221,281,361, 451,561LXZA



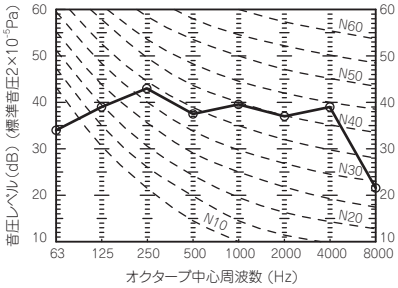
注(1) 暖房時もほぼ同じです。

FDTWP711LXZA



注(1) 暖房時もほぼ同じです。

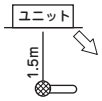
FDTWP801LXZA



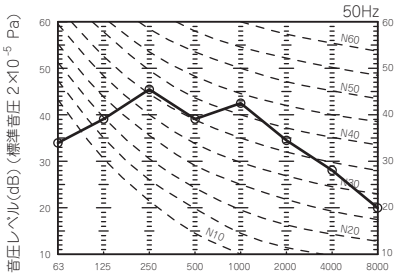
注(1) 暖房時もほぼ同じです。

(4) 天井埋込形小容量 1 方向吹出し（FDTSC）

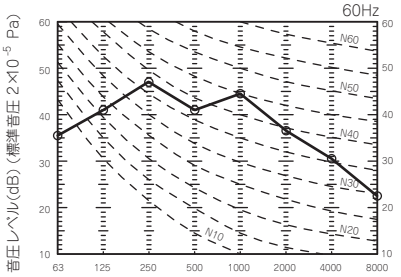
（測定条件：冷房　測定場所：無響室
マイク位置：ユニット中央下方 1.5m）



FDTSCP221, 281LXZA

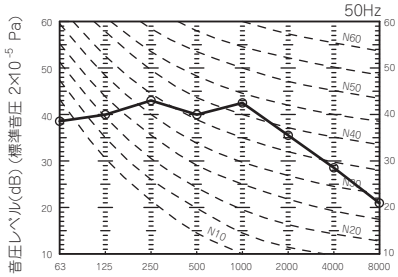


注(1) 暖房時もほぼ同じです。

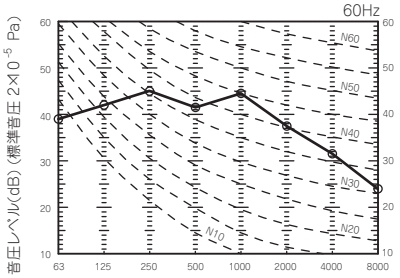


注(1) 暖房時もほぼ同じです。

FDTSCP361LXZA



注(1) 暖房時もほぼ同じです。



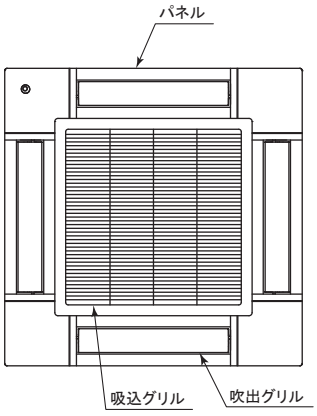
注(1) 暖房時もほぼ同じです。

6. 塗 装 色

(1) 天井埋込形 4 方向吹出し（FDT）

(a) パネル　　(b) パネル形式（オートスイング付）

（商品ご注文時パネル形式を指定してください。）



区　分	パネル形式	降下長	パネル色
標準パネル	T-PSA-6AW	—	ファインスノー（マンセル8.0Y9.3/0.1近似）
	T-PSA-6AB	—	シャドウブラック（マンセル7.2BG2.9/0.6近似）
	T-PSA-6AC	—	ウッドベージュ（マンセル6.8Y7.9/3.9近似）
エアフレックスパネル	T-PSAE-6AW	—	ファインスノー（マンセル8.0Y9.3/0.1近似）
	T-PSAE-6AB	—	シャドウブラック（マンセル7.2BG2.9/0.6近似）
ラクリーナパネル	T-PSCL-6AW	～ 4.0m	ファインスノー（マンセル8.0Y9.3/0.1近似）
	T-PSCL-6AB	～ 4.0m	シャドウブラック（マンセル7.2BG2.9/0.6近似）
お掃除ラクリーナパネル	T-PSCLS-6AW	～ 4.0m	ファインスノー（マンセル8.0Y9.3/0.1近似）

(c) ワイヤレス受信部
（標準・エアフレックス・ラクリーナパネル・お掃除ラクリーナパネル共通）

形　式	塗 装 色
LA-T-5BW1	ファインスノー（マンセル8.0Y9.3/0.1近似）
LA-T-5SB1	シャドウブラック（マンセル7.2BG2.9/0.6近似）

注(1) ワイヤレスキットおよびワイヤレス受信部の取付方法は，275ページをご覧ください。
(2) ワイヤレス受信部は取付位置に制限があり取付位置によっては別売のハーネスセット（RCN-T-HA6G）が必要です。

(2) 天井埋込形小容量 4 方向吹出し（FDTC）

(a) パネル



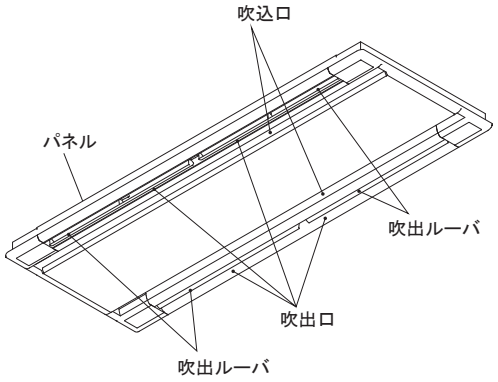
(b) パネル形式

・全形式共通

パネル形式	パネル色
TC-PSAE-5BW（エアフレックス）	ファインスノー（マンセル 8.0Y9.3/0.1 近似）

(3) 天井埋込形 2 方向吹出し（FDTW）

(a) パネル(商品ご注文時パネル形式を指定してください。)



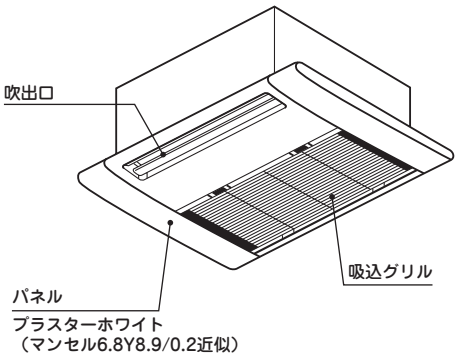
(b) パネル形式

・標準，ラクリーナパネル

区　分		パネル形式	パネル色	適用形式
標準パネル	オートスイング付	TW-PSA-27W	プラスターホワイト (マンセル 6.8Y8.9/0.2 近似)	P221 ～ P801
ラクリーナ	オートスイング付	TW-PSL-27W	プラスターホワイト (マンセル 6.8Y8.9/0.2 近似)	P221 ～ P801

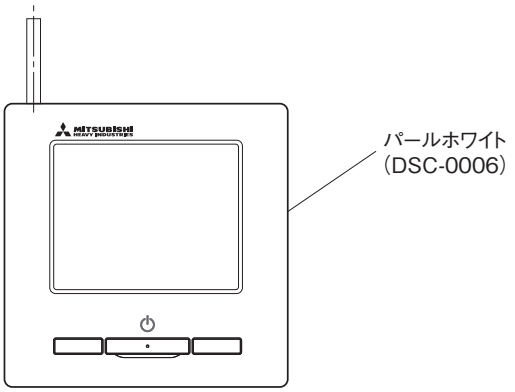
(4) 天井埋込形小容量 1 方向吹出し（FDTSC）

パネル形式：TSC-PSA-1AW



(5) リモコン（別売品）

●RC-DX3F



7. 防振設計用参考資料

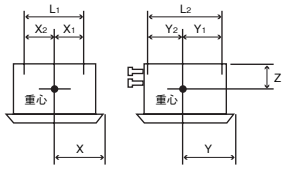
(1) 耐震データ

単位 : mm

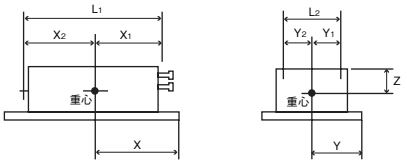
形式＼項目		製品外形寸法(1) 幅×奥行×高さ	(1) 製品質量 (kg)	重心位置(2)								
				幅方向				奥行方向				高さ
				X	X_1	X_2	L_1	Y	Y_1	Y_2	L_2	Z
FDT	P281LXZA	950×950×271	27	457.8	371.8	406.2	778	491.9	379.4	345.6	725	133
	P361LXZA											
	P451LXZA											
	P561LXZA		28	454.7	368.7	409.3	778	493.2	380.7	344.3	725	124.5
	P711LXZA											
	P801LXZA											
	P901LXZA	950×950×333	33	454.8	368.8	409.2	778	491.4	378.9	346.1	725	153.7
	P1121LXZA											
	P1401LXZA											
	P1601LXZA											
FDTC	P221LXZA	620×620×258	16	314	269	261	530	335	310	220	530	77
	P281LXZA											
	P361LXZA		17									
	P451LXZA											
	P561LXZA											
FDTW	P221LXZA	1120×680×345	28.5	525	407.5	477.5	885	340	223	223	446	110
	P281LXZA											
	P361LXZA											
	P451LXZA		29.5									
	P561LXZA											
	P711LXZA		31.5									
	P801LXZA											
FDTSC	P221LXZA	780×650×285	21	345	243	333	576	306	250	278	528	125
	P281LXZA											
	P361LXZA		21.5									

注(1) FDT, FDTW, FDTSCシリーズは標準パネル使用時を示します。
(2) L_1(X_1, X_2), L_2(Y_1, Y_2)寸法は据付ボルトの位置を示します。

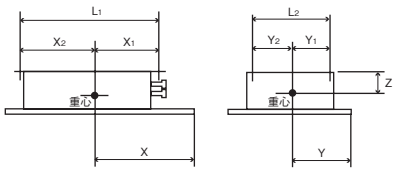
FDT, FDTC 形



FDTW 形



FDTSC 形



(2) 防振データ

(50/60Hz)

形式 ＼ 項目		送風機回転数(1)(min-1)
FDT	P281LXZA	340
	P361LXZA	360
	P451LXZA	380
	P561LXZA	555
	P711LXZA	620
	P801LXZA	
	P901LXZA	780
	P1121LXZA	
	P1401LXZA	
	P1601LXZA	
FDTC	P221LXZA	600
	P281LXZA	
	P361LXZA	700
	P451LXZA	820
	P561LXZA	935
FDTW	P221LXZA	950
	P281LXZA	
	P361LXZA	
	P451LXZA	
	P561LXZA	
	P711LXZA	995
	P801LXZA	1120
FDTSC	P221LXZA	850/850
	P281LXZA	
	P361LXZA	

注(1) P急または急運転時の値です。(機種毎の最高速タップ)

8. 据付関連事項

8.1 注意事項

(1) 室内ユニット据付工事　安全上のご注意

PSC012D219

安全上のご注意

●据付工事は、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ確実に行ってください。
●ここに示した注意事項は、⚠警告、⚠注意、に区分していますが、誤った据付けをした時に、死亡や重傷等の重大な結果に結びつく可能性が大きいものを特に⚠警告の欄にまとめて記載しています。しかし、⚠注意の欄に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
●ここで使われる“図記号”の意味は右のとおりです。 ⃠ 絶対に行わない　必ず指示に従い行う
●据付工事完了後、試運転を行い、異常がないことを確認するとともに、取扱説明書にそって、「安全上のご注意」や正しい使用方法・お手入れの仕方（エアフィルタの清掃、運転操作の仕方、温度調節の方法など）をお客様に説明してください。
この据付説明書は取扱説明書と共にお客様で保管いただくように依頼してください。また、お使いになる方が代わる場合は、新しくお使いになる方に取扱説明書などをお渡しいただくよう依頼してください。

⚠警告

●据付は、お買い上げの販売店または専門業者に依頼する。
ご自分で据付工事をされ不備があると、水漏れや感電、火災、室内ユニット落下によるケガの原因になります。
●据付工事は、この据付説明書に従って確実に行う。
据付けに不備があると破裂・ケガの原因となり、また水漏れや感電・火災などの原因になります。
●小部屋に据付ける場合は万一冷媒が漏れても、限界濃度を超えない対策をする。(JRA GL-13)
限界濃度を超えない対策については､販売店と相談して据付ける。万一､冷媒が漏えいして限界濃度を超えると酸欠事故の原因になります。
●設置工事部品は必ず付属品および指定の部品を使用する。
当社指定の部品を使用しないと、室内ユニット落下、水漏れ、火災、感電などの原因になります。
●作業中に冷媒が漏れた場合は換気をする。
冷媒が火気に触れると有毒ガスが発生する原因になります。
●据付は、重量に十分耐える所に確実に行う。
強度が不足している場合は、室内ユニットの落下などにより、ケガの原因になります。
●台風などの強風、地震に備え、所定の据付工事を行う。
据付工事に不備があると、転倒などによる事故の原因になります。
●室内ユニットの設置や移設の場合、冷凍サイクル内に指定冷媒以外の空気などを入れない。
空気などが混入すると冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂、ケガなどの原因になります。
●電気工事は電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」､「内線規程」および据付説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用する。
電源回路容量不足や施工不備があると感電、火災などの原因になります。
●配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。
接続や固定が不完全な場合は、発熱、火災などの原因になります。
●室内外ユニット間の配線は、端子カバーが浮き上がらないように整形し、カバーを確実に取付ける。
カバーの取付が不完全な場合は、端子接続部の発熱、火災、感電などの原因になります。
●据付工事完了後、冷媒ガスが漏れていないことを確認する。
冷媒が室内に漏れ、ファンヒータ、ストーブ、コンロなどの火気に触れると有毒ガスが発生する原因になります。
●配管、フレアナット、工具は R32 用または R410A 用を使用する。
既存（R22）の部材を使用すると、機器の故障と同時に冷凍サイクルの破裂などの重大な事故の原因になります。
●フレアナットは、トルクレンチで指定の方法で締付ける。
フレアナットの締付け過ぎがあると、長期経過後フレアナットが割れ冷媒漏れの原因になります。
●ドレン配管はイオウ系ガス等有毒ガスの発生する排水溝に直接入れない。
室内に有毒ガスが侵入し、中毒や酸素欠乏になる恐れがあります。また、室内ユニットを腐食させ、故障や冷媒漏れの原因になります。
●据付作業では圧縮機を運転する前に確実に冷媒配管を取付ける。
冷媒配管を取付けておらず、サービスバルブ開放状態で圧縮機を運転すると、空気などを吸引し、冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂、ケガなどの原因になります。
●ポンプダウン作業では、サービスバルブを閉じた後配管を外す前に圧縮機を停止する。
圧縮機を運転したままサービスバルブ開放状態で冷媒配管を外すと空気などを吸引し、冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂、ケガなどの原因になります。
●オプション部品は、必ず当社指定の部品を使用する。また取付は専門業者に依頼する。
ご自分で取付をされ、不備があると、水漏れや感電、火災等の原因になります。
●改修は絶対にしない。また、修理はお買い上げの販売店に相談する。
修理に不備があると水漏れや感電、火災などの原因になります。
●エアコンを移動再設置する場合は、販売店または専門業者に相談する。
据付に不備があると水漏れや感電、火災などの原因になります。
●エアコンの修理・点検作業に際して「電源ブレーカ」を必ず OFF する。
点検・修理にあたって、電源ブレーカがＯＮのままだと、感電およびファン回転によるケガの原因になります。
●パネルやガードを外した状態で運転しない。
機器の回転物、高温部、高電圧部に触れると、巻き込まれたり、やけどや感電によるケガの原因になります。
●元電源を切った後に電気工事を行う。
感電、故障や動作不良の原因になります。

⚠注意

●アース（接地）を確実に行う。
アース線は、ガス管、水道管、避雷針、電話のアース線に接続しないでください。アース（接地）が不完全な場合は、故障や漏電のとき感電や火災の原因になることがあります。
●漏電しゃ断器は必ず取付ける。
漏電しゃ断器が取付けられていないと感電や火災の原因になることがあります。
●正しい容量の全極しゃ断するブレーカ（漏電しゃ断器・手元開閉器（開閉器＋Ｂ種ヒューズ）・配線しゃ断器）を使用する。
不適切な容量のブレーカを使用すると故障や火災の原因になることがあります。

⚠注意（つづき）

●正しい容量のヒューズ以外は使用しない。
針金や銅線を使用すると故障や火災の原因になることがあります。

●可燃性ガスの漏れる恐れのある場所への設置は行わない。
万一ガスが室内ユニットの周囲に溜ると、発火の原因になることがあります。

●腐食性ガス（亜硫酸ガスなど）、可燃性ガス（シンナー、ガソリンなど）の発生、滞留の可能性のある所、スプレー類がかかる所、揮発性引火物を取扱う所での据付、使用は行わない。
熱交の腐食、プラスチック部品の破損などの原因になることがあります。また可燃性ガスは発火の原因になることがあります。

●工事、点検、メンテナンス作業のための規定のスペースを確保してください。
スペースが不足する場合は、設置場所からの転落によるケガの原因になることがあります。

●洗濯室など、水の掛かる所では使用しない。
室内ユニットは水の浸入に対する保護はしておりません。水が掛かると感電、火災などの原因になることがあります。

●食品・動植物・精密機器・美術品の保存など特殊用途には使用しない。
保存物の品質低下などの原因になることがあります。

●病院、通信事業所などの電磁波を発生する機器、高周波の発生する機器の近くでは据付、使用しない。
インバータ機器、自家発電機、高周波医療機器、無線通信機器の影響によるエアコンの誤作動や故障の原因になったり、エアコン側から医療機器あるいは通信機器へ影響を与え人体の医療行為を妨げたり、映像放送の乱れや雑音など弊害の原因になることがあります。

●直射日光の当たる所にリモコンを設置しない。
リモコンの故障や変形の原因になることがあります。

●次の場所への据付は避ける。
・可燃性ガスの漏れる恐れがある所
・硫黄系ガス・塩素系ガス・酸・アルカリ・アンモニアなど、機器に影響する物質の発生する所
・油の飛沫や蒸気が多い所（調理場、機械工場など）
・高周波を発生する機械を使用する所
・海浜地区等塩分の多い所
・煙突の煙がかかる所
・カーボン繊維や金属粉、パウダーなどが浮遊する所
・車両・船舶等移動するものへの設置
・化粧品、特殊なスプレーを頻繁に使用する所
・積雪の多い所
・標高１０００m以上の所
性能を著しく低下させたり、部品が腐食、破損したりする原因になることがあります。

●次の場所への室内ユニットの据付は避ける。（機種により異なる制限があるので、その指示に従うこと）。
・吸込口、吹出口に風の障害物がある所
・強度が不十分で振動が発生する所
・ワイヤレス機の場合、受光部に直接太陽光や強い光が当たる所
・高周波に影響される機器のある所（TV およびラジオ等の近傍）
・ドレンの排水がとれない所
性能や機能等に影響をおよぼす原因になります。
人感センサ搭載パネルは次のような場所への設置はしないでください。誤検知・検知不能・特性劣化を招く恐れがあります。
・長時間振動が加わる状態
・静電気や強い電磁波のある場所
・長時間高温、多湿になる場所
・塵埃の多い場所、レンズ面に汚れおよび損傷を与える恐れのある場所

●室内ユニットの下部には、濡れて困るものは置かない。
湿度が 80% 以上の時や、ドレン排水が詰まった場合に、室内ユニットから露が滴下し損害が生じる恐れがあります。
（天吊耐油形の場合）湿度 70% で長時間運転した場合も同様に室内ユニットから露が滴下し損害が生じる恐れがあります。

●長期使用で傷んだままの据付台を使用しない。
傷んだ状態で放置すると室内ユニットの落下につながり、ケガなどの原因になることがあります。

●室内ユニット近くで溶接作業を行う場合は十分注意し、室内ユニット内へのスパッタの侵入を防止する。
溶接作業時などに発生するスパッタが室内ユニットにあたった場合、ドレンパンなどに損傷（ピンホール）をあたえ、水漏れなどの原因になることがあります。室内ユニット内へのスパッタの侵入を防ぐため梱包状態のままとしておくか､覆いなどにより必ずカバーをしてください。

●ドレン工事は、据付説明書に従って確実に排水するように配管する。
記載に従って施工しない場合、屋内に浸水し、家財などを濡らす原因になることがあります。

●ＧＨＰ〔ガスヒートポンプ〕の場合、室外ユニットの排気ドレン管と室内ユニットの排水ドレン管は共用しない。
室内に有毒ガスが流入し、中毒や酸素欠乏になることがあります。

●冷媒配管工事終了後は窒素ガスによる気密試験を行い、漏れのないことを確認してください。
万一、狭い部屋に冷媒ガスが漏えいして限界濃度を超えると酸欠事故の原因となることがあります。

●ドレン配管は下り勾配（1/100 以上）とし、途中山越えやトラップを作らない。また、ドレン配管にエア抜きは、絶対に設けない。
試運転時にドレン排水が確実に行われていることを確認する。また、点検・メンテナンス作業のためのスペースを確保する。

●冷媒配管の断熱は結露しないように確実に行う。
不完全な断熱施工を行うと配管など表面が結露して、露たれなどを発生し、天井･床その他、大切なものを濡らす原因になることがあります。

●製品の運搬は十分注意して行う。
20kg 以上の製品は原則として２人以上で行ってください。PP バンドなど所定の位置以外をもって製品を動かさないでください。
素手でフィンなどに触れるとケガをする場合がありますので保護具をご使用ください。

●梱包材の処理は確実に行う。
梱包材にクギなどの金属あるいは、木片などを使用していますので放置状態にしますとケガをすることがあります。

●フィルタをはずしたまま運転しない。
内部に油・ゴミなどが詰まり、故障の原因になることがあります。

●濡れた手でスイッチを操作しない。
感電の原因になることがあります。

●運転中の冷媒配管を素手で触れない。
運転中の冷媒配管は流れる冷媒の状態により低温と高温になります。素手で触れると凍傷や、やけどになることがあります。

●エアコンを水洗いしない。また、除菌剤等のスプレー類をエアコンに直接吹きかけない。
感電や部品が腐食したりする原因になることがあります。

●運転停止後、すぐに電源を切らない。
必ず５分以上待ってください。水漏れや故障の原因になることがあります。

●電源ブレーカによるエアコンの運転や停止をしない。
火災や水漏れの原因になることがあります。ファンが突然回り、ケガの原因になることがあります。

●（天吊耐油形の場合）耐油用エアコンは厨房や工場の油を吸い取る機器ではありません。
油煙などの排出にはレンジフードなどの専用の排気装置を設けてください。

●（天吊耐油形の場合）食品の熱さましなど室内ユニットから吹出した風を直接当てる使用は止めてください。
露が滴下する恐れがあります。

●（天吊耐油形の場合）ドレンポンプを使用の場合は定期的に内部洗浄を実施する。
一年以上清掃を行わないと故障して排水できなくなる場合があります。

(2) 微燃性冷媒取扱時の安全上のご注意

PSB012A034A△C

	この機器は微燃性冷媒を使用しています。冷媒が漏えいした場合、周囲に着火源があると発火する可能性があります。		取扱説明書をよくお読みください。		必ず据付工事説明書を参照しながらサービスを行ってください。

- R32冷媒取扱時は、本資料をよくお読みのうえ確実に作業してください。機器の冷媒種は、室内ユニットまたは室外ユニットのラベルを確認してください。
- R32ビル用マルチ機の場合は、JRA GL-16を満足する必要があります。詳細は室外ユニットの据付工事説明書・安全対策マニュアルを参照してください。
- 注意事項は、⚠ 警告と⚠ 注意に区分しています。安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。

⚠ 警告：誤った据付をしたときに、死亡や重傷などの重大な結果に結び付く可能性が大きいもの。

⚠ 注意：誤った据付をしたときに、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があるもの。

⚠ 警告

- 本機器を廃棄する際は国内法を厳守する。
- 製造業者が推奨する手段以外で、除霜プロセスの加速または清掃を行わない。
- 機器を、着火源（例:裸火、動作しているガス機器、または動作している電気ヒータ）が連続して存在することがない部屋に保管する。
- 穴をあけない。また、燃やさない。
- 冷媒が臭気をもたない場合があるため留意する。
- 機器に接続するダクト内には潜在的着火源を含まないようにする。

⚠ 注意

1. 一般

- 配管の設置は最小にする。
- 配管を物理的な損傷から保護する。
- ガス安全に関する国内法に適合する。
- 機械的接続は、保守のために、人が近づけるようにする。
- 必要な換気用開口部に障害物を置かない。
- 修理は、製造業者の推奨する方法で実施する。
- 居住空間内の配管は、運転および保守における不慮の損傷を受けないように設置する。
- 冷媒配管へ過度な振動または脈動を起こさないように注意を払う。
- 保護装置、配管および配管取付具は、可能な限り、悪影響を与える環境から保護する。例えば、放出管内における滞水および凍結による危険、じんあい（塵埃）および破片の堆積がある。
- 長い配管の膨張および収縮を考慮する。
- 配管は、冷凍システムに影響を与える液ハンマのようなものを最小限にするように設計および設置する。
- 室内ユニットおよび配管は、確実に設置し、家具を移動したり内装工事などによって起こり得る損傷から保護する。
- JIS C 9335-2-40 GG.9に適合する場合には、冷媒漏えいを検知したときに確実にゾーニングダンパが全開となって、追加の機械換気装置が作動するように、外部のゾーニングダンパまたは機械換気装置への結線を行う。
- 安全対策を使用するダクト機器の場合、給気および還気は、直接空間にダクトで導く。吊り天井のような開放空間は、還気ダクトとして使用しない。
- 安全遮断弁を設ける場合、最小部屋面積および弁の設置場所は、室外ユニットの据付工事説明書･安全対策マニュアルに沿って決定する。
- 冷媒系統では、製品付属の継手のみを使用する。
- 鉄製部品は、さび（錆）から守るために、防音、断熱などの部材を取付ける前に防せい（錆）塗装を施す。
- フレキシブルパイプは、機械的な損傷、ねじれによる過度な応力、または他の外力から保護する。機械的損傷は、毎年点検することが望ましい。
- 現地で行う屋内の冷媒配管接続部は、気密試験を行う。その試験方法は、1年当たり5gの冷媒漏えいを検知できる感度以上の検知手段で、最大許容圧力の0.25倍以上の冷媒圧力において行う。冷媒漏えいがあってはならない。（注: 高圧ガス保安法対応のため設計圧力での気密試験が必要）

2. 無換気空間

- 冷媒が充填される機器は、運転時に規定する広さ以上のよく換気された場所に保管する。
- 可燃性冷媒を使用する機器を無換気空間に設置する場合、万が一冷媒が漏えいした場合でも、滞留して火災または爆発の危険を引き起こすことがないようにする。

3. 作業人員に要求する資格

- 国家資格または他の関連資格を有する作業員がサービス作業を行う。

4. 保守に関する情報

4.1 エリアの確認
- 冷凍システムの作業を始める前に、安全確認を行い、着火の危険を最小限にする。
- 冷凍システムの修理を行う場合、作業前に、4.2-4.6項の要求事項を確実に実施する。

4.2 作業手順
- 作業は、管理された手順の下で行い、作業実施中に存在する可燃性冷媒の危険を最小限にする。

4.3 一般作業エリア
- 現場で作業する全ての保守技術者などは、実施する作業の性質について指導を受ける。
- 狭小空間での作業は避ける。

4.4 冷媒の存在の確認
- 作業者が、潜在的に有毒または可燃性である気体に確実に気づくために、作業前および作業中には、適切な冷媒検知器によって作業場に冷媒漏れがないことを確認する。
- 使用する冷媒検知器が、その機器で使用する全ての冷媒に適していることを確認する。火花をださない、適切にシールされている、または本質的に安全である検知器を使用する。

4.5 消火器の配備
- 冷凍機器または関連する部品にろう付など熱を伴う作業を行う場合、適切な消火器を使用可能とする。充填エリアの近傍に粉末式消火器または二酸化炭素消火器を配備する。

4.6 着火源の排除
- 冷凍システムの配管が露出している状態で作業を実施する場合、火災または爆発の危険を引き起こすような方法で着火源を使用しない。
- 据付、修理、取外しまたは廃棄の作業中は、可燃性冷媒が周囲の空間に放出する可能性があるため、喫煙を含み、全ての着火源になり得るものを、現場から十分に離す。
- 作業を行う前に、機器の周囲に可燃性危険物または着火の危険がないことを調査し、確認する。
- “禁煙”の表示をする。

4.7 換気したエリア
- 冷媒系統を開放する、またはろう付など熱を伴う作業を行う前に、作業場所が風通しがよいか、または適切に換気していることを確認する。
- 作業を行う間、換気している状態を保持する。
- 換気は、漏えい冷媒を安全に拡散させ、可能な場合、大気中に放出させることが望ましい。

4.8 冷凍機器の確認
- 電気部品を取替える場合、それらは、目的に合わせ適切な仕様にする。

⚠注意

- 常に製造業者の保守および修理のガイドラインに従う。疑義がある場合は、製造業者の相談窓口に相談する。
- 可燃性冷媒を使用する機器は、次の事項に従う。
  - 冷媒充填量は、冷媒含有部を設置する部屋の大きさに従う。
  - 換気装置は、適切に運転し、排気口を遮るものがあってはならない。
  - 間接冷凍サイクルを使用する場合、二次回路への冷媒流出がないことを確認する。
  - 機器への表示は、明確に容易に判別できなければならない。判別できない表示および記号は訂正する。
  - 冷媒配管または部品が、耐腐食性または腐食から適切に保護されている材料で構成している場合を除き、冷媒含有部を腐食させるおそれのある物質にさらされる場所に設置しない。

4.9 電気装置の確認

- 電気部品の修理および保守は、初期安全確認および部品検査手順を含める。
- 安全を損なう可能性の欠陥がある場合、完全に処置するまで回路に電源供給しない。
- 欠陥を即座に直すことができず、運転の継続が必要な場合、適切な暫定処置を行う。また、機器の所有者へ報告し、全ての関係者に通知する。
- 初期安全確認は、次の事項を含める。
  - コンデンサが放電していることを確認する。また、スパークを発生させないような安全な方法で行う。
  - 冷媒系統の充填、回収およびパージの間、充電部および充電ワイヤが露出していないことを確認する。
  - 接地していることを確認する。

5. 密閉された部品の修理

- 密閉された部品を修理する間、密閉カバーの取外しの前に機器の全ての電源をしゃ断する。
- 保守点検の間、機器への電源供給が必要な場合、潜在的危険を警告するため、常時作動する冷媒検知器を最も漏えい冷媒が滞留し得る位置に設置する。
- 電気部品に対する作業によって、その保護レベルに影響するような方法でケーシングが修理されないようにするため、特に注意を払う。保護レベルに影響する変化とは、ケーブルの損傷、過多な接続箇所の増設、本来とは異なる端末の仕様、密閉部分の損傷、電線取出口シールの取付け不良などのことである。
- 部品が、確実に取付けられていることを確認する。
- 可燃性雰囲気の侵入を防ぐために、シールまたはシール材料が劣化を起こしていないことを確認する。
- 交換部品については、製造業者の仕様に従う。

6. 本質的に安全な部品の修理

- 製造業者が指定する許容電圧および許容電流を超えない誘導性または容量性負荷を回路に用いる。
- 本質的に安全な部品は、可燃性の気体の存在する中で、運転することができる唯一の部品である。
- 試験装置には、適切な定格を備える。
- 部品の交換は、製造業者が指定する部品だけを用いて行う。製造業者が指定する部品以外の部品は、冷媒漏えい時に潜在的着火源となるおそれがある。

  ※シリコン充填剤の使用は、冷媒検知器の機能を妨げる場合がある。本質的に安全な部品の場合は、作業開始前に分離する必要はない。

7. 配線

- 配線は、磨耗、腐食、過度の圧力、振動、鋭いエッジまたは他の外的影響を受けていないことを確認する。確認は、経年劣化、または圧縮機、ファンなどの継続的な振動の影響も考慮する。

8. 可燃性冷媒の検知

- いかなる状況であっても潜在的着火源を冷媒漏れの検査または検知に用いない。
- トーチ式検知器、または他の裸火を用いた検知器は使用しない。
- 電子式冷媒検知器は、冷媒の漏れを検知するために使用できる。ただし、可燃性冷媒の場合、感度が適切でないかまたは再度校正が必要になることがある。このとき、検知器は、冷媒のない場所で校正する。
- 検知器は、潜在的着火源となってはならない。　また、検知可能なガスの表記が使用する冷媒に適していることを確認する。
- 検知器は、冷媒濃度がLFL(燃焼下限界)の25%に達する前に作動するよう設定する。
- ほとんどの冷媒について漏れ検知液の使用は適しているが、塩素を含む洗浄剤の使用は、塩素が冷媒と反応し銅配管を腐食させる可能性があるため避ける。

  液体による漏れ検出の例

  - 発泡液法　　- 蛍光剤法
- 漏えいしている可能性がある場合、全ての裸火は、除去および消火する。
- 冷媒の漏れが発見され、ろう付を必要とする場合、全ての冷媒は冷凍システムから回収するか、または冷凍システムの漏れから離れた場所に遮断弁による隔離を行う。冷媒の除去は、9項による。

9. 除去および真空引き

- 修理、または他の目的のため冷凍サイクルを開放する場合、可燃性を考慮した最善の方法を用いる。最善の方法とは、次の方法を順に行う。
  - 冷媒の除去
  - 真空引き（1回目）
  - 窒素ガスによる回路のパージ(A2Lの場合は任意)
  - 真空引き(2回目)(A2Lの場合は任意)
  - 窒素ガスによる再パージ(開放に火炎を用いる場合)
  - 切断またはろう付による回路の開放

充填冷媒は、適切な回収容器に回収する。このプロセスは、何回か繰返す必要がある場合がある。圧縮空気または酸素は、冷凍システムのパージに用いない。

- 真空ポンプの排気口は、排気が滞留しない箇所に設置していることを確認する。

10. 充填方法

- 従来の充填方法に加えて、次の要求事項に従う。
  - 充填機器を用いる場合、異なる冷媒の混入がないことを確認する。ホースまたは管は、その内部の冷媒量を最小にするために、可能な限り短くする。
  - 容器は、説明書に従って、適切な位置に保持する。
  - 冷媒を冷凍システムに充填する前に、冷凍システムが接地されていることを確認する。
  - 充填が完了したとき、冷凍システムにラベル表示をする（ラベル表示がされていない場合）。
  - 冷凍システムが、過充填とならないように、特に注意する。
- 冷凍システムに再充填する前に、適切なパージガスによる圧力試験を実施する。
- 充填の完了時、かつ、試運転の前に、漏えい確認試験を実施する。事後の試験は、現場を離れる前に実施する。

11. 廃棄

- この手順の実施の前に、作業者がその機器および全ての詳細について熟知している必要がある。
- 全ての冷媒を安全に回収することが望ましい。
- 回収冷媒を再使用する前に分析が必要な場合、この回収作業の前に、冷媒および潤滑油のサンプルを採取する。
- この作業を実施する前に電力が使用可能である必要がある。
- 廃棄時は、次の事項に適合すること。

a) 機器およびその運転について熟知する。
b) 冷凍システムを電気絶縁する。
c) この手順を実施する前に、次の事項を確認する。
  - 冷媒容器を扱うため、必要な場合、工具を利用する。
  - 全ての個人用保護器具を利用可能にし、適切に使用する。
  - 作業者が回収プロセスを常時管理する。
  - 回収機器および容器は、適切な規格に適合する。
d) 可能な場合、冷凍システムをポンプダウンする。
e) 真空引きが不可能な場合、冷凍システムの各種部品から冷媒回収できるマニホールドを設ける。
f) 回収を行う前に、容器がはかりの上に位置していることを確認する。
g) 回収装置を始動し、説明書に従って運転する。

⚠ 注意

h) 容器へ過剰に充填しない（液体積で、容器の80 %の容量を超えない）。
i) 一時的であっても、容器の最大許容圧力を超えない。
j) 容器に適切に充填し、回収作業が完了したとき、容器および回収装置を速やかに取外し、回収装置の全ての遮断バルブが閉じていることを確認する。
k) 回収した冷媒は、浄化および検査を実施しない限り、他の冷凍システムに充填しない。

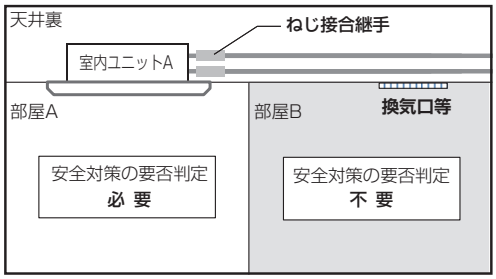
12.その他の安全上の注意

- 冷媒漏れ検知器を機能させるために、設置後は、保守時を除きユニットの電源を常に入れておく。
- バルブを開いて冷媒が冷凍システム部品間を流れるようにする前に、ろう付、溶接、または機械的接続を行う。
- 可燃性冷媒を使用する場合、冷媒配管は、機械的損傷を防ぐために保護するか、または囲う。
- 配管は、機器を移動するときに、運ぶための道具として使われないよう保護する。
- 可燃性冷媒を使用する場合、鉛とすず（錫）との合金のような低温はんだ合金は、配管接続またはその他の冷媒圧力の保持用途には用いない。
- 現地調達したフレアナットやねじ接合継手を使用しない。

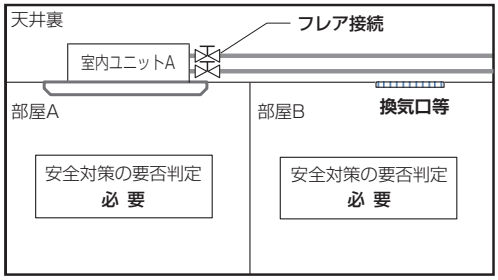
配管接続方法の選択（R32ビル用マルチ）

- 天井裏で配管接続する場合、製品付属のねじ接合継手を使用してください。ねじ接合継手の使用により配管接続部が冷媒漏えい箇所から除外されるため、天井裏と繋がる別室の安全対策の要否判定を省略できます。
  室内ユニット設置室の安全対策の要否判定は必要です。（例1）
  フレア接続による施工も可能ですが、その場合は配管接続部が冷媒漏えい箇所となります。天井裏が室と接続している場合は、フレア接続部から漏えいした冷媒が室に滞留する可能性がありますので、各室について安全対策の要否を判定し、適切な安全対策を行ってください。（例2）
- ダクト機を天井リターン方式で使用する場合は、ねじ接合継手・フレア接続のいずれでも室内ユニット自体が漏えい箇所となります。漏えいした冷媒が室に滞留する可能性があるため、天井裏と接続している別室について安全対策の要否を判定し、適切な安全対策を行ってください。
- 露出設置の場合、ねじ接合継手・フレア接続のいずれでも安全対策要否の判定が必要となります。（例3）

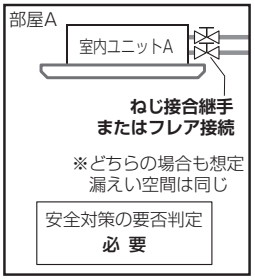
例1：ねじ接合継手を使用



例2：フレア接続



例3：露出設置



安全対策要否判定（R32ビル用マルチ）

安全対策の要否は、各室内ユニットの設置条件により判定してください。
この資料では、室内ユニットを代表的な据付高さに設置した場合に、設置室床面積と冷媒量から安全対策要否判定する手順を示しています。
詳細は安全対策マニュアルを参照してください。

⚠ 注意

- 安全対策は、工場出荷時の冷媒充填量と追加冷媒充填量を合わせた総冷媒量によって判定する必要があります。
  工場出荷時の冷媒充填量と追加充填量については、室外ユニットの装置ラベルまたは据付工事説明書を参照してください。
- 室内ユニットの据付高さは、この資料で示す据付高さ「h_{inst}」より高くする必要があります。
  据付高さがh_{inst}より低い場合は、追加の安全対策が必要になる場合があります。

1. 安全対策要否

安全対策要否は、 下記のように領域A～Cによって決定されます。
領域と据付条件の関係については、「2.領域の決定」をご参照ください。

室内ユニット設置箇所	A領域	B領域	C領域
地下最下層以外	安全対策不要	安全対策必要	安全対策必要
地下最下層			据付不可

安全対策：　冷媒検知器 ＋ 警報器 ＋ 安全遮断弁もしくは機械換気装置が必要です。

安全対策要否判定(R32ビル用マルチ)のつづき

2. 領域の決定

領域は、冷媒量、床面積、漏えい高さによって決まります。漏えい高さは室の天井高さや室内ユニットの据付高さによって決まります。

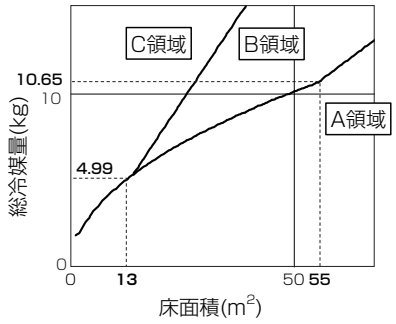
以下の図は、代表的な据付条件（据付条件1～3）における領域判定マップを示します。該当する据付条件の図を用いて領域を決定してください。

据付条件1以外の場合は、安全対策マニュアルを参照して判定してください。

据付条件1

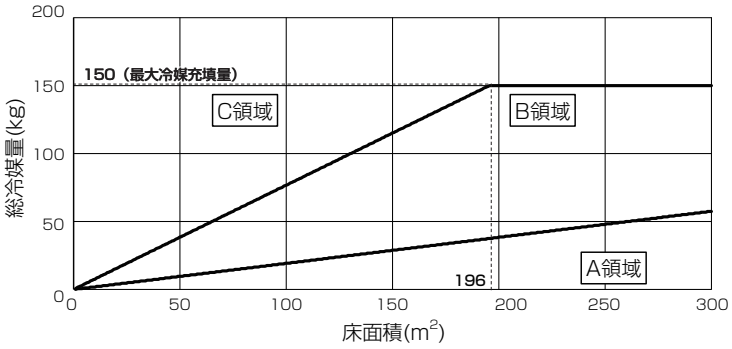
- 設置室内ユニット：FDT, FDTC, FDTW, FDTS, FDTSC, FDU, FDR, FDE, FDES
- 天井高さ h ：2.5m
- 室内ユニット据付高さ h_{inst}：2.5m

⇒漏えい高さ h_s：2.5m*　6馬力以下の場合



* 設置室内ユニットがFDEまたはFDES かつ 室外ユニット容量が6馬力以下の場合、漏えい高さh_sは2.2mとなり据付条件1の適用外となります。

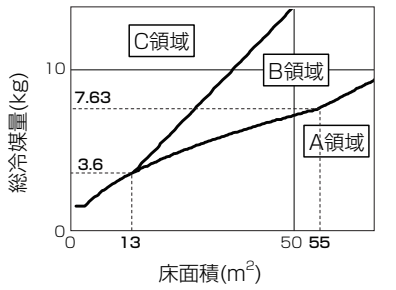
室外ユニット容量が8馬力以上の場合



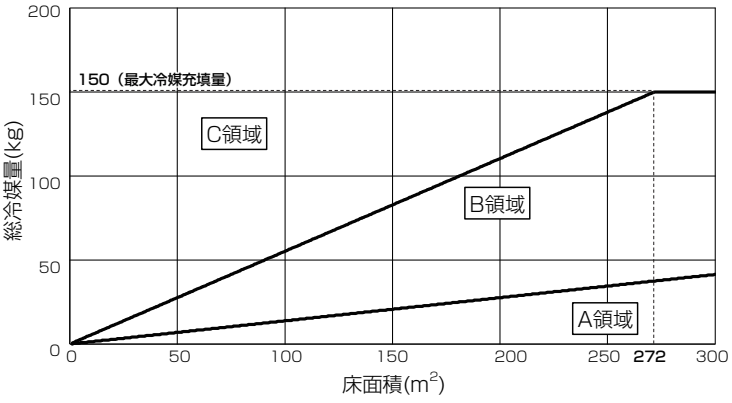
据付条件2

- 設置室内ユニット：FDK
- 天井高さ h ：2.2m
- 室内ユニット据付高さ h_{inst}：1.8m

⇒漏えい高さ h_s：1.8m　6馬力以下の場合



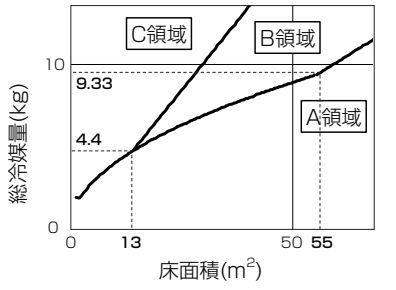
室外ユニット容量が8馬力以上の場合



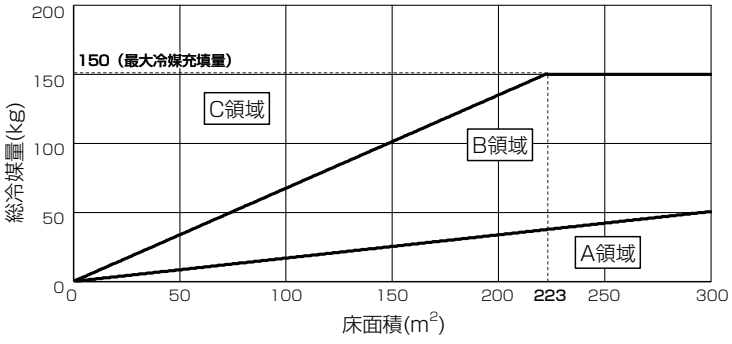
据付条件3

- 設置室内ユニット：FDFL, FDFU
- 天井高さ h ：2.2m
- 室内ユニット据付高さ h_{inst}：0m

⇒漏えい高さ h_s：2.2m　6馬力以下の場合



室外ユニット容量が8馬力以上の場合



据付完了時の施工チェックおよび保守点検(R32ビル用マルチ)

- 据付完了時に、室内ユニットに付属の「据付工事施工チェックリスト」に基づき安全対策機器の初期チェックを実施し、お客様に渡してください。
- 1年に1回以上、安全対策機器の保守点検を実施し、室内ユニットに付属の「メンテナンス記録表」に記録してください。

⑶ インターロック機能についての注意事項

PSC012D223

・本製品はインターロック機能が有効になっています。
インターロックが解除されていない場合、空調システムを運転させることができません。

・インターロックを解除するためには下記のいずれかが必要です。

○ 全ての安全対策機器が室内ユニットに接続されている
【安全対策機器】
・安全遮断弁
・冷媒検知警報器
・eco タッチリモコン（RC-DX3D 以降）

○ この説明書と同梱のインターロック解除ピンが室内ユニット制御基板に接続されている

※解除ピンの接続の前には、冷媒漏えいに対する安全対策が十分であること、もしくは安全対策の必要がないことを必ず確認してください。

※解除ピンの接続先は、各室内ユニットの据付工事説明書を参照してください。

8.2 室内ユニット据付工事

(1) 天井埋込型 4 方向吹出し（FDT）

PJF012D078AA A

(a) 室内ユニットの据付

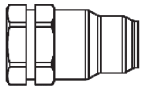
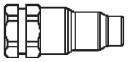
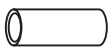
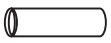
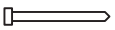
本説明書は、室内ユニットの据付方法を記載してあります。「室内ユニット据付工事安全上のご注意」および「微燃性冷媒取扱時の安全上のご注意」をご覧になった後、室内ユニットの据付を行ってください。
●この製品には UV-C LED ランプが搭載されています。
●点検時に、紫外線の危険記号で示されている部品は、なるべく取外さないようにお願い致します。
●電気配線（室内ユニット）は、142ページをご覧ください。
●ワイヤードリモコンの取付方法は、105ページをご覧ください。
●ワイヤレスキットの取付方法は、275ページをご覧ください。
●安全遮断弁の取付方法は、132ページをご覧ください。
●冷媒検知警報器の取付方法は、113ページをご覧ください。
●室外ユニットの据付方法、電気配線（室外ユニット）および冷媒配管工事方法は、室外ユニット付属の説明書をご覧ください。
また、故障診断は、室内ユニットの結線銘板をご覧ください。本室内ユニットは必ずパネルを取付けてご使用ください。
この室内ユニットは、日本国内用に設計されているため海外では使用できません。また、海外においてはアフターサービスもできません。

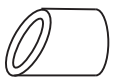
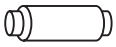
①据付前に

●据付はこの据付説明書に従って正しく行ってください。
●次の項目を確認してください。
○機種・電源仕様　○配管・配線・小物部品　○付属品

室内ユニットを移動させるときは吊金具(４か所)を持ち、他の部分(特に冷媒配管、ドレン配管および樹脂部品)には、力を加えないでください。

付属品

室内ユニット吊り込み用		冷媒配管用				
平座金(M10)	レベルゲージおよび平座金仮固定	ねじ接合継手(大)※	ねじ接合継手(小)※	パイプカバー(大)	パイプカバー(小)	バンド
						
8個	1個	1個	1個	1個	1個	4本
吊りボルト用	室内ユニットの位置調整および吊り込み時の補助用	ガス管接続用	液管接続用	ガス管断熱用	液管断熱用	パイプカバー固定用

ドレン配管用					コントロール用
パイプカバー(大)	パイプカバー(小)	ドレンホース	ホースクランプ	抗菌材	解除ピン※
					
1個	1個	1個	1個	1個	1本
ドレンソケット断熱用	ドレンソケット断熱用	ドレン配管接続用	ドレンホース取付用	ドレンパン防汚用	インターロック解除用

※R32ビル用マルチ機のみ付属しています。

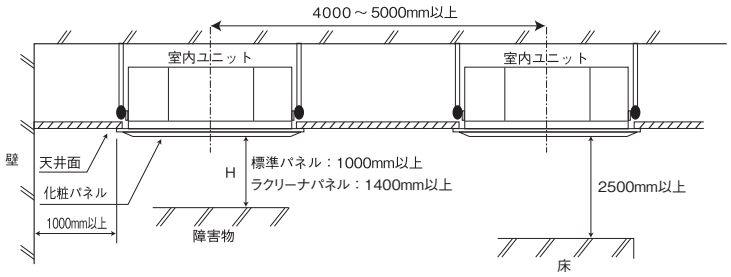
②室内ユニットの据付場所の選定

①据付場所は、下記条件に合う場所をお客様の承認を得て選んでください。
・冷風または温風が十分に行きわたる所。
　据付高さが３ｍを超えると暖気が天井にこもりますので、サーキュレータの併設をご指導ください。
　人感センサを使用する場合、据付高さは4m以内としてください。センサ感度が鈍くなり、検知しにくくなります。
・据付・サービス時の作業スペースが確保できる所。
・ドレン排水が確実にできる所。ドレン勾配のとれる所。
・吸込口、吹出口に風の障害のない所。火災報知器の誤作動しない所。ショートサーキットしない所。
・侵入外気の影響のない所。
・直射日光の当たらない所。
・周囲の露点温度が28℃以下、相対湿度80%以下の所。
　室内ユニット周囲が上記条件以上の高湿度雰囲気の状態で運転すると水滴が落下する恐れがあります。そのような条件下で使用する可能性がある場合は、室内ユニットの全ておよび配管、ドレン配管にさらに10～20mmの断熱材を取付けてください。
・テレビ、ラジオより１ｍ以上離れた所。（映像の乱れや雑音が生じることがあります。）
・室内ユニット真下に食品・食器やパソコン・サーバ、医療機器など濡れて困るものを置かない所。
・調理器具が発する熱の影響を受けない所。
・フライヤの真上など油・粉・蒸気などを直接吸込まない所。
・蛍光灯、白熱灯よりできるだけ離れた所。
　ワイヤレス機種の場合、ワイヤレスリモコンでの正常な操作ができなくなることがあります。
②据付けようとする場所が室内ユニット重量に耐えられるかどうか検討し、危険と思われましたら板、桁等で補強して据付作業を行ってください。強度不足の場合は、室内ユニット落下によるケガの原因になります。
③ワイヤレス機種を２台以上据付ける場合は、混信による誤動作を防止するため室内ユニット間を6m以上離してください。
④室内ユニットを隣接して設置する場合は、室内ユニット間距離を４～５ｍ以上離して設置してください。

②室内ユニットの据付場所の選定のつづき

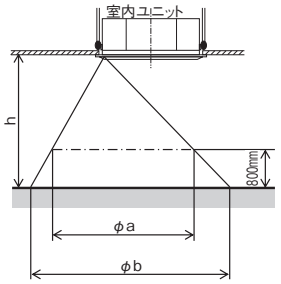
室内ユニット据付スペース

●室内ユニットー壁、室内ユニットー室内ユニット間など、間隔がとれない場合は、
そちら側の吹出口をしゃ風しショートサーキットしないことを確認してください。
●**据付高さは２．５m以上としてください。**2.5m 未満となる場合はファンガード（別売）
を取付てください。



埋設配管途中に配管継手がある場合は、接続箇所の
点検が可能なように点検口などを設けてください。

人感センサ検知範囲の目安



天井高さ　h [m]	2.7	3.5	4.0
検知範囲①　φa [m]	約 4.5	約 6.4	約 7.6
検知範囲②　φb [m]	約 6.4	約 8.3	約 9.5

吹出パターンの設定

●部屋の形や据付位置に最適な吹出方向を４方向・３方向・２方向から選定してください。(１方向はできません。)
●吹出口数を変更する場合は、別売のしゃ風材を手配してください。
●２方向・３方向吹出の場合は風量「弱」での使用は避けてください。
●高温・多湿環境での２方向吹出は行わないでください。(結露・水漏れの原因になります。)
●吹出ルーバの上下位置の設定などによりさまざまな吹出パターンが設定できます。設定方法は取扱説明書をご覧ください。

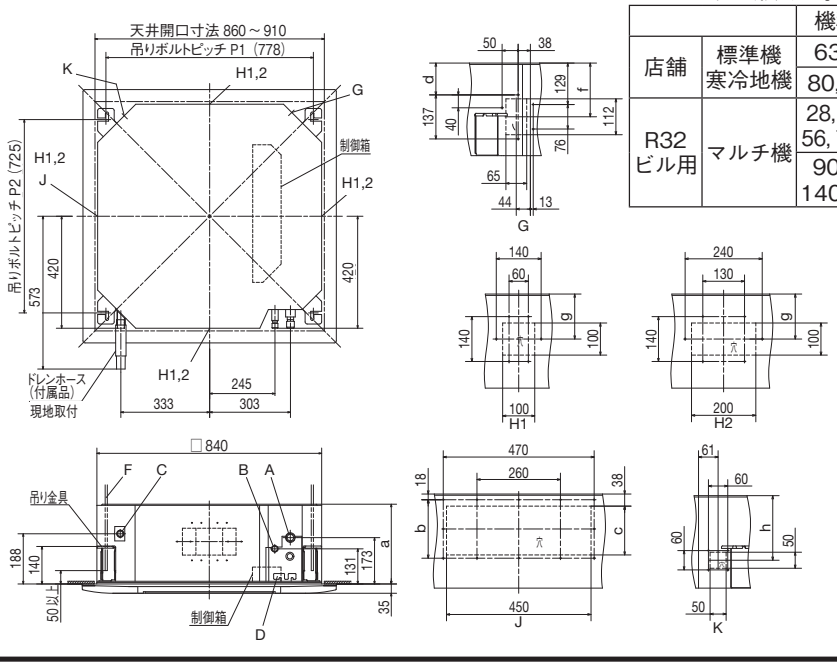
③据付準備

●吊りボルト長さが長くなる場合は耐震補強を実施してください。
○システム天井（グリッド天井・ライン天井）の場合
吊り長さ（吊りボルト長さ）５００mm以上または天井ふところ高さ７００mm以上の場合に耐震ブレースを設置してください。
○強度が十分にある天井面に設置され直接スラブから吊り下げる場合
吊り長さ（吊りボルト長さ）１０００mm以上の場合に耐震ブレースを設置してください。
●吊りボルト・ナット・バネ座金（Ｍ１０ or Ｍ８）を４組現地にて手配してください。

天井開口穴・吊りボルトピッチ・各配管の位置

※:ユニット形式を示す。 例　63形:FDTZP63を表す。（mm）

		機種　※	a	b	c	d	f	g	h
店舗	標準機 寒冷地機	63, 71形	236	130	100	37	105	88	139
		80, 160形	298	182	152	99	167	140	201
R32 ビル用	マルチ機	28, 36, 45, 56, 71, 80形	236	130	100	37	105	88	139
		90, 112, 140, 160形	298	182	152	99	167	140	201



記号	内容	記号	内容
A	冷媒ガス側配管	G	ＯＡ取入口
B	冷媒液側配管	H1	吹出分岐ダクト接続口
C	ドレン配管	H2	
D	電源取入口	J	加湿器接続口
F	吊りボルト	K	加湿器余剰水接続口

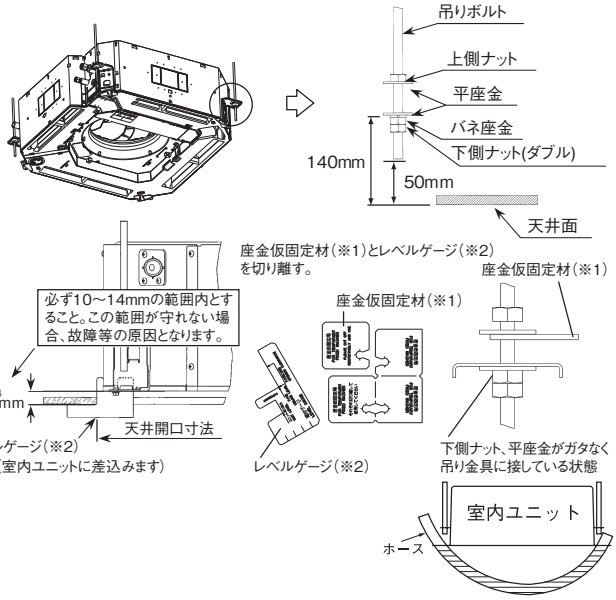
※吊りボルトピッチ P1、P2 は下表の
パターンで調整可能です。

記号 / パターン	P1	P2
1	770	725～770
2	770～800	725

④室内ユニットの据付

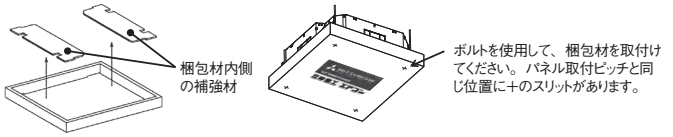
作業手順

1. 梱包材（天面ダンボール）の吊りボルトピッチを目安に吊りボルト位置を選定してください。
2. 吊りボルト長さは、天井面より 50mm 程度としてください。
3. 吊りボルトの下側ナット(4か所)は、天井面から 140mm 程度に仮止めしてください。
4. 吊りボルトの上側ナット(4か所)は、室内ユニット吊り込みおよび高さ調整時に支障のないよう、下側ナットから十分距離を取った位置に仮止めしてください。
5. 吊りボルトの上側ナットと上側座金(各4か所)を下側ナットから十分な距離をとった状態で、座金仮固定材(※1)を吊りボルトに挿しこんでください。上側座金が落下してきません。
6. 室内ユニットを吊り込んでください。
7. 室内ユニット吊り込み後、付属のレベルゲージ(※ 2)を室内ユニットの吹出口に取付け、室内ユニットの吊り込み高さを調整してください。高さ調整は上側ナット(4か所)を緩めた状態で、下側ナット(4か所)で調整してください。室内ユニット吊り金具(4か所)が下側ナット，平座金にガタなく接していることを確認してください。
8. 座金仮固定材(4か所全て)を取外してください。
9. 室内ユニットの水平度を確認してください。水平度は水準器または透明ホースに水を入れたものを使用して確認してください。
   (室内ユニットの両端での高さ許容差は 3mm 以内)
10. 吊りボルトの上側ナット(4か所)を締付けてください。



室内ユニットの養生

●パネルをしばらくの間取付けられない場合、または室内ユニットを据付後に天井材を貼る場合は、梱包材(天面ダンボール) を使用して、室内ユニットを養生してください。



室内ユニット据付時のお願い

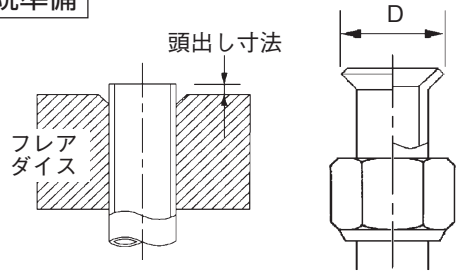
●上側ナットで高さ調整を行わないでください。室内ユニットに無理な力がかかり変形し、パネルが組付けできなかったり、ファン干渉音が発生することがあります。
●室内ユニットは必ず水平に据付、室内ユニット下面と天井面の高さを正しく設置してください。据付に不備があると風漏れ、結露・水漏れ、騒音の原因になります。
●パネルを据付後、室内ユニット高さの微調整ができます。詳細はパネルの据付説明書をご覧ください。
●パネルと天井面、およびパネルと室内ユニットとの接触部は確実に密着させてください。隙間があると風漏れ、結露・水漏れの原因になります。

⑤冷媒配管

冷媒配管時の注意事項

●冷媒配管は、新規配管をご使用ください。
●冷媒配管の接続方式は、「微燃性冷媒取扱時の安全上のご注意」に従い選定してください。
ねじ接合継手により接続する場合は、138ページの説明書に従い作業してください。
●フレア接続する場合、フレアナットは製品付属ものをご使用ください。他のフレアナット (1 種) を使用すると冷媒漏れの原因となります。
●既設配管再利用の可否および洗浄方法については、室外ユニットの据付説明書またはカタログで確認してください。
1) 再利用する場合、フレアナットやねじ接合継手は流用せず必ず未使用品を使用してください。
2) 再利用する場合、部分的に交換した新しい配管を室内ユニットに接続してください。

フレア接続準備



配管径 d mm	配管の最小肉厚 mm	フレア加工 頭出し寸法 mm		フレア外径 D mm	フレアーナット締付トルク N·m
		リジッド（クラッチ式）			
		R32 用 R410A 用	従来ツール		
6.35	0.8	0 ～ 0.5	0.7 ～ 1.3	8.9 ～ 9.1	14 ～ 18
9.52	0.8			12.8 ～ 13.2	34 ～ 42
12.7	0.8			16.2 ～ 16.6	49 ～ 61
15.88	1			19.3 ～ 19.7	68 ～ 82
19.05	1.2			23.6 ～ 24.0	100 ～ 120

●冷媒配管は、リン脱酸銅合金継目無銅管（C1220T、JIS H 3300）をご使用ください。
また管の内外面は美麗であり、使用上有害な硫黄、酸化物、ゴミ、切粉等（コンタミ）の付着がないことを確認してください。
冷媒配管の内部にコンタミの付着があると冷凍機油劣化などの原因になります。

⑤冷媒配管のつづき

●指定冷媒以外は使用しないでください。
指定冷媒以外を使用すると、冷凍機油劣化などの原因になります。また空気などが混入すると、異常高圧になり、破裂などの原因になります。指定冷媒は室外ユニットの形式ラベルをご覧ください。

●据付に使用する配管は屋内に保管し、両端ともろう付する直前までシールしてください。
冷媒回路内に埃、ゴミ、水分が混入すると、油の劣化・圧縮機の故障の原因になります。

●工具はＲ３２用またはＲ４１０Ａ用の工具を使用してください。

フレア接続手順

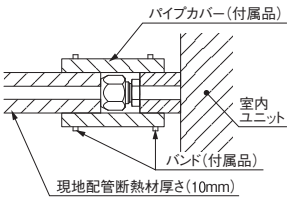
1．室内ユニットのフレアナットおよびキャップを取外してください。
※室内ユニットの配管端部のフレアナットは、必ずスパナで２丁掛けして外してください。
（このときガスが出ることがありますが、異常ではありません。）
●フレアナット飛びに注意してください。（内部に圧力がかかっている場合があります。）

2．液管・ガス管をフレア加工し、右図に示すように冷媒配管を接続してください。
※配管の曲げは４Ｄ以上の大きな半径で行い、曲げなおしを行わないでください。
また配管をねじったり、2/3D 以下につぶしたりしないでください。
※フレア接続は、以下のように行ってください。
・フレアナット接続時は、フレア中心を合わせ、最初手回しで３～４回転ねじ込み、２丁スパナ掛けで表の締付力で締めてください。

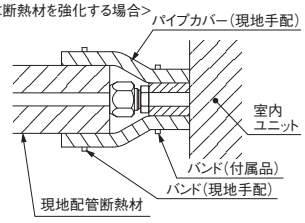
3．室内ユニットのフレア部は、ガス漏れチェック後、右図に示すように断熱材をかぶせ、バンドでしっかりと締付けてください。
●ガス側配管、液側配管とも断熱は完全に行ってください。
※配管は断熱しないと結露し水漏れします。
●ガス側配管の断熱材は耐熱120℃以上のものを使用してください。
●高湿度雰囲気で使用する場合は設置環境に合わせて、冷媒配管の断熱を強化してください。強化しない場合は断熱材表面に結露することがあります。

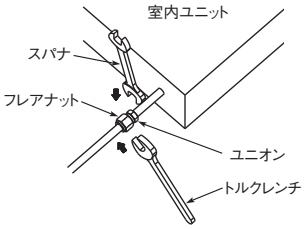
4．冷媒は室外ユニットに充填されています。
室内ユニットおよび接続配管分の冷媒追加量については室外ユニットに付属の据付説明書をご覧ください。

<断熱材厚さ10mmを使用する場合>



<断熱材を強化する場合>





注意
同一締付トルクでも、ユニオンのねじ部に冷凍機油を塗布した場合は、ねじ部摺動摩擦力が下がることにより、軸方向分力が増加してフレアの応力腐食割れの原因となることがあるため、ユニオンねじ部、またはフレア外面への冷凍機油塗布は推奨しません。冷凍機油を塗布する場合は、フレア内面へのみとしてください。

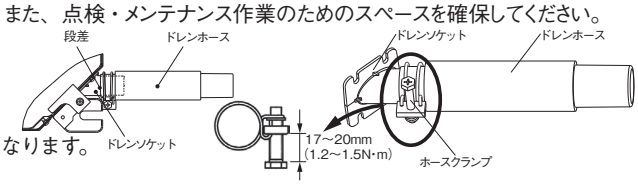
⑥ドレン配管

ドレン配管時の注意事項

●ドレン工事は、据付説明書に従って確実に排水するように配管してください。
記載に従って施工しない場合、屋内に浸水し、家財などを濡らす原因になることがあります。
●ドレン工事は付属のドレンホースを必ず使用してください。使用しないとドレンソケットに力がかかり破損し、水が漏れることがあります。
●ドレン配管はイオウ系ガスなど有害ガスおよび可燃性ガスが発生する排水溝には、入れないでください。
室内に有害ガスおよび可燃性ガスが流入し、中毒や酸素欠乏になることがあります。また熱交換器の腐食、異臭の原因になります。
●接続部から水漏れのないように確実に施工してください。
●水漏れが起こらないように、断熱工事を確実に行ってください。
●施工後、ドレンが排水されていることを、室内ユニットのドレン口およびドレン配管最終出口部で確認してください。
●ドレン配管は下り勾配（1/100 以上）とし、途中山越えやトラップを作らないでください。また、ドレン配管にエア抜きは、絶対に設けないでください。
試運転時にドレン排水が確実に行われていることを確認してください。また、点検・メンテナンス作業のためのスペースを確保してください。

ドレンソケットとドレンホースの接続

●ドレンソケットの周囲温度が50℃以上となる場合は、ドレンソケットとドレンホースを接着してください。
●接着剤とホースクランプは併用しないでください。水漏れの原因となります。

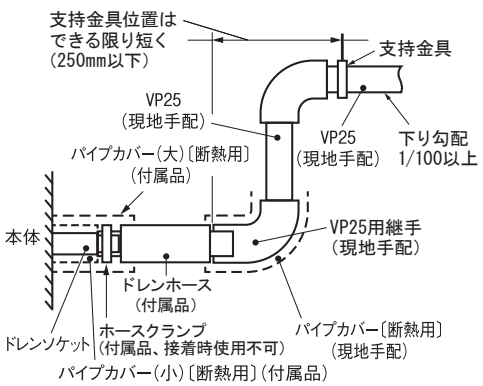


〈ホースクランプを使用する場合〉

1. 付属のドレンホースの軟質側にホースクランプを通し、ドレンソケットの段差部まで確実に挿入してください。その際、ホースクランプのねじが室内ユニットの外側になる位置にし、ボルトが鉛直方向になるようにしてください。
2. ホースクランプはドレンホースの断熱材に接触する位置で、ねじを締付けてください。
3. ねじを数回回転させて締付が固くなる位置まで締付け、それ以上に締付けないでください。
ねじの締代の目安は17～20mm（参考:1.2～1.5N・m）です。

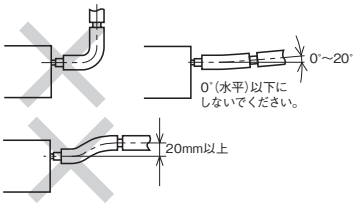
〈接着する場合〉

1. 塩ビ系接着剤を使用して、ドレンホースの軟質側とドレンソケットを接着してください。その際、ドレンホースをドレンソケットの段差部まで確実に挿入してください。
2. 接着方法は接着剤の使用方法に従ってください。
接着剤推奨品：積水化学工業製エスロン No73S，クボタケミックス製タフダイン青
※フタル酸エステル類が含有している接着剤は使用しないでください。水漏れの原因となります。
●ドレンホースやドレンソケットの内部に接着剤が流れ込まないようにしてください。

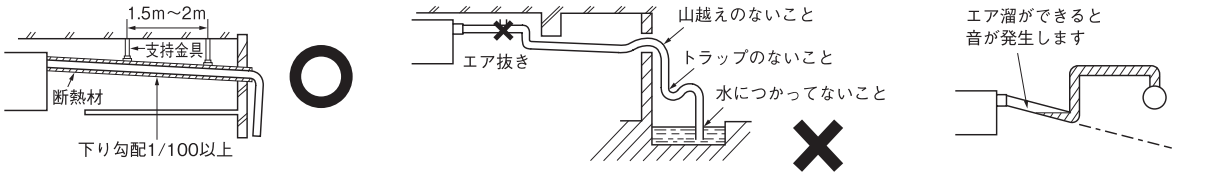


⑥ドレン配管のつづき

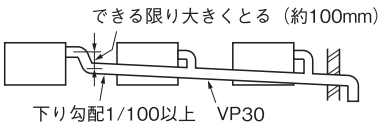
ドレンホースと配管の接続



1. VP25用継手やエルボ、配管（いずれも現地手配）を接続してください。
   ※ドレン管は、市販の硬質塩ビパイプ一般管VP25を使用してください。
   ●接着剤は付属のドレンホース内部に流れ込まないようにしてください。
   乾燥後、フレキ部に力が加わった場合、フレキ部が破損することがあります。
   ●ドレンホースは、室内ユニットあるいはドレン配管の据付時の微小なズレを吸収するためのものです。故意に曲げたり、引っ張って使用された場合は、破損し、水漏れに至ることがあります。
2. ドレン配管を接続する場合、ドレンソケットやドレン配管に力が加わらないようにしてください。
   できる限り室内ユニット近傍（現地手配の継手先端から250mm以内）でドレン配管を支持してください。
3. ドレン配管は下り勾配（1/100以上）としてください。不可能な場合はドレンアップしてください。途中山越えやトラップを作らないように施工してください。
   ●エア抜きは絶対に設けないでください。



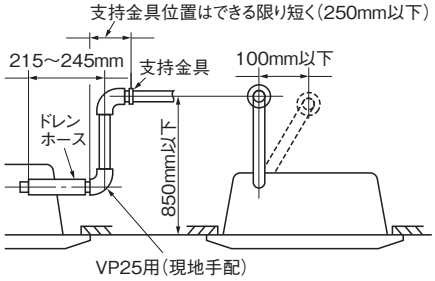
●複数台のドレン配管の場合、室内ユニットドレン出口より約100mm下に集合配管がくるようにしてください。
また集合配管はVP30以上を使用してください。



4. ドレン配管の断熱施工を行ってください。
   ●結露が発生し、水漏れをおこすおそれがありますので、ドレンソケット部および室内にある硬質塩ビパイプは確実に断熱してください。
   ※ドレンソケット部は、排水テスト実施後、付属のパイプカバー（小）をドレンソケット部に装着した後、付属のパイプカバー（大）にてパイプカバー（小）、ホースクランプおよびドレンホースの一部を覆い、テープにより隙間のないように巻いてください。

ドレンアップする場合

●ドレン配管の出口高さは、天井面より850mmまで高くすることができます。天井内に障害物などがある場合、エルボなどを用いて施工してください。この場合、ドレン配管を立ち上げるまでの距離が長いと、運転停止時におけるドレン逆流量が多くなり、オーバーフローすることがありますので、右図寸法内で処理願います。

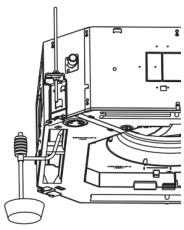


ドレン排水テスト

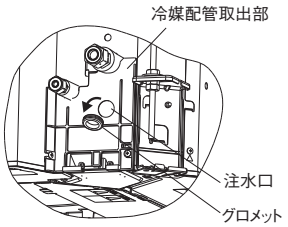
●ドレン配管工事の完了後に、排水が確実に行われていることを、接続部および室内ユニットのドレンパン部から水漏れのないことを確認してください。このとき、ドレンポンプのモータ音に異常がないことも確認してください。
●暖房期の据付の際にも必ず実施してください。
●新築の場合には天井を張る前に実施してください。

1. 室内ユニットドレンパンの中へ水を約1000cc注水してください。注水時は、ドレンポンプなどの電機部品に水をかけないようにしてください。
   注水は、吹出口から給水ポンプなどを使用するか、冷媒配管取出部の注水口から行ってください。
2. ドレン排水が確実に行われること、ドレン配管接続部から水漏れのないことを確認してください。
   ドレンポンプの回転音を確認しながら排水するかどうかをテストしてください。ドレン排水の確認は、ドレンソケット部（透明）より確認できます。
3. 排水テスト後は、ゴム栓を外して水抜きを行ってください。
   水抜き確認後は、ゴム栓を元通りにはめ込んでください。
   ドレン配管の断熱を室内ユニット部まで完全に行ってください。
   リッドを外して注水した場合は、リッドを装着しなおしてください。

●吹出口から注水する場合



●冷媒配管取出部の注水口から注水する場合



ドレンポンプ運転方法

○電気配線工事が完了している場合

ドレンポンプの運転がリモコン（ワイヤード）操作により可能です。運転操作方法は、電気配線工事説明書の「ドレンポンプ運転操作」をご覧ください。

○電源が供給されている場合

室内ユニット基板上のSW7－1をONにし、かつ、基板上のコネクタCNBを抜いた後、電源ON（端子台①、②へAC200V）すると、ドレンポンプのみ連続運転します。ドレン排水確認後は、必ずSW7－1を元の状態（OFF）に戻し、かつ、基板上のコネクタCNBを差込んでください。

○電源が供給されていない場合

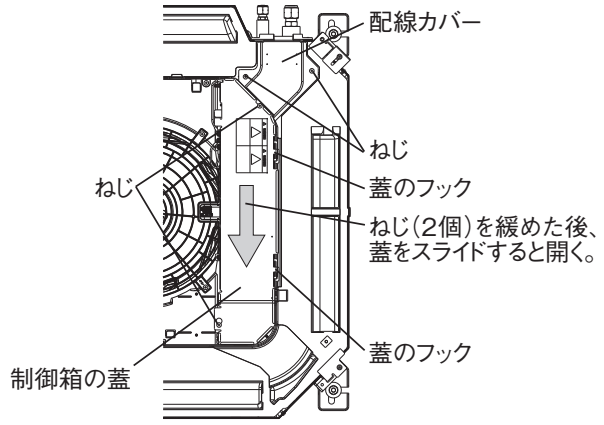
ドレンポンプ試運転用チェッカ（別売）でドレンポンプを運転することが可能です。操作方法はドレンポンプ試運転チェッカに付属の取扱説明書をご覧ください。

⑦電気配線取出位置および電気配線接続

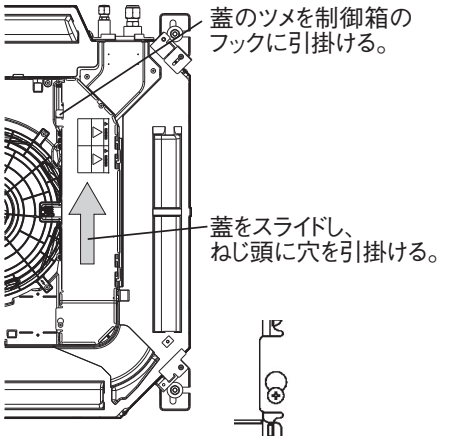
●電気工事は電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」「内線規程」 および電気配線工事説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用してください。
●配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定してください。
●電源線と信号線は同一経路を通さないようにしてください。 誤動作や故障の原因になることがあります。
●D種接地工事を必ず行ってください。
●電気配線工事の詳細は、142ページをご覧ください。

1. 制御箱の蓋のねじ(2個)を緩め、蓋を図の矢印の方向にスライドしてください。 蓋を開くことができます。
2. 蓋のフックを制御箱の穴から外して、蓋を取外してください。
3. 配線カバーのねじ(2個)を取外して、配線カバーを取外してください。
4. 各配線を制御箱内に入れ、端子台に確実に接続してください。
5. 各配線をバンドで固定してください。
6. 配線カバー , 制御箱の蓋を取付けてください。

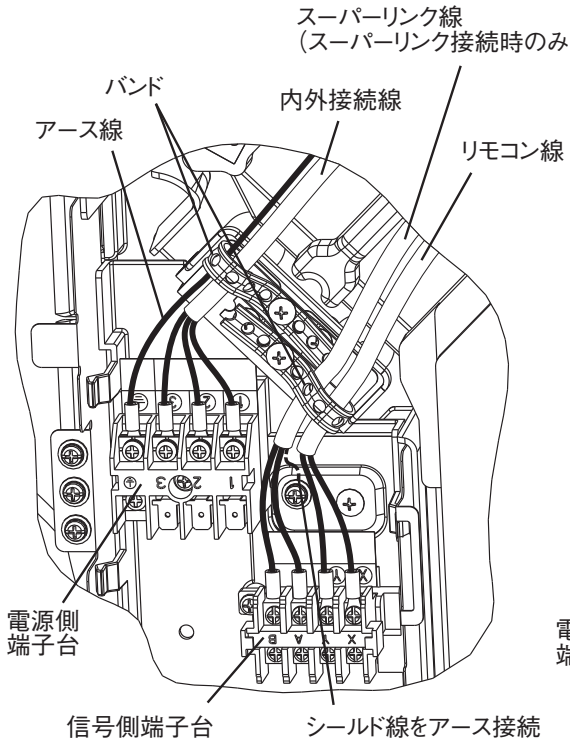
制御箱の蓋を開ける場合



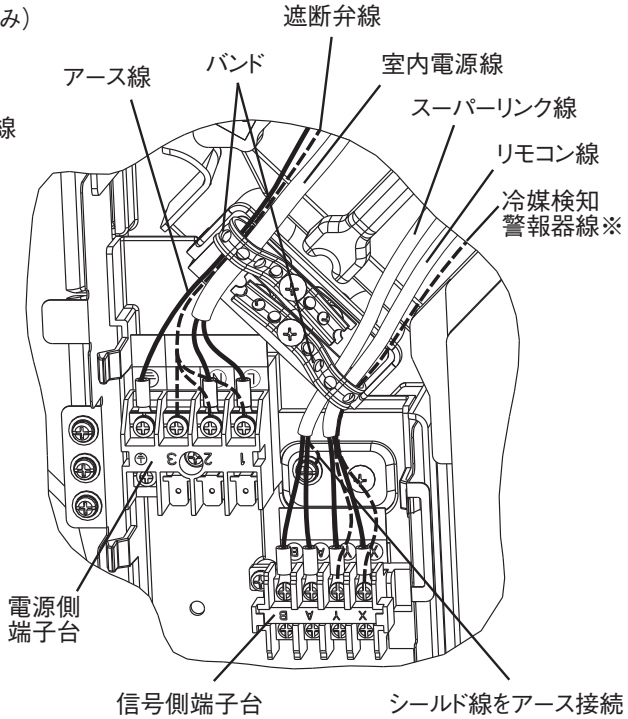
制御箱の蓋を閉める場合



店舗シリーズ
中温PACシリーズ



R32 ビル用マルチ機シリーズ



メインヒューズ仕様

仕様	部品番号
T3.15A L250V	SSA564A149AF

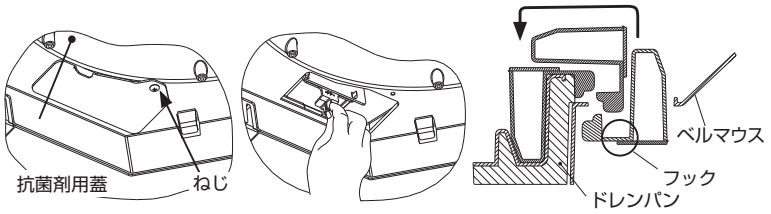
※ 他社製の安全対策機器を接続する場合は、電気配線工事説明書をご覧ください。

⑧抗菌剤の取付

●付属の抗菌剤ケースをドレンパン内に取付けてください。抗菌剤ケースの中に抗菌剤が入っています。
●抗菌剤ケースの取付は室内ユニットを吊った後に実施してください。室内ユニットが天地逆では取付けられません。

作業手順（付属抗菌剤の交換目安：冷房１シーズン）

1. 抗菌剤用蓋のねじ（１個）を取外し、抗菌剤用蓋を取外してください。
2. 取出口から抗菌剤を取付けてください。抗菌剤ケースのフックの奥まで、ドレンパンが達するように取付けてください。
3. 抗菌剤用蓋を取付けてください。風漏れや異常音の原因となります。



⑨パネルの取付

●パネルは、電気配線工事完了後に、室内ユニットに取付けてください。
●パネルの取付方法は、503ページの据付説明書をご覧ください。

⑩室内ユニット据付工事完了後のチェック項目

●室内ユニット・パネル据付工事、電気配線工事完了後、下記項目についてチェック願います。
R32 ビル用マルチ機の場合、付属の「据付工事施工チェックリスト（R32 ビル用マルチ）」を用いて安全対策機器の確認をしてください。

チェック項目	不良の場合	チェック欄
室内外ユニットの取付はしっかりしていますか。	落下、振動、騒音	
ガス漏れ検査は行いましたか。	冷えない	
断熱は完全に行いましたか。	水漏れ	
ドレン排水はスムーズに流れていますか。	水漏れ	
電源電圧は室内ユニットの銘板と同じですか。	運転不能・焼損	
誤配線・誤配管はありませんか。	運転不能・焼損	
アース工事はされていますか。	漏電時危険	
配線の太さは仕様通りですか。	運転不能・焼損	
室内外ユニットの吸込・吹出口が障害物でふさがれていませんか。	冷えない	

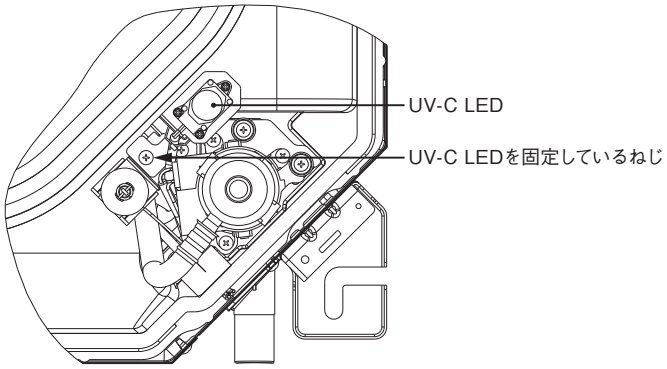
⑪店舗シリーズ機種容量統合機の場合

室外ユニットとの組合せにより下表の通り室内ユニットが自動認識されます。機種銘板の機種容量に○印を付けてください。

	室内ユニット	室内ユニット１台										２台接続						３台接続		４台接続	
	室外ユニット	40	45	50	56	63	71	80	112	140	160	80	112	140	160	224	280	160	224	224	280
標準機	FDTZP63	P40	P45	P50	P56	P63						P40	P56					P50		P56	
	FDTZP71													P71					P71		P71
	FDTZP80							P80							P80						
	FDTZP160								P112	P140	P160					P112	P140				
寒冷地	FDTZP71											P40	P56								
	FDTZP160							P80	P112												
中温PAC	FDTP140							P80	P112	P140						P112	P140				

⑫UV-C LEDの交換（メンテナンス）

UV-C LED が寿命時間に到達すると、リモコンにメンテナンスコード “M53” が表示されます。
UV-C LED の交換を行う際には必ず以下のことを守ってください。（UV-C LED の部品番号 : PJF543C001）
●必ず電源をお切りください。
●機器の清掃および点検時は取扱説明書と据付説明書を読んでください。
●「⑬ドレンパン汚れ確認、ドレンポンプ吸込口清掃（メンテナンス）」のドレンパン取外時の注意事項を読み、ドレンパンを外してください。
● UV-C LED を固定しているねじを外して UV-C LED を交換してください。



⚠ 注意 : UV-C LED の交換作業を実施する前に、必ず電源を切ってください。
⚠ 注意 : UV-C LED を室内ユニット外で通電させないでください。必ず室内ユニット内に据付けた状態で使用してください。
⚠ 注意 : UV-C 光は少量であっても目や皮膚に害を及ぼすおそれがあります。

⑬インターロック機能（R32 ビル用マルチ機のみ）

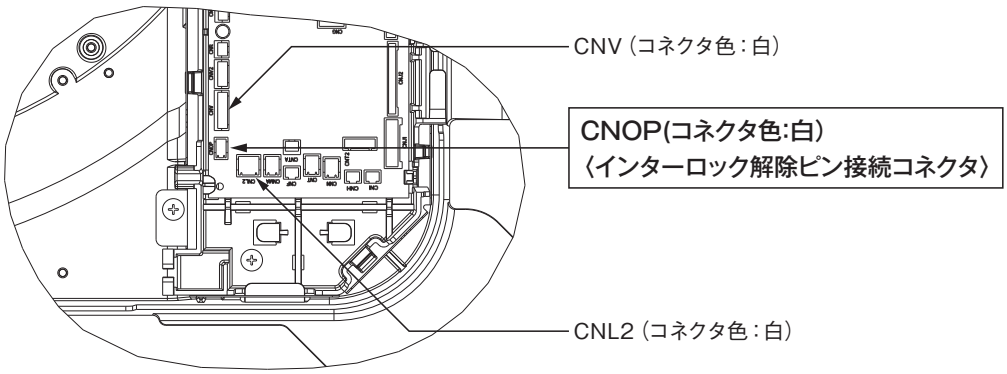
● R32 ビル用マルチ機の室内ユニットは、冷媒漏えいの安全対策のためにインターロック機能が有効になっています。
●インターロック機能が有効になっている場合、空調システムは運転できません。
※インターロックが有効状態だとリモコンにメンテナンスコード（M28）が表示され、ユニットは運転できません。

インターロック機能の解除方法

○すべての安全対策機器が必要な場合
下記のすべての安全対策機器を室内ユニットに接続してください。
・安全遮断弁
・冷媒検知警報器
・eco タッチリモコン（RC-DX3D 以降）
○接続する安全対策機器が一部のみ・安全対策機器が必要ない場合
室内ユニットに付属のインターロック解除ピンを室内制御基板上のコネクタに接続してください。（下図参照）
※解除ピンの接続の前には、**冷媒漏えいに対する安全対策が十分であること**、もしくは**安全対策が必要ないこと**を必ず確認してください。
※冷媒検知警報器に子機として接続している室内ユニットのインターロック機能を解除するためには、解除ピンの接続が必要です。
※安全対策機器の要否、およびインターロック機能についての詳細は、「安全対策マニュアル」をご覧ください。

＜インターロック解除ピンの接続コネクタ＞

インターロック解除ピンは室内ユニットの制御箱付近に付属しています。
使用しない場合は取外して廃棄してください。



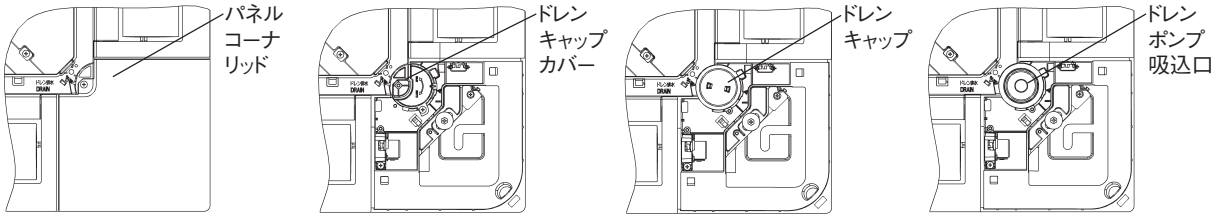
⑭ドレンパン汚れ確認、ドレンポンプ吸込口清掃（メンテナンス）

ドレンパン汚れ確認方法

●ドレンキャップカバーを取外す際は、本体の電源を切ってください。

●パネルを取外さずに、ドレンパンの汚れやドレンポンプ吸込口の状況を確認できます。
（高性能フィルタなどのオプションスペーサやお掃除パネルの取付時は確認できません。）

1. パネル吸込グリルを開け、ドレンポンプ側のパネルコーナリッドを取外してください。
2. パネルコーナにあるドレンキャップカバー（ねじ１個）を取外してください。
3. ドレンキャップからドレンパンの汚れやドレンポンプ吸込口を確認してください。汚れが多い場合はドレンパンを取外し、清掃してください。
4. 取外したドレンキャップカバーは確実に装着してください。
装着が不完全な場合、結露・水漏れの原因となります。



ドレンポンプ吸込口の清掃

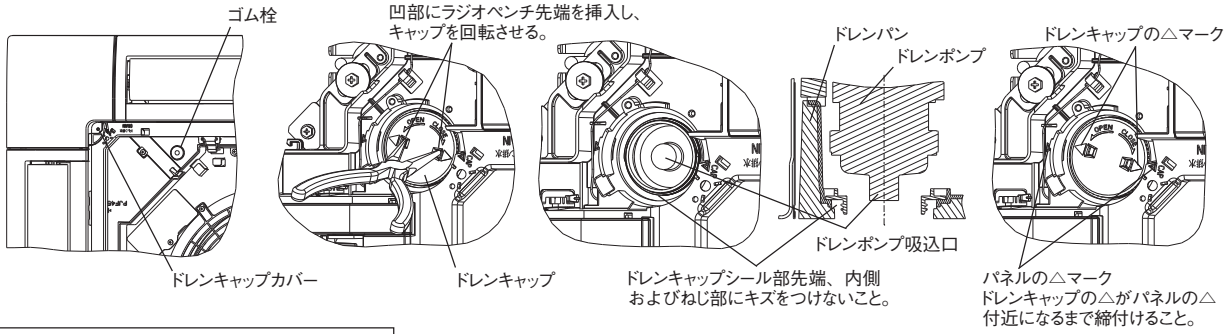
●ドレンキャップカバーを取外す際は、本体の電源を切ってください。

●UV-C LED の清掃は必要ありません。

●パネルやドレンパンを取外さず、ドレンキャップを取外すことでドレンポンプ吸込口およびその付近の清掃ができます。
（高性能フィルタなどのオプションスペーサやお掃除パネルの取付時は確認できません。）

●ドレンキャップを取外す前に、ゴム栓を取外してドレンパン内のドレンを排水してください。

1. 前述のようにドレンキャップカバーを取外してください。
2. ドレンキャップの凹部（２か所）にラジオペンチの先を挿入し、反時計回りに約１回転するとドレンキャップを取外せます。
3. ドレンポンプ吸込口を清掃する場合はプラスチック製の道具を使用してください。金属製の道具を使用するとドレンキャップ取付部をキズつけ、水漏れの原因になります。
4. ドレンキャップを取付ける前に、流水で水洗いし、**ドレンキャップ内側の異物を取除いてください。**異物が付着したままドレンキャップを取付けると水漏れの原因になります。
5. ドレンキャップの取付は、ラジオペンチでドレンキャップの凹部を使用して取付けてください。時計回りに約１回転させ、**キャップが回転しなくなるまで締付けてください。**キャップが１回転以上回転しない場合は正しく取付けられていません。一度、ドレンキャップを取外し、改めて取付け直してください。
6. ドレンキャップ締付後、ドレンキャップの△マークがパネルの△マーク付近にあることを確認してください。ドレンキャップの△マークがパネルの△マーク付近にない場合は、増し締めしてください。
7. 取外したドレンキャップカバー , ゴム栓は確実に装着してください。装着が不完全な場合、結露・水漏れの原因となります。

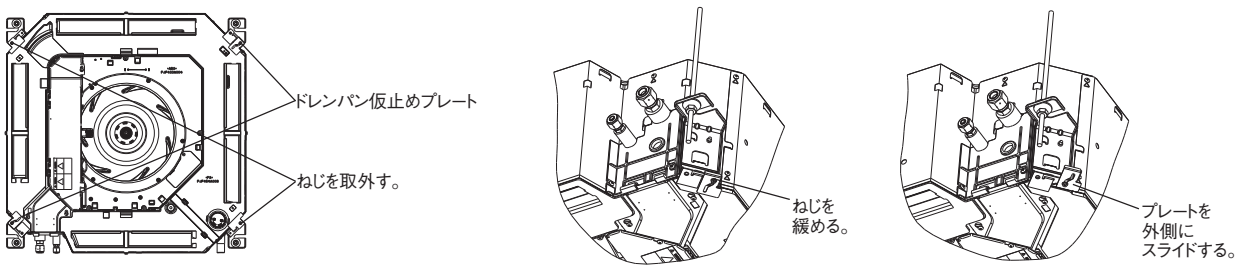


ドレンパン取外し時の注意事項

●ドレンパンを取外す前に、ドレンパン内のドレンを排水してください。ゴム栓を取外して排水してください。

●ドレンパンは仮止めプレートで仮止めされています。ドレンパン取付ねじ（2個）を取外し、仮止めプレートのねじ（2個）を緩めてください。
仮止めプレートをドレンパンの外側にスライドしてください。ドレンパンを取外せます。

●ドレンパン取付時は、仮止めプレートを内側にスライドし、ドレンパンを仮止めしてください。その後、ドレンパン取付ねじ（2個）と仮止めプレートのねじ（2個）を締付けてください。また、取外したゴム栓は確実に取付けてください。



(b) **パネルの据付**

標準パネル,エアフレックスパネル,ラクリーナパネル

パネル形式：標準パネル；T-PSA-6AW, T-PSA-6AB, T-PSA-6AC
エアフレックスパネル；T-PSAE-6AW, T-PSAE-6AB
ラクリーナパネル；T-PSCL-6AW, T-PSCL-6AB

室内ユニットの据付説明書と共にお読みください。

PJF012D032 A

⚠ 警　告

●配線は、確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。
接続や固定が不完全な場合は、発熱、火災等の原因になります。

●元電源を切った後に電気工事をする。
感電、故障や動作不良の原因になります。

機能名称について

機能の名称の意味は下記のとおりです。

エアフレックス ： ドラフト防止機能
ラクリーナ　　： エアフィルタ自動昇降機能

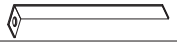
お願い <ラクリーナパネルの場合>

・吸込グリルの動作範囲の周辺および下方30cm以内に障害物を置かないでください。
・電源投入前にパネルを取付けた場合は吸込グリルの昇降動作はできません。
・電源投入前に吸込グリルを収納する場合は、付属のクランプで仮固定する事ができます。
・電源投入後は付属のクランプを外してあることを確認してから昇降動作を行ってください。
・吸込グリル取付後の初回はリモコンで「上げる」の操作を行い、吸込グリルを正規位置に収納してください。
（マイコンが収納位置を記憶します。）
・ワイヤーは、折曲げ、ねじり、噛込み等により傷つけたり、たばこ等の火が触れないようにしてください。

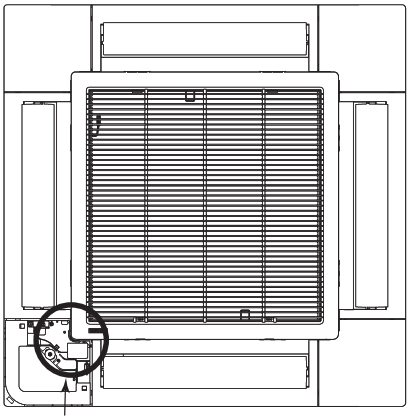
① 据付の前に

・据付はこの説明書に従って正しく行ってください。
・次の項目を確認してください。
○パネル・リモコンのタイプ
○付属品

付属品

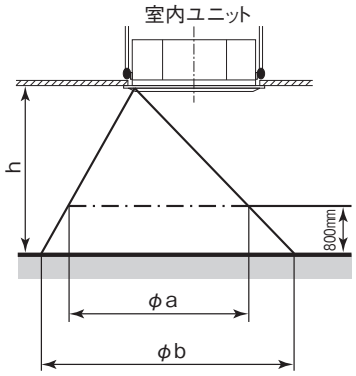
ボルト		4本	パネル取付用
ストラップ		4本	コーナリッド落下防止用
クランプ		4本	吸込グリル仮止用（ラクリーナパネル）
ねじ		4本	コーナリッド固定用＊1

注1：＊1 ラクリーナパネルの場合、吸込グリル仮止クランプ固定用にも使用します。
注2：付属品はコーナリッドを外した位置にあります。



付属品収納位置

人感センサ検知範囲の目安 ＜エアフレックスパネル、ラクリーナパネル＞



天井高さ　h [m]	2.7	3.5	4.0
検知範囲①　φa [m]	約4.5	約6.4	約7.6
検知範囲②　φb [m]	約6.4	約8.3	約9.5

② 室内ユニットの取付レベルの確認

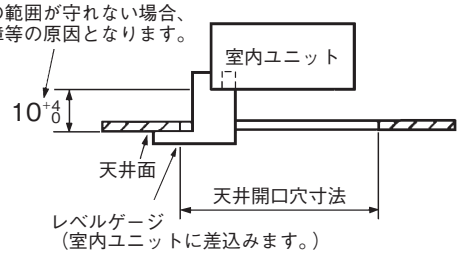
・室内ユニットの据付説明書と共にお読みください。
・室内ユニットに付属されているレベルゲージで室内ユニット高さおよび天井開口寸法が正しいことを確認してください。
・室内ユニットと天井材との取付レベルを確認してください。
・室内ユニット付属のレベルゲージを吹出口にセットし、
室内ユニットの吊り込み高さを調整してください。
・レベルゲージはパネル取付前に取外してください。

ご注意
室内ユニットと天井材との高さは、パネル取付の際、
パネルに無理な荷重がかからない高さにしてください。
パネルが変形し破損の恐れがあります。

・室内ユニットの取付高さはパネル取付後、コーナ開口部より微調整ができます。

（詳細は ⑥パネルの取付 をご参照ください。）

必ず10～14の範囲内とすること。
この範囲が守れない場合、
故障等の原因となります。

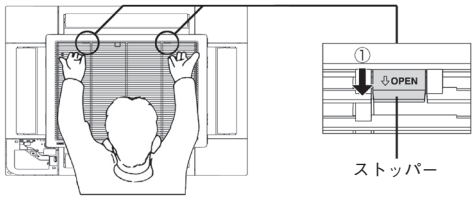


③ 吸込グリルの取外し

＜標準パネル、エアフレックスパネルの場合＞

1．吸込グリルのストッパー（２か所）に指をかけて
「OPEN」の方向（矢印①）に押したまま吸込グリルを下方へ引くと吸込グリルが開きます。
2．吸込グリルが開いた状態で吸込グリルのヒンジ部をパネルから外します。

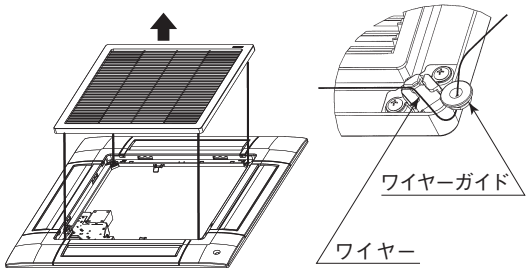
〈取外し〉



＜ラクリーナパネルの場合＞

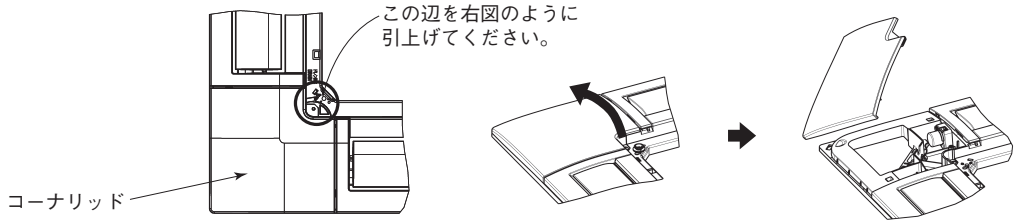
1．吸込グリルを少し持上げて、吸込グリルを開けます。
2．吸込グリルの４コーナに取付てあるワイヤーガイドを外側にスライドさせて外してください。

ご注意
吸込グリルはゆっくり持上げてください。
ワイヤーおよびワイヤーガイドが破損する恐れがあります。



④ コーナリッドの取外し

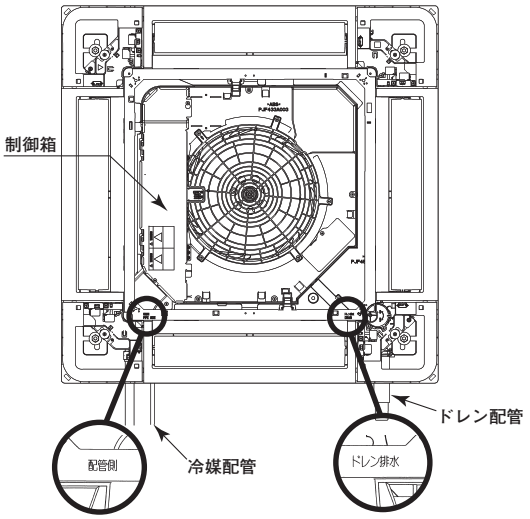
・コーナリッドを矢印の方向へ引上げて取外してください。(4コーナとも)



⑤ パネルの取付方向

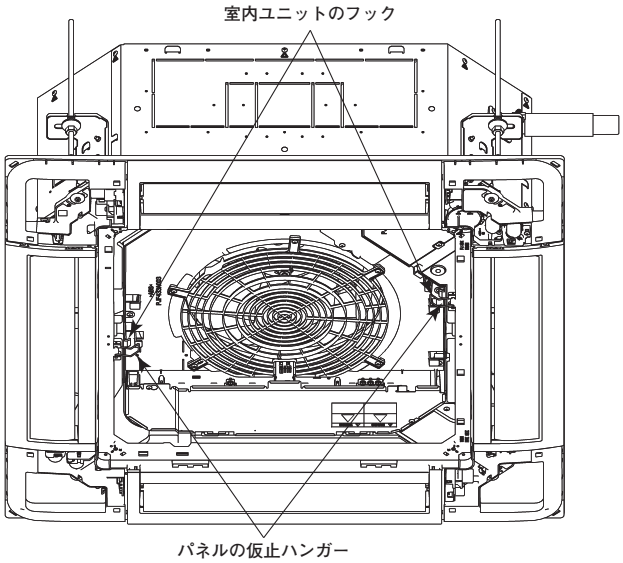
・パネルの取付方向は室内ユニットに対し方向性があります。
・パネルは、右図に示す方向で取付てください。
・パネル吸込部の「ドレン排水」と室内ユニットのドレン配管の位置を合わせてください。
・パネル吸込部の「配管側」と室内ユニットの冷媒配管の位置を合わせてください。

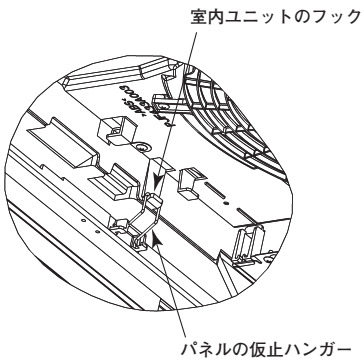
ご注意
・右図以外の方向で取付けると、風漏れの原因となり、また電気配線の接続ができません。

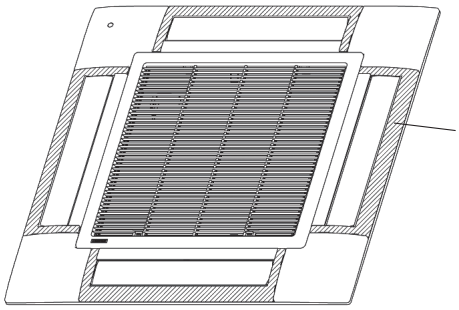


⑥ パネルの取付

1．パネルの仮止
・パネルの仮止用ハンガーを起こします。（２か所）
・パネルの仮止用ハンガーを室内ユニットのフックにかけて、パネルを室内ユニットに吊るします。







標準パネル以外の場合、斜線部(４か所)は可動します。
手で無理に動かすと破損します。
標準パネルの場合もパネル本体とは別部品ですが、
取外すことはできません。

ご注意

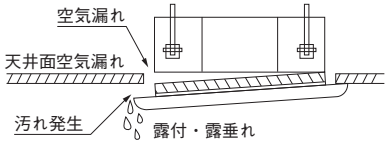
・パネルの吹出口周囲のエアフレックス(斜線部)は別部品です。パネルを持つ際は取扱いに注意してください。
特に、エアフレックスパネル、ラクリーナパネルの斜線部は可動します。手で無理に動かすと破損します。

2．パネルの室内ユニットへの固定

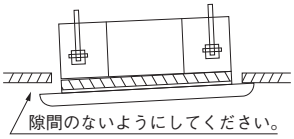
・付属のパネル取付用ボルト４本を用いて、室内ユニットに締付てください。

ご注意

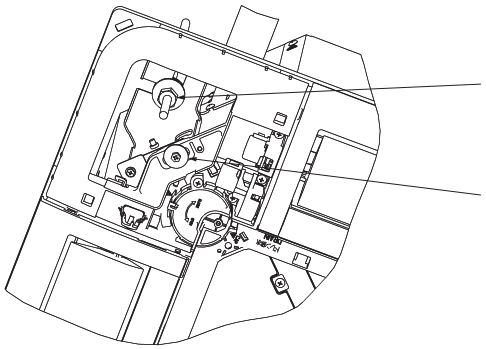
・吊りボルトの締込みが不十分な場合、下図のような不具合発生の原因となりますので確実に締込んでください。



・吊りボルトを締込んでも天井面とパネルとの間に隙間ができる場合は、室内ユニットの高さを再調整してください。



・室内ユニットの水平度、ドレン配管などに影響がでない程度であればパネルを取付けたまま、室内ユニットの据付高さを微調整できます。



コーナ開口部よりスパナ等の一般工具にて
室内ユニットのナットを微調整してください。

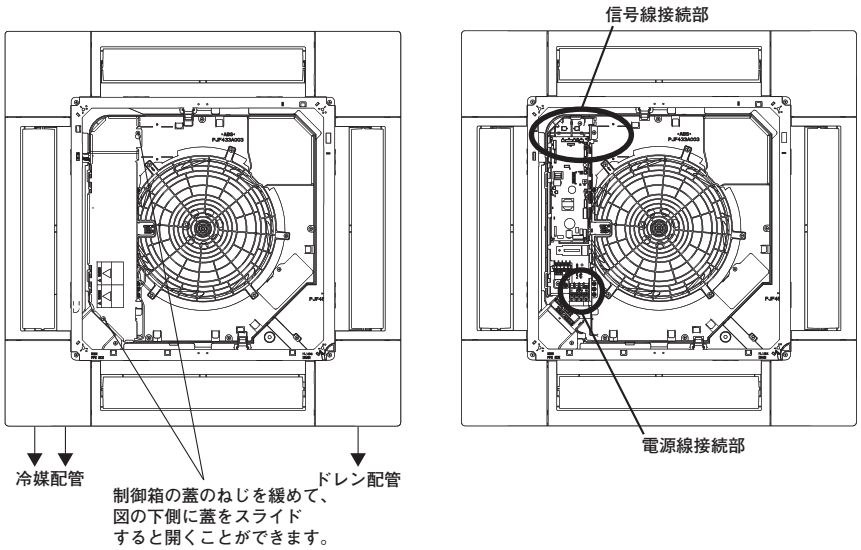
パネル取付用ボルト

ご注意

パネル取付の際、パネルに無理な荷重がかからないよう、室内ユニット据付高さを調整してください。
パネルが変形し、吸込グリル、エアフレックス部品が収まらないおそれがあります。

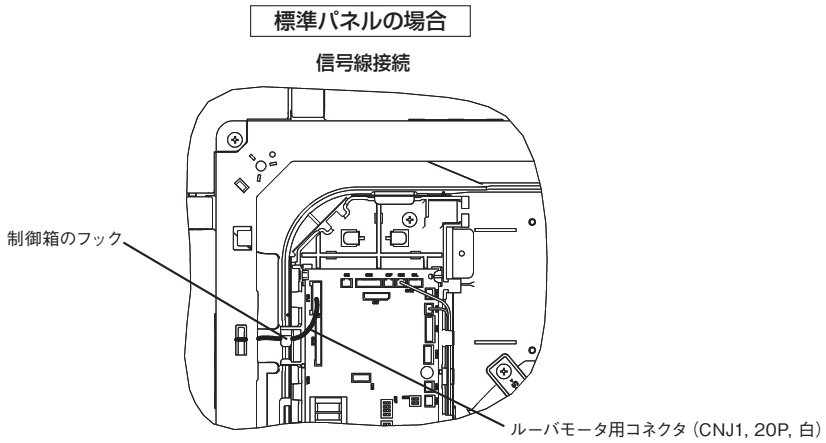
⑦ 電気配線

パネルの種類により、配線処理が異なります。パネルの種類にあわせて配線処理を行ってください。
室内ユニットの接続位置はパネルの種類によらず下図のとおり同じです。



＜標準パネルの場合＞

1. 室内ユニットの制御箱の蓋のねじ（2本）を緩め、蓋をスライドして取外してください。
2. ルーバモータ線（20線）を制御箱のフックに通し、コネクタCNJ1（20P,白）を接続してください。
3. 室内ユニットの制御箱の蓋を取付け、ねじ（2本）を締付けてください。

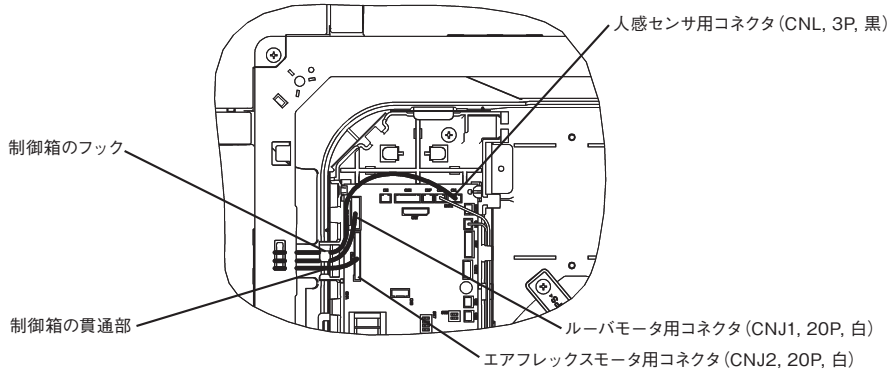


＜エアフレックスパネルの場合＞

1. 室内ユニットの制御箱の蓋のねじ（2本）を緩め、蓋をスライドして取外してください。
2. ルーバモータ線（20線）を制御箱のフックに通し、コネクタCNJ1（20P,白）を接続してください。
3. エアフレックスモータ線（20線）を制御箱のフックに通し、コネクタCNJ2（20P,白）を接続してください。
4. 人感センサ線（3線）を制御箱の貫通部に通し、コネクタCNL（3P,黒）を接続してください。
5. 室内ユニットの制御箱の蓋を取付け、ねじ（2本）を締付けてください。

エアフレックスパネルの場合

信号線接続

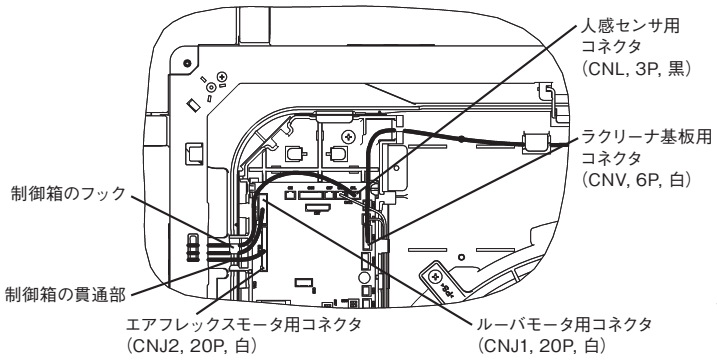


<ラクリーナパネルの場合>

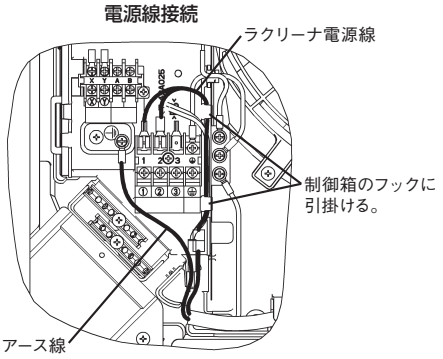
1. 室内ユニットの制御箱の蓋のねじ（2本）を緩め、蓋をスライドして取外してください。
2. ルーバモータ線（20線）を制御箱のフックに通し、コネクタCNJ1 （20P,白）を接続してください。
3. エアフレックスモータ線（20線）を制御箱のフックに通し、コネクタCNJ2（20P,白）を接続してください。
4. 人感センサ線（3線）を制御箱の貫通部に通し、コネクタCNL（3P,黒）を接続してください。
5. 電源線のファストン端子を室内ユニットの電源端子台の1番,2番に挿入してください。
   電源線の赤を端子台の1番に、白を2番に挿入してください。
6. アース線[緑]を室内ユニット制御箱の⏚に接続してください。
7. ラクリーナ基板用信号線（6線）を室内ユニット制御箱内の基板のコネクタCNV（6P,白）に接続してください。
   コネクタCNVにショートコネクタが接続されている場合は取外しの上、信号線を接続してください。
8. 室内ユニットの制御箱の蓋を取付け、ねじ（2本）を締付けてください。

ラクリーナパネルの場合

信号線接続

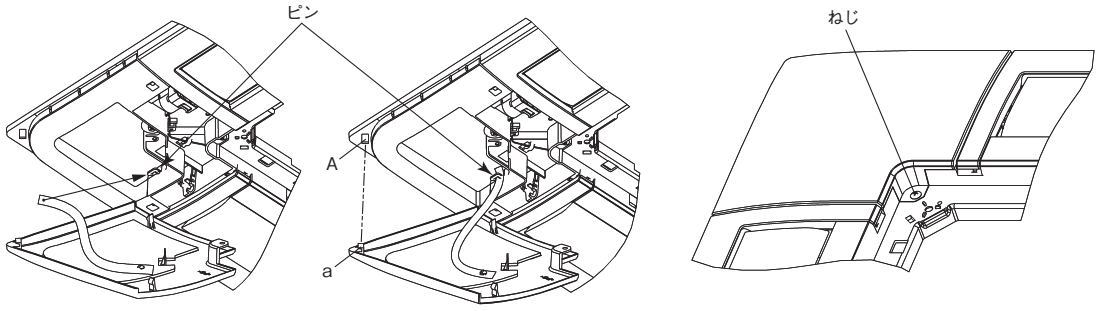


電源線接続



⑧ コーナリッドの取付

1．付属のコーナリッド落下防止用ストラップをコーナリッドのピンに折返して引掛けてください。
2．コーナリッドに取付けたストラップの反対側をパネルのピンに引掛けてください。
3．コーナリッドのａ部をパネルのA部に挿入してから、コーナリッドのつめ2か所をはめてください。
4．付属のねじで固定してください。



⑨ 吸込グリルの取付

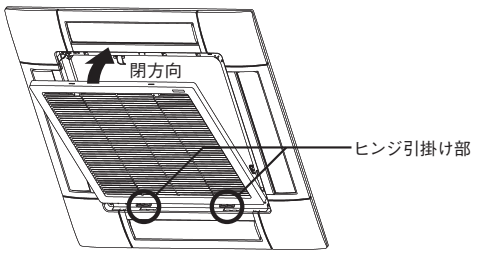
パネルと吸込グリルには方向性がありません。

＜標準パネル、エアフレックスパネルの場合＞

吸込グリルの取付方法は ③ 吸込グリルの取外し の手順を逆に作業してください。

1．吸込グリルのヒンジをパネルのヒンジ挿入穴に取付てください。(吸込グリルのヒンジは４辺どこでも取付可能です。)
2．吸込グリルのヒンジを取付後、ストッパー(２か所)を「OPEN」の方向へ押したまま、閉じてください。
　両方のストッパーから「カチッ」と音がしたことを確認してください。

〈取付〉



ご注意

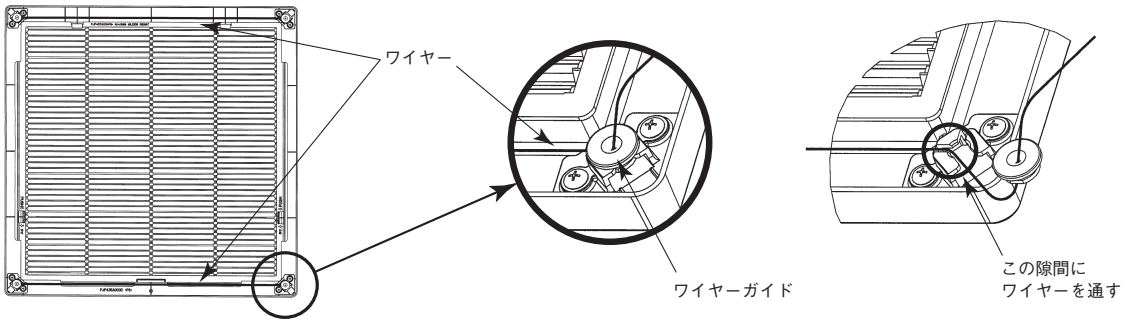
・吸込グリルの取付は、必ずヒンジ側から行ってください。
・吸込グリルは確実に取付てください。取付が不十分ですと落下する恐れがあります。
・ストッパーが変形・破損した場合は、速やかに修理依頼し、交換してください。吸込グリルが落下する恐れがあります。

＜ラクリーナパネルの場合＞

1．吸込グリルの方向を決定してください。
2．ワイヤーを通してあるワイヤーガイドを吸込グリルの４コーナの取付部に固定して装着します。
3．ワイヤーガイドを吸込グリルに外側から内側にスライドさせながら装着してください。
　装着の際、取付部の隙間をワイヤーが通過するようにワイヤーの向きに注意して確実に取付てください。
4．ワイヤーガイド装着後、ワイヤーの曲がり、ねじり、噛み込みがないことを確認してください。

ご注意

ワイヤーガイドは確実に装着してください。確実に装着されていないと、吸込グリルを昇降できなくなったり、吸込グリルが落下する恐れがあります。



⑩ パネルの設定

＜ルーバの動作範囲設定(フリーフロー設定)＞

ワイヤードリモコンを使用することで、吹出口のルーバの動作範囲を変更することができます。本モードで上限位置と下限位置を設定すると、ルーバは設定された上限位置と下限位置の間で動作します。各ルーバ毎に個別の動作範囲の設定が可能です。

＜エアフレックスの設定(ドラフト防止設定)＞

エアフレックスパネル, ラクリーナパネルを取付、配線接続をするだけではエアフレックスは作動しません。
エアフレックスを作動させるために、ワイヤードリモコンまたはワイヤレスリモコンを使用して、ドラフト防止設定を有効にしてください。(ワイヤードリモコンRC-DX2、RC-D4G以前、ワイヤレスリモコンRCN-D3G以前のリモコンでは設定できません。)
本モードで有効に設定すると運転開始時にエアフレックスが作動し、運転中は常時エアフレックスが開いています。また、停止時にエアフレックスは閉じます。各吹出口毎に有効/無効の設定が可能です。
設定方法はリモコンの取扱説明書を参照してください。

＜人感センサの設定＞

エアフレックスパネル, ラクリーナパネルを取付、配線接続をするだけでは人感センサは機能しません。
人感センサを機能させるために、ワイヤードリモコンまたはワイヤレスリモコンを使用して、人感センサ設定を有効にしてください。（ワイヤードリモコンRC-DX2、RC-D4G以前、ワイヤレスリモコンRCN-D3G以前のリモコンでは設定できません。）
設定方法はリモコンの取扱説明書を参照してください。

＜吸込グリル昇降の設定（グリル昇降操作）＞

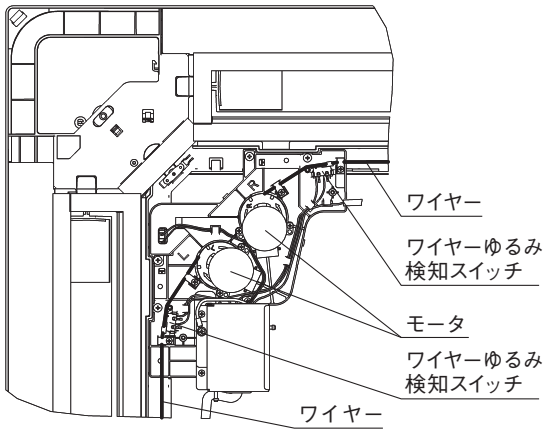
ラクリーナパネルを取付、配線接続をするだけでは吸込グリルの昇降はできません。
吸込グリルの昇降を可能にするために、ワイヤードリモコンまたはワイヤレスリモコンを使用して、吸込グリル昇降を有効にしてください。
設定方法はリモコンの取扱説明書を参照してください。

＜吸込グリル下降長さの設定（降下長設定）＞

吸込グリルの下降長さをお好みの下降長さに設定することができます。工場出荷時は２mに設定されています。
お好みの下降長さにしたい場合は、ワイヤードリモコンまたはワイヤレスリモコンを使用して、吸込グリルの下降長さを設定してください。
設定方法はリモコンの取扱説明書を参照してください。

ご注意

＜ワイヤーゆるみ検知機構について＞
ラクリーナパネルには、ワイヤーの絡まり防止のため、「ワイヤーゆるみ検知機構」を装備しています。吸込グリルを吊ったワイヤーがゆるんだ場合、ワイヤーゆるみ検知スイッチが働き、自動昇降用モータが自動停止します。
パネル据付後、 グリルが動かない場合、「ワイヤーゆるみ検知機構」が作動している 可能性がありますので、据付時にワイヤーの噛込み、絡まり等が無いか、ワイヤー経路をご確認ください。

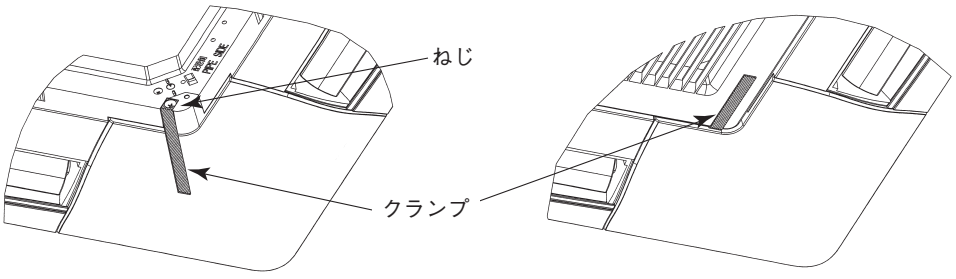


⑪ 電源投入前の吸込グリルの仮固定 ＜ラクリーナパネル＞

電源投入前は吸込グリルの自動昇降はできません。
1．電源投入前に吸込グリルを収納したい場合は、付属のクランプで吸込グリルを仮止めすることができます。
2．パネルの４コーナに付属のクランプを図のようにねじ止めしてください。（４コーナとも）
3．ワイヤーを折曲げたり、かみ込んだりしないように注意しながら、持ち上げパネルに収納してください。
4．取付たクランプを図のように吸込グリル側に折曲げ、吸込グリルを固定してください。

ご注意

クランプを装着したまま昇降動作を行った場合、吸込グリルの昇降装置が故障する恐れがあります。



5．仮固定が終わったら、クランプを取外した上で、コーナリッドをねじ止めしてください。

(2) 天井埋込型小容量４方向吹出し（FDTC）

PJF012D521A A

(a) 室内ユニットの据付

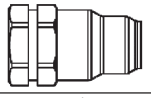
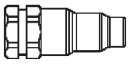
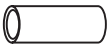
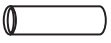
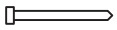
本説明書は、室内ユニットの据付方法を記載してあります。「室内ユニット据付工事安全上のご注意」および「微燃性冷媒取扱時の安全上のご注意」をご覧になった後、室内ユニットの据付を行ってください。
●電気配線（室内ユニット）は、142ページをご覧ください。
●リモコンの取付方法は、105ページをご覧ください。
●ワイヤレスキットの取付方法は、285ページをご覧ください。
●安全遮断弁の取付方法は、132ページをご覧ください。
●冷媒検知警報器の取付方法は、113ページをご覧ください。
●室外ユニットの据付方法、電気配線（室外ユニット）および冷媒配管工事方法は、室外ユニットの技術資料をご覧ください。
また、故障診断は、室内ユニットの結線銘板をご覧ください。本室内ユニットは必ずパネルを取付けてご使用ください。
この室内ユニットは、日本国内用に設計されているため海外では使用できません。また、海外においてはアフターサービスもできません。

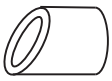
①据付前に

●据付はこの据付説明書に従って正しく行ってください。
●次の項目を確認してください。
　○機種・電源仕様　　○配管・配線・小物部品　　○付属品

室内ユニットを移動させるときは吊り金具(４か所)を持ち、他の部分(特に冷媒配管、ドレン配管および樹脂部品)には、力を加えないでください。

付属品

室内ユニット吊込み用		冷媒配管用				
平座金(M10)	レベルゲージおよび平座金仮固定	ねじ接合継手(大)※	ねじ接合継手(小)※	パイプカバー(大)	パイプカバー(小)	バンド
						
８個	１個	１個	１個	１個	１個	４本
吊りボルト用	室内ユニットの位置調整および吊り込み時の補助用	ガス管接続用	液管接続用	ガス管断熱用	液管断熱用	パイプカバー固定用

ドレン配管用				コントロール用
パイプカバー(大)	パイプカバー(小)	ドレンホース	ホースクランプ	解除ピン※
				
１個	１個	１個	１個	１本
ドレンソケット断熱用	ドレンソケット断熱用	ドレン配管接続用	ドレンホース取付用	インターロック解除用

※R32ビル用マルチ機のみ付属しています。

②室内ユニットの据付場所の選定

①据付場所は、下記条件に合う場所をお客様の承認を得て選んでください。
・冷風または温風が十分に行きわたる所。
　据付高さが３ｍを超えると暖気が天井にこもりますので、サーキュレータの併設をご指導ください。
　人感センサを使用する場合、据付高さは 4m 以内としてください。センサ感度が鈍くなり、検知しにくくなります。
・据付・サービス時の作業スペースが確保できる所。
・ドレン排水が確実にできる所。ドレン勾配のとれる所。
・吸込口、吹出口に風の障害のない所。火災報知器の誤作動しない所。ショートサーキットしない所。
・侵入外気の影響のない所。
・直射日光の当たらない所。
・周囲の露点温度が２８℃以下、相対湿度８０％以下の所。
　本室内ユニットは JIS 露付条件(室内：27℃ /78% RH)にて試験を行い、不具合のないことを確認しておりますが、室内ユニット周囲が上記条件以上の高湿度雰囲気の状態で運転すると水滴が落下する恐れがあります。そのような条件下で使用する可能性がある場合は、室内ユニットの全ておよび配管、ドレン配管にさらに10～20mmの断熱材を取付けてください。
・テレビ、ラジオより１ｍ以上離れた所。(映像の乱れや雑音が生じることがあります。)
・室内ユニット真下に食品・食器やパソコン・サーバ、医療機器など濡れて困るものを置かない所。
・調理器具が発する熱の影響を受けない所。
・フライヤの真上など油・粉・蒸気などを直接吸込まない所。
・蛍光灯、白熱灯よりできるだけ離れた所。
　ワイヤレス機種の場合、ワイヤレスリモコンでの正常な操作ができなくなることがあります。
②据付けようとする場所が室内ユニット重量に耐えられるかどうか検討し、危険と思われましたら板、桁等で補強して据付作業を行ってください。強度不足の場合は、室内ユニット落下によるケガの原因になります。
③ワイヤレス機種を２台以上据付る場合は、混信による誤動作を防止するため室内ユニット間を６ｍ以上離してください。
④室内ユニットを隣接して設置する場合は、室内ユニット間距離を４ｍ以上離して設置してください。

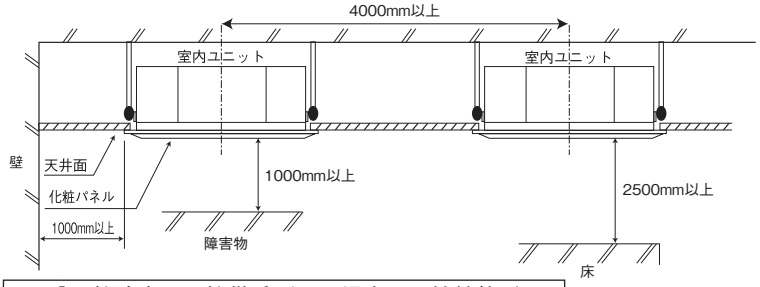
②室内ユニットの据付場所の選定のつづき

室内ユニット据付スペース

●室内ユニット－壁、室内ユニット－室内ユニット間など、間隔がとれない場合は、そちら側の吹出口を遮風しショートサーキットしないことを確認してください。

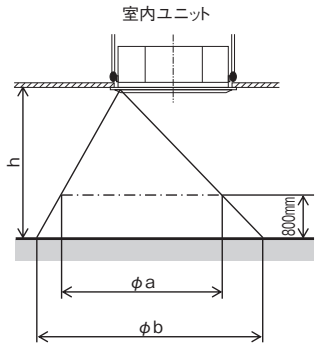
●**据付高さは２.５m以上としてください。**

＊この室内ユニットは「一般大衆が近づかない機器」に分類されます。



埋設配管途中に配管継手がある場合は、接続箇所の点検が可能なように点検口などを設けてください。

人感センサ検知範囲の目安



天井高さ　h [m]	2.7	3.5	4.0
検知範囲①　φa [m]	約 4.5	約 6.4	約 7.6
検知範囲②　φb [m]	約 6.4	約 8.3	約 9.5

吹出パターンの設定

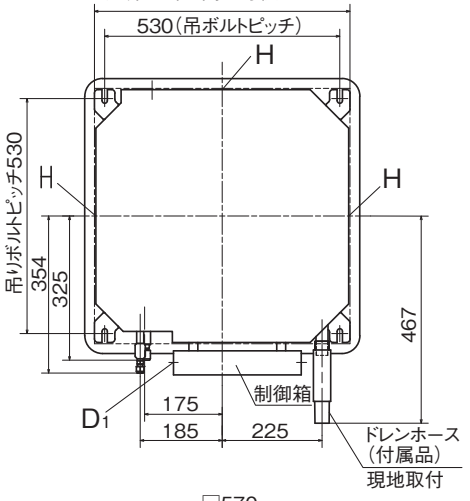
●部屋の形や据付位置に最適な吹出方向を４方向・３方向・２方向から選定してください。(１方向はできません。)
●吹出口数を変更する場合は、別売の遮風材を手配してください。
●２方向・３方向吹出の場合は風量「弱」での使用は避けてください。
●高温・多湿環境での２方向吹出は行わないでください。(結露・水漏れの原因になります。)
●吹出ルーバの上下位置の設定などによりさまざまな吹出パターンが設定できます。設定方法は取扱説明書をご覧ください。

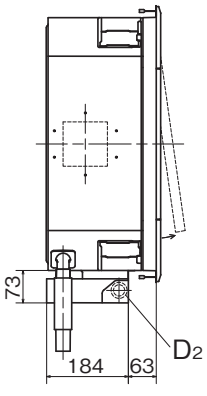
③据付準備

●吊りボルト長さが長くなる場合は耐震補強を実施してください。
　○システム天井（グリッド天井・ライン天井）の場合
　　吊り長さ（吊りボルト長さ）５００mm以上または天井ふところ高さ７００mm以上の場合に耐震ブレースを設置してください。
　○強度が十分にある天井面に設置され直接スラブから吊り下げる場合
　　吊り長さ（吊りボルト長さ）１０００mm以上の場合に耐震ブレースを設置してください。
●吊りボルト・ナット・ばね座金（Ｍ１０ or Ｍ８）を４組現地にて手配してください。

天井開口穴・吊りボルトピッチ・各配管の位置

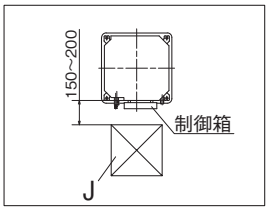
システム天井時の開口寸法口576～610
システム天井以外の開口寸法口576～600



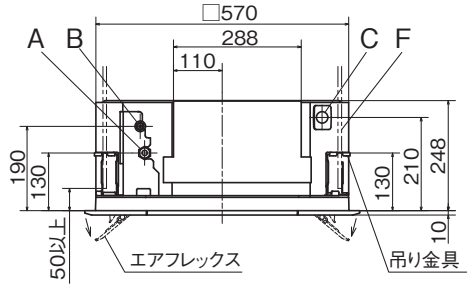


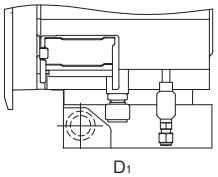
記号	内容
A	冷媒ガス側配管
B	冷媒液側配管
C	ドレン配管
D_1	電源線取入口
D_2	リモコン線･通信線取入口
F	吊りボルト
H	吹出分岐ダクト接続口
J	点検口

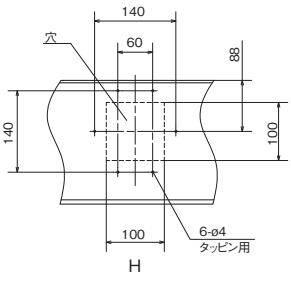
点検口設置位置



※システム天井以外の場合は制御箱側に点検口を設置してください。





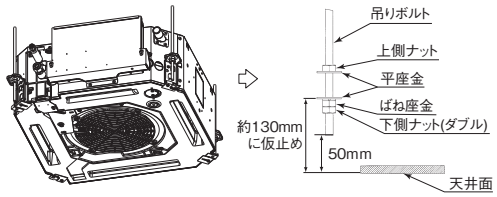


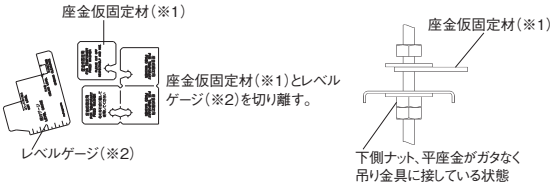
[mm]

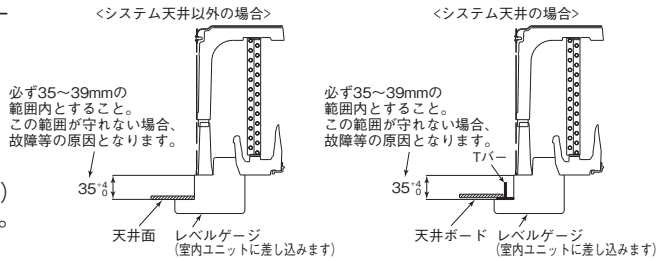
④室内ユニットの据付

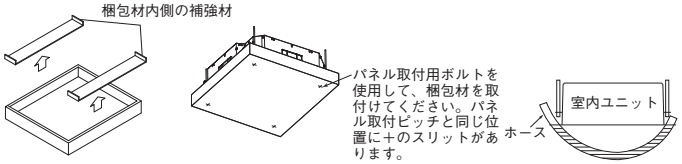
作業手順

1. このユニットは、システム天井用に設計されています。
   必要ならば、一時的にTバーを取外して、ユニットを据付けてください。
   もし、システム天井以外に据付ける場合は、制御箱側に点検口を設置してください。
2. 吊りボルト位置（530mm×530mm）を決めてください。
3. 吊りボルトは 4 本使用してください。
4. 吊りボルト長さは、天井面より 50mm 程度としてください。
5. 吊りボルトの下側ナット(4 か所)は、天井面から 130mm 程度に仮止めしてください。
6. 吊りボルトの上側ナット(4か所)は、室内ユニット吊り込みおよび高さ調整時に支障のないよう、下側ナットから十分距離を取った位置に仮止めしてください。
7. 吊りボルトの上側ナットと上側座金(各4か所)を下側ナットから十分な距離をとった状態で、座金仮固定材(※1)を吊りボルトに挿しこんでください。上側座金が落下してきません。
8. 室内ユニットを吊り込んでください。
9. 室内ユニット吊り込み後、付属のレベルゲージ(※ 2)を室内ユニットの吹出口に取付け、室内ユニットの吊り込み高さを調整してください。高さ調整は上側ナット(4か所)を緩めた状態で、下側ナット(4か所)で調整してください。室内ユニット吊り金具(4か所)が下側ナット，平座金にガタなく接していることを確認してください。
10. 座金仮固定材(4か所全て)を取外してください。
11. 室内ユニットの水平度を確認してください。水平度は水準器または透明ホースに水を入れたものを使用して確認してください。
    (室内ユニットの両端での高さ許容差は 3mm 以内)
12. 吊りボルトの上側ナット(4か所)を締付けてください。









室内ユニットの養生

●パネルをしばらくの間取付けられない場合、または室内ユニットを据付後に天井材を貼る場合は、梱包材 (天面ダンボール) を使用して、室内ユニットを養生してください。

室内ユニット据付時のお願い

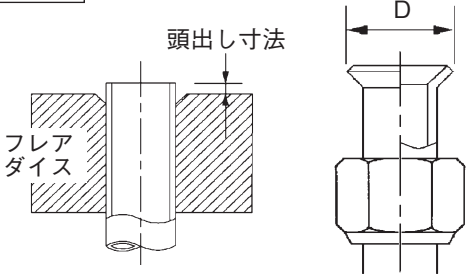
●上側ナットで高さ調整を行わないでください。室内ユニットに無理な力がかかり変形し、パネルが組付けできなかったり、ファン干渉音が発生することがあります。
●室内ユニットは必ず水平に据付、室内ユニット下面と天井面の高さを正しく設置してください。据付に不備があると風漏れ、結露・水漏れ、騒音の原因になります。
●パネルと天井面、およびパネルと室内ユニットとの接触部は確実に密着させてください。隙間があると風漏れ、結露・水漏れの原因になります。

⑤冷媒配管

冷媒配管時の注意事項

●冷媒配管は、新規配管をご使用ください。
●冷媒配管の接続方式は、「微燃性取扱時の安全上のご注意」に従い選定してください。
ねじ接合継手により接続する場合は、138ページの説明書に従い作業してください。
●フレア接続する場合、フレアナットは製品付属のものをご使用ください。 他のフレアナット(1種)を使用すると冷媒漏れの原因となります。
●既設配管再利用の可否および洗浄方法については、室外ユニットの据付説明書またはカタログ・技術資料で確認してください。
1) 再利用する場合、フレアナットやねじ接合継手は流用せず必ず未使用品を使用してください。
2) 再利用する場合、部分的に交換した新しい配管を室内ユニットに接続してください。

フレア接続準備



配管径 d mm	配管の最小肉厚 mm	フレア加工 頭出し寸法 mm		フレア外径 D mm	フレアナット締付トルク N·m
		リジッド（クラッチ式）			
		R32 用 R410A 用	従来ツール		
6.35	0.8	0 ～ 0.5	0.7 ～ 1.3	8.9 ～ 9.1	14 ～ 18
9.52	0.8			12.8 ～ 13.2	34 ～ 42
12.7	0.8			16.2 ～ 16.6	49 ～ 61
15.88	1			19.3 ～ 19.7	68 ～ 82
19.05	1.2			23.6 ～ 24.0	100 ～ 120

●冷媒配管は、リン脱酸銅合金継目無銅管（C1220T、JIS H 3300）をご使用ください。
また管の内外面は美麗であり、使用上有害な硫黄、酸化物、ゴミ、切粉等（コンタミ）の付着がないことを確認してください。
冷媒配管の内部にコンタミの付着があると冷凍機油劣化などの原因になります。

⑤冷媒配管のつづき

●**指定冷媒以外は使用しないでください。**
指定冷媒以外を使用すると、冷凍機油劣化などの原因になります。また空気などが混入すると、異常高圧になり、破裂などの原因になります。指定冷媒は室外ユニットの形式ラベルをご覧ください。

●**据付に使用する配管は屋内に保管し、両端ともろう付する直前までシールしてください。**
冷媒回路内に埃、ゴミ、水分が混入すると、油の劣化・圧縮機の故障の原因になります。

●**工具はＲ３２用またはＲ４１０Ａ用の工具を使用してください。**

フレア接続手順

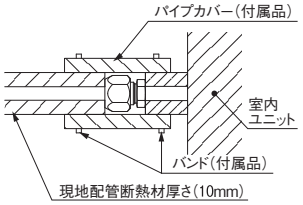
1．室内ユニットのフレアナットおよびキャップを取外してください。
※室内ユニットの配管端部のフレアナットは、必ずスパナで２丁掛けして外してください。
（このときガスが出ることがありますが、異常ではありません。）
●**フレアナット飛びに注意してください。**（内部に圧力がかかっている場合があります。）

2．液管・ガス管をフレア加工し、右図に示すように冷媒配管を接続してください。
※配管の曲げは４Ｄ以上の大きな半径で行い、曲げなおしを行わないでください。
また配管をねじったり、2/3D 以下につぶしたりしないでください。
※フレア接続は､以下のように行ってください。
・フレアナット接続時は、フレア中心を合わせ、最初手回しで３～４回転ねじ込み、２丁スパナ掛けで表の締付力で締めてください。

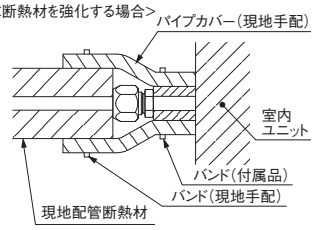
3．室内ユニットのフレア部は、ガス漏れチェック後、右図に示すように断熱材をかぶせ、バンドでしっかりと締付けてください。
●**ガス側配管、液側配管とも断熱は完全に行ってください。**
※配管は断熱しないと結露し水漏れします。
●**ガス側配管の断熱材は耐熱120℃以上のものを使用してください。**
●**高湿度雰囲気で使用する場合は設置環境に合わせて、冷媒配管の断熱を強化してください。強化しない場合は断熱材表面に結露することがあります。**

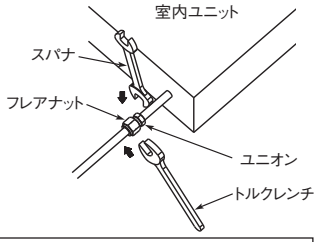
4．冷媒は室外ユニットに充填されています。
室内ユニットおよび接続配管分の冷媒追加量については室外ユニットに付属の据付説明書をご覧ください。

<断熱材厚さ10mmを使用する場合>



<断熱材を強化する場合>





注意
同一締付トルクでも、ユニオンのねじ部に冷凍機油を塗布した場合は、ねじ部摺動摩擦力が下がることにより、軸方向分力が増加してフレアの応力腐食割れの原因となることがあるため、ユニオンねじ部、またはフレア外面への冷凍機油塗布は推奨しません。冷凍機油を塗布する場合は、フレア内面へのみとしてください。

⑥ドレン配管

ドレン配管時の注意事項

●**ドレン工事は、据付説明書に従って確実に排水するように配管してください。**
記載に従って施工しない場合、屋内に浸水し、家財などを濡らす原因になることがあります。

●**ドレン工事は付属のドレンホースを必ず使用してください。使用しないとドレンソケットに力がかかり破損し､水が漏れることがあります。**

●**ドレン配管はイオウ系ガスなど有害ガスおよび可燃性ガスが発生する排水溝には､入れないでください。**
室内に有害ガスおよび可燃性ガスが流入し、中毒や酸素欠乏になることがあります。また熱交換器の腐食、異臭の原因になります。

●**接続部から水漏れのないように確実に施工してください。**

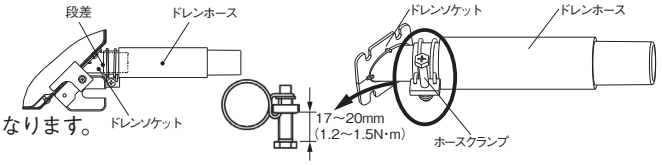
●**水漏れが起こらないように、断熱工事を確実に行ってください。**

●**施工後、ドレンが排水されていることを、室内ユニットのドレン口およびドレン配管最終出口部で確認してください。**

●**ドレン配管は下り勾配（1/100 以上）とし、途中山越えやトラップを作らないでください。また、ドレン配管にエア抜きは、絶対に設けないでください。**
試運転時にドレン排水が確実に行われていることを確認してください。また、点検・メンテナンス作業のためのスペースを確保してください。

ドレンソケットとドレンホースの接続

●**ドレンソケットの周囲温度が50℃以上となる場合は、ドレンソケットとドレンホースを接着してください。**
●接着剤とホースクランプは併用しないでください。水漏れの原因となります。

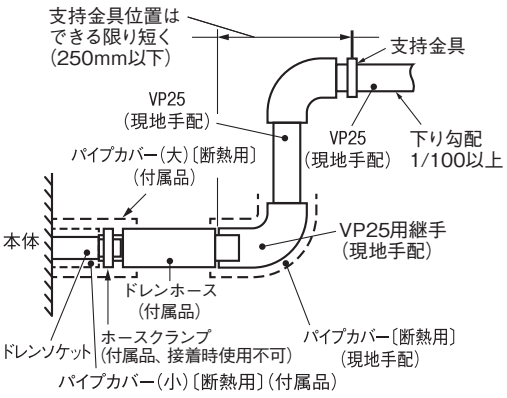


〈ホースクランプを使用する場合〉

1. 付属のドレンホースの軟質側にホースクランプを通し、ドレンソケットの段差部まで確実に挿入してください。その際、ホースクランプのねじが室内ユニットの外側になる位置にし、ボルトが鉛直方向になるようにしてください。
2. ホースクランプはドレンホースの断熱材に接触する位置で､ねじを締付けてください。
3. ねじを数回回転させて締付が固くなる位置まで締付け、それ以上に締付けないでください。
ねじの締代の目安は17～20mm（参考:1.2～1.5N･m）です。

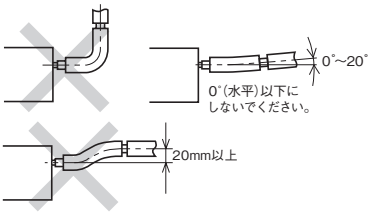
〈接着する場合〉

1. 塩ビ系接着剤を使用して、ドレンホースの軟質側とドレンソケットを接着してください。その際、ドレンホースをドレンソケットの段差部まで確実に挿入してください。
2. 接着方法は接着剤の使用方法に従ってください。
接着剤推奨品：積水化学工業製エスロン No73S，クボタケミックス製タフダイン青
※フタル酸エステル類が含有している接着剤は使用しないでください。水漏れの原因となります。
●ドレンホースやドレンソケットの内部に接着剤が流れ込まないようにしてください。

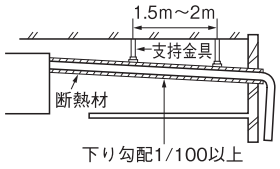


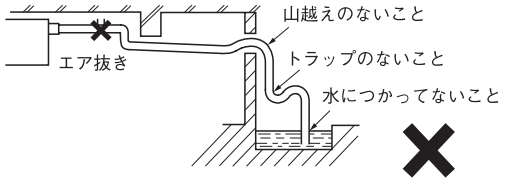
⑥ドレン配管のつづき

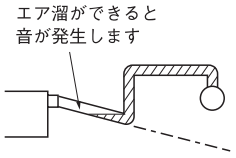
ドレンホースと配管の接続



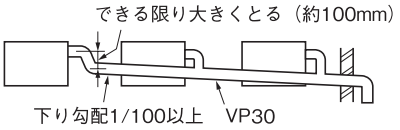
1. VP25用継手やエルボ、配管(いずれも現地手配)を接続してください。
   ※ドレン管は、市販の硬質塩ビパイプ一般管VP25を使用してください。
   ●接着剤は付属のドレンホース内部に流れ込まないようにしてください。
   乾燥後、フレキ部に力が加わった場合、フレキ部が破損することがあります。
   ●ドレンホースは、室内ユニットあるいはドレン配管の据付時の微小なズレを吸収するためのものです。故意に曲げたり、引っ張って使用された場合は、破損し、水漏れに至ることがあります。
2. ドレン配管を接続する場合、ドレンソケットやドレン配管に力が加わらないようにしてください。
   できる限り室内ユニット近傍 (現地手配の継手先端から 250mm 以内) でドレン配管を支持してください。
3. ドレン配管は下り勾配(1/100以上)としてください。不可能な場合はドレンアップしてください。途中山越えやトラップを作らないように施工してください。
   ●エア抜きは絶対に設けないでください。







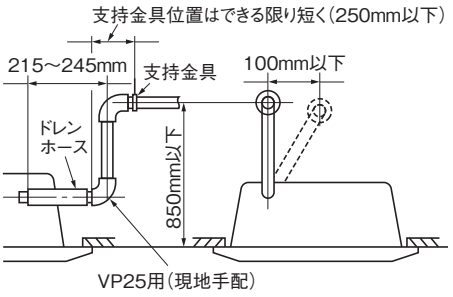
●複数台のドレン配管の場合、室内ユニットドレン出口より約100mm下に集合配管がくるようにしてください。
また集合配管はVP30以上を使用してください。



4. ドレン配管の断熱施工を行ってください。
   ●結露が発生し、水漏れをおこすおそれがありますので、ドレンソケット部および室内にある硬質塩ビパイプは確実に断熱してください。
   ※ドレンソケット部は、排水テスト実施後、付属のパイプカバー(小)をドレンソケット部に装着した後、付属のパイプカバー(大)にてパイプカバー(小)、ホースクランプおよびドレンホースの一部を覆い、テープにより隙間のないように巻いてください。

ドレンアップする場合

●ドレン配管の出口高さは、天井面より850mmまで高くすることができます。天井内に障害物などがある場合、エルボなどを用いて施工してください。この場合、ドレン配管を立ち上げるまでの距離が長いと、運転停止時におけるドレン逆流量が多くなり、オーバーフローすることがありますので、右図寸法内で処理願います。

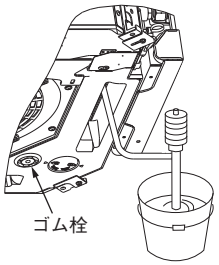


ドレン排水テスト

●ドレン配管工事の完了後に、排水が確実に行われていることを、接続部および室内ユニットのドレンパン部から水漏れのないことを確認してください。このとき、ドレンポンプのモータ音に異常がないことも確認してください。
●暖房期の据付の際にも必ず実施してください。
●新築の場合には天井を張る前に実施してください。

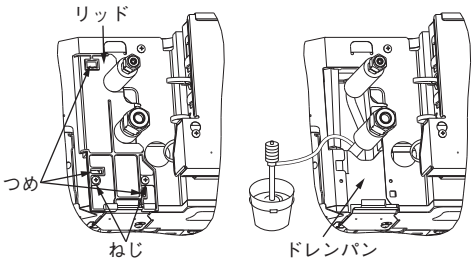
1. 室内ユニットドレンパンの中へ水を約1000cc 注水してください。注水時は、ドレンポンプなどの電機部品に水をかけないようにしてください。
   注水は、吹出口から給水ポンプなどを使用するか、冷媒配管取出部の注水口から行ってください。
2. ドレン排水が確実に行われること、ドレン配管接続部から水漏れのないことを確認してください。
   ドレンポンプの回転音を確認しながら排水するかどうかをテストしてください。ドレン排水の確認は、ドレンソケット部 (透明) より確認できます。
3. 排水テスト後は、ゴム栓を外して水抜きを行ってください。
   水抜き確認後は、ゴム栓を元通りにはめ込んでください。
   ドレン配管の断熱を室内ユニット部まで完全に行ってください。
   リッドを外して注水した場合は、リッドを装着しなおしてください。

●吹出口から注水する場合



●冷媒配管取出部から注水する場合

(1) ねじ2か所を外します
(2) つめ部の引っかかりを外して、リッドを外します。



ドレンポンプ運転方法

○電気配線工事が完了している場合

ドレンポンプの運転がリモコン(ワイヤード)操作により可能です。運転操作方法は、電気配線工事説明書の ドレンポンプ運転操作 をご覧ください。

○電源が供給されている場合

室内ユニット基板上のSW7−1をONにし、かつ、基板上のコネクタCNBを抜いた後、電源ON(端子台①、②へAC200V)すると、ドレンポンプのみ連続運転します。ドレン排水確認後は、必ずSW7−1を元の状態(OFF)に戻し、かつ、基板上のコネクタCNBを差し込んでください。

○電源が供給されていない場合

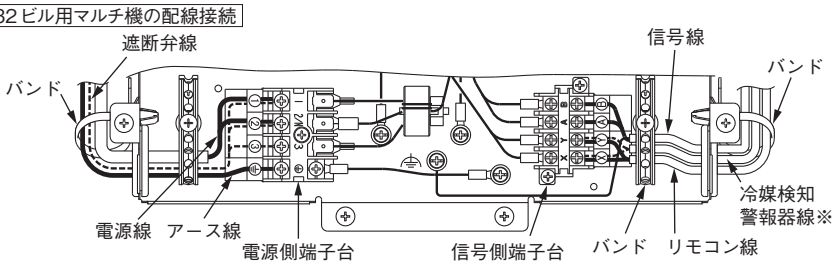
ドレンポンプ試運転用チェッカ (別売) でドレンポンプを運転することが可能です。操作方法はドレンポンプ試運転チェッカに付属の取扱説明書をご覧ください。

⑦電気配線取出位置および電気配線接続

●電気工事は電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」「内線規程」および電気配線工事説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用してください。
●配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定してください。
●電源線と信号線は同一経路を通さないようにしてください。誤動作や故障の原因になることがあります。
●D種接地工事を必ず行ってください。
●電気配線工事の詳細は、142ページをご覧ください。

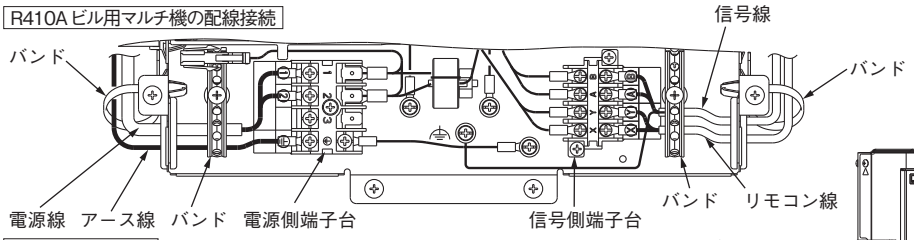
1. 室内ユニット本体の制御箱の蓋のねじ(2本)を緩めてください。
2. 制御箱の蓋を図の矢印方向にスライドさせて、取外してください。
3. 配線を制御箱内に入れ、端子台に確実に接続してください。
4. 下図のように配線をバンドで固定してください。
5. 配線を噛込まないように制御箱の蓋を取付、ねじ(2本)で締付けてください。

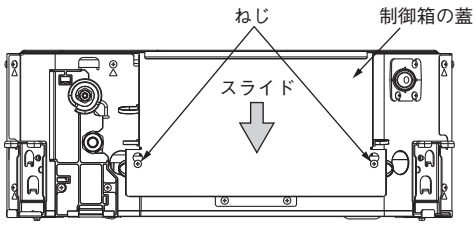
R32ビル用マルチ機の配線接続



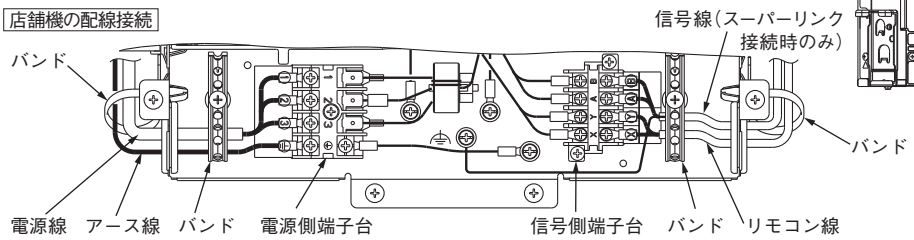
※他社製の安全対策機器を接続する場合は電気配線工事説明書をご覧ください。

R410Aビル用マルチ機の配線接続





店舗機の配線接続



メインヒューズ仕様

仕様	部品番号
T3.15A L250V	SSA564A149AF

⑧インターロック機能（R32 ビル用マルチ機のみ）

● R32 ビル用マルチ機の室内ユニットは、冷媒漏えいの安全対策のためにインターロック機能が有効になっています。
●**インターロック機能が有効になっている場合、空調システムは運転できません。**
※インターロックが有効状態だとリモコンにメンテナンスコード（M28）が表示され、ユニットは運転できません。

インターロック機能の解除方法

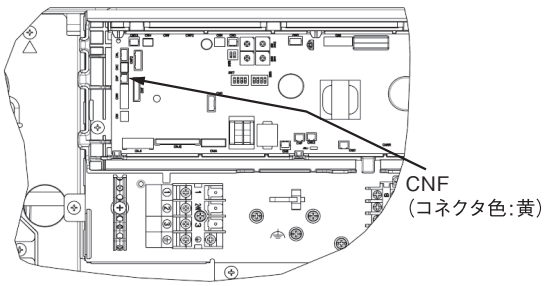
○すべての安全対策機器が必要な場合
下記のすべての安全対策機器を室内ユニットに接続してください。
・安全遮断弁
・冷媒検知警報器
・eco タッチリモコン（RC-DX3D 以降）

○接続する安全対策機器が一部のみ・安全対策機器が必要ない場合
室内ユニットに付属のインターロック解除ピンを室内制御基板上のコネクタに接続してください。（下図参照）
※解除ピンの接続の前には、**冷媒漏えいに対する安全対策が十分であること**、もしくは**安全対策が必要ないこと**を必ず確認してください。
※冷媒検知警報器に子機として接続している室内ユニットのインターロック機能を解除するためには、解除ピンの接続が必要です。
※安全対策機器の要否、およびインターロック機能についての詳細は、「安全対策マニュアル」をご覧ください。

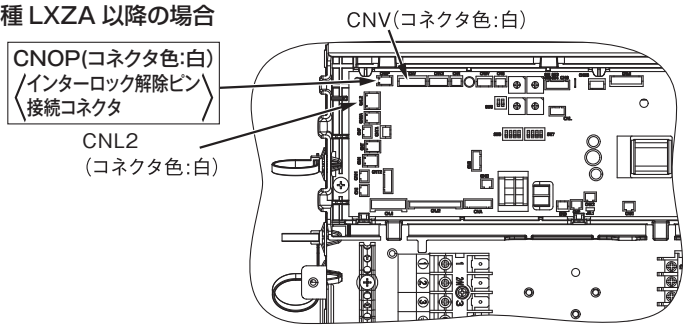
＜インターロック解除ピンの接続コネクタ＞

インターロック解除ピンは室内ユニットの制御箱付近に付属しています。
使用しない場合は取外して廃棄してください。

●機種 LXZ の場合



●機種 LXZA 以降の場合



⑨パネルの取付

●パネルは、電気配線工事完了後に、室内ユニットに取付けてください。
●パネルの取付方法は、パネル付属の据付説明書をご覧ください。

⑩室内ユニット据付工事完了後のチェック項目

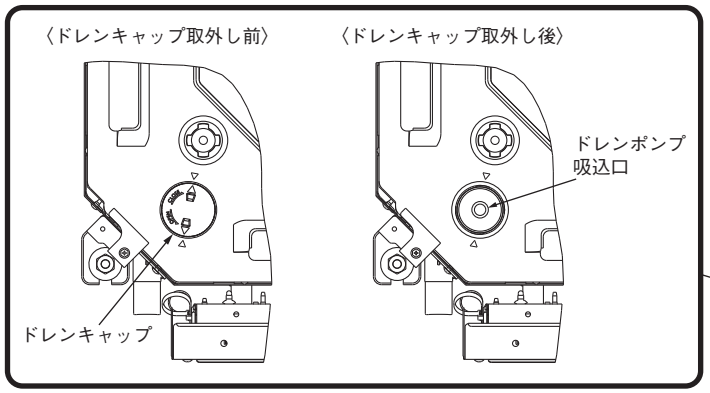
●室内ユニット・パネル据付工事、電気配線工事完了後、下記項目についてチェック願います。
R32 ビル用マルチ機の場合、付属の「据付工事施工チェックリスト（R32 ビル用マルチ）」を用いて安全対策機器の確認をしてください。

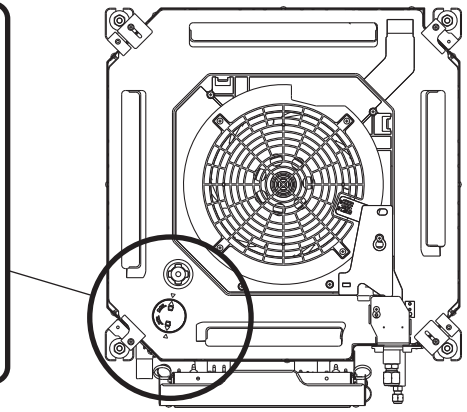
チェック項目	不良の場合	チェック欄
室内外ユニットの取付はしっかりしていますか。	落下、振動、騒音	
ガス漏れ検査は行いましたか。	冷えない	
断熱は完全に行いましたか。	水漏れ	
ドレン排水はスムーズに流れていますか。	水漏れ	
電源電圧は室内ユニットの銘板と同じですか。	運転不能・焼損	
誤配線・誤配管はありませんか。	運転不能・焼損	
アース工事はされていますか。	漏電時危険	
配線の太さは仕様通りですか。	運転不能・焼損	
室内外ユニットの吸込・吹出口が障害物でふさがれていませんか。	冷えない	

⑪ドレンパン汚れ確認、ドレンポンプ吸込口清掃（メンテナンス）

ドレンパン汚れ確認方法

1. パネル据付説明書に従ってパネルを取外してください。
2. ドレンキャップからドレンパンの汚れやドレンポンプ吸込口を確認してください。汚れが多い場合はドレンパンを取外し、清掃してください。



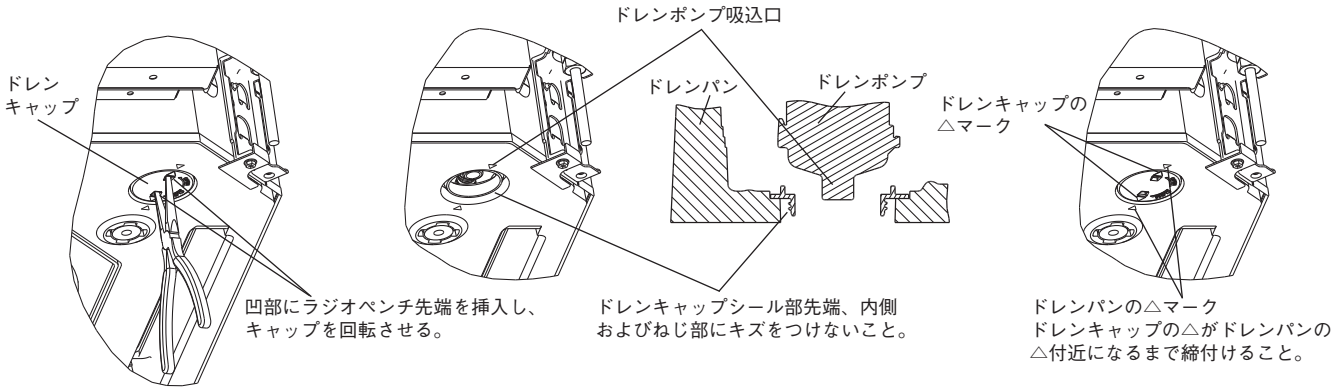


ドレンポンプ吸込口の清掃

●ドレンパンを取外さず、ドレンキャップを取外すことでドレンポンプ吸込口およびその付近の清掃ができます。
●ドレンキャップを取外す前に、ゴム栓を取外してドレンパン内のドレンを排水してください。

1. ドレンキャップの凹部（2 か所）にラジオペンチの先を挿入し、反時計回りに約 1 回転するとドレンキャップを取外せます。
2. ドレンポンプ吸込口を清掃する場合はプラスチック製の道具を使用してください。金属製の道具を使用するとドレンキャップ取付部をキズつけ、水漏れの原因になります。
3. ドレンキャップを取付ける前に、流水で水洗いし、**ドレンキャップ内側の異物を取除いてください。**異物が付着したままドレンキャップを取付けると水漏れの原因になります。
4. ドレンキャップの取付は、ラジオペンチでドレンキャップの凹部を使用して取付てください。時計回りに約 1 回転させ、**キャップが回転しなくなるまで締付けてください。**キャップが 1 回転以上回転しない場合は正しく取付けられていません。一度、ドレンキャップを取外し、改めて取付直してください。
5. ドレンキャップ締付後、ドレンキャップの△マークがドレンパンの△マーク付近にあることを確認してください。ドレンキャップの△マークがドレンパンの△マーク付近にない場合は、増締めしてください。
6. 取外したゴム栓は確実に装着してください。装着が不完全な場合、結露・水漏れの原因となります。

⑪ドレンパン汚れ確認、ドレンポンプ吸込口清掃（メンテナンス）のつづき

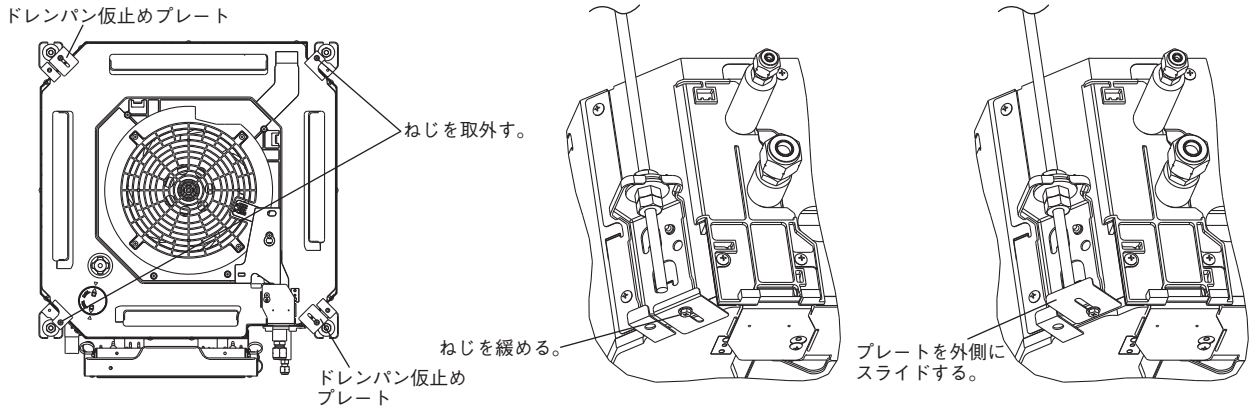


ドレンパン取外し時の注意事項

●ドレンパンを取外す前に、ドレンパン内のドレンを排水してください。ゴム栓を取外して排水してください。

●ドレンパンは仮止めプレートで仮止めされています。ドレンパン取付ねじ(2個)を取外し、仮止めプレートのねじ(2個)を緩めてください。
仮止めプレートをドレンパンの外側にスライドしてください。ドレンパンを取外せます。

●ドレンパン取付時は、仮止めプレートを内側にスライドし、ドレンパンを仮止めしてください。その後、ドレンパン取付ねじ(2個)と仮止めプレートのねじ(2個)を締付けてください。また、取外したゴム栓は確実に取付けてください。



(b) パネルの据付

パネル形式：TC-PSAE-5BW

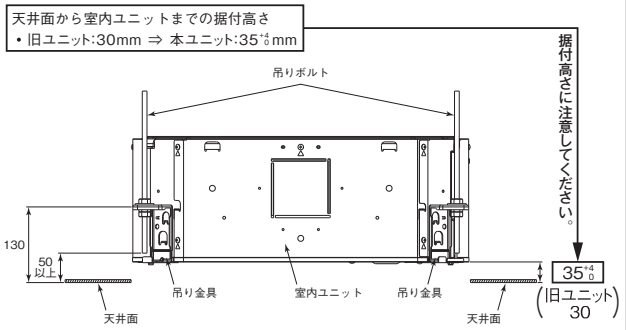
PJF012D510

室内ユニットの据付説明書と共にお読みください。

※ご使用前の注意点

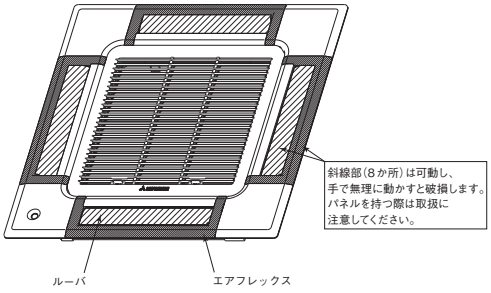
①室内ユニットの据付高さに注意してください。
また、本室内ユニットは旧ユニット（従来機）と据付高さが異なるため、注意してください。

天井面から室内ユニットまでの据付高さ
・旧ユニット:30mm ⇒ 本ユニット:35$^{+4}_{0}$mm



※室内ユニットが上記の高さに据付けられていない場合、風漏れによる露付・露垂れや天井面の汚れ発生の原因となります。

②ルーバおよびエアフレックスは無理に動かさないでください。



⚠ 警　告

●配線は、確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。
接続や固定が不完全な場合は、発熱、火災等の原因になります。

●元電源を切った後に電気工事をする。
感電、故障や動作不良の原因になります。

機能名称について

機能の名称の意味は下記のとおりです。

エアフレックス ： ドラフト防止機能

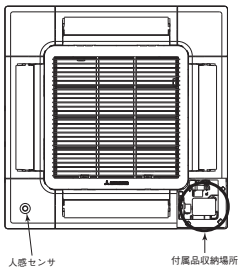
① 据付の前に

・据付はこの説明書に従って正しく行ってください。
・次の項目を確認してください。
○パネル・リモコンのタイプ
○付属品

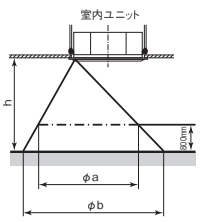
付属品

ボルト		4本	パネル取付用
ストラップ		4本	コーナリッド落下防止用
グリルフック		1個	グリル落下防止用
ねじ		4本	コーナリッド固定用

注：付属品はコーナリッドを外した位置にあります。



人感センサ検知範囲の目安



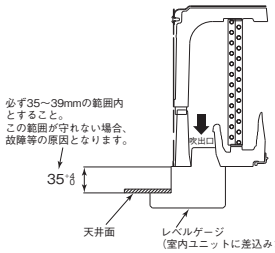
天井高さ　h [m]	2.7	3.5	4.0
検知範囲①　φa [m]	約4.5	約6.4	約7.6
検知範囲②　φb [m]	約6.4	約8.3	約9.5

② 室内ユニットの据付高さの確認

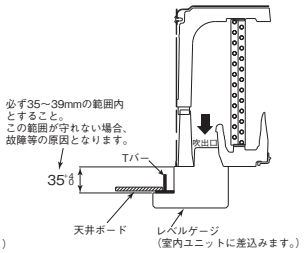
・室内ユニットの据付説明書と共にお読みください。
・室内ユニットに付属されているレベルゲージで室内ユニット高さおよび天井開口寸法が正しいことを確認してください。
・室内ユニットと天井材との取付レベルを確認してください。
・室内ユニット付属のレベルゲージを吹出口にセットし、室内ユニットの吊込み高さを調整してください。
・レベルゲージはパネル取付前に取外してください。

ご注意
室内ユニットと天井材との高さは、パネル取付の際、パネルに無理な荷重がかからない高さにしてください。
パネルが変形し破損の恐れがあります。

<システム天井以外の場合>

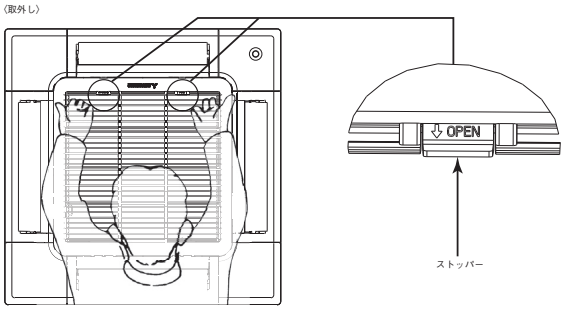


<システム天井の場合>



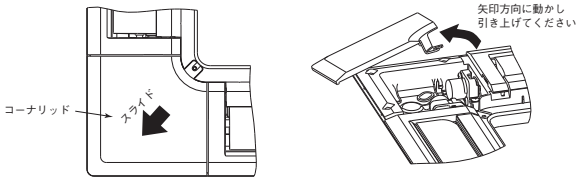
③ 吸込グリルの取外し

1．吸込グリルのストッパー（2か所）に指をかけて「OPEN」の方向に押したまま吸込グリルを下方へ引くと吸込グリルが開きます。
2．吸込グリルが開いた状態で吸込グリルのヒンジ部をパネルから外します。



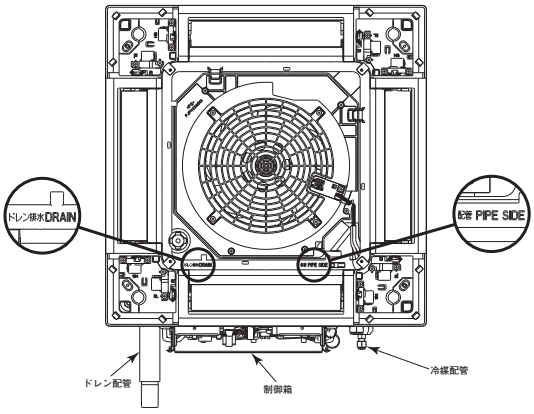
④ コーナリッドの取外し

・コーナリッドを矢印の方向へ移動させ取外してください。(4コーナとも)



⑤ パネルの取付方向

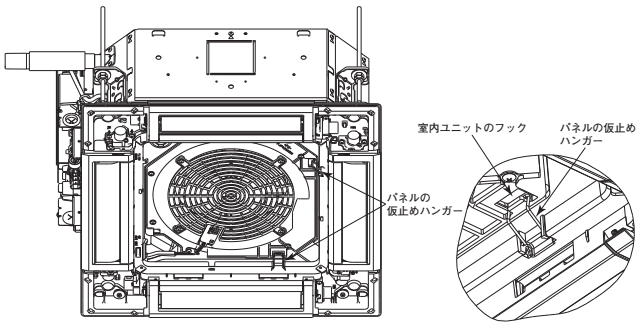
・パネルの取付方向は室内ユニットに対し方向性があります。
・パネルは、下図に示す方向で取付けてください。
・パネル吸込部の「ドレン排水」と室内ユニットのドレン配管の位置を合わせてください。
・パネル吸込部の「配管側」と室内ユニットの冷媒配管の位置を合わせてください。



ご注意
・上図以外の方向で取付けると、風漏れの原因となり、また電気配線の接続ができません。

⑥ パネルの取付

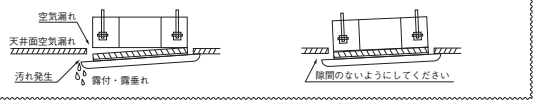
1．パネルの仮止め
・パネルの仮止め用ハンガーを起こします。（2か所）
・パネルの仮止め用ハンガーを室内ユニットのフックにかけて、パネルを室内ユニットに吊るします。

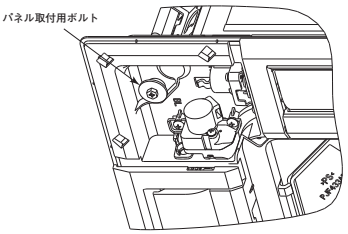


2．パネルの室内ユニットへの固定
・付属のパネル取付用ボルト４本を用いて、室内ユニットに締付けてください。

ご注意
人感センサ配線が噛込まないように注意してください。

ご注意
・吊りボルトの締込みが不十分な場合、下図のような不具合発生の原因となりますので確実に締込んでください。
・吊りボルトを締込んでも天井面とパネルとの間に隙間ができる場合は、室内ユニットの高さを再調整してください。

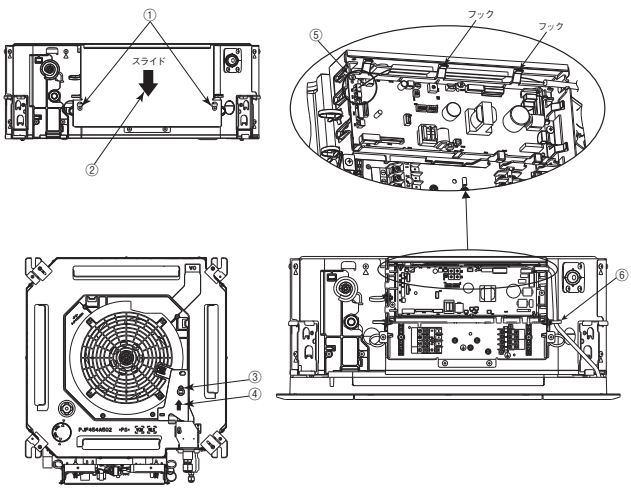




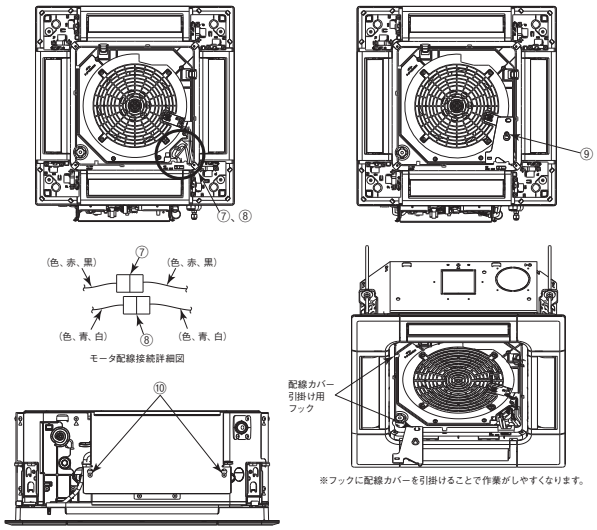
ご注意
パネル取付の際、パネルに無理な荷重がかからないよう、室内ユニット据付高さを調整してください。
パネルが変形し、吸込グリル、エアフレックス部品が収まらないおそれがあります。

⑦ 電気配線

①ユニット本体の制御箱のねじ（2本）を緩めてください。
②制御箱の蓋を図の矢印方向にスライドさせて取外してください。
③配線カバーのねじを緩めてください。
④図の矢印方向に蓋をスライドさせて、配線カバーを取外してください。
⑤人感センサ配線のコネクタを制御箱内の基板のCNL（3P, 黒）に接続してください。
⑥図のように人感センサ配線をバンドで固定してください。
⑦パネル側のルーバモータ配線（配線色：赤, 黒）のコネクタを、ユニット側のルーバモータ配線（配線色：赤, 黒）のコネクタCNJ3（20P, 白）に接続してください。
⑧パネル側のエアフレックスモータ配線（配線色：青, 白）のコネクタを、ユニット側のエアフレックスモータ配線（配線色：青, 白）のコネクタCNJ4（20P, 白）に接続してください。
⑨配線が噛込まないように配線カバーを取付け、ねじで締付けてください。
⑩配線を噛込まないように制御箱の蓋を取付け、ねじ(2本)で締付けてください。



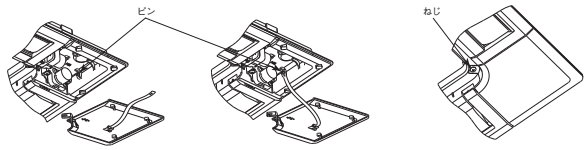
⑦ 電気配線のつづき



※フックに配線カバーを引掛けることで作業がしやすくなります。

⑧ コーナリッドの取付

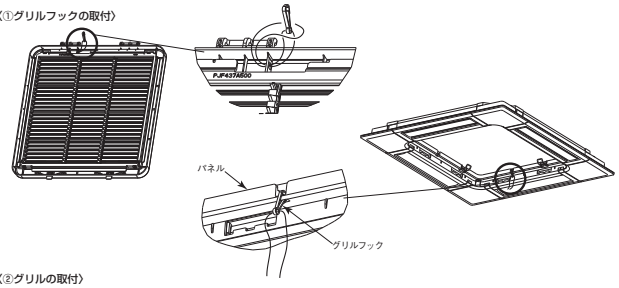
1．付属のコーナリッド落下防止用ストラップをコーナリッドのビンに折返して引掛けてください。
2．コーナリッドに取付けたストラップの反対側をパネルのビンに引掛けてください。
3．コーナリッドのつめ3か所をはめ、付属のねじで固定してください。



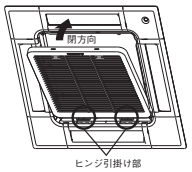
⑨ 吸込グリルの取付

パネルと吸込グリルには方向性がありません。（吸込グリルのヒンジは４辺どこでも取付け可能です。）
吸込グリルの取付け方法は ⑧ 吸込グリルの取外し の手順を逆に作業してください。
①グリルフックをパネルに取付けてください。
②吸込グリルのヒンジをパネルのヒンジ挿入穴に取付けてください。
吸込グリルのヒンジを取付け後、ストッパー（2か所）を押したまま、閉じてください。
両方のストッパーが確実にパネルに差込まれていることを確認してください。

〈①グリルフックの取付〉



〈②グリルの取付〉



ご注意
・グリルフックは確実にパネル本体側に取付けてください。
・吸込グリルの取付は、必ずヒンジ側から行ってください。
・吸込グリルは確実に取付けてください。取付が不十分ですと落下する恐れがあります。
・ストッパーが変形・破損した場合は、速やかに修理依頼し、交換してください。吸込グリルが落下する恐れがあります。

⑩ パネルの設定

＜ルーバの動作範囲設定（フリーフロー設定）＞
ワイヤードリモコンを使用することで、吹出口のルーバの動作範囲を変更することができます。本モードで上限位置と下限位置を設定すると、ルーバは設定された上限位置と下限位置の間で動作します。各ルーバ毎に個別の動作範囲の設定が可能です。

＜エアフレックスの設定＞
エアフレックスパネルを取付け、配線接続をするだけではエアフレックスは作動しません。
エアフレックスを作動させるために、ワイヤードリモコンまたはワイヤレスリモコンを使用して、エレックスの設定を有効にしてください。（ワイヤードリモコンRC-DX3A、RC-D4G以前、ワイヤレスリモコンRCN-D3G以前のリモコンでは設定できません。）
本モードで有効に設定すると運転開始時にエアフレックスが作動し、運転中は常時エアフレックスが開いています。また、停止時にエアフレックスは閉じます。各吹出口毎に有効/無効の設定が可能です。
設定方法はリモコンの取扱説明書を参照してください。

＜人感センサの設定＞
エアフレックスパネルを取付け、配線接続をするだけでは人感センサは機能しません。
人感センサを機能させるために、ワイヤードリモコンまたはワイヤレスリモコンを使用して、人感センサの設定を有効にしてください。（ワイヤードリモコンRC-DX2、RC-D4G以前、ワイヤレスリモコンRCN-D3G以前のリモコンでは設定できません。）
設定方法はリモコンの取扱説明書を参照してください。

(3) 天井埋込型２方向吹出し（FDTW）

PJB012D322BA

(a) 室内ユニットの据付

本説明書は、室内ユニットの据付方法を記載してあります。
「室内ユニット据付工事 安全上のご注意」および「微燃性冷媒取扱時の安全上のご注意」をご覧になった後、室内ユニットの据付を行ってください。

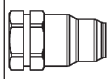
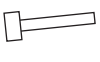
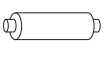
- 電気配線（室内ユニット）は、142ページをご覧ください。
- リモコンの取付方法は、105ページをご覧ください。
- ワイヤレスキットの取付方法は、295ページをご覧ください。
- 安全遮断弁の取付方法は、132ページをご覧ください。
- 冷媒検知警報器の取付方法は、113ページをご覧ください。
- 室外ユニットの据付方法、電気配線（室外ユニット）および冷媒配管工事方法は、室外ユニットの付属の説明書をご覧ください。

また、故障診断は、室内ユニットの結線銘板をご覧ください。
本室内ユニットは、必ずパネルを取付けてご使用ください。
この室内ユニットは､日本国内用に設計されているため海外では使用できません。また海外においてはアフターサービスもできません。

①据付の前に

●据付はこの据付説明書に従って正しく行ってください。
●次の項目を確認してください。
　○機種・電源仕様　　○配管・配線・小物部品　　○付属品

付属品

本体吊り込み用		冷媒配管用					ドレン配管用				コントロール用
平座金（M10）	レベルゲージ	ねじ接合継手（大）※	ねじ接合継手（小）※	パイプカバー（大）	パイプカバー（小）	バンド	パイプカバー（大）	パイプカバー（小）	ドレンホース	ホースクランプ	解除ピン※
											
8個	1個	1個	1個	1個	1個	4本	1個	1個	1個	1個	1本
室内ユニット吊り下げ用	室内ユニット吊り込み調整用	ガス管接続用	液管接続用	ガス管断熱用	液管断熱用	パイプカバー固定用	ドレンソケット断熱用	ドレンソケット断熱用	ドレン配管接続用	ドレンホース取付用	インターロック解除用

※ R32 ビル用マルチ機のみ付属しています。

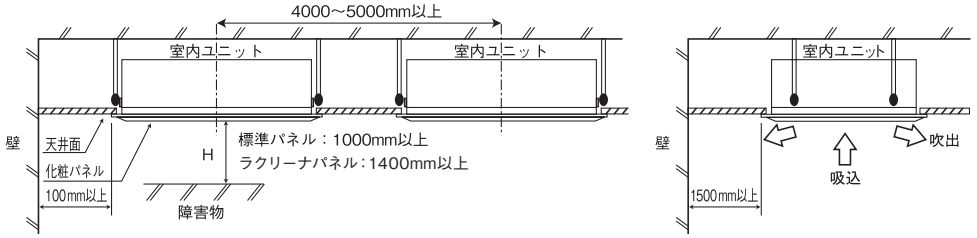
②室内ユニットの据付場所の選定

①据付場所は、下記条件に合う場所をお客様の承認を得て選んでください。
- ・冷風または温風が十分に行きわたる所。
  据付高さが３ｍを超えると暖気が天井にこもりますので、サーキュレータの併設をご指導ください。
- ・人感センサを取付ける場合、据付高さは 4m 以内としてください。センサ感度が鈍くなり、検知しにくくなります。
- ・据付・サービス時の作業スペースが確保できる所。
- ・ドレン排水が確実にできる所。ドレン勾配のとれる所。
- ・吸込口、吹出口に風の障害のない所。火災報知器の誤作動しない所。ショートサーキットしない所。
- ・侵入外気の影響のない所。
- ・直射日光の当たらない所。
- ・周囲の露点温度が２８℃以下、相対湿度８０％以下の所。
  〔ユニット周囲が上記条件以上の高湿度雰囲気の状態で運転すると水滴が落下する恐れがあります。そのような条件下で使用する可能性がある場合は、ユニット本体の全ておよび配管、ドレン配管にさらに１０～２０ｍｍの断熱材を取付けてください。〕
- ・テレビ、ラジオより１ｍ以上離れた所。（映像の乱れや雑音が生じることがあります。）
- ・室内ユニット真下に食品・食器やパソコン・サーバ、医療機器など濡れて困るものを置かない所。
- ・調理器具が発する熱の影響を受けない所。
- ・フライヤの真上など油・粉・蒸気などを直接吸込まない所。
- ・蛍光灯、白熱灯よりできるだけ離れた所。
  ワイヤレス機種の場合、ワイヤレスリモコンでの正常な操作ができなくなることがあります。

②据付けようとする場所が室内ユニット重量に耐えられるかどうか検討し、危険と思われましたら板、桁などで補強して据付作業を行ってください。強度不足の場合は、室内ユニット落下により、ケガの原因になります。
③ワイヤレス機種を２台以上据付ける場合は、混信による誤動作を防止するため室内ユニット間を６ｍ以上離してください。
④室内ユニットを隣接して設置する場合は、室内ユニット間距離を４～５ｍ以上離して設置してください。

室内ユニット据付スペース

●据付高さは２.５m以上としてください。※ この室内ユニットは「一般大衆が近づかいない機器」に分類されます。



③据付前の準備

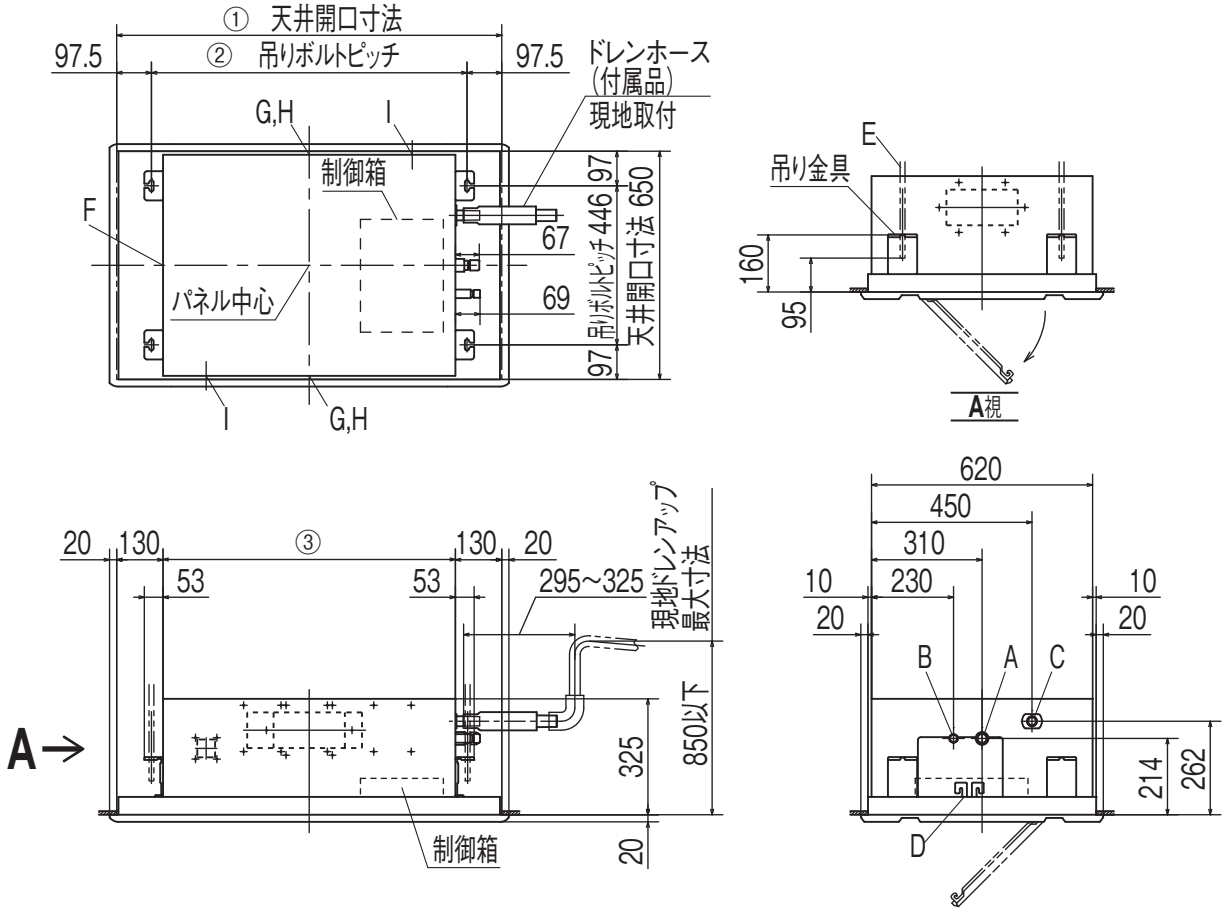
●吊りボルト長さが長くなる場合は耐震補強を実施してください。
　○システム天井（グリッド天井・ライン天井）の場合
　　吊り長さ（吊りボルト長さ）５００mm以上または天井ふところ高さ７００mm以上の場合に耐震ブレースを設置してください。
　○強度が十分にある天井面に設置され直接スラブから吊り下げる場合
　　吊り長さ（吊りボルト長さ）１０００mm以上の場合に耐震ブレースを設置してください。
●吊りボルト・ナット・バネ座金（Ｍ１０）を４組現地にて手配してください。

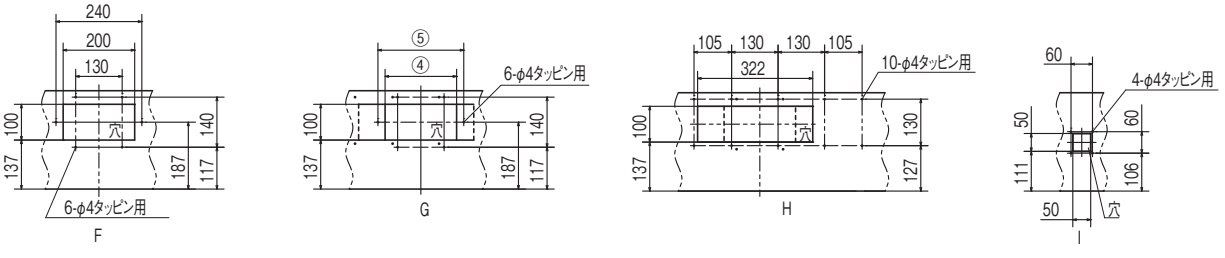
天井開口穴・吊りボルトピッチ・各配管の位置

記号	内容	記号	内容
A	冷媒ガス側接続口	F	OA 取入口
B	冷媒液側接続口	G	吹出分岐ダクト接続口
C	ドレン配管側接続口	H	加湿器接続口
D	電源取入口	I	加湿器余剰水接続口
E	吊りボルト		

※:ユニット形式を示す。 例　56形:FDTWZP56を表す。　（mm）

		機種　※	①	②	③	④	⑤
店舗	標準機 寒冷地機	56, 63, 80形	1080	885	820	200	240
		140, 160形	1795	1600	1535	440	480
R32 ビル用	マルチ機	22, 28, 36, 45, 56, 71, 80形	1080	885	820	200	240
		90, 112, 140, 160形	1795	1600	1535	440	480

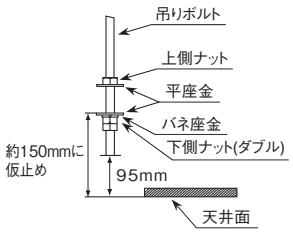

① 天井開口寸法
② 吊りボルトピッチ
97.5
97.5
ドレンホース
(付属品)
現地取付
G,H
I
制御箱
F
パネル中心
97
446
吊ボルトピッチ
650
天井開口寸法
67
69
97
I
G,H
E
吊り金具
160
95
A視
20
130
③
130
20
53
53
295~325
現地ドレンアップ
最大寸法
A→
325
850以下
20
制御箱
620
450
310
10
230
10
20
20
B
A
C
214
262
D

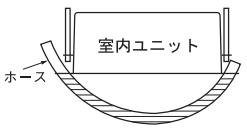


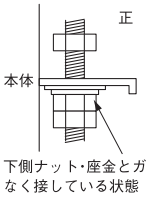
④室内ユニットの据付

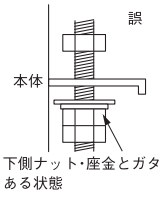
作業手順

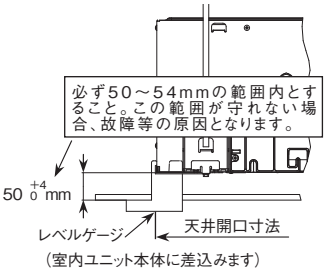
1．据付場所に天井開口寸法をあけてください。
2．所定の位置に吊りボルトを設置してください。
3．吊りボルトは４本使用してください。
4．吊りボルト長さは、天井面より９５mm程度上としてください。吊りボルトの下側ナット４か所は天井面から１５０mm程度に仮止めし、上側ナット４か所は室内ユニット吊り込みおよび高さ調整時に支障ないよう、下側ナットから十分距離をとった位置に仮止めし、室内ユニット本体を吊り込んでください。
5．室内ユニット吊り込み後、付属のレベルゲージを吹出口にセットし、室内ユニット吊り込み高さを調整してください。高さ調整は、上側ナット４か所を緩めた状態で、下側ナット４か所で調整してください。室内ユニット吊り金具４か所が下側ナット・座金にガタなく接していることを確認してください。
6．室内ユニット本体の水平度を確認してください。水平度は、水準器または透明ホースに水を入れたものを使用して確認してください。
（室内ユニット両端での高さ許容差は３mm以内）
7．高さ調整・水平度調整後、上側ナット４か所を締付けて室内ユニットを固定してください。











室内ユニット据付時のお願い

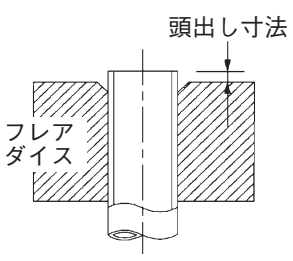
●上側ナットで高さ調整を行わないでください。室内ユニット本体に無理な力がかかり変形し、パネルが組付けできなかったり、ファン干渉音が発生することがあります。
●室内ユニットは必ず水平に据付､室内ユニット下面と天井面の高さを正しく設置してください。据付に不備があると風漏れ、結露・水漏れ、騒音の原因になります。
●化粧パネルと天井面、および化粧パネルと室内ユニットとの接触部は確実に密着させてください。隙間があると風漏れ、結露・水漏れの原因になります。

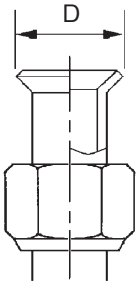
⑤冷媒配管

冷媒配管時の注意事項

●冷媒配管は、新規配管をご使用ください。
●冷媒配管の接続方式は、「微燃性冷媒取扱時の安全上のご注意」に従い選定してください。
ねじ接合継手により接続する場合は、138ページの説明書に従い作業してください。
●フレア接続する場合、フレアナットは製品付属ものをご使用ください。他のフレアナット（1 種）を使用すると冷媒漏れの原因となります。
●既設配管再利用の可否および洗浄方法については、室外ユニットの据付説明書またはカタログで確認してください。
1) 再利用する場合、フレアナットやねじ接合継手は流用せず必ず未使用品を使用してください。
2) 再利用する場合、部分的に交換した新しい配管を室内ユニットに接続してください

フレア接続準備





配管径 d mm	配管の最小肉厚 mm	フレア加工 頭出し寸法 mm		フレア外径 D mm	フレアナット締付トルク N·m
		リジッド（クラッチ式）			
		R32 用 R410A 用	従来ツール		
6.35	0.8	0 ～ 0.5	0.7 ～ 1.3	8.9 ～ 9.1	14 ～ 18
9.52	0.8			12.8 ～ 13.2	34 ～ 42
12.7	0.8			16.2 ～ 16.6	49 ～ 61
15.88	1			19.3 ～ 19.7	68 ～ 82
19.05	1.2			23.6 ～ 24.0	100 ～ 120

●冷媒配管は、リン脱酸銅合金継目無銅管（Ｃ１２２０Ｔ、ＪＩＳ Ｈ ３３００）をご使用ください。
また管の内外面は美麗であり、使用上有害な硫黄、酸化物、ゴミ、切粉等（コンタミ）の付着がないことを確認してください。
冷媒配管の内部にコンタミの付着があると冷凍機油劣化などの原因になります。

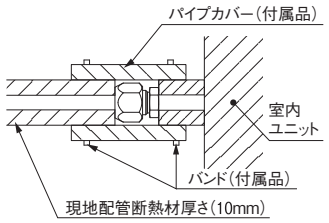
⑤冷媒配管のつづき

●指定冷媒以外は使用しないでください。
指定冷媒以外を使用すると、冷凍機油劣化などの原因になります。また空気などが混入すると、異常高圧になり、破裂などの原因になります。
●据付けに使用する配管は屋内に保管し、両端ともろう付する直前までシールしてください。
冷媒回路内に埃、ゴミ、水分が混入すると、油の劣化・圧縮機の故障の原因になります。
●R32用またはR410A用の工具を使用してください。

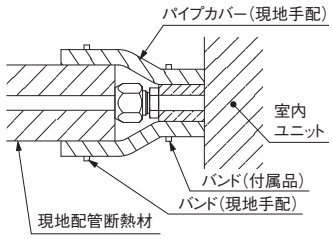
フレア接続手順

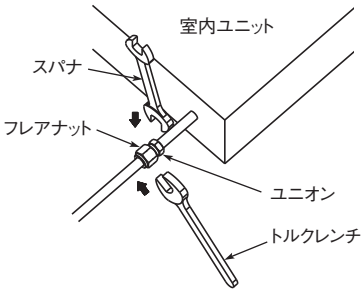
1．室内ユニットのフレアナットおよびキャップを取外してください。
※室内ユニットの配管端部のフレアナットは、必ずスパナで2丁掛けして外してください。
（このときガスが出ることがありますが、異常ではありません。）
●フレアナット飛びに注意してください。（内部に圧力がかかっている場合があります。）
2．液管・ガス管をフレア加工し、右図の示すように冷媒配管を接続してください。
※配管の曲げは4D以上の大きな半径で行い、曲げなおしを行わないでください。
また配管をねじったり、2/3D 以下につぶしたりしないでください。
※フレア接続は、以下のように行ってください。
・フレアナット接続時は、フレア中心を合わせ、最初手回しで3～4回転ねじ込み、2丁スパナ掛けで表の締付力で締めてください。
3．室内ユニットのフレア部はガス漏れチェック後、右図に示すように断熱材をかぶせ、バンドでしっかりと締付けてください。
●ガス側配管、液側配管とも断熱は完全に行ってください。
※配管は断熱しないと結露し水漏れします。
●ガス側配管の断熱材は耐熱 120℃以上のものを使用してください。
●高湿度雰囲気で使用する場合は設置環境に合わせて、冷媒配管の断熱を強化してください。強化しない場合は断熱材表面に結露することがあります。
4．冷媒は室外ユニットに充填されています。
室内および接続配管分の冷媒追加量については室外ユニットに付属の据付説明書をご覧ください。

<断熱材厚さ10mmを使用する場合>



<断熱材を強化する場合>





注意
同一締付トルクでも、ユニオンのねじ部に冷凍機油を塗布した場合は、ねじ部摺動摩擦力が下がることにより、軸方向分力が増加してフレアの応力腐食割れの原因となることがあるため、ユニオンねじ部、またはフレア外面への冷凍機油塗布は推奨しない。冷凍機油を塗布する場合は、フレア内面へのみとすること。

⑥ドレン配管

ドレン配管時の注意事項

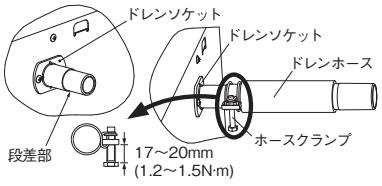
●ドレン工事は、据付説明書に従って確実に排水するように配管してください。
記載に従って施工しない場合、屋内に浸水し、家財などを濡らす原因になることがあります。
●ドレン工事は付属のドレンホースを必ず使用してください。使用しないとドレンソケットに力がかかり破損し、水が漏れることがあります。
●ドレン配管はイオウ系ガスなど有害ガスおよび可燃性ガスが発生する排水溝には、入れないでください。
室内に有害ガスおよび可燃性ガスが流入し、中毒や酸素欠乏になることがあります。また熱交換器の腐食、異臭の原因になります。
●接続部から水漏れのないように確実に施工してください。
●水漏れが起こらないように、断熱工事を確実に行ってください。
●施工後、ドレンが排水されていることを、室内ユニットのドレン口およびドレン配管最終出口部で確認してください。
●ドレン配管は下り勾配（1/100 以上）とし、途中山越えやトラップを作らないでください。また、ドレン配管にエア抜きは、絶対に設けないでください。
試運転時にドレン排水が確実に行われていることを確認してください。また、点検・メンテナンス作業のためのスペースを確保してください。

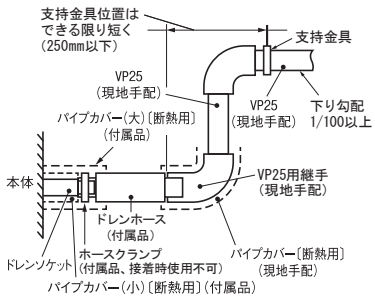
ドレンソケットとドレンホースの接続

●ドレンソケットの周囲温度が50℃以上となる場合は、ドレンソケットとドレンホースを接着してください。
●接着剤とホースクランプは併用しないでください。水漏れの原因となります。

〈ホースクランプを使用する場合〉
1. 付属のドレンホースの軟質側にホースクランプを通し、ドレンソケットの段差部まで確実に挿入してください。その際、ホースクランプのねじが室内ユニットの外側になる位置にし、ボルトが鉛直方向になるようにしてください。
2. ホースクランプはドレンホースの断熱材に接触する位置で、ねじを締付けてください。
3. ねじを数回回転させて締付が固くなる位置まで締付け、それ以上に締付けないでください。
ねじの締め代の目安は17～20mm（参考:1.2～1.5N・m）です。

〈接着する場合〉
1. 塩ビ系接着剤を使用して、ドレンホースの軟質側とドレンソケットを接着してください。
その際、ドレンホースをドレンソケットの段差部まで確実に挿入してください。
2. 接着方法は接着剤の使用方法に従ってください。
接着剤推奨品：積水化学工業製エスロン No73S，クボタケミックス製タフダイン青
※フタル酸エステル類を含有している接着剤は使用しないでください。水漏れの原因となります。
●ドレンホースやドレンソケットの内部に接着剤が流れ込まないようにしてください。

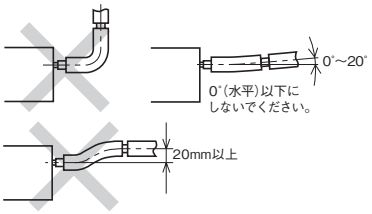




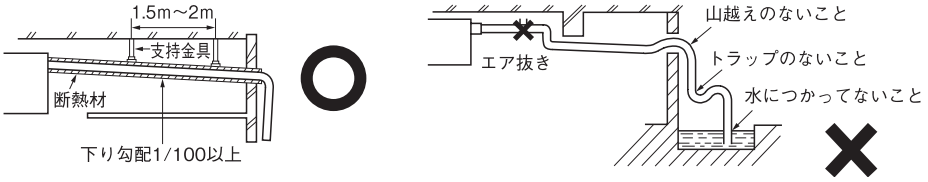
⑥ドレン配管のつづき

ドレンホースと配管の接続

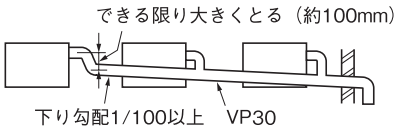
1. VP25用継手やエルボ、配管(いずれも現地手配)を接続してください。
   ※ドレン管は、市販の硬質塩ビパイプ一般管VP25を使用してください。
   ●接着剤は付属のドレンホース内部に流れ込まないようにしてください。
   乾燥後、フレキ部に力が加わった場合、フレキ部が破損することがあります。
   ●ドレンホースは、室内ユニットあるいはドレン配管の据付時の微小なズレを吸収するためのものです。故意に曲げたり、引っ張って使用された場合は、破損し、水漏れに至ることがあります。



2. ドレン配管を接続する場合、ドレンソケットやドレン配管に力が加わらないようにしてください。
   できる限り室内ユニット近傍 (現地手配の継手先端から 250mm 以内) でドレン配管を支持してください。
3. ドレン配管は下り勾配(1/100以上)としてください。不可能な場合はドレンアップしてください。途中山越えやトラップを作らないように施工してください。
   ●エア抜きは絶対に設けないでください。



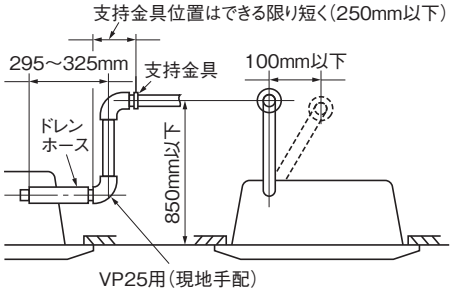
   ●複数台のドレン配管の場合、室内ユニットドレン出口より約100mm下に集合配管がくるようにしてください。
   また集合配管はVP30以上を使用してください。



4. ドレン配管の断熱施工を行ってください。
   ●結露が発生し、水漏れをおこすおそれがありますので、ドレンソケット部および室内にある硬質塩ビパイプは確実に断熱してください。
   ※ドレンソケット部は、排水テスト実施後、付属のパイプカバー(小)をドレンソケット部に装着した後、付属のパイプカバー(大)にてパイプカバー(小)、ホースクランプおよびドレンホースの一部を覆い、テープにより隙間のないように巻いてください。

ドレンアップする場合

●ドレン配管の出口高さは、天井面より８５０ｍｍまで高くすることができます。天井内に障害物などがある場合、エルボなどを用いて施工してください。この場合、ドレン配管を立ち上げるまでの距離が長いと、運転停止時におけるドレン逆流量が多くなり、オーバーフローすることがありますので、右図寸法内で処理願います。

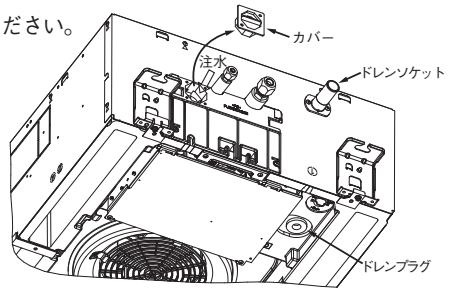


ドレン排水テスト

●ドレン配管工事の完了後に、排水が確実に行われていることを、接続部および室内ユニットのドレンパン部から水漏れのないことを確認してください。このとき、ドレンポンプのモータ音に異常がないことも確認してください。
●暖房期の据付の際にも必ず実施してください。
●新築の場合には天井を張る前に実施してください。

作業手順

1．配管リッド部のカバー（ねじ２個）を取外し、下図の位置より給水ポンプなどを使用して、電気部品に水をかけないように、本体ドレンパンの中へ約１０００ｃｃ注水してください。
2．ドレン排水が確実に行われること、ドレン配管接続部から水漏れのないことを確認してください。
   ドレンポンプの回転音を確認しながら排水するかどうかをテストしてください。
   ドレン排水の確認は、ドレンソケット部（透明）より確認できます。
3．排水テスト後は、ドレンプラグを外して水抜きを行ってください。
   水抜き確認後は、ドレンプラグを元通りにはめ込んでください。



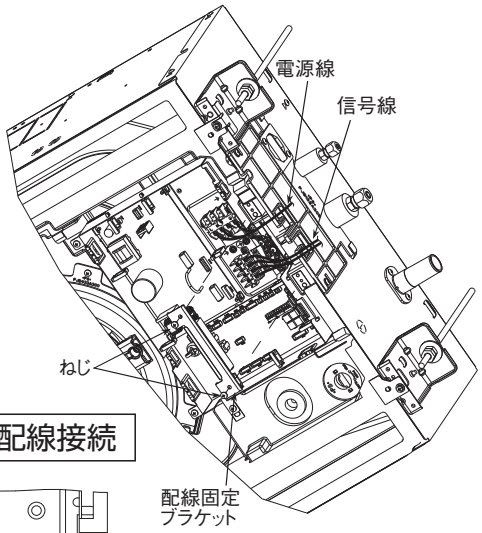
ドレンポンプ運転方法

○電気配線工事が完了している場合
ドレンポンプの運転がリモコン（ワイヤード）操作により可能です。
運転操作方法は、電気配線工事説明書の ドレンポンプ運転操作 をご覧ください。
○電気配線工事が完了していない場合
室内ユニット基板上のＳＷ７－１をＯＮにし、かつ、基板上のコネクタＣＮＢを抜いた後、電源ＯＮ（端子台①、②へＡＣ２００Ｖ）すると、ドレンポンプのみ連続運転します。
排水確認後は、必ずＳＷ７－１を元の状態（ＯＦＦ）に戻し、かつ、基板上のコネクタＣＮＢを差込んでください。

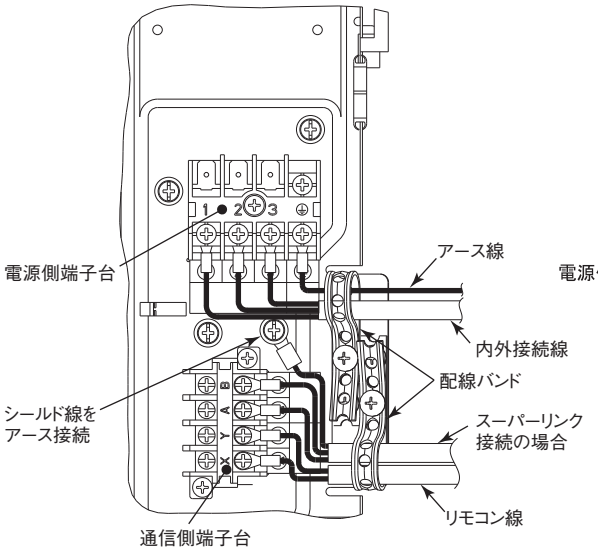
⑦電気配線取出位置および電気配線接続

●電気工事は電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」「内線規程」および電気配線工事説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用してください。
●配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定してください。
●電源線と信号線は、同一経路を通さないようにしてください。誤動作や故障の原因になることがあります。
●D種設置工事を必ず行ってください。
●電気配線工事の詳細は、142ページをご覧ください。

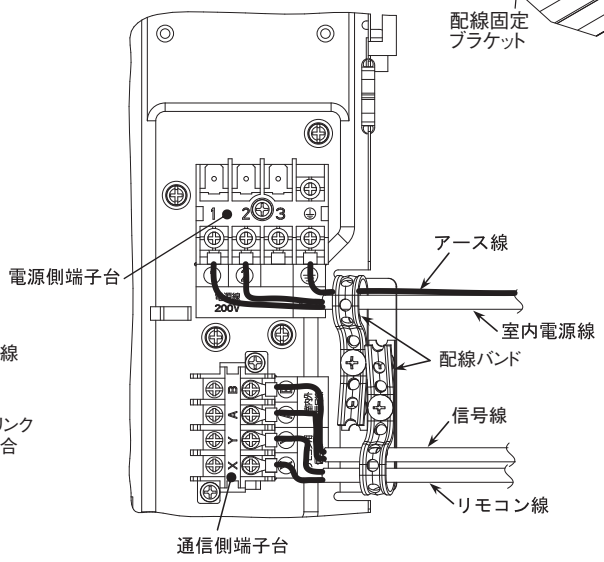
1．制御箱の蓋(ねじ2個)と配線固定ブラケット(ねじ2個)を取外してください。
2．各配線を室内ユニット内に入れ、端子台に確実に接続してください。
3．各配線を配線バンドで固定してください。
4．取外した部品を元通りに取付けてください。



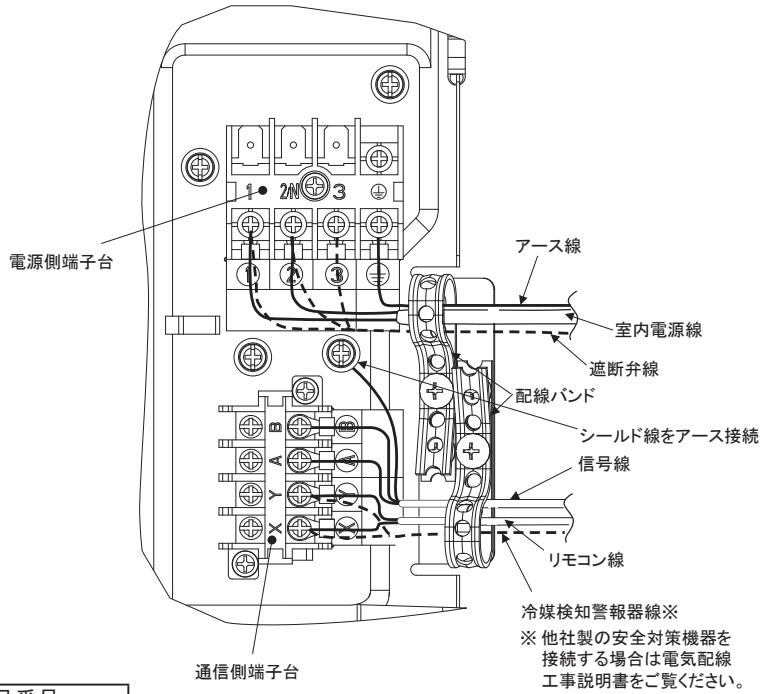
店舗機の配線接続



R410Aビル用マルチ機の配線接続



R32ビル用マルチ機の配線接続



メインヒューズ仕様

仕様	部品番号
T5A L250V	SSA564A149AH

⑧インターロック機能（R32 ビル用マルチ機のみ）

● R32 マルチ機の室内ユニットは、冷媒漏えいの安全対策のためにインターロック機能が有効になっています。
●**インターロック機能が有効になっている場合、空調システムは運転できません。**
※インターロックが有効状態だとリモコンにメンテナンスコード (M28) が表示され、ユニットは運転できません。

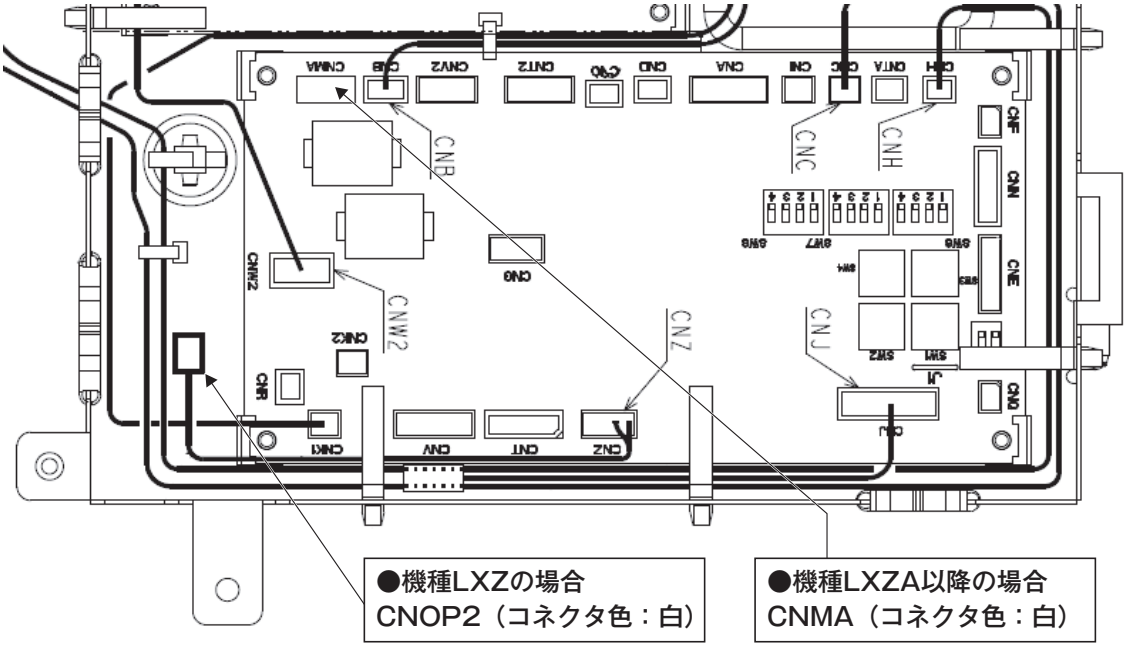
インターロック機能の解除方法

○すべての安全対策機器が必要な場合
下記のすべての安全対策機器を室内ユニットに接続してください。
・安全遮断弁
・冷媒検知警報器
・eco タッチリモコン (RC-DX3D 以降)

○接続する安全対策機器が一部のみ・安全対策機器が必要ない場合
室内ユニットに付属のインターロック解除ピンを室内制御基板上のコネクタに接続してください。(下図参照)
※解除ピンの接続の前には、**冷媒漏えいに対する安全対策が十分であること**、もしくは**安全対策が必要ないこと**を必ず確認してください。
※冷媒検知警報器に子機として接続している室内ユニットのインターロック機能を解除するためには、解除ピンの接続が必要です。
※安全対策機器の要否、およびインターロック機能についての詳細は、「安全対策マニュアル」をご覧ください。

＜インターロック解除ピンの接続コネクタ＞

インターロック解除ピンは室内ユニットの制御箱付近に付属しています。
使用しない場合は取外して廃棄してください。



⑨パネルの取付

●パネルは、電気配線工事完了後に、室内ユニット本体に取付けてください。
●パネルの取付方法は、パネル付属の説明書をご覧ください。

⑩室内ユニット据付工事完了後のチェック項目

●室内ユニット・パネル据付工事、電気配線工事完了後、下記項目についてチェック願います。
● R32 ビル用マルチ機の場合、付属の「据付工事施工チェックリスト（R32 ビル用マルチ）」を用いて安全対策機器の確認をしてください。

チェック項目	不良だと…	チェック欄
室内外ユニットの取付はしっかりしていますか。	落下、振動、騒音	
ガス漏れ検査は行いましたか。	冷えない	
断熱は完全に行いましたか。	水漏れ	
ドレン排水はスムーズに流れていますか。	水漏れ	
電源電圧は本体の銘板と同じですか。	運転不能・焼損	
誤配線・誤配管はありませんか。	運転不能・焼損	
アース工事はされていますか。	漏電時危険	
配線の太さは仕様通りですか。	運転不能・焼損	
室内外ユニットの吸込・吹出口が障害物でふさがれていませんか。	冷えない	

⑪店舗シリーズ機種容量統合機の場合

室外ユニットとの組合せにより下表の通り室内ユニットが自動認識されます。機種銘板の機種容量に○印を付けてください。

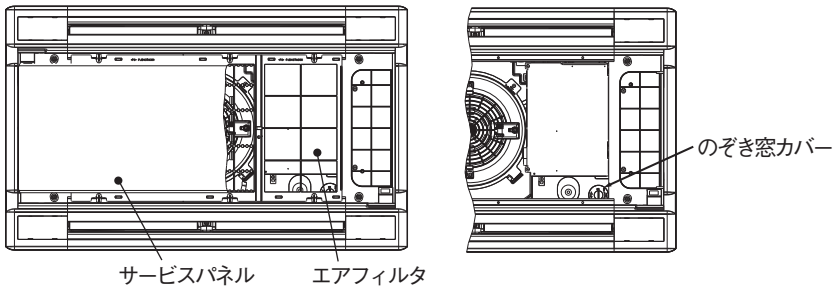
	室内ユニット	室内ユニット１台									2 台接続						3 台接続		4 台接続	
	室外ユニット	40	45	50	56	63	80	112	140	160	80	112	140	160	224	280	160	224	224	280
標準機	FDTWZP56	P40	P45	P50	P56						P40	P56					P50		P56	
	FDTWZP63					P63														
	FDTWZP80						P80						P71	P80				P80		
	FDTWZP140							P112	P140						P112	P140				
	FDTWZP160									P160										
寒冷地	FDTWZP80										P40	P56								
	FDTWZP140						P80	P112												

⑫ドレンパン汚れ確認（メンテナンス）

ドレンパン汚れ確認方法

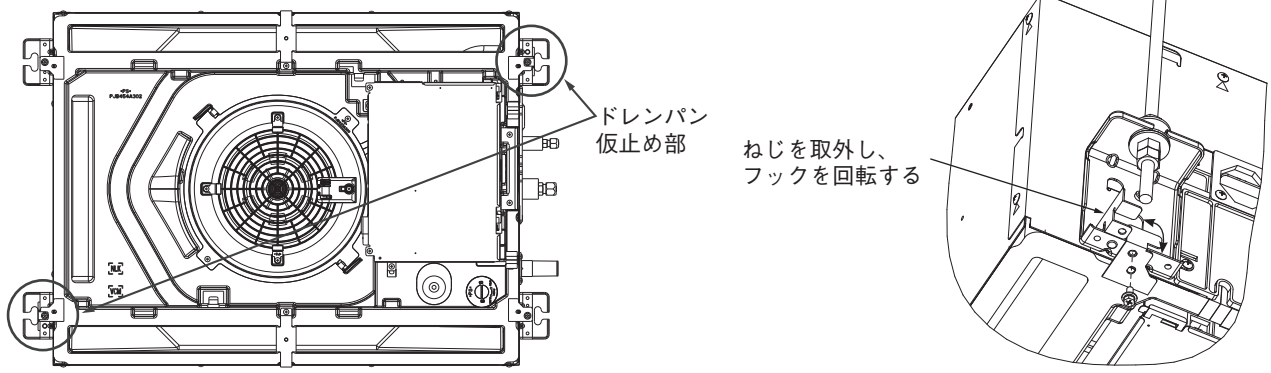
●パネル本体を取外さずに、ドレンポンプ吸込口部のドレンパンの汚れが確認できます。
（高性能フィルタなどオプションスペーサ取付時は確認できません。）

1．サービスパネルとエアフィルタを取外してください。
2．ドレンパンコーナーにあるのぞき窓カバーを取外してください。
3．のぞき窓からドレンパンの汚れを確認してください。
　汚れが多い場合は、ドレンパンを取外し、ドレンパンを清掃してください。
4．汚れ確認後、のぞき窓カバーを確実に装着してください。装着が不完全な場合、結露・水漏れの原因となります。



ドレンパン取外し時の注意事項

●ドレンパンには仮止め機構がついています。ドレンパン取外し時、および取付時には注意願います。
ドレンパン取付ねじ（４個）取外し後、仮止めフックを外してください。
ドレンパン取付時は、仮止めフックを取付後、確実にねじで固定してください。

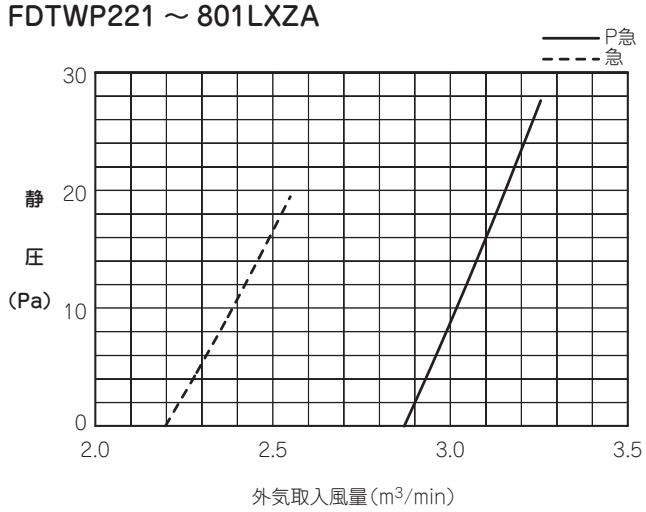


(b) 新鮮空気 (OA) の取入れ

本ユニットは側板に新鮮空気取入ダクト接続口を持っています。(外形図をご覧ください。)

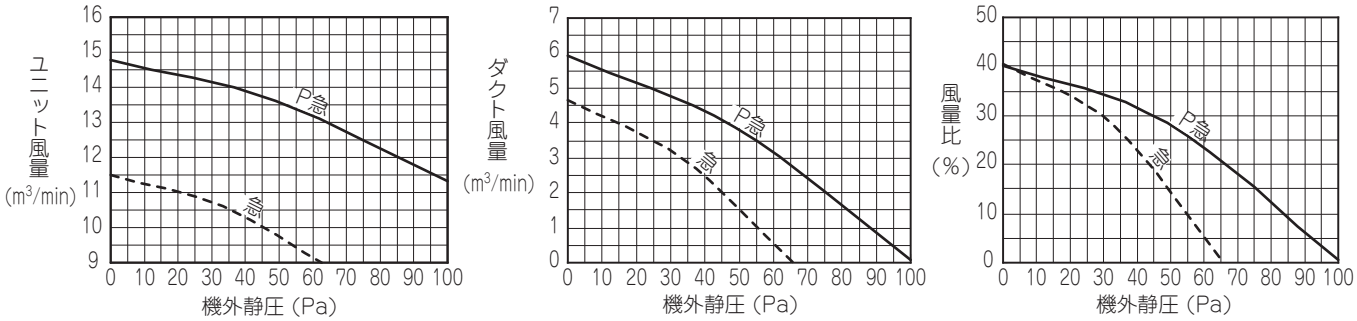
新鮮空気取入量は下図により求めてください。

FDTWP221 ～ 801LXZA



(c) 分岐ダクト特性

FDTWP221 ～ 801LXZA



(d) パネルの据付

PJB012D300 A

室内ユニット本体の据付説明書と共にお読みください。

安全上のご注意

●据付工事は、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ確実に行ってください。
●ここに示した注意事項は、⚠警告、⚠注意、に区分していますが、誤った据付をした時に、死亡や重傷等の重大な結果に結びつく可能性が大きいものを特に⚠警告の欄にまとめて記載しています。しかし、⚠注意の欄に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
●ここで使われる“図記号”の意味は右のとおりです。 絶対に行わない 必ず指示に従い行う
●据付工事完了後、試運転を行い、異常がないことを確認するとともに、取扱説明書にそって、「安全上のご注意」や正しい使用方法・お手入れの仕方（エアフィルタの清掃、運転操作の仕方、温度調節の方法など）をお客様に説明してください。
この据付説明書は取扱説明書と共にお客様で保管いただくように依頼してください。また、お使いになる方が代わる場合は、新しくお使いになる方に取扱説明書などをお渡しいただくよう依頼してください。

⚠警告

●据付は、お買い上げの販売店または専門業者に依頼する。 ご自分で据付工事をされ不備があると、水漏れや感電、火災、ユニット落下によるケガの原因になります。	❗
●据付工事は、この据付説明書に従って確実に行う。 据付に不備があると・ケガの原因となり、また水漏れや感電・火災などの原因になります。	❗
●設置工事部品は必ず付属品および指定の部品を使用する。 当社指定の部品を使用しないと、水漏れ、火災、感電などの原因になります。	❗
●電気工事は電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」、「内線規程」および据付説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用する。 電源回路容量不足や施工不備があると感電、火災などの原因になります。	❗
●配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。 接続や固定が不完全な場合は、発熱、火災などの原因になります。	❗
●室内外ユニット間の配線は、端子カバーが浮き上がらないように整形し、カバーを確実に取付ける。 カバーの取付が不完全な場合は、端子接続部の発熱、火災、感電などの原因になります。	❗
●オプション部品は、必ず当社指定の部品を使用する。また取付は専門業者に依頼する。 ご自分で取付をされ、不備があると、水漏れや感電、火災等の原因になります。	❗
●改修は絶対にしない。また、修理はお買い上げの販売店に相談する。 修理に不備があると水漏れや感電、火災などの原因になります。	⃠
●室内ユニットの修理・点検作業に際して「電源ブレーカ」を必ず OFF する。 点検・修理にあたって、電源ブレーカがＯＮのままだと、感電およびファン回転によるケガの原因になります。	❗
●パネルやガードを外した状態で運転しない。 機器の回転物、高温部、高電圧部に触れると、巻き込まれたり、やけどや感電によるケガの原因になります。	⃠
●元電源を切った後に電気工事を行う。 感電、故障や動作不良の原因になります。	❗

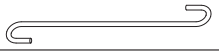
お願い <ラクリーナパネル>

・サービスパネルの動作範囲の周辺および下方には、障害物を置かないでください。
・電源投入前にパネルを取付けた場合は、サービスパネルの昇降動作はできません。
・電源投入前にサービスパネルを収納する場合は、付属のサポートで仮固定する事ができます。
・電源投入後は、付属のサポートが外してあることを確認してから昇降動作を行ってください。
・サービスパネル取付後の初回は、リモコンで「上げる」の操作を行い、サービスパネルを正規位置に収納してください。
（マイコンが収納位置を記憶します。）
・ワイヤー は、折曲げ、ねじり、噛込み等により傷つけたり、たばこ等の火が触れないようにしてください。

① 据付のまえに

・据付はこの説明書に従って正しく行ってください。
・右図の付属品を確認してください。

付属品

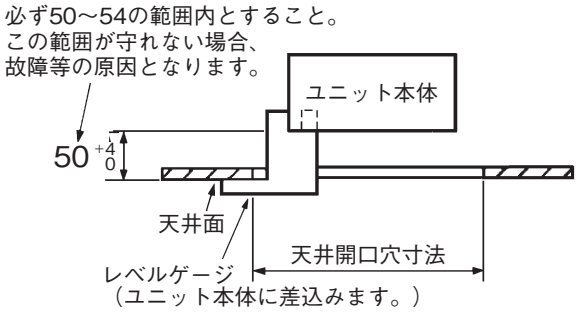
ボルト		6本	パネル取付用
サポート		4本	サービスパネル仮止め用（ラクリーナパネルのみ）

② 本体の取付レベルの確認

・ユニット本体の据付説明書と共にお読みください。
・ユニット本体に同梱されているレベルゲージで本体高さおよび天井開口寸法が正しいことを確認してください。
・ユニット本体と天井材との取付レベルを確認してください。
・ユニット本体付属のレベルゲージを吹出口にセットし、
本体の吊り込み高さを調整してください。
・レベルゲージはパネル取付前に取外してください。

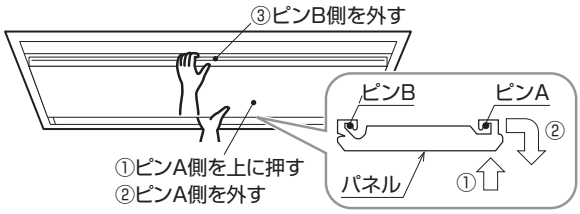
ご注意

ユニット本体と天井材との高さは、パネル取付の際、
パネルに無理な荷重がかからない高さにしてください。
パネルが変形し破損の恐れがあります。



③ サービスパネルの取外し

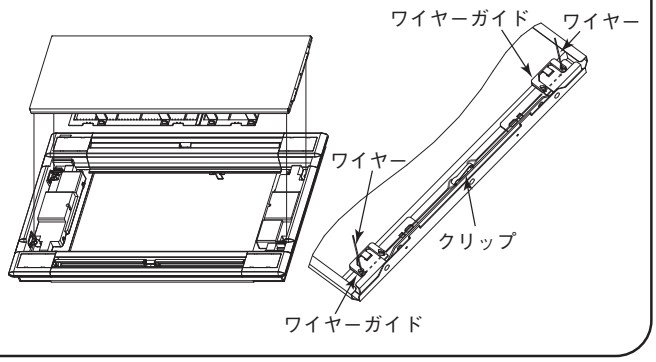
＜標準パネルの場合＞
1．サービスパネルの片側（ピンA側）を上に押し上げてください。
2．ピンAからパネルを外してください。
3．ピンB側を外し、パネルを取外してください。



<ラクリーナパネルの場合>
1．サービスパネルを少し持ち上げて、サービスパネルを開けます。
2．サービスパネルの4コーナに引掛けてあるワイヤーをワイヤーガイドから取外してください。

ご注意

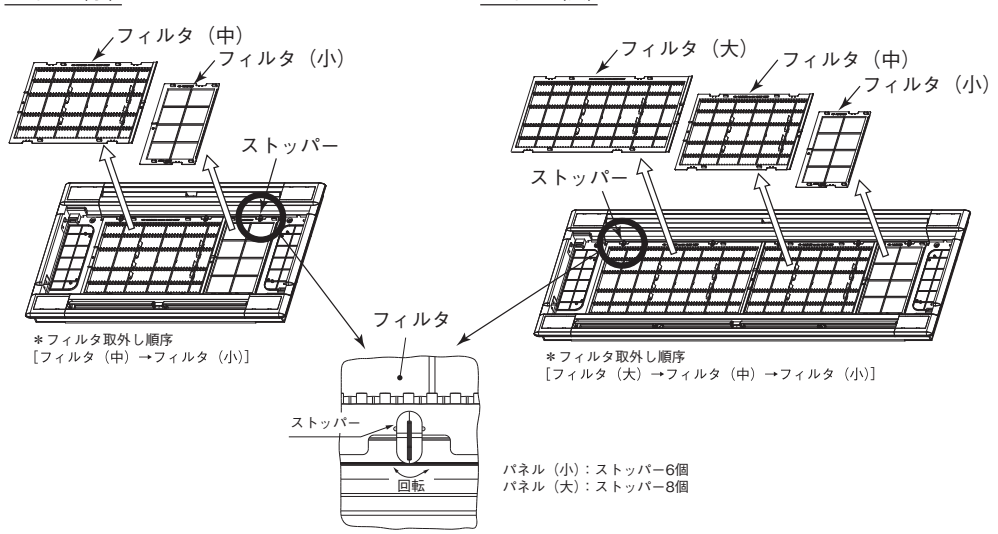
サービスパネルはゆっくり持ち上げてください。
ワイヤーおよびワイヤーガイドが破損する恐れがあります。



④ フィルタの取外し

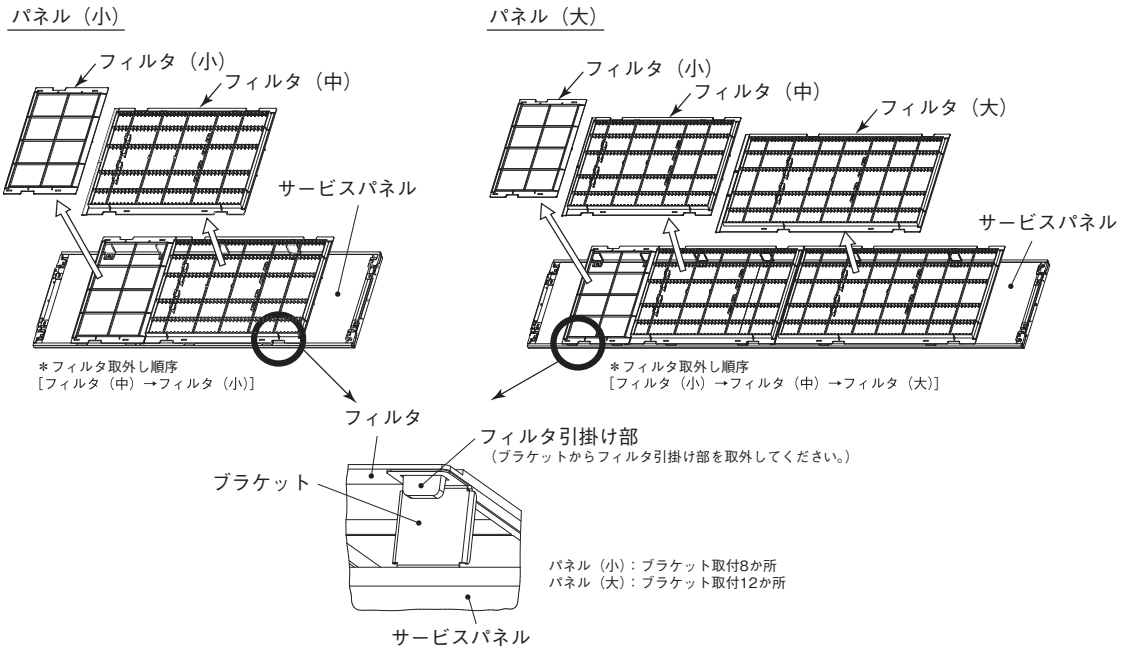
＜標準パネルの場合＞

・フィルタを押さえ、ストッパーを回転させてフィルタを取外してください。



＜ラクリーナパネルの場合＞

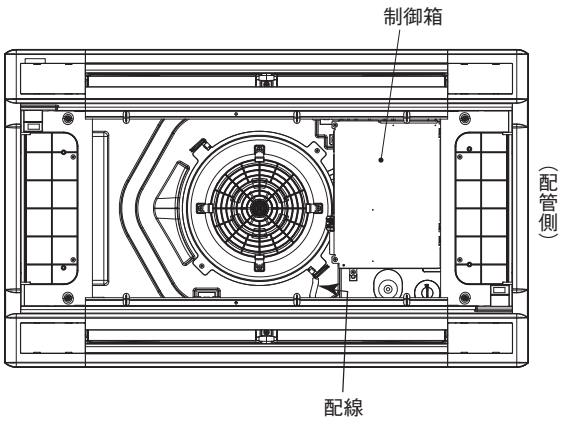
・フィルタをブラケットから取外してください。



⑤ パネルの取付方向

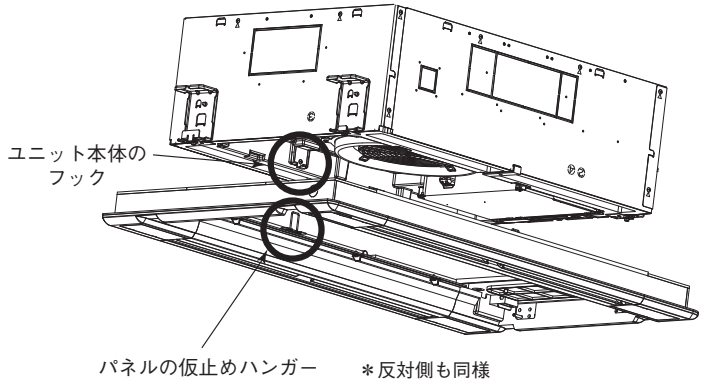
1．パネルの取付方向はユニット本体に対し方向性があります。
・パネルは、右図の様に電気配線が制御箱に近くなる方向で取付けてください。

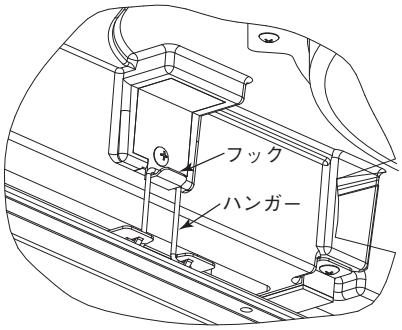
ご注意
・右図以外の方向で取付けると、エアフィルタと制御箱が干渉し風漏れの原因となります。
また電気配線の接続ができません。



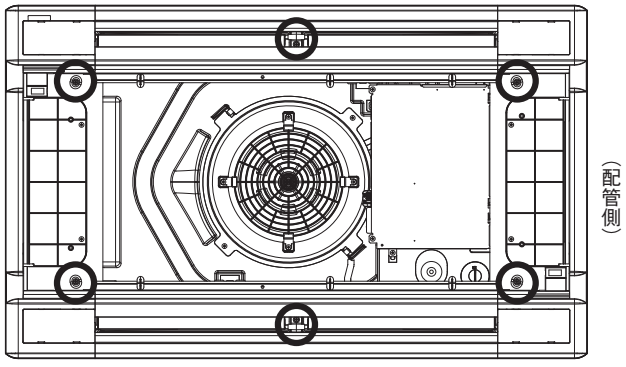
⑥ パネルの取付

1．パネルの仮止め
・パネルの仮止め用ハンガーを起こします。（２か所）
・パネルの仮止め用ハンガーをユニット本体のフックにかけて、パネルを本体に吊るします。





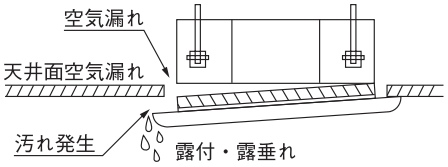
2．パネルのユニット本体への固定
・パネル付属のボルト６本を用いて、ユニット本体に締付てください。



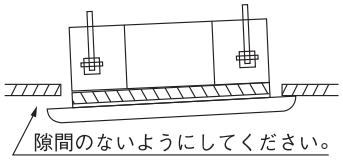
○：パネルのユニット本体への固定部

ご注意

・吊りボルトの締込みが不十分な場合、 下図のような不具合発生の原因となりますので確実に締込んでください。

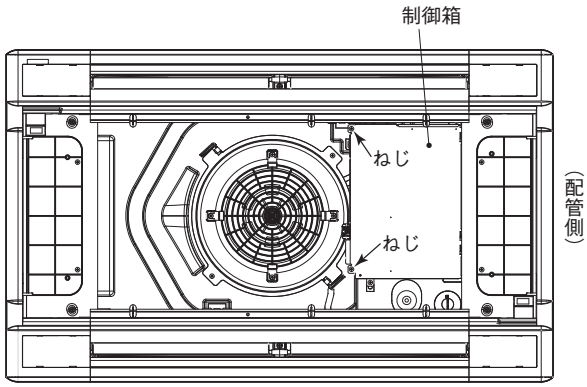


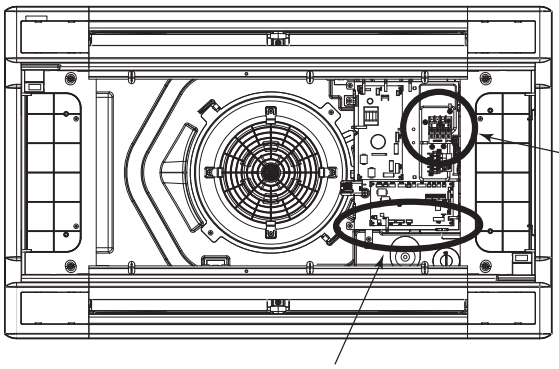
・吊りボルトを締込んでも 天井面とパネルとの間に隙間ができる場合は、室内ユニット本体の高さを再調整してください。



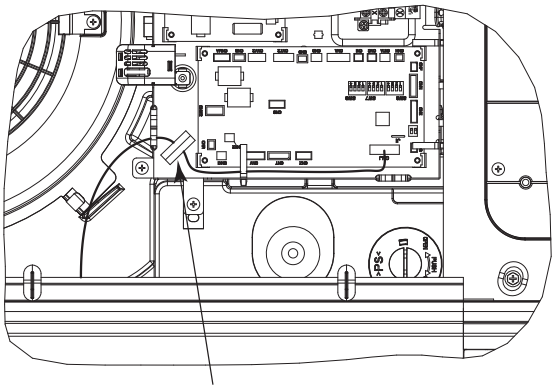
⑦ 電気配線

1．ねじ(２本)を外して､ユニット本体の制御箱の蓋を取外してください。
2．ルーバモータ用コネクタ(白 20P) を接続してください。
・コネクタは、制御箱内に入れてください。
3．ラクリーナパネルの場合
①電源線 (赤, 白) をユニット本体の電源端子台１番, 2 番に挿入してください。アース線 (緑) を㊥に接続してください。
②信号線をユニット本体の基板のコネクタCNV(白)に挿入してください。
4．制御箱の蓋を取付けてください。



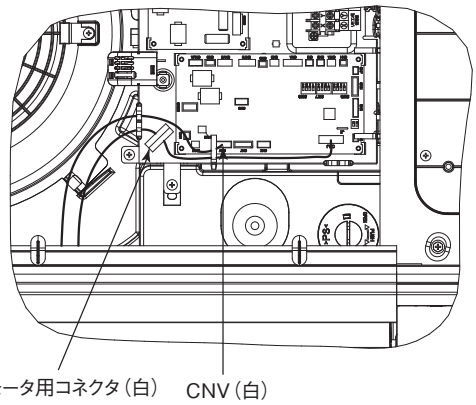


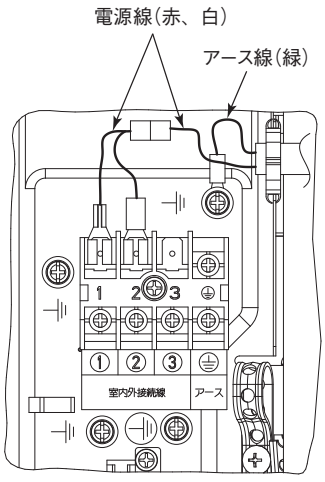
標準パネルの場合



標準パネルの場合は電源線の接続はありません。

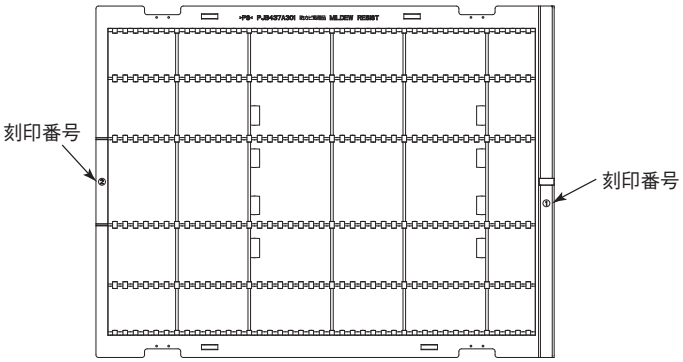
ラクリーナパネルの場合





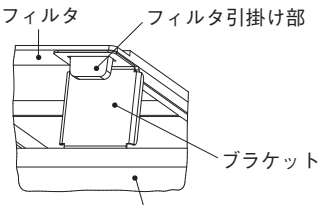
⑧ フィルタの取付

1．フィルタの取付方向には方向性があります。
2．フィルタの取付方法は ④ フィルタの取外し の手順を逆に作業してください。
3．各フィルタの取付は、フィルタに刻印された番号を合わせ取付けてください。



ご注意

ラクリーナパネルの場合、フィルタ引掛部は確実にブラケットへ差し込んでください。



パネル（小）：ブラケット取付8か所
パネル（大）：ブラケット取付12か所

⑨ サービスパネルの取付

＜標準パネルの場合＞

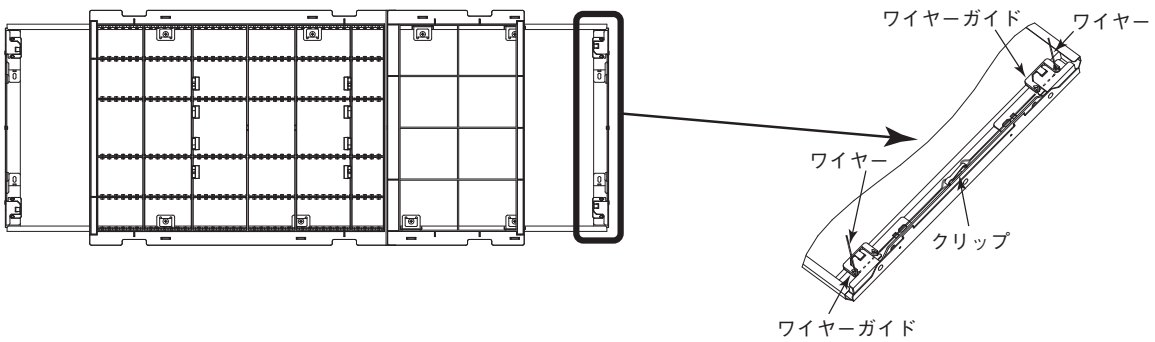
1．パネルとサービスパネルの取付方向には方向性がありません。
2．サービスパネルの取付方法は ③ サービスパネルの取外し の手順を逆に作業してください。

＜ラクリーナパネルの場合＞

1．サービスパネルの取付方向はパネル本体に対し方向性があります。
2．ワイヤーをワイヤーガイドに通し、クリップが中央に来るよう取付けてください。
3．ワイヤー装着後、ワイヤーの曲がり・ねじり・噛み込みがないことを確認してください。

ご注意

ワイヤーガイドは確実に装着してください。確実に装着されていないと、グリルの自動昇降ができなくなったり、グリルが落下する恐れがあります。

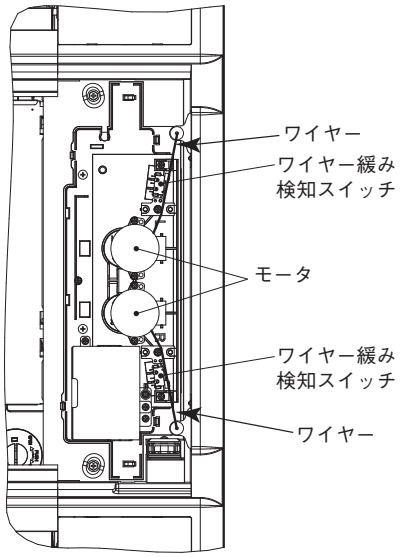


⑩ ラクリーナパネルの設定

ワイヤードリモコンまたは、ワイヤレスリモコンを使用することで、サービスパネルの下降長さ設定をすることができます。
下降長さ設定する場合は、リモコン据付説明書を参照し、電源周波数設定および下降長さ設定を行ってください。

ご注意

＜ワイヤー緩み検知機構について＞
ラクリーナパネルには、ワイヤーの絡まり防止のため、「ワイヤー緩み検知機構」を装備しています。サービスパネルを吊ったワイヤーが緩んだ場合、ワイヤー緩み検知スイッチが働き、自動昇降用モータが自動停止します。パネル据付後、サービスパネルが動かない場合、「ワイヤー緩み検知機構」が作動している可能性がありますので、据付時にワイヤーの噛み込み、絡まり等が無いか、ワイヤー経路をご確認ください。

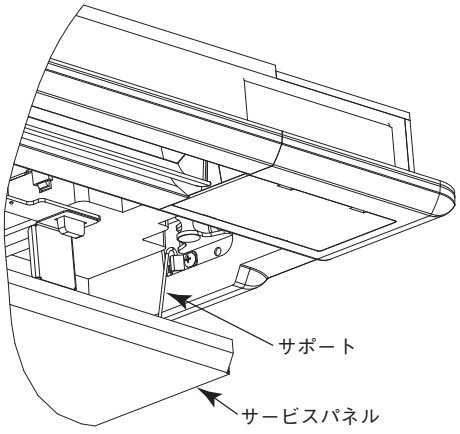


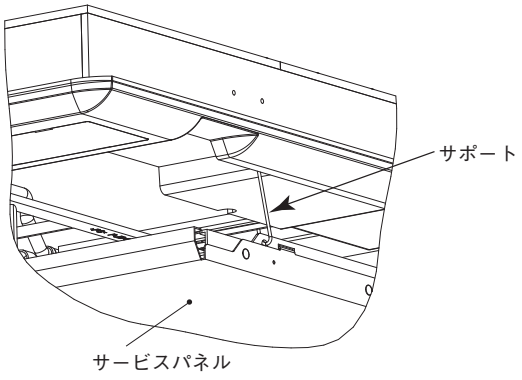
⑪ 電源投入前のサービスパネルの仮固定 ＜ラクリーナパネルのみ＞

電源投入前は、サービスパネルの自動昇降はできません。
1．電源投入前にサービスパネルを収納したい場合は、付属のサポートでサービスパネルを仮止めすることができます。
2．パネルの４コーナに付属のサポートを図のように取付けてください。（４か所とも）
3．ワイヤーを折り曲げたり、かみ込んだりしないように注意しながら、持ち上げパネルに収納してください。

ご注意

・仮固定の状態で昇降動作を行わないでください。
・サポートを装着したまま昇降動作を行うと、サービスパネル昇降装置の故障の原因になります。
・仮固定の状態で運転しないでください。
　内部にゴミが詰まり、故障の原因になります。





(4) 天井埋込型小容量１方向吹出し（FDTSC）

(a) 室内ユニットの据付

PJC012D129A A

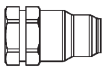
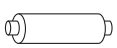
本説明書は、室内ユニットの据付方法を記載してあります。
「室内ユニット据付工事 安全上のご注意」および「微燃性冷媒取扱時の安全上のご注意」をご覧になった後、室内ユニットの据付を行ってください。
●電気配線（室内ユニット）は、142ページの電気配線工事説明書をご覧ください。
●リモコンの取付方法は、105ページをご覧ください。
●ワイヤレスキットの取付方法は、305ページをご覧ください。
●安全遮断弁の取付方法は、132ページをご覧ください。
●冷媒検知警報器の取付方法は、113ページをご覧ください。
●室外ユニットの据付方法、電気配線（室外ユニット）および冷媒配管工事方法は、室外ユニットの技術資料をご覧ください。
また、故障診断は、室内ユニットの結線銘板をご覧ください。
この室内ユニットは、日本国内用に設計されているため海外では使用できません。また、海外においてはアフターサービスもできません。

①据付前に

●据付はこの据付説明書に従って正しく行ってください。
●次の項目を確認してください。
　○機種・電源仕様　　○配管・配線・小物部品　　○付属品

室内ユニットを移動させるときは吊り金具(４か所)を持ち、他の部分(特に冷媒配管、ドレン配管および樹脂部品)には、力を加えないでください。

付属品

本体吊り込み用	冷媒配管用					ドレン配管用				コントロール用
平座金（M10）	ねじ接合継手（大）※	ねじ接合継手（小）※	パイプカバー（大）	パイプカバー（小）	バンド	パイプカバー（大）	パイプカバー（小）	ドレンホース	ホースクランプ	解除ピン※
										
８個	１個	１個	１個	１個	４個	１個	１個	１個	１個	１本
室内ユニット吊り下げ用	ガス管接続用	液管接続用	ガス管断熱用	液管断熱用	パイプカバー固定用	ドレンソケット断熱用	ドレンソケット断熱用	ドレン配管接続用	ドレンホース取付用	インターロック解除用

※ R32 ビル用マルチ機のみ付属しています。

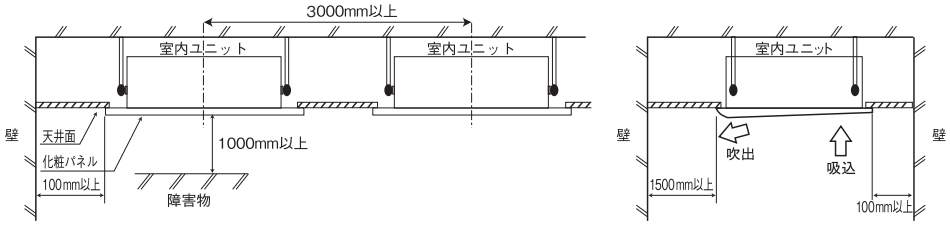
②室内ユニットの据付場所の選定

①据付場所は、下記条件に合う場所をお客様の承認を得て選んでください。
・冷風または温風が十分に行きわたる所。
　据付高さが３ｍを超えると暖気が天井にこもりますので、サーキュレータの併設をご指導ください。
　人感センサを使用する場合、据付高さは 4m 以内としてください。センサ感度が鈍くなり、検知しにくくなります。
・据付・サービス時の作業スペースが確保できる所。
・ドレン排水が確実にできる所。ドレン勾配のとれる所。
・吸込口、吹出口に風の障害のない所。火災報知器の誤作動しない所。ショートサーキットしない所。
・侵入外気の影響のない所。
・直射日光の当たらない所。
・周囲の露点温度が２８℃以下、相対湿度８０％以下の所。
　ユニット周囲が上記条件以上の高湿度雰囲気の状態で運転すると水滴が落下する恐れがあります。そのような条件下で使用する可能性がある場合は、ユニット本体の全ておよび配管、ドレン配管にさらに10～20mmの断熱材を取付けてください。
・テレビ、ラジオより１ｍ以上離れた所。（映像の乱れや雑音が生じることがあります。）
・室内ユニット真下に食品・食器やパソコン・サーバ、医療機器など濡れて困るものを置かない所。
・調理器具が発する熱の影響を受けない所。
・フライヤの真上など油・粉・蒸気などを直接吸込まない所。
・蛍光灯、白熱灯よりできるだけ離れた所。
　ワイヤレス機種の場合、ワイヤレスリモコンでの正常な操作ができなくなることがあります。
②据付けようとする場所が室内ユニット重量に耐えられるかどうか検討し、危険と思われましたら板、桁等で補強して据付作業を行ってください。強度不足の場合は、室内ユニット落下によるケガの原因になります。
③ワイヤレス機種を２台以上据付ける場合は、混信による誤動作を防止するため室内ユニット間を６ｍ以上離してください。
④室内ユニットを隣接して設置する場合は、室内ユニット間距離を３ｍ以上離して設置してください。

室内ユニット据付スペース

●据付高さは２．５ｍ以上としてください。

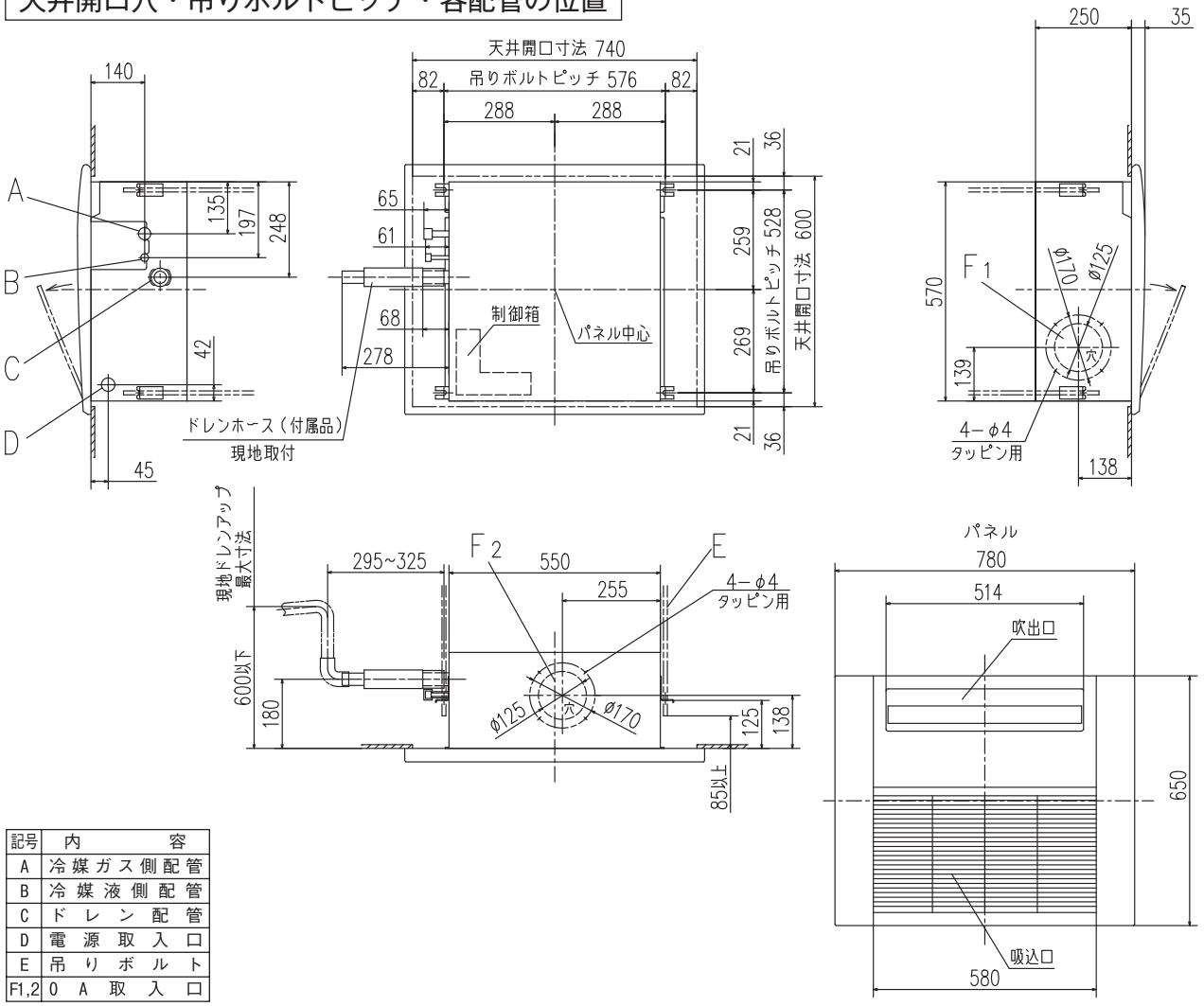
●この室内ユニットは「一般大衆が近づかない機器」に分類されます。



③据付準備

●吊りボルト長さが長くなる場合は耐震補強を実施してください。
　○システム天井（グリッド天井・ライン天井）の場合
　　吊り長さ（吊りボルト長さ）５００mm以上または天井ふところ高さ７００mm以上の場合に耐震ブレースを設置してください。
　○強度が十分にある天井面に設置され直接スラブから吊り下げる場合
　　吊り長さ（吊りボルト長さ）１０００mm以上の場合に耐震ブレースを設置してください。
●吊りボルト・ナット・バネ座金・平座金（Ｍ１０ or Ｍ８）を４組現地にて手配してください。

天井開口穴・吊りボルトピッチ・各配管の位置

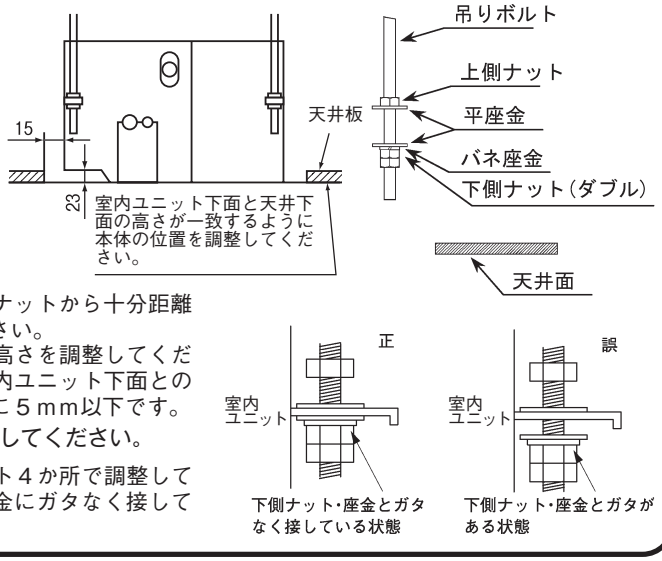


記号	内　　容
A	冷媒ガス側配管
B	冷媒液側配管
C	ドレン配管
D	電源取入口
E	吊りボルト
F1,2	０Ａ取入口

④室内ユニットの据付

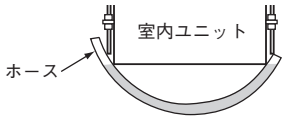
作業手順

１．天井に７４０×６００の穴をあけてください。
２．吊りボルト位置を選定してください。
　　梱包材に記載の丸穴を目安とし、吊りボルト位置を決めてください。
　　注意 位置決定は実測により行ってください。
３．吊りボルトは、４本使用してください。
４．吊りボルト長さは、天井面より８５mm程度上としてください。吊りボルトの下側ナット４か所は天井面から１２５mm程度に仮止めし、上側ナット４か所は室内ユニット吊り込みおよび高さ調整時に支障ないよう、下側ナットから十分距離をとった位置に仮止めし、室内ユニットを吊り込んでください。
５．室内ユニット下面と天井面が一致するように室内ユニット高さを調整してください。（吹出口部分は、天井裏に入ります。）天井下面と室内ユニット下面との高さ許容差は、天井下面に対し、室内ユニット下面が上方に５mm以下です。
　　注意 室内ユニットが天井下面より下方にならないよう設置してください。
　　高さ調整は、上側ナット４か所を緩めた状態で、下側ナット４か所で調整してください。室内ユニット吊り金具４か所が下側ナット・座金にガタなく接していることを確認してください。



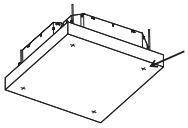
④室内ユニット据付のつづき

6．室内ユニットの水平度を確認してください。水平度は、水準器または透明ホースに水を入れたものを使用して確認してください。（室内ユニット両端での高さ許容差は３mm以内）
7．高さ調整・水平度調整後、上側ナット４か所を締付けて室内ユニットを固定してください。



室内ユニットの養生

●パネルをしばらくの間取付けられない場合、または室内ユニットを据付後に天井材を貼る場合は、梱包材(天面ダンボール)を使用して、室内ユニットを養生してください。



ボルトを使用して、梱包材を取付けてください。パネル取付ピッチと同じ位置に+のスリットがあります。
※梱包材内側の補強材を取外し、使用してください。

室内ユニット据付時のお願い

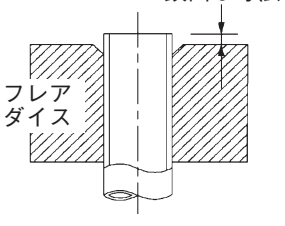
●上側ナットで高さ調整を行わないでください。室内ユニットに無理な力がかかり変形し、パネルが組付できなかったり、ファン干渉音が発生するおそれがあります。
●室内ユニットは必ず水平に据付け、室内ユニット下面と天井面の高さを正しく設置してください。据付に不備があると風漏れ、結露・水漏れ、騒音の原因になります。
●化粧パネルと天井面、および化粧パネルと室内ユニットとの接触部は確実に密着させてください。隙間があると風漏れ、結露・水漏れの原因になります。
●化粧パネルをしばらくの間取付けられない場合、または室内ユニットを据付後に天井材を貼る場合は、室内ユニット内へほこりを入れない様注意してください。

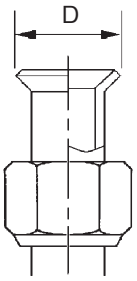
⑤冷媒配管

冷媒配管時の注意事項

●冷媒配管は、新規配管をご使用ください。
●冷媒配管の接続方式は、「微燃性取扱時の安全上のご注意」に従い選定してください。
ねじ接合継手により接続する場合は、138ページの説明書に従い作業してください。
●フレア接続する場合、フレアナットは製品付属ものをご使用ください。他のフレアナット (1 種) を使用すると冷媒漏れの原因となります。
●既設配管再利用の可否および洗浄方法については、室外ユニットの据付説明書またはカタログ・技術資料で確認してください。
1) 再利用する場合、フレアナットやねじ接合継手は流用せず必ず未使用品を使用してください。
2) 再利用する場合、部分的に交換した新しい配管を室内ユニットに接続してください。

フレア接続準備

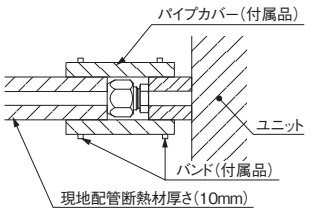




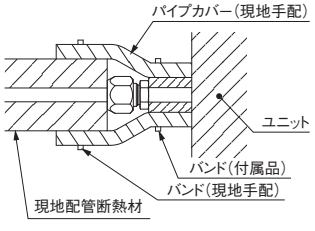
配管径 d mm	配管の最小肉厚 mm	フレア加工 頭出し寸法 mm		フレア外径 D mm	フレアナット締付トルク N·m
		リジッド（クラッチ式）			
		R32 用 R410A 用	従来ツール		
6.35	0.8	0 ～ 0.5	0.7 ～ 1.3	8.9 ～ 9.1	14 ～ 18
9.52	0.8			12.8 ～ 13.2	34 ～ 42
12.7	0.8			16.2 ～ 16.6	49 ～ 61
15.88	1			19.3 ～ 19.7	68 ～ 82
19.05	1.2			23.6 ～ 24.0	100 ～ 120

●冷媒配管は、リン脱酸銅合金継目無銅管（C1220T、JIS H 3300）をご使用ください。また管の内外面は美麗であり、使用上有害な硫黄、酸化物、ゴミ、切粉等（コンタミ）の付着がないことを確認してください。
冷媒配管の内部にコンタミの付着があると冷凍機油劣化などの原因になります。
●指定冷媒以外は使用しないでください。
指定冷媒以外を使用すると、冷凍機油劣化などの原因になります。また空気などが混入すると、異常高圧になり、破裂などの原因になります。指定冷媒は室外ユニットの形式ラベルをご覧ください。
●据付に使用する配管は屋内に保管し、両端ともろう付する直前までシールしてください。
冷媒回路内に埃、ゴミ、水分が混入すると、油の劣化・圧縮機の故障の原因になります。
●工具は R 32用またはR 410A 用の工具を使用してください。

<断熱材厚さ10mmを使用する場合>

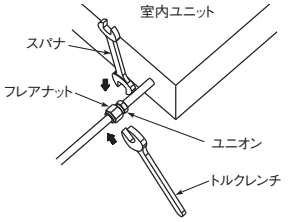


<断熱材を強化する場合>



作業手順

1．室内ユニットのフレアナットおよびキャップを取外してください。
※室内ユニットの配管端部のフレアナットは、必ずスパナで2丁掛けして外してください。
（このときガスが出ることがありますが、異常ではありません。）
●フレアナット飛びに注意してください。（内部に圧力がかかっている場合があります。）
2．液管・ガス管をフレア加工し、右図に示すように冷媒配管を接続してください。
※配管の曲げは４D以上の大きな半径で行い、曲げなおしを行わないでください。
また配管をねじったり、2/3D 以下につぶしたりしないでください。
※フレア接続は、以下のように行ってください。
・フレアナット接続時は、フレア中心を合わせ、最初手回しで３～４回転ねじ込み、２丁スパナ掛けで表の締付力で締めてください。



⑤冷媒配管のつづき

3．室内ユニットのフレア部は、ガス漏れチェック後、図に示すように断熱材をかぶせ、バンドでしっかりと締付けてください。
●ガス側配管、液側配管とも断熱は完全に行ってください。
※配管は断熱しないと結露し水漏れします。
●ガス側配管の断熱材は耐熱 120℃以上のものを使用してください。
●高湿度雰囲気で使用する場合は設置環境に合わせて、冷媒配管の断熱を強化してください。強化しない場合は断熱材表面に結露することがあります。
4．冷媒は室外ユニットに充填されています。
室内ユニットおよび接続配管分の冷媒追加量については室外ユニットに付属の据付説明書をご覧ください。

注意
同一締付トルクでも、ユニオンのねじ部に冷凍機油を塗布した場合は、ねじ部摺動摩擦力が下がることにより、軸方向分力が増加してフレアの応力腐食割れの原因となることがあるため、ユニオンねじ部、またはフレア外面への冷凍機油塗布は推奨しません。冷凍機油を塗布する場合は、フレア内面へのみとしてください。

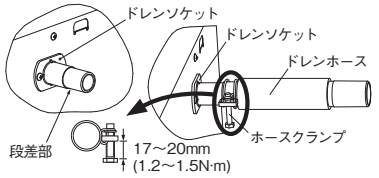
⑥ドレン配管

ドレン配管時の注意事項

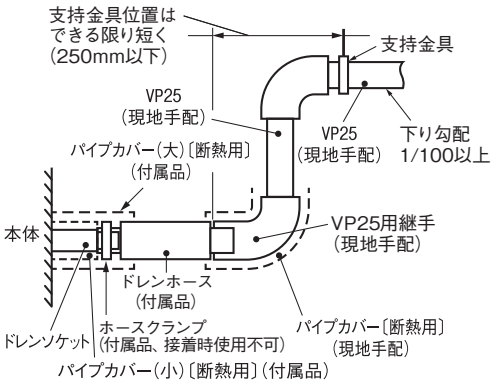
●ドレン工事は、据付説明書に従って確実に排水するように配管してください。
記載に従って施工しない場合、屋内に浸水し、家財などを濡らす原因になることがあります。
●ドレン工事は付属のドレンホースを必ず使用してください。使用しないとドレンソケットに力がかかり破損し、水が漏れることがあります。
●ドレン配管はイオウ系ガスなど有害ガスおよび可燃性ガスが発生する排水溝には、入れないでください。
室内に有害ガスおよび可燃性ガスが流入し、中毒や酸素欠乏になることがあります。また熱交換器の腐食、異臭の原因になります。
●接続部から水漏れのないように確実に施工してください。
●水漏れが起こらないように、断熱工事を確実に行ってください。
●施工後、ドレンが排水されていることを、室内ユニットのドレン口およびドレン配管最終出口部で確認してください。
●ドレン配管は下り勾配（1/100 以上）とし、途中山越えやトラップを作らないでください。また、ドレン配管にエア抜きは、絶対に設けないでください。
試運転時にドレン排水が確実に行われていることを確認してください。また、点検・メンテナンス作業のためのスペースを確保してください。

ドレンソケットとドレンホースの接続

●ドレンソケットの周囲温度が50℃以上となる場合は、ドレンソケットとドレンホースを接着してください。
●接着剤とホースクランプは併用しないでください。水漏れの原因となります。

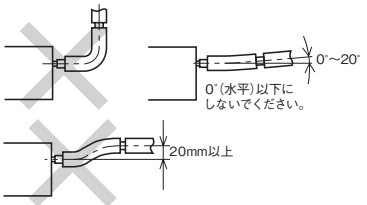


〈ホースクランプを使用する場合〉
1. 付属のドレンホースの軟質側にホースクランプを通し、ドレンソケットの段差部まで確実に挿入してください。その際、ホースクランプのねじが室内ユニットの外側になる位置にし、ボルトが鉛直方向になるようにしてください。
2. ホースクランプはドレンホースの断熱材に接触する位置で、ねじを締付けてください。
3. ねじを数回回転させて締付が固くなる位置まで締付け、それ以上に締付けないでください。
ねじの締め代の目安は17～20mm（参考:1.2～1.5N・m）です。

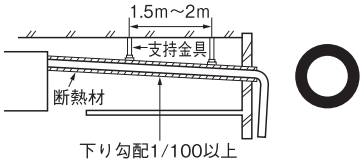


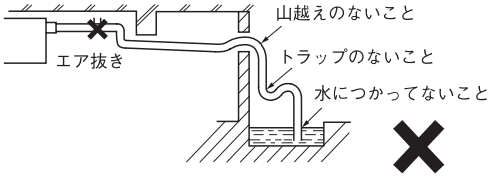
〈接着する場合〉
1. 塩ビ系接着剤を使用して、ドレンホースの軟質側とドレンソケットを接着してください。その際、ドレンホースをドレンソケットの段差部まで確実に挿入してください。
2. 接着方法は接着剤の使用方法に従ってください。
接着剤推奨品：積水化学工業製エスロン No73S，クボタケミックス製タフダイン青
※フタル酸エステル類が含有している接着剤は使用しないでください。水漏れの原因となります。
●ドレンホースやドレンソケットの内部に接着剤が流れ込まないようにしてください。

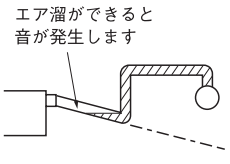
ドレンホースと配管の接続



1. VP25用継手やエルボ、配管（いずれも現地手配）を接続してください。
※ドレン管は、市販の硬質塩ビパイプ一般管VP25を使用してください。
●接着剤は付属のドレンホース内部に流れ込まないようにしてください。
乾燥後、フレキ部に力が加わった場合、フレキ部が破損することがあります。
●ドレンホースは、室内ユニットあるいはドレン配管の据付時の微小なズレを吸収するためのものです。故意に曲げたり、引っ張って使用された場合は、破損し、水漏れに至ることがあります。
2. ドレン配管を接続する場合、ドレンソケットやドレン配管に力が加わらないようにしてください。
できる限り室内ユニット近傍（現地手配の継手先端から 250mm 以内）でドレン配管を支持してください。
3. ドレン配管は下り勾配（1/100 以上）としてください。不可能な場合はドレンアップしてください。途中山越えやトラップを作らないように施工してください。
●エア抜きは絶対に設けないでください。

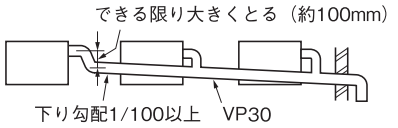






⑥ドレン配管のつづき

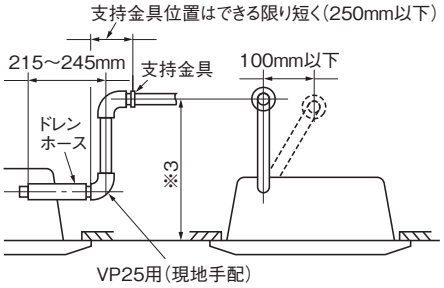
●複数台のドレン配管の場合、室内ユニットドレン出口より約100mm下に集合配管がくるようにしてください。
また集合配管はVP30以上を使用してください。



4. ドレン配管の断熱施工を行ってください。
●結露が発生し、水漏れをおこすおそれがありますので、ドレンソケット部および室内にある硬質塩ビパイプは確実に断熱してください。
※ドレンソケット部は、排水テスト実施後、付属のパイプカバー(小)をドレンソケット部に装着した後、付属のパイプカバー(大)にてパイプカバー(小)、ホースクランプおよびドレンホースの一部を覆い、テープにより隙間のないように巻いてください。

ドレンアップする場合

●ドレン配管の出口高さは、天井面より６００ｍｍまで高くすることができます。天井内に障害物などがある場合、エルボ等を用いて施工してください。この場合、ドレン配管を立ち上げるまでの距離が長いと、運転停止時におけるドレン逆流量が多くなり、オーバーフローのおそれがありますので、右図寸法内で処理願います。

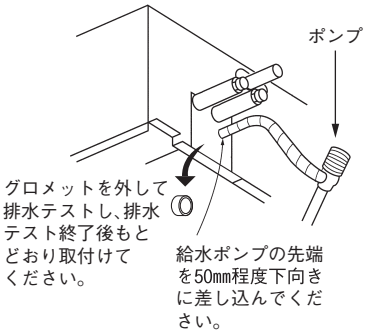


ドレン排水テスト

●ドレン配管工事の完了後に、排水が確実に行われていることを、接続部および室内ユニットのドレンパン部から水漏れのないことを確認してください。このとき、ドレンポンプのモータ音に異常がないことも確認してください。
●暖房期の据付の際にも必ず実施してください。
●新築の場合には天井を張る前に実施してください。

作業手順

1．配管貫通部カバーのグロメットを外し、給水ポンプなどを使用してドレンポンプなどの電気部品に水をかけないように、本体ドレンパンの中へ約１０００ｃｃ注入してください。
2．ドレン排水が確実に行われること、ドレン配管接続部から水漏れのないことを確認してください。
ドレンポンプの回転音を確認しながら排水するかどうかをテストしてください。
ドレン排水の確認は、ドレンソケット部（透明）より確認できます。
3．排水テスト後は、ドレンプラグを外して水抜きを行ってください。
水抜き確認後は、ドレンプラグを元通りにはめ込んでください。
4．排水テスト後は、必ずグロメットを元通りはめこんでください。
5．排水テスト後は、ドレン配管の断熱を本体部まで完全に行ってください。



ドレンポンプ運転方法

○電気配線工事が完了している場合
ドレンポンプの運転がリモコン（ワイヤード）操作により可能です。
運転操作方法は、電気配線工事説明書の ドレンポンプ運転操作 をご覧ください。
○電気配線工事が完了していない場合
室内ユニット基板上のＳＷ７－１をＯＮにし、かつ、基板上のコネクタＣＮＢを抜いた後、電源ＯＮ（端子台①、②へＡＣ２００Ｖ）すると、ドレンポンプのみ連続運転します。
ドレン排水確認後は、必ずＳＷ７－１を元の状態（ＯＦＦ）に戻し、かつ、基板上のコネクタＣＮＢを差し込んでください。

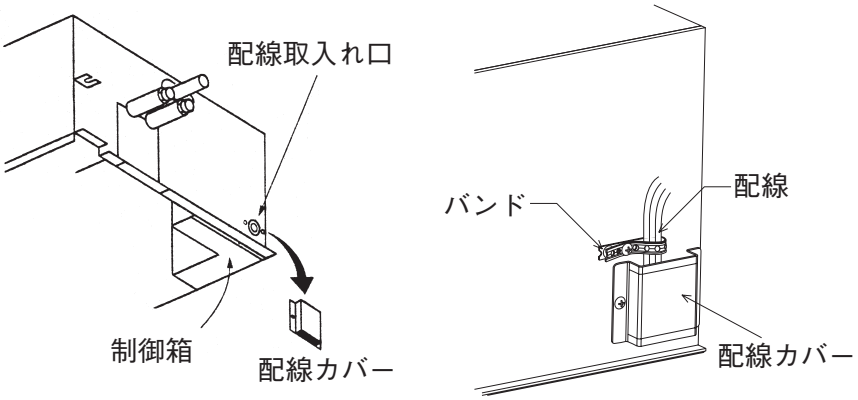
⑦電気配線取出位置および電気配線接続

●電気工事は電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」「内線規程」および電気配線工事説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用してください。
●配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定してください。
●電源線と信号線は同一経路を通さないようにしてください。誤動作や故障の原因になることがあります。
●Ｄ種接地工事を必ず行ってください。
●電気配線工事の詳細は、142ページの電気配線工事説明書をご覧ください。

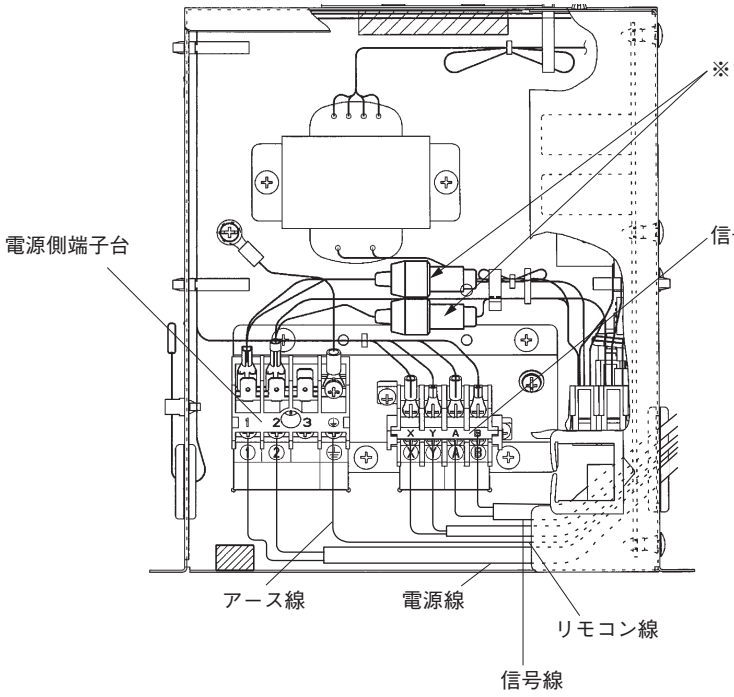
1．電装箱の蓋（ねじ２本）を取外してください。
2．配線カバーを一旦外して、配線を挿入してください。
3．配線を端子台に確実に接続してください。。
4．配線後は、元通りに配線カバーを取付けてください。
5．配線は、配線カバーの上方より取出し、バンドで固定してください。
6．電装箱の蓋を元通りねじ２本で取付けてください。

注意 配線カバーを取付けないと、コントロールボックス内に結露する恐れがあります。

⑦電気配線取出位置および電気配線接続のつづき



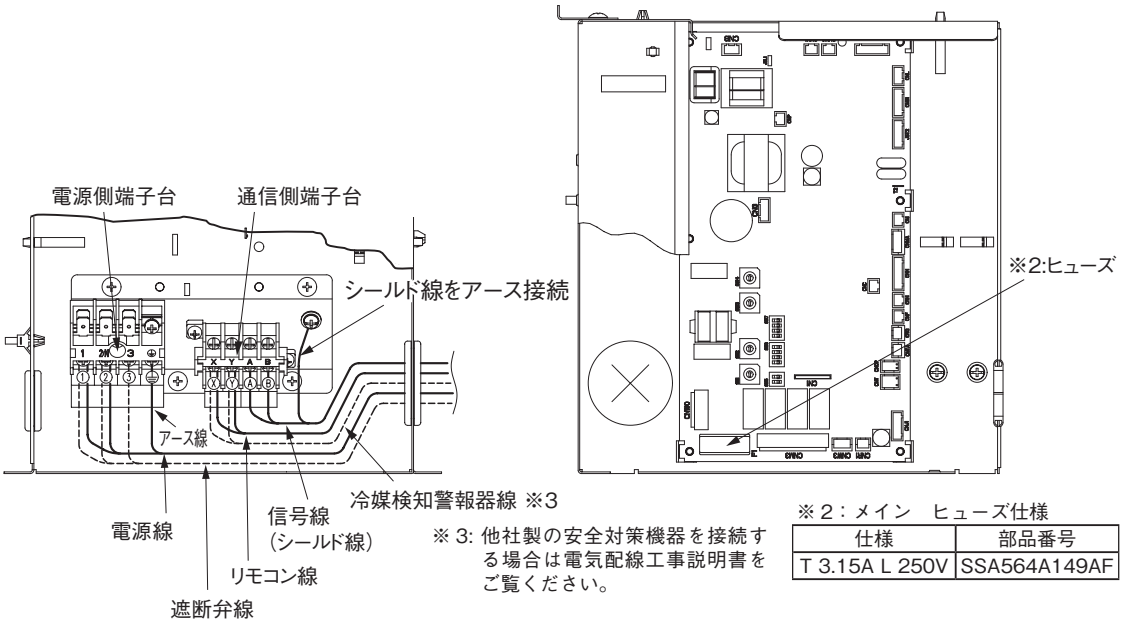
(R410A の場合)



※1：メイン　ヒューズ仕様

仕様	部品番号
T 5A L 250V	SSA564A112

(R32 の場合)



※ 3: 他社製の安全対策機器を接続する場合は電気配線工事説明書をご覧ください。

※2：メイン　ヒューズ仕様

仕様	部品番号
T 3.15A L 250V	SSA564A149AF

⑧インターロック機能（R32 ビル用マルチ機のみ）

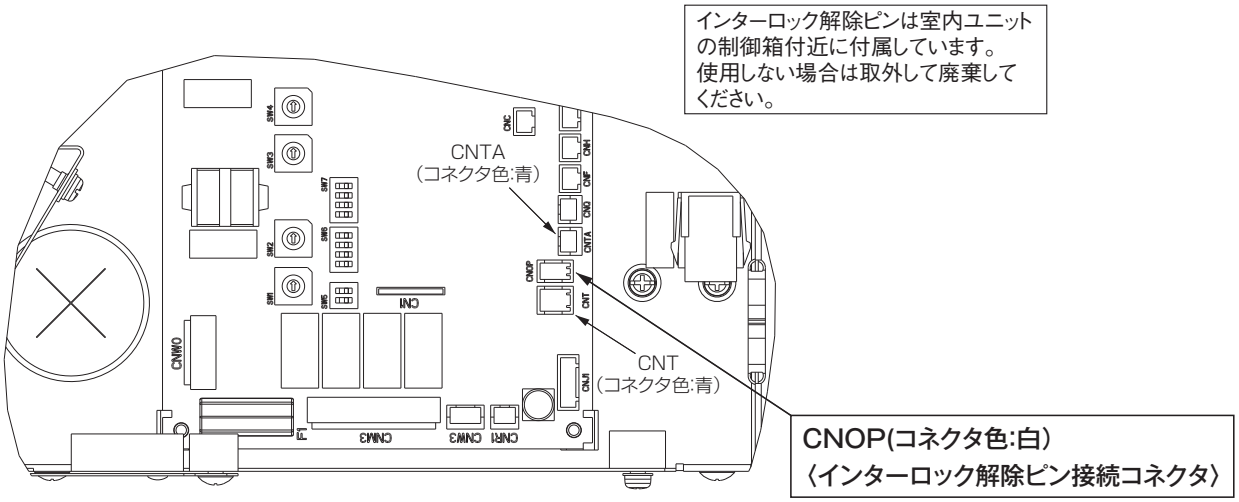
●ビル用マルチ機の室内ユニットは、冷媒漏えいの安全対策のためにインターロック機能が有効になっています。
●**インターロック機能が有効になっている場合、空調システムは運転できません。**
●**インターロック解除ピンは室内ユニットの制御箱付近に付属しています。**
使用しない場合は取外して廃棄してください。
※インターロックが有効状態で運転しようとするとリモコンにメンテナンスコード（M28）が表示され、ユニットは運転できません。

インターロック機能の解除方法

○すべての安全対策機器が必要な場合
下記のすべての安全対策機器を室内ユニットに接続してください。
・安全遮断弁
・冷媒検知警報器
・eco タッチリモコン（RC-DX3D 以降）

○接続する安全対策機器が一部のみ・安全対策機器が必要ない場合
室内ユニットに付属のインターロック解除ピンを室内制御基板上のコネクタに接続してください。(下図参照)
※解除ピンの接続の前には、**冷媒漏えいに対する安全対策が十分であること**、もしくは**安全対策が必要ないこと**を必ず確認してください。
※冷媒検知警報器に子機として接続している室内ユニットのインターロック機能を解除するためには、解除ピンの接続が必要です。
※安全対策機器の要否、およびインターロック機能についての詳細は、「安全対策マニュアル」をご覧ください。

＜インターロック解除ピンの接続コネクタ＞



⑨パネルの取付

●パネルは、電気配線工事完了後に、室内ユニットに取付けてください。
●パネルの取付方法は、パネル付属の据付説明書をご覧ください。

⑩室内ユニット据付工事完了後のチェック項目

●室内ユニット・パネル据付工事、電気配線工事完了後、下記項目についてチェック願います。
●R32ビル用マルチ機の場合、付属の「据付工事施工チェックリスト（R32ブル用マルチ）」を用いて安全対策機器の確認をしてください。

チェック項目	不良の場合	チェック欄
室内外ユニットの取付はしっかりしていますか。	落下、振動、騒音	
ガス漏れ検査は行いましたか。	冷えない	
断熱は完全に行いましたか。	水漏れ	
ドレンはスムーズに流れていますか。	水漏れ	
電源電圧は室内ユニットの銘板と同じですか。	運転不能・焼損	
誤配線・誤配管はありませんか。	運転不能・焼損	
アース工事はされていますか。	漏電時危険	
配線の太さは仕様通りですか。	運転不能・焼損	
室内外ユニットの吸込・吹出口が障害物でふさがれていませんか。	冷えない	

(b) パネルの据付

室内ユニット本体の据付説明書と共にお読みください。

PJC012D131

安全上のご注意

●据付工事は、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ確実に行ってください。
●ここに示した注意事項は、⚠警告、⚠注意、に区分していますが、誤った据付をした時に、死亡や重傷等の重大な結果に結びつく可能性が大きいものを特に ⚠警告の欄にまとめて記載しています。しかし、⚠注意の欄に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
●ここで使われる“図記号”の意味は右のとおりです。 ⃠ 絶対に行わない ❗ 必ず指示に従い行う
●据付工事完了後、試運転を行い、異常がないことを確認するとともに、取扱説明書にそって、「安全上のご注意」や正しい使用方法・お手入れの仕方（エアフィルタの清掃、運転操作の仕方、温度調節の方法など）をお客様に説明してください。
この据付説明書は取扱説明書と共にお客様で保管いただくように依頼してください。また、お使いになる方が代わる場合は、新しくお使いになる方に取扱説明書などをお渡しいただくよう依頼してください。

⚠警告

●据付は、お買い上げの販売店または専門業者に依頼する。 ご自分で据付工事をされ不備があると、水漏れや感電、火災、ユニット落下によるケガの原因になります。	❗
●据付工事は、この据付説明書に従って確実に行う。 据付に不備があると・ケガの原因となり、また水漏れや感電・火災などの原因になります。	❗
●設置工事部品は必ず付属品および指定の部品を使用する。 当社指定の部品を使用しないと、水漏れ、火災、感電などの原因になります。	❗
●電気工事は電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」、「内線規程」および据付説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用する。 電源回路容量不足や施工不備があると感電、火災などの原因になります。	❗
●配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。 接続や固定が不完全な場合は、発熱、火災などの原因になります。	❗
●室内外ユニット間の配線は、端子カバーが浮き上がらないように整形し、カバーを確実に取付ける。 カバーの取付が不完全な場合は、端子接続部の発熱、火災、感電などの原因になります。	❗
●オプション部品は、必ず当社指定の部品を使用する。また取付は専門業者に依頼する。 ご自分で取付をされ、不備があると、水漏れや感電、火災等の原因になります。	❗
●改修は絶対にしない。また、修理はお買い上げの販売店に相談する。 修理に不備があると水漏れや感電、火災などの原因になります。	⃠
●室内ユニットの修理・点検作業に際して「電源ブレーカ」を必ず OFF する。 点検・修理にあたって、電源ブレーカがＯＮのままだと、感電およびファン回転によるケガの原因になります。	❗
●パネルやガードを外した状態で運転しない。 機器の回転物、高温部、高電圧部に触れると、巻き込まれたり、やけどや感電によるケガの原因になります。	⃠
●元電源を切った後に電気工事を行う。 感電、故障や動作不良の原因になります。	❗

①据付のまえに

・据付はこの説明書に従って正しく行ってください。
・右図の付属品を確認してください。

付属品

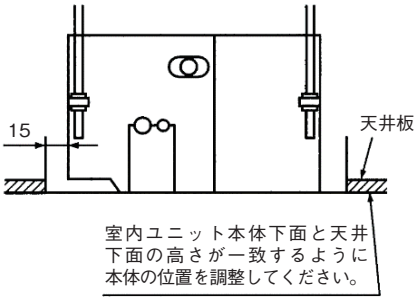
1	エアフィルタ	1 枚	
2	ボルト	4 本	パネル取付用
3	ねじ（M4 L=8mm）	2 本	チェーン取付用

②本体の取付レベルの確認

・室内ユニット本体の据付説明書と共にお読みください。
・室内ユニット本体と天井材との取付レベルを確認してくだい。ユニット下面と天井面（T バー下面）が一致するようにユニット高さを調整してください。（吹出口部分は天井裏に入ります。）
天井下面とエアコン本体下面との高さ許容差は、エアコン本体が上方に 5mm 以下です。

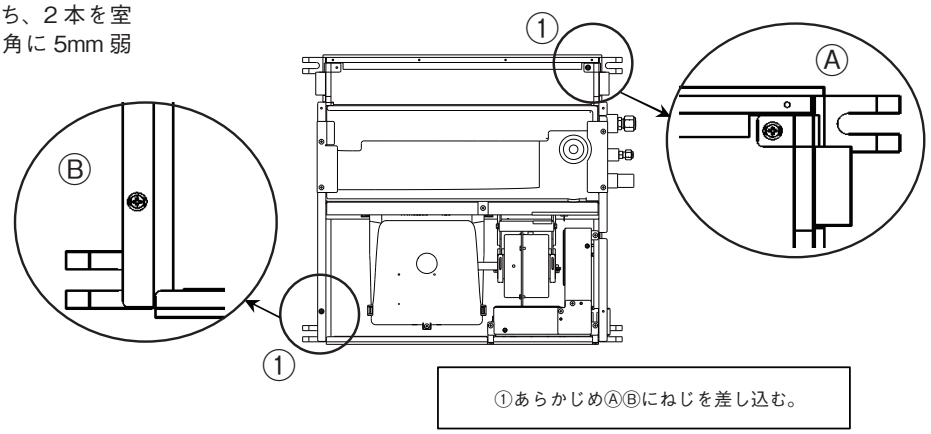
ご注意
・ ユニット本体が天井下面より下方にならないよう設置してください。
・ 室内ユニットと天井材との高さは、パネル取付の際、パネルに無理な荷重がかからない高さにしてください。
パネルが変形し破損の恐れがあります。

システム天井以外の場合



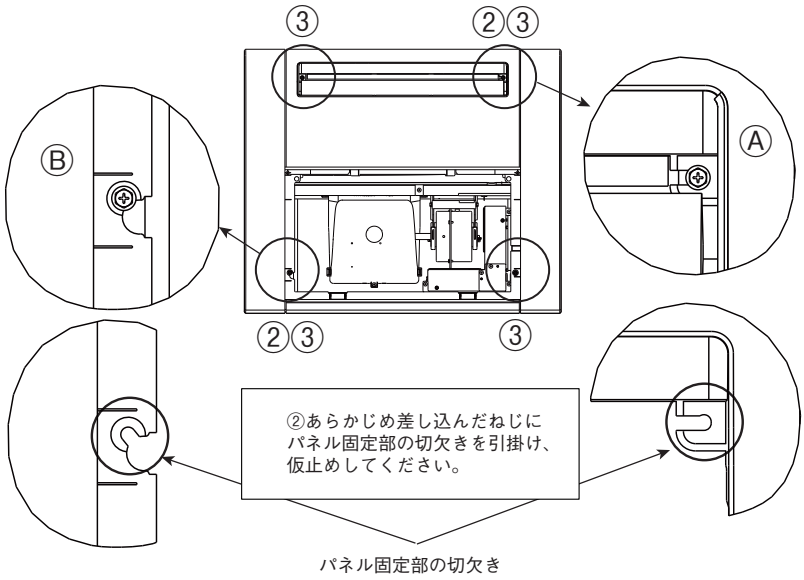
③パネルの取付

①パネル付属のボルト４本のうち、２本を室内ユニットの配管側とその対角に 5mm 弱ねじ込みます。(ⒶⒷ部)

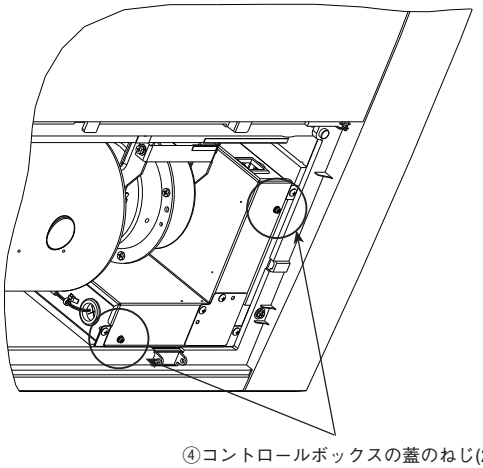


②吸込みグリルを開け、パネルを２本のボルトに引っかけ、仮止めしてください。
仮止めは､先にⒶ側のボルトにパネルを引掛け、回転させながらⒷ側を引掛けます。

③仮止めしたボルトおよび残りのボルト2本を締付けてください。

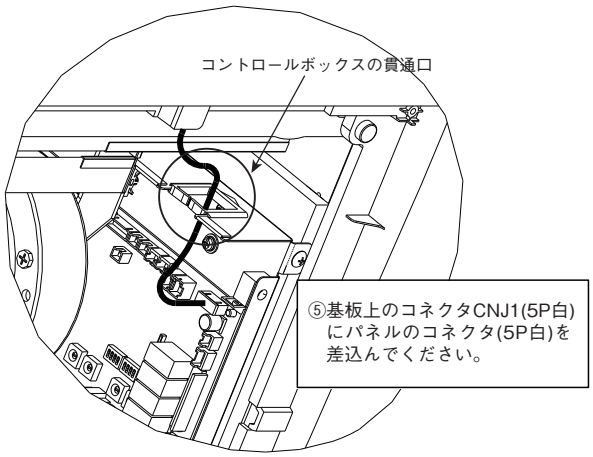


④コントロールボックスの蓋のねじ（２本）を外し、蓋を開けてください。

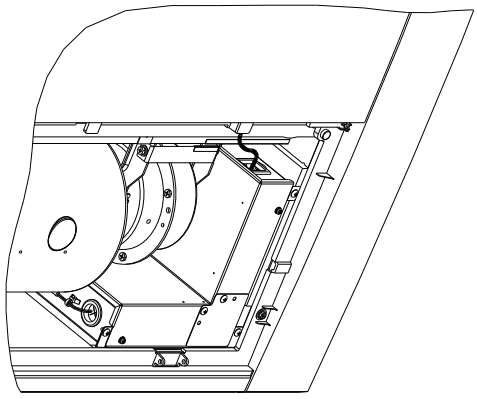


③パネルの取付の続き

⑤ルーバモータ用コネクタ(5P白)をコントロールボックスの貫通口に通し、コネクタCNJ1(5P白)を接続してください。

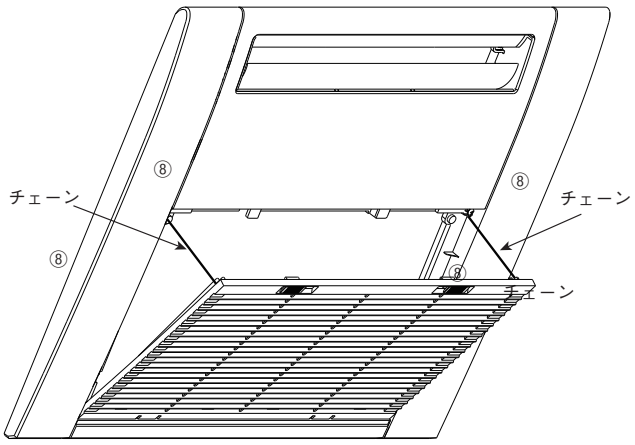


⑥コントロールボックスの蓋を閉めて、ねじ（2本）を締付けてください。



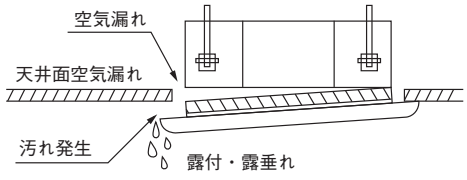
⑦吸込みグリルについているチェーンを、パネル側にねじ（2本）で取付けてください。
チェーンを取付けるためのねじは、ボルトと同じ袋に入っています。
⑧吸込みグリルを閉めて完了です。
⑨リモコン操作でルーバーモータが動作しない場合は、コネクタ接続を確認後電源を 10 秒以上切り、リセットしてください。

チェーン

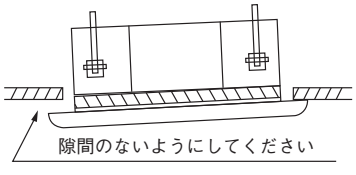


ご注意

・吊りボルトの締込みが不十分な場合、下図のような不具合発生の原因となりますので確実に締込んでください。



・吊りボルト締込んでも天井面とパネルとの間に隙間ができる場合は、室内ユニットの高さを再調整してください。

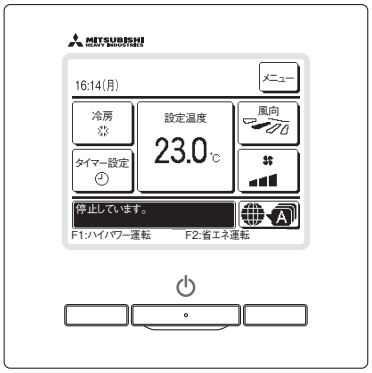


(5) リモコン据付

(a) eco タッチリモコン RC-DX3F

PJZ012D179

この据付説明書は、リモコン関連の据付方法・注意事項を記載しております。
室内ユニット・室外ユニット・他に付属の説明書と合わせてご覧ください。
正しく工事していただくために、工事前に、必ずこの説明書をよくお読みください。



1．安全上のご注意

●工事の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しく据付工事をしてください。
いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。

⚠警告　誤った取り扱いをしたときに、死亡や重傷などの重大な結果に結びつく可能性が大きいもの。

⚠注意　誤った取り扱いをしたときに、傷害を負う可能性、または物的損害の可能性があるもの。

状況によっては重大な結果に結び付く可能性があるもの。

●本文中に使われる「絵表示」の意味は次の通りです。

⃠	絶対にしないでください。	❗	必ず指示どおりに行ってください。

●お使いになる方は、この説明書をいつでも見られるところに大切に保管してください。移設・修理の場合、工事される方にお渡しください。また、お使いになる方が代わる場合、新しくお使いになる方にお渡しください。

⚠警告	
❗	**●据付は、お買上げの販売店または専門業者に依頼する。** ご自分で据付工事をされ不備があると、感電、火災、故障の原因になります。
❗	**●据付工事は、この据付説明書に従って確実に行う。** 据付に不備があると感電、火災、故障の原因になります。
❗	**●据付工事部品は必ず付属品および指定部品を使用する。** 当社指定の部品を使用しないと、落下、火災、感電の原因になります。
❗	**●据付は、重量に十分耐える所に確実に行う。** 強度が不足している場合は、本機の落下などにより、ケガの原因になります。
❗	**●電気工事は電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」、「内線規程」および据付説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用する。** 電源回路容量不足や施工不備があると感電、火災などの原因になります。
❗	**●据付工事は、必ず電源をしゃ断して行う。** 感電、故障や動作不良の原因になります。
⃠	**●改造は絶対にしない。** 感電、火災、故障の原因になります。
❗	**●修理・点検に際して「電源ブレーカ」を必ず OFF にする。** 修理・点検にあたって、電源ブレーカが ON のままだと、感電およびケガの原因になります。
⃠	**●特殊環境、可燃性ガスの発生・流入・滞留・漏れのおそれがあるところへ設置しない。** 油・蒸気・有機溶剤・腐食ガス(アンモニア・硫黄化合物・酸など)の多いところや、酸性やアルカリ性の溶液･特殊なスプレーなどを頻繁に使うところで使用すると、著しい性能の低下･腐食による感電、火災、故障の原因になります。
⃠	**●大量の水蒸気が発生するところ・結露するところには設置しない。** 感電、火災、故障の原因になります。
⃠	**●洗濯室など水のかかる所では使用しない。** 感電、火災、故障の原因になります。
⃠	**●ぬれた手で操作しない。** 感電の原因になることがあります。

⚠警告

●本機を水洗いしない。
感電、火災、故障の原因になります。

●配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。
接続や固定が不完全な場合は、発熱、火災等の原因になります。

●リモコンケーブル引込口をパテでシールする。
水分・ホコリ・虫などが混入すると、感電・火災・故障の原因になります。
また、水分が浸入すると画面表示不良の原因になります。

●病院・通信事業所などに据付ける場合、ノイズに対する備えを行うこと。
インバータ機器・自家発電機・高周波医療機器・無線通信機器などの影響により、誤動作や故障の原因になります。
リモコン側から医療機器・通信機器への影響により、医療行為の妨げ・映像放送の乱れや雑音の弊害が生じる原因になります。

●リモコンの上ケースおよび USB 端子カバーを取り外したまま放置しない。
水分・ホコリ・虫などが混入すると、感電・火災・故障の原因になります。

⚠注意

●リモコンを下記場所に設置しない。
(1) リモコンの変形・誤動作・故障の原因になる場合があります。
・直射日光のあたる場所。
・周囲温度が 0℃以下、40℃以上になる場所。
・取付面に凹凸のある場所。
・取付部が強度を有しない場所。
(2) リモコン内部部品へ水分が付着し、画面表示不良の原因になります。
・リモコンが結露する湿度の高い場所。
・水がかかる場所。
(3) リモコンの温度センサを使用して室内温度を検知する場合、正確な室温を検知できない場合があります。
・部屋の平均的な温度を検知できない場所。
・熱源の影響を受ける場所。
・ドアの開閉による室外空気の影響を受ける場所。
・直射日光やエアコンから吹き出した風が直接当たる場所。
・壁面温度と室内温度の差が大きい場所。
(4) 室内ユニットにラクリーナパネルを使用する場合、昇降動作を確認できない場合があります。
・室内ユニットが見えない場所。

●パソコンに USB で接続する場合、専用のソフトウェアを使用する。
パソコンに他の USB 機器とリモコンを同時に接続しない。
リモコン・パソコンの誤動作・故障の原因になります。

2．部品確認

下記が付属されています。

付属品	リモコン本体、取扱説明書・据付工事説明書

現地手配部品は、以下です。各々の据付方法に従い準備してください。

品　名	所要量	記　事
ねじ	2	取付場所に応じて選定してください。
スイッチボックス 1個用　または　2個用(JIS C 8340)	1	壁面に直接据付ける場合は不要です。
薄鋼電線管（JIS C 8305）	必要量	
ロックナット･ブッシング（JIS C 8330）	必要量	
モール(JIS C 8425)	必要量	リモコンケーブルを壁面に這わす場合に必要です。
パテ	適量	隙間シール用
モリーアンカー	必要量	
リモコンケーブル(0.3mm^2×2線)	必要量	100mを超える場合は右表

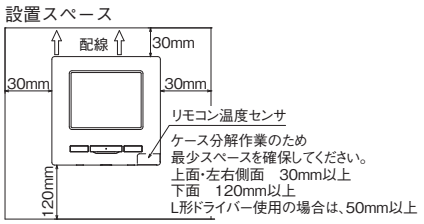
延長距離が100mを超える場合リモコンケース内を通る配線は最大0.5mm^{2}以下とし、リモコン外部の近傍で配線接続により、サイズ変更してください。配線する際は水分等が浸入しないような処置を行ってください。

200m 以内	0.5mm^2 × 2 心
300m 以内	0.75mm^2 × 2 心
400m 以内	1.25mm^2 × 2 心
600m 以内	2.0mm^2 × 2 心

3．据付場所

図の設置スペースを確保してください。
また、据付方式は「スイッチボックスを使用」の場合、「壁面に直接据付」の場合の選択が可能です。
配線取出方向は「背面」、「上面中央」または「上面左」の場合の選択が可能です。
据付方式と配線取出場所を考慮のうえ、据付場所を決めてください。

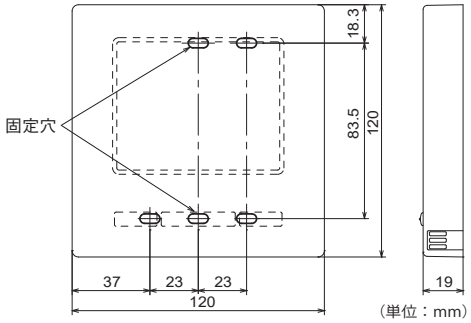
室内ユニットにラクリーナパネルを採用される場合は、グリルの昇降が確認しやすい場所としてください。



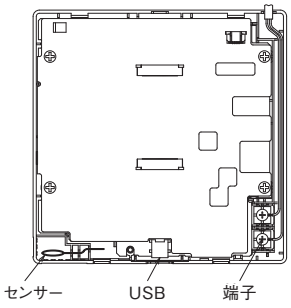
4．据付・配線工事

リモコンの据付・配線工事は下記に従って実施ください。

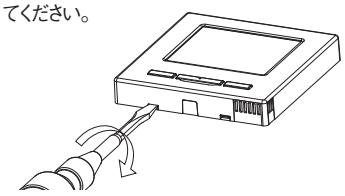
正面から見た取付寸法図



裏面から見た基板面



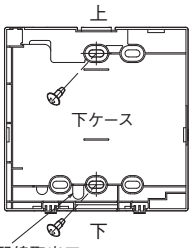
リモコンの上下ケースを組立て後、再度取外す場合
・リモコン下面の凹部にマイナスドライバー等を挿込んで軽くねじって外してください。
ケースを傷つけないよう、ドライバー先端にテープなどを貼ることをおすすめします。
取外した上ケースは、水分・ゴミが付かないようにしてください。



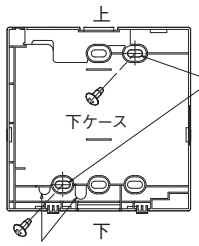
スイッチボックスを使用する場合（配線方向「背面」の場合）

①スイッチボックスとリモコン配線をあらかじめ埋込んでおきます。
　リモコン配線引込口はパテでシールしてください。
②下ケースに配線を通した後、スイッチボックスに２箇所固定してください。

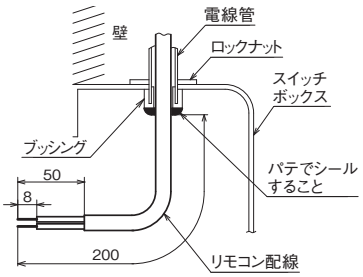
1 個用
スイッチボックス
の場合



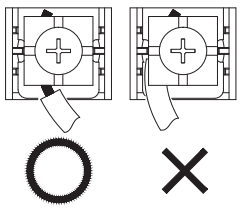
２個用
スイッチボックス
の場合

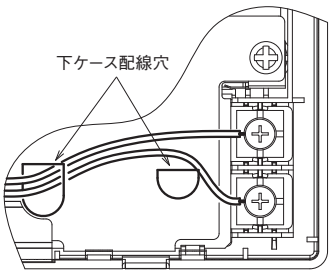


ねじ取付部の薄肉部分をナイフ等で、切りとってからねじをしめてください。



③リモコン端子X，Yと室内ユニットの端子X，Yを接続してください。配線X、Yの極性はありません。
　リモコン上ケース端子ねじで配線を固定してください。
④リモコン配線が噛みこまないように、上ケースを取付けてください。





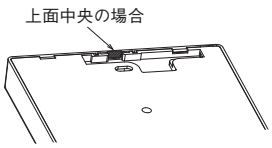
配線接続時のご注意

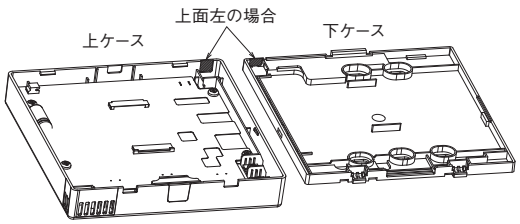
リモコンケース内を通る配線は0.5㎟以下とし、シースをかみこまないように接続してください。
配線接続は、手締め（0.7N･m以下）で行ってください。
電動ドライバーを使用すると、故障や変形の原因になることがあります。

スイッチボックスを使用しない場合（配線取出「上面中央」「上面左」の場合）

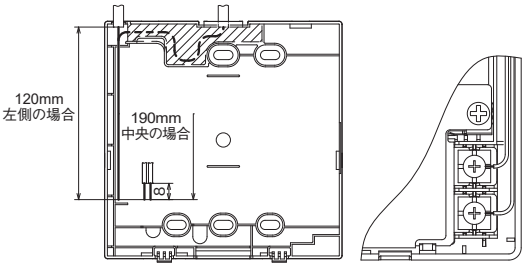
①ケース薄肉部を配線太さに合わせ切取ってください。

上面中央の場合は、上下ケース分解前に切取ってください。基板内部への影響が少なく作業がやり易くなります。
上面左の場合は、基板内部への影響を与えないように切取ってください。破片が内部に残らないように注意してください。



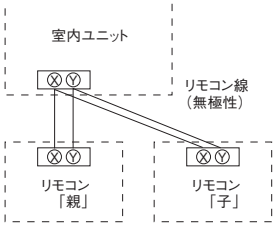


②リモコン下ケースを2本のねじ等で平らな面に固定してください。
③上面中央の場合はケース背面に配線を通してください。(斜線部分)
④リモコン端子X，Yと室内ユニットの端子X，Yを接続してください。配線X、Yの極性はありません。リモコン上ケース端子ねじで配線を固定してください。
⑤リモコン配線が噛みこまないように、上ケースを取付けてください。
⑥①で切取った部分をパテでシールしてください。



5．複数リモコン使用時の親子設定

室内ユニット1台または1グループに対して最大2個までのリモコンを接続できます。
片側が親リモコン、反対側が子リモコンになります。
右表のように子リモコンは操作できる機能に制限があります。



6項の操作で「親」「子」の設定をしてください。

○：操作可能、×：操作不可

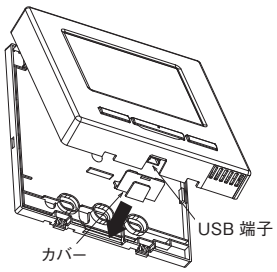
リモコン操作			親	子
運転 / 停止、設定温度切換、風向切換・オートスイング、風量切換　操作			○	○
エアフレックス ON/OFF			○	×
ハイパワー運転、省エネ運転			○	○
室外静音制御			○	×
便利機能	フリーフロー設定		○	×
	エアフレックス（風よけ）設定		○	×
	サーマルセンサ制御		○	×
	タイマー設定		○	○
	ウィークリータイマー		○	×
	おこのみ設定		○	○
	るす番運転		○	×
	換気		○	○
	言語切換設定		○	○
	室外静音制御		○	×
	室内機無線 LAN 設定		○	×
	省エネモード設定		○	×
	見てみて		○	×
	消費電力量表示		○	×
省エネ設定			○	×
お手入れ	フィルタサインリセット		○	○
	グリル昇降		○	○※
	お掃除パネル操作		○	×
ユーザー設定	初期設定		○	○
	管理者設定	操作制限設定	○	×
		室外静音タイマー	○	×
		設定温度範囲	○	×
		温度設定刻み切換	○	×
		設定温度表示切換	○	○
		リモコン表示設定	○	○
		管理者パスワード変更	○	○
		スイッチ機能変更	○	○
		冷媒漏洩検知器設定	○	×
		リモコンアラーム音確認	○	○
		遮断弁チェック運転	○	×
		遮断弁チェック運転結果	○	×

※リモコンに接続されている室内ユニットが複数台の場合、子リモコンから室内ユニットの選択はできません。全台同時に昇降します。

リモコン操作			親	子
サービス設定	据付設定	据付日登録	○	×
		サービス情報入力	○	○
		試運転	○	×
		ダクト機静圧補正	○	×
		自動アドレス変更	○	×
		親室内機アドレス設定	○	×
		バックアップ制御	○	×
		人感センサ設定	○	×
		リモコンアラーム音設定	○	×
		サーマルセンサ設定	○	×
		ドレンクリーン (UV-C) 設定	○	×
		グリル昇降操作	○	○
	リモコン設定	リモコン親子設定	○	○
		吸込センサ制御	○	×
		リモコンセンサ	○	×
		リモコンセンサ補正	○	×
		運転モード選択	○	×
		温度設定単位	○	×
		ファン速度	○	×
		外部入力設定	○	×
		上下ルーバ制御	○	×
		左右ルーバ制御	○	×
		換気設定	○	×
		停電補償	○	×
		設定温度自動設定	○	×
		風量自動設定	○	×
	室内設定		○	×
	サービス・メンテナンス	エアコン No. 表示	○	○
		次回点検日	○	×
		運転データ表示	○	×
		点検表示　異常履歴表示	○	○
		点検表示　異常時運転データ表示・消去	○	×
		点検表示　定期点検リセット	○	○
		室内設定保存	○	×
		特殊操作　室内機アドレス消去	○	×
		特殊操作　CPU リセット	○	○
		特殊操作　初期化設定	○	×
		特殊操作　タッチパネル調整	○	○
		室内機容量表示	○	×
		安全システムメンテナンス	○	×
		UV-C メンテナンス	○	×
		お掃除パネル点検	○	×

お知らせ　パソコン接続について

USBコネクタ（mini-B）を介してパソコンからの設定が可能です。
上ケース下面カバーを外して接続してください。
使用後はカバーを元の位置にはめてください。
接続には、専用のソフトが必要です。
詳細は、ホームページを参照してください。



お知らせ　パスワード初期化

管理者パスワード（日常使用する項目設定用）とサービスパスワード（据付・試運転・メンテナンス用）があります。
○管理者パスワード初期値は、0000 です。設定変更ができます（取扱説明書参照）。
　管理者パスワードを忘れた場合は、管理者パスワード入力画面で［F1］［F2］スイッチを同時に5秒長押しするとパスワードは初期化されます。
○サービスパスワードは、9999 です。設定変更ができません。
　管理者パスワード入力の時、サービスパスワードでも受付られます。



[F1] [F2] スイッチ

おねがい

1つのリモコンに複数台のFDT、FDTCを接続する場合、パネルの種類をエアフレックス機能のあるパネルか、標準パネルのどちらかに統一してください。

(b) 標準リモコン（RC-D4G）

PJA012D729 B

室内ユニットの据付説明書と共にお読みください。

⚠警告

●配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。
接続や固定が不完全な場合は、発熱、火災等の原因になります。

●元電源を切った後に電気工事をする。
感電、故障や動作不良の原因になります。

⚠注意

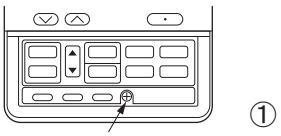
●リモコンを下記場所に設置しない。
リモコンの故障や変形の原因になることがあります。
（1）直射日光の当たる場所　（4）取付面が発熱・結露する場所
（2）発熱器具の近く　（5）油の飛沫や蒸気が直接触れる場所
（3）湿気の多い所・水の掛る所　（6）取付面に凹凸がある所

● リモコンの上ケースを取外したまま放置しない。
上ケースを取外した場合は、内蔵の基板にゴミや水分等が付着しないように、梱包箱或いは梱包袋に入れて保護してください。

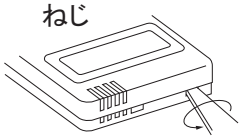
付属品	リモコン本体、　木ねじ（φ3.5×16）2 本
客先手配品	リモコンコード（2 心） [埋込取付の場合]　JIS ボックス、M4 ねじ（2 本） [露出取付の場合]　コードクランプ（適時）

取付要領

① リモコンの蓋を開け、スイッチ下部のねじを必ず外してください。

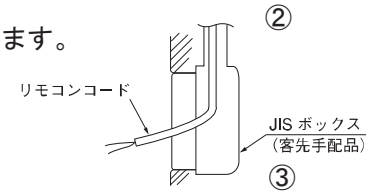


② リモコンの上ケースを外してください。
リモコン上部の凹部にマイナスドライバー等を差込んで軽くねじると、容易にはずれます。



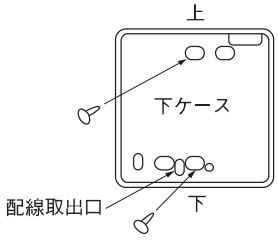
[埋込取付の場合]

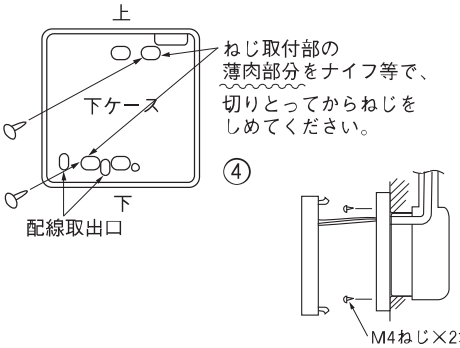
③ JIS ボックスとリモコンコードをあらかじめ埋込んでおきます。
[使用可能な JIS ボックス]
JIS C 8340 1個用スイッチボックス
2個用スイッチボックス



④ M4 ねじ 2 本（推奨長さ 12～16㎜）を用意して、下ケースを JIS ボックスに取付けてください。

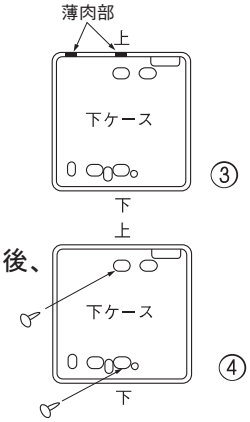
1 個用スイッチボックスの場合　　2 個用スイッチボックスの場合





⑤　リモコンコードを端子台に接続してください。
リモコンの端子（X，Y）と室内ユニットの端子（X，Y）とを接続してください。（X，Y の極性はありません。）

⑥　リモコンコードが噛みこまないように、上ケースを元通り取付け、外したねじで固定してください。

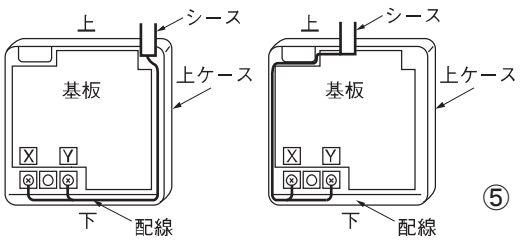


［露出取付の場合］

③　リモコンコードの取出方向は、上部左上または、中央から可能です。
リモコン下ケースの上方の薄肉部をニッパー・ナイフ等で切り取った後、ヤスリ等でバリを取ってください。

④　リモコンの下ケースを付属の木ねじ２本（付属）で平らな壁に取付けます。

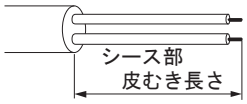
⑤　リモコンコードを端子台に接続してください。
リモコンの端子（X，Y）と室内ユニットの端子（X，Y）とを接続してください。（X，Y の極性はありません。）
取出し方向によって、配線経路は右図の通りとなります。



左上取出しの場合　　中央取出しの場合

リモコン内部のリモコンコードは、0.3㎟（推奨）～最大 0.5㎟ 以下としてください。また、リモコンケース内を通る部分はシース部を皮むきしてください。
各配線の皮むき長さは、下記の通りです。

左上取出しの場合	中央取出しの場合
X 配線：215㎜ Y 配線：195㎜	X 配線：170㎜ Y 配線：190㎜



⑥　リモコンコードが噛みこまないように、上ケースを元通り取付け、外したねじで固定してください。

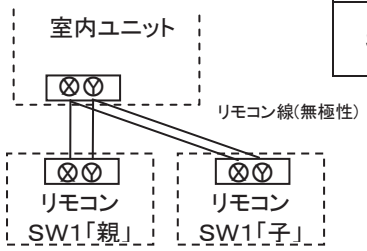
⑦　露出取付の場合は、リモコンコードがたるまないようにコードクランプ等で壁面に固定します。

リモコンコードを延長する場合の注意　最大総延長600m

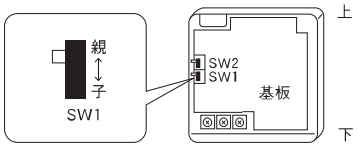
● リモコンコードは 0.3mm²×2 心です。
延長距離が 100m を超える場合は、下記サイズに変更してください。
ただし、リモコンケース内を通る配線は最大0.5mm²以下とし、リモコン外部の近傍で配線接続により、サイズ変更してください。配線接続する際は、水分等が浸入しない様な処置を行ってください。また、配線の接続は、接触不良のない様確実に行ってください。
100～200m 以内・・・・・・0.5mm²×2 心
300m 以内・・・・・・0.75mm²×2 心
400m 以内・・・・・・1.25mm²×2 心
600m 以内・・・・・・2.0mm²×2 心

複数リモコン使用時の親子設定

室内ユニット1台（または1ｸﾞﾙｰﾌﾟ）に対して最大2個までのリモコンを接続できます。



スイッチ	設定	機能内容
SW1	親	親リモコン
	子	子リモコン



子リモコンの切換スイッチ SW1を「子」に設定してください。工場出荷時は「親」設定です。

（注）リモコンセンサ有効設定は親リモコンのみ可能です。

親リモコンを室温検知させる位置に取付けてください。

リモコンの親子設定をした場合、後操作優先で運転されます。

電源投入時の表示

電源投入時、リモコンとエアコンの通信が確定する間、リモコンには、下記表示がでます。

親リモコンの場合：「内機確認中　親」

子リモコンの場合：「内機確認中　子」

室内ユニット1台（または1グループ）に、1個のリモコンを接続する場合は、必ず親リモコン（出荷時設定）としてください。子リモコンにすると、通信ができません。

上記表示と同時に、最初の2秒間、記号または数字が点灯いたします。

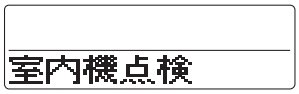
これらはリモコンのソフトウェアの管理番号を表示させているものであり、異常コードの表示ではありません。



※左記記号は一例です。
別の記号が出る場合もあります。

リモコンと室内ユニットの通信ができない状態が30分程度続くと、下記表示がでます。

室内ユニットおよび室外ユニットの配線および、リモコンの親子設定等をご確認願います。



8.3 安全対策機器

(1) 冷媒検知警報器（RLD-KIT）

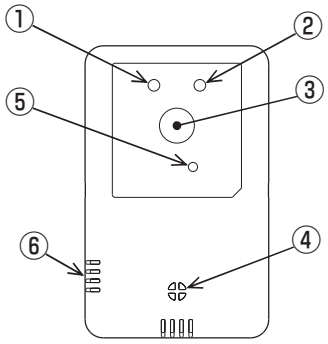
PJZ012A230

(a) 仕様

項目	内容
製品寸法	100（W）×159（H）×28（D）mm（突起部は除く）
質量	0.16kg
電源	DC18V
使用環境条件	温度：-10～40℃（温度区分1）、湿度：95%RH以下
材質	ケース：ABS
検知方式	半導体方式
検知対象ガス	R32
設定濃度値	15000ppm
性能区分	性能2

(b) 各部の情報

冷媒検知警報器は、電源を入れると冷媒濃度の測定を開始します。



① 運転LED（緑）
通常時（冷媒漏えいがないとき）は点灯します。
冷媒検知警報器の状態によっては、点滅することがあります。

② 異常LED（赤）
通常時（冷媒漏えいがないとき）は消灯しています。
冷媒漏えいを検知したとき、または冷媒検知警報器に異常があるときに点滅します。

③ スイッチ
内部スイッチの設定に応じて、下記の操作ができます。
・冷媒漏えい検知時の警報音の停止
・冷媒センサ交換予告時のLED点滅の停止

④ 冷媒検知部（冷媒センサ）
冷媒濃度を測定する部分です。

⑤ ブザー
警報音が鳴る部分です。

⑥ 室温検知部（温度センサ）
室温を測定する部分です。
ecoタッチリモコン（RC-DX3D以降）により、有効/無効を設定します。

ご使用の前に

PJZ012D150 A

R32冷媒ビル用マルチエアコンの安全対策機器（冷媒検知警報器）について

R32冷媒ビル用マルチエアコンはR32冷媒を使用しています。R32冷媒は、国際規格ISO817により可燃性（A2L）に分類されています。R32冷媒機器を設置または使用する際には、安全規格JIS C 9335-2-40およびJRA GL-16に規定された安全対策を遵守しなければなりません。

安全対策機器の設置が必要と判断した場合、必ず設置してください。

冷媒検知警報器を含む安全対策機器を設置せずエアコンを使用し、万が一、何らかの原因で冷媒が漏えいした場合、発火源があると爆発する場合があり、非常に危険です。

冷媒検知警報器は空気中のR32冷媒を検知するセンサを内蔵しています。

冷媒が漏えいした場合、室内ユニットや室外ユニット、他の安全対策機器に冷媒漏えいしていることを伝えます。警報器が作動し、室内に漏えいした冷媒濃度が危険濃度にならないよう各機器を制御します。

安全対策が必要な室内ユニットに対して、必ずecoタッチリモコン(RC-DX3D以降)を使用してください。集中リモコンやワイヤレスリモコンを使用する場合、ecoタッチリモコン(RC-DX3D以降)との併設が必要です。冷媒検知警報器を含む安全対策機器の設定や保守点検等に必要なためです。

1. 安全上のご注意

●工事の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しく据付工事をしてください。

いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。

⚠警告	誤った取り扱いをしたときに、死亡や重傷などの重大な結果に結びつく可能性が大きいもの。
⚠注意	誤った取り扱いをしたときに、傷害を負う可能性、または物的損害の可能性があるもの。

状況によっては重大な結果に結び付く可能性があるもの。

●本文中に使われる「絵表示」の意味は次の通りです。

	絶対にしないでください。		必ず指示どおりに行ってください。

●お使いになる方は、この説明書をいつでも見られるところに大切に保管してください。移設・修理の場合、工事される方にお渡しください。また、お使いになる方が代わる場合、新しくお使いになる方にお渡しください。

⚠警告

据付は、お買上げの販売店または専門業者に依頼する。
ご自分で据付工事をされ不備があると、感電、火災、故障の原因になります。

据付工事は、この据付説明書に従って確実に行う。
据付に不備があると感電、火災、故障の原因になります。

据付工事部品は必ず付属品および指定部品を使用する。
当社指定の部品を使用しないと、落下、火災、感電の原因になります。

据付は、重量に十分耐える所に確実に行う。
強度が不足している場合は、本機の落下などにより、ケガの原因になります。

電気工事は電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」、「内線規程」および据付説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用する。
電源回路容量不足や施工不備があると感電、火災などの原因になります。

据付工事は、必ず電源をしゃ断して行う。
感電、故障や動作不良の原因になります。

改造は絶対にしない。
感電、火災、故障の原因になります。

修理・点検に際して「電源ブレーカ」を必ずOFFにする。
修理・点検にあたって、電源ブレーカがONのままだと、感電およびケガの原因になります。

特殊環境、可燃性ガスの発生・流入・滞留・漏れのおそれがあるところへ設置しない。
油・蒸気・有機溶剤・腐食ガス（アンモニア・硫黄化合物・酸など）の多いところや、酸性やアルカリ性の溶液・特殊なスプレーなどを頻繁に使うところで使用すると、著しい性能の低下・腐食による感電、火災、故障・センサ誤検知の原因になります。

大量の水蒸気が発生するところ・結露するところには設置しない。
感電、火災、故障の原因になります。

洗濯室など水のかかる所では使用しない。
感電、火災、故障の原因になります。

ぬれた手で操作しない。
感電の原因になることがあります。

本機を水洗いしない。
感電、火災、故障の原因になります。

配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。
接続や固定が不完全な場合は、発熱、火災等の原因になります。

⚠警告

ケーブル引込口をパテでシールする。

水分・ホコリ・虫などが混入すると、感電・火災・故障の原因になります。
また、水分が浸入すると画面表示不良の原因になります。

病院・通信事業所などに据付ける場合、ノイズに対する備えを行うこと。

インバータ機器・自家発電機・高周波医療機器・無線通信機器などの影響により、誤動作や故障の原因になります。
冷媒検知警報器側から医療機器・通信機器への影響により、医療行為の妨げ・映像放送の乱れや雑音の弊害が生じる原因になります。

冷媒検知警報器の上ケースを取外したまま放置しない。

水分・ホコリ・虫などが混入すると、感電・火災・故障の原因になります。

⚠注意

●冷媒検知警報器を下記場所に設置しない。

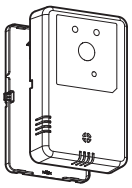
（1）冷媒検知警報器の変形・誤動作・故障の原因になる場合があります。
- 直射日光のあたる場所
- 周囲温度が−10℃以下、40℃以上になる場所
- 取付面に凹凸のある場所
- 取付部が強度を有しない場所

（2）冷媒検知警報器内部部品へ水分が付着し、画面表示不良の原因になります。
- 冷媒検知警報器が結露する湿度の高い場所
- 水がかかる場所

（3）冷媒検知警報器の温度センサを使用して室内温度を検知する場合、正確な室温を検知できない場合があります。
- 部屋の平均的な温度を検知できない場所
- 熱源の影響を受ける場所
- ドアの開閉による室外空気の影響を受ける場所
- 直射日光やエアコンから吹出した風が直接当たる場所
- 壁面温度と室内温度の差が大きい場所

2. 付属品

下記が付属されています。

冷媒検知警報器	据付説明書 （本紙）	取扱説明書
		
1個	1冊	1冊

現地手配部品は、以下です。各々の据付方法に従い準備してください。

品　名	所要量	記　事
ねじ	2	取付場所に応じて選定してください。
スイッチボックス 1 個用 （JIS C 8340）	1	壁面に直接据付ける場合は不要です。 ボックスを壁に埋め込まない場合は、断熱強化のため厚さ 1mm 以上の断熱材を使用してください。
ロックナット・ブッシング （JIS C 8330）	必要量	
薄鋼電線管（JIS C 8305）	必要量	
モール （JIS C 8425 または同等のもの）	必要量	リモコンケーブルを壁面に這わす場合に必要です。 断熱強化のため厚さ 1mm 以上の断熱材を使用してください。
パテ	適量	隙間シール用
モリーアンカー	必要量	
リモコンケーブル(0.3mm^2 × 2 線)	必要量	100m を超える場合は右表

延長距離が 100m を超える場合、冷媒検知警報器ケース内を通る配線は最大 0.5mm^2 以下とし、冷媒検知警報器外部の近傍で配線接続により、サイズ変更してください。配線する際は水分等が浸入しないような処置を行ってください。

200m 以内	0.5mm^2 × 2 心
300m 以内	0.75mm^2 × 2 心
400m 以内	1.25mm^2 × 2 心
600m 以内	2.0mm^2 × 2 心

3. 冷媒検知警報器の設置場所

冷媒検知警報器は、本説明書に従って設置してください。

冷媒漏えいの想定箇所

冷媒漏えいの想定箇所は下記のとおりです。
・室内ユニットの吹出口、吸込口。
・室内ユニットと冷媒配管の接合部（ただし、ろう付およびねじ接合継手によるものを除く）

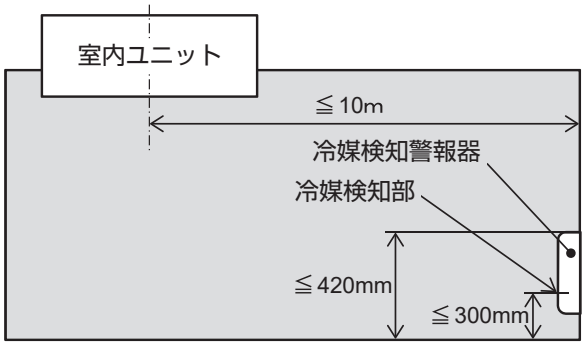
設置場所

冷媒検知警報器の設置場所は下記の全てを満足するようにしてください。
また、ろう付およびねじ接合継手を除く配管接合部が室内に露出する場合も同様の条件が求められます。その場合、「室内ユニット」を「配管接合部」に読み替えてください。
・冷媒検知部は床上300 mm以内（冷媒検知警報器上面が床面から420mm以下）
・室内ユニット中心からの水平距離が10m以内。
　ただし、室外ユニット容量が6馬力以下で、室内ユニットと冷媒検知警報器の間にパーティションなどの障害物がある場合、室内ユニット中心からの水平距離は７m以内。
・保守点検が可能な位置

※1つの冷媒検知警報器を複数の室内ユニットで共有する場合は、「親室内機アドレス設定」が必要です。設定方法はecoタッチリモコン(RC-DX3D以降)の据付工事説明書をご覧ください。

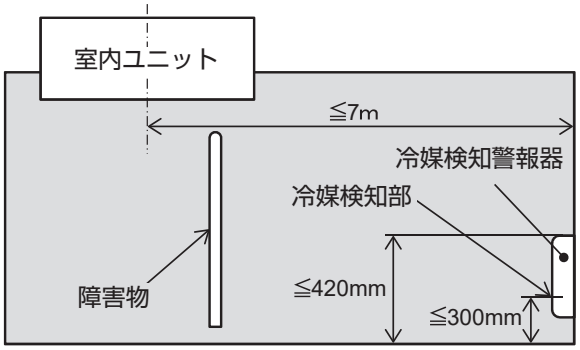
【天井埋め込み形】FDT, FDTC, FDTW, FDTS, FDTSC（LXZA以降のFDT, FDTC, FDTSC, FDTW22～80は除く。）

LXZA以降の**FDT, FDTC, FDTSC, FDTW22～80**は冷媒センサを内蔵していますが、同一室内に、冷媒センサ内蔵室内ユニット以外の室内ユニットを据付ける場合は、冷媒検知警報器を設置してください。



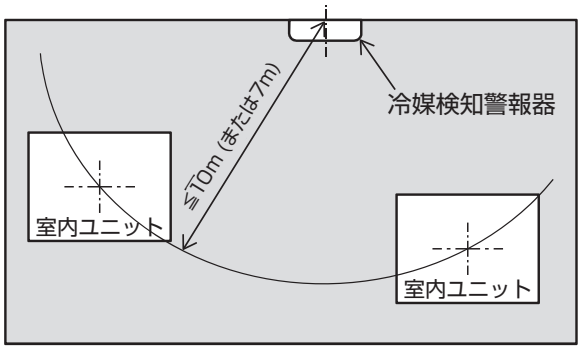
標準

（側面図）



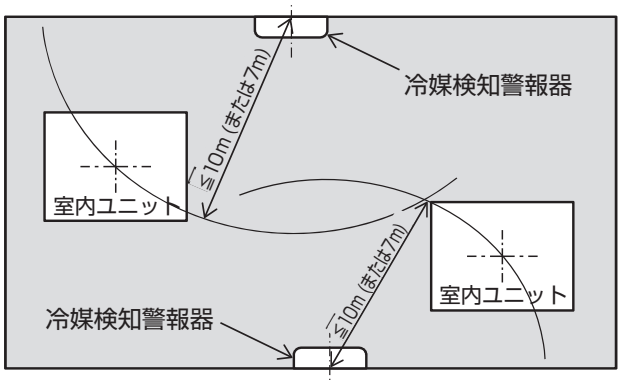
障害物あり(室外ユニット容量が6馬力以下の場合)

（側面図）



室内ユニット複数台

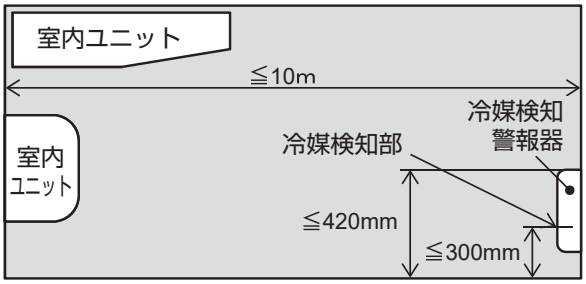
（上面図）



それぞれが距離 10m 以上の室内ユニット

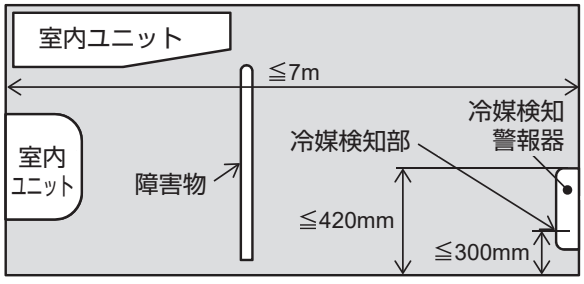
（上面図）

【壁取り付け形】FDE, FDES, FDK



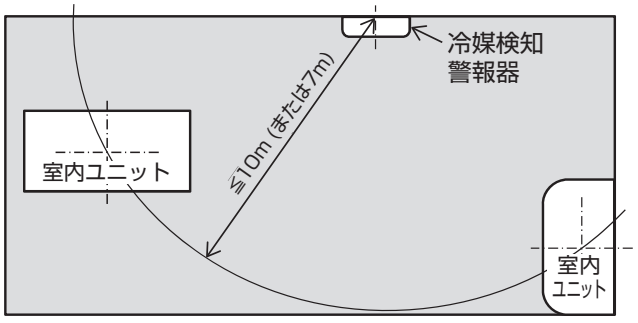
標準

（側面図）



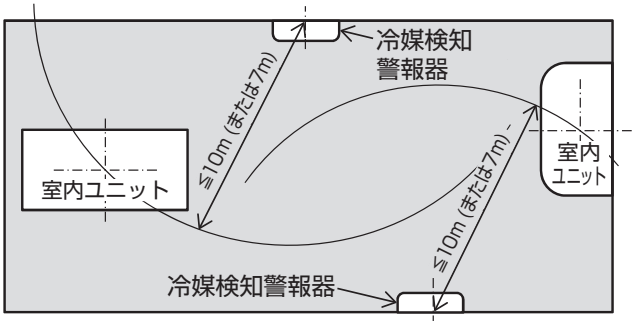
障害物あり

（側面図）



室内ユニット複数台

（上面図）

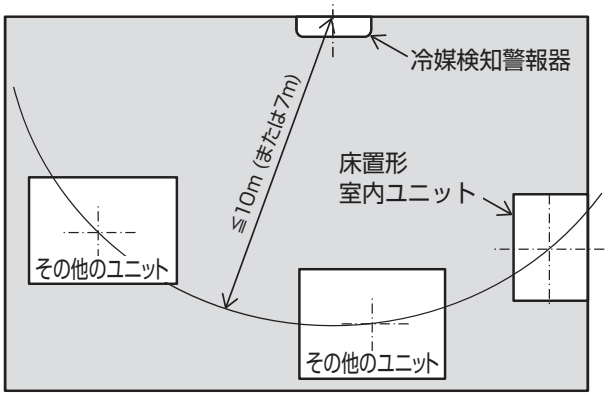


それぞれが距離 10m 以上の室内ユニット

（上面図）

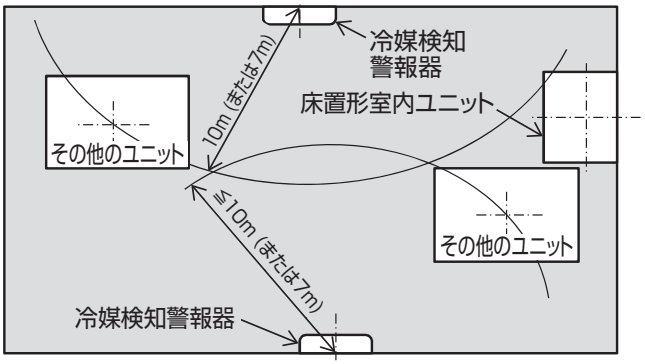
【床置形】FDFL, FDFU

床置形室内ユニットはユニット内部に冷媒センサを内蔵しています。
同一室内に、床置形室内ユニットと床置形以外の室内ユニットを据付ける場合、床置形室内ユニットに内蔵の冷媒センサは考慮せず、冷媒検知警報器を設置してください。



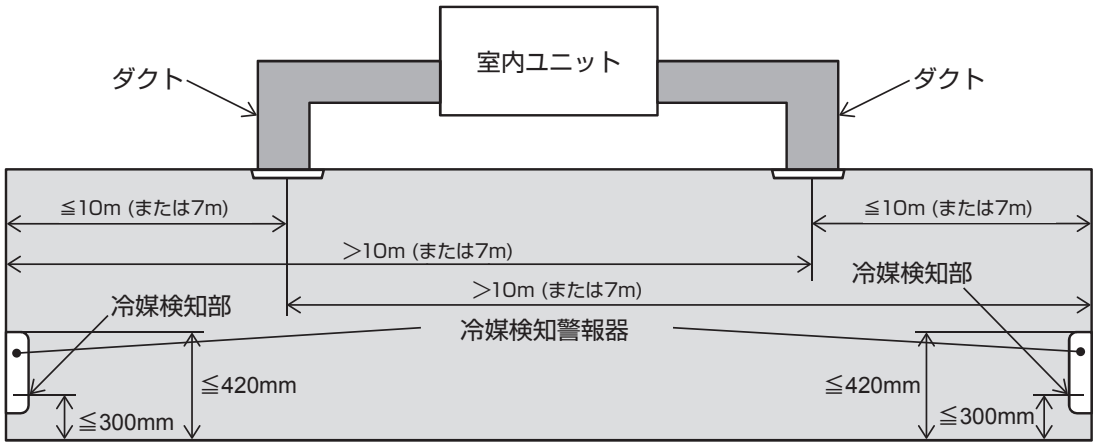
床置形とその他のユニットが、距離10m (または7m) 以内
(上面図)

※床置形には、冷媒検知警報器は不要です。



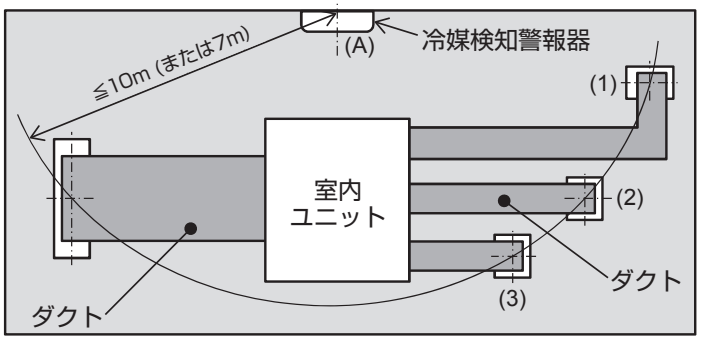
それぞれが距離 10m 以上の室内ユニット
(上面図)

【ダクト形】FDU, FDR



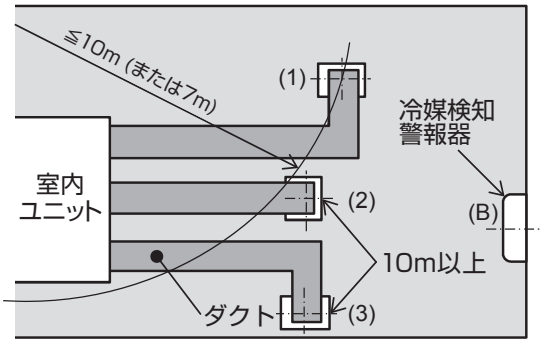
天井からのそれぞれの吹出口、吸込口が、距離10m (または7m) 以上
(側面図)

※冷媒検知警報器 (A) のみで可能。



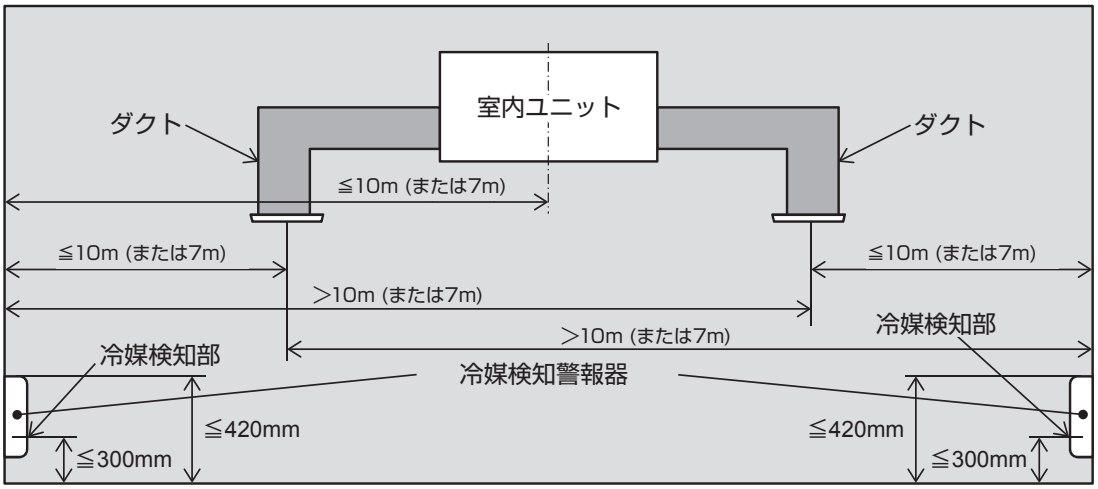
それぞれの吹出口、吸込口が、距離10m (または7m) 以内
(上面図)

※冷媒検知警報器 (B) も必要。
(必ず、冷媒検知警報器(A)と(B)を設置してください。)



吹出口、吸込口(2)(3)が、距離10m (または7m) 以上
(上面図)

※室内ユニットも 10m（または 7m）以内

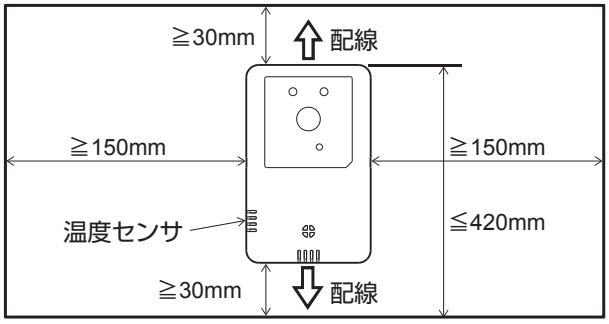


天井なしで、室内ユニットとそれぞれの吹出口、吸込口が、距離10m（または7m）以上

（側面図）

4. 冷媒検知警報器の設置

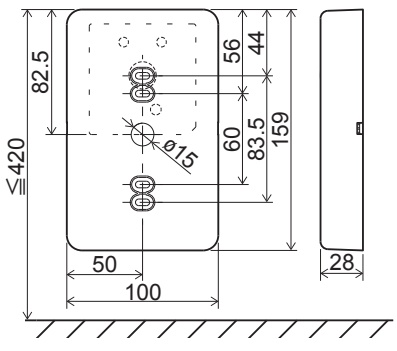
冷媒検知警報器は、必ず平らな面に固定してください。
図のように設置スペースを確保してください。
据付方式は、「スイッチボックスを使用」または「壁面に直接据付」の選択が可能です。
配線取出方向は、「背面」、「上面」または「下面」の選択が可能です。
据付方式と配線取出方向を考慮のうえ、据付場所を決めてください。

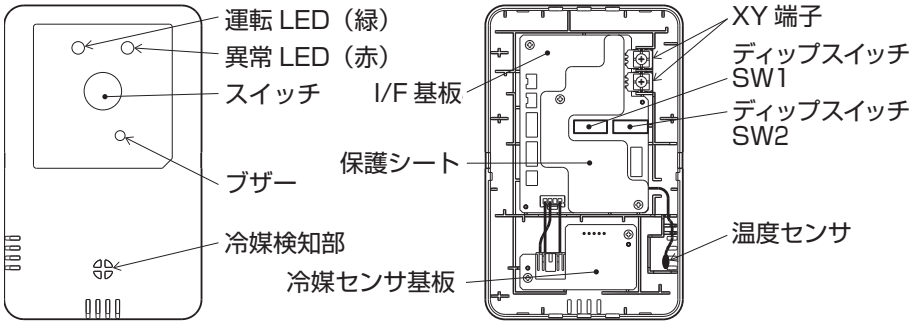


ケース分解作業に必要な最少スペースを確保してください。
左右側面…150mm 以上
L 形ドライバー使用の場合は、50mm 以上

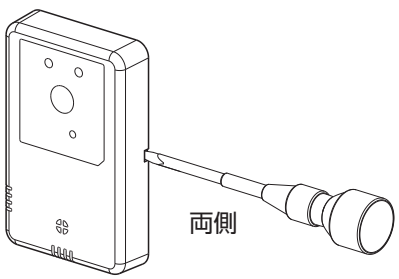
冷媒検知警報器の据付・配線工事は下記に従って実施ください。

正面から見た寸法図



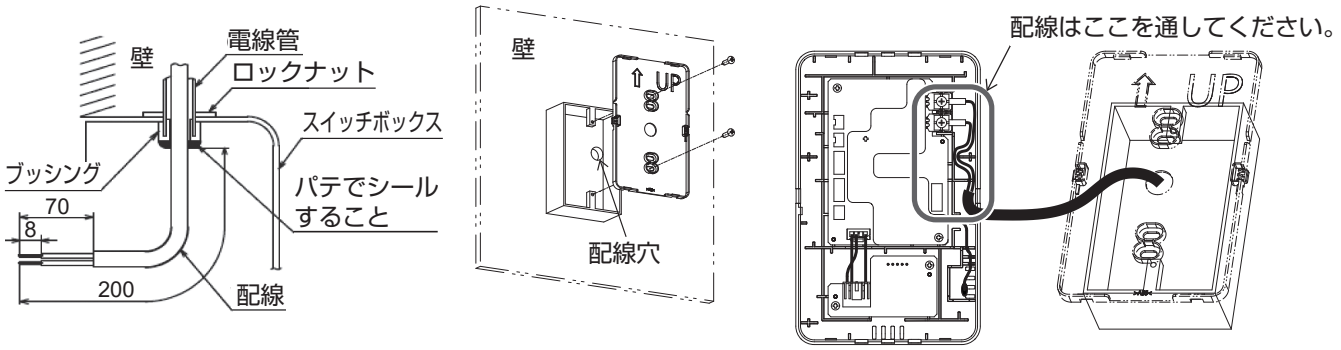


冷媒検知警報器の上下ケースを組立て後、再度取外す場合
- 冷媒検知警報器側面の凹部（両側）にマイナスドライバー等の先端を挿し込んで軽くねじって外してください。
- ケースを傷つけないよう、ドライバー先端にテープなどを貼ることをおすすめします。
- 取り外した上ケースは、水分・ゴミが付かないようにしてください。



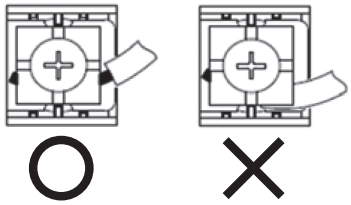
スイッチボックスを使用する場合（配線取出方向「背面」の場合）

①配線端部の処理については、図を参照してください。
スイッチボックスと配線をあらかじめ埋め込んでおきます。配線引込口はパテでシールしてください。
②下ケースに配線を通した後、スイッチボックスに２箇所固定してください。
③冷媒検知警報器の端子 X，Y と室内ユニットの端子 X，Y を接続してください。配線 X、Y の極性はありません。冷媒検知警報器の上ケースの端子ねじで配線を固定してください。
④配線が噛みこまないように、上ケースを取付けてください。



配線接続時のご注意

冷媒検知警報器ケース内を通る配線は 0.5mm² 以下とし、シースを噛みこまないように接続してください。
配線接続は、手締め（0.7N·m 以下）で行ってください。
電動ドライバーを使用すると、故障や変形の原因になることがあります。



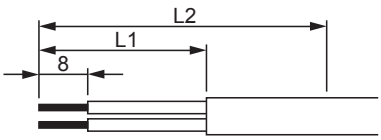
スイッチボックスを使用しない場合（配線取出方向「上面」または「下面」の場合）

①配線端部の処理については、図を参照してください。
②上ケースの中央薄肉部を配線太さに合わせ切取ってください。
基板を損傷しないよう、また切取った破片が内部に残らないように注意してください。
縦方向の２辺（A）をニッパーで切取り、横方向の１辺（B）に沿ってカッターでラインを入れ、薄肉部をケースの内側に折り曲げると切取り易くなります。

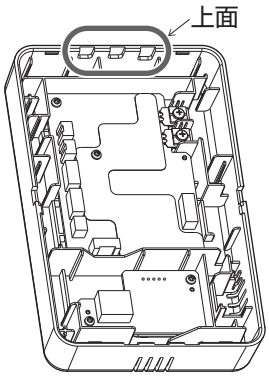

縦方向の二面（A）

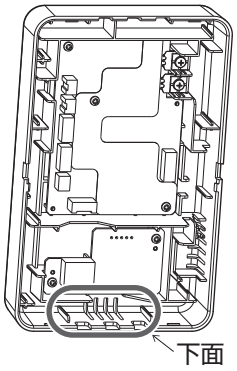

横方向の一面（B）

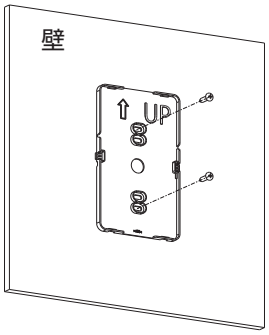
③下ケースを２本のねじ等で平らな面に固定してください。
④冷媒検知警報器の端子 X，Y と室内ユニットの端子 X，Y を接続してください。配線 X、Y の極性はありません。冷媒検知警報器の上ケースの端子ねじで配線を固定してください。
⑤図を参照して配線を通してください。
⑥配線が噛みこまないように、上ケースを取付けてください。
⑦②で切取った部分をパテでシールしてください。異物や水分が入り込まないようにしてください。
⑧配線カバーで配線を覆ってください。配線を引っ張ることにより冷媒検知警報器を損傷しないように注意してください。

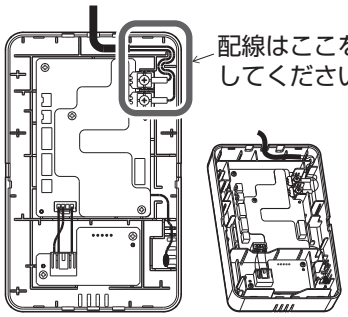


配線取出方向	上面	下面
L1	70mm	150mm
L2	120mm	200mm

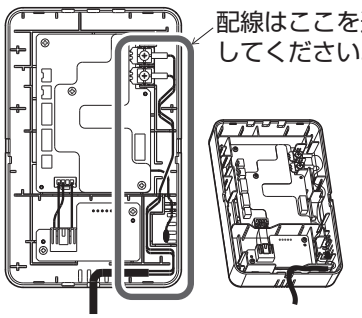




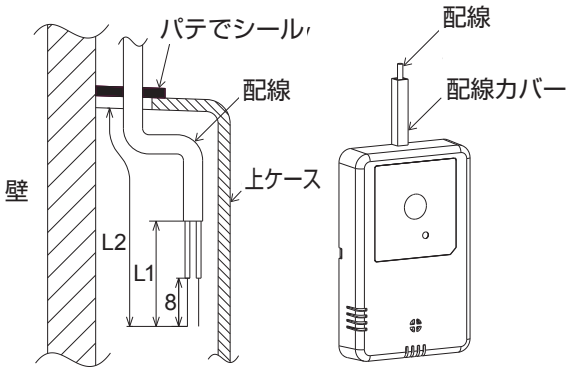




「上面」の場合



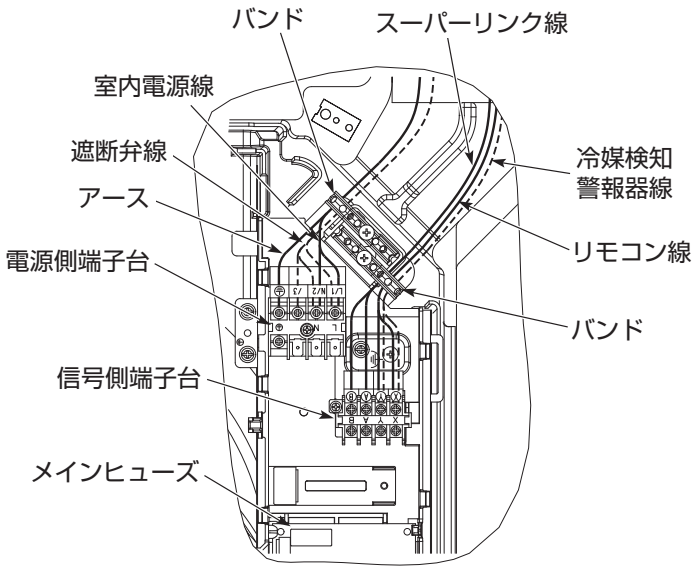
「下面」の場合



「上面」の場合

5. 室内ユニットへの配線接続

冷媒検知警報器は、リモコン信号を使用します。
室内ユニットの X 端子と Y 端子に配線を接続してください。
配線（X、Y）に極性はありません。
他タイプのユニットとの接続は室内ユニットの据付説明書をご覧ください。



FDT の場合

6. 冷媒検知警報器の設定

冷媒検知警報器による設定

冷媒検知警報器には2個のディップスイッチがあります。機能は下表のとおりです。ご使用方法に合わせて、それぞれ設定してください。
ディップスイッチ切換え後、電源 OFF→ON、または冷媒検知警報器のCPUリセット後に、機能が有効になります。

<ディップスイッチ SW 1>

	機能	ON	OFF	工場出荷時の状態
SW1-1	親子設定	親子設定を参照ください。		OFF
SW1-2	親子設定			OFF
SW1-3	–	–	–	OFF
SW1-4	点検モード	有効	無効	OFF

<ディップスイッチ SW 2>

	機能	ON	OFF	工場出荷時の状態
SW2-1	ブザー音停止機能	有効	無効	ON
SW2-2	ブザー機能	有効	無効	ON
SW2-3	漏えい検知機能	有効	無効	ON
SW2-4	–	–	–	OFF

【冷媒検知警報器の親子設定】

室内ユニット1台に対し、冷媒検知警報器はリモコンと合わせて最大4台接続可能です。
以下の場合は本設定が必要です。

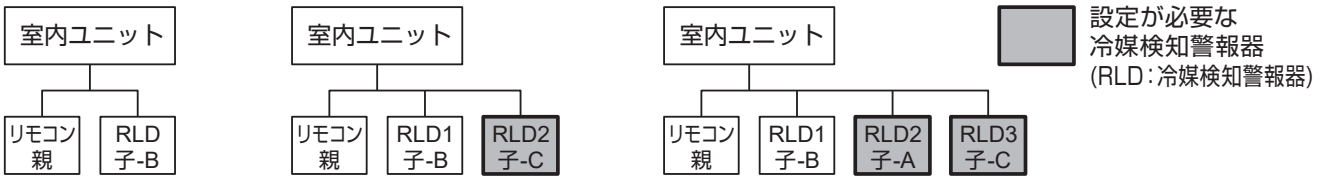
・冷媒検知警報器を2個以上接続する場合
⇒リモコン1台，冷媒検知警報器1台を設置するときは本設定は不要です。

ディップスイッチ SW 1(SW1-1, SW1-2) を下表のとおり設定してください。

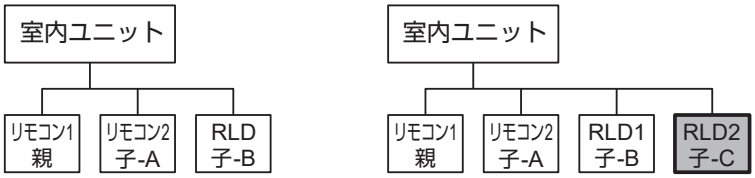
		SW1-1	
		ON	OFF
SW1-2	ON	-（親）	子 -C
	OFF	子 -A	子 -B

・工場出荷時は子 -B に設定しています。
・冷媒検知警報器を複数接続する場合、重複しないように設定してください。
・リモコンは親に設定されるため、検知警報器は親に設定しないでください。
・SLアダプタ（SC-ADNA）を使用する場合、SLアダプタは子-Cに設定されます。その場合、冷媒検知警報器は子-Cに設定しないでください。

＜リモコン1台接続の場合＞



＜リモコン2台接続の場合＞



注：リモコン2は子-Aのため、RLD2は必ず子-Cに設定してください。

【冷媒検知警報器の機能設定】

冷媒検知警報器は、冷媒漏えいを検知すると警報音と異常LED（赤）の点滅により冷媒漏えいを知らせる警報を発します。

ディップスイッチにより下記機能の設定を変更することができます。

＜ブザー音停止機能（ディップスイッチ SW2-1）＞

冷媒漏えい検知時などに発する警報音を冷媒検知警報器のスイッチで停止させる機能です。工場出荷時は有効（SW2-1：ON）に設定しています。

本機能が有効（SW2-1：ON）の場合、冷媒検知警報器の警報音が鳴っているときにスイッチを1回押すと警報音が停止します。なお、異常LED（赤）の点滅による警報は停止しません。

本機能を無効（スイッチを押しても警報音は停止しない）にする場合はSW2-1をOFFに切換えてください。

＜ブザー機能（ディップスイッチ SW2-2）＞

冷媒漏えい検知時などに警報音を発する機能です。警報音量は冷媒検知警報器から 1 m地点で約 65dB です。工場出荷時は有効（SW2-2：ON）に設定しています。

冷媒漏えい検知時の警報用に他の警報器を使用する場合は、本機能を無効（警報音による警報を発しない）にすることができます。

本機能を無効にする場合は SW2-2 を OFF に切換えてください。その場合、必ず別の警報器を設置してください。

＜漏えい検知機能（ディップスイッチ SW2-3）＞

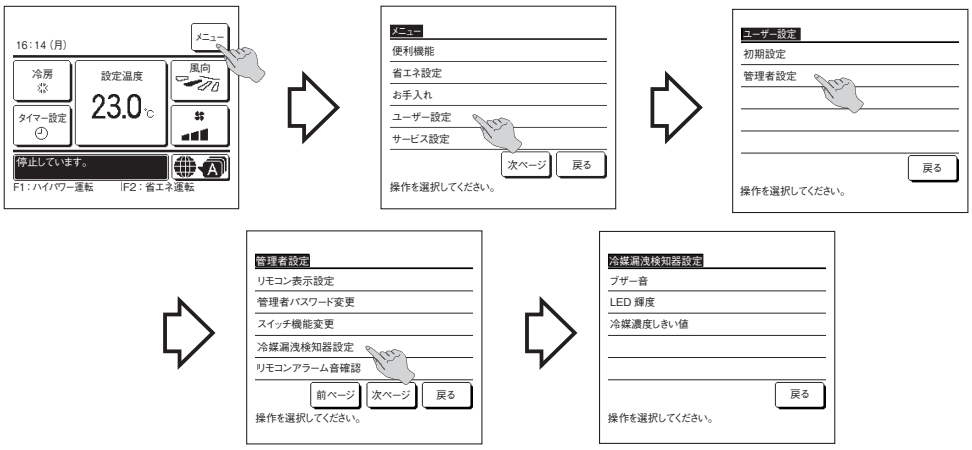
冷媒漏えいを検知する機能です。工場出荷時は有効（SW2-3：ON）に設定しています。

冷媒漏えい検知に他の検知器を使用し、冷媒検知警報器を警報音による警報器のみとして使用する場合は、本機能を無効（漏えい検知しない）にすることができます。

本機能を無効にする場合は SW2-3 を OFF に切換えてください。その場合、必ず別の検知器を設置してください。

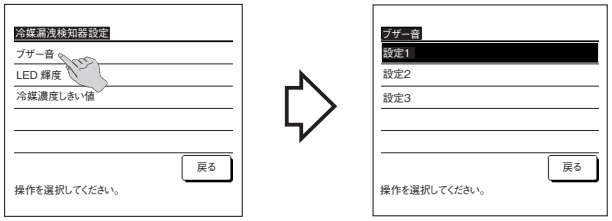
リモコンによる設定

ecoタッチリモコン（RC-DX3D 以降）を使用して、冷媒検知警報器の各設定が可能です。設定には管理者パスワードの入力が必要です。TOP 画面の メニュー ボタンをタッチし、ユーザー設定 ⇒ 管理者設定 ⇒ 冷媒漏洩検知器設定 を選択します。なお、下記のecoタッチリモコン画面の仕様は予告なく変更することがあります。最新はecoタッチリモコンの説明書をご覧ください。



<ブザー音>

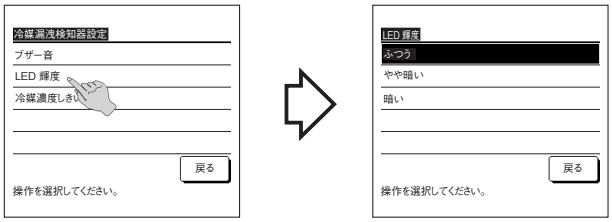
冷媒漏えい検知時などに発する警報音の大きさを選択できます。
設定すると、設定した音で３秒間ブザーが作動します。



設定１　：最も大きく聞こえる音です。
　　工場出荷時の設定です。
設定２　：設定１より少し小さく聞こえます。
設定３　：設定１より小さく聞こえます。

<LED輝度>

冷媒検知警報器運転中に点灯する運転 LED(緑) の輝度を選択できます。



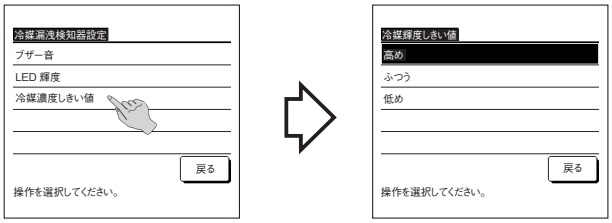
ふつう　：輝度 100%。
　　工場出荷時の設定です。
やや暗い：輝度 75%。
暗い　　：輝度 50%。

<冷媒濃度しきい値>

冷媒漏えい検知後、濃度低下したことをお知らせするため、警報音と異常 LED(赤) の点滅が変化します。警報音と異常 LED(赤) の点滅が変化する濃度を選択できます。
なお、警報音と異常 LED(赤) の点滅は下記のとおりです。

	警報音	異常 LED(赤)	運転 LED(緑)
冷媒漏えいを検知したとき	連続音	連続点滅	消灯
冷媒濃度が低下したとき	断続音	５回点滅	消灯

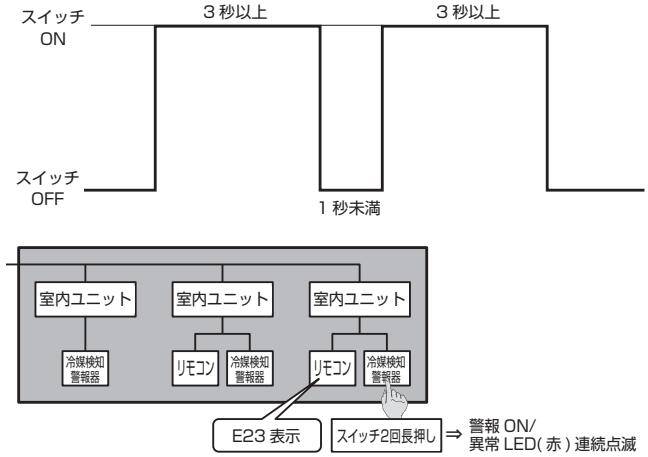
断続音 : 異常 LED(赤) の点滅に同期



高め　：漏えいを検知する濃度と同じです。
ふつう：高めと低めの中間の濃度です。
　　工場出荷時の設定です。
低め　：冷媒検知警報器の検出下限値です。

7. 安全対策機器の接続確認

冷媒検知警報器を含む各安全対策機器を設置・接続後、正しく接続されているか確認してください。
誤った接続をしていると、冷媒漏えい時に安全対策の処置を正しくできません。
接続確認を実施せずエアコンを設置している期間中に冷媒漏えいが発生した場合、当社は責任を負い兼ねます。
系統内の室外ユニット, 室内ユニット、リモコン, 安全対策機器（冷媒検知警報器, 安全遮断弁、換気装置など）が正しく接続されていることを確認後、下記を実施してください。
接続確認後、室内ユニットや冷媒検知警報器以外の安全対策機器が正しく作動しているか確認してください。確認方法はそれぞれの機器の説明書をご覧ください。

<table>
<tr><th>No.</th><th>作業</th><th>確認</th></tr>
<tr><td>1</td><td>ディップスイッチ SW2-3 を ON にしてください。（工場出荷時は SW2-3 は ON）
※ SW2-3 が ON になっていないと検知器として動作しません。</td><td rowspan="2">冷媒検知警報器の警報音と LED の状態
<table><tr><th>警報音</th><th>運転 LED（緑）</th><th>異常 LED（赤）</th></tr><tr><td>なし</td><td>点灯</td><td>消灯</td></tr></table>※通常の状態です。</td></tr>
<tr><td>2</td><td>室外ユニットの設定を安全対策確認モードにしてください。
設定方法は室外ユニットの説明書をご覧ください。</td></tr>
<tr><td>3</td><td>冷媒検知警報器のスイッチを２回長押ししてください。
１回の長押しは３秒以上としてください。（下図参照）
詳細は 10. その他の【スイッチ操作の注意点 (128 ページ)】をご覧ください。
※冷媒検知警報器のスイッチを２回長押し後、スイッチから手を離して約 1 秒後に、冷媒検知警報器が接続確認信号を発信し、警報音が鳴り、異常 LED（赤）が連続点滅します。

</td><td>• 冷媒検知警報器の警報音と LED の状態
<table><tr><th>警報音</th><th>運転 LED（緑）</th><th>異常 LED（赤）</th></tr><tr><td>連続音</td><td>点灯</td><td>連続点滅</td></tr></table>※もしこの状態にならない場合、冷媒検知警報器が故障している可能性があります。
※これは実際の冷媒漏えいを検知した状態とは異なります。実際に冷媒漏えいを検知した場合は、運転 LED（緑）が消灯します。
• 冷媒検知警報器付きの室内ユニットに接続されているリモコンにエラーコード「E23」が表示されます。
「E 23」が表示されない場合、接続または設定が間違っている可能性があります。接続および設定を確認してください。</td></tr>
<tr><td>4</td><td>冷媒検知警報器のスイッチを 1 回押すと警報音が停止します。</td><td>冷媒検知警報器の警報音と LED の状態
<table><tr><th>警報音</th><th>運転 LED（緑）</th><th>異常 LED（赤）</th></tr><tr><td>停止</td><td>点灯</td><td>連続点滅</td></tr></table></td></tr>
<tr><td>5</td><td>冷媒検知警報器のスイッチを３回押すと、冷媒検知警報器は通常状態に戻る信号を送り、異常 LED（赤）が消灯します。</td><td rowspan="2">冷媒検知警報器の警報音と LED の状態
<table><tr><th>警報音</th><th>運転 LED（緑）</th><th>異常 LED（赤）</th></tr><tr><td>停止</td><td>点灯</td><td>消灯</td></tr></table>※通常の状態です。</td></tr>
<tr><td>6</td><td>室外ユニットの安全対策確認モードを解除してください。
設定方法は室外ユニットの説明書をご覧ください。</td></tr>
</table>

8. 冷媒検知警報器の交換

冷媒検知警報器は使用開始（電源投入）から 5 年経過したら交換してください。

冷媒センサ交換のお知らせ

4年6か月経過すると、交換時期が近くなったことをお知らせします。その後、5年に達するまで、毎月お知らせしますので、ご購入いただいた販売店にご連絡いただき、新しい冷媒検知警報器をご用意ください。

5年に到達すると、交換が必要なことをお知らせします。冷媒検知警報器を交換するまで、交換のお知らせを表示し続けます。必ず冷媒検知警報器を交換してください。

			交換時期が近くなったとき	交換時期になったとき
通知時期			4年6か月～4年11か月まで毎月	5年
冷媒検知警報器	表示		運転LED（緑）と異常LED（赤）が交互に3回点滅	運転LED（緑）と異常LED（赤）が交互に連続点滅
	表示の停止方法		冷媒検知警報器のスイッチを１回押す	冷媒検知警報器交換
リモコン（RC-DX3D以降）	表示	TOP 画面	「冷媒センサの交換時期が近づいています。」	「冷媒センサの交換時期が過ぎています。」
		異常履歴表示画面	「M52」	「M51」
	表示の停止方法		リモコンの取扱説明書をご覧ください	リモコンの取扱説明書をご覧ください

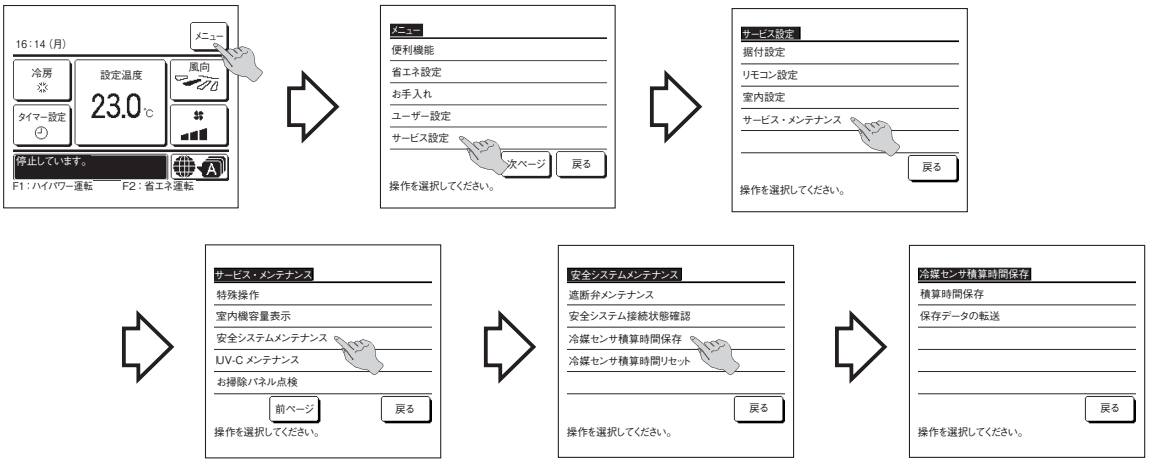
※冷媒検知警報器交換後は、7 項に従い安全対策機器の接続確認を実施してください。

9. I/F基板の交換（冷媒センサ積算時間の保存・転送）

故障などで I/F 基板を交換する際、冷媒センサを使用した積算時間の移設が必要です。
積算時間は冷媒検知警報器の I/F 基板に保存しています。I/F 基板を交換してしまうと積算時間がゼロになってしまい、冷媒センサの交換時期が正しく表示できず、決められた交換時期を超過してしまいます。
I/F 基板を交換する際はecoタッチリモコン（RC-DX3D以降）を使用して、必ず冷媒センサを使用した積算時間を新しい I/F 基板に移設してください。

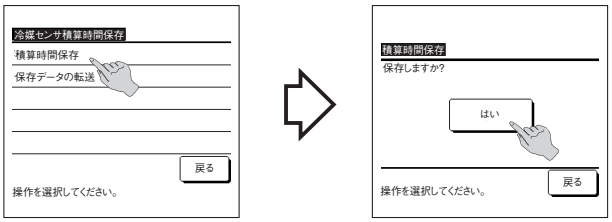
冷媒センサの積算時間の保存と転送

冷媒センサを使用した積算時間を ecoタッチリモコン (RC-DX3D以降) に保存し、新しい I/F 基板に移設してください。設定にはサービスパスワードの入力が必要です。
TOP画面の メニュー ボタンをタッチし、サービス設定 ⇒ サービス・メンテナンス ⇒ 安全システムメンテナンス ⇒ 冷媒センサ積算時間保存 を選択します。
なお、下記のecoタッチリモコン画面の仕様は予告なく変更することがあります。最新は eco タッチリモコンの説明書をご覧ください。



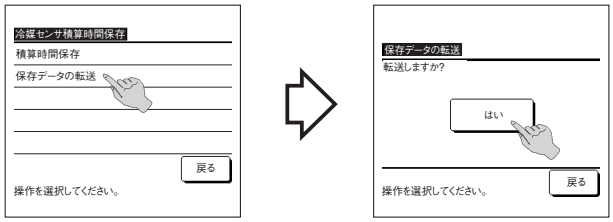
<積算時間をecoタッチリモコンに保存するとき>

I/F 基板交換前に実施してください。



<ecoタッチリモコンに保存した積算時間をI/F基板に転送するとき>

I/F 基板交換後に実施してください。



I/F基板の交換

冷媒検知警報器内の基板の脱着や操作をします。その際は、必ず室内ユニットの電源を OFF してください。

電源が ON のままだと、感電・故障・誤動作の原因になります。

①冷媒センサを使用した積算時間をecoタッチリモコンに保存してください。

②上ケースを取外してください。
その際、配線を接続している XY 端子に負荷がかからないようにしてください。端子や基板が破損します。

③XY端子(２個)とI/F基板のコネクタを外してください。

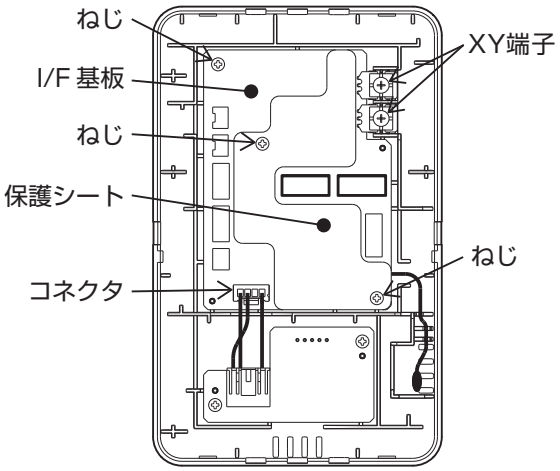
④I/F基板を固定しているねじ(３個)を取外し、上ケースからI/F基板を取外してください。

⑤上ケースに新しいI/F基板を取付け、ねじ(３個)で固定してください。その際、保護シートも取付けてください。

⑥ I/F 基板の XY 端子とコネクタを確実に接続してください。正しく接続していないと冷媒漏えいを検知できません。

⑦下ケースに上ケースを取付けてください。

⑧ eco タッチリモコンに保存した積算時間を新しい I/F 基板に転送してください。



10. その他

スイッチ操作について

<スイッチ操作の種類>

スイッチの操作方法によって、冷媒検知警報器は各動作をします。

スイッチ操作と冷媒検知警報器の動作は下記のとおりです。

	通常モード (ディップスイッチ SW1-4 : OFF)	点検モード (ディップスイッチ SW1-4 : ON)	備考
１回押し	警報音停止	警報音停止	冷媒漏えい検知したとき
	運転 LED(緑)と異常 LED(赤)の点滅停止	運転 LED(緑)と異常 LED(赤)の点滅停止	冷媒センサ交換時期が近いとき
２回押し	警報機能確認	警報機能確認	定期点検するとき
３回押し	警報音停止+異常 LED(赤)消灯	警報音停止+異常 LED(赤)消灯	冷媒漏えい検知したとき
１回長押し	–	冷媒センサ積算時間リセット	冷媒センサ交換するとき
２回長押し	接続確認信号の発信 / 停止	–	据付や点検で接続確認するとき
３回長押し	冷媒検知警報器のCPUリセット	冷媒検知警報器のCPUリセット	–

＜スイッチ操作の注意点＞

下記に示すようにスイッチを操作しないと、冷媒検知警報器はスイッチ操作を認識せず、意図した冷媒検知警報器の動作をしません。ご注意ください。

①２回または３回押しの場合、押す間隔は１秒未満としてください。
　１秒以上の間隔をあけると、意図した回数より少ない回数を認識します。

②長押しの場合、１回の長押しは３秒以上としてください。
　スイッチを押す１回の長さ３秒未満の場合、長押しと認識せず、通常押しとして認識します。

③スイッチを押したあと、冷媒検知警報器が各動作を開始するのはスイッチから手を離したときです。
　スイッチを押したままにすると、冷媒検知警報器は各動作を開始しません。
　また、冷媒検知警報器以外の機器が動作を開始するのは、各機器との通信状況によりスイッチから手を離してから最長で十数秒経過後となる場合があります。

冷媒検知警報器の制御一覧

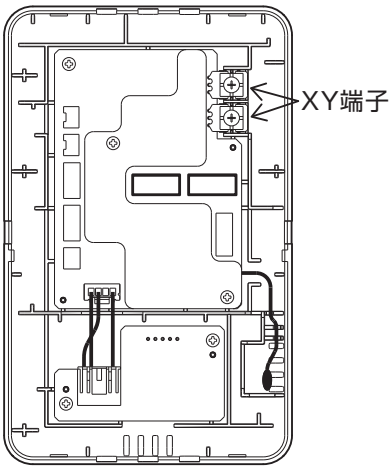
		※1		※2		※3	※4
No.	制　御	リモコン表示コード	主な開始条件	運転 LED（緑）	異常 LED（赤）	ブザー	スイッチ1回押し
1	通常	–	通電中	点灯	消灯	OFF	—
2	冷媒センサ交換予告	M52	冷媒検知警報器使用時間が4年6か月経過したとき毎月	3回点滅（交互）	3回点滅（交互）	OFF	LED 消灯
3	冷媒センサ交換案内	M51	冷媒検知警報器使用時間が5年経過したとき	連続点滅（交互）	連続点滅（交互）	OFF	—
4	漏えい検知	E23	漏えい検知濃度以上になったとき	消灯	警報点滅	ON	ブザー OFF
5	漏えい濃度上昇	E23	漏えい検知濃度の約4倍の濃度になったとき	消灯	警報点滅	ON	—
6	漏えい濃度低下	E23	リモコンで設定した濃度以下になったとき	消灯	5回点滅	異常 LED（赤）同期 ON	ブザー OFF
7	ブザー音量設定	–	リモコンでブザー音量を設定したとき	成り行き	成り行き	3秒 ON	—
8	安全対策機器の接続確認	E23	2回長押ししたとき	点灯	警報点滅	ON	ブザー OFF
9	点検モード	–	ディップスイッチ SW1-4 が ON のとき	警報点滅	成り行き	OFF	—
10	積算時間リセット	–	ディップスイッチ SW1-4 が ON で1回長押ししたとき	リセット点滅	成り行き	リセット ON	—
11	電源 ON 時の室内ユニット未登録	–	室内ユニットから10分信号ないとき	6回点滅（同時）	6回点滅（同時）	OFF	—
12	室内ユニット登録台数オーバ	E10	室内ユニットが17台以上接続されているとき	3回点滅（同時）	3回点滅（同時）	OFF	—
13	温度センサ断線	E28	検知温度が -50℃以下になったとき	4回点滅（同時）	4回点滅（同時）	OFF	—
14	冷媒センサ故障	M11	冷媒センサの出力電圧が 2.9V 以上のとき	1回点滅（交互）	1回点滅（交互）	異常 LED（赤）同期 ON	ブザー OFF
15	冷媒センサ外れ	M12	冷媒センサの出力電圧が 0.1V 未満のとき	2回点滅（交互）	2回点滅（交互）	異常 LED（赤）同期 ON	ブザー OFF
16	通信異常	M41	室内ユニットと2分間通信できないとき	5回点滅（同時）	5回点滅（同時）	OFF	—
17	冷媒検知警報器の CPU リセット	–	3回長押ししたとき	リセット点滅（同時）	リセット点滅（同時）	リセット ON	—
18	警報器専用制御	–	ディップスイッチ SW2-2 が ON、SW2-3 が OFF で他機器からの入力があったとき	消灯	警報点滅	ON	ブザー OFF

No.	制　御	リモコン 表示コード	主な開始条件	運転 LED (緑)	異常 LED (赤)	ブザー	スイッチ 1回押し
19	警報機能確認	—	2 回長押ししたとき (ディップスイッチSW2-2がONのとき)	点灯	点灯	ON	ブザー OFF LED 消灯
20	警報機能確認	—	2 回長押ししたとき (ディップスイッチSW2-2がOFFのとき)	点灯	警報点滅	OFF	LED 消灯

※1： リモコンに表示されるエラーコードまたはメンテナンスコード
※2： LED の点滅の違いは下記のとおりです。
　　警報点滅：１秒間に点灯 / 消灯が２回を継続　　リセット点滅：短く２回点滅
　　連続点滅：１秒間に点灯 / 消灯が１回を継続　　同時：運転 LED(緑) と異常 LED(赤) が同時に点滅
　　ｎ回点滅：１秒間に点灯 / 消灯が１回をｎ回　　交互：運転 LED(緑) と異常 LED(赤) が交互に点滅
※3： ブザーの違いは下記のとおりです。
　　OFF：ブザー停止　　同期 ON：LED 点灯時にブザーが作動
　　ON：ブザーが連続作動　　3秒 ON：ブザーが３秒間作動
　　リセット ON：ピピッ
※4： 各制御中にスイッチを１回押したときの動作。

冷媒検知警報器を室内ユニットに接続しない場合

冷媒検知警報器を警報器のみとして使用する場合など、室内ユニットと接続せずに使用する場合、電源が供給されません。その場合は冷媒検知警報器のXY端子にDC18Vを接続してください。



温度センサについて

サーモ判定に使用する温度センサを室内ユニット本体から冷媒検知警報器に変更できます。
設定方法については、ecoタッチリモコン(RC-DX3D以降)の据付説明書をご覧ください。

冷媒漏えい検知後の点検・修理について

・安全対策マニュアルの故障診断に従って、点検・修理を行ってください。
・冷媒漏えい検知後は換気などにより濃度が低下しても、LEDは通常状態に戻りません。LEDを通常状態に戻すには、スイッチを3回長押しして冷媒検知警報器のCPUリセットを行ってください。

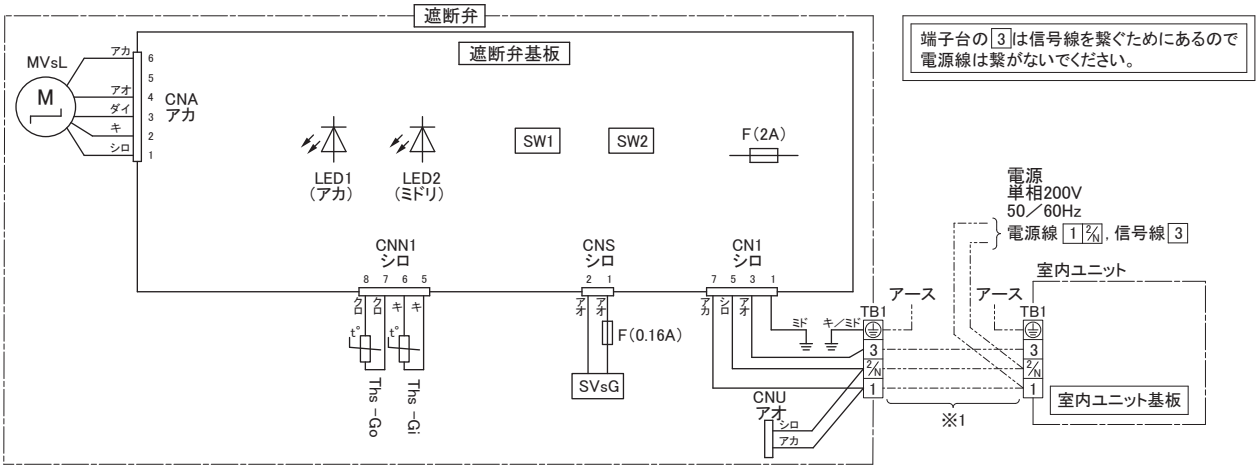
(2) 安全遮断弁（SV-KIT-S1, L1）

(a) 仕様

形式		—	SV-KIT-S1／1	SV-KIT-L1／1
電源		—	単相200V 50／60Hz	
室内ユニット接続容量制限（冷房基準）		kW	2.2～9.0	9.1～28.0
室内ユニット接続制限台数		台	1～6	1～18
消費電力		W	10	
運転電流		A	0.1	
外形寸法	高さ x 巾 x 奥行	mm	254 x 489 x 297（配管以外）	
質量		kg	9	9
色		—	塗装無し（亜鉛めっき鋼）	
冷媒		—	R32	
ドレン		—	不要（排水管）	
冷媒配管	液側	mm	φ9.52（3／8″） （付属配管 φ6.35）	φ9.52（3／8″） （付属配管 φ12.7）
	ガス側		φ15.88（5／8″） 付属配管（φ12.7, φ9.52）	φ15.88（5／8″） 付属配管（φ19.05, φ22.22）
設計圧力		MPa	4.15	
IPコード		—	IPX0（室内へ）	
据付方向		—	水平	
保護装置		—	ヒューズ	

PJZ000Z375 B

(b) 配線図



●LED点滅パターン

点検内容	LED	
	緑	赤
室内ユニット応答無し	1回	2回
コイル交換	2回	1回
遮断弁交換	2回	2回
ガス管温度センサ断線（Ths-Gi）	4回	1回
ガス管温度センサ断線（Ths-Go）	4回	2回
ガス管温度センサ外れ	4回	点滅
遮断弁 開	点滅	消灯
遮断弁（液）閉 遮断弁（ガス）開	点滅	1回
遮断弁（液）開 遮断弁（ガス）閉	点滅	2回
遮断弁 閉	点滅	3回

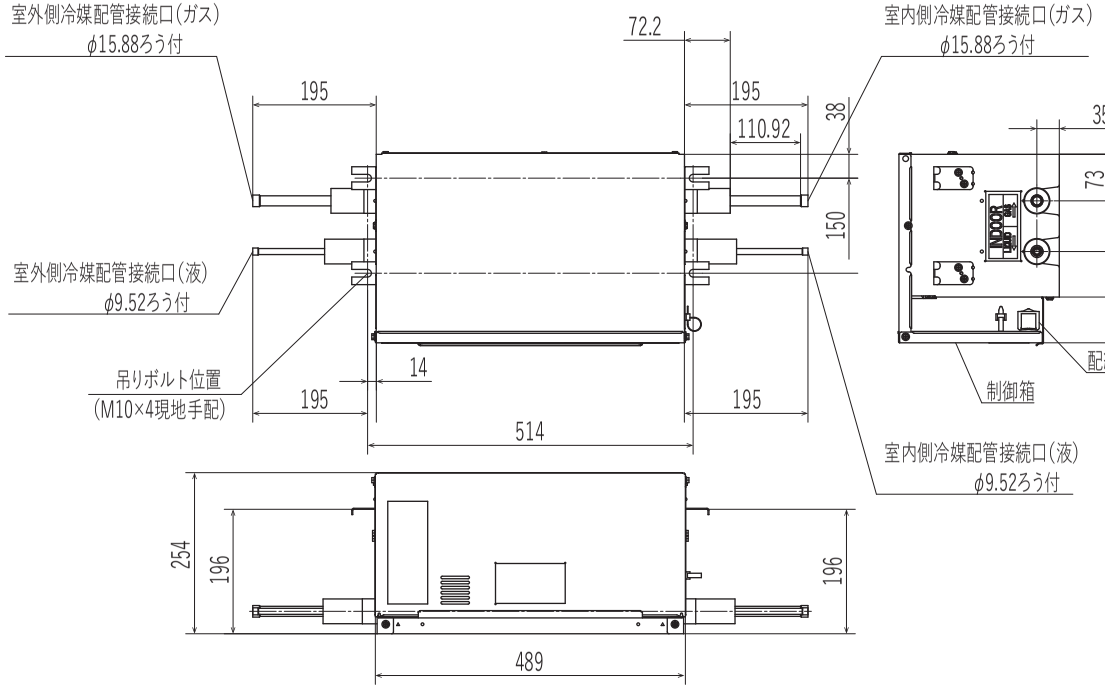
●記号一覧

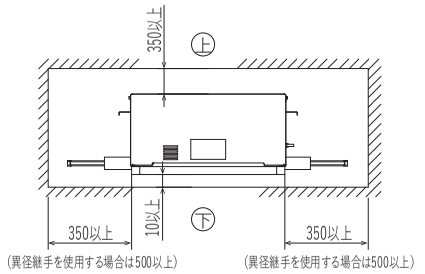
記号	名称
CNA～Z,1～9	コネクタ
F	ヒューズ
LED1	表示灯（赤-小分類状態表示）
LED2	表示灯（緑-大分類状態表示）
MVsL	液管用電動弁
SVsG	ガス管用電磁弁
Ths-Gi	冷媒ガス遮断弁室内側温度センサ
Ths-Go	冷媒ガス遮断弁室外側温度センサ
SW1-1～3	予備
SW1-4	出荷時設定
SW2-1	機種容量切替
SW2-2	予備
SW2-3	出荷時設定
SW2-4	予備
TB1	端子台（電源）（口印）

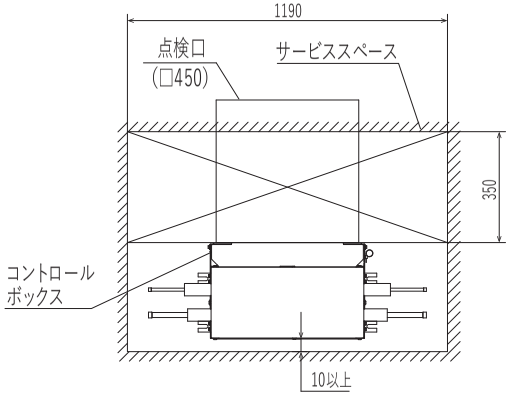
記事 1. ----- は現地配線を示します。
2. 電源線のそばに信号線を置かないでください。
3. ※1の配線太さは2.0mm² 、最大長さは100mです。

PJZ000Z376 A

記事1. 安全のため遮断弁を使用する場合は、遮断弁を外した状態で室内ユニットを運転しないでください。
2. 遮断弁は上下を逆にして据付はできません。本体が水平になるように据付けてください。(遮断弁の両端の高低差を3mm以内に保つこと。)
3. 制御箱正面が点検口側になるように配置してください。
4. 下図に示すサービススペースを必ず確保してください。
5. 安全遮断弁が全方位で囲われる場合は、何れかの面を3m以上空けてください。(遮断弁で発生した熱を逃がすために必要です。)
6. 2点で安全遮断弁を吊り下げる場合は図Aに示すよう据付けてください。(図A以外の方法で据付けした場合、落下する恐れがあります。)

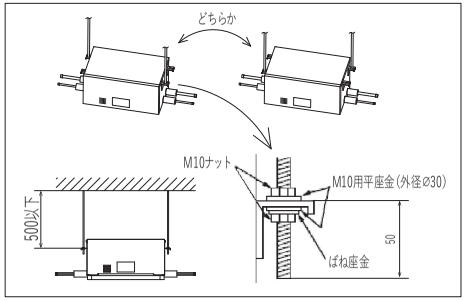






サービススペース

形式	異径継手	
	ガス側	液側
SV-KIT-S1	OD15.88 ID12.7 x2個 OD15.88 ID9.52 x2個	OD9.52 ID6.35 x2個
SV-KIT-L1	ID19.05 OD15.88 x2個 ID22.22 OD15.88 x2個	ID12.7 OD9.52 x2個



図A

形 式	重量
SV-KIT-S1	9.0kg
SV-KIT-L1	9.0kg

PJZ000Z374 A

(d) 据付説明書

本説明書は、安全遮断弁の据付方法を記載してあります。
室外・室内ユニットの据付方法、電気配線（室外・室内ユニット）　および冷媒配管工事方法は、室外・室内ユニットの付属説明書をご覧ください。
安全遮断弁は必ずトップパネルとフロントパネルを取付けてご使用ください。
安全対策マニュアルも参照して取付けてください。

安全上のご注意

- 据付工事は、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ身を守るために必ず守ってください。
- ここに示した注意事項は ⚠警告 、 ⚠注意 に区分しています。

⚠警告	誤った取扱いをしたときに、死亡や重傷などの重大な結果に結びつく可能性が大きいもの。
⚠注意	誤った取扱いをしたときに、傷害を負う可能性、または物的損害の可能性があるもの。状況によっては重大な結果に結び付く可能性があるもの。

- いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- ここで使われる"図記号"の意味は右のとおりです。

⃠	絶対にしないでください。	❗	必ず指示どおりに行ってください。
⏚	アース(接地)を確実に行う。		

- 据付工事完了後、試運転を行い、異常がないことを確認するとともに、室内ユニットの取扱説明書にそって、「安全上のご注意」や正しい使用方法をお客様に説明してください。
  この据付説明書は室内ユニットの取扱説明書と共にお客様で保管いただくように依頼してください。また、お使いになる方が代わる場合は、新しくお使いになる方に据付説明書と取扱説明書をお渡しいただくよう依頼してください。

⚠警告

●据付は、専門業者に依頼してください。
ご自分で据付工事をされ不備があると、水漏れや感電、火災、安全遮断弁落下によるケガの原因になります。

●据付工事は、この据付説明書に従って確実に行ってください。
据付に不備があると破裂·ケガの原因となり、また水漏れや感電·火災などの原因になります。

●小部屋に据付る場合は日本冷凍工業会のガイドラインJRA GL-16に従い、万一冷媒が漏れても限界濃度を超えない対策をする。
限界濃度を超えない対策については、販売店と相談して据付てください。
万一、冷媒が漏えいして限界濃度を超えると酸欠事故の原因になります。

●設置工事部品は必ず付属品および指定の部品を使用してください。
当社指定の部品を使用しないと、安全遮断弁落下、水漏れ、火災、感電などの原因になります。

●作業中に冷媒が漏れた場合に備えて換気をしてください。
冷媒が火気に触れると有毒ガスが発生する原因になります。
可燃性のため冷媒に引火する可能性が有ります。

●据付は、重量に十分耐える所に設置してください。
強度が不足している場合は、安全遮断弁の落下などにより、ケガの原因になります。

●台風などの強風、地震に備え、所定の据付工事を行ってください。
据付工事に不備があると、転倒などによる事故の原因になります。

●室内ユニット・安全遮断弁の設置や移設の場合、冷凍サイクル内に指定冷媒以外の空気などを入れないでください。
空気などが混入すると冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂、ケガなどの原因になります。

●部屋のレイアウト、間仕切りを変更するときは、お買い上げの販売店に相談してください。
冷媒漏えい時に必要な安全対策の再検討が必要になります。必要な安全対策を怠ると燃焼濃度に至る可能性があります。

● 電気工事は必ず有資格者が実施してください。
電源回路容量不足や施工不備があると感電、火災などの原因になります。

●配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定してください。
接続や固定が不完全な場合は、発熱、火災などの原因になります。

●配線は、フロントパネルが浮き上がらないように整形し、フロントパネルを確実に取付けてください。
パネルの取付けが不完全な場合は、端子接続部の発熱、火災、感電などの原因になります。

●据付工事完了後、冷媒ガスが漏れていないことを確認してください。
冷媒が室内に漏れ、ファンヒータ、ストーブ、コンロなどの火気に触れると有毒ガスが発生する原因になります。

●配管、継手、工具はR32 用を使用してください。
既存（R22）の部材を使用すると、機器の故障と同時に冷凍サイクルの破裂などの重大な事故の原因になります。

●圧縮機を運転する前に確実に冷媒配管を取付けてください。
冷媒配管を取付けておらず、サービスバルブ開放状態で圧縮機を運転すると、空気などを吸引し、冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂、ケガなどの原因になります。

●ポンプダウン作業では、サービスバルブを閉じた後配管を外す前に圧縮機を停止してください。
圧縮機を運転したままサービスバルブ開放状態で冷媒配管を外すと空気などを吸引し、冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂、ケガなどの原因になります。

●オプション部品は、必ず当社指定の部品を使用する。また取付は専門業者に依頼してください。
ご自分で取付をされ、不備があると、水漏れや感電、火災等の原因になります。

●改修は絶対にしない。また、修理はお買い上げの販売店に相談してください。
修理に不備があると水漏れや感電、火災などの原因になります。

●エアコン・安全遮断弁を移動再設置する場合は、販売店または専門業者に相談してください。
据付に不備があると水漏れや感電、火災などの原因になります。

●修理・点検作業に際して「電源ブレーカ」を必ずOFF してください。
点検・修理にあたって、電源ブレーカがＯＮのままだと、感電およびファン回転によるケガの原因になります。

●フロントパネルを外した状態で運転しないでください。
機器の高温部、高電圧部に触れると、やけどや感電によるケガの原因になります。

●元電源を切った後に電気工事を行ってください。
感電、故障や動作不良の原因になります。

⚠注意

●アース（接地）を確実に行う。
アース線は、ガス管、水道管、避雷針、電話のアース線に接続しないでください。アース（接地）が不完全な場合は、故障や漏電のとき感電や火災の原因になることがあります。

●漏電しゃ断器は必ず取付けてください。
漏電しゃ断器が取付けられていないと感電や火災の原因になることがあります。

●正しい容量の全極しゃ断するブレーカを使用してください。
不適切な容量のブレーカを使用すると故障や火災の原因になることがあります。

●正しい容量のヒューズ以外は使用しないでください。
針金や銅線を使用すると故障や火災の原因になることがあります。

●可燃性ガスの漏れる恐れのある場所への設置は行わない。
万一ガスが室内ユニットの周囲に溜ると、発火の原因になることがあります。

●腐食性ガス（亜硫酸ガスなど）、可燃性ガス（シンナー、ガソリンなど）の発生、滞留の可能性のある所、スプレー類がかかる所、揮発性引火物を取扱う所での据付、使用は行わないでください。
腐食、プラスチック部品の破損などの原因になることがあります。また可燃性ガスは発火の原因になることがあります。

●工事、点検、メンテナンス作業のためのマニュアルに規定されているスペースを確保してください。
スペースが不足する場合は、設置場所からの転落によるケガの原因になることがあります。

●洗濯室など、水の掛かる所では使用しないでください。
安全遮断弁は水の浸入に対する保護はしておりません。水が掛かると感電、火災などの原因になることがあります。

●食品・動植物・精密機器・美術品の保存など特殊用途には使用しないでください。
商品の破損の原因となります。

●病院、通信事業所などの電磁波を発生する機器、高周波の発生する機器の近くでは据付、使用しないでください。
インバータ機器、自家発電機、高周波医療機器、無線通信機器の影響によるエアコンの誤作動や故障の原因になったり、エアコン側から医療機器あるいは通信機器へ影響を与え人体の医療行為を妨げたり、映像放送の乱れや雑音など弊害の原因になることがあります。

●安全遮断弁は必ず建物内に取付けてください。
屋外に取付けると、低温や風雨により故障や火災、水漏れなどの原因になることがあります。

●次の場所への据付は避けてください。
・可燃性ガスの漏れる恐れがある所
・カーボン繊維や金属粉、パウダーなどが浮遊する所
・硫黄系ガス・塩素系ガス・酸・アルカリ・アンモニアなど、機器に影響する物質の発生する所
・油の飛沫や蒸気が多い所
・車両や船舶
・高周波を発生する機械を使用する所
・化粧品、特殊なスプレーを頻繁に使用する所
・標高1000m以上の所

●次の場所への安全遮断弁の据付は避けてください。
・室内ユニットの吸気・排気の流れを邪魔する場所
・強度が不十分で振動が発生する所
・高周波に影響される機器のある所（TV およびラジオ等の近傍）
性能や機能等に影響をおよぼす原因になります。

●長期使用で腐食・破損した据付台を使用しないでください。
傷んだ状態で放置すると安全遮断弁の落下につながり、ケガなどの原因になることがあります。

●安全遮断弁近くで溶接作業を行う場合は十分注意し、スパッタによって安全遮断弁を傷つけないように注意してください。
溶接作業時などに発生するスパッタが内部に侵入した場合、基板の焼損感電や火災などの原因になることがあります。安全遮断弁内へのスパッタの侵入を防ぐため梱包状態のままとしておくか、覆いなどにより必ずカバーをしてください。

●冷媒配管工事終了後は窒素ガスによる気密試験を行い、漏れのないことを確認してください。
万一、狭い部屋に冷媒ガスが漏えいして限界濃度を超えると酸欠事故の原因となることがあります。

●冷媒配管の断熱は結露しないように確実に行ってください。
不完全な断熱施工を行うと配管など表面が結露して、露たれなどを発生し、天井・床その他、　大切なものを濡らす原因になることがあります。

●製品の運搬は十分注意して行ってください。
PP バンドなど所定の位置以外をもって製品を動かさないでください。けがをしないように保護手袋を使用してください。

●梱包材の処理は確実に行ってください。

●濡れた手でスイッチを操作しないでください。
感電の原因になることがあります。

●運転中の冷媒配管を素手で触れないでください。
運転中の冷媒配管は流れる冷媒の状態により低温と高温になります。素手で触れると凍傷や、やけどになることがあります。

●安全遮断弁を水洗いしない。また、除菌剤等のスプレー類を直接吹きかけないでください
感電や部品が腐食したりする原因になることがあります。

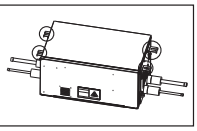
●運転停止後、すぐに電源を切らないでください。
必ず5 分以上待ってください。水漏れや故障の原因になることがあります。

●電源ブレーカによるエアコンの運転や停止をしないでください。
火災や水漏れの原因になることがあります。ファンが突然回り、ケガの原因になることがあります。

①据付前に

●据付はこの据付説明書に従って正しく行ってください。
●次の項目を確認してください。
　○機種・電源仕様
　○配管・配線・小物部品
　○付属品

安全遮断弁を移動させるときは吊り金具(4 か所)を持ち、他の部品(特に冷媒配管および樹脂部品)には、力を加えないでください。



付属品

形式	異径継手		
	ガス側		液側
SV-KIT-S1	OD15.88 ID12.7 × 2個	OD15.88 ID9.52 × 2個	OD9.52 ID6.35 × 2個
SV-KIT-L1	OD19.05 ID15.88 × 2個	OD22.22 ID15.88 × 2個	OD12.7 ID9.52 × 2個

●安全遮断弁の下流に接続される合計容量および接続台数の制限は下表のとおりとなります。

安全遮断弁	下流の合計容量	接続可能台数
SV-KIT-S1	～ 90 以下	1 ～ 6
SV-KIT-L1	90 を超え ～ 280 以下	1 ～ 18

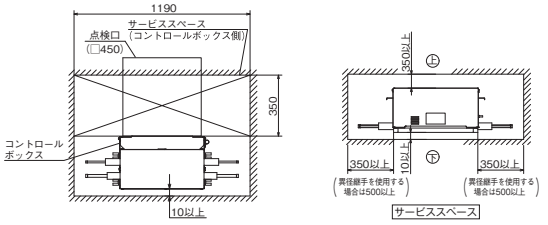
※安全遮断弁の下流に接続される全ての室内機は、リモコンにて室内機の親子設定をする必要があります。詳細は安全対策マニュアルまたはリモコンの据説を確認ください。

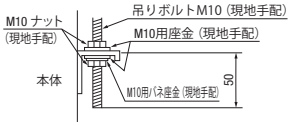
②安全遮断弁の据付場所の選定

①据付場所は、下記条件に合う場所をお客様の承認を得て選んでください。
　・据付・サービス時の作業スペースが確保できる所。
　・火災報知器の誤作動しない所。
　・周囲の露点温度が 28℃以下、相対湿度 80%以下の所。
　安全遮断弁の周囲が上記条件以上の高湿度雰囲気の状態で運転すると水滴が落下する恐れがあります。
　そのような条件下で使用する可能性がある場合は、安全遮断弁の全ておよび配管にさらに10~20 mmの断熱材を取付けてください。
　・テレビ、ラジオより 1 m以上離れた所。(映像の乱れや雑音が生じることがあります。)
　・安全遮断弁真下に食品・食器やパソコン・サーバ、医療機器など濡れて困るものを置かない所。
　・調理器具が発する熱の影響を受けない所。
　・フライヤの真上など油・粉・蒸気などの雰囲気にさらされる所。
　・安全遮断弁下流に接続する室内ユニットの台数と種類により、安全遮断弁と室内ユニット間の配管長さは制限されます。
　詳細は安全対策マニュアルまたは室外ユニットの据付説明書を確認ください。
②据付ようとする場所が安全遮断弁重量に耐えられるかどうか検討し、危険と思われましたら板、桁等で補強して据付作業を行ってください。
　強度不足の場合は、安全遮断弁落下によるケガの原因になります。

据付スペースとサービス

●天井裏ではなく室内空間に設置する場合は 2.5m 以上の高さに設置してください。
●冷媒配管が制限長さ内で設置できるところとしてください。
　詳細は室外ユニットの据付説明書を参照してください。
●吊りボルトを取付、必要な強度を確保できる位置としてください。
　(吊りボルト 1 本につき 20kg の引抜き荷重に耐えられる場所)
●下記に示すサービススペースが得られるところに設置してください。
●安全遮断弁が全方位で囲われる場合は、何れかの面を 3m 以上空けてください。





本体を正しく取付けることができない際にはブラケットの長穴に沿って移動させ位置を調整してください。



2 点で安全遮断弁を吊り下げる場合は図 A に示すよう据付てください。
(図 A 以外の方法で据付した場合、落下する恐れがあります)

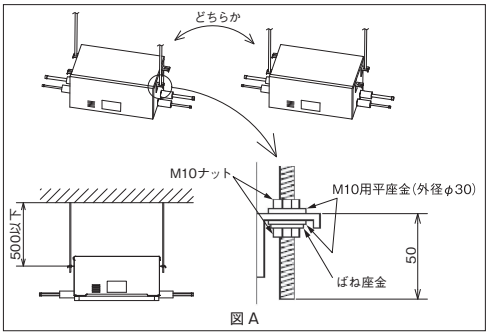


図 A

②安全遮断弁の据付場所の選定のつづき

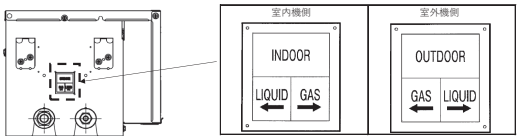
ご注意ください

(1) 必ず所定の位置に点検口を設置してください。
(2) 安全遮断弁は上下逆の据付はできません。本体が水平になるように据付てください。
●吊りボルトの位置
　○吊りボルトとして 4 つの M10 ボルトを使用してください。(ナット、座金含め、現地手配してください)
　○左下図に従い、しっかりとと固定してください。
●本体を持ち運ぶ際の注意
　○本体を運ぶ際にはブラケットを持ってください。
　パイプを持つとパイプの変形および本体の故障につながる可能性があります。
　○けがをする恐れがあるため、切れ目には手を入れないでください。
　○本体は重いため取扱いには注意してください。
●安全遮断弁が水平に設置されるよう、 水準器 (水平器) を使って据付てください。

③冷媒配管

注意事項

●冷媒配管は、新規配管をご使用ください。
●冷媒配管は、リン脱酸銅合金継目無銅管 (C１２２０T) をご使用ください。
　また管の内外面は美麗であり、使用上有害な硫黄、酸化物、ゴミ、切粉等 (コンタミ) の付着がないことを確認してください。
●指定冷媒以外は使用しないでください。
　指定冷媒以外を使用すると、冷凍機油劣化などの原因になります。また空気などが混入すると、異常高圧になり、破裂などの原因になります。
●据付に使用する配管は屋内に保管し、両端ともろう付する直前までシールしてください。
　冷凍機油の劣化・圧縮機の故障の原因になります。
●工具は R32 用の工具を使用してください。
●安全遮断弁本体の接続口付近に、室内ユニット側は「INDOOR」、室外ユニット側は「OUTDOOR」と表示があります。
　室内側と室外側を正しく接続してください。
　また、ガス管側と液管側に矢印で「GAS」,「LIQUID」と表示がありますので、それぞれ接続を間違えないように確実に行ってください。故障や火災などの原因になります。



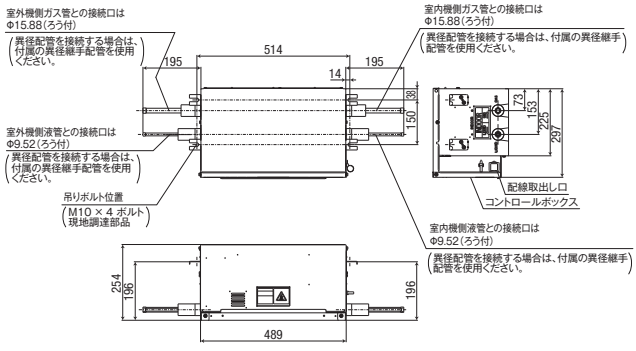
●配管接続部はパイプカバーにて必ず断熱してください。
●電源 OFF 時の安全遮断弁の状態は下表のとおりです。

	未通電	通電後
液管	OPEN	CLOSED
ガス管	CLOSED	CLOSED

一度でも通電した後は電源 OFF 時は液側、ガス側共に閉止した状態となるため、ろう付時の窒素置換、気密検査、真空引き、冷媒回収時には必ず通電し、安全遮断弁のLEDにて弁が開状態であることを確認し、室外機の据付工事説明書に従って作業してください。
* LED の点滅パターンは本据付説明書の⑤項または安全遮断弁の結線銘版を参照してください。

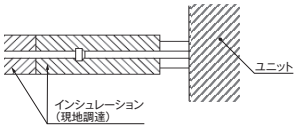
配管の接続

●安全遮断弁の配管径と接続する配管径が異なる場合は、付属品の「異径継手配管」を使用してください。



注意
●真空引きやろう付を実施する場合は、室外ユニットの据説を参照してください。
●冷媒回収方法はサービスマニュアルを参照してください。
●ろう付作業の際は、過熱を防ぐために濡れタオルなどでろう付口付近を冷やしながら行ってください。

●配管の断熱材について



③冷媒配管のつづき

●ろう付を行うことが困難な場合などは、ねじ接合継手を使用してください。
（推奨品　れいわ おっぞん　東尾メック(株)製）

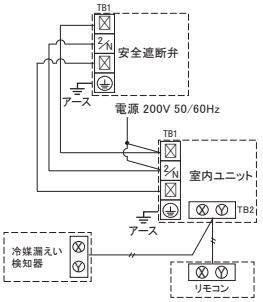
品番	サイズ(Φ)
ROSOC06	6.35
ROSOC09	9.52
ROSOC12	12.7
ROSOC15	15.88
ROSOC19	19.05
ROSOC22	22.22

・取付要領詳細は代理店または弊社にご相談ください。
・初めて扱われる方は、必ず東尾メックが主催する施工講習を受けてください。

④電気配線取出位置および電気配線接続

●電気工事は電力会社の認定工事店で行ってください。
電気工事は「電気設備に関する技術基準」および「内線規程 JEAC8001（最新版）」に従い施工してください。
●安全遮断弁の電源配線は必ず安全遮断弁下流に接続する室内ユニットと配線してください。
安全遮断弁が複数の下流室内ユニットと接続される場合、安全遮断弁は親子設定にて親設定した室内ユニットと配線してください。
●配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定してください。
●電線は銅以外のものを使用しないでください。
● D 種接地工事を必ず行ってください。
●端子台への接続は丸型圧着端子を接続してください。
●室内外の信号線は途中接続しないでください。途中接続した場合に水が浸入すると、対地間絶縁不良や途中接続部の接触不良をまねき、通信異常の原因となります。（万一、途中接続する場合には、絶対に水が浸入しないような処置を行ってください。）
●天井裏内の配線（電源・リモコン・室内外接続線など）はネズミ等により、かじられ切断することもありますので、なるべく鉄管等の 保護管内に通してください。
●電源線のアース工事を必ず行ってください。アース線はガス管、水道管、電話や他のアース線に接続しないでください。アースが不完全な場合は感電や誤動作の原因になることがあります。
室内ユニットの据説に従い配線用しゃ断器を選定してください。その際、室内ユニットの電流値に安全遮断弁の電流値を必ず合計して選定ください。
電流値は装置銘版を確認してください。
●安全遮断弁に付属されている電気特性ラベルを室内ユニットコントローラ付近に貼付けてください。
●安全遮断弁にはヒューズが搭載されています。詳細は結線銘版を確認してください。

室内ユニットの端子台 (TB1) の表記を確認し、接続方法を選定してください。
接続方法は安全遮断弁の結線銘版を確認してください。

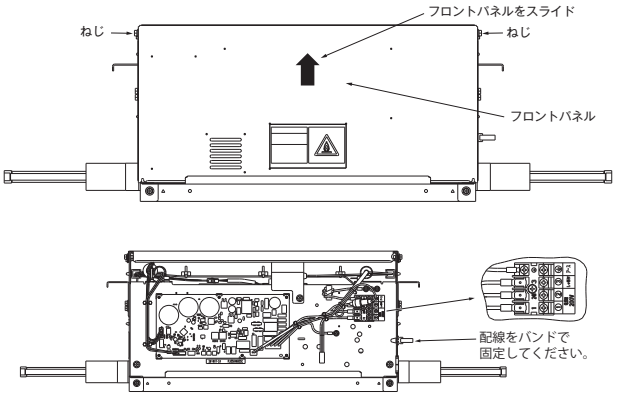


配線の仕様

配線太さ	配線こう長	アース線
2.0~3.5mm^2	100m以下	2.0mm^2

配線接続

1. フロントパネルのねじ (2 個) を外し、フロントパネルを図の矢印の方向にスライドしてください。
フロントパネルを取外すことができます。



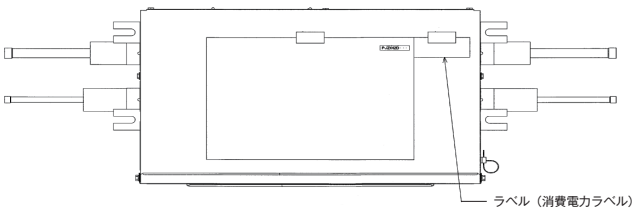
2. 各配線を端子台に接続し、配線をバンドで固定してください。

3. フロントパネルを取付、ねじで固定してください。

④電気配線取出位置および電気配線接続つづき

電気特性ラベルの貼付け

●トップパネルに付属しているラベル（下図）を室内ユニットの装置銘板付近に貼付けてください。
（安全遮断弁の電源は、接続した室内ユニットから供給されます。このため、安全遮断弁の入力、電流を室内ユニットの値に加える必要があります。）

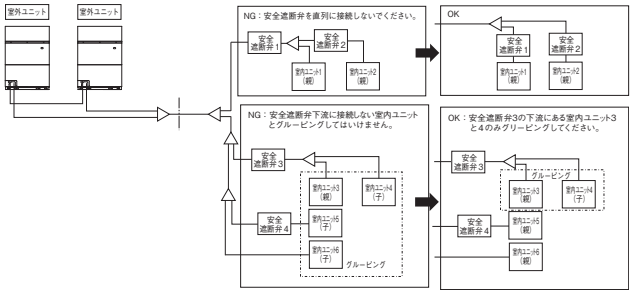


⑤据付工事完了後のチェック項目

●据付工事が全て完了したら、下記項目についてチェック願います。

チェック項目	不良の場合	チェック欄
安全遮断弁の取付はしっかりしているか。	落下、振動、騒音	
配管は、室内ユニット側と室外ユニット側を間違えて接続していないか。	冷媒漏れ	
ガス漏れ検査は実施したか	容量不足	
断熱は完全に行ったか	水漏れ	
電源電圧と周波数は安全遮断弁の銘板と同じですか。	運転不能、焼損	
誤配線・誤配管はありませんか。	運転不能、焼損	
アース工事はされていますか。	漏電時危険	
配線の太さは仕様通りですか。	運転不能、焼損	

●複数の室内ユニットを接続する場合の注意事項
・リモコンにて安全遮断弁下流の全ての室内ユニットを親子設定する必要があります。
詳細は安全対策マニュアルまたはリモコンの据説を確認ください。
・安全遮断弁下流に接続しない室内ユニットと親子設定してはいけません。
・安全遮断弁を直列に繋げてはいけません。



●メンテナンスについて
・リモコンにメンテナンスコード [M54] が表示された場合、機能品を交換する必要があります。
お買い上げの販売店に相談してください。

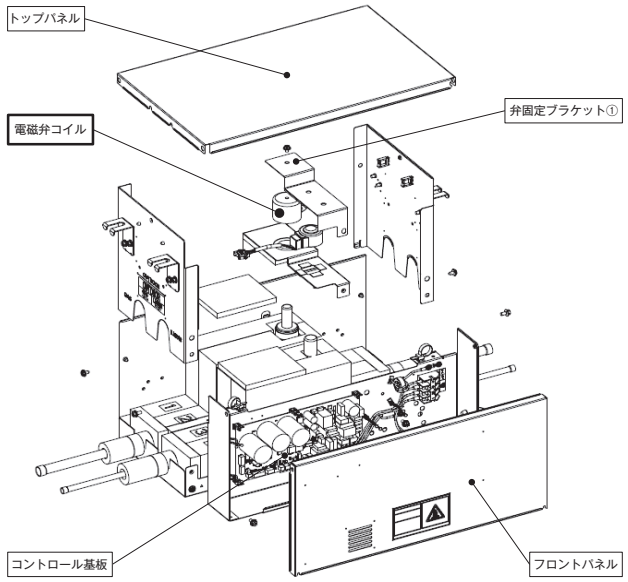
● LED の点滅パターンについては、下表を参照ください。

	LED	
	LED2(緑)	LED1(赤)
通信不良	1 回	2 回
コイル交換	2 回	1 回
安全遮断弁交換	2 回	2 回
ガス管温度センサ断線（Ths-Gi）	4 回	1 回
ガス管温度センサ断線（Ths-Go）	4 回	2 回
ガス管温度センサ外れ	4 回	連続点滅
安全遮断弁開	連続点滅	消灯
液管　：閉 ガス管：開	連続点滅	1 回
液管　：開 ガス管：閉	連続点滅	2 回
閉安全遮断弁閉	連続点滅	3 回

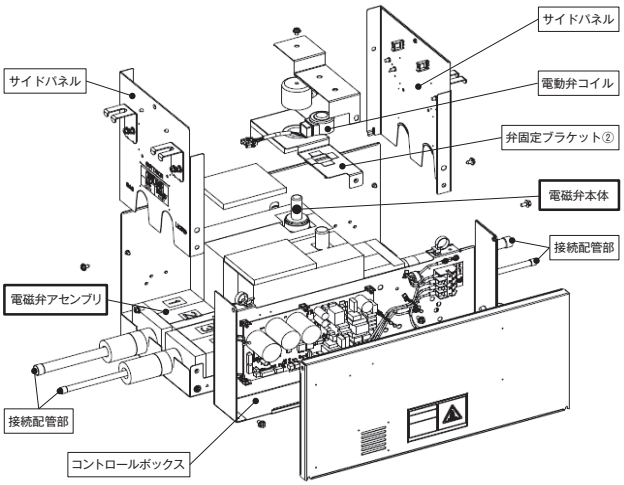
●安全遮断弁の据付が完了したら、室内ユニット附属の安全対策チェックシートに従って、チェックを実施してください。

⑥電磁弁コイルおよび電磁弁の交換方法

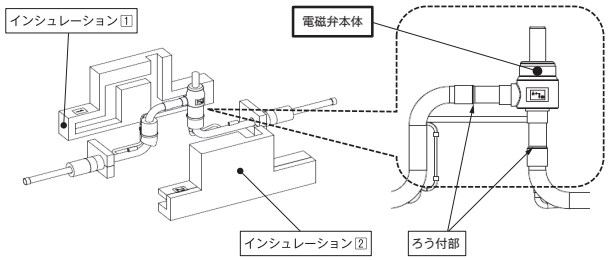
●電磁弁コイルの交換について
(1) フロントパネル、トップパネルの順にパネルを外してください。
(2) 弁固定ブラケット①を外してください。
(3) 電磁弁コイルの配線コネクタをコントロール基板（CNS）から抜いてください。
　電磁弁コイルを上にスライドさせることで、弁本体から取外せます。
(4) 新しい電磁弁コイルに交換し、元の通り電磁弁コイル配線を引回し、パネルを取付けてください。



●電磁弁本体の交換について
(1) 接続配管部を外し、本機を取外してください。（据付状態のままでの交換はできません。）
(2) 電磁弁コイルを上記「電磁弁コイルの交換について」の手順に沿って、取外してください。
(3) コントロールボックスおよびサイドパネルを取外してください。
(4) 電動弁コイルおよび弁固定ブラケット②を取外してください。
　電動弁コイルは回転させ、上にスライドすることで、取外せます。
(5) 電磁弁アセンブリを安全しゃ断弁本体から取外してください。



(6) インシュレーション1 2を分離してください、（両面テープで固定されています。）
(7) ろう付部より、電磁弁本体を取外してください。

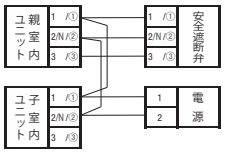


(8) 新しい電磁弁に交換後、電磁弁アセンブリをユニットに取付、パネル類を固定してください。
(9) 安全しゃ断弁を接続配管につないでください。

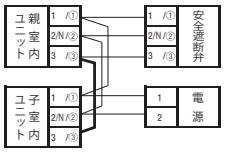
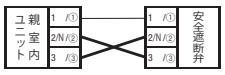
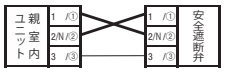
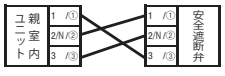
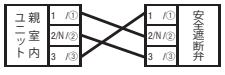
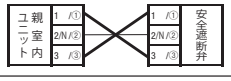
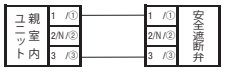
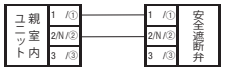
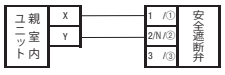
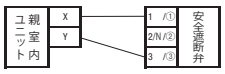
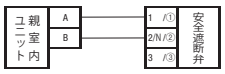
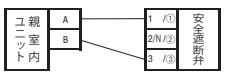
⑦据付工事完了後のチェック項目

●安全遮断弁と室内ユニットの配線接続例

[接続可]

No.	接続例	安全遮断弁のLED表示				状態	対策
		①電源投入後の初期表示		②回路点検時			
		LED2（緑）	LED1（赤）	LED2（緑）	LED1（赤）		
①		連続点滅	消灯	連続点滅	3回点滅	正常	—

[接続不可]

No.	接続例	安全遮断弁のLED表示				状態	対策
		①電源投入後の初期表示		②回路点検時			
		LED2（緑）	LED1（赤）	LED2（緑）	LED1（赤）		
②		連続点滅	1回点滅	連続点滅	1回点滅	異常 (誤配線)	①の接続方法に 修正ください。
③		連続点滅	消灯	連続点滅	消灯	異常 (通信不良)	①,②の接続方法に 修正ください。
④		連続点滅	消灯	連続点滅	消灯	異常 (通信不良)	①,②の接続方法に 修正ください。
⑤		消灯	消灯	消灯	消灯	異常 (電源供給不可)	①,②の接続方法に 修正ください。
⑥		連続点滅	消灯	連続点滅	消灯	異常 (電源供給不可)	①,②の接続方法に 修正ください。
⑦		消灯	消灯	消灯	消灯	異常 (電源供給不可)	①,②の接続方法に 修正ください。
⑧		消灯	消灯	消灯	消灯	異常 (電源供給不可)	①,②の接続方法に 修正ください。
⑨		連続点滅	消灯	連続点滅	消灯	異常 (通信不良)	①,②の接続方法に 修正ください。
⑩		消灯	消灯	消灯	消灯	異常 (電源供給不可)	①,②の接続方法に 修正ください。
⑪		消灯	消灯	消灯	消灯	異常 (電源供給不可)	①,②の接続方法に 修正ください。
⑫		消灯	消灯	消灯	消灯	異常 (電源供給不可)	①,②の接続方法に 修正ください。
⑬		消灯	消灯	消灯	消灯	異常 (電源供給不可)	①,②の接続方法に 修正ください。

(e) メンテナンス
基板交換要領書

PSC012D192

安全上のご注意

- 交換工事は、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ確実に行なってください。
- ここに示した注意事項は、安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
  表示と意味は次のようになっています。

⚠ 警告	誤った作業を行った時に、死亡や重傷等の重大な結果に結び付く可能性が大きいもの。
⚠ 注意	誤った作業を行った時に、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があるもの。

- 基板交換完了後、試運転を行い異常がないことを確認してください。

⚠ 警　告

- 交換作業は、販売店または専門業者に依頼する。
  ご自分で作業をされ不備があると、感電や火災の原因になります。
- 作業は、この交換要領書に従って確実に行う。
  作業に不備があると、感電や火災の原因になります。
- 元電源を切った後、交換工事をする。（電源を切って１０分以上経過後に実施してください。）
  通電状態での基板交換は、感電・故障・動作不良の原因になります。ファンモータ他の接続機器破壊の原因になります。
- 配線は確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。
  接続や固定が不完全な場合は、発熱・火災の原因になります。
- 基板交換の作業終了後、電源投入前に基板と配線が正しく接続されていることを確認する。
  交換作業に不備があると、感電や火災の原因になります。

⚠ 注　意

- 基板にコネクタを接続する際は、基板が変形しないように接続する。破損・故障の原因になります。
- コネクタは、確実に挿入しストッパーを掛ける。火災・動作不良の原因になります。
- 配線は、かみ込んだり、つっぱらないように結束する。断線・変形して不具合・感電の原因になることがあります。

本要領書にて設定を行って基板交換してください。

基板の種類により部品実装が異なります。

① 基板にコネクタ接続されている配線を全て取外した後、基板を交換してください。
② 基板は、配線類をかみ込まないように固定してください。
③ スイッチ設定は、交換する基板と同一設定としてください。
④ 基板へコネクタを接続してください。基板上のコネクタ色と配線コネクタ色を合わせて接続してください。

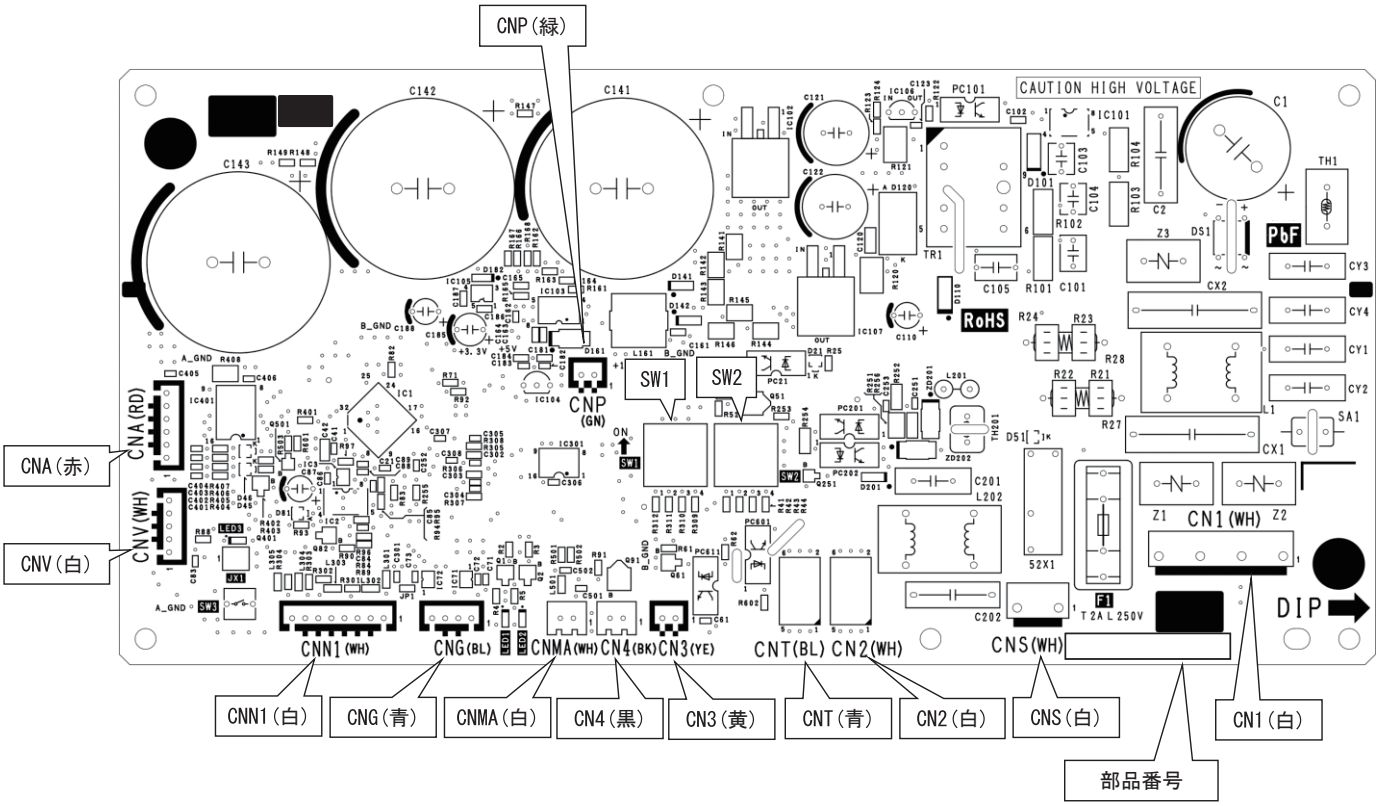


図1 部品配置

8.4 ねじ接合継手施工要領書

PSC012D220A△A

本要領書は、R32 ビル用マルチ機でねじ接合継手により配管接続する場合の施工要領を記載しています。

●初めてご使用される方は必ず講習を受けてください。
●また、施工前には必ずこの施工要領書をお読みください。
●なお、予告なく内容を変更する場合がありますので、施工前に必ず最新版を確認してから施工してください。

施工講習申し込み、施工要領最新版の確認はこちらの二次元コードから可能です。
※継手メーカのウェブサイトにアクセスします

施工要領最新版　施工講習申し込み

⃠ この表示はしてはいけない「禁止」内容です。
⚠ この表示は「傷害を負うこと、または物的損害が発生することが想定される」内容を表示しています。

⚠注意

施工上の注意点

・本継手は当社室内ユニットの配管接続以外の用途に使用しないでください。
・継手は適用する冷媒用銅管にのみ使用し、その他の銅管には使用しないでください。
・本継手に負荷が掛からないよう銅管を支持金具等でしっかりと固定してください。
・過度な繰り返し条件、振動、衝撃、脈動などのある場所には使用しないでください。
・銅管の熱伸縮量を逃がして、本継手への負担がないようにしてください。
・施工を行った本継手は再利用しないでください。
・室内ユニットを交換する場合は、本継手も新品を用いて施工してください。
・本継手は絶対に分解しないでください。漏れ、脱管等施工不良の原因となります。
・近傍でろう付する場合は、200mm以上の距離を取り、濡れ雑巾などで本継手への熱伝導を防止してください。
熱が加わると内部部品が損傷し、漏れの原因となります。
・本継手接続後に継手直近での曲げ加工は漏れの原因となります。必ず継手端面から 50mm 以上は直線部を確保してください。
・既設配管に使用する場合は、既設ろう付箇所より 200mm 以上離してください。
・落下等により変形した継手は使用しないでください。
・継手の施工後、接続部に銅管の自重等外的負荷がかからないよう配慮してください。
・火器などによる加熱によって、製品に直接的および間接的に使用温度範囲以上の熱が伝わらないようにしてください。
熱によって内部 O リングが損傷する恐れがあります。
・継手および周辺配管に適切な保温を設けてください。
・施工指定工具および推奨工具を用いて施工手順通りに必ず行ってください異なる工具および施工手順では行わないでください。
・管端部より 50mmは、管表面にキズやほこり、髪の毛、糸くず、切り粉、加工バリなどの異物や損傷がない状態を確認してから継手を接合してください。
異物や損傷がある場合は、対象部を切除した後、管端部より 50mmの管表面の状態を再確認後、継手を接合してください。
・継手および周辺配管、その他施工に関する事項は、公共建築工事標準仕様書（機械設備工事編）最新版に基づいてください。
・施工にあたっては施工技術講習会を受講し、認定された方が施工を行ってください。
・施工に際して機油を塗布しないでください。
・軍手は使用しないでください。繊維がシール部に付着すると漏れの原因となります。
・本継手は施工要領書に基づき正しく施工された場合に確実な成果を発揮します。施工手順の省略は事故の原因となり、原則補償の対象外となります。
・殺虫剤、防腐剤、塗料、接着防止剤等を直接継手および配管に塗布しないでください。
・発泡ウレタンを直接吹きかけないでください。

保管上の注意点

・炎天下や極寒の場所に放置せず、屋内に保管してください。
・保管場所に溶剤・ペンキなどを置かないでください。溶剤などが付着すると継手が劣化する恐れがあります。
・保管場所では、火を使用しないでください。火の粉や熱によって継手が劣化する恐れがあります。
・使用する直前まで個包装から取出さないでください。継手内部にゴミ、ホコリが付着する可能性があります。

据付前に

冷媒配管

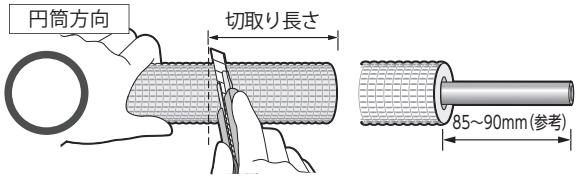
銅管サイズ(mm)	6.35±0.08	9.52±0.08	12.7±0.08	15.88±0.09
肉　厚(mm)	0.8±0.10			1.0±0.15
質　別	O材	O材, 1/2H材		

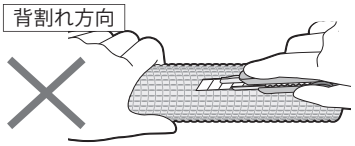
・冷媒配管は、リン脱酸銅合金継目無銅管（C1220T、JIS H 3300）をご使用ください。
・JIS B 8607附属書A 表A.1および国土交通省仕様に適合する冷媒配管を使用し、その他の銅管は使用しないでください。

工具

・施工は以下の指定工具および推奨工具を用いて施工してください。
○チューブカッター推奨品：チューブカッター（品番：TC104E、TC107E）
○パイプリーマ推奨品　　：ユニバーサルリーマ（品番：R11006X）、電動ドリル用大口径パイプリーマ（品番：REG10-54E）
○油性マジック指定品　　：④項参照

❶ 保温材の切除

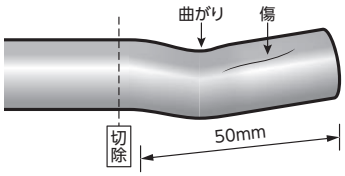




⃠ **カッターナイフでの背割れ方向の切取りは縦キズによる漏れの原因となるため厳禁です。**

・管に傷がつかないよう注意し、保温材を切り取ってください。

❷ 管の確認



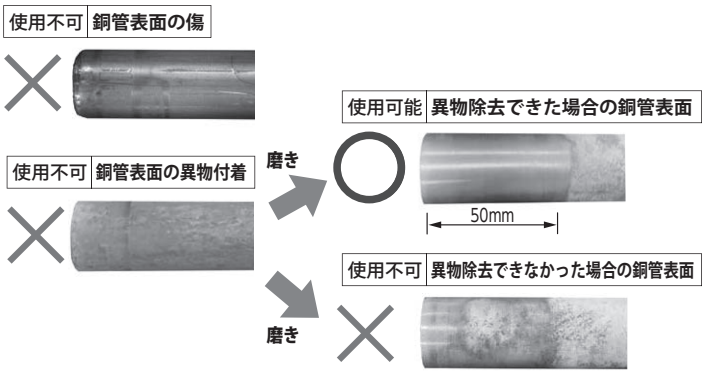
・<u>管端から50mmの範囲</u>で管に傷・曲がり・扁平・熱劣化・内外面への異物付着がある場合は、その箇所を切除してください。管を切断した場合、再度保温材を切除してください。

⚠ ベンダ等を使用して曲げた配管に継手を接続する場合に関しても、必ず曲げの影響が無く変形（扁平）の無い直線部を50mm以上確保してください。ベンダによる曲げ傷が付いている箇所への接続は、漏れの原因となります。

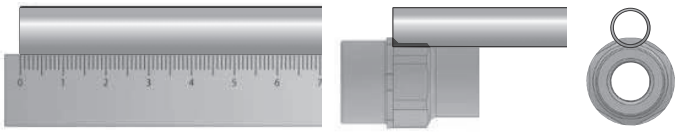
⚠ 継手からの漏れの原因となりますので、銅管表面に傷がある場合は管を切除してください。

⚠ 管の切断はチューブカッタを使用し、直角に切断してください。また、端面の変形防止のため徐々に切り込んでください。
【推奨品 チューブカッタ　品番：TC104E、TC107E】

⚠ 既設管を使用する際は、耐水ペーパー（＃1000以上）で管表面を円周方向に磨き、管端から50mmの範囲で管表面に光沢が出る程度に異物（酸化物等）を除去してください。その際、研磨粉などが管内に入り込まないよう注意し、管表面に付着した研磨粉はウエスで拭き取ってください。耐水ペーパーにより異物などが除去できない場合は管を切除してください。異物などが付着した状態で継手を挿入した場合、漏れの原因となります。



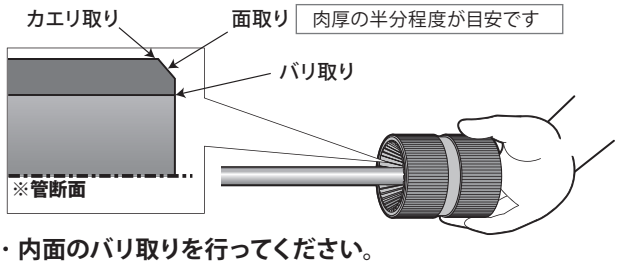
⃠ **既設管の肉厚が新規室内ユニットの条件に適合しない場合は、既設管の再使用は行わないでください。**



・管の曲がりの確認は、定規等に沿わせ確認するか、継手外周部の凹に管を沿わせて曲がりの確認を行ってください。

⃠ **管の曲がりがある場合、⑥の工程で挿入不足になる可能性があり、漏れにつながる恐れがあります。**

❸ 管内面のバリ取り･管外面の面取り



・内面のバリ取りを行ってください。

・<u>念入りに外面の面取りを行ってください。</u>

⚠ 切り屑は管内、管表面に残らないよう取除いてください。

⚠ パイプリーマは銅管ステンレス管用（40枚刃程度の刃数が多いもの）をご使用ください。
【推奨品 ユニバーサルリーマ 品番：R11006X】
【推奨品 電動ドリル用大口径パイプリーマ 品番：REG10-54E】

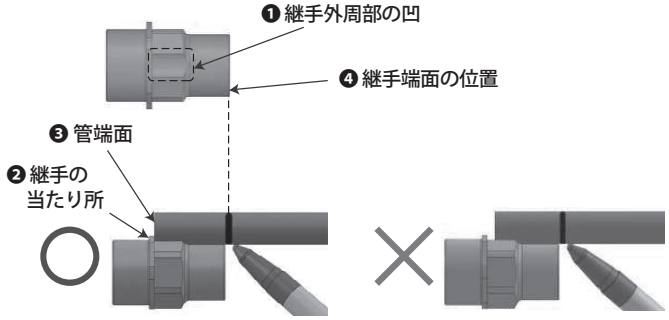
⚠ 外面の面取りは施工性とシール性にとって非常に重要な作業です。面取りが小さいと施工性が悪くなるとともにシール部品を傷つけ漏れる可能性がありますので、丁寧に作業を行ってください。

⚠ 管内面にバリが残る場合は、スクレーパを用いて、バリ取りを行ってください。

⚠ 面取り時に発生する切り屑が目に入らないように、保護メガネを着用して、作業を行ってください。特に電動ドリル用リーマをご使用の際はご注意ください。

⚠ 管外面にカエリが発生する場合は、耐水ペーパー（#1000以上）で円周方向に磨いて、カエリを除去してください。

❹ 標線のマーキング



・継手外周部の凹❶に管を沿わせながら継手の当たり所❷に管端面❸を押し当てた状態で、継手面の位置❹で標線を引いてください。

⚠ 管端面❸を継手の当たり所❷に押し当てない状態で標線を引くと、正常な位置の標線位置では無くなる為、⑥の工程で挿入不足になる可能性があり、漏れにつながる恐れがあります。

⃠ **指定品以外の油性マジックは絶対に使用しないでください。銅管に蟻の巣状腐食が発生し、漏れる可能性があります。**
【指定品：エフ-1専用マジックFOM-1】
【指定品：寺西化学工業製マジックインキ細書き用No.500】
【指定品：ゼブラ製マッキー細】

⑤ 継手の室内ユニットへの接続（手締め）



・継手内部、接続部に傷、冷凍機油、ゴミ等の異物が無いことを確認してください。

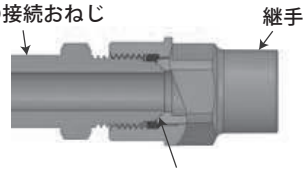
・継手を室内ユニットのユニオンに取付、手の感触として当たりまで締込みを行い、それ以上、手でまわらないことを確認してください。

⃠ 継手を室内ユニットへ接続する前に、管を継手に挿入しないでください。

⚠ 手でスムーズに締付けできないときはねじ山が合っていない可能性があります。
無理に工具で締付けず、一度継手を取り外し、再度手でゆっくりと締付けてください。

⃠ 銅管挿入前に、工具締めを行わないでください。
銅管が正常に挿入できなくなります。

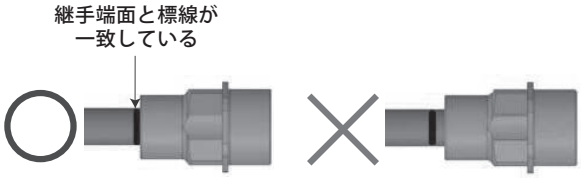
⃠ 継手、ユニオンに冷凍機油、冷媒漏れ防止剤、潤滑剤等を塗布しないでください。
継手の破損による割れが生じ、冷媒漏れの原因となります。



機器の接続おねじの締込みが適切な場合、
継手の内部部品と接触している状態になります。

⚠ 機器の接続おねじに対して手締めによる継手の締込みが不十分だと、漏れの原因となります。必ず継手を機器の接続おねじに手の感触として当たりまで締込みを行い、それ以上、手でまわらないことを確認してください。

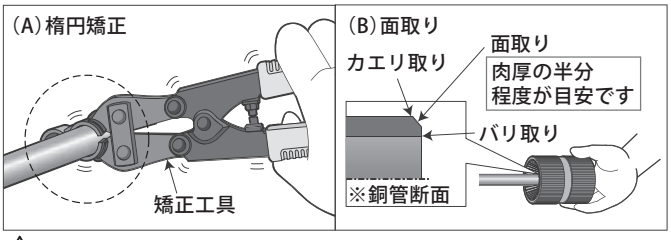
⑥ 管を継手へ挿入



・管を継手の奥に当たるまで真っ直ぐ挿入してください。このとき、継手端面と標線が一致していれば、適正な位置まで管が挿入されています。

⚠ 継手の差込みは管と平行な状態で行ってください。

⚠ 標線と継手端面に2mm以上の隙間がある場合は挿入不足です。
さらに差込んでください。



⚠ 管を継手に挿入時、管と継手内径部が接触する場合は無理に挿入せず、管の楕円矯正（A）および面取り（B）を行ってください。
※楕円矯正工具等の詳細については、継手メーカの施工要領最新版をご確認ください。

⚠ 銅管の座屈に注意してください。

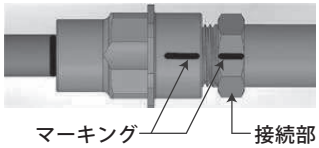
⚠ 必ず継手端面から50mm以上は直線部を確保してください。

⚠ 標線が継手内部に隠れて見えない場合、正しく標線がマーキングされていない可能性があり、正しく管が挿入されておらず、漏れにつながる可能性があります。

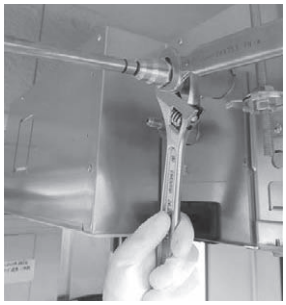
⑦ 締込み確認用マーキングの記入

・継手と接続部にマーキングしてください。

⚠ 必ず継手と接続部のマーキングが一致していることを確認してください。



⑧ 継手を室内ユニットへ締付ける（工具締め）



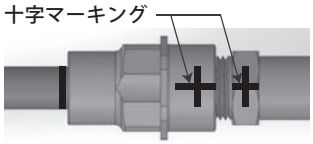
・作業前に必ず標線が継手端面にあることを確認してください。

・接続部をスパナで固定し、継手を工具で 1 回転まわしてマーキングが一致するように締込んでください。

・継手を 1 回転後、継手側のマーキングが接合部のマーキング位置にあることを確認してください。

・工具での締付け後、標線と継手端面に約 1mm 程度の隙間が発生します。

・工具締めを行った後、締付け完了した目印として十字マーキングを入れてください。



⃠ 継手の締付けには、パイプレンチ、プライヤ等の締付け部分にエッジがあるものは使用しないでください。

⚠ 工具で1回転締込み後、必ず継手と接続部のマーキングが一致していることを確認してください。

⚠ 過小な締込みは、継手構造上、Oリングが継手内部にあるため、短期的には漏れない可能性がありますが、経年的に冷媒漏えいの原因となります。また過大な締込みは継手の応力腐食割れによる冷媒漏えいの原因となります。

⃠ 締付けた後、緩めて再度締付けたり、繰返しの締付けを行わないでください。

⚠ 2丁掛けを行わないと冷媒漏えいの原因となります。

⑨ 気密試験・断熱工事

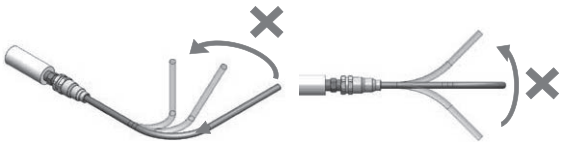
・接続部は、ガス漏れチェック後、断熱材をかぶせ、バンドでしっかりと締付けてください。
（フレア接続時の断熱方法に同じ）詳細は、室内ユニットに付属の「据付工事説明書」をご覧ください。

⑩ 施工後のご注意

・継手を接続した後にねじらないでください。

⚠曲げ配管を接続する場合あらかじめ配管を曲げ、その後に継手を取付けて接続を行ってください。締付け後に配管の向きをねじらないでください。

⃠継手を接続済みの配管に水平・垂直方向に力を加えないでください。



・施工を行った継手は再利用しないでください。

ねじ接合継手の施工完了後、下記項目についてチェック願います。

施工要領の確認（禁止事項）

社名・氏名

年　　月　　日

⃠禁止事項	理　由	自己チェック
銅管保温材をカッターナイフで背割り方向に切る。	銅管に縦キズが付き、漏れの原因となります。	□ 確認しました
管端から50mmの範囲の銅管を確認しない。	管に傷・曲がり・扁平・熱劣化・内外面への異物付着があると、漏れの原因となります。	□ 確認しました
外面の面取りを行わない。	面取りを行わないとシール部品を傷付け、漏れの原因となります。	□ 確認しました
銅管に標線をマーキングしない。	適正に施工されたか施工時および施工後に目視確認するための作業です。挿入不足の場合は脱管や漏れの原因となります。	□ 確認しました
継手を室内ユニットに手締め接続する前に管を継手に挿入する。	先に管を継手に挿入した状態で継手を室内ユニットに接続すると、継手の内部部品が損傷し、脱管や漏れの原因となります。	□ 確認しました
管を継手へ挿入後、継手の機器への締付けを過小または過大に締め込む。	過小および過大な締め込みは、漏れの原因となります。	□ 確認しました
継手を分解する。	継手性能が発揮しなくなり、脱管や漏れの原因と なります。	□ 確認しました
継手を再使用する。	継手の再使用は出来ません。	□ 確認しました

8.5 電気配線工事

PSC012D214AA B

電気配線工事は電気設備技術基準および内線規程に従い、電力会社の認定工事店で行ってください。

安全上のご注意

●作業前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ正しく作業してください。
安全のため必ずお守りください。

●誤った作業、行為をしたときに生じる危害や損害を「⚠**警告**」と「⚠**注意**」に区分し、お守りいただく内容を「図記号」を使用し説明していますので、必ずお守りください。

●「⚠**警告**」「⚠**注意**」の意味

⚠警告	守らないと、死亡または重大な障害にいたる危険性がある事項について説明しています。
⚠注意	守らないと、傷害や物的損害ある事項について説明しています。

●ここで使われる“図記号”の意味は右のとおりです。 ⃠ 絶対に行わない | 必ず指示に従い行う

●下記のことを必ず守ってください。守らないときは、感電による火災、感電または過熱、ショートによる火災のおそれがあります。

⚠警告

●電気工事は電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」、「内線規程」および電気配線工事説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用する。
電源回路容量不足や施工不備があると感電、火災の原因になります。

●配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。
接続や固定が不完全な場合は、発熱、火災などの原因になります。

●室内外ユニット間の配線は、端子カバーが浮き上がらないように整形し、カバーを確実に取付ける。
カバーの取付が不完全な場合は、端子接続部の発熱、火災や感電の原因になります。

●別売品は、必ず当社指定の部品を使用する。また、取付は専門業者に依頼する。
ご自分で取付をされ、不備があると、水漏れや感電、火災などの原因になります。

●改修は絶対にしない。また、修理はお買い上げの販売店に相談する。
修理に不備があると水漏れや感電、火災などの原因になります。

●室内外ユニットを移動再設置する場合は、販売店または専門業者に相談する。
据付に不備があると水漏れや感電、火災などの原因になります。

●室内ユニットの修理・点検作業に際して「電源ブレーカ」を必ずOFFする。
点検・修理にあたって、電源ブレーカがＯＮのままだと、感電およびファン回転によるケガの原因になります。

●元電源を切った後に電気工事をする。
感電、故障や動作不良の原因になります。

⚠注意

●アース（接地）を確実に行う。
アース線は、ガス管、水道管、避雷針、電話のアース線に接続しないでください。アース（接地）が不完全な場合は、故障や漏電のとき感電や火災の原因になることがあります。

●電源には必ず漏電しゃ断器（高調波対応品）を取付ける。
漏電しゃ断器が取付けられていないと感電や火災の原因になることがあります。

●正しい容量の過電圧カテゴリーⅢに準拠した全極しゃ断するブレーカ(漏電しゃ断器･手元開閉器(開閉器+B種ヒューズ)･配線しゃ断器）を使用する。
不適切な容量のブレーカを使用すると故障や火災の原因になることがあります。

●正しい容量のヒューズ以外は使用しない。
針金や銅線を使用すると故障や火災の原因になることがあります。

●電源配線は、電流容量に合った規格品の配線を使用する。
漏電や発熱・火災などの原因になることがあります。

●室内外接続用端子台および電源用端子台に単線とより線を併用しない。また、異なったサイズの単線またはより線を併用しない。
端子台のねじゆるみや接触不良が生じ、発煙・発火の原因になることがあります。

●運転停止後、すぐに電源を切らない。
必ず５分以上待ってください。水漏れや故障の原因になることがあります。

●電源ブレーカによるエアコンの運転や停止をしない。
火災や水漏れの原因になることがあります。ファンが突然回り、ケガの原因になることがあります。

●機器の設置は国の配線規則に則り行ってください。

制御の切換

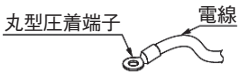
●室内ユニットの制御内容を下記方法にて切換可能です。（]は工場出荷時の設定）

スイッチNo.	制御内容	スイッチNo.	制御内容
SW1	室内アドレス（10位）	SW5−2	室内アドレス（100位）
SW2	室内アドレス（１位）	SW6−1~4	機種容量
SW3	室外アドレス（10位）	SW7−1	ON 運転チェック･ドレンポンプ運転試
SW4	室外アアドレス（１位）		OFF 通常運転
SW5−1 (注1)	ON 旧SL通信仕様固定		
	OFF 新SL/旧SL通信仕様自動判別		

注1：通信方式であるスーパーリンクの仕様が選択できます。
旧SL：ビル空調2LXシリーズ，ガスヒートポンプM7シリーズ以前
新SL：ビル空調3LXシリーズ，ガスヒートポンプM8シリーズ以降
SW5-1がOFF(工場出荷設定)の場合は，通信仕様(新SL/旧SL)を自動判別します。
旧SL通信仕様固定で使用する場合は，SW5-1をONにしてください。
各通信仕様の特徴，制限は室外ユニットに付属の据付説明書をご覧ください。

①電源・室内外配線の接続

●電気工事は電力会社の認定工事店で行ってください。本配線仕様は、下記に基づいて決定しています。
①配線は銅線以外のものを使用しないでください。
各配線は下記または下記と同等以上のものを使用してください。
ーゴム被覆：オーディナリーゴムシース付コード（コード分類 60245 IEC 53）
ーポリ塩化ビニル被覆：オーディナリービニルシースコード（コード分類 60227 IEC 53）
②電源は、室外ユニット、室内ユニット各々別電源としてください。
③電気ヒータ（別売品）はなしにて記載してあります。
注：電気ヒータを組込む場合は、電源仕様・配線仕様および配線本数が異なりますので、ご注意ください。
④同一系統内の室内ユニットの電源は、必ず全て同時 ON、同時 OFF になるようにしてください。
⑤信号線と電源線の接続を間違えますと全ての基板が焼損する場合がありますので、接続線を混同しないように細心の注意を払ってください。
●アース線は室内外接続線および室内ユニット間配線の接続前に接続してください。また、アース線は室内外接続線より長くし、アース線に力がかからないようにしてください。
●電源は工事が完了するまで入れないでください。
●D種接地工事を必ず行ってください。
●端子台への接続は、丸型圧着端子を接続してください。



●専用の分岐回路を用い、他の機器と併用しないでください。併用した場合、電源ブレーカ落ちによる二次災害は生じる恐れがあります。
●機種毎に設定された過電流および漏洩しゃ断器を設置してください。
●室内外の信号線は途中接続しないでください。途中接続した場合に水が浸入すると、対地間絶縁不良や途中接続部の接触不良をまねき、通信異常の原因となります。（万一、途中接続する場合には、絶対に水が浸入しないような処置を行ってください。）
●天井裏内の配線（電源・リモコン・室内外接続線など）はネズミ等により、かじられ切断することもありますので、なるべく鉄管等の保護管内に通してください。
●室内ユニットに接続する電源線は 3.5mm² まで使用可能です。5.5mm² 以上の配線を使用する場合は、専用のプルボックスを使用し、室内ユニットへ分岐してください。
●信号線と電源線の接続を間違えますと全ての基板が焼損する場合がありますので、ご注意ください。
① A-B 信号線に誤って、200V 電源を接続しても初めの 1 回は保護します。
②電源投入 15 分経過後リモコンからユニット No.(アドレス）が確認できない場合は、全ての信号線を確認して誤接続を修復してください。
③焼損基板のジャンパー線 JSL1 を切る、またはコネクタ JSL1 を外し、コネクタ CNK1（白）を CNK2（黒）に差し替える。
④ A-B 端子台から基板までの配線に異常があれば交換してください。
●室内外ユニットの外部では、リモコン線と電源線が直接接触しないように施工してください。
●リモコン用端子台には、200V 電源を絶対に接続しないでください。故障の原因となります。
●ユニット間配線・アース線およびリモコン線の接続
①ユニット間配線･アース線およびリモコン線の接続は、制御箱内の電源側端子台、信号側端子台に番号を合わせて接続してください。また、アース線は、電源側端子台アース線に接続してください。
②電源には必ず漏電しゃ断器を取付けてください。漏電しゃ断器は、インバータ回路用しゃ断器（三菱電機製 NV-C シリーズまたは、その同等品）を選定してください。
③漏電しゃ断器が地絡保護専用の場合には、漏電しゃ断器と直列に手元しゃ断器（開閉器＋B種ヒューズ）または、配線用しゃ断器が必要となります。
④手元開閉器はユニットの近傍に設置ください。
●配線の接続はねじの緩みのないように確実に行ってください。また、制御箱内のコネクタの抜けや端子外れがないことを確認してください。
●補助電気ヒータ組込の場合は、電気ヒータ組込時の説明書・または技術資料で確認してください。

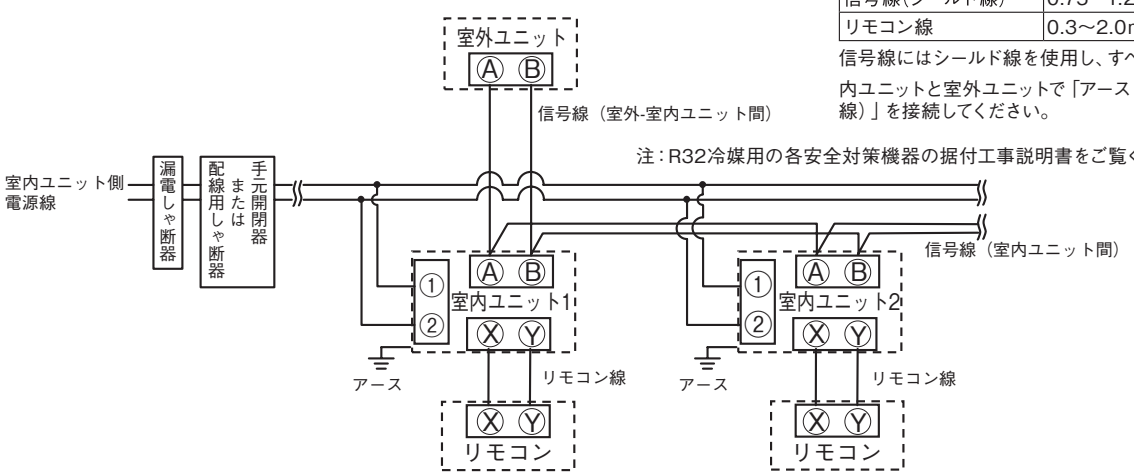
配線図（室外/室内ユニット接続手順）

配線の仕様

電源線	2.0～3.5mm²
信号線（シールド線）	0.75～1.25mm²
リモコン線	0.3～2.0mm²

信号線にはシールド線を使用し、すべての室内ユニットと室外ユニットで「アース（信号線）」を接続してください。

注：R32冷媒用の各安全対策機器の据付工事説明書をご覧ください。



①電源・室内外配線の接続のつづき

電源仕様

●室内ユニットを個別に電源に接続する場合

①室内ユニット電源使用（②～③以外の機種）								
機種容量	漏電しゃ断器定格	開閉器容量	ヒューズ	電源線太さ	配線こう長	信号線	リモコン線	アース線
22～36形	15A 30mA 0.1sec	30A	15A	2.0mm²×2	298m	0.75～1.25mm²×2	0.3mm²×2心	2.0mm²
45～56形					275m			
71～90形					179m			
112～160形					123m			
②高静圧ダクト、給気処理ユニット、加湿器付外気処理ユニット								
45～90形	15A 30mA 0.1sec	30A	15A	2.0mm²×2	149m	0.75～1.25mm²×2	0.3mm²×2心	2.0mm²
112～160形					85m			
224,280形					28m			
③床置形システムパッケージ								
112形	15A 30mA 0.1sec	30A	15A	2.0mm²×2	51m	0.75～1.25mm²×2	0.3mm²×2心	2.0mm²
140,160形					34m			
224,280形	20A 30mA 0.1sec		20A	3.5mm²×2	32m			

注 1. 配線こう長は、電圧降下２％とした場合を示します。上記の配線こう長を越える場合は、内線規程に従い、配線太さを見直してください。

注 2. リモコン線の延長距離が100mを越える場合は、③リモコンの取付 に従い、配線太さを見直してください。

●複数の室内ユニットを一つの電源に接続する場合

室内ユニット合計電流	配線太さ (mm²)	配線こう長 (m)	配線用しゃ断器定格電流
7A以下	2	21	20A
11A以下	3.5	21	20A
12A以下	5.5	33	20A
16A以下	5.5	24	30A
19A以下	5.5	20	40A
22A以下	8	27	40A
28A以下	8	21	50A

注1. 表中のこう長は、室内ユニットを直列に接続した場合の値を示します。また、室内ユニット合計電流別に電圧降下を2%以内とした場合の配線太さとこう長を示しています。電流が左表の値を超える場合、内線規程に従い配線太さを見直してください。

注2. サービス時（電源OFF時）のため、別の冷媒配管系統の室内ユニットを同一電源とすることは避けてください。

漏電しゃ断器の定格感度電流は、下記計算式と判定方法を参照ください。

注3. 下記に示す計算式は目安であり、現地設備、工事内容により異なる場合があります。漏電しゃ断器が頻繁に作動する場合は、現地設備、工事内容に適した漏電しゃ断器を選定してください。

<計算式>　必要感度電流 ＝（各室内ユニットの機種係数　×台数）の合計値　＋ (配線係数×配線長[km])

<機種係数>

機種	係数
FDT,FDTC	3.5
その他	2.5

<配線係数>

電源配線径	係数
2.0mm²	50
3.5mm²	60
5.5mm²	60
8.0mm²	60

<判定方法> ※下記の判定方法は参考値です。漏洩電流の許容値および定格感度電流の容量は、国の適用規格に従って選定してください。

(ⅰ) 必要感度電流≦30　　定格感度電流30mA (0.1s以下) 品をご使用ください。

(ⅱ) 30<必要感度電流≦100　　原則、必要感度電流が30mA以下となるよう漏電しゃ断器の系統分割をしてください。系統分割が難しい場合は、接地抵抗値が内線規程に基づいた値以下となる様確実に接地工事を行った場合に限り、定格感度電流100mA(0.1s以下)品の使用が可能です。

(ⅲ) 100<必要感度電流　　漏電しゃ断器の系統分割（追加）が必要です。

②アドレス設定

アドレス設定は、（1）手動アドレス設定、（2）自動アドレス設定の２方法ができます。
自動アドレス設定の場合、アドレス設定後、ワイヤードリモコンからアドレスの変更が可能です。
設定方法は、室外ユニットに付属の説明書をご覧ください。

③リモコンの取付（別売部品）

●次の位置へ取付けないでください。

○直射日光の当たる所
○発熱器具に近い所
○湿気の多い所、水が飛散する所
○取付面が発熱・結露する所
○油の飛沫や蒸気が直接触れる所
○取付面の凹凸がある所

リモコン取付・配線

①リモコンの取付は、リモコン付属の説明書に従ってください。

②リモコン線は、０．３mm^2×２心の電線またはケーブルを使用してください。配線の被覆は 1mm 以上のものを使用してください。（現地手配）

③リモコン線の総延長は６００mです。

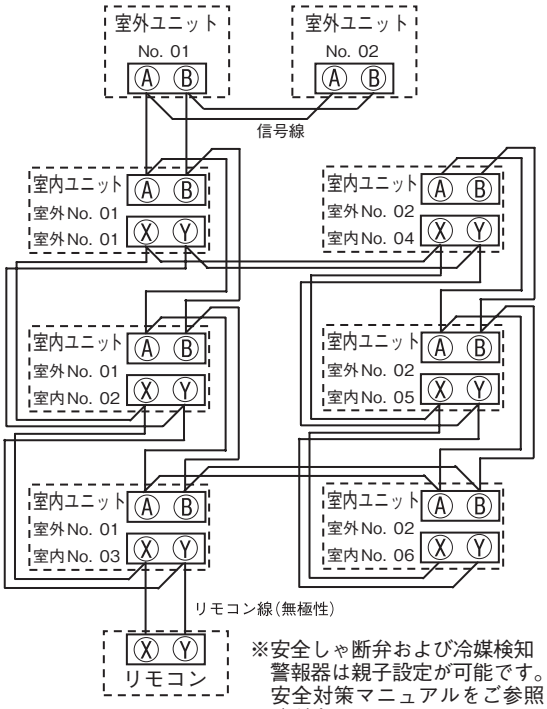
延長距離が１００mを超える場合は、下記サイズに変更してください。ただし、リモコンケース内を通る配線は最大０．５mm^{2}以下とし、リモコン外部の近傍で配線接続により、サイズを変更してください。配線接続部では防水処理が必要です。接触不良にご注意ください。

１００～２００m以内・・・・・０．５mm^2×２心
３００m以内・・・・・０．７５mm^2×２心
４００m以内・・・・・１．２５mm^2×２心
６００m以内・・・・・２．０mm^2×２心

④誤動作する場合がありますので、多心ケーブルの使用は避けてください。

⑤リモコン線はアース（建物の鉄骨部分または金属など）からできるだけ離してください。

⑥リモコン線は確実にリモコンと室内ユニットの端子台に接続してください。（極性はありません）



※安全しゃ断弁および冷媒検知警報器は親子設定が可能です。安全対策マニュアルをご参照ください。

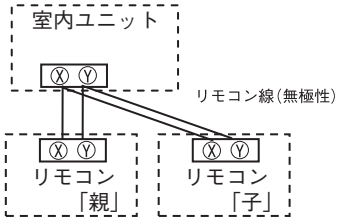
１リモコンによる複数台室内ユニット制御

①１つのリモコンで複数台のユニット（最大１６台）をグループ制御できます。
同一モード、同一室温設定で運転します。

②グループ制御用に各室内ユニット間を２心のリモコン線にて渡り配線してください。

③室内・室外Ｎｏ．を手動アドレス設定にてセットしてください。
○室内ユニット基板上のロータリスイッチＳＷ１,ＳＷ２およびディップスイッチＳＷ5-2により、室内Ｎｏ．を重複しないように設定してください。

④右図のように室外ユニットが複数台の場合でもリモコン複数台制御可能です。



複数リモコン使用時の親子設定

室内１台（または１グループ）に対して、最大２個までリモコンを接続できます。後操作優先で運転します。

ワイヤードリモコン２台、あるいはワイヤードリモコン＋ ワイヤレスキット、あるいはワイヤレスキット２台のいずれかの組合せができます。

１個を「親」に、残りを「子」に設定してください。

スイッチ	設定	内容
ワイヤードリモコン：SW1	親	親リモコン
ワイヤレスキット：SW1-2	子	子リモコン

○ 注意　リモコンセンサ有効設定は親リモコンのみ可能です。親リモコンを室温検知させる位置に取付けてください。

④リモコンからの操作・確認方法

No.	項目	eco タッチリモコンから操作（RC-DX シリーズ）	標準リモコンから操作（RC-D シリーズ）
1	リモコン系統内の接続ユニットの接続台数確認方法	[メニュー] ⇒ [サービス設定] ⇒ [サービス・メンテナンス] ⇒ [サービスパスワード] ⇒ [エアコン No. 表示]	①エアコン No. を押してください。 ②▲▼ボタンで室内ユニットのアドレスを 1 台ずつ確認してください。
2	リモコン系統内の接続室内ユニットの接続確認方法	[メニュー] ⇒ [サービス設定] ⇒ [サービス・メンテナンス] ⇒ [サービスパスワード] ⇒ [エアコン No. 表示] ⇒ [個別送風運転]	①エアコン No. を押してください。 ②▲▼ボタンで室内ユニットのアドレスを選択してください。 ③ [運転切換] を押してください。送風運転します。
3	親子リモコン設定	[メニュー] ⇒ [サービス設定] ⇒ [リモコン設定] ⇒ [サービスパスワード] ⇒ [リモコン親子設定]	子リモコン切換スイッチ（SW1）を「子」に設定してください。
4	運転データの確認方法	[メニュー] ⇒ [サービス設定] ⇒ [サービス・メンテナンス] ⇒ [サービスパスワード] ⇒ [運転データ表示]	[点検] ⇒運転データ表示▼⇒ [セット] ⇒ データ確認中⇒室内機選択⇒▲▼ボタンで接続されている室内アドレスを1台選択⇒ [セット] ⇒ データ確認中⇒▲▼データ選択
5	点検表示の確認方法	[メニュー] ⇒ [サービス設定] ⇒ [サービス・メンテナンス] ⇒ [サービスパスワード] ⇒ [点検表示]	[点検] ⇒運転データ表示▼⇒ [▼] ⇒ エラーデータ表示▲⇒ [セット] ⇒ データ確認中⇒データ表示
6	リモコンからの冷房試運転方法	[メニュー] ⇒ [サービス設定] ⇒ [据付設定] ⇒ [サービスパスワード] ⇒ [試運転] ⇒ [冷房試運転] ⇒ [開始]	① [運転 / 停止] を押し、運転させてください。 ② [運転切換] により、「冷房」を選択します。 ③ [試運転] を３秒以上押します。表示が、「冷房試運転▼」となります。 ④「冷房試運転▼」の表示で、[セット] ボタンを押すと、冷房試運転を開始します。表示は「冷房試運転」となります。
7	リモコンからドレンポンプ試運転方法	[メニュー] ⇒ [サービス設定] ⇒ [据付設定] ⇒ [サービスパスワード] ⇒ [試運転] ⇒ [ドレンポンプ試運転] ⇒ [運転]	① [運転 / 停止] を押し、運転させてください。表示が「冷房試運転▼」となります。 ② [▼] を一度押し、「ドレンポンプ運転」を表示させます。 ③ [セット] を押すと、ドレンポンプ運転を開始します。 表示 :「セットで停止」

リモコン形式の違いにより、メニュー構成が異なる場合があります。リモコン形式が異なる場合は、リモコン付属の据付説明書をご覧ください。

⑤リモコンからの操作・設定

〈ecoタッチリモコン：RC-DX3Fの凡例〉
A：eco タッチリモコン付属の取扱説明書を参照ください。
B：eco タッチリモコン付属の据付工事説明書を参照ください。
C：インターネットよりユーティリティーソフトを配信中です。

〈標準リモコンの設定操作可否〉
○：eco タッチリモコンと、ほぼ同等の機能設定・操作が可能です。
△：eco タッチリモコンと、類似の機能設定・操作が可能です。
空欄：標準リモコンには、この機能はありません。

設定および表示項目		詳細内容	RC-DX3F	RC-D4G
1. リモコンネットワーク				
1	複数室内ユニット制御	リモコン 1 台（リモコンネットワーク内）に最大 16 台室内ユニットを接続制御できます。室内ユニット側にアドレスを設定します。		○
2	親子リモコン設定	リモコンネットワーク内に 2 個のリモコン（含むワイヤレスリモコン）を接続できます。片側を「親」とし、片側を「子」として設定します。	B	○
2.TOP 画面・スイッチ操作				
1	メニュー	制御・設定・詳細設定等の項目を追加します。	A	
2	運転モード	冷房・暖房・送風・自動・除湿を設定します。	A	○
3	設定温度	室温を 0.5℃単位で設定します。	A	○
4	風向	風向を設定します。おまかせ気流の有効 / 無効を設定します（FDK の場合）。※ 2	A	△
5	風量	風量を設定します。	A	○
6	タイマー設定	タイマー運転を設定します。	A	○
7	運転／停止スイッチ	運転を開始します。／停止します。	A	○

⑤リモコンからの操作・設定のつづき

設定および表示項目			詳細内容	RC-DX3F	RC-D4G
8	F1 スイッチ		F1 スイッチの割付られた機能で運転、操作を行います。	A	
9	F2スイッチ		F2 スイッチの割付られた機能で運転、操作を行います。	A	
10	言語切換		リモコンに表示する言語を選択します。 選択できる言語は下記です。 英語 / 日本語 ドイツ語 / フランス語 / スペイン語 / ポルトガル語 / 中国語	A	
3. 便利機能					
1	フリーフロー設定		各ルーバの可動範囲（上限位置―下限位置）を設定します。 FDK の場合は左限位置 - 右限位置も設定します。	A	△
2	エアフレックス（風よけ）設定 エアフレックスパネル組合せの場合		・詳細設定：各運転モード、各吹出口のエアフレックス（風よけ）機構動作の有効・無効を設定します。 ・ON/OFF 切換え：詳細設定で、有効にされている各吹出口のエアフレックスON/OFF(作動中/停止中)を切換えます。	A	
3	タイマー設定	時間入タイマー	停止後、運転させたい時間を設定します。 ・1 ～ 12 時間の範囲を 1 時間単位で設定可能です。 ・運転開始時の運転モード・設定温度・風量を設定できます。	A	
		時間切タイマー	運転後、停止させたい時間を設定します。 ・1 ～ 12 時間の範囲を 1 時間単位で設定可能です。	A	△
		時刻入タイマー	運転開始時刻を設定します。 ・設定時刻は 5 分単位で設定可能です。 ・1 回のみ／毎日の切換えが可能です。 ・運転開始時の運転モード・設定温度・風量を設定できます。	A	△
		時刻切タイマー	運転停止時刻を設定します。 ・設定時刻は 5 分単位で設定可能です。 ・1 回のみ／毎日の切換えが可能です。	A	△
		ウィークリータイマー	1 週間の入タイマーまたは切タイマーを設定します。 ・1 日最大 8 パターンまで設定可能です。 ・設定時刻は 5 分単位で設定可能です。 ・祭日および臨時休業など、休日設定が可能です。 ・運転開始時の運転モード・設定温度・風量を設定できます。	A	△
		タイマー設定内容確認	各タイマーの設定内容を一覧できます。	A	
4	おこのみ設定 管理者パスワード		おこのみ設定運転で使用する運転モード、設定温度、風量、風向を設定します。おこのみ設定1、おこのみ設定２のそれぞれに設定が可能です。	A	
5	るす番運転 管理者パスワード		お部屋を留守にするとき、お部屋は著しく高温 / 低温にならないように温度を保ちます。 ・外温と制御温度により冷房 / 暖房を行います。 ・設定温度、風量の設定が可能です。	A	
6	換気 換気機器組合せの場合		換気の ON/OFF 操作を行います。 [メニュー] ⇒ [サービス設定] ⇒ [リモコン設定] ⇒ [換気設定] の設定が必要です。 ・換気設定を「単独操作」に設定した場合、換気機器の運転 / 停止ができます。	A	○
7	言語切換設定		リモコンに表示する言語を選択します。 ・選択できる言語は下記です。 英語 / 日本語 ドイツ語 / フランス語 / スペイン語 / ポルトガル語 / 中国語	A	
8	室外静音設定		室外ユニットの静音性を優先して運転します。 ・室外静音運転の開始・停止を設定します。	A	△
9	省エネモード設定		室内ユニットの省エネモードを設定します。	A	
10	見てみて		室内温度、室外温度、運転時間、消費電力量を表示します。 ・室内ユニット―室外ユニットの組合せによっては表示できない場合があります。	A	
11	消費電力量表示		今日、今週、今年の消費電力量をグラフで表示します。 昨日、先週、昨年と比較することができます。 ・室内ユニット―室外ユニットの組合せによっては表示できない場合があります。	A	

⑤リモコンからの操作・設定のつづき

設定および表示項目			詳細内容	RC-DX3F	RC-D4G
4. 省エネ設定			管理者パスワード		
1	切忘れ防止タイマー		運転を開始してから停止するまでの時間を設定します。 ・設定時間は 30 ～ 240 分（10 分単位）まで選択可能です。 ・設定「有効」の場合、毎回、タイマーが作動します。	A	
2	ピークカットタイマー		能力を制限する運転の開始時刻と停止時刻、能力制限率を設定します。 ・1 日最大 4 パターンまで設定可能です。 ・設定時刻は 5 分単位で設定可能です。 ・能力制限率は 0,40 ～ 80%（20%単位）から選択可能です。 ・祭日および臨時休業など、休日設定が可能です。	A	
3	設定温度自動復帰		設定時刻後に設定した温度に戻ります。 ・暖房モード / 冷房モード他、各々設定可能です。 ・設定時間は 20 ～ 120 分（10 分単位）まで設定可能です。 ・設定時刻は 10 分単位で設定可能です。	A	△
4	人感センサ制御		人感センサを使用の場合、パワーコントロールとオートオフの有効／無効を設定します。	A	
	人感センサがある場合		パワーコントロールの冷房時 / 暖房時設定温度を設定します。	A	
5. お手入れ					
1	フィルタサインリセット	フィルタサインの解除	フィルタサインの解除を行います。	A	○
		次回清掃日の設定	次回清掃日の設定を行います。	A	△
2	グリル昇降	ラクリーナパネル制御 ラクリーナパネル 組合せの場合	ラクリーナパネル　グリルの昇降操作をします。 [メニュー] ⇒ [サービス設定] ⇒ [据付設定] ⇒ [グリル昇降操作] の設定が必要です。	A	○
		降下長設定 管理者パスワード	グリル昇降長さを設定します。 ・0.1 ～ 4.0 mの範囲で設定できます。 ・設定長さは 0.1 m単位で設定可能です。 ・接続室内ユニット毎に設定できます。	A	○
		ダスト回収リセット お掃除パネル組合せの場合	ダスト回収後にダスト回収タイマーをリセットします。	A	
3	お掃除パネル設定 管理者パスワード	お掃除自動設定	自動清掃の有効 / 休止を設定します。	A	
		清掃時間帯設定	自動清掃を開始する時間帯を設定します。	A	
		清掃間隔設定	自動清掃する最小の間隔を設定します。	A	
		ダスト回収設定	ダストの回収時期を設定します。	A	
		ブラシ清掃回数設定	ブラシの清掃回数を設定します。	A	
		ブラシ移動速さ	ブラシ移動速さを設定します。	A	
		ブラシ往復数	ブラシ往復数を設定します。	A	
6. ユーザ設定					
1	初期設定	時刻設定	現在の日付・時刻を設定および修正を行います。 ・80 時間以内の停電の場合、内蔵バックアップ電源の働きにより時計は動き続けます。	A	△
		時刻表示設定	時刻表示のあり／なし、12 H／ 24 H、AM/PM 位置、を設定します。	A	
		サマータイム補正	現在時刻に対し、＋1 時間の補正を行います。	A	
		コントラスト調整	液晶の濃度の調整を行います。	A	
		バックライト	バックライトの有効／無効、点灯時間を設定します。	A	
		ブザー音	タッチパネル操作時のブザー音のあり／なしを設定します。	A	
		運転ランプ輝度	運転ランプの輝度の調整を行います。	A	

⑤リモコンからの操作・設定のつづき

設定および表示項目			詳細内容	RC-DX3F	RC-D4G
2	管理者設定 管理者パスワード	操作制限設定	・操作の許可 / 禁止を設定します。 [運転 / 停止][設定温度切換][運転モード切換][風向切換] [風量切換][ハイパワー運転][省エネ運転][見てみて][タイマー設定] [消費電力量表示] ・操作時の管理者パスワード要求を設定します。 [フリーフロー設定][グリル降下長設定] [ウィークリータイマー設定]　[言語切換設定] [エアフレックス（風よけ）設定]	A	△
		室外静音タイマー	室外ユニットの静音性を優先して運転する時間帯を設定します。 ・静音運転開始時刻と終了時刻を設定可能です。 ・設定時刻は 5 分単位で設定可能です。	A	△
		設定温度範囲	設定温度範囲を制限します。 ・運転モードによる温度範囲の制限が可能です。	A	△
		温度設定刻み切換	設定温度の刻み（0.5℃ /1.0℃）を設定します。	A	
		設定温度表示切換	設定温度の表示の仕方を切換えます。	A	
		リモコン表示設定	リモコン名称、室内ユニット名称を登録します。 室温表示のあり / なしを設定します。 点検コード、暖房準備、除霜運転中、自動冷暖の表示、リモコン・室温・外温表示のあり / なしを設定します。	A	△
		管理者パスワード変更	管理者パスワードの変更を行います。	A	
			管理者パスワードのリセットを行います。	B	
		スイッチ機能変更	F1、F2 スイッチの機能を設定します。 設定できる機能 [エアフレックス ON/OFF] [ハイパワー運転][省エネ運転][室外静音制御][るす番運転] [おこのみ設定運転1][おこのみ設定運転 2][フィルタサインリセット] [グリル昇降][消費電力量表示]	A	
		冷媒検知警報器設定	リモコンで冷媒検知警報器を設定します。 設定できる項目 ［ブザー音］［LED 輝度］［冷媒濃度しきい値］	A	
		リモコンアラーム音確認	リモコンの警報機能を確認します。	A	
		遮断弁チェック運転	遮断弁チェック運転を行います。	A	
		遮断弁チェック運転結果	遮断弁チェック運転の結果を表示します。	A	

⑤リモコンからの操作・設定のつづき

設定および表示項目			詳細内容	RC-DX3F	RC-D4G
7. サービス設定					
1	据付設定 サービスパスワード	据付日登録	据付日を登録した場合、点検表示を行います。	B	
		サービス情報入力	リモコンに連絡先を登録することができます。 ・連絡先を半角 26 文字相当以内で登録できます。 ・連絡先 TEL 番号を 13 文字以内で登録できます。	B	
		試運転	試運転の開始／停止を制御できます。	B	△
		冷房試運転	設定 5℃ 30 分間運転します。		
		ドレンポンプ試運転	ドレンポンプのみを運転します。		
		お掃除試運転	フィルタ清掃　ブラシ清掃運転します。　お掃除パネル組合せの場合	B	
		安全システム試運転	冷媒漏えい検知時の各機器（室外ユニット、室内ユニット、リモコン、安全対策機器）の動作確認運転します。	B	
		ダクト機静圧補正	機外静圧補正機能付ダクト形室内ユニット組合せの場合に操作できます。 ・接続室内ユニット毎に個別に設定できます。	B	
		自動アドレス変更	個別発停マルチシリーズ自動アドレス番号を変更することができます。	B	△
		親室内機アドレス設定	個別発停マルチシリーズ　設定された親ユニットのみ運転モード変更を許可し、親を設定したユニットは親ユニットから送られた運転モードに従って運転します。	B	△
		バックアップ制御	1 台のリモコンに室内ユニット 2 台（2 グループ）は接続されている時にローテーション運転、キャパシティバックアップ運転、フォルトバックアップ運転の有効／無効が設定できます。	B	
		人感センサ設定 人感センサ付パネルの組合せの場合	リモコンに接続された室内ユニットの人感センサ検知の有効／無効を設定します。 無効の場合は、省エネ設定の人感センサ制御を行うことができません。	B	
		リモコンアラーム音設定	リモコンの警報機能の有効 / 無効を設定します。	B	
		ドレンクリーン（UV-C）設定	ドレンクリーン（UV-C）の有効 / 無効を設定します。	B	
		グリル昇降操作	ラクリーナパネル操作を有効に設定します。 ラクリーナパネル組合せの場合	B	○
2	リモコン設定 サービスパスワード	リモコン親子設定	リモコン親子設定の変更ができます。	B	○
		吸込センサ制御	1 台のリモコンに複数室内ユニットが接続されている場合、サーモ判定に用いる吸込センサを選択できます。 ・個別／親機／平均の選択が可能です。	B	
		リモコンセンサ	給気処理ユニットはリモコンセンサ切換不可です。	B	
		運転モード選択	各運転モード毎に有効／無効を設定できます。	B	△
		設定温度単位	設定温度の単位を設定します。 ・℃／℉の選択が可能です。	B	
		ファン速度	ファン速度の選択が可能です。	B	○
		外部入力設定	1つのリモコンに複数室内ユニットが接続された場合、CNT入力の適用範囲が設定されます。	B	○
		上下ルーバ制御	上下ルーバの [4 位置停止] ／ [フリー停止] の切換えができます。	B	○
		左右ルーバ制御	左右ルーバの [固定位置停止] ／ [フリー停止] の切換えができます。	B	
		換気設定	換気ユニット組合せ制御が設定できます。	B	○
		停電補償	停電復帰した場合の制御内容を設定できます。	B	○
		設定温度自動設定	設定温度自動の有効／無効を選択できます。	B	
		風量自動設定	風量自動の有効／無効を選択できます。	B	

⑤リモコンからの操作・設定のつづき

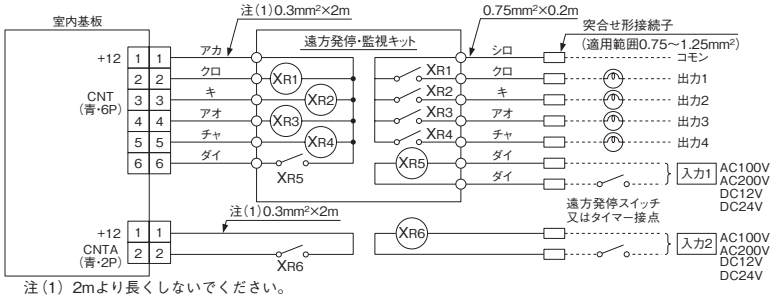
設定および表示項目			詳細内容	RC-DX3F	RC-D4G
3	室内設定 サービスパスワード	風速設定	室内ユニットの風量タップを設定します。	B	○
		フィルタサイン	フィルタサイン点灯タイマーの設定が切換えられます。	B	○
		外部入力 1 設定	外部入力 1 の制御内容を切換えられます。	B	○
		外部入力 1 方式切換	外部入力 1 の信号方式を切換えられます。	B	○
		外部入力 2 設定	外部入力 2 の制御内容を切換えられます。	B	
		外部入力 2 方式切換	外部入力 2 の信号方式を切換えられます。	B	
		暖房室温補正	暖房サーモ判定値を 0 ～ +3℃の範囲で補正できます。	B	○
		吸込温度補正	吸込センサ検知温度を± 2℃の範囲で補正できます。	B	○
		冷房ファン制御	冷房サーモ OFF 時のファン制御を変更できます。	B	○
		暖房ファン制御	暖房サーモ OFF 時のファン制御を変更できます。	B	○
		フロスト防止温度	冷房中室内ユニットの凍結防止制御の判定温度を変更できます。	B	○
		フロスト防止制御	冷房中室内ユニットの凍結防止制御作動後のファンタップアップを変更できます。	B	○
		ドレンポンプ運転	冷房・除湿以外の運転モードでのドレンポンプ運転範囲を設定できます。	B	○
		冷房ファン残留運転	冷房停止・冷房サーモ OFF 後のファン残留運転を設定できます。	B	○
		暖房ファン残留運転	暖房停止・暖房サーモ OFF 後のファン残留運転を設定できます。	B	○
		暖房ファン間欠	暖房停止･暖房サーモ OFF ファン残留運転後のファン運転を設定できます。	B	○
		送風サーモ運転	送風時のサーキュレータ運転を設定できます。	B	
		外調機設定	マルチユニット外調機単独運転時の圧力制御を変更できます。	B	
		運転モード自動設定	運転モード自動判定方法を 3 種類から選択できます。	B	
		サーモ判定切換	サーモ判定を室外温度で補正することができます。	B	
		風量自動切換	風量自動運転における自動切換範囲を設定できます。	B	
		室内過負荷アラーム	運転開始 30 分後、設定温度と吸込温度の差が過負荷アラームで設定した温度差以上ある場合、外部出力（CNT-5）から過負荷アラーム信号を送信します。	B	
		外部出力設定	外部出力 1 ～ 4 に割当てる機能を切換えられます。	B	
		デフロスト時ファン制御	デフロスト運転時のファン回転数を設定します。	B	
4	サービス・メンテナンス サービスパスワード	エアコンNo. 表示	リモコン 1 台に 16 台の室内ユニットを接続できます。個別送風運転で確認できます。	B	○
		次回点検日	次回の点検日を登録することができます。点検日に連絡先の表示をします。	A B	
		運転データ表示	室内ユニット＋室外ユニットの運転データをモニターすることができます。	B	○
		点検表示		B	△
		異常履歴表示	過去の異常履歴（点検コード・発生時間）を表示します。		
		異常時運転データ表示	直前の異常発生時の運転データを表示します。		
		異常時運転データ消去	異常時運転データが消去されます。		
		定期点検リセット	定期点検タイマーをリセットします。		
		室内設定保存	接続室内ユニット基板設定内容をリモコンへバックアップすることができます。	B	
		特殊操作	[室内アドレス消去][CPU リセット][初期化設定][タッチパネル調整] の操作ができます。	B	△
		室内機容量表示	リモコンに接続されている室内アドレス番号とその形式、容量を表示します。	B	
		安全システムメンテナンス	リモコンで安全対策機器のメンテナンスを行います。	B	
		遮断弁メンテナンス	安全遮断弁の状態確認、コイル交換表示のリセット、遮断弁交換表示のリセットを行います。		
		安全システム接続状態確認	室内ユニットと安全対策機器の接続状態を表示します。		
		冷媒センサ積算時間保存	冷媒センサの積算時間をリモコンに保存、転送します。		
		冷媒センサ積算時間リセット	冷媒センサの積算時間をリセットします。		
		UV-C メンテナンス	ドレンクリーン（UV-C）のメンテナンスを行います。	B	
		照射設定	ドレンクリーン（UV-C）の照射時間を設定します。		
		照射積算時間リセット	ドレンクリーン（UV-C）の積算時間をリセットします。		
		お掃除パネル点検	お掃除パネルの詳細点検操作ができます。	B	

⑤リモコンからの操作・設定のつづき

設定および表示項目		詳細内容	RC-DX3F	RC-D4G
8. 困ったときは・・・				
1	連絡先表示	登録した連絡先・TEL番号、サービスフロントセンターフリーコールを表示します。 QR コードでインターネット接続⇒点検コード内容を検索できます。	A	
2	サービスを依頼される前に Q & A	Q &Aが表示されます。	A	
9. 点検表示				
	点検表示確認	異常発生時の表示	A	△
10. パソコン接続				
	USB 接続	ウィークリータイマー設定他、パソコンから一括設定ができます。	C	

◆組合せ室内・室外ユニットの仕様により、本内容が機能しない場合もあります。

⑥室内基板ＣＮＴコネクタの機能



注(1) 2mより長くしないでください。

●XR1～4はＤＣ12Ｖリレー（オムロン製ＬＹ２Ｆ相当品）
●XR5は、DC 12, 24 Vまたは100Vリレー（オムロン製MY 2F相当品）
●CNTコネクタ（現地側）メーカ、形式
コネクタ：モレックス製 ５２６４－０６
端　　子：モレックス製 ５２６３Ｔ
別売品を準備しておりますのでご利用ください。
※FDT, FDTSC, FDFL, FDFUの場合
コネクタ：日本圧着端子JST製　ＺＮＤＰ－０６Ｖ－Ｂ－Ｅ
端　　子：日本圧着端子JST製　ＳＺＮＤ－００２Ｔ－Ｐ０.５
別売品を準備しておりますのでご利用ください。
●遠方発停・監視キットを別売品にて準備しておりますのでご利用ください。
●CNTAコネクタは、FDT他に搭載<仕様書で確認願います>（現地側）メーカ、形式
コネクタ：日本圧着端子JST製　ＸＡＰ０２Ｖ－１－Ｅ
端　　子：日本圧着端子JST製　ＳＸＡ－０１Ｔ－Ｐ０.６
別売品を準備しておりますのでご利用ください。

●出力1～4, 入力1・2を下記の項目より自由に選択・設定することができます。
工場出荷時は下記のように設定されています。

出力

①	運転出力	⑨	デフロスト , 油戻し出力
②	暖房出力	⑩	換気出力
③	コンプ ON 出力	⑪	ヒータ出力
④	点検 (異常) 出力	⑫	フリークーリング出力
⑤	冷房出力	⑬	室内過負荷異常出力
⑥	ファン運転出力1	⑭	冷媒漏洩出力
⑦	ファン運転出力2	⑮	遮断弁出力
⑧	ファン運転出力3		

入力

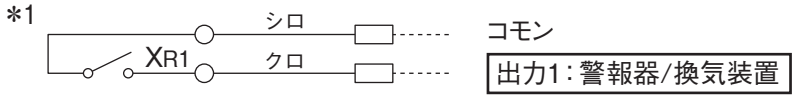
①	運転 / 停止	⑥	強制サーモ OFF
②	運転許可禁止	⑦	一時停止
③	緊急停止	⑧	静音モード
④	冷房 / 暖房	⑨	冷媒漏洩入力
⑤	設定温度シフト		

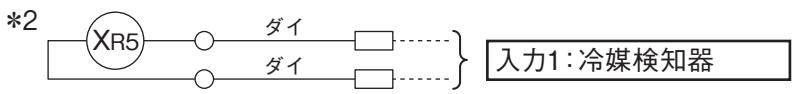
工場出荷時の設定

CNT-2	出力 1	運転出力	CNT-5	出力 4	点検 (異常) 出力
CNT-3	出力 2	暖房出力	CNT-6	入力 1	運転 / 停止
CNT-4	出力 3	コンプ ON 出力	CNTA	入力 2	運転 / 停止

他社製安全対策機器の接続

他社製の安全対策機器は、下記のように、室内ユニット基板の CNT コネクタに接続できます。
(*1、*2 は、前の図の参照です。)





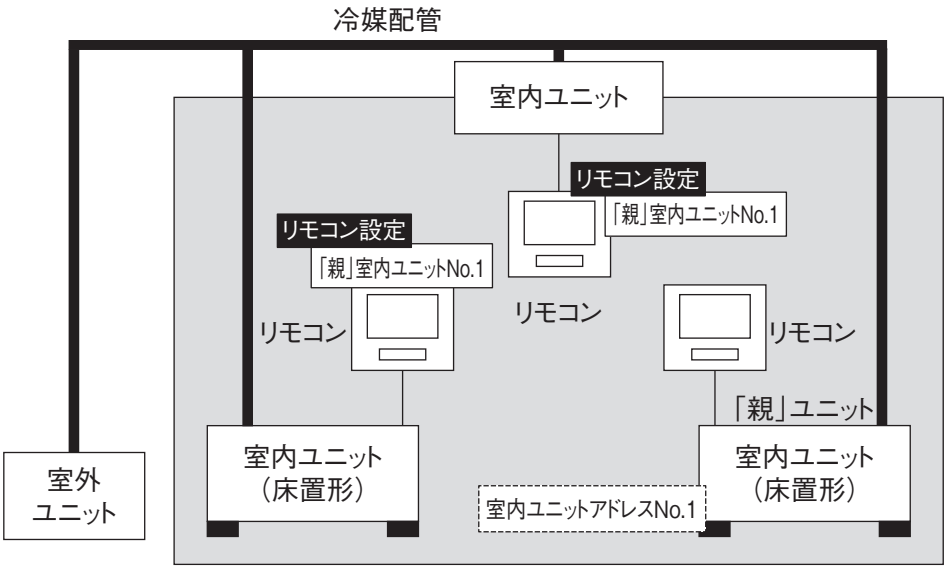
・警報器と換気装置は、XR1-4 に接続できます。接続した場合、出力設定を「冷媒漏洩出力」に変更してください。
・冷媒検知器は、XR5-6 に接続できます。接続した場合、接続入力を「冷媒漏洩入力」に変更してください。

⚠注意

・他社製の遮断弁を使用しないでください。
・接続した安全対策機器に合わせて、リモコン機能を変更する必要があります。詳細は、リモコンの取扱説明書をご参照ください。

⑦床置形室内ユニットを含む複数室内ユニット設置時の冷媒検知警報機の親子設定

下記の場合、室内ユニットの親子設定をする必要があります。
・床置形室内ユニット（FDFU/FL）が設置されている。
・同じ部屋に複数の室内ユニットが設置されている。



手順

①１つの室内ユニットを「親」に選択します。
②各「子」室内ユニットに「親」室内ユニットを設定します。
　リモコンで、各「子」室内ユニットの「親室内機アドレス設定」を行います。

・詳細は、リモコンの据付工事説明書を参照してください。

・「親」室内ユニットの設定を間違えないよう注意してください。
　設定を間違えた場合、室内ユニットが異常停止し、リモコンに「E18」が表示されます。

親子室内ユニットの運転

親子室内ユニットと冷媒検知警報器が同じグループに設定されています。
グループ内の冷媒検知警報器が冷媒漏えいを検知すると、各室内ユニットが下記の安全対策を同時に実行します。
・異常停止
・冷媒の滞留を回避するためのかくはん運転

8.6 据付工事施工チェックリスト

据付工事施工チェックリスト（R32ビル用マルチ）

PSC012D215 B

本資料は、微燃性(A2L)冷媒を使用する空調機器が遵守すべき主要な要件を確認するためのチェックリストです。
据付時に下表項目をチェックし、室内機および安全対策機器が適切に据付されていることを確認してください。
本資料は、記入後お客様に渡してください。

[注1] 天井裏でフレア接続する場合、天井裏を介して繋がる各室についてチェックしてください。
[注2] 5台以降の室内機をチェックする場合や複数の室をチェックする場合は、本資料を複製して使用してください。

記載者名	
据付日	
室またはエリアの名称	

↓各確認項目の詳細は各種マニュアルをご参照ください。

確認項目	確認内容	参照マニュアル	記入欄
0. 室内機設置条件			
冷媒充填量	冷媒充填量を確認する。	安全対策マニュアル	kg
漏えい高さ	床面から冷媒漏えい想定箇所までの高さを確認する。 ※室内機の設置高さ もしくは室内空間に 露出するフレア接続部のうち、最も低い高さ		m
室の床面積	室の床面積を確認する。		m^2
階層	室内機を設置する階は地下最下層階か。(あてはまる方に〇をつけること) ※地下最下層は条件が異なる		地下最下層 / 地下最下層ではない
施工図による確認	上記4項目を施工図を見ながら確認したか。		✓

確認項目		確認内容	準拠マニュアル	記入欄				
				室内機1	2	3	4	5
1. 室内機および安全対策機器の設置								
室内機のアドレス		室に設置する室内機を記録する。	–					
室内機の形式			–					
冷媒検知器		各室内機に接続した冷媒検知器の台数を記録する。 ※冷媒センサを内蔵する機種(*)は冷媒検知器の設置は必要ない	安全対策マニュアル					
	室内機グルーピング	同じ室に複数室内機を設置する場合、室内機のグルーピングを行う。 子の各室内機で、冷媒検知器が接続又はセンサを内蔵した親の室内機のアドレスを設定すること。 ※設定したら✓を記入		✓	✓	✓	✓	✓
警報器		警報器として使用する機器に〇をつける。(リ: リモコン、検: 冷媒検知警報器) 任意に決めることができるが、関係者が把握できるシステムとすること。 ※冷媒センサを内蔵する機種(*)はリモコンを警報器として使用する		リ / 検	リ / 検	リ / 検	リ / 検	リ / 検
安全遮断弁		遮断弁を設置したら✓を記入する。		✓	✓	✓	✓	✓
	室内機グルーピング	遮断弁1台に複数室内機を接続する場合、室内機のグルーピングを行う。 子の各室内機で、遮断弁が接続された親の室内機のアドレスを設定すること。 ※設定したら✓を記入		✓	✓	✓	✓	✓
換気装置		換気装置を設置したら✓を記入する。		✓	✓	✓	✓	✓
2. 安全対策機器据付チェック ※安全確保のため必ずチェックし、チェックマークが付いていない項目がある場合は据付条件を見直してください								
冷媒検知器	設置位置	冷媒検知器は室内機（またはダクトの吸込口/吹出口）から10m以内の壁面に設置されているか。 ※検知器と室内機の間に障害物がある場合、検知器と壁の距離を7m以内に近づけてください。	安全対策マニュアル	✓	✓	✓	✓	✓
	障害物	冷媒検知器の開口部を塞ぐ障害物はないか。	–	✓	✓	✓	✓	✓
	配線	説明書を見て、冷媒検知器が正しく配線されているか確認すること。	据付工事説明書 (冷媒検知警報器)	✓	✓	✓	✓	✓
安全遮断弁	設置位置	安全遮断弁と室内機の接続配管長さは規定通りか。	据付工事説明書 (安全遮断弁)	✓	✓	✓	✓	✓
	配管	安全遮断弁の接続配管の方向(室内機側、室外機側)は規定通りか。	安全対策マニュアル	✓	✓	✓	✓	✓
	配線	説明書を見て、安全遮断弁が正しく配線されているか確認すること。	据付工事説明書 (安全遮断弁)	✓	✓	✓	✓	✓
リモコン	リモコン設定	外部入力/出力を使って安全対策機器を接続する場合、リモコンで設定すること。	据付工事説明書 (各安全対策機器)	✓	✓	✓	✓	✓
3. 通常運転の点検								
室内機・安全対策機器		室内機及び安全対策装置は予期せぬ故障や異常な挙動をせずに運転可能か。	–	✓	✓	✓	✓	✓
4. 安全対策確認 ※安全対策確認モード(下記手順参照)により、空調機と安全対策機器とが適切に連動することを確認してください								
警報器		安全対策確認モードにより、警報器が鳴ることを確認すること。	安全対策マニュアル 据付工事説明書 (各安全対策機器)	✓	✓	✓	✓	✓
安全遮断弁		安全対策確認モードより、安全遮断弁が閉じることを確認すること。 ※正面パネルのスリットからLED点滅パターンをチェックし、 [緑LED:点滅][赤LED:3回点滅] していれば遮断弁は閉状態		✓	✓	✓	✓	✓
換気装置		安全対策確認モードにより、換気装置が運転開始することを確認すること。		✓	✓	✓	✓	✓

(*) ご使用の機種に冷媒センサが内蔵されているかどうかは、各機種の製品仕様書にてご確認ください。

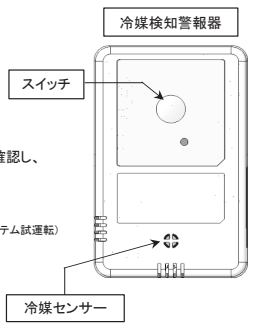
[安全対策確認の手順]

(1) 安全対策確認モードの開始

1. 下表から設定する室外機の7セグメントを確認し、対象の7セグメントが 0 に設定されていることを確認してください。

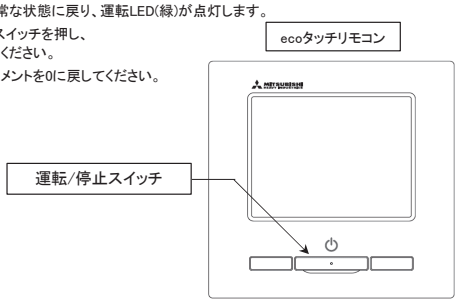
室外機形式	設定する7セグメント
LXZシリーズ4～6馬力	[P84]
上記以外	[F72]

2. 対象の7セグメントを 1 に設定してください。
3. 以下の操作により安全対策確認モードを開始してください。
   ①冷媒検知警報器が接続されている場合
   冷媒検知警報器の運転LED(緑)が点灯していることを確認し、スイッチを2回長押しする (長押しは3秒以上)
   ②冷媒検知警報器が接続されていない場合
   リモコンから安全システム試運転を開始する
   (メニュー⇒サービス設定⇒据付設定⇒サービスパスワード⇒安全システム試運転)
4. 各安全対策機器が正常に作動することを確認してください。



(2) 安全対策確認モードの終了

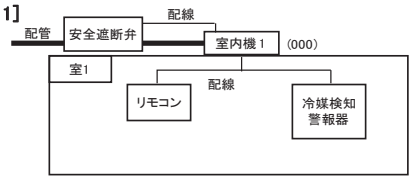
1. 冷媒検知警報器が接続されている場合はスイッチを1回押し、アラームを停止してください。
2. 冷媒検知警報器が接続されている場合はスイッチを3回押してください。
   冷媒検知警報器が正常な状態に戻り、運転LED(緑)が点灯します。
3. リモコンの運転/停止スイッチを押し、
   エラー(E23)を解除してください。
4. 室外機の対象の7セグメントを0に戻してください。



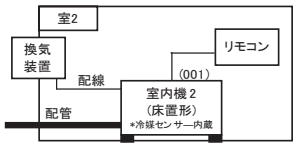
据付工事施工チェックリスト（R32ビル用マルチ）　　記入例

R32ビル用マルチにおける安全対策機器の導入例とチェックリストの記入例を示す。

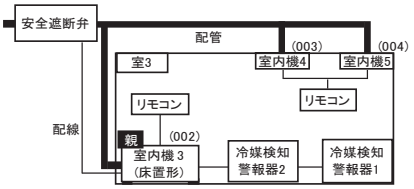
[例1]



[例2]



[例3]



確認項目		確認内容	例1 室内機1		例2 室内機2		例3 室内機3	4	5
1. 室内機および安全対策機器の設置									
室内機のアドレス		室に設置する室内機を記録する。	000		001		002	003	004
室内機の形式			T56		FU71		FL56	E71	E112
冷媒検知器		各室内機に接続した冷媒検知器の台数を記録する。	1		0		2	0	0
	グルーピング	子となる各室内機に、冷媒検知器が接続された親となる室内機のアドレスを設定すること。	／		／		／	✓	✓
警報器		警報器として使用する機器に○をつける。	リ／(検)		(リ)／検		(リ)／検	(リ)／(検)	(リ)／(検)
安全遮断弁		遮断弁を設置したら✓を記入する。	✓		／		✓	／	／
	グルーピング	子となる各室内機に、遮断弁が接続された親となる室内機のアドレスを設定すること。	／		／		／	✓	✓
換気装置		換気装置を設置したら✓を記入する。	／		✓		／	／	／
2. 安全対策機器据付チェック									
冷媒検知器	設置位置	冷媒検知器は室内機（またはダクトの吸込口/吹出口）から10m以内の壁面に設置されているか。	✓		／		✓	✓	✓
	障害物	冷媒検知器の開口部を塞ぐ障害物はないか。	✓		／		✓	✓	✓
	配線	説明書を見て、冷媒検知器が正しく配線されているか確認すること。	✓		／		✓	／	／
安全遮断弁	設置位置	安全遮断弁と室内機の接続配管長さは規定通りか。	✓		／		✓	✓	✓
	配管	安全遮断弁の接続配管の方向（室内機側、室外機側）は規定通りか。	✓		／		✓	✓	✓
	配線	説明書を見て、安全遮断弁が正しく配線されているか確認すること。	✓		／		✓	✓	✓
リモコン	リモコン設定	外部入力/出力を使って安全対策機器を接続する場合、リモコンで設定すること。	／		✓		／	／	／
3. 通常運転の点検									
室内機・安全対策機器		室内機及び安全対策装置は予期せぬ故障や異常な挙動をせずに運転可能か。	✓		✓		✓	✓	✓
4. 安全対策確認									
警報器		安全対策確認モードにより、警報器が鳴ることを確認すること。	✓		✓		✓	✓	✓
安全遮断弁		安全対策確認モードにより、安全遮断弁が閉じることを確認すること。	✓		／		✓	✓	✓
換気装置		安全対策確認モードにより、換気装置が運転開始することを確認すること。	／		✓		／	／	／

メンテナンス記録表（R32ビル用マルチ）

本資料は、安全対策機器の点検・交換に関するメンテナンス記録表です。各機器に付属の取扱説明書に従い点検・交換を行い、実施日を記録してください。

点検機器	冷媒検知警報器	リモコン	安全遮断弁	機械換気装置	点検者
管理No.					
運転開始日	年　月　日	年　月　日	年　月　日	年　月　日	
点検内容	・運転LED(緑)が点灯している ・リモコンにM41が表示されていない ・警報機能確認を実施し、アラーム発報、異常LED(赤)点滅が行われる	・アラーム音確認を実施し、 アラーム発報、バックライト明滅、 LED点滅が行われる	・遮断弁チェック運転を実施し、異常なし ・リモコンにM42が表示されていない	・換気装置の取扱説明書による	
点検頻度	1年に1回以上　※5年毎に交換	1年に1回以上	1年に1回以上	1年に1回以上	
実施日	年　月　日	年　月　日	年　月　日	年　月　日	
	年　月　日	年　月　日	年　月　日	年　月　日	
	年　月　日	年　月　日	年　月　日	年　月　日	
	年　月　日	年　月　日	年　月　日	年　月　日	
	年　月　日	年　月　日	年　月　日	年　月　日	
	年　月　日	年　月　日	年　月　日	年　月　日	
	年　月　日	年　月　日	年　月　日	年　月　日	
	年　月　日	年　月　日	年　月　日	年　月　日	
	年　月　日	年　月　日	年　月　日	年　月　日	
	年　月　日	年　月　日	年　月　日	年　月　日	
	年　月　日	年　月　日	年　月　日	年　月　日	
	年　月　日	年　月　日	年　月　日	年　月　日	
	年　月　日	年　月　日	年　月　日	年　月　日	
	年　月　日	年　月　日	年　月　日	年　月　日	
参照マニュアル	・安全対策マニュアル(7項) ・冷媒検知警報器取扱説明書(3.4項)	・安全対策マニュアル(7項) ・ecoタッチリモコン取扱説明書 （メニュー⇒ユーザ設定⇒管理者設定⇒ リモコンアラーム音確認）	・安全対策マニュアル(7項) ・ecoタッチリモコン取扱説明書 （メニュー⇒ユーザ設定⇒管理者設定⇒ 遮断弁チェック運転）	・換気装置の取扱説明書による	
交換実施日	年　月　日	年　月　日	年　月　日	年　月　日	
	年　月　日	年　月　日	年　月　日	年　月　日	

8.7 リモコンによる機能設定

(1) RC-DX3F リモコンの場合

(a) 室内ユニットの機能や用途に合わせ，リモコンより機能設定をすることができます。
リモコンより設定可能な項目は下記の通りです。

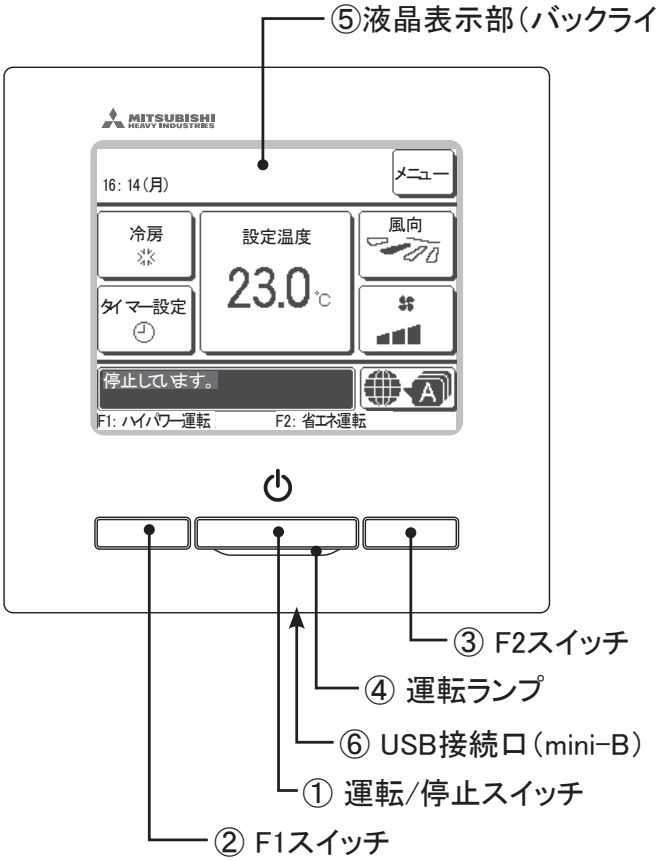
(b) 機能設定のながれ(画面タッチ操作により行なう)
TOP画面より → 「メニュー」 → 各項目へ

(c) 機能設定のクリア
TOP画面より → 「メニュー 」 →「サービス設定」 → 「サービス・メンテナンス」 →
「サービスパスワード」 → 「特殊操作」 → 「初期化設定」を選択することにより，
接続されているリモコン・室内ユニットの設定データが初期値(工場出荷時)になります。

(d) 詳細については，次ページ以降をご覧ください。

（i） リモコンの各部の名前とはたらき

（操作部）



①運転/停止、②F1、③F2 スイッチ以外の操作は、液晶表示部を指で押すタッチパネル方式となっています。

① 運転/停止スイッチ

1度押すと運転し、もう1度押すと停止します。

② F1スイッチ　③ F2スイッチ

スイッチ機能変更で設定された機能操作を行います。

④ 運転ランプ

運転中、緑色（黄緑色）に点灯します。異常発生時は赤色（橙色）に点滅します。
運転ランプの輝度は、調整可能です。

⑤ 液晶表示部（バックライト付）

液晶表示部にふれると、バックライトが点灯します。
一定時間操作が行われないと自動的に消灯します。
バックライトの点灯時間は設定可能です。
バックライト有効設定時、バックライトが消灯している状態で画面をタッチするとバックライトのみ点灯します。（①、②、③のスイッチ操作は除く）

⑥ USB接続口

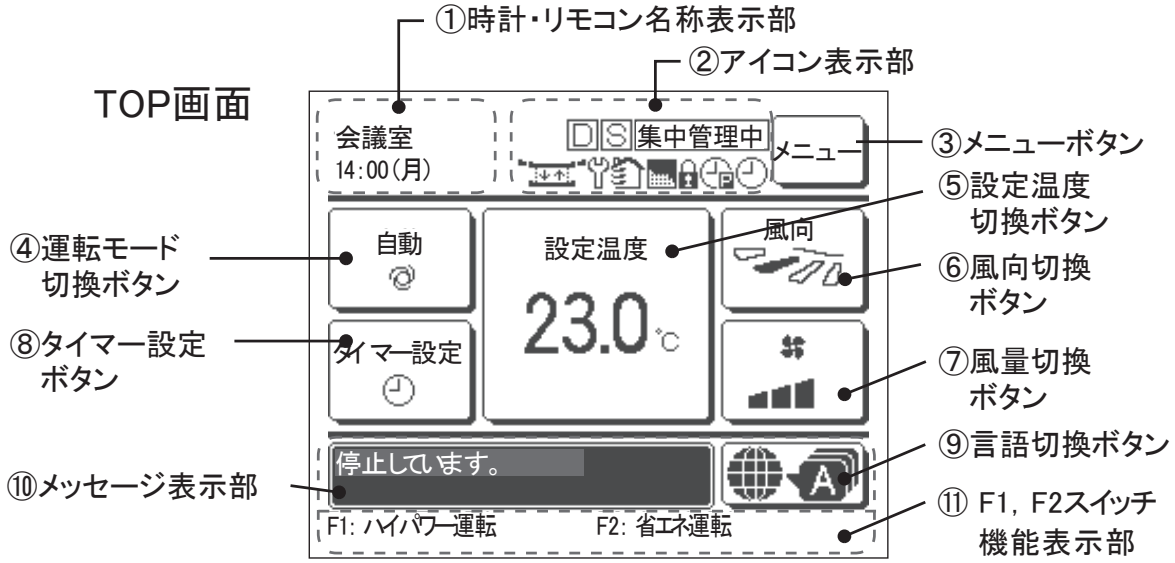
USBコネクタ（mini-B）によりパソコンとの接続ができます。
使用方法は、パソコン側ソフト（ecoタッチリモコンユーティリティソフト）に付属している取扱説明書を参照ください。

お 願 い

・パソコンと接続する場合、他のUSB機器と同時に接続しないでください。
また、ハブ等を経由せず、直接パソコンと接続してください。

（表示部）

※説明のため全てのアイコンを表示しています。



①時計・リモコン名称表示部

現在の時刻、およびリモコン名称を表示します。

②アイコン表示部

各アイコンは以下の設定が行われている場合に表示します。

デマンド制御中に表示します。

子リモコン設定すると表示します。

集中管理中 集中管理機器（別売）で管理されているときに表示します。

グリル昇降操作が有効に設定されているときに表示します。

定期点検の時期になると表示します。

換気運転中に表示します。

フィルターの清掃・ダストボックスの回収時期になると表示します。

操作制限設定が設定されているときに表示します。

ウィークリータイマーが設定されているときに表示します。

ピークカットタイマーが設定されているときに表示します。

③メニューボタン

右記の④～⑧以外の設定・変更を行う場合は、メニューボタンをタッチし、表示されたメニュー項目の中から各々の設定を行ってください。

④運転モード切換ボタン

現在設定されている運転モードを表示します。運転モードを変更するときは、このボタンをタッチしてください。

⑤設定温度切換ボタン

現在設定されている設定温度を表示します。設定温度を変更するときは、このボタンをタッチしてください。

⑥風向切換ボタン

現在設定されている上下風向を表示します。おまかせ気流運転が有効時には、おまかせ表示を行います。風向を変更するときは、このボタンをタッチしてください。

⑦風量切換ボタン

現在設定されている風量を表示します。風量を変更するときは、このボタンをタッチしてください。

⑧タイマー設定ボタン

現在設定されているタイマーの内容を簡易表示します。（複数タイマー設定している場合は、作動が近いタイマー内容を表示します。）タイマー設定を行うときは、このボタンをタッチしてください。

⑨言語切換ボタン

リモコンに表示する言語を選択します。

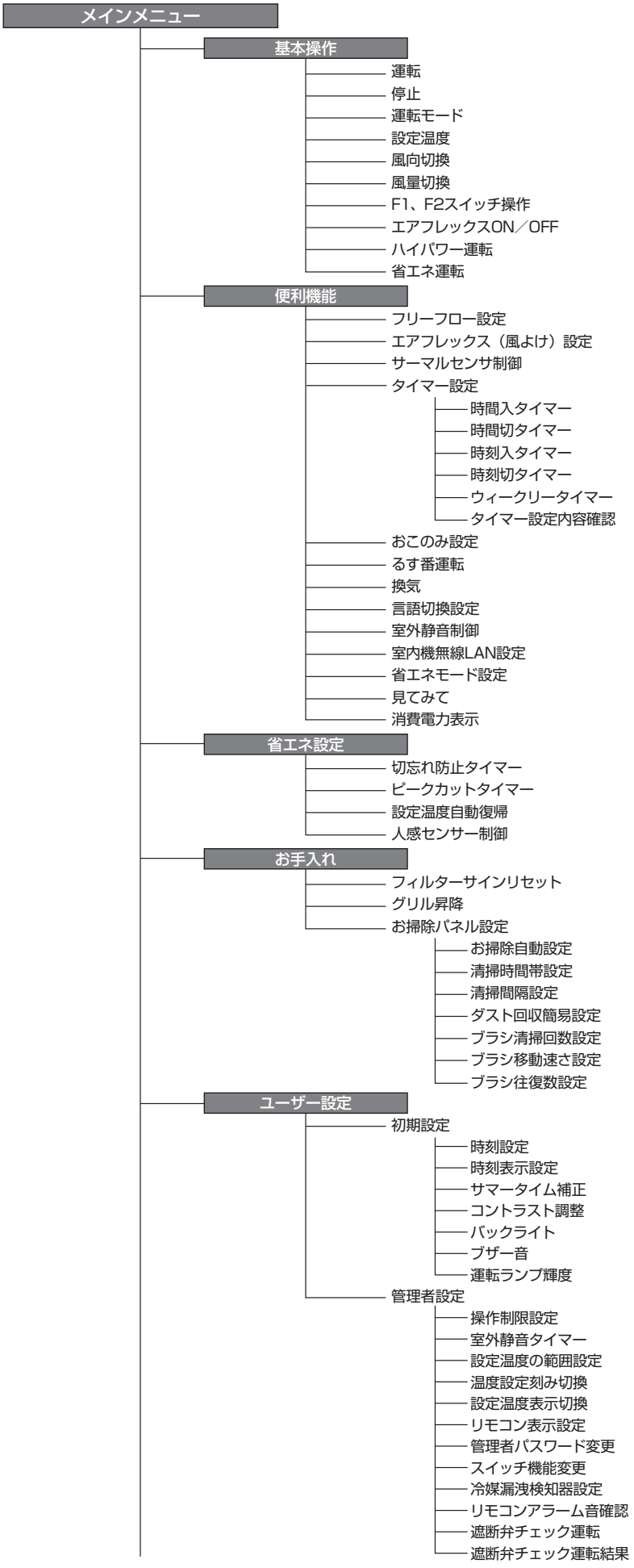
⑩メッセージ表示部

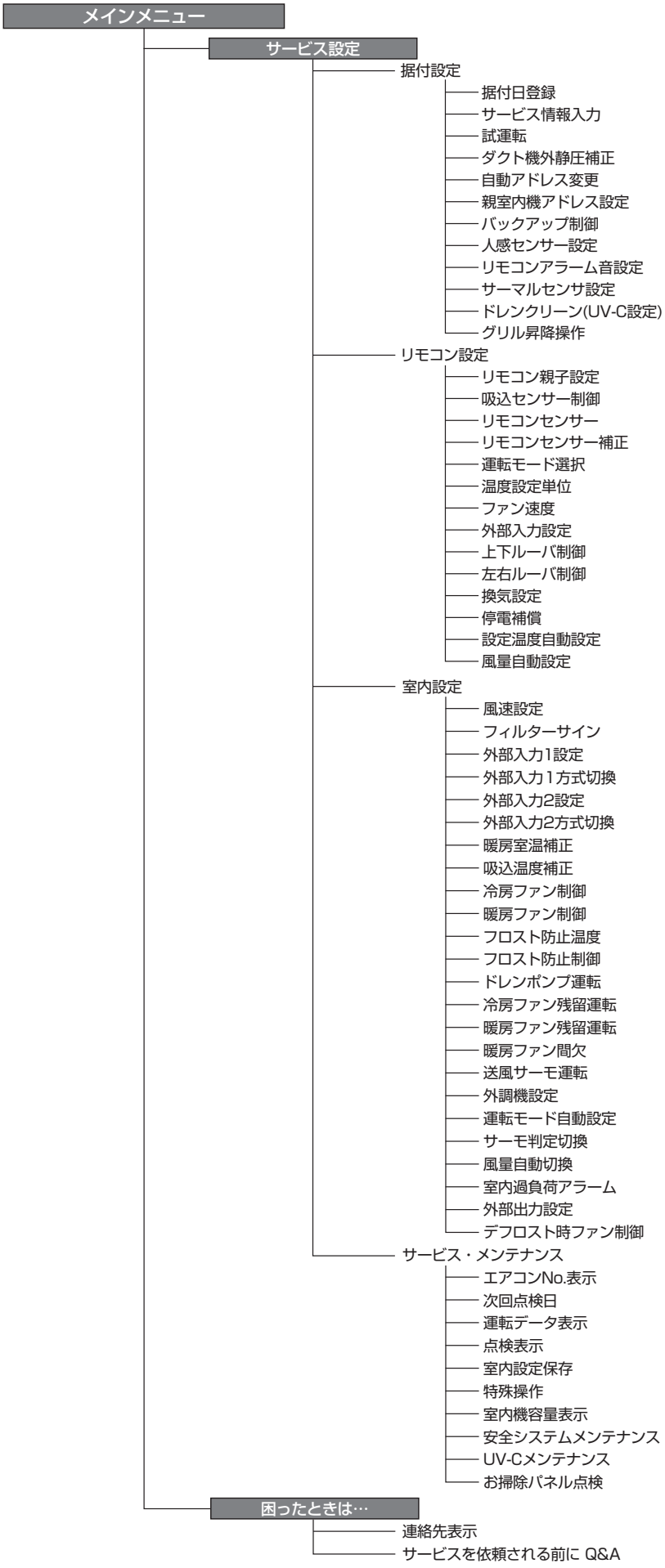
エアコンの運転状態やリモコン操作のメッセージなどを表示します。

⑪ F1，F2スイッチ機能表示部

現在 F1，F2スイッチに設定された機能を表示します。スイッチ機能変更でF1，F2スイッチ機能を変更することができます。

(ii) **画面の流れ**


メインメニュー
基本操作
運転
停止
運転モード
設定温度
風向切換
風量切換
F1、F2スイッチ操作
エアフレックスON／OFF
ハイパワー運転
省エネ運転
便利機能
フリーフロー設定
エアフレックス（風よけ）設定
サーマルセンサ制御
タイマー設定
時間入タイマー
時間切タイマー
時刻入タイマー
時刻切タイマー
ウィークリータイマー
タイマー設定内容確認
おこのみ設定
るす番運転
換気
言語切換設定
室外静音制御
室内機無線LAN設定
省エネモード設定
見てみて
消費電力表示
省エネ設定
切忘れ防止タイマー
ピークカットタイマー
設定温度自動復帰
人感センサー制御
お手入れ
フィルターサインリセット
グリル昇降
お掃除パネル設定
お掃除自動設定
清掃時間帯設定
清掃間隔設定
ダスト回収簡易設定
ブラシ清掃回数設定
ブラシ移動速さ設定
ブラシ往復数設定
ユーザー設定
初期設定
時刻設定
時刻表示設定
サマータイム補正
コントラスト調整
バックライト
ブザー音
運転ランプ輝度
管理者設定
操作制限設定
室外静音タイマー
設定温度の範囲設定
温度設定刻み切換
設定温度表示切換
リモコン表示設定
管理者パスワード変更
スイッチ機能変更
冷媒漏洩検知器設定
リモコンアラーム音確認
遮断弁チェック運転
遮断弁チェック運転結果


メインメニュー
サービス設定
据付設定
据付日登録
サービス情報入力
試運転
ダクト機外静圧補正
自動アドレス変更
親室内機アドレス設定
バックアップ制御
人感センサー設定
リモコンアラーム音設定
サーマルセンサ設定
ドレンクリーン(UV-C設定)
グリル昇降操作
リモコン設定
リモコン親子設定
吸込センサー制御
リモコンセンサー
リモコンセンサー補正
運転モード選択
温度設定単位
ファン速度
外部入力設定
上下ルーバ制御
左右ルーバ制御
換気設定
停電補償
設定温度自動設定
風量自動設定
室内設定
風速設定
フィルターサイン
外部入力1設定
外部入力1方式切換
外部入力2設定
外部入力2方式切換
暖房室温補正
吸込温度補正
冷房ファン制御
暖房ファン制御
フロスト防止温度
フロスト防止制御
ドレンポンプ運転
冷房ファン残留運転
暖房ファン残留運転
暖房ファン間欠
送風サーモ運転
外調機設定
運転モード自動設定
サーモ判定切換
風量自動切換
室内過負荷アラーム
外部出力設定
デフロスト時ファン制御
サービス・メンテナンス
エアコンNo.表示
次回点検日
運転データ表示
点検表示
室内設定保存
特殊操作
室内機容量表示
安全システムメンテナンス
UV-Cメンテナンス
お掃除パネル点検
困ったときは…
連絡先表示
サービスを依頼される前に Q&A

1．電源投入初期設定

電源投入時の表示に沿って親子リモコン設定を行います。
・親子が設定されていない場合⇒(1)　・親子が設定されている場合⇒(2)

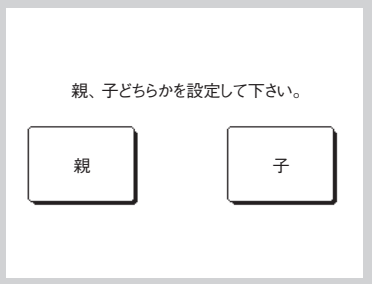
(1) **親子が設定されていない場合**

①⇒②親子入力画面を表示します。
枠で囲まれた 親 子 どちらかをタッチしてください。初期設定作業を開始します。
誤ってタッチした場合は、初期設定作業が終了後に設定変更することができます。(3．リモコン機能設定②)
室内ユニット1台または、1グループに、2個の eco タッチリモコンが接続されている場合、1個目を 親 で設定開始すると 2個目は自動で 子 になります。

①スタート画面



②親子設定入力画面



ご注意

リモコン1台の場合は、親 をタッチしてください。
初期状態では、どちらか選択されるまで、待ち続けます。

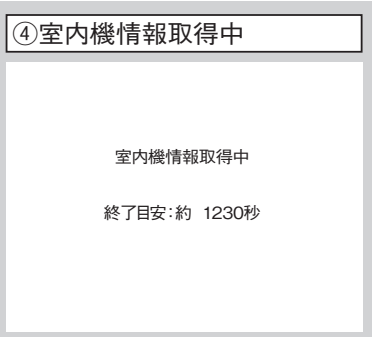
親 を選択した場合　③⇒④⇒⑤で画面が遷移します。
子 を選択した場合　①⇒⑧⇒⑤で画面が遷移します。

③室内機検索中

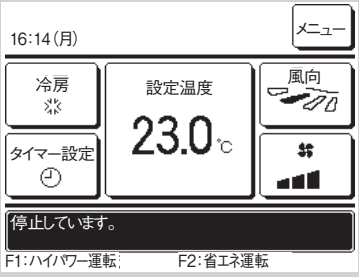


通信が 10 分間確定しない場合、赤 LED が点滅します。

④室内機情報取得中

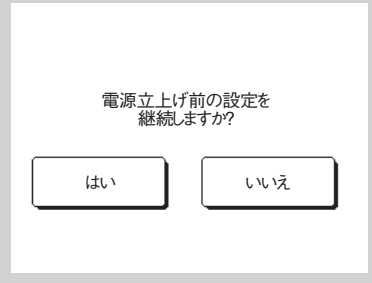


⑤ TOP 画面



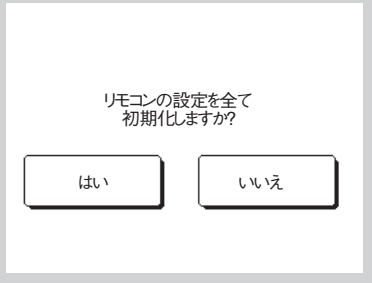
(2) **リモコンの親子設定がされている場合**

⑥設定継続確認画面



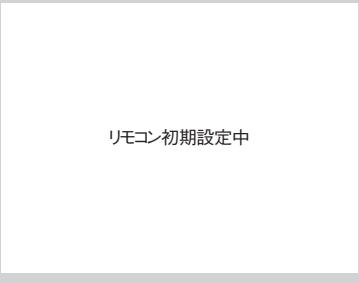
はい ⑧⇒⑤で画面が遷移します。
いいえ ⑦に画面が遷移します。
表示が15秒間タッチされない場合は はい 継続を認識して⑤画面に変わります。

⑦初期化確認画面



はい ①⇒②で画面が遷移します。
いいえ ⑥に画面が遷移します。
初期化すると出荷状態に戻ります。

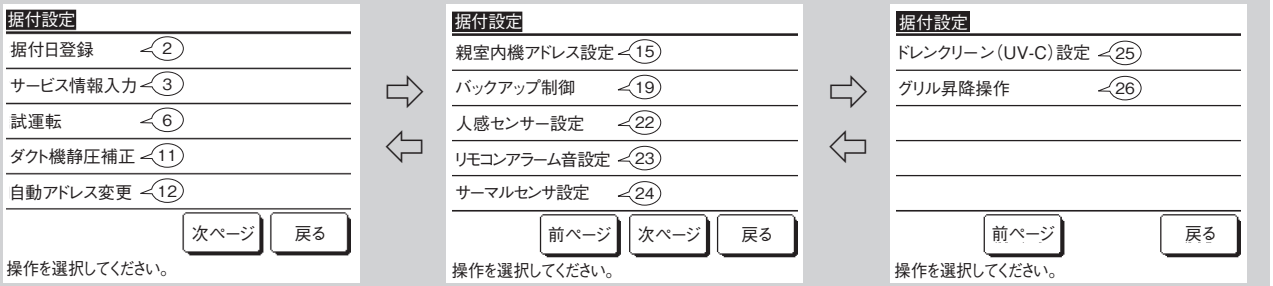
⑧初期設定中画面



2．据付設定　試運転

TOP画面 [メニュー] ⇒ [サービス設定] ⇒ [据付設定] ⇒ [サービスパスワード]

①据付設定メニュー



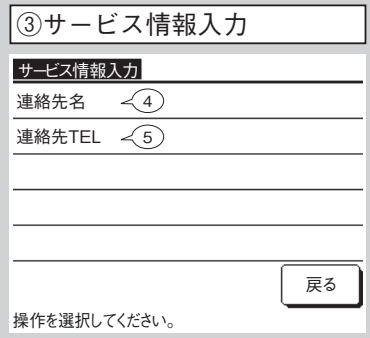
選択した画面に移ります。

②据付日登録



▲▼で設定してください。
セットで登録されます。

③サービス情報入力



お客様がサービスを依頼される際の連絡先を入力してください。

④連絡先名登録



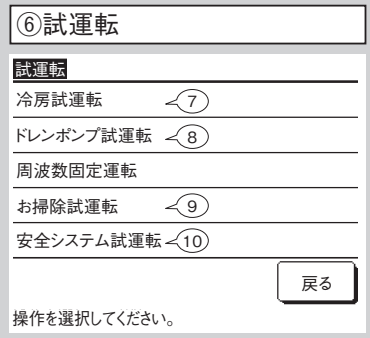
連絡先名を半角26文字相当以内で入力し、セットボタンをタッチしてください。

⑤連絡先 TEL 登録



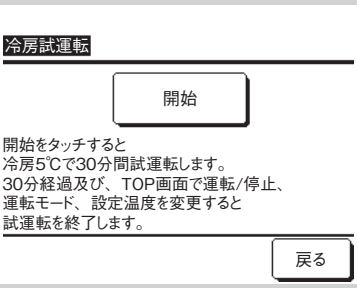
連絡先電話番号を13文字以内で入力し、セットボタンをタッチしてください。

⑥試運転



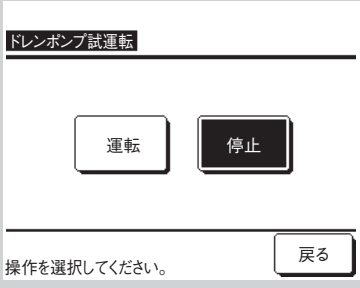
選択した画面に移ります。

⑦冷房試運転



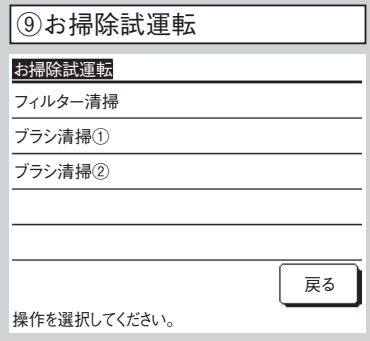
停止中に操作可能です。室温が低く冷房試運転ができない場合、設定を 30 分間 5℃にして運転します。

⑧ドレンポンプ試運転



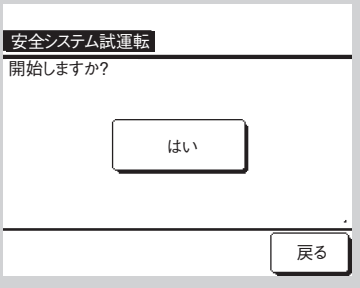
ドレンポンプのみで運転が可能です。

⑨お掃除試運転



FDT お掃除ラクリーナパネルを組合せる場合に操作できます。詳細は、お掃除ラクリーナパネルの説明書をご覧ください。

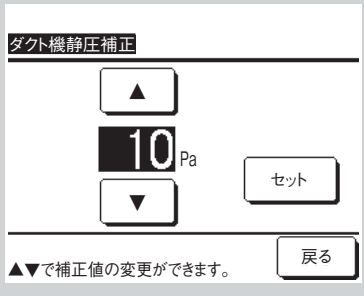
⑩安全システム試運転



安全システムの試運転を開始します。
冷媒検知警報器が接続されていない場合はリモコンから本操作を行い、安全対策機器の動作確認を実施してください。

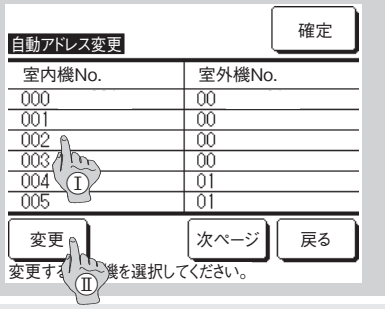
2．据付設定　試運転のつづき

⑪ダクト機静圧補正

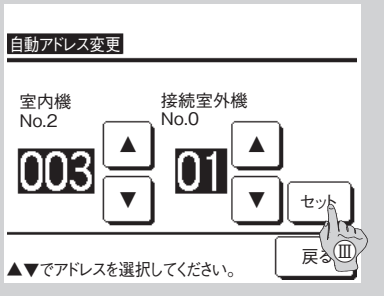


機外静圧補正機能付ダクト形室内ユニットを組合せる場合に操作できます。機外静圧を選択し、セットボタンをタッチしてください。

⑫自動アドレス変更



⑬自動アドレス変更

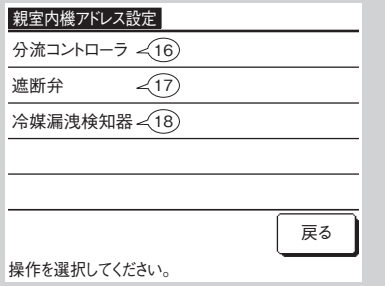


ビル用マルチシリーズまたは個別発停ハイパーシリーズを使用の際に自動アドレス設定で登録されている場合に操作できます。
室内ユニット毎の室内外アドレスを変更するための機能です。
①室内外アドレスを変更する室内ユニットをタッチします。
②変更をタッチすると⑬に画面が遷移します。
③▲▼で変更後の室内アドレスを選択し、セットをタッチすると⑭に画面が遷移し、新アドレスが表示されます。複数の室内ユニットの設定変更を行う場合、Ⅰ～Ⅲの操作を繰り返してください。室内ユニットの新アドレスが重複しないように設定してください。
④確定をタッチすると登録されます。

⑭自動アドレス変更

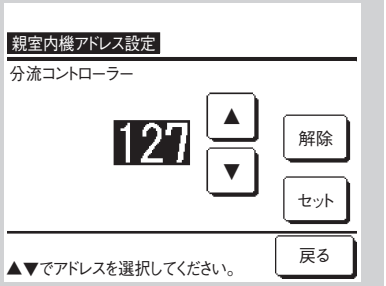


⑮親室内機アドレス設定



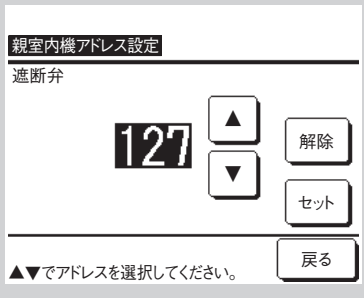
設定する機器を選択します。

⑯分流コントローラ



R410Aビル用マルチシリーズで、分流コントローラを2台以上の室内ユニットで共有する場合に、この設定を行ってください。子とする室内ユニットに対し、親室内ユニットアドレスを設定してください。親室内ユニットのみ、冷房—暖房運転モードの選択を許可されます。子室内ユニットは、親室内ユニットの設定に追従します。

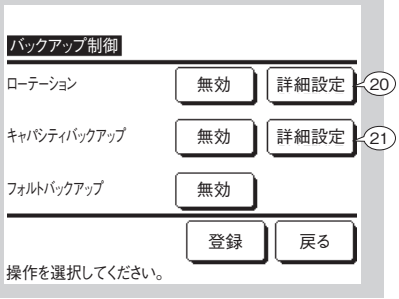
⑰⑱遮断弁 / 冷媒漏洩検知器



遮断弁／冷媒漏えい検知器を2台以上の室内ユニットで共有する場合に、この設定を行ってください。子とする室内ユニットに対し、親室内ユニットアドレスを設定してください。親室内ユニットアドレスが設定された子室内ユニットは、親室内ユニットの設定に追従します。

（図は、遮断弁の場合を示します。）

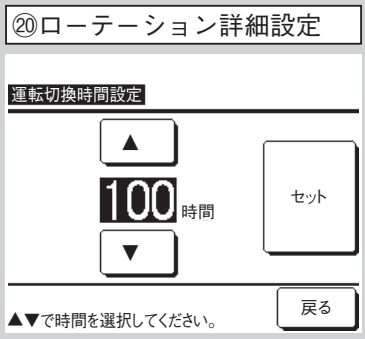
⑲バックアップ制御



1台のリモコンに室内ユニット2台（2グループ）が接続されている時に、以下の制御が可能です。
1. ローテーション：2台の室内ユニットが設定した時間毎に、交互に運転します。
2. キャパシティバックアップ：設定温度と室温の温度差により、室内ユニットの運転台数を1台⇔2台へ切換えます。
3. フォルトバックアップ:室内ユニット2台中1台が運転している場合、運転している室内ユニットが異常停止すると、もう1台の室内ユニットが運転を開始します。冷媒漏えい検知時(E23表示中)は全ての室内ユニットが運転を停止するため、フォルトバックアップ制御は無効になります。

有効/を無効選択し（無効をタッチすると有効に変わります。）、登録ボタンをタッチすると、設定内容が確定します。

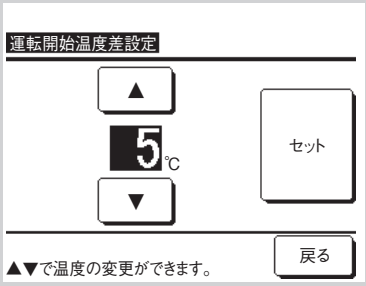
⑳ローテーション詳細設定



ローテーションの運転を切換える時間を設定します。
1～999時間の間で1時間刻みで設定可能です。
時間切換後、セットで仮設定してください。仮設定後バックアップ制御画面に戻って登録をタッチしてください。

2．据付設定　試運転のつづき

㉑キャパシティバックアップ詳細設定

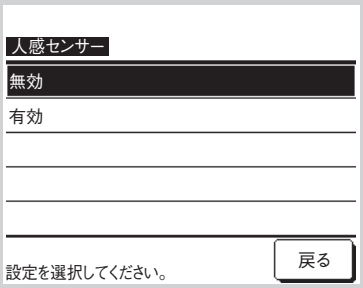


キャパシティバックアップの1台⇔2台を切換える設定温度と室温の温度差を設定します。
2～5℃の間で1℃刻みで設定可能です。温度切換後、セットで仮設定してください。仮設定後バックアップ制御画面に戻って登録をタッチしてください。

バックアップ制御の制約条件

1. 運転モードが「自動」の場合、バックアップ制御はできません。運転モードが「自動」に設定された空調機にバックアップ制御を設定すると、運転モードは自動的に「冷房」モードに切換わります。
2. ローテーション制御を設定した場合は、自動的にフォルトバックアップ制御も有効に設定されます。この場合、フォルトバックアップ制御のみを無効にすることはできません。ローテーション運転を無効にした場合は、フォルトバックアップ制御も無効になります。
3. キャパシティバックアップ制御を設定した場合は、自動的にフォルトバック制御も有効に設定されます。この場合、フォルトバックアップ制御のみを無効にすることはできません。キャパシティバックアップ制御を無効にした場合は、フォルトバックアップ制御も無効になります。
4. フォルトバック制御を単独で有効に設定することも可能です。
5. るす番運転、ウォームアップ設定、外部入力設定は、バックアップ制御と同時に設定することはできません。
6. ローテーション運転制御または、フォルトバックアップ制御設定時には、設定対象となっている室内ユニット2台（2グループ）の内、どちらか一方のみが運転します。両方同時に運転することはありません。
7. いずれの制御も、室内アドレスの若い室内ユニットが先に運転開始します。

㉒人感センサー設定

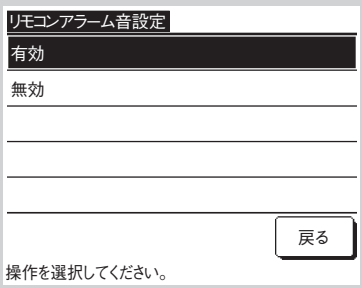


リモコンに接続されている室内ユニットの人感センサの有効 / 無効かを選択します。

ご注意

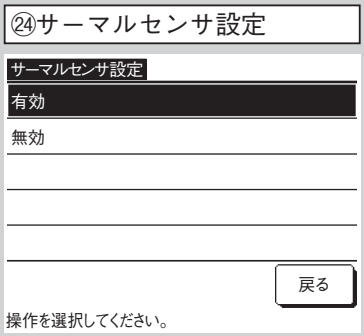
- 人感センサを採用のお客様は左記の設定を行ってください。
  人の活動量を検知させたい室内ユニットを有効にしてください。
  人感センサ設定が無効の場合には、人の活動量を検知しないため人感センサ制御（パワーセーブ、オートオフ）を行いません。
- ４形以前の室内ユニットは、人感センサ設定を有効にできません。
  人感センサ設定をタッチとすると、「操作無効です」と表示されます。

㉓リモコンアラーム音設定



リモコンの警報機能の有効 / 無効かを選択します。
有効冷媒漏えい検知時または冷媒検知警報器の故障時に警報音を鳴らします。警報音量はリモコンから１ｍ離れた所で約 60dB です。
無効冷媒漏えい検知時または冷媒検知警報器の故障時に警報音を鳴らしません。

㉔サーマルセンサ設定

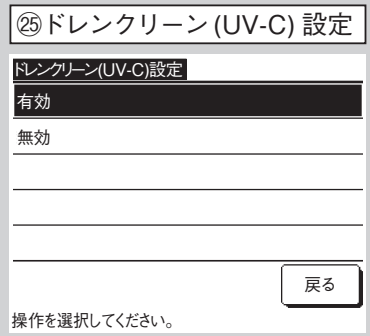


リモコンに接続されている室内ユニットのサーマルセンサの 有効 / 無効かを選択します。

ご注意

- サーマルセンサを採用のお客様は上記の設定を行ってください。
  有効を選択しないとサーマルセンサは動作しません。
- サーマルセンサに対応している室内ユニットが接続されていない場合は、サーマルセンサ設定をタッチすると、「操作無効です」と表示されます。

㉕ドレンクリーン (UV-C) 設定



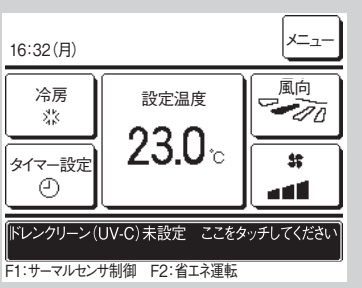
リモコンに接続されている室内ユニットのドレンクリーン (UV-C) の 有効 / 無効かを選択します。

ご注意

- ドレンクリーン (UV-C) を採用のお客様は上記の設定を行ってください。
  有効を選択しないとドレンクリーン (UV-C) は動作しません。
- ドレンクリーン (UV-C) に対応している室内ユニットが接続されていない場合は、ドレンクリーン (UV-C) 設定をタッチすると、「操作無効です」と表示されます。

お知らせ
ドレンクリーン（UV-C）設定について

ドレンクリーン(UV-C)に対応している室内ユニットで設定が有効になっていない場合に、TOP画面に未設定をお知らせする表示が出る場合があります。
この表示は設定を選択することで消すことができます。



2．据付設定　試運転のつづき

㉖グリル昇降操作設定

グリル昇降操作
無効
有効50Hz
有効60Hz
操作を選択してください。
戻る

ラクリーナパネルを組合せる場合は 、据付場所の電源周波数をタッチしてください。

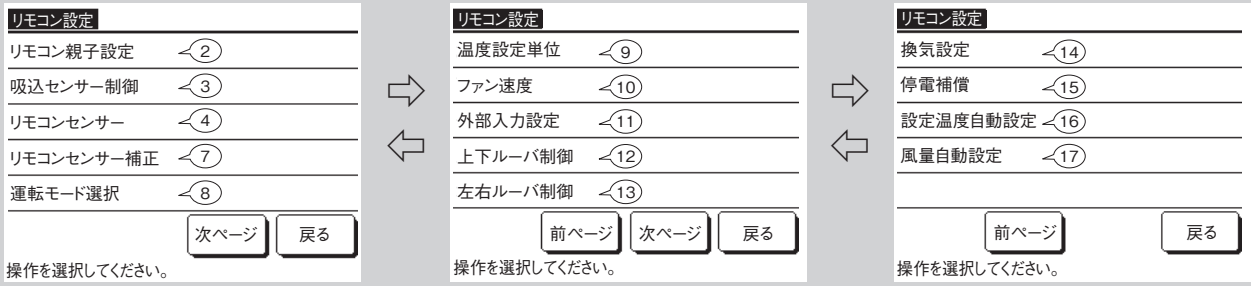
ご注意

ラクリーナパネルを採用のお客様は、上記の設定を行ってください。

3．リモコン機能設定　お知らせ：停止中のみ操作可能

TOP画面 [メニュー] ⇒ [サービス設定] ⇒ [リモコン設定] ⇒ [サービスパスワード]

①リモコン設定メニュー



選択した画面に移ります。

②リモコン親子設定

リモコン親子設定
親
子
操作を選択してください。
戻る

リモコンの親子設定を変更する場合に操作します。

③吸込センサー制御

吸込センサー制御
個別
親機
平均
操作を選択してください。
戻る

室内ユニットの吸込センサの検知温度によりサーモ判定を行います。1 台のリモコンに複数室内ユニットが接続されている場合、サーモ判定に用いる吸込温度センサを選択できます。

1. [個別]：各々の室内ユニットの吸込温度でサーモ判定します。プルーラル接続されている場合はプルーラル親機の吸込温度を基準とします。
2. [親機]：接続されている室内ユニットの中で、アドレスの若い室内ユニットの吸込温度でサーモ判定します。1 台のリモコンに、プルーラル接続が複数接続されている場合は、プルーラル親機間でアドレスが若い室内ユニットの吸込温度を基準とします。
3. [平均]：接続されている室内ユニットの吸込温度を平均し、サーモ判定します。

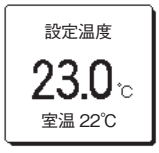
④リモコンセンサー

リモコンセンサー
有効/無効 ⑤
センサー選択 ⑥
戻る
操作を選択してください。

選択した画面に移ります。

⑤リモコンセンサー

リモコンセンサー
無効
有効
有効(暖房のみ)
有効(冷房のみ)
操作を選択してください。
戻る



本体側センサ温度を表示した場合



リモコン側センサ温度を表示した場合

室内ユニット本体吸込センサをリモコン側に変更できます。

[無効] 室温表示は、本体側センサになります。
[有効] 室温表示は、リモコン側センサになります。
[有効(暖房のみ)] 室温表示は、暖房中のみリモコン側センサになります。
[有効(冷房のみ)] 室温表示は、暖房以外で運転中にリモコン側センサになります。

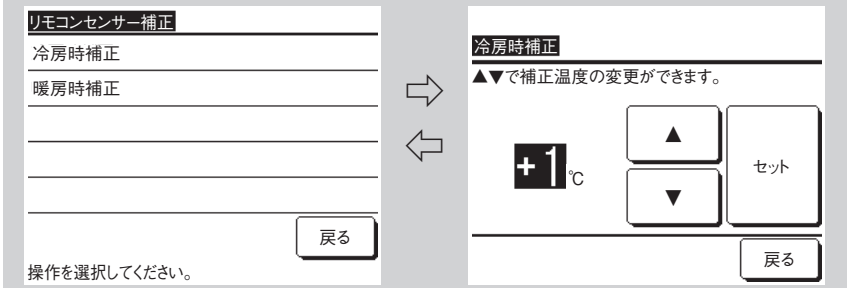
3．リモコン機能設定のつづき

⑥センサー選択



使用するリモコンセンサを選択します。
接続されているリモコンを表示します。

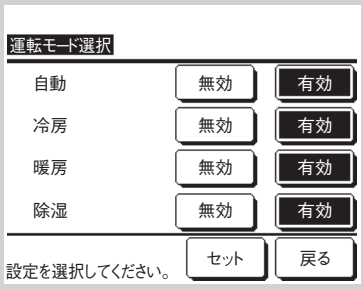
⑦リモコンセンサー補正



リモコンセンサ検知温度の補正ができます。

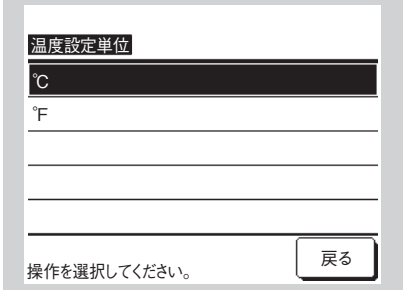
冷房、暖房共に－３～＋３の範囲で設定します。（図は冷房時の場合）

⑧運転モード選択



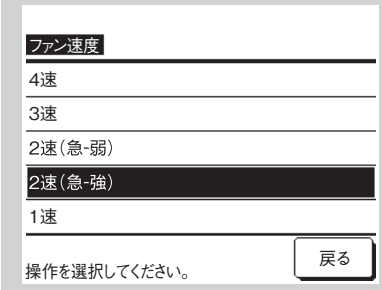
各運転モード毎に有効・無効を設定可能です。冷房または暖房を無効にした場合、自動も無効になります。

⑨温度設定単位



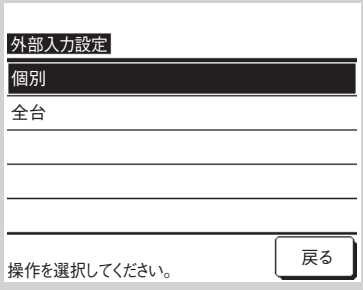
設定温度の単位を設定します。

⑩ファン速度



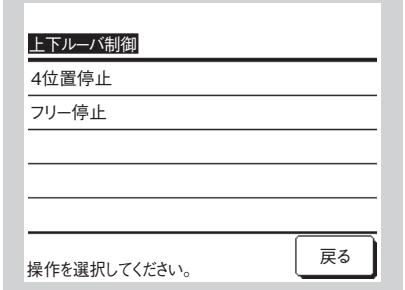
ファン速度選択の変更が可能です。室内ユニットにより対応できない場合があります。

⑪外部入力方式



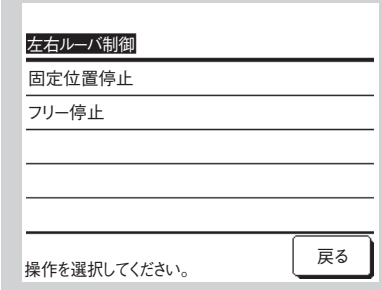
１つのリモコンに複数室内ユニットが接続された場合、運転／停止に対して CNT 入力の範囲を設定できます。
個別 CNT 入力された室内ユニットのみに適用されます。
全台 リモコンが接続されている室内ユニット全てに適用されます。

⑫上下ルーバ制御



4位置停止 上下吹出ルーバを４段階で設定可能。
フリー停止 リモコンスイッチ操作直後の位置に停止します。

⑬ 左右ルーバ制御



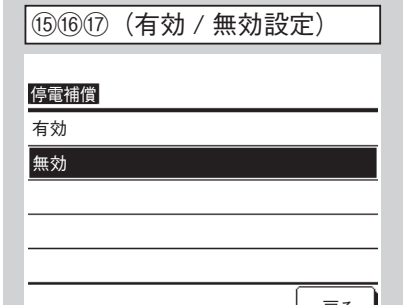
固定位置停止 左右吹出ルーバを８パターンで設定可能。
フリー停止 リモコンスイッチ操作直後の位置に停止します。

⑭換気設定



換気機器組合せの設定ができます。
無効 接続無し。
連動 エアコン運転／停止に連動し、換気出力（CNT）に出力します。
単独操作 メニューから換気を選択により換気単独で運転 / 停止出力を行います。

⑮⑯⑰（有効 / 無効設定）



（図は停電保障の場合）

⑮停電保障
運転中に停電した場合、
有効 停電復旧（電源投入後の制御終了）しだい、停電前の状態に戻ります。
無効 停電復旧後、停止します。

⑯定温度自動設定
有効 室温設定画面から自動の選択が可能になります。
無効 室温設定の画面上に自動の選択スイッチが表示されません。

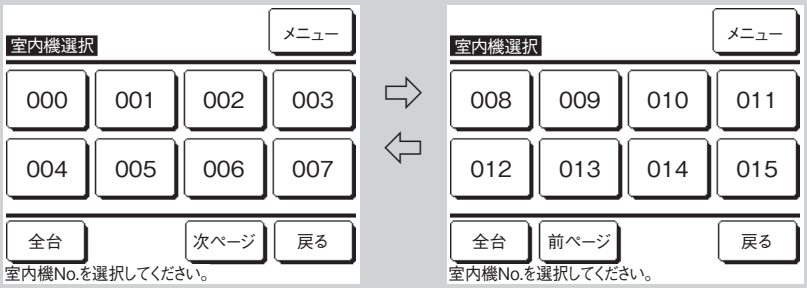
⑰風量自動設定
有効 風量設定画面から自動の選択が可能になります。
無効 風量設定の画面上に自動の選択スイッチが表示されません。

4．室内機能設定

お知らせ：停止中のみ操作可能

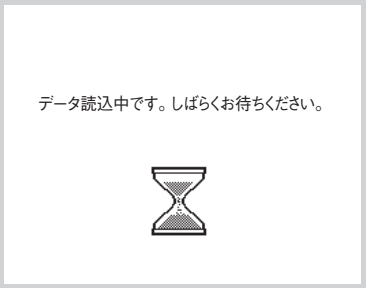
ＴＯＰ画面 [メニュー] ⇒ [サービス設定] ⇒ [室内設定] ⇒ [サービスパスワード]

①室内機選択



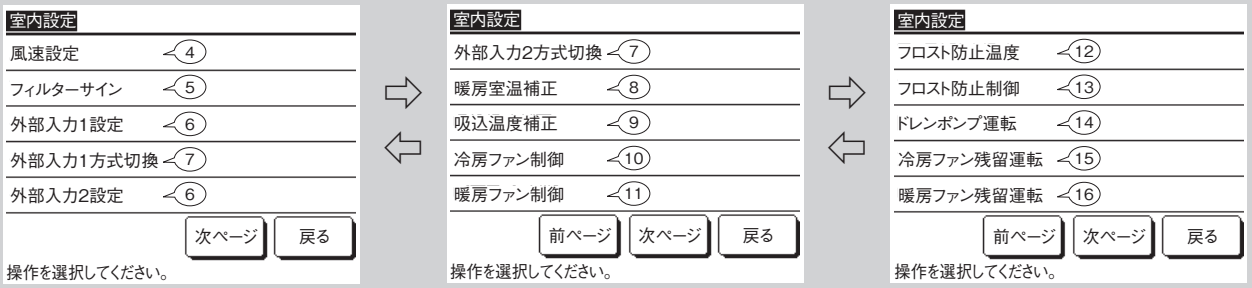
複数室内ユニットを接続の場合、接続された室内ユニットが表示されます。
[000]～[015] 各室内ユニット毎に個別設定されます。
[全台]全台同一設定されます。

②データ読込中



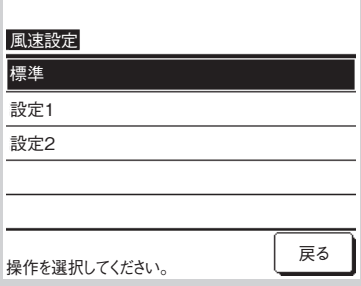
室内ユニットからデータ受信後に④に画面が切換わります

③室内設定メニュー



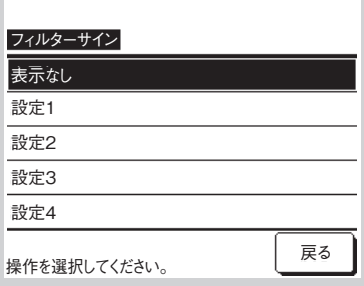
選択した画面に移ります。

④風速設定



室内ユニットの風速設定を設定します。

⑤フィルターサイン

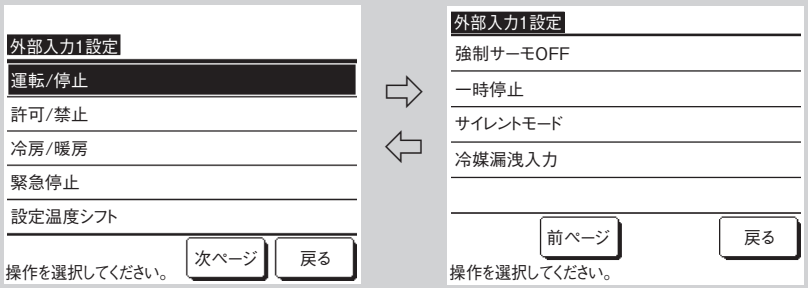


フィルタサイン点灯時間を設定します。

	標準	FDTお掃除
表示なし	無し	無し
設定１	180Hr	1,000Hr
設定２	600Hr	2,000Hr
設定３	1,000Hr	2,500Hr
設定４	1,000Hr後運転停止	2,500Hr後運転停止

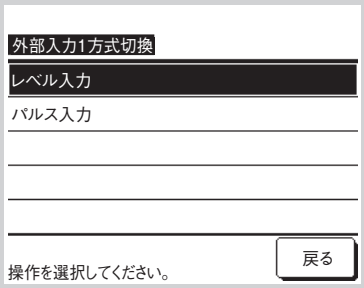
4．室内機能設定のつづき

⑥外部入力１設定



室内ユニット CNT 入力時の制御を設定します。

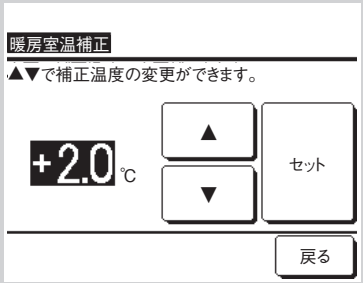
⑦外部入力１方式切換



室内ユニットCNTへの入力信号方式を設定します。

外部入力２を装備している室内ユニットと組合わせた場合に操作できます。

⑧⑨（温度補正）

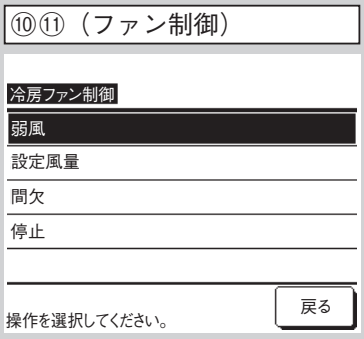


⑧暖房室温補正
暖房サーモ判定温度を補正します。
0℃／ +1℃／ +2℃／ +3℃

⑨吸込温度補正
本体吸込温度センサの検知温度を補正します。
－2.0℃／－1.5℃／－1.0℃／ 0.0℃／ +1.0℃／ +1.5℃／ +2.0℃

（図は暖房室温補正の場合）

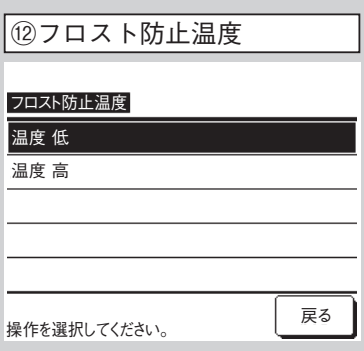
⑩⑪（ファン制御）



⑩冷房ファン制御／⑪暖房ファン制御
冷房／暖房のサーモ OFF 中のファン速度を設定します。
弱風　弱風運転
設定風量　サーモ ON 中と同風量
間欠　2 分Lo（ULo）運転／5 分停止
停止　停止

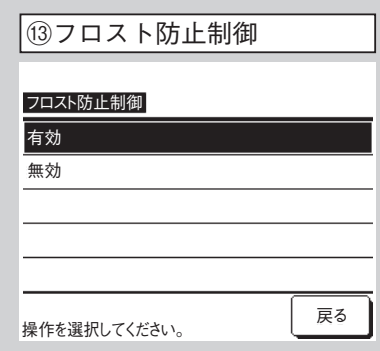
（図は冷房ファン制御の場合）

⑫フロスト防止温度



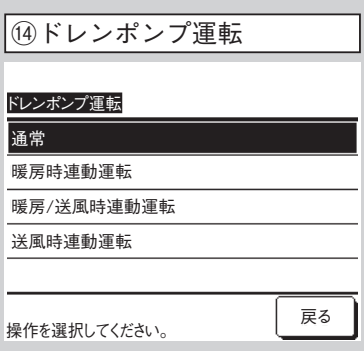
フロスト防止制御温度の切換ができます。

⑬フロスト防止制御



フロスト防止制御後、ファン速度が
有効　アップします。
無効　変化しません。

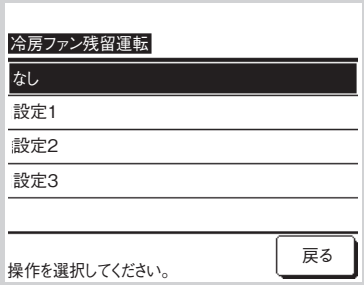
⑭ドレンポンプ運転



通常　冷房・除湿時に運転
暖房時連動　通常＋暖房
暖房 / 送風時連動　全運転中
送風時連動　通常＋送風

4．室内機能設定のつづき

⑮⑯（ファン残留運転）



⑮冷房ファン残留運転／⑯暖房ファン残留運転

冷房／暖房の停止またはサーモ OFF 後のファン残留運転時間を設定します。

なし　ファン残留運転なし

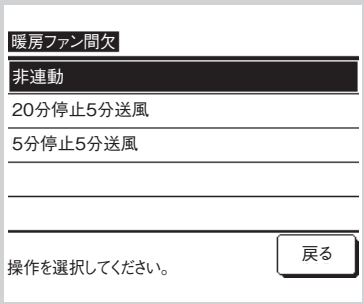
設定１　0.5 時間

設定２　２時間

設定３　６時間

※残留時間が異なる場合があります。

⑰暖房ファン間欠



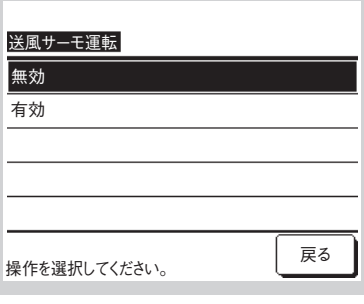
暖房運転、停止またはサーモOFF後のファン制御を設定します。

非連動　停止

20分停止 5分送風　25分毎に条件チェックして５分送風

5分停止 5分送風　10分毎に条件チェックして５分送風

⑱送風サーモ運転

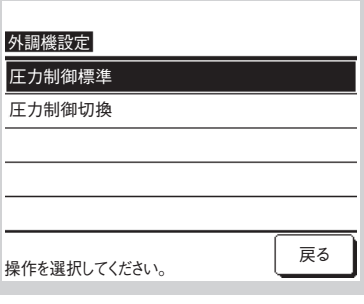


サーキュレータ運転として使用する場合

無効　送風時連続運転

有効　送風時リモコンと本体の温度差を見て送風運転／停止します。

⑲外調機設定

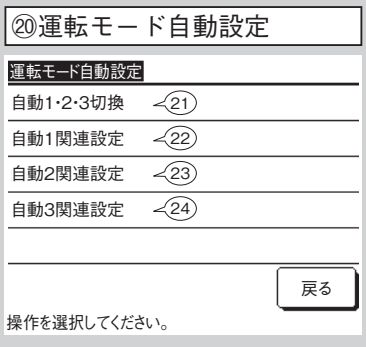


マルチシステムにて、外調機の場合に設定します。

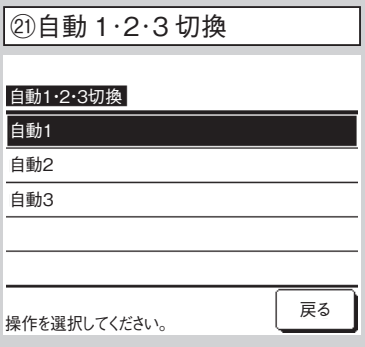
圧力制御標準　通常

圧力制御切換　運転中の室内ユニットが全て、この設定の場合、圧力制御値が変わります。

⑳運転モード自動設定



㉑自動 1･2･3 切換



自動１　設定温度と室温の温度差で、冷房／暖房が切換わります。

自動２　設定温度と室温の温度差及び外気温度で冷房／暖房が切換わります。

自動３　室温及び外気温度で、冷房／暖房が切換わります。

運転モード自動での冷房／暖房切換方式を３方式から選択できます。

4．室内機能設定のつづき

㉒自動１関連設定

自動1関連設定

冷房切換温度 ㉕

暖房切換温度 ㉖

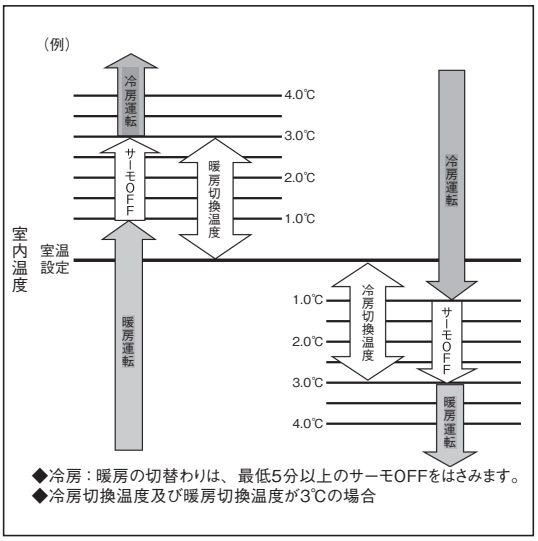
戻る

操作を選択してください。

冷房／暖房の切換温度を設定します。
切換温度は１～4℃の範囲で設定できます。

設定温度－冷房切換温度
＜室内吸込温度の場合
⇒運転モード：冷房

設定温度＋暖房切換温度
＞室内吸込温度の場合
⇒運転モード：暖房



◆冷房：暖房の切替わりは、最低5分以上のサーモOFFをはさみます。
◆冷房切換温度及び暖房切換温度が3℃の場合

㉓自動２関連設定

自動2関連設定

冷房切換温度 ㉕

暖房切換温度 ㉖

冷房室外温度 ㉗

暖房室外温度 ㉘

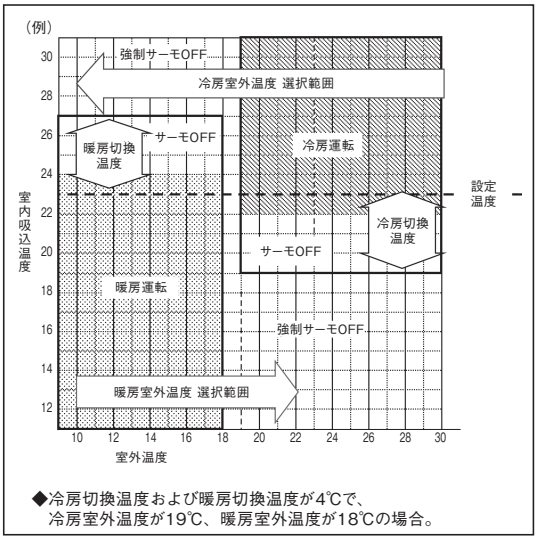
戻る

操作を選択してください。

冷房／暖房の切換温度、冷房／暖房室外温度を設定します。

「設定温度－冷房切換温度＜室内吸込温度」かつ「設定した冷房室外温度＜室外吸込温度」の場合
⇒運転モード：冷房

「設定温度＋暖房切換温度＞室内吸込温度」かつ「設定した暖房室外温度＞室外吸込温度」の場合
⇒運転モード：暖房



◆冷房切換温度および暖房切換温度が4℃で、
冷房室外温度が19℃、暖房室外温度が18℃の場合。

㉔自動３関連設定

自動3関連設定

冷房室外温度 ㉗

暖房室外温度 ㉘

冷房室内温度 ㉙

暖房室内温度 ㉚

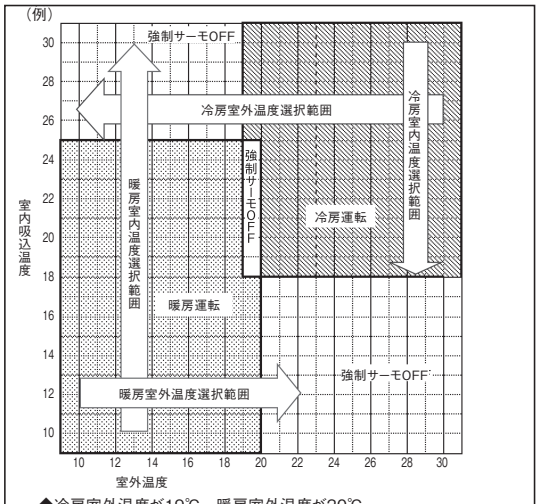
戻る

操作を選択してください。

冷房／暖房室外温度、冷房／暖房室内温度を設定します。

「設定した冷房室内温度＜室内吸込温度」かつ「設定した冷房室外温度＜室外吸込温度」の場合
⇒運転モード：冷房

「設定した暖房室内温度＞室内吸込温度」かつ「設定した暖房室外温度＞室外吸込温度」の場合
⇒運転モード：暖房



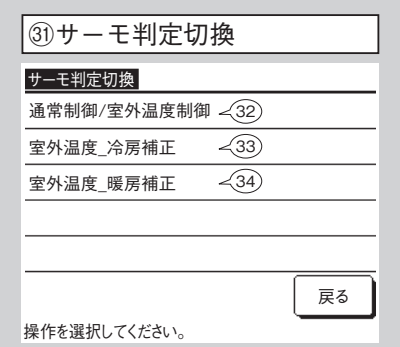
◆冷房室外温度が19℃、暖房室外温度が20℃、
冷房室内温度が18℃、 冷房室内温度が25℃の場合

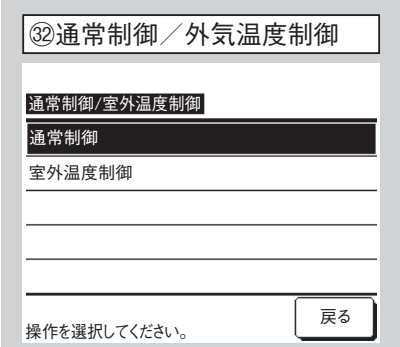
4．室内機能設定のつづき



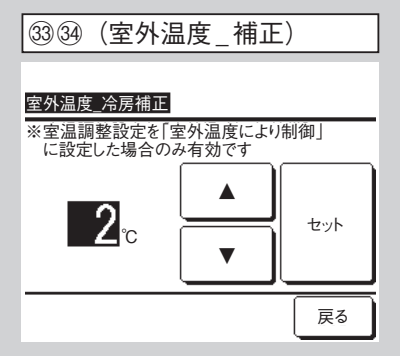
（図は冷房切換温度の場合）

㉕冷房切換温度／㉖暖房切換温度
自動 1、自動 2 で冷房／暖房の切換温度を下記の範囲で設定します。
冷房：1 ～ 4℃
暖房：1 ～ 4℃
㉗冷房室外温度／㉘暖房室外温度
自動 2、自動 3 で冷房／暖房の室外温度を下記の範囲で設定します。
冷房：10 ～ 30℃
暖房：10 ～ 22℃
㉙冷房室内温度／㉚暖房室内温度
自動 3 で冷房／暖房の室内温度を下記の範囲で設定します。
冷房：18 ～ 30℃
暖房：10 ～ 30℃

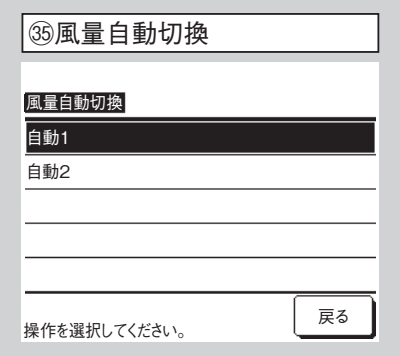




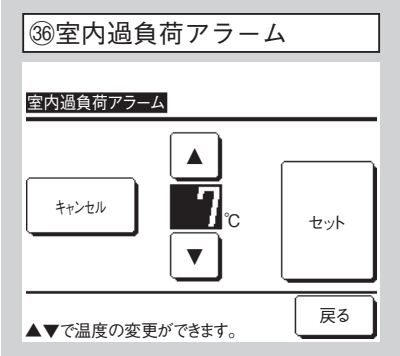
室温制御、サーモ ON ／ OFF 切換方式・条件を設定します。
通常制御 室内温度と設定温度の差でサーモ判定をします。
室外温度制御 室外温度±補正値と室内温度でサーモ判定します。
室温設定は無効となります。



㉝室外温度_冷房補正／㉞室外温度_暖房補正
冷房／暖房のサーモ判定する補正値を下記の範囲で設定します。
冷房：0 ～ 10℃ 室内温度＞（室外温度－冷房補正値）
暖房：0 ～ 5℃ 室内温度＜（室外温度＋暖房補正値）



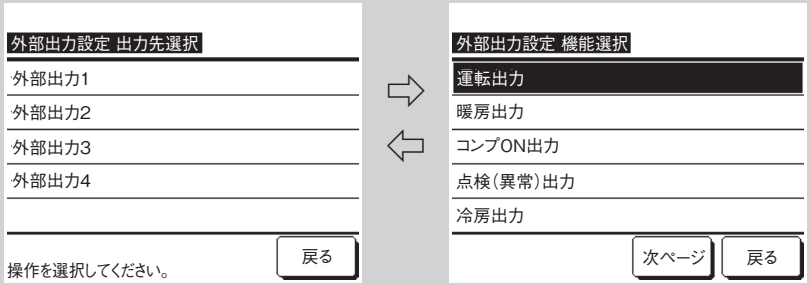
風量自動の切換範囲を設定
自動 1 急⇔強⇔弱
自動 2 P 急⇔急⇔強⇔弱



運転開始 30 分後、設定温度と吸込温度差が過負荷アラームで設定した温度差以上ある場合、外部出力（CNT-5）から過負荷アラーム信号を送信します。

4．室内機能設定のつづき

㊲外部出力設定



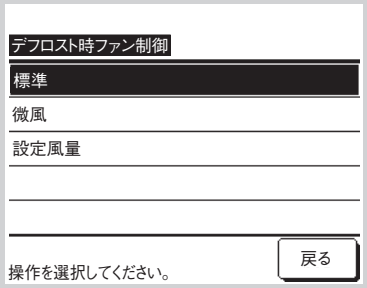
変更する出力先を選択後、選択した出力に割当てる機能を選択します。
各出力のコネクタと初期設定は下記です。

外部出力１	ＣＮＴ-2	運転出力
外部出力２	ＣＮＴ-3	暖房出力
外部出力３	ＣＮＴ-4	圧縮機ON 出力
外部出力４	ＣＮＴ-5	点検（異常）出力

設定できる機能

運転出力
暖房出力
圧縮機ON 出力
点検（異常）出力
冷房出力
ファン運転出力１
ファン運転出力２
ファン運転出力３
デフロスト、油戻し
換気出力
ヒータ出力
フリークーリング
室内過負荷アラーム
冷媒漏えい出力
遮断弁出力

㊳デフロスト時ファン制御



デフロスト運転時のファン回転数を設定します。

標準：ファンの回転を停止します。

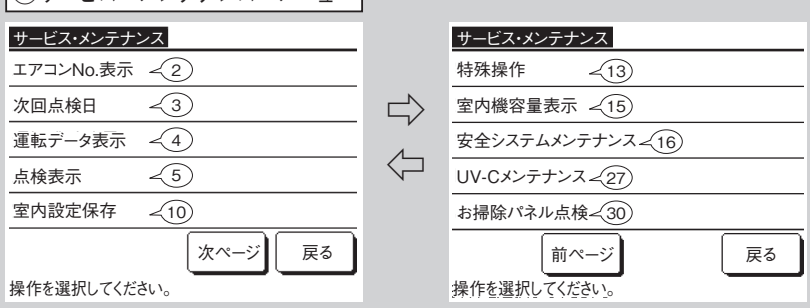
微風：最小風量で回転します。

設定風量：運転時の設定風量で回転します。

5．サービス・メンテナンス方法

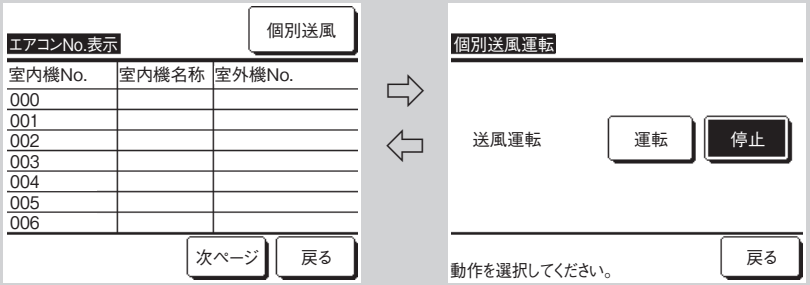
ＴＯＰ画面 メニュー ⇒ サービス設定 ⇒ サービス・メンテナンス ⇒ サービスパスワード

①サービス・メンテナンス　メニュー



選択した画面に移ります。

②エアコン No. 表示

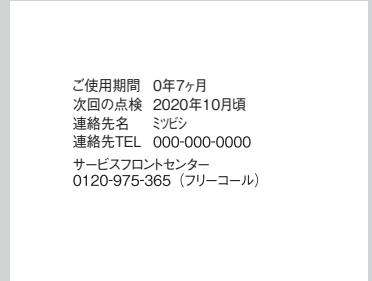


8台以上接続の場合は、次ページ以降に表示がでます。

室内ユニット選択後 個別送風 ボタンをタッチすると、選択した室内ユニットが送風運転します。

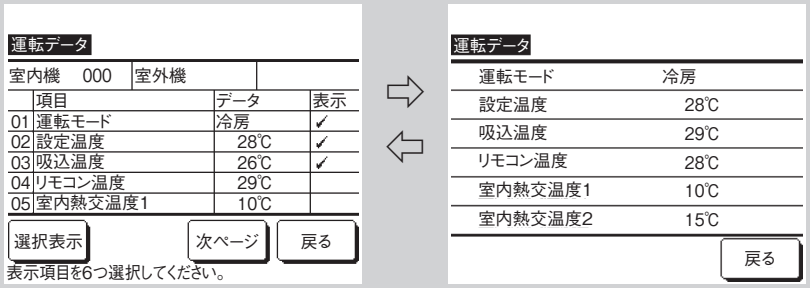
③次回点検日





次回点検日を入力すると、点検月の運転開始／停止時にメッセージが表示されます。
表示は、次回点検日を更新するとリセットされます。
設定なし をタッチするとメッセージは表示されません。

④運転データ表示



運転データが表示されます。画面に表示しているデータは自動更新されます。
更新頻度を短くしたい場合、6項目まで選択できます。
項目選択後、 選択表示 ボタンをタッチすると画面が変わります。
表示する運転データの項目は下表のとおりです。

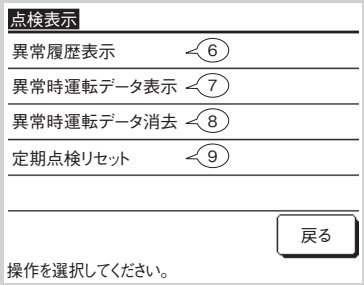
表示する運転データ

番号	項目
01	運転モード
02	設定温度
03	吸込温度
04	リモコン温度
05	室内熱交温度 1
06	室内熱交温度 2
07	室内熱交温度 3
08	室内ファン速度
09	要求周波数
10	アンサ周波数
11	室内 EEV 開度
12	吹出
13	相対湿度
14	室内機運転時間
15	冷房運転積算時間
16	暖房運転積算時間
21	外気温度
22	室外熱交温度1
23	室外熱交温度2

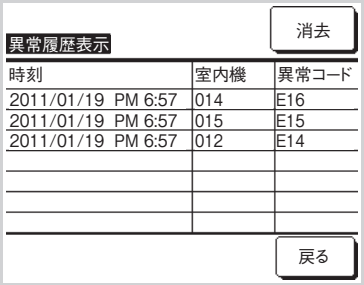
番号	項目
24	室外熱交温度3
25	室外熱交温度4
26	圧縮機回転数
27	圧縮機回転数2
28	高圧圧力
29	低圧圧力
30	吐出管温度
31	吐出管温度2
32	ドーム下温度
33	ドーム下温度2
34	THO-SC
35	THO-S
36	THO-H
37	電流
38	電流 2
39	SH 制御
40	SH
41	TDSH
42	TDSH 2

番号	項目
43	外 EEVH1
44	外 EEVH2
45	外 EEVSC
46	外 EEVL1
47	外 EEVL2
48	保護制御
49	室外ファン速度
50	63H1
51	デフロスト
52	室外ユニット運転時間
53	圧縮機運転時間
54	圧縮機運転時間2
55	外ファン運転積算時間1
56	外ファン運転積算時間2
57	52C　ON/OFF 回数
58	室外ユニット省エネモード
59	室外ユニットエコレベル

⑤点検表示



⑥異常履歴表示（例）

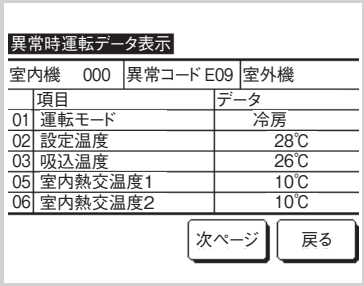


時刻	室内機	異常コード
2011/01/19 PM 6:57	014	E16
2011/01/19 PM 6:57	015	E15
2011/01/19 PM 6:57	012	E14

異常発生日時・室内アドレス・異常コードを表示します。

消去 ボタンをタッチすると、異常履歴を消去します。

⑦異常時運転データ表示



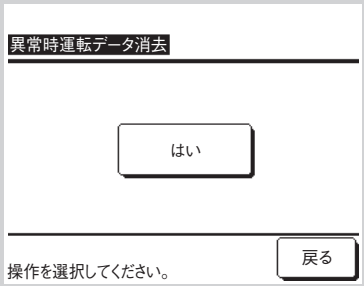
異常発生直前の運転データが表示されます。
表示する運転データの項目は右表のとおりです。

表示する運転データ

番号	項目
01	運転モード
02	設定温度
03	吸込温度
05	室内熱交温度 1
06	室内熱交温度 2
07	室内熱交温度 3
08	室内ファン速度
09	要求周波数
10	アンサ周波数
11	室内 EEV 開度
12	室内運転時間
13	吹出

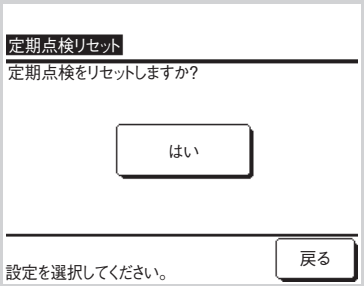
番号	項目
21	外気温度
22	室外熱交温度1
23	室外熱交温度2
24	圧縮機回転数
25	高圧圧力
26	低圧圧力
27	吐出管温度
28	ドーム下温度
29	電流
30	SH 制御
31	SH
32	TDSH
33	保護制御
34	室外ファン速度
35	63H1
36	デフロスト
37	圧縮機運転時間
38	室外 EEV1 開度
39	室外 EEV2 開度

⑧異常時運転データ消去



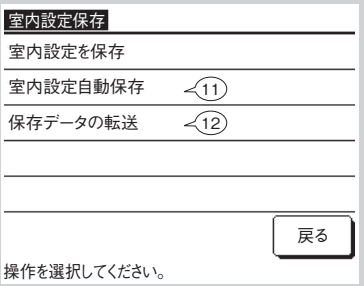
異常時運転データが消去されます。

⑨定期点検リセット



定期点検リセット操作により、時間カウントがリセットされます。

⑩室内設定保存



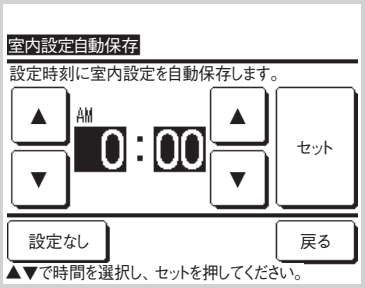
室内設定を保存 リモコンに接続されている室内ユニットすべての設定をリモコンに保存します。

室内設定自動保存 毎日の自動保存時刻を設定します。

保存データの転送 リモコンに保存した室内設定データを室内ユニットに転送します。

5．サービス・メンテナンス方法のつづき

⑪室内設定自動保存



毎日の自動保存時刻を設定します。
設定なし を選択すると、自動保存は行いません。

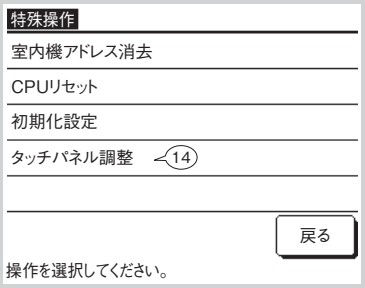
⑫保存データの転送



転送する室内ユニットを選択すると、確認画面が表示されますので、データ転送を行ってください。

お知らせ
室内ユニット基板を交換したが、設定内容が判らなくなったことはありませんか？
リモコンに室内機設定を保存しておくと、［保存データの転送］により、保存されたデータが室内ユニットに書込まれます。

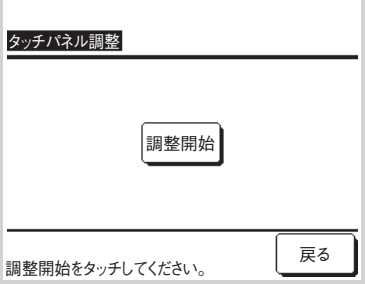
⑬特殊操作



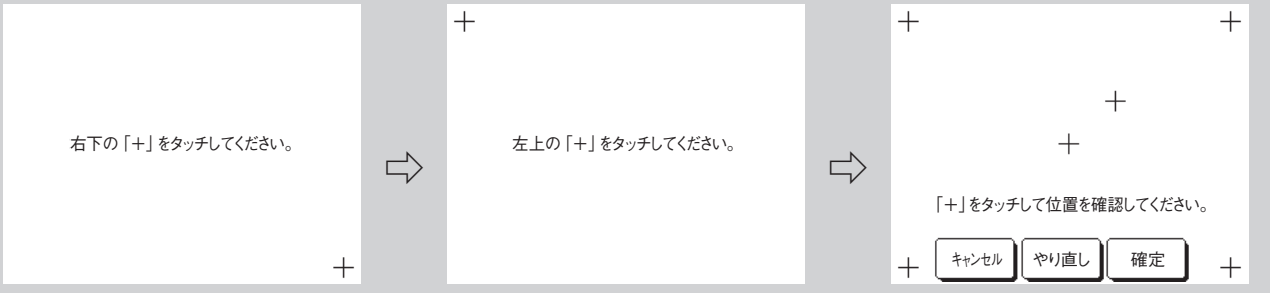
選択した画面に移ります。

室内機アドレス消去 マルチ室内ユニットの記憶が消去されます。
CPU リセット 接続されている、室内ユニット・室外ユニットのマイコン、遮断弁、冷媒検知警報器がリセット（停電復帰状態）されます。
初期化設定 接続されている、リモコン・室内ユニットの設定が初期値（出荷状態）になります。
タッチパネル調整 表示とタッチ位置が一致しない場合に調整します。

⑭タッチパネル調整



表示とタッチ位置が一致しない場合に調整します。
画面の指示にそって、［＋］マーク中心をタッチしてください。
確定 で終了します。



5．サービス・メンテナンス方法のつづき

⑮室内機容量表示

室内機容量表示

室内機No.		容量
000	FDT	40
001	FDK	71
002	FDTC	80
003	FDF	112
004	FDU	224
005	FDT	280

次ページ　戻る

リモコンに接続されている室内ユニットの形式と容量を表示します。
室内ユニット―室外ユニットの組合せによっては表示できない場合があります。

⑯安全システムメンテナンス

安全システムメンテナンス

遮断弁メンテナンス ←17
安全システム接続状態確認 ←21
冷媒センサ積算時間保存 ←22
冷媒センサ積算時間リセット ←25 ←26

戻る

操作を選択してください。

選択した画面に移ります。

⑰遮断弁メンテナンス

遮断弁メンテナンス

遮断弁状態 ←18
コイル交換表示リセット ←19
遮断弁交換表示リセット ←20

戻る

操作を選択してください。

選択した画面に移ります。

⑱遮断弁状態

遮断弁状態

項目	データ
液遮断弁	オープン
ガス遮断弁	クローズ
コイル通電時間	20000時間
遮断弁開閉回数	2回
コイル効果時期	交換時期です
遮断弁交換時期	

戻る

表示する項目

液遮断弁
ガス遮断弁
コイル通電時間
遮断弁開閉回数
コイル交換時期
遮断弁交換時期

画面移行時の安全遮断弁の状態を表示します。表示する項目は右表のとおりです。
表示を更新するには再度、画面に移行してください。

⑲コイル交換表示リセット

コイル交換表示リセット

交換表示をリセットしますか?

はい

戻る

コイル交換表示をリセットします。

⑳遮断弁交換表示リセット

遮断弁交換表示リセット

交換表示をリセットしますか?

はい

戻る

遮断弁交換表示をリセットします。

㉑安全システム接続状態確認

安全システム接続状態確認

項目	データ
遮断弁	未接続
冷媒漏洩検知器A	未接続
冷媒漏洩検知器B	未接続
冷媒漏洩検知器C	未接続
室内機冷媒センサ	接続中

戻る

画面移行時の室内ユニットと安全対策機器の接続状態を表示します。
表示を更新するには再度、画面に移行してください。

㉒冷媒センサ積算時間保存

冷媒センサ積算時間保存

積算時間保存 ←23
保存データの転送 ←24

戻る

操作を選択してください。

選択した画面に移ります。

㉓積算時間保存

積算時間保存

保存しますか?

はい

戻る

冷媒センサの積算時間をリモコンに保存します。

㉔保存データの転送

保存データの転送

転送しますか?

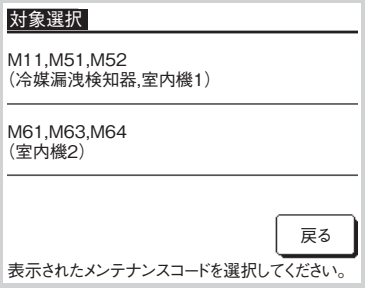
はい

戻る

リモコンに保存した積算時間を冷媒センサに転送します。

5．サービス・メンテナンス方法のつづき

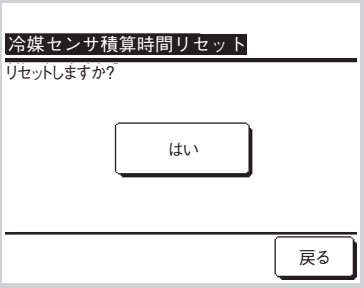
㉕対象選択



冷媒漏洩検知器
RLD-KIT
室内機1　室内機2
室内機1，2の対象室内ユニットは、安全対策マニュアルを参照ください。

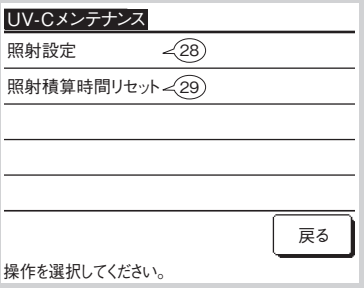
上記画面が表示された場合は、
表示されたメンテナンスコードに従い、
積算時間リセットしたい対象を選択してください。

㉖冷媒センサ積算時間リセット



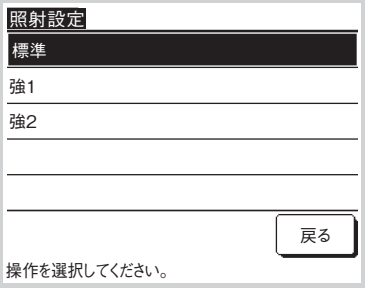
冷媒センサの積算時間をリセットします。

㉗ UV-C メンテナンス



選択した画面に移ります。

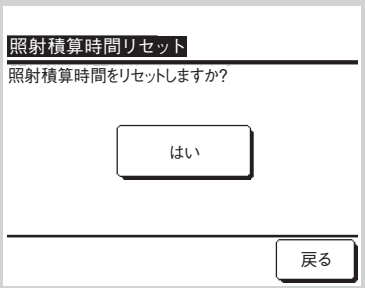
㉘照射設定



ドレンクリーン(UV-C)の照射時間を設定します。
標準
15分照射/60分停止の繰り返し
強1
30分照射/60分停止の繰り返し
強2
30分照射/60分停止の繰り返し＋運転停止後、ドレンポンプを1分間運転（1時間に1回程度）

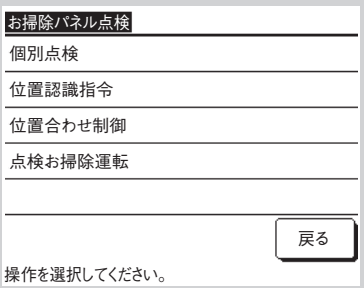
ドレンクリーン(UV-C)は以下の場合に動作します。
・冷房または除湿運転中
・冷房または除湿運転から運転停止した場合

㉙照射積算時間リセット



ドレンクリーン(UV-C)の積算時間をリセットします。

㉚お掃除パネル点検



FDTお掃除パネルを組合せる場合に操作できます。詳細は、お掃除パネル説明書を参照ください。

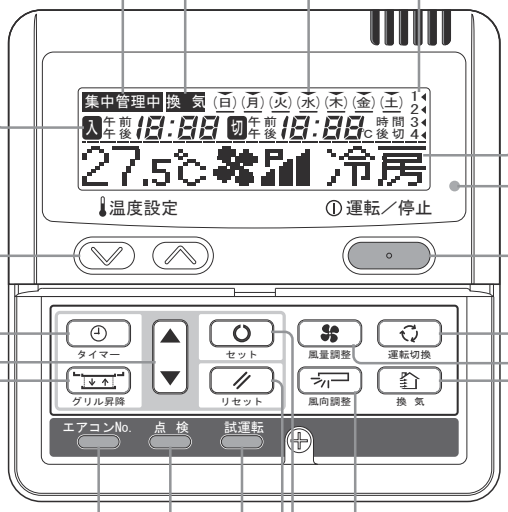
(2) RC-D4G リモコンの場合

(a) リモコンの各部の名前とはたらき

ワイヤードリモコン

・下図はカバーを開けた状態を示します。また，液晶表示部は説明のため全表示内容を記載してあります。
ドット液晶表示部の表示文字は，簡略文字です。

カバーはつまみを手前に引くと下に開きます。



換気表示
換気運転中に表示します。

集中管理表示
オプションコントローラで制御しているときに表示します。

タイマー運転表示
タイマー運転の内容を表示します。

温度設定スイッチ
お部屋の温度をセットするスイッチです。

タイマースイッチ
タイマーモードを選択するスイッチです。

タイマー設定・グリル昇降スイッチ
タイマーモードやタイマー時刻の設定および
吸込グリルの昇降をするためのスイッチです。

グリル昇降スイッチ
グリル昇降モードに切り換えるスイッチです。

エアコンスイッチ
・接続しているエアコンを表示します。
・室内機のアドレス設定をするスイッチです。

点検スイッチ
サービス時に使用するスイッチです。

試運転スイッチ
試運転するときに使用するスイッチです。

ウイークリータイマー表示
ウイークリータイマーの設定内容を
表示します。

運転内容表示部
設定温度，風量，運転モードおよび
操作メッセージを表示します。

運転・点検表示灯
運転中：緑色点灯
異常時：赤色点滅

運転／停止スイッチ
エアコンの運転／停止を行う
スイッチです。一度押すと「運転」，
もう一度押すと「停止」します。

運転切換スイッチ
運転モードの切り換えを行う
スイッチです。

風量調整スイッチ
風量を設定するスイッチです。

換気スイッチ
接続している換気機器の運転を行う
スイッチです。

風向調整スイッチ
スイングルーバを作動・停止させる
スイッチです。

セットスイッチ
・設定を確定するスイッチです。

リセットスイッチ
・設定の途中で押すと一つ前の操作に戻ります。
・「フィルター掃除」表示をリセットするスイッチです。
（エアフィルタの掃除をしてから押してください）

(b) 機能設定一覧

(i) 室内ユニットの機能や用途に合わせ，リモコンより機能設定をすることができます。
リモコンより設定可能な項目は下記の通りです。
「○」印の設定内容が工場出荷時の設定です。
「※」印の項目は接続する室内ユニットおよび室外ユニットにより工場出荷時に自動設定されます。

(ii) 機能設定のながれ
開始：エアコン停止状態で セット ＋ 運転切換 ボタンを同時に3秒押します。
確定： セット ボタンを押します。
戻る： リセット ボタンを押します。
選択： ▲ ▼ ボタンを押します。
終了： 運転／停止 ボタンを押します。

注(1) 設定の途中でも終了しますが，設定が完了していない場合は無効になります。

①【リモコン機能】

機能番号A	機能内容B	設定内容C	出荷時設定	
01	グリル昇降設定	昇降無効	○	
		有効50Hz地区		←50Hz地区で使用の場合。
		有効60Hz地区		←60Hz地区で使用の場合。
02	自動運転設定	自動運転有効	※	
		自動運転無効		←自動運転不可
03	温度設定	温度設定有効	○	
		温度設定禁止		←温度設定ボタンの操作禁止
04	運転切換	運転切換有効	○	
		運転切換禁止		←運転切ボタンの操作禁止
05	運転／停止	運転／停止有効	○	
		運転／停止禁止		←運転／停止ボタンの操作禁止
06	風量切換	風量切換有効	※	
		風量切換禁止		←風量調整ボタンの操作禁止
07	風向切換	風向切換有効	※	
		風向切換禁止		←風向調整ボタンの操作禁止
08	タイマー	タイマー有効	○	
		タイマー禁止		←タイマー操作禁止
09	リモコンセンサ設定	リモコンセンサ無効	○	
		リモコンセンサ有効		
		リモコンセンサ+3.0℃		←リモコンセンサ有効かつ+3.0℃温度補正する。
		リモコンセンサ+2.0℃		←リモコンセンサ有効かつ+2.0℃温度補正する。
		リモコンセンサ+1.0℃		←リモコンセンサ有効かつ+1.0℃温度補正する。
		リモコンセンサー1.0℃		←リモコンセンサ有効かつー1.0℃温度補正する。
		リモコンセンサー2.0℃		←リモコンセンサ有効かつー2.0℃温度補正する。
		リモコンセンサー3.0℃		←リモコンセンサ有効かつー3.0℃温度補正する。
10	停電補償設定	停電補償無効	○	
		停電補償有効		
11	換気設定	換気なし	○	
		換気連動		←室内基板CNDに換気機器を接続すると,室内ユニットの運転に連動し,換気機器の運転／停止を行います。
		換気連動なし		←室内基板CNDに換気機器を接続すると,換気ボタンの操作により,換気機器が単独で運転／停止を行います。
12	温度範囲設定	表示変更有り	○	←温度設定範囲を変更した場合,設定温度表示は制御に追従し変化ます。
		表示変更無し		←温度設定範囲を変更した場合,設定温度表示は制御に追従せず，設定した温度のままとなります。
13	室内ファン	3速HI-ME-LO	※	←ファン風量が,急-強-弱の3速,またはP急-急-強-弱の4速となります。
		2速HI-LO		←ファン風量が,急-弱の2速となります。
		2速HI-ME		←ファン風量が,急-強の2速となります。
		1速		←ファン風量が1速のみで固定されます。
14	ルーバ制御設定	ルーバ4位置停止	※	←ルーバの停止位置は,4位置より選択します。
		ルーバフリー停止		←ルーバの停止位置は,任意の位置に停止します。
15	冷専／ヒーポン	ヒーポン	※	
		冷専		
16	外部入力設定	一台運転	○	←室内基板CNTに外部入力すると,その室内ユニットが単独で外部入力に従い運転します。
		全台同一運転		←室内CNTに外部入力すると,同一リモコンネットワークの全台が,外部入力に従い運転します。
17	室温表示設定	室温表示無し	○	
		室温表示有り		←通常の運転表示において,風量表示の代わりに室温を表示します。
18	暖房準備表示	表示有り	○	
		表示無し		←暖房準備表示を出さないようにします。

注(1) ルーバ制御設定を変更する場合は,②室内機能04番「ルーバ制御設定」も変更してください。

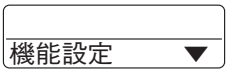
②【室内機能】

機能番号 A	機能内容 B	設定内容 C	出荷時設定	
02	高天井設定	標準	※	←機種によって,初期設定が高天井設定の機種もあります。
		高天井1		
		高天井2		
03	フィルタサイン設定	表示なし		
		設定1	○	←180時間でフィルタサインを表示します。
		設定2		←600時間でフィルタサインを表示します。
		設定3		←1000時間でフィルタサインを表示します。
		設定4		←1000時間でフィルタサインを表示し,その後24時間経過したら強制停止します。
04	ルーバ制御設定	ルーバ4位置停止	※	←ルーバの停止位置は,4位置より選択します。
		ルーバフリー停止		←ルーバの停止位置は,任意の位置で停止します。
05	外部入力切換	レベル入力	○	
		パルス入力		
06	運転許可／禁止	無効	○	
		有効		←運転許可／禁止制御を有効にします。
07	緊急停止	無効	○	
		有効		←同一室外ユニットに接続された全室内ユニットを緊急停止させる時に使用します。遠方発停端子「CNT-6」から停止信号が入った場合，全室内ユニットが緊急停止します。
08	暖房室温補正	補正なし	○	
		室温補正+1.0℃		←暖房時の設定温度を+1.0℃補正します。
		室温補正+2.0℃		←暖房時の設定温度を+2.0℃補正します。
		室温補正+3.0℃		←暖房時の設定温度を+3.0℃補正します。
09	吸込温度補正	吸込補正+2.0℃		←室内ユニットの吸込温度を+2.0℃補正します。
		吸込補正+1.5℃		←室内ユニットの吸込温度を+1.5℃補正します。
		吸込補正+1.0℃		←室内ユニットの吸込温度を+1.0℃補正します。
		補正なし	○	
		吸込補正−1.0℃		←室内ユニットの吸込温度を−1.0℃補正します。
		吸込補正−1.5℃		←室内ユニットの吸込温度を−1.5℃補正します。
		吸込補正−2.0℃		←室内ユニットの吸込温度を−2.0℃補正します。
10	暖房ファン制御	弱風	○	←暖房サーモOFF時,弱風で運転します。
		設定風量		←暖房サーモOFF時,設定風量で運転します。(電気集塵機を取付けた場合は「設定風量」に設定してください。)
		間欠		←暖房サーモOFF時,間欠運転します。
		停止		←暖房サーモOFF時,ファンは停止します。(リモコンセンサ有効時は,自動的に「停止」に設定されます。本体サーモの時は,設定しないでください。)
11	フロスト防止温度	温度　高		
		温度　低	○	
12	フロスト防止制御	ファン制御有効	○	←フロスト防止制御時に,室内ファンタップを上げます。
		ファン制御無効		
13	ドレンポンプ	標準	○	←冷房・除湿時ドレンポンプON
		暖房		←冷房・除湿+暖房時ドレンポンプON
		暖房　送風		←冷房・除湿+暖房+送風時ドレンポンプON
		送風		←冷房・除湿+送風時ドレンポンプON
14	冷房ファン運転	連動なし	○	←冷房停止または冷房サーモOFF後,ファン残留運転なし。
		0.5時間		←冷房停止または冷房サーモOFF後,0.5時間ファン残留運転する。
		1時間		←冷房停止または冷房サーモOFF後,1時間ファン残留運転する。
		6時間		←冷房停止または冷房サーモOFF後,6時間ファン残留運転する。
15	暖房ファン運転	連動なし	○	←暖房停止または暖房サーモOFF後,ファン残留運転なし。
		0.5時間		←暖房停止または暖房サーモOFF後,0.5時間ファン残留運転する。
		2時間		←暖房停止または暖房サーモOFF後,2時間ファン残留運転する。
		6時間		←暖房停止または暖房サーモOFF後,6時間ファン残留運転する。
16	暖房ファン間欠	連動なし	○	
		20休5送風		←暖房停止または暖房サーモOFF後,ファンは20分OFF5分弱風の間欠運転。
		5休5送風		←暖房停止または暖房サーモOFF後,ファンは5分OFF5分弱風の間欠運転。
17	外機制御	圧力制御標準	※	
		圧力制御切換		←吸気処理室内ユニットを接続すると,圧力制御切換に自動的に設定されます。

注(1)ルーバ制御設定を変更する場合は,①リモコン機能14番「ルーバ制御設定」も変更してください。

㈢ 機能設定の仕方

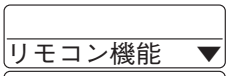
1）エアコンを停止させて，セットと運転切換ボタンを同時に長押しする。
表示が「機能設定　▼」となります。



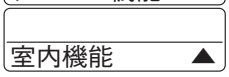
2）セットボタンを押す。

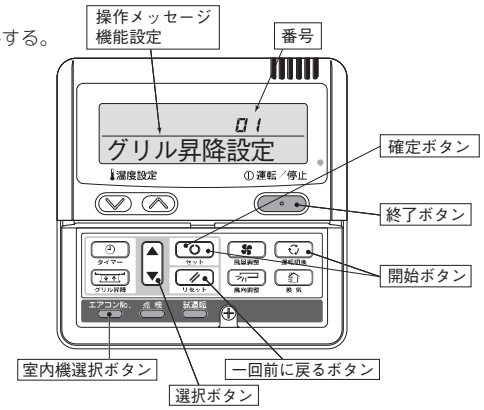
3）設定したい内容が【リモコン機能】か【室内機能】かを確認する。

4）▲または▼ボタンを押す。
【リモコン機能▼】または【室内機能▲】を選びます。



5）セットボタンを押す。



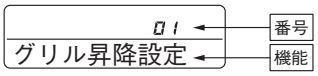


6)【リモコン機能】を選んだ場合

①「データ確認中」(約2秒間点滅表示)

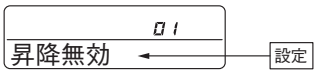
↓

「01　グリル昇降設定」と表示が切換わります。

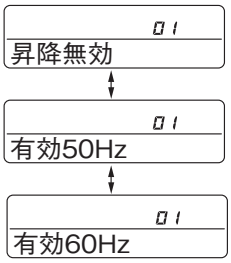


② ▲または▼ボタンを押す。
リモコン機能一覧表の「番号と機能」が順番に表示されますので，機能を選びます。

③ セットボタンを押す。
選択した機能の,現在の設定が表示されます。
(例)「昇降無効」←「01 グリル昇降設定」を選択した場合。



④ ▲または▼ボタンを押す。
設定を選びます。



⑤ セットボタンを押す。
「設定完了」が表示され,設定が完了します。その後,「番号と機能」の表示に戻りますので，続けて設定する場合は,同じ要領で設定してください。
終了する場合は,7)へお進みください。



6)【室内機能】を選んだ場合

①「データ確認中」(データを読み込む間約2～23秒点滅)

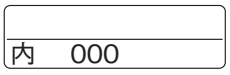
↓

「01　お掃除自動」と表示が切換わります。

②へお進みください。

〈注意〉

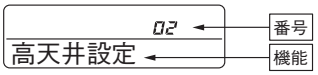
(1) 室内ユニットをリモコンに複数台接続している場合は,下記表示となります。
「内　000」(点滅)← 接続されている室内ユニットの最も若い番号を表示。



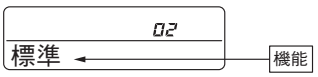
(2) ▲または▼ボタンを押す。
設定したい室内ユニットの番号を選びます。
「全台▼」を選択すると,全台同一の設定ができます。

(3) セットボタンを押す。

② ▲または▼ボタンを押す。
室内機能一覧表の「番号と機能」が順番に表示されますので，機能を選びます。
(例)

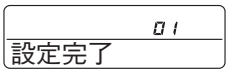


③ セットボタンを押す。
選択した機能の,現在の設定が表示されます。
(例)「標準」←「02 高天井設定」を選択した場合。



④ ▲または▼ボタンを押す。設定を選びます。

⑤ セットボタンを押す。
「設定完了」が表示され,設定が完了します。その後,「番号と機能」の表示に戻りますので，続けて設定する場合は,同じ要領で設定してください。終了する場合は,7)へお進みください。



※室内ユニット複数台接続時,エアコンNo.ボタンを押すと室内ユニット選択表示(例「内　000」)に戻りますので,室内ユニットを換えて設定する場合は,同じ要領で設定してください。

7) 運転／停止ボタンを押します。
設定を終了します。

·設定の途中で，運転／停止ボタンを押しても終了します。ただし,設定が完了していない内容は無効となりますのでご注意ください。
·設定途中で，リセットボタンを押すと,一回前の設定画面に戻ります。
·セット内容は,コントローラ内部に記憶され停電しても保存されています。

《現在設定の確認方法》

上記操作により,「番号と機能」を選び,セットボタンを押した時に,最初に表示される「設定」が,現在設定されている内容です。
(ただし,「全台▼」を選んだ場合は,室内番号の最も若い機種の設定が表示されます。)

⑷ リモコン設定温度範囲の変更

工場出荷時の設定温度範囲は，運転モードによって異なり下記のようになっています。

暖房時：18～28℃

暖房以外(冷房，送風，除湿，自動)：20～30℃

1）リモコンから，設定温度の上限および下限を設定することができます。

・上限値設定…暖房運転時に有効。20～30℃の範囲で設定可能です。

・下限値設定…暖房以外（自動，冷房，送風，除湿）時に有効。18～26℃の範囲で設定可能です。

本機能により，上限および下限を設定した場合，下記制御となります。

a） 機能設定モードの【リモコン機能】⑫温度範囲設定が〈表示変更有り〉のとき(工場出荷時設定)

〔上限値を設定すると〕

① 暖房時，リモコンから上限値より高い温度が設定された場合:
30分間設定値温度で運転し，その後自動的に上限値温度を送信します。リモコン表示もそれに付随します。

② 暖房時，上限値以下の温度が設定された場合:
設定温度を送信します。

〔下限値を設定すると〕

① 暖房以外の運転モードのとき，リモコンから下限値より低い温度が設定された場合:
30分間設定温度で運転し，その後自動的に下限値温度を送信します。リモコン表示もそれに付随します。

② 暖房以外の運転モードのとき，下限値以上の温度が設定された場合:
設定温度を送信します。

b） 機能設定モードの【リモコン機能】⑫温度範囲設定が〈表示変更無し〉のとき

〔上限値を設定すると〕

① 暖房時，リモコンから上限値より高い温度が設定された場合:
上限値を送信します。ただし，リモコン表示はそれに付随せず，設定した温度のままです。

② 暖房時，上限値以下の温度が設定された場合:
設定温度を送信します。

〔下限値を設定すると〕

① 暖房以外の運転モードのとき，リモコンから下限値より低い温度が設定された場合:
下限値を送信します。ただし，リモコン表示はそれに付随せず，設定した温度のままです。

② 暖房以外の運転モードのとき，下限値以上の温度が設定された場合:
設定温度を送信します。

2） 上限値，下限値の設定方法

a）エアコンを停止させて，[セット]と[運転切換]ボタンを同時に3秒以上押します。
表示が「機能設定▼」となります。

b）[▼]ボタンを一度押し，「温度範囲▲」表示に切換えます。

c）[セット]ボタンを押して，温度範囲設定モードに入ります。

d）[▲][▼]ボタンにより，「上限設定▼」または「下限設定▲」を選びます。

e）[セット]ボタンを押して確定します。

f）「上限設定▼」を選んだ場合（暖房時に有効となります）

① 表示:「∨∧で設定」→「上限28℃∨∧」

② 温度設定[∧][∨]ボタンにより，上限値を選びます。表示例:「上限26℃∨∧」(点滅)

③ [セット]ボタンを押して確定します。表示例:「上限26℃」(2秒間点灯)
確定した上限値を2秒間点灯後，表示は「上限設定▼」に戻ります。

g）「下限設定▲」を選んだ場合（冷房，除湿，送風時に有効となります。）

① 表示:「∨∧で設定」→「下限20℃∨∧」

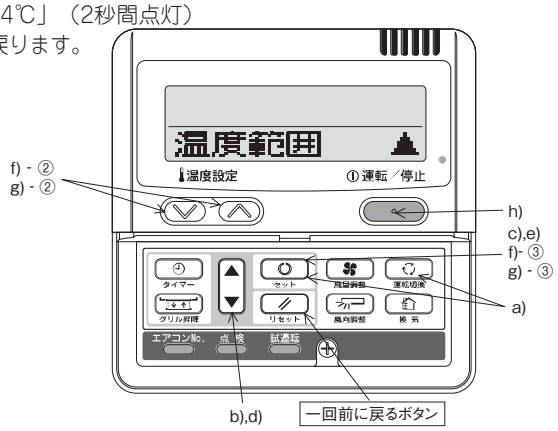
② 温度設定[∧][∨]ボタンにより，下限値を選びます。表示例:「下限24℃∨∧」(点滅)

③ [セット]ボタンを押して確定します。表示例:「下限24℃」（2秒間点灯）
確定した下限値を2秒間点灯後，表示は「下限設定▲」に戻ります。

h）[運転／停止]ボタンを押して，終了します。

・設定の途中で[運転／停止]ボタンを押しても終了します。ただし,設定が完了していない内容は無効となりますので,ご注意ください。

・設定の途中で,[リセット]ボタンを押すと,一回前の設定画面に戻ります。



(3) 主な設定操作

(a) ドレンポンプ強制運転

ドレンポンプ運転がリモコン操作により可能です。
リモコンを次の手順で操作してください。

(i) RC-DX3F リモコンの場合

1) ドレンポンプ試運転の開始
   ① TOP画面の「メニュー」→「サービス設定」→「据付設定」を選択し，「サービスパスワード」を入力します。
   ② 「据付設定メニュー#1」より「試運転」を選択し，「ドレンポンプ試運転」と順に選択すると 運転 ／ 停止 画面が表示されます。
   ③ 運転 を選択するとドレンポンプ試運転を開始します。

2) ドレンポンプ運転の解除
   画面の 停止 を選択または，リモコンの 運転／停止 ボタンを押すとドレンポンプ試運転を解除し，エアコンは停止状態となります。

注（1）リモコンの設定画面については，162ページの2項据付設定試運転をご覧ください。

(ii) RC-D4G リモコンの場合

1）ドレンポンプ強制運転の開始
   ① 試運転 ボタンを 3 秒以上押します。「冷房試運転 ▼」となります。
   ② ▼ ボタンを一度押し，「ドレンポンプ運転 ▲▼」を表示させます。
   ③ セット ボタンを押すと，ドレンポンプ運転を開始します。
   表示：「セットで停止」

2）ドレンポンプ運転の解除
   ① セット ボタンまたは，運転／停止 ボタンを押すと，ドレンポンプ強制運転を解除します。
   エアコンは停止状態となります。

注(1）リモコン 2 台で室内ユニットを運転する場合，親リモコンのみ操作可能です。（子リモコンからの操作は出来ません。）

(b) ポンプダウン運転

運転停止中に，ポンプダウンスイッチ(SW1)によりポンプダウン運転が可能です。
ポンプダウン運転を行う場合，下記の手順で行ってください。

1）運転が停止していることを確認し，液側操作弁を閉めてください。この時，ガス側操作弁が開いていることを確認してください。
2）ポンプダウンスイッチを ON に設定することでポンプダウン運転をはじめます。室外基板上の赤・緑 LED が連続点滅します。
3）約 5 分後運転が停止しますので，その後ガス側操作弁を閉めてください。ポンプダウン運転が終了すると，赤 LED は消灯，緑 LED は点滅に変わります。
再度ポンプダウン運転を行う場合は，上記 1）～ 3）の手順で行ってください。

ご注意：ポンプダウンスイッチを押すと，室内ユニットとの通信をキャンセルするため，室内ユニットおよびリモコンには“伝送異常・E5”が表示されますが，異常ではありません。

(c) ラクリーナパネルの設定〔ラクリーナパネルのみ〕

(i) グリル自動昇降の設定

1）ワイヤードリモコンの場合

a) RC-DX3Fリモコンの場合

ご注意

ワイヤードリモコンでラクリーナパネル使用時は，取付時に必ず「グリル昇降操作」で有効を行ってください。工場出荷時はグリル昇降の設定が未設定となっていますので，グリル昇降ができません。据付地域の電源周波数に合わせ，50Hz地区または60Hz地区のどちらかを選ことにより有効設定となります。

TOP画面の「メニュー」より→「サービス設定」より →「据付設定」を選択し，「サービスパスワード」入力 →「据付設定メニュー#2」より「グリル昇降操作」を選択し，「有効50Hz」または「有効60Hz」を選択してください。これでグリル昇降の有効設定は完了です。

b) RC-D4Gリモコンの場合

ご注意

ワイヤードリモコンでラクリーナパネル使用時は，取付時必ずグリル昇降有効設定を行ってください。工場出荷時はグリル昇降「無効」になっていますので，グリル昇降ができません。据付地域の電源周波数に合わせ，50Hz 地区または 60Hz 地区のどちらかを選んで設定してください。



① エアコン停止状態で，セットボタンとグリル昇降ボタンを同時に長押ししてください。

② ▼または▲ボタンにより設定を選択してください。
表示：「昇降無効」⇔「有効 50Hz」⇔「有効 60Hz」

③ セットボタンを押す。
表示が「設定完了」となります。その後リモコンは停止状態になります。

2）ワイヤレスキットの場合

ご注意

ワイヤレスキットでラクリーナパネル使用時は，電源周波数の設定をワイヤレスリモコンを用いて必ず行ってください。（初期設定は 60Hz）

室内機能設定

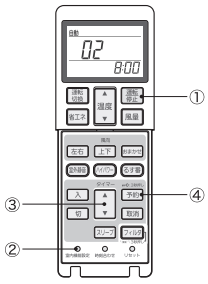
a) 室内機能設定のしかた

① 運転 / 停止を押し、停止状態にする。

② 室内機能設定スイッチを押しながら、b）項に示すボタンを押す。

③ 選択ボタン▲、▼で設定を変更する。

④ 予約ボタンを押す。
リモコン信号受信部より、ピッピッと 2 回ブザーが鳴り、
LED は 2 秒毎に 4 回点滅します。



b) 設定内容

ボタン	番号表示部	機能設定
運転 / 停止	50	グリル自動昇降周波数：50Hz
	60	グリル自動昇降周波数：60Hz

(ii) グリル降下長さの設定

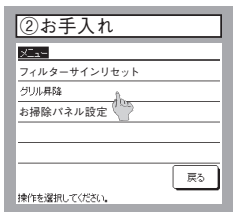
1）RC-DX3Fリモコンの場合

ワイヤードリモコンを用いて0.1m刻みに4mまで昇降長を設定することができまさす。ラクリーナパネル取付時昇降長さを下記方法で設定してください。

〔操作方法〕

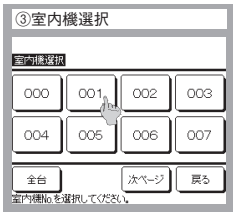
① TOP画面の「メニュー」より →「お手入れ」→「グリル昇降」を選択します。
運転中のエアコンは自動的に停止します。
リモコンに接続している室内ユニットが 1 台の場合は，③項へお進みください。



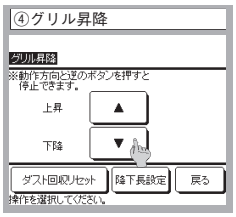


② リモコンに接続している室内ユニットが複数台の場合，「室内機選択」画面が表示されますので，グリル昇降させる室内ユニットNo.をタッチしてください。
接続している室内ユニット全台を同じ設定にする場合は，全台ボタンをタッチしてください。

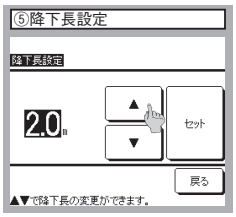
注(1) 室内ユニット選択画面には，8台まで表示します。9台以上接続している場合は，次ページボタンをタッチしてください。9台目以降の室内ユニットが表示されます。



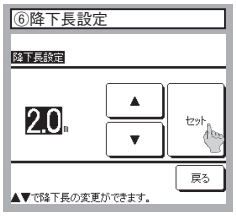
③ ▼ボタンをタッチしてください。
▼ボタンをタッチすると，吸込グリルが降下します。降下を途中で止めるときは，▲ボタンをタッチしてください。
吸込グリルの降下長を設定するときは，降下長設定 ボタンをタッチしてください。
吸込グリル収納時は，▲ボタンをタッチしてください。収納後，自動的に停止します。上昇を途中で止めるときは，▼ボタンをタッチしてください。



④ 吸込グリルの降下長を設定します。
▲ ▼ ボタンにより，降下長を0.1m単位で設定できます。
降下長設定範囲：0.1m～4.0m
注(1) 管理者パスワード入力画面が表示された場合は，管理者パスワードを入力してください。



⑤ 降下長設定後，セット ボタンをタッチしてください。設定が完了します。



2）RC-D4G リモコンの場合
ワイヤードリモコンを用いて 10cm 刻みに 4m まで昇降長さを設定することができます。
ラクリーナパネル取付時，昇降長さを下記方法で設定してください。（工場出荷時 2.0m 設定）
［操作方法］
① グリル昇降ボタンを押す。
リモコンに接続されている室内ユニットが一台の場合，表示が「▲▼で昇降する」となります。⑤項へお進みください。
② リモコンに接続されている室内ユニットが複数台の場合，接続されている室内ユニットの中で，最も小さい室内アドレスが表示されます。［例］「室内機選択▲▼」→「内 000 ▲」（点滅）
③ ▲ ▼ボタンで，表示したい室内アドレスを選びます。
④ セット ボタンにより確定します。（室内アドレスが点滅から点灯に変わります。）
「全台▼」を選択すると，接続されている室内ユニット全台が，同一の設定となります。
「内 001」（選択した室内アドレスを 2 秒間点灯）
↓
「▲▼で昇降する」
⑤ 「▲▼で昇降する」表示の時に，セット ボタンを押すと，「データ確認中」と表示されます。
「データ確認中」（データを読み込む間，点滅表示）
↓
「降下 2.0m ▲▼」（現在の設定値を表示）
⑥ ▲ ▼ボタンにより降下長を選びます。
⑦ セット ボタンにより確定します。
選択した降下長を室内ユニットへ送信する間点灯し，「▲▼で昇降する」表示に戻ります。
［例］「降下 1.5m」（室内ユニットへ送信する間点灯）
↓
「▲▼で昇降する」
⑧ 運転／停止 ボタンを押すと，降下長設定モードを終了します。（設定の途中で，運転／停止 ボタンを押しても終了します。ただし，設定が完了していない内容は無効となりますので，ご注意ください。）
・設定の途中で，リセット ボタンを押すと，一回前の設定画面に戻ります。ただし、設定が完了していない内容は無効となりますので，ご注意ください。
・設定内容は，コントローラに記憶されていますので，停電しても保存されます。
◎リモコン 1 台で 2 台以上の室内ユニットを運転する場合は，室内ユニット毎に設定が必要です。
◎リモコン 2 台で室内ユニットを運転する場合は，親リモコンのみ操作可能です。（子リモコンからの操作はできません。）

(d) 風向設定のしかた

・ワイヤードリモコンを使用することで,吹出口のルーバの動作範囲を,変更することができます。本モードで上限位置と下限位置を設定すると,ルーバは,設定された上限位置と下限位置の間で動作します。

注(1) 風向設定は機種によって表示や操作が変わります。

・FDTシリーズを使用の場合,各ルーバ毎に個別の動作範囲の設定が可能です。

(i) RC-DX3Fリモコンの場合

各吹出口のルーバの動作範囲（上限位置・下限位置）を，ご希望の範囲に設定します。

- リモコンが子リモコンに設定されている場合，フリーフロー設定はできません。
- フリーフロー設定の内容を変更する場合は，エアコンを停止させてください。

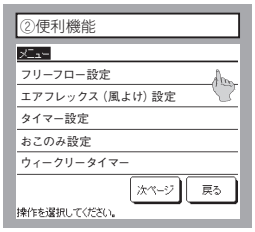
〔操作方法〕

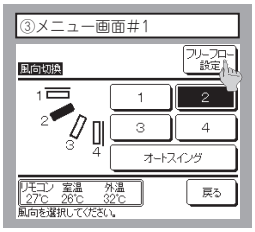
1) TOP画面の「メニュー」→「便利機能」または「風向」より「フリーフロー設定」を選択し「風向切換」画面を表示させます。「風向切換」画面で「フリーフロー設定」ボタンをタッチしてください。
リモコンに接続している室内ユニットが1台の場合は，3) 項へお進みください。

注(1) 管理者パスワード入力画面が表示された場合は，管理者パスワードを入力してください。



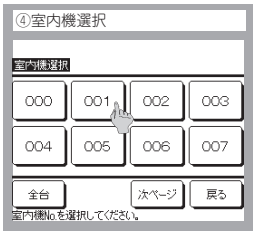






2) リモコンに接続している室内ユニットが複数台の場合，「室内機選択」画面が表示されますので，グリル昇降させる室内ユニットNo.をタッチしてください。
接続している室内ユニット全台を同じ設定にする場合は，全台 ボタンをタッチしてください。

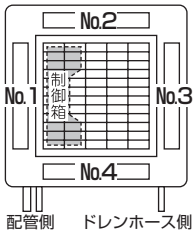
注(1) 室内機選択画面には，8台まで表示します。9台以上接続している場合は，次ページ ボタンをタッチしてください。9台目以降の室内ユニットが表示されます。



3) ルーバの動作範囲を変更する吹出口No.を選択してください。

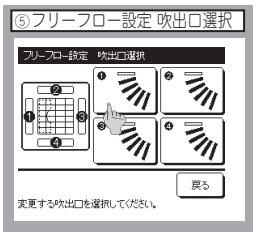
i) FDTシリーズのように吹出口のルーバが複数あり，設定したい吹出口No.がわからない場合は，仮に，任意の吹出口のルーバの上下限位置を設定してください。設定完了後，設定した吹出口のルーバが停止位置から下限位置まで1度動きますので，吹出口位置が確認できます。吹出口位置確認後，再度，設定したい吹出口No.を選択してください。

ii) FDE，FDKシリーズのように吹出口のルーバが1つ場合，設定可能なルーバのみ表示されます。

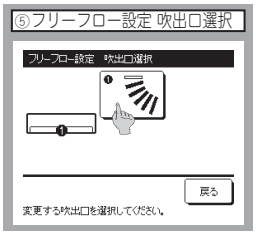


吹出口No.
〔FDTシリーズの場合〕

FDTシリーズ



FDE, FDKシリーズ



4) エアコンが運転中の場合，運転停止の確認画面が表示されます。
はい をタッチしてユニットを停止させてください。

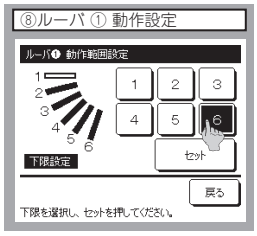
注(1) エアコン運転中に「フリーフロー設定」を変更することができません。エアコンを停止できない場合は，運転/停止 スイッチを押すか，戻る ボタンでフリーフロー設定を解除してください。



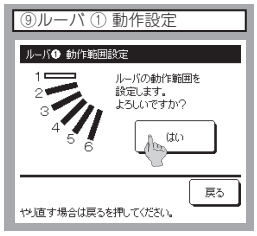
5）ルーバ動作範囲の上限位置 [1]～[6] を選択してください。
画面上には，選択した上限位置を表示します。選択後，[セット] ボタンをタッチしてください。



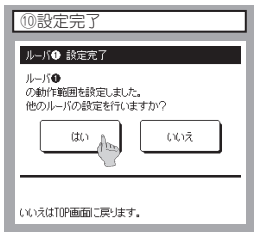
6）ルーバ動作範囲の下限位置 [1]～[6] を選択してください。
画面上には，選択した上限位置と下限位置から動作範囲を表示します。選択後，[セット] ボタンをタッチしてください。



7）ルーバ動作範囲の確認画面が表示されます。
設定内容に変更がない場合は，[はい] ボタンをタッチしてください。変更がある場合は，[戻る] ボタンをタッチしてください。



8） 設定完了の確認画面を表示します。
i) 他の吹出口ルーバの動作範囲を変更する場合は，[はい] ボタンをタッチして(c)項より再度，他の吹出口ルーバの動作範囲を変更してください。
ii) 設定を終了する場合は，[いいえ] ボタンをタッチしてください。
TOP画面へ戻ります。



お知らせ

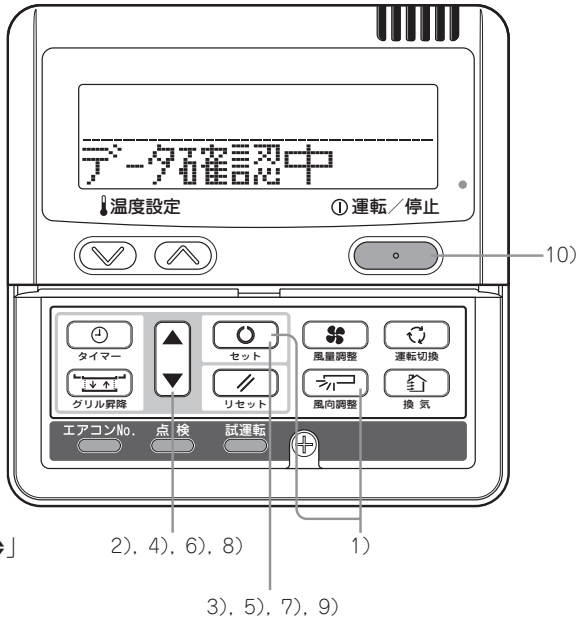
- 上限位置と下限位置を同じ位置に設定すると，ルーバはその位置で固定され，オートスイングをしても動きません。
- 設定の途中で，[戻る] ボタンをタッチすると，1回前の表示に戻ります。また，設定の途中で，[運転／停止] スイッチを押すと，本モードを終了し元の表示に戻ります。ただし，設定が完了していない内容は無効となりますのでご注意ください。

注(1) 親・子リモコンを接続時，風向の設定は親リモコン側から設定してください。子リモコン側からの風向設定はできません。
(2) ワイヤレスリモコンを使用する場合は，風向設定の変更ができませんので，ワイヤードリモコンを接続して行こなってください。

(ii) RC-D4G リモコンの場合

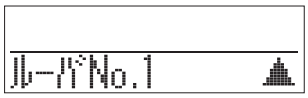
1) エアコンを停止させて，セット ボタンと 風向調整 ボタンを同時に 3 秒以上押す
リモコンに接続されている室内ユニットが 1 台の場合，下記の表示がでます。その後，4)項へお進みください。
「データ確認中」
↓
「ルーバ No.1 ▲」
リモコンに接続されている室内ユニットが複数の場合，下記の表示がでます。風向設定をする室内ユニットを選択します。2)項へお進みください。
「室内機選択◆」
↓
「内　000 ▲」





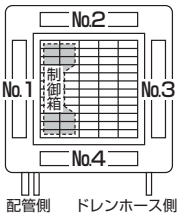
2) ▲ または ▼ ボタンを押す（室内機選択）
風向設定する室内ユニットを選択してください。
［例］
「内　000 ▲」⇔「内　001◆」⇔「内　002◆」⇔「内　003◆」

3) セット ボタンを押す（室内機決定）
選択した室内ユニットが確定します。
［例］
「内　001」（2 秒間点灯）
↓
「データ確認中」
↓
「ルーバ No.1 ▲」



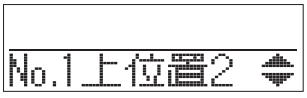
4) ▲ または ▼ ボタンを押す（ルーバ No. 選択）
右図を参照して，設定するルーバ No. を選択してください。
［例］
「ルーバ No.1 ▲」⇔「ルーバ No.2◆」⇔「ルーバ No.3◆」⇔「ルーバ No.4 ▼」
注(1) FDE シリーズの場合は「ルーバ No.1 ▲」を選んでください。その他のルーバ No. を設定しても無効となります。

- FDT シリーズにおいて，設定したいルーバ No. がわからない場合は，仮に，任意のルーバの上下限位置を設定してください。設定完了後，設定したルーバが停止位置から下限位置まで 1 度動きますので，ルーバ位置が確認できます。ルーバ位置確認後，再度，設定したいルーバ No. を選択してください。
- FDE シリーズの場合は，ルーバ No.1 を設定してください。その他のルーバ No. を設定しても無効となります。

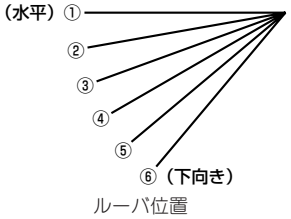


ルーバ No.
［FDT の場合］

5) セット ボタンを押す（ルーバ No. 決定）
ルーバ作動範囲の上限位置を選択します。
［例］No.1 のルーバを選択した場合
「No.1 上位置 2 ◆」←現在の上限位置を表示します。

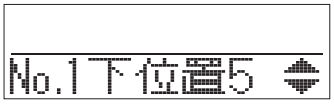


6) ▲ または ▼ ボタンを押す（上限位置選択）
ルーバの上限位置を選択します。
「位置 1」が最も水平で，「位置 6」が最も下向きとなります。
「位置 --」は，出荷時の位置に戻すための番号です。出荷時状態に戻す場合は，「位置 --」を選択してください。
「No.1 上位置 1 ▼」（最も水平）
⇔「No.1 上位置 2 ◆」
⇔「No.1 上位置 3 ◆」
⇔「No.1 上位置 4 ◆」
⇔「No.1 上位置 5 ◆」
⇔「No.1 上位置 6 ◆」（最も下向き）
⇔「No.1 上位置 -- ▲」（出荷時の位置へ戻る）

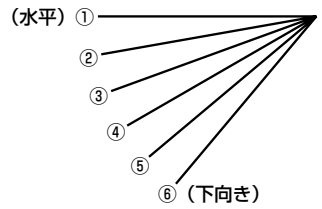


ルーバ位置

7） セット ボタンを押す（上限位置決定）
上限位置が確定し，設定位置を 2 秒間表示します。その後，下限位置選択表示となります。
［例］
「No.1 上 2」←確定内容を 2 秒間表示
↓
「No.1 下位置 5 ◆」←現在の下限位置を表示します。

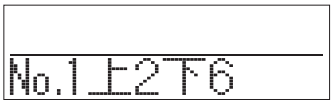


8） ▲ または ▼ ボタンを押す（下限位置選択）
ルーバの下限位置を選択します。
「位置 1」が最も水平で，「位置 6」が最も下向きとなります。
「位置 --」は，出荷時の位置に戻すための番号です。出荷時状態に戻す場合は，「位置 --」を選択してください。
「No.1 下位置 1 ▼」（最も水平）
⇔「No.1 下位置 2 ◆」
⇔「No.1 下位置 3 ◆」
⇔「No.1 下位置 4 ◆」
⇔「No.1 下位置 5 ◆」
⇔「No.1 下位置 6 ◆」（最も下向き）
⇔「No.1 下位置 -- ▲」（出荷時の位置へ戻る）

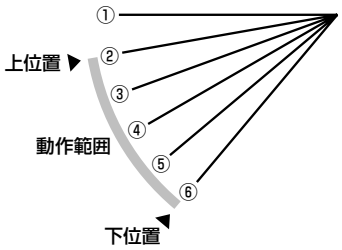


ルーバ位置

9） セット ボタンを押す（下限位置決定）
上限位置，下限位置が確定し，設定位置を 2 秒間点灯し，設定完了となります。
・設定完了後，設定したルーバ No. のルーバが，停止位置から下限位置まで移動し，その後停止位置に戻ります。（ただし，リモコンが停止モードであっても，ファン残留運転等で，室内ユニットが運転している場合は，本動作はしません。）
［例］
「No.1 上 2 下 6」←確定内容を 2 秒間表示
↓
「設定完了」
↓
「ルーバ No.1 ▲」←選択したルーバ No. 表示へ戻る。



［例］上位置 2　下位置 6 の場合



（注）上限値と下限値を同じ位置に設定すると，ルーバはその位置で固定され，オートスイングをしても動きません。

10） 運転／停止 ボタンを押す
風向設定モードを終了し，元の表示に戻ります。

お知らせ

- 上限値と下限値を同じ位置に設定すると，ルーバはその位置で固定され，オートスイングをしても動きません。
- 設定の途中で，**リセット** ボタンを押すと，1 回前の表示に戻ります。また，設定の途中で，**運転／停止** ボタンを押すと，本モードを終了し元の表示に戻ります。ただし，設定が完了していない内容は無効となりますのでご注意ください。

- リモコンが親子接続されている場合，子リモコンでは，風向設定操作はできません。
- ワイヤレスキット，ワイヤレスリモコンで操作する場合は，風向設定の変更ができませんので，ワイヤードリモコンを接続して行こなってください。（ワイヤレスリモコンでの風向設定の変更はできません。）

9. マイコン運転制御機能

9.1 室内コントローラによる運転制御機能

(1) 冷房・暖房運転時の機能品動作

動作 / 機能品	冷房		送風	暖房			除湿
	サーモON	サーモOFF		サーモON	サーモOFF	ホットスタート（デフロスト）	
圧縮機	○	×	×	○	×	○	○／×
四方切換弁	×	×	×	○	○	○（×）	×
室外送風機	○	×	×	○	×	○（×）	○／×
室内送風機	○	○	○	○／×	○／×	○／×	○／×
ルーバモータ	○／×			○／×	○／×	○／×	○／×
ドレンポンプ(3)	○	×(2)	×(2)	○／×(2)			サーモON：○ サーモOFF：×(2)

注(1) ○：運転　×：停止　○／×：室温制御以外の制御により運転／停止します。
(2) ドレンポンプ遅延制御中はON。
(3) ワイヤードリモコンの室内機能設定によりドレンポンプON設定の選択が可能です。

(2) 除湿運転

(a) FDT, FDTCシリーズ

吸込口に設置された相対湿度センサ［HS］および吸込空気温度センサ〔Thi-A（リモコンセンサ有効時はリモコン温度センサによる）〕により，室内の温湿度環境を同時に制御します。

(i) 冷房運転で運転を開始し，吸込空気温度と設定温度の差が2℃以内の場合は，室内ファンタップを1タップダウンします。室内ファンタップ切換え後3分間はタップを保持します。

(ii) 上記成立後，吸込温度と設定温度の差が３℃以下，かつ，相対湿度が目標相対湿度より高い場合は，室内ファンタップを１タップダウンします。吸込温度と設定温度との差が３℃より大きい場合，室内ファンタップを１タップアップします。

室内ファンタップ切換え後３分間はタップを保持します。

(iii) 相対湿度センサの検知湿度が目標相対湿度以下になった場合，室内ファンタップを保持します。

(iv) 上記制御中にサーモOFFが成立した場合，サーモON時の室内ファンタップを保持します。

(b) その他のシリーズ

吸込空気温度センサ〔Thi-A（リモコンセンサ有効時はリモコン温度センサによる）〕により，室内の温度環境を同時に制御します。

(i) 冷房運転で運転を開始し，吸込空気温度と設定温度の差が2℃以内の場合は，室内ファンタップを1タップダウンします。室内ファンタップ切換え後3分間はタップを保持します。

注(1) 「P急」の場合「急」にタップダウンします。

(2) 室内風量のダウンは弱タップを下限とします。

(ii) 除湿運転中に吸込空気温度が設定温度より3℃より大きくなった場合，室内ファンタップを1タップアップします。
室内ファンタップ切換え後3分間はタップを保持します。

注(1) 室内風量のマップは設定風量を上限とします。

(iii) 上記制御中にサーモOFFが成立した場合，サーモOFF中はサーモON時の室内ファンタップを保持します。

(iv) 冷房停止後室内ファンをLoで15秒間残留運転を行います。

(3) タイマー運転

RC-DX3Fリモコン

(i) 切忘れタイマー
運転開始してから停止するまでの時間を設定します。設定時間は30～240分（10分単位）まで選択可能です。
注　リモコンより「切忘れタイマー」設定を有効にしてください。有効の場合，毎回タイマーが作動します。

(ii) 時間切タイマー
運転後，停止させたい時間を1～12時間の範囲（1時間単位）で設定します。

(iii) 時間入タイマー
停止後，運転させたい時間を1～12時間の範囲（1時間単位）で設定します。また，同時に室内温度・運転モード・風量・ウォームアップ有効／無効の設定が可能です。

(iv) 時刻入タイマー

運転開始時刻を設定します。設定時刻は5分単位で設定可能で，1回のみ／毎日の切換が可能です。また，同時に室内温度・運転モード・風量・ウォームアップ有効／無効の設定が可能です。

注　時刻入タイマーを使用するには，時刻設定が必要です。

(v) 時刻切タイマー

運転停止時刻を設定します。設定時刻は5分単位で設定可能で，1回のみ／毎日の切換が可能です。

注　時刻切タイマーを使用するには，時刻設定が必要です。

(vi) ウィークリータイマー

1週間の入タイマーまたは切タイマーを設定します。1日最大8パターンまでの設定が可能で，祭日および臨時休業など休日設定が可能です。

注　ウィークリータイマーを使用するには，時刻設定が必要です。

(vii) タイマー運転の併用設定可能な組合せ

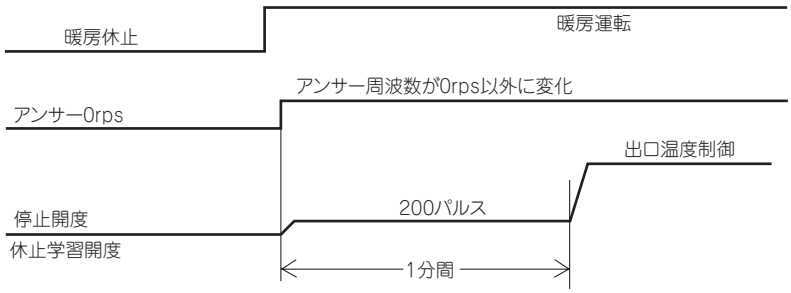
	切忘れタイマー	時間切タイマー	時間入タイマー	時刻切タイマー	時刻入タイマー	ウィークリータイマー
切忘れタイマー		×	×	○	○	○
時間切タイマー	×		×	×	×	×
時間入タイマー	×	×		×	×	×
時刻切タイマー	○	×	×		○	×
時刻入タイマー	○	×	×	○		×
ウィークリータイマー	○	×	×	×	×	

注　○：可，×：不可

(4) ホットスタート（暖房時コールドドラフト防止）

(a) 開始条件

暖房運転開始時、アンサー周波数が0rpsから0rps以外に変化した時、1分間は膨張弁開度を200パルスに固定します。



(b) 制御内容

(i) ホットスタート時の室内ファンモータ制御

1) 暖房運転開始後7分以内，サーモ状態（暖房サーモOFF時のファン制御）によりファンモードを決定します。

a) サーモOFFの場合

ⅰ）暖房サーモOFF時の室内ファン制御設定により運転します。

ⅱ）サーモOFFからサーモONに変化してもファンは室内熱交温度センサ（Thi-R1、R2の何れか高い方）が35℃以上になるまでサーモOFF時のファン制御で運転を続けます。

ⅲ）室内熱交温度センサ（Thi-R1，R2の何れか高い方）が35℃以上になった時，設定風量で運転します。

b) サーモONの場合

ⅰ）室内熱交温度センサ（Thi-R1，R2の何れか高い方）が25℃以下の時，ファンは運転しません。

ⅱ）室内熱交温度センサ（Thi-R1，R2の何れか高い方）が25℃以上になった時，暖房サーモOFF時ファン制御で運転します。

ⅲ）室内熱交温度センサ（Thi-R1，R2の何れか高い方）が35℃以上になった時，設定風量で運転します。

c) ワイヤードリモコン室内機能設定から「暖房ファン制御」を「設定風量」に設定している場合は，サーモON／OFFに関わらずファンは設定風量で運転します。

2) サーモON中に1度ファンモータがOFFからONとなると，室内熱交温度センサが25℃以下となっても室内ファンモータをOFFしません。

注　デフロスト制御受信時はデフロスト時のファン制御に従います。

3） 一旦ホットスタートを終了すると室内熱交温度センサの温度が低下してもホットスタートを再開しません。

(ii) ホットスタート作動時はルーバは水平位置となります。

(iii) デフロスト終了後，連続7分間室内ファンがOFFの場合は，室内熱交温度センサ（Thi－R1，R2）の検知温度に係わらずONします。

(c) 終了条件

(i) ホットスタート制御中に下記の何れかの条件が成立した時，本制御を終了し室内ファンは設定風量で運転します。

1） 室内熱交温度センサ（Thi－R1，R2の何れかが高い方）が35℃以上のとき。

2） ホットスタート制御開始7分経過したとき。

(5) ホットキープ

デフロスト制御開始時にホットキープ制御を行います。

(a) 制御内容

(i) 室内熱交温度（Thi-R1またはR2で検知）が35℃以下となった場合，室内ファンを各設定の低速タップにします。

(ii) ホットキープ時は，ルーバは水平位置となります。

(6) フィルタサイン（お掃除パネル対応機は206ページ参照）

運転時間（運転／停止スイッチがONとなっている時間）が180時間(1)になるとリモコン上の「フィルタ清掃」を表示します。（運転／停止に関係なく，故障時，集中制御時も表示します。）

注(1) フィルタサインの時間設定はワイヤードリモコン室内機能「フィルタサイン設定」により下表の様に設定可能です。（工場出荷時は，設定１に設定されています）

フィルタサイン設定	機　　能
設定１	設定時間：180 時間（工場出荷時）
設定２	設定時間：600 時間
設定３	設定時間：1,000 時間
設定４	設定時間：1,000 時間（ユニット停止）(2)

(2) 設定４では，設定時間経過後フィルタ清掃を表示させ更に24時間（停止中もカウント）経過後ユニットを停止します。

(7) オートスイング制御

ご注意 RC-DX3F リモコンは，機能設定で「ドラフト防止設定」が有効の時，オートスイングを選択してもドラフト防止設定が有効なルーバはスイングせず水平位置となります。オートスイングさせる場合は「ドラフト防止設定」を解除してください。

RC-DX3F リモコン

(i) ルーバ制御

1） エアコンが運転している時に，ルーバを動かすときは，リモコンのTOP画面の「風向」ボタンをタッチすると風向切換画面が表示されます。

2） ルーバをスイングさせる場合は「オートスイング」ボタンをタッチしてください。ルーバが上下に連動して動きます。ルーバ位置を固定する場合は 1 ～ 4 ボタンをタッチしてください。ルーバが指定の位置でとまります。

3） ルーバ４位置制御機の電源投入時のルーバ動作
電源投入時，ルーバは自動的に（リモコン操作なし）1回スイングします。
これは，ルーバ位置をマイコンが確認するため，ルーバモータ（LM）の位置をマイコンに入力させるための動作です。

(ii) 暖房時のルーバ自動水平セット
ホットスタートおよび暖房サーモ時は，（コールドドラフトを防ぐため）オートスイング操作(オートスイングまたはルーバ停止)に関わらずルーバは水平位置となります。またルーバ位置の液晶は本制御に入る前の表示を継続します。

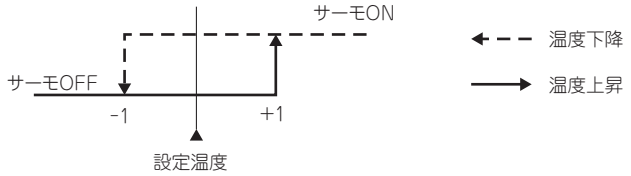
(iii) ルーバフリー停止制御
リモコンのTOP画面より「メニュー」→「サービス設定」→「リモコン設定メニュー #2」順にボタンをタッチして行くと「上下ルーバ制御」画面が表示されます。この画面にてフリー停止を選択するとリモコンより停止信号があった場合ルーバモータを停止します。さらにリモコンよりオートスイング信号があった場合，停止前の位置よりオートスイングを始めます。

(8) サーモ動作

(a) 冷房

(i) 室温制御（ファジー制御）によりサーモを動作させます。

(ii) 設定温度に対し，サーモONとOFFは次の通りです。

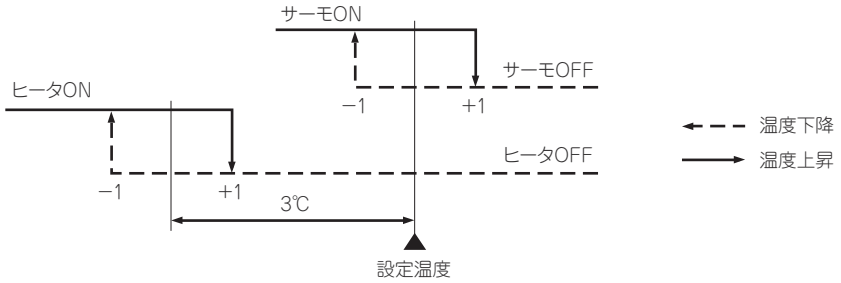


(iii) 冷房運転開始時（暖房から冷房も含む）室温が−1＜設定温度＜＋1の間はサーモONとします。

(b) 暖房

(i) 室温制御（ファジー制御）によりサーモを動作させます。

(ii) 設定温度に対し，サーモONとOFFは次の通りです。



(iii) 暖房運転開始時（冷房から暖房も含む）室温が−1＜設定温度＜＋1の間はサーモONとします。

(c) 暖房サーモ OFF 中のファン制御

(i) 暖房サーモOFF時のファン制御は下記がワイヤードリモコンの室内機能設定から選択が可能です。

① 弱風（工場出荷時） ② 設定風量 ③ 間欠 ④ 停止

(ii)「弱風（工場出荷時）を選択した場合下記のタップで運転します。

・DCモータの場合：ULoタップ

・ACモータの場合：Loタップ

(iii)「設定風量」を選択した場合、サーモOFF時も設定風量で運転します。

(iv)「間欠」を選択した場合，下記の制御を行います。

1) 暖房運転中にサーモOFFした室内ユニットは，室内ファンをOFFします。

2) 室内ファンOFFを5分間固定とし，5分後に室内ファンULo（Lo）運転を2分間行い，ここでルーバは水平制御とします。

3) 室内ファンULo（Lo）運転2分後に1）項へ移行します。

4) サーモONであれば，ホットスタート制御へ移行します。

5) 暖房サーモOFFとなった場合，リモコンに表示する温度は室内ファンが停止となった時点とし，以後，ファンがULo（Lo）→停止のタイミングでのみ更新します。
リモコンでは運転データ表示操作により温度表示を行い，ファンOFF中も値を更新します。

6) 暖房サーモOFF中にデフロストに入った場合，またはデフロスト中にサーモOFFした場合の室内ファンはOFFとします。（ホットスタート制御を優先する）ただし，吸込温度の更新は7分毎とします。

7) 暖房サーモONとなった場合，または他の運転モード（含む停止）に切換えた場合は，その時点で本制御を中止し，それから運転状態に復帰します。

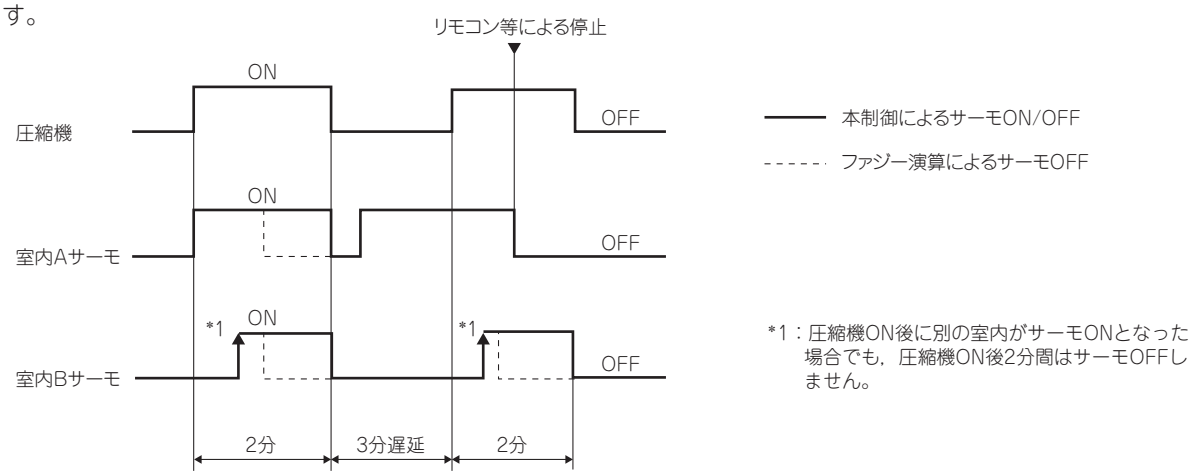
注(1) 本項のサーモOFF中とは暖房運転で要求周波数＝0rpsとなった時点から要求周波数≠0，かつアンサーバック周波数≠0となるまでの間をいいます。従って室外ユニットの制御による圧縮機OFF，または要求周波数≠0でアンサーバック周波数＝0の場合は本制御せず室内ファンはホットスタートによります。

注(2) （ ）内の室内ファンタップはACモータの場合を示します。

(v) 「停止」を選択した場合，サーモOFFした室内ユニットのファンをOFFします。
また、リモコンセンサ有効の場合もサーモOFFした室内ユニットのファンをOFFします。

(9) 圧縮機インチング防止制御

(a) 室内ユニットは一旦サーモONとなった場合は，(9)項でサーモOFFとなっても圧縮機ON後2分間 (*1) は，サーモOFFしません。圧縮機ON後2分以内にサーモOFFとなる場合は，その機種に定められた0rps以外の最低要求周波数を出力します。



(b) 室内ユニットは一旦サーモONとなった場合は，(9)項でサーモOFFとなってもサーモON後2分間は，サーモOFFしません。サーモON後2分以内にサーモOFFとなる場合は，その機種に定められた0rps以外の最低要求周波数を出力します。

(c) サーモON中に油戻し制御を開始したユニットは油戻し制御中に−1℃になってもサーモOFFしません。

(10) ドレンポンプ制御

(a) 冷房運転，自動の冷房および除湿運転にてインバータ周波数が0rps以外の場合に作動します。

(b) ドレンポンプがONし，(a)項によりOFFの領域となってから5分間ドレンポンプONを継続し，その後停止します。また，異常停止の場合も5分間遅延を継続します。

(c) 圧縮機ON→OFF時にドレンポンプを5分間遅延運転させます。

(d) 上記以外の状態（暖房，送風，停止，冷房サーモOFF）でもドレン検知によりドレンポンプ制御を行います。

(e) 油戻し制御の冷房時において，そのユニットのドレンポンプを油戻し制御時間＋5分遅延の間ONします。

(f) ワイヤードリモコン室内機能設定により下記設定が可能です。

(i) 標準：冷房時ドレンポンプON（出荷時）

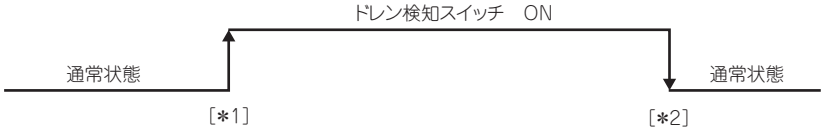
(ii) 暖房：(i)＋暖房時ドレンポンプON

(iii) 暖房　送風：(i)＋暖房時、送風時ドレンポンプON

(iv) 送風：(i)＋送風時ドレンポンプON

(11) ドレン異常検知

(a) フロートスイッチ（FS）とタイマによりドレン検知スイッチをON-OFFします。



[＊1]ドレン検知可能区間においてフロートスイッチ「開」を3秒間連続検知した時、ドレン検知スイッチを「ON」にします。

[＊2] フロートスイッチ「閉」を10秒間連続検知した時、ドレン検知スイッチを「OFF」にします。

(i) 電源ON後30秒以降常時検知します。

(ii) ドレンポンプOFF後10秒間はドレン異常検出を行ないません。

(iii) ドレン検知スイッチ「ON」により、ドレンポンプを強制ONにします。

(iv) ドレン検知スイッチ「OFF」により、ドレンポンプ強制ONを解除します。

(b) 室内ユニットは、各運転状態によりA制御またはB制御を行ないます。

	室内ユニットの運転モード				
	停止[1]	冷房	除湿	送風[2]	暖房
圧縮機ON中		A 制 御			
圧縮機OFF中	B 制 御				

注(1) 冷房，除湿，送風，暖房からの停止，異常停止を含む
(2) 運転モード不一致による「送風」運転を含む

(i) A制御
1) フロートスイッチがドレン異常を検知すると異常停止（E9 表示）します。異常検知後，ドレンポンプモータは ON を継続します。
2) フロートスイッチがドレン異常を検知している間は運転します。

(ii) B制御
フロートスイッチがドレン異常を検知するとドレンポンプモータを5分間ONしドレンポンプモータOFF後10秒の時点でフロートスイッチをチェックし正常ならば通常の停止，異常ならばE9を表示しドレンポンプモータをONします。（ドレン検知中はONのまま）

(12) 運転チェック／ドレンポンプ試運転モード

(a) 室内基板上のディップスイッチ（SW7-1）をON状態で電源を投入することにより運転チェック／ドレンポンプ試運転モードに入ります。なお，電源投入後の切換えは無効（禁止）です。

(b) ディップスイッチ（SW7-1）がONで電源投入後60秒以内にリモコン通信が確定した場合は，運転チェックモードに入ります。また，リモコン通信が確定しない場合は，ドレンポンプ試運転モードに入ります。
注 ドレンポンプ試運転モードを選択する場合は，室内基板上のリモコン用コネクタ（CnB）を抜きリモコン通信を断ってください。

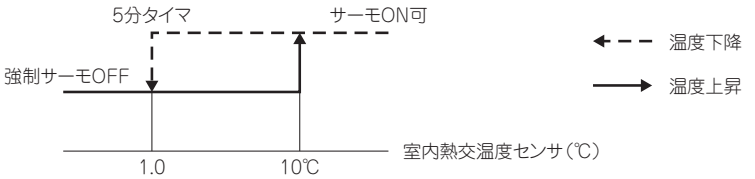
(c) 運転チェックモード
室外ユニットとの通信は行われず，リモコン操作により各運転モードを行います。

(d) ドレンポンプ試運転モード
ドレンポンプ試運転確定後ドレンポンプのみ運転を行い，運転中は，室内ユニットのマイコンによる保護機能は無効となります。

(13) 室内熱交換器アンチフロスト（凍結防止制御）

サーモOFF制御

(a) 「冷房」「除湿」運転中，室内熱交温度センサ（Thi-R1, 2）の検知温度により，サーモOFFを行います。



(b) 圧縮機ON後4分間は，凍結防止保護の強制圧縮機OFF制御を動作させません。圧縮機ON4分経過時点で，室内熱交温度センサ（Thi-R1，R2）の検知温度が，強制圧縮機OFF温度（1.0℃）以上の場合は，圧縮機ON可の状態から検知を開始します。

(c) 圧縮機ONから4分経過後，室内熱交温度センサ（Thi-R1，R2の何れか）が5分連続して強制圧縮機OFF温度（1.0℃）以下となると圧縮機をOFFさせます。
また，室内熱交温度センサ（Thi-R1，R2）の温度が10℃以上になると圧縮機をONさせます。

(d) 室外ユニットへ『アンチフロスト』信号を送ります。

(e) ワイヤードリモコン室内機能設定フロスト防止温度により強制圧縮機OFF温度の切換ができます。
温度 低：1.0℃（工場出荷時）
温度 高：2.5℃

・FDT, FDTC, FDKシリーズ
相対湿度が50%RH以下を連続3分間検知した場合，強制サーモOFF温度は下記となります。
温度 低：-0.5℃（工場出荷時）
温度 高： 1.0℃

⑭ 加湿器対応制御（オプション加湿器組込時の対応）

(a) ワイヤードリモコン室内機能設定で下記を設定し加湿器対応制御を行います。

(i) ドレンポンプ連動設定
(ii) 暖房ファン残留運転
(iii) 暖房ファン間欠運転
注 「残留運転」「間欠運転」両方を実施する場合は「残留運転」終了後「間欠運転」を行います。

(b) 開始条件

(i) 暖房運転休止（「暖房停止」または「暖房サーモ OFF」）になったとき。
(ii) 室外ユニットが「冷房モード」から「暖房モード」に変わったとき。

(c) 優先度

(i) ヒータ残留運転を優先します。
(ii) 暖房モーサOFF時のファン制御より本制御を優先します。
ただし，暖房サーモOFF時のファン制御において，設定風量選択時は，設定風量を優先します。
(iii) デフロスト中，室内熱交温度が25℃以下の場合は，室内ファンをOFFします。
(iv) 異常停止「E16」(ファンモータ異常)，「E20」(ファンモータ回転異常）「E63」(緊急停止）の場合はファンを停止します。
(v) その他異常停止時は本制御を行います。
注 室内熱交温度センサ（Thi-R3）が断線した場合は，温度条件が成立しないため停止します。温度情報に左右されない暖房ファン残留運転は行います。
(vi) 室外温度ユニットからの膨張弁開度指令を優先します。

(d) ドレンポンプ連動制御

(i) 開始条件
リモコン設定により下記のいずれかの条件時にドレンポンプをONします。
① 標準：冷房運転中〔冷房サーモ（圧縮機）ON〕
② 暖房：①＋暖房運転中〔冷房サーモ（圧縮機）ON，暖房サーモ（圧縮機）ON ／ OFF共〕
③ 暖房　送風：①＋暖房運転中＋送風運転中〔冷房サーモ（圧縮機）ON，暖房サーモ（圧縮機）ON ／ OFF共〕
④ 送風：①＋送風運転中〔冷房サーモ（圧縮機）ON ／ OFF共〕

(ii) 制御内容
・ドレンポンプを運転

	冷房サーモ（圧縮機）ON	冷房サーモ（圧縮機）OFF	暖房サーモ（圧縮機）ON	暖房サーモ（圧縮機）OFF	送風
①標準	○	×	×	×	×
②暖房	○	×	○	○	×
③暖房　送風	○	×	○	○	○
④送風	○	○	×	×	○

(iii) 終了条件
リモコン設定により下記のいずれかの条件が成立してから5分間ドレポンプはONを継続します。
① 運転停止（異常停止を含む）
② 上表の○→×に切換えた場合

(e) 暖房ファン残留運転：0.5時間

i 開始条件
(b)開始条件から30分間
ii 制御内容
① 風量弱で送風運転
② ルーバ位置水平（フリー停止，4位置によらず）
③ 90パルスに固定
④ 圧縮機OFF時も有効
(iii) 終了条件
① 30分経過後
② 運転を開始

(f) 暖房ファン残留運転：2時間／6時間

30分間は，「暖房ファン残留運転：0.5時間」を行います。

① 開始条件（下記条件を全て満たした場合）

1 『暖房ファン残留運転：0.5時間』終了後

2 (i)開始条件から120分間／360分間

3 室内熱交温度センサ（Thi-R3）温度が40℃以上

② 制御内容

1 風量弱で送風運転

2 ルーバ位置水平（フリー停止，4位置によらず）

3 90パルスに固定

③ 制御休止条件

1 室内熱交温度センサ（Thi-R3）温度が35℃未満に下がった場合120分／360分タイマーのカウントを止めて送風運転を停止します。

膨張弁は，『休止及び停止ユニットの膨張弁制御』によります。

④ 終了条件

1 積算で120分／360分経過後送風運転を停止します。

膨張弁は，『休止及び停止ユニットの膨張弁制御』によります。

2 運転を開始した場合

120分／360分タイマーをクリアして終了。

(g) 暖房ファン間欠運転

① 開始条件（下記条件が全て成立した場合）

1 (b)開始条件から

2 パネルスイッチ（CN-YまたはCN-V1-5）がONの時。

3 A 分毎に温度判定する。前回判定から A 分経過後，温度判定します。

制御	A
5休5風	10
20休5風	25

4 室内熱交温度センサ（Thi-R3）検知温度が＞25℃以上高い場合。

（間欠送風運転開始の都度判定し，判定後は次判定まで保持）

② 制御内容

1 ルーバ位置水平（フリー停止，4位置によらず）

2 風量弱で送風　5分運転。

③ 休止条件（下記いずれかが成立した場合）⇒次回判定まで休みます。

1 パネルスイッチ（CN-YまたはCN-V1-5）がON→OFF

2 デフロスト信号受信中

④ 終了条件

1 送風運転を積算し，600分間経過後　タイムUP

2 運転開始（停止→停止以外のモードへ変わった時）

3 室外ユニットが暖房から暖房以外のモードに変更の時。

(15) ファンモータ異常

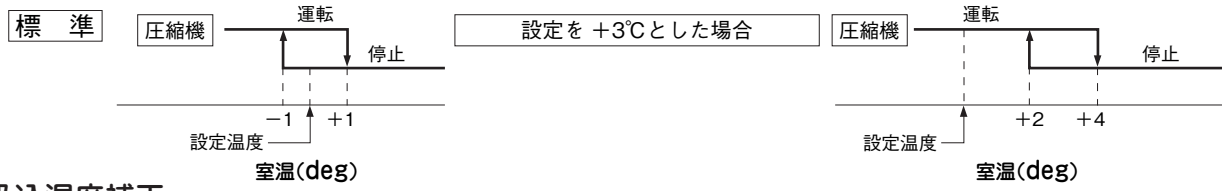
DCモータの場合

(i) ファンモータ運転後，30秒間運続して回転数が200min^{-1}未満を60分以内に4回検知した時は異常停止「E16」をします。

(ii) ファンモータが回転指令出力後，2分間連続して要求回転数-50min^{-1}（FDU形：500min^{-1}）に達しないことを検出すると，ファンモータ異常として異常停止「E20」します。

⑯ 暖房時室温検知温度補正

標準仕様では，サーモの設定温度で圧縮機をON ／ OFFしていますが天井に暖気がこもり易い据付状況で早目にサーモOFFしてしまう場合，ワイヤードリモコン室内機能「暖房室温補正」により設定の変更が可能です。設定温度+3，+2，+1℃のいずれかの温度で圧縮機およびヒータをON ／ OFFさせ，暖房フィーリング向上させることができます。ただし設定温度の上限を30℃とします。



⑰ 吸込温度補正

吸込温度センサの検知温度とユニット据付後の計測温度との誤差が生じて，補正が必要となった場合に補正する機能です。

(a) ワイヤードリモコン室内機能「吸込温度補正」により 0.5℃単位で変更が可能です。
・＋ 1.0℃，＋ 1.5℃，＋ 2.0℃　　・－ 1.0℃，－ 1.5℃，－ 2.0℃

(b) 補正後の温度をリモコンや室外ユニットに送信し，補正後の温度で制御を行います。
注　検知温度補正は室内ユニットセンサのみ有効です。

⑱ 風速制御

高天井に設置された室内ユニットで風量が不足する場合にファンタップを変更することにより風量のアップが可能です。
ワイヤードリモコン室内機能の「風速設定」によりファンタップが変更できます。

		室内風量設定				適用機種
		P急 - 急 - 強 - 弱	急 - 強 - 弱	急 - 弱	急 - 強	
風速設定	標準	UHi2 - Hi - Me - Lo	Hi - Me - Lo	Hi - Lo	Hi - Me	FDT, FDEシリーズ
		UHi1 - Hi - Me - ULo	Hi - Me - Lo	Hi - Lo	Hi - Me	上記以外
	設定１	UHi2 - UHi1 - Hi - Me	UHi1 - Hi - Me	UHi1 - Me	UHi1 - Hi	FDT, FDTC, FDTW, FDTS, FDKシリーズ
		UHi1 - Hi - Me - Lo	Hi - Me - Lo	Hi - Lo	Hi - Me	FDEシリーズ
		UHi1 - UHi1 - Hi - Me	UHi1 - Hi - Me	UHi1 - Me	UHi1 - Hi	上記以外
	設定２	UHi2 - Hi - Me - Lo	Hi - Me - Lo	Hi - Lo	Hi - Me	FDT, FDTC, FDTW, FDTS, FDE, FDKシリーズ

注(1)　出荷時標準に設定されています。
(2)　ホットスタートおよび暖房サーモOFF時等は室内ファンを各設定の低速タップで運転します。

⑲ 温度センサ（吸込・室内熱交）断線・短絡検知

(a) 断線検知

吸込温度センサが断線を連続 5 秒間検知した場合は異常停止（E7）します。室内熱交温度センサが，圧縮機 ON2 分後 20 秒間に断線を連続 5 秒間検知した場合は異常停止（E6）します。

(b) 短絡検知

室内熱交温度センサが，冷房運転で圧縮機 ON2 分後 20 秒間に短絡を連続 5 秒間検知した場合は異常停止（E6）します。

⑳ 外部入力（遠方表示）／遠方操作

外部入出力端子CNTおよび入力端子CNTAにより，運転状態の出力およびエアコンの発停入力をすることができます。

(a) 外部制御（遠方表示）用出力（オプションの遠方発停監視キットが利用できます。）

(i) 出荷状態の出力

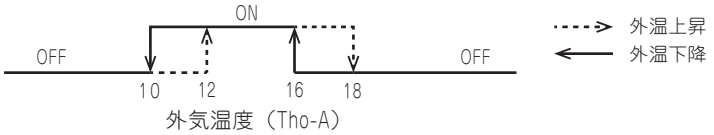
1) 室内制御基板上に下記の出力用コネクタ（CNT）を持っています。遠方発停監視キットを接続して各々の無電圧接点を取出してください。
2) 出荷状態では，以下の４つの出力が割当てられています。
・運転出力（CNT1-2）：運転中，リレー駆動用出力DC12Vを出力します。
・暖房出力（CNT1-3）：暖房運転中，かつサーモ ON 時リレー駆動用出力DC12Vを出力します。
・サーモ ON 出力（CNT1-4）：圧縮機が運転中，リレー駆動用出力DC12Vを出力します。
・異常出力（CNT1-5）：異常発生時，リレー駆動用出力DC12Vを出力します。

(ii) 出力コネクタの変更

1) ワイヤードリモコンの室内機能設定により，出力コネクタの変更および(iii)項の出荷状態以外の出力に変更することができます。ワイヤードリモコンRC-DX3A以降での設定は可能ですが，ワイヤードリモコンRC-D4Gでは設定ができません。
2) 設定は，ワイヤードリモコンの室内機能「外部出力設定 」で出力先を選択してください。ワイヤードリモコンでの設定名とコネクタは以下のようになります。
①外部出力１：CNT1-2　②外部出力2：CNT1-3　③外部出力3：CNT1-4 ④外部出力4：CNT1-5

(iii) 出荷状態以外の出力

1) 冷房出力：冷房モード中（自動の冷房運転，デフロスト，暖房油戻しを含む）に出力します。
2) ファン運転出力1：室内ファンの速度タップによらず，ファン運転中に出力します。
3) ファン運転出力2：室内ファンが，Hiタップ以上で運転中に出力します。
4) ファン運転出力3：室内ファンが，Hiタップ未満で運転中に出力します。
5) デフロスト，油戻し出力：室外ユニットからのデフロスト信号または，暖房油戻し信号を受信中に出力します。
6) 換気出力：ワイヤードリモコンからの換気指令により出力します。
7) ヒータ出力：(9)項の(b)条件により出力します。
8) フリークーリング出力
運転モードが冷房または送風の場合，外気温度により出力します。（外気導入による温度調整用）



9) 室内過負荷アラーム出力
運転開始30分以降で，設定温度と吸込温度の差が過負荷アラームで設定した温度差以上となった場合，出力します。
10) 冷媒漏えい出力：室内ユニットが冷媒漏えい検知中に出力します。
11) 遮断弁出力：使用できません

(b) 遠方操作用入力（CNT1-6 または CNTA1-2）

(i) リモコンによる設定方法

1) ワイヤードリモコンの室内機能設定により，運転/停止モードおよび入力方式を設定します。出荷状態で，外部入出力1，2の設定は運転/停止，外部入力1，2の方式はレベル入力となっています。

	入力端子	室内機能設定
		RC-DX3F（ワイヤードリモコン）
モード設定	CNT	外部入力１設定：運転/停止
	CNTA	外部入力２設定：運転/停止
入力方式	CNT	外部入力１方式：“レベル入力“または”パルス入力“
	CNTA	外部入力２方式：“レベル入力“または”パルス入力“

(ii) 外部入力による動作

1) 運転・停止の切換え

a) レベル入力の場合
外部入力ON（CNT1-6：閉またはCNTA1-2は閉）の場合は運転となります。
外部入力OFF（CNT1-6：開またはCNTA1-2は開）の場合は停止となります。

b) パルス入力の場合
外部入力（CNT1-6またはCNTA1-2）がOFF（開）からＯＮ（閉）のタイミングで運転と運転停止を反転します。

外部入力機能切換	外部入力方式	動作	
運転/停止	①レベル	外部端子入力（CNTまたはCNTA）	
		運転/停止	
		運転/停止（競合）	
	②パルス	外部端子入力（CNTまたはCNTA）	
		運転/停止	
		運転/停止（競合）	

(iii) 注意事項

1) ワイヤードリモコンは必ず接続してください。ワイヤードリモコンを接続しないと，本制御は行えません。

2) エアコンの操作が「センターモード」となっている時は，CNT または CNTA による遠方操作は無効となります。

3) コネクタの部品番号（別売品，配線長さ 500mm）

コネクタ	部品番号
CNT	PCZ006A043
CNTA	PCZ006A053

4) ワイヤードリモコンRC-DX3Fの機能設定「外部入力設定：全台」に設定することにより，1台の室内ユニットへの入力により，同じワイヤードリモコンに接続された複数の室内ユニットを同時に運転/停止します。
「外部入力設定：個別」の場合(出荷時設定)，入力を入れる室内ユニットのみ運転/停止します。

(21) 運転許可・禁止（コインタイマー用制御）

リモコンで設定を変更することで，(20)項の遠方制御/遠方操作用端子CNT，CNTAの機能切換えを行い，外部信号の入力によりエアコンの操作可能・操作不可を制御することができます。
市販のコインタイマーの信号等によりエアコン使用可能・使用不可を制御することが出来ます。

(i) リモコンによる設定方法

1) ワイヤードリモコンの室内機能設定により，運転許可・禁止モードおよび入力方式を設定します。

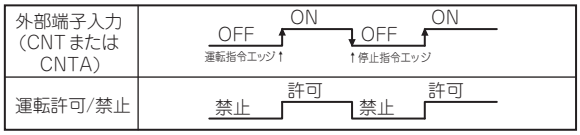
	入力端子	室内機能設定
		RC-DX3F（ワイヤードリモコン）
モード設定	CNT	外部入力１設定：許可/禁止
	CNTA	外部入力２設定：許可/禁止
入力方式	CNT	外部入力１方式：“レベル入力“または”パルス入力“
	CNTA	外部入力２方式：“レベル入力“または”パルス入力“

(ii) 外部入力による動作

1) 運転許可・禁止の切換え

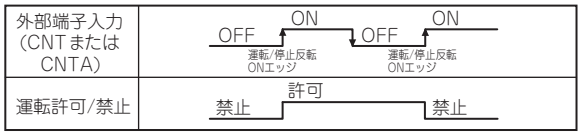
a) レベル入力の場合

外部入力ON（CNT1-6：閉またはCNTA1-2閉）の場合は，運転許可となります。
外部入力OFF（CNT1-6：開またはCNTA1-2開）の場合は，運転禁止となります。



b) パルス入力の場合

外部入力（CNT1-6またはCNTA1-2）がOFF（開）からＯＮ（閉）のタイミングで運転許可と運転禁止を反転します。



2) 運転許可の場合の動作

a) エアコンは，リモコンからの操作が可能です。

b) 「センター」モード設定時は，センターからのみ操作可能がとなります。

3) 運転禁止時の場合の動作

a) エアコンは，リモコンからの操作ができません。

b) エアコン運転中に運転禁止となった場合は，エアコンは停止します。

(iii) 注意事項

1) ワイヤードリモコンは，必ず接続してください。ワイヤードリモコンを接続しないと，本制御は行えません。

㉒ 冷房・暖房外部入力機能切換え

リモコンで設定変更することで，(20)項の遠方制御/遠方操作用端子CNT，CNTA の機能切換えを行い，外部信号の入力により運転モードを冷房/暖房に切換えることができます。

ⓐ リモコンによる設定方法

（i）ワイヤードリモコンの室内機能設定により，冷房/暖房モードおよび入力方式を設定します。

	入力端子	室内機能設定（RC-DX3Fワイヤードリモコン）
モード設定	CNT	外部入力１設定：冷房/暖房
	CNTA	外部入力２設定：冷房/暖房
入力方式	CNT	外部入力１方式："レベル入力"または"パルス入力"
	CNTA	外部入力２方式："レベル入力"または"パルス入力"

ⓑ 外部入力による動作

（i）冷房/暖房の切換え

1） レベル入力の場合

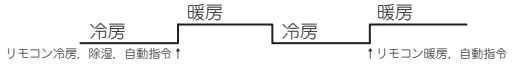
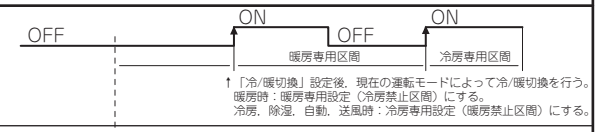
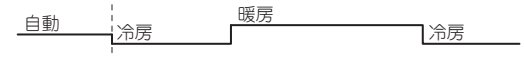
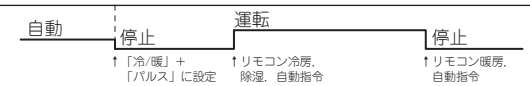
a） 外部入力ON（CNT1-6：閉またはCNTA1-2:閉）の場合は暖房となります。

b） 外部入力OFF（CNT1-6：開またはCNTA1-2:開）の場合は冷房となります。

2） パルス入力の場合

外部入力（CNT1-6またはCNTA1-2）がOFF（開）からＯＮ（閉）のタイミングで冷房と暖房を反転します。

ⓒ 外部入力により冷房 / 暖房の切換えを受けた場合は，リモコンに運転モードを送信します。

外部入力機能切換え	外部入力方式	動作	
冷房/暖房切換え	⑤レベル	外部端子入力（CNT または CNTA）	
		冷房/暖房	
		冷房/暖房（競合）	
	⑥パルス	外部端子入力（CNT または CNTA）	
		冷房/暖房	
		冷房/暖房（競合）	

ⓓ 注意事項

（i） ワイヤードリモコンは必ず接続してください。ワイヤードリモコンを接続しないと本制御は行えません。

㉓ 設定温度シフト入力

リモコンで設定変更することで，(20)項の遠方制御/遠方操作用端子CNT，CNTA の機能切換えを行い，外部信号の入力により運転モードを設定温度シフト入力に切換えることができます。

ⓐ リモコンによる設定方法

（i）ワイヤードリモコンの室内機能設定により，設定温度シフト入力モードおよび入力方式を設定します。

	入力端子	室内機能設定（RC-DX3Fワイヤードリモコン）
モード設定	CNT	外部入力１設定：制御が有効
	CNTA	外部入力２設定：制御が有効
入力方式	CNT	外部入力１方式："レベル入力"または"パルス入力"
	CNTA	外部入力２方式："レベル入力"または"パルス入力"

ⓑ 外部入力による動作

（i）設定温度シフト入力の切換え

1） レベル入力の場合

a） 外部入力ON（CNT1-6：閉またはCNTA1-2:閉）の場合は制御が有効となります。

b） 外部入力OFF（CNT1-6：開またはCNTA1-2:開）の場合は制御が無効となります。

2） パルス入力の場合

外部入力（CNT1-6またはCNTA1-2）がOFF（開）からＯＮ（閉）のタイミングで制御の有効／無効を反転します。

（ii）注意事項

1） ワイヤードリモコンは，必ず接続してください。ワイヤードリモコンを接続しないと，本制御は行えません。

⑵④ 強制サーモ OFF 入力

リモコンで設定変更することで，(20)項の遠方制御/遠方操作用端子CNT，CNTA の機能切換えを行い，外部信号の入力により運転モードを強制サーモOFF入力に切換えることができます。

ⓐ リモコンによる設定方法

（i）ワイヤードリモコンの室内機能設定により，強制サーモOFF入力モードおよび入力方式を設定します。

	入力端子	室内機能設定（RC-DX3Fワイヤードリモコン）
モード設定	CNT	外部入力１設定：制御が有効
	CNTA	外部入力２設定：制御が有効
入力方式	CNT	外部入力１方式："レベル入力"または"パルス入力"
	CNTA	外部入力２方式："レベル入力"または"パルス入力"

ⓑ 外部入力による動作

（i）強制サーモOFF入力の切換え

1） レベル入力の場合

a） 外部入力ON（CNT1-6：閉またはCNTA1-2:閉）の場合は制御が有効となります。

b） 外部入力OFF（CNT1-6：開またはCNTA1-2:開）の場合は制御が無効となります。

2） パルス入力の場合

外部入力（CNT1-6またはCNTA1-2）がOFF（開）からＯＮ（閉）のタイミングで制御の有効／無効を反転します。

（ii）注意事項

1） ワイヤードリモコンは，必ず接続してください。ワイヤードリモコンを接続しないと，本制御は行えません。

⑵⑤ 一時停止入力

リモコンで設定変更することで，(20)項の遠方制御/遠方操作用端子CNT，CNTA の機能切換えを行い，外部信号の入力により運転モードを一時停止入力に切換えることができます。

ⓐ リモコンによる設定方法

（i）ワイヤードリモコンの室内機能設定により，一時停止入力モードおよび入力方式を設定します。

	入力端子	室内機能設定（RC-DX3Fワイヤードリモコン）
モード設定	CNT	外部入力１設定：制御が有効
	CNTA	外部入力２設定：制御が有効
入力方式	CNT	外部入力１方式："レベル入力"または"パルス入力"
	CNTA	外部入力２方式："レベル入力"または"パルス入力"

ⓑ 外部入力による動作

（i） 一時停止入力の切換え

1） レベル入力の場合

a） 外部入力ON（CNT1-6：閉またはCNTA1-2:閉）の場合は制御が有効となります。

b） 外部入力OFF（CNT1-6：開またはCNTA1-2:開）の場合は制御が無効となります。

2） パルス入力の場合

外部入力（CNT1-6またはCNTA1-2）がOFF（開）からＯＮ（閉）のタイミングで制御の有効／無効を反転します。

（ii） 注意事項

1） ワイヤードリモコンは，必ず接続してください。ワイヤードリモコンを接続しないと，本制御は行えません。

⑵⑥ 静音モード入力

リモコンで設定変更することで，(20)項の遠方制御/遠方操作用端子CNT，CNTA の機能切換えを行い，外部信号の入力により運転モードを静音モード入力に切換えることができます。

ⓐ リモコンによる設定方法

（i）ワイヤードリモコンの室内機能設定により，静音モードおよび入力方式を設定します。

	入力端子	室内機能設定（RC-DX3Fワイヤードリモコン）
モード設定	CNT	外部入力１設定：制御が有効
	CNTA	外部入力２設定：制御が有効
入力方式	CNT	外部入力１方式："レベル入力"または"パルス入力"
	CNTA	外部入力２方式："レベル入力"または"パルス入力"

(b) 外部入力による動作

（i）静音モード入力の切換え

1） レベル入力の場合

a） 外部入力ON（CNT1-6：閉またはCNTA1-2:閉）の場合は制御が有効となります。

b） 外部入力OFF（CNT1-6：開またはCNTA1-2:開）の場合は制御が無効となります。

2） パルス入力の場合

外部入力（CNT1-6またはCNTA1-2）がOFF（開）からＯＮ（閉）のタイミングで制御の有効／無効を反転します。

（ii） 注意事項

1） ワイヤードリモコンは，必ず接続してください。ワイヤードリモコンを接続しないと，本制御は行えません。

(27) 緊急停止信号処理

リモコンで設定変更することで、(20) 項の遠方制御 / 遠方操作用端子 CNT、CNTA の機能切換えを行い、外部信号の入力により、室外ユニットを緊急停止させます。

(a) リモコンによる設定方法

ワイヤードリモコンの室内機能設定により、緊急停止モードを設定します。

	入力端子	室内機能設定
		RC-DX3F
モード設定	CNT	外部入力 1 設定：緊急停止
	CNTA	外部入力 2 設定：緊急停止

(b) 緊急停止信号による動作

外部入力 OFF(CNT1-6 または CNTA1-2：開) の場合、緊急停止します。

入力を入れた室内ユニットは停止し、接続している室外ユニットは [E-63] を発報して緊急停止します。

(28) 冷媒漏えい入力（RC-DX3F のみ ）

リモコンで設定変更することで , (20) 項の遠方制御 / 遠方操作用端子 CNT, CNTA の機能を切換え , 外部信号の入力により冷媒漏えい時の動作を行います。

他社製の冷媒漏えい検知器を接続することが出来ます。

(a) リモコンによる設定方法

ワイヤードリモコンの室内機能設定により , 冷媒漏えい入力モードを設定します。

	入力端子	室内機能設定 (RC-DX3F ワイヤードリモコン)
モード設定	CNT	外部入力 1 設定 : 制御が有効
	CNTA	外部入力 2 設定 : 制御が有効
入力方式	CNT	外部入力 1 方式 : “レベル入力”
	CNTA	外部入力 2 方式 : “レベル入力”

(b) 冷媒漏えい信号による動作

外部入力 ON(CNT1-6：閉または CNTA1-2：閉) の場合、冷媒漏えい検知時の制御が有効になります。詳細は「(44) 冷媒漏えい検知」、または、安全対策マニュアル「冷媒漏えい時について」を参照してください。

(c) 注意事項

ワイヤードリモコンは , 必ず接続してください。ワイヤードリモコンを接続しないと , 本制御は行えません。

⑵⑼ 外部入力機能と優先順位

⑻ CNT と CNTA の組合せ優先順位

				CNTA								
				運転停止		運転許可/禁止		冷暖切換		緊急停止	設定温度シフト	
				レベル	パルス	レベル	パルス	レベル	パルス		レベル	パルス
				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
CNT	運転停止	レベル	①	CNT①	CNT①	CNT①+CNTA③	CNT①	CNT①/CNTA⑤	CNT①/CNTA⑥	CNT①<CNTA⑦	CNT①/CNTA⑧	CNT①/CNTA⑨
		パルス	②	CNT②	CNT②	CNT②+CNTA③	CNT②	CNT②/CNTA⑤	CNT②/CNTA⑥	CNT②<CNTA⑦	CNT②/CNTA⑧	CNT②/CNTA⑨
	運転許可/禁止	レベル	③	CNT③>CNTA①	CNT③>CNTA②	CNT③+CNTA③	CNT③	CNT③/CNTA⑤	CNT③/CNTA⑥	CNT③<CNTA⑦	CNT③/CNTA⑧	CNT③/CNTA⑨
		パルス	④	CNT④	CNT④	CNT④+CNTA③	CNT④	CNT④/CNTA⑤	CNT④/CNTA⑥	CNT④<CNTA⑦	CNT④/CNTA⑧	CNT④/CNTA⑨
	冷暖切換	レベル	⑤	CNT⑤/CNTA①	CNT⑤/CNTA②	CNT⑤/CNTA③	CNT⑤/CNTA④	CNT⑤	CNT⑤	CNT⑤/CNTA⑦	CNT⑤/CNTA⑧	CNT⑤/CNTA⑨
		パルス	⑥	CNT⑥/CNTA①	CNT⑥/CNTA②	CNT⑥/CNTA③	CNT⑥/CNTA④	CNT⑥	CNT⑥	CNT⑥/CNTA⑦	CNT⑥/CNTA⑧	CNT⑥/CNTA⑨
	緊急停止		⑦	CNT⑦>CNTA①	CNT⑦>CNTA②	CNT⑦>CNTA③	CNT⑦>CNTA④	CNT⑦/CNTA⑤	CNT⑦/CNTA⑥	CNT⑦+CNTA⑦	CNT⑦/CNTA⑧	CNT⑦/CNTA⑨
	設定温度シフト	レベル	⑧	CNT⑧/CNTA①	CNT⑧/CNTA②	CNT⑧/CNTA③	CNT⑧/CNTA④	CNT⑧/CNTA⑤	CNT⑧/CNTA⑥	CNT⑧/CNTA⑦	CNT⑧	CNT⑧
		パルス	⑨	CNT⑨/CNTA①	CNT⑨/CNTA②	CNT⑨/CNTA③	CNT⑨/CNTA④	CNT⑨/CNTA⑤	CNT⑨/CNTA⑥	CNT⑨/CNTA⑦	CNT⑨	CNT⑨
	強制サーモOFF	レベル	⑩	CNT⑩/CNTA①	CNT⑩/CNTA②	CNT⑩/CNTA③	CNT⑩/CNTA④	CNT⑩/CNTA⑤	CNT⑩/CNTA⑥	CNT⑩/CNTA⑦	CNT⑩/CNTA⑧	CNT⑩/CNTA⑨
		パルス	⑪	CNT⑪/CNTA①	CNT⑪/CNTA②	CNT⑪/CNTA③	CNT⑪/CNTA④	CNT⑪/CNTA⑤	CNT⑪/CNTA⑥	CNT⑪/CNTA⑦	CNT⑪/CNTA⑧	CNT⑪/CNTA⑨
	一時停止	レベル	⑫	CNT⑫/CNTA①	CNT⑫/CNTA②	CNT⑫/CNTA③	CNT⑫/CNTA④	CNT⑫/CNTA⑤	CNT⑫/CNTA⑥	CNT⑫/CNTA⑦	CNT⑫/CNTA⑧	CNT⑫/CNTA⑨
		パルス	⑬	CNT⑬/CNTA①	CNT⑬/CNTA②	CNT⑬/CNTA③	CNT⑬/CNTA④	CNT⑬/CNTA⑤	CNT⑬/CNTA⑥	CNT⑬/CNTA⑦	CNT⑬/CNTA⑧	CNT⑬/CNTA⑨
	静音モード	レベル	⑭	CNT⑭/CNTA①	CNT⑭/CNTA②	CNT⑭/CNTA③	CNT⑭/CNTA④	CNT⑭/CNTA⑤	CNT⑭/CNTA⑥	CNT⑭/CNTA⑦	CNT⑭/CNTA⑧	CNT⑭/CNTA⑨
		パルス	⑮	CNT⑮/CNTA①	CNT⑮/CNTA②	CNT⑮/CNTA③	CNT⑮/CNTA④	CNT⑮/CNTA⑤	CNT⑮/CNTA⑥	CNT⑮/CNTA⑦	CNT⑮/CNTA⑧	CNT⑮/CNTA⑨
	冷媒漏えい	レベル	⑯	CNT⑯/CNTA①	CNT⑯/CNTA②	CNT⑯/CNTA③	CNT⑯/CNTA④	CNT⑯/CNTA⑤	CNT⑯/CNTA⑥	CNT⑯/CNTA⑦	CNT⑯/CNTA⑧	CNT⑯/CNTA⑨

				CNTA						
				強制サーモOFF		一時停止		静音モード		冷媒漏洩
				レベル	パルス	レベル	パルス	レベル	パルス	レベル
				⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯
CNT	運転停止	レベル	①	CNT①/CNTA⑩	CNT①/CNTA⑪	CNT①/CNTA⑫	CNT①/CNTA⑬	CNT①/CNTA⑭	CNT①/CNTA⑮	CNT①/CNTA⑯
		パルス	②	CNT②/CNTA⑩	CNT②/CNTA⑪	CNT②/CNTA⑫	CNT②/CNTA⑬	CNT②/CNTA⑭	CNT②/CNTA⑮	CNT②/CNTA⑯
	運転許可/禁止	レベル	③	CNT③/CNTA⑩	CNT③/CNTA⑪	CNT③/CNTA⑫	CNT③/CNTA⑬	CNT③/CNTA⑭	CNT③/CNTA⑮	CNT③/CNTA⑯
		パルス	④	CNT④/CNTA⑩	CNT④/CNTA⑪	CNT④/CNTA⑫	CNT④/CNTA⑬	CNT④/CNTA⑭	CNT④/CNTA⑮	CNT④/CNTA⑯
	冷暖切換	レベル	⑤	CNT⑤/CNTA⑩	CNT⑤/CNTA⑪	CNT⑤/CNTA⑫	CNT⑤/CNTA⑬	CNT⑤/CNTA⑭	CNT⑤/CNTA⑮	CNT⑤/CNTA⑯
		パルス	⑥	CNT⑥/CNTA⑩	CNT⑥/CNTA⑪	CNT⑥/CNTA⑫	CNT⑥/CNTA⑬	CNT⑥/CNTA⑭	CNT⑥/CNTA⑮	CNT⑥/CNTA⑯
	緊急停止		⑦	CNT⑦/CNTA⑩	CNT⑦/CNTA⑪	CNT⑦/CNTA⑫	CNT⑦/CNTA⑬	CNT⑦/CNTA⑭	CNT⑦/CNTA⑮	CNT⑦/CNTA⑯
	設定温度シフト	レベル	⑧	CNT⑧/CNTA⑩	CNT⑧/CNTA⑪	CNT⑧/CNTA⑫	CNT⑧/CNTA⑬	CNT⑧/CNTA⑭	CNT⑧/CNTA⑮	CNT⑧/CNTA⑯
		パルス	⑨	CNT⑨/CNTA⑩	CNT⑨/CNTA⑪	CNT⑨/CNTA⑫	CNT⑨/CNTA⑬	CNT⑨/CNTA⑭	CNT⑨/CNTA⑮	CNT⑨/CNTA⑯
	強制サーモOFF	レベル	⑩	CNT⑩	CNT⑩	CNT⑩/CNTA⑫	CNT⑩/CNTA⑬	CNT⑩/CNTA⑭	CNT⑩/CNTA⑮	CNT⑩/CNTA⑯
		パルス	⑪	CNT⑪	CNT⑪	CNT⑪/CNTA⑫	CNT⑪/CNTA⑬	CNT⑪/CNTA⑭	CNT⑪/CNTA⑮	CNT⑪/CNTA⑯
	一時停止	レベル	⑫	CNT⑫/CNTA⑩	CNT⑫/CNTA⑪	CNT⑫	CNT⑫	CNT⑫/CNTA⑭	CNT⑫/CNTA⑮	CNT⑫/CNTA⑯
		パルス	⑬	CNT⑬/CNTA⑩	CNT⑬/CNTA⑪	CNT⑬	CNT⑬	CNT⑬/CNTA⑭	CNT⑬/CNTA⑮	CNT⑬/CNTA⑯
	静音モード	レベル	⑭	CNT⑭/CNTA⑩	CNT⑭/CNTA⑪	CNT⑭/CNTA⑫	CNT⑭/CNTA⑬	CNT⑭	CNT⑭	CNT⑭/CNTA⑯
		パルス	⑮	CNT⑮/CNTA⑩	CNT⑮/CNTA⑪	CNT⑮/CNTA⑫	CNT⑮/CNTA⑬	CNT⑮	CNT⑮	CNT⑮/CNTA⑯
	冷媒漏えい	レベル	⑯	CNT⑯/CNTA⑩	CNT⑯/CNTA⑪	CNT⑯/CNTA⑫	CNT⑯/CNTA⑬	CNT⑯/CNTA⑭	CNT⑯/CNTA⑮	CNT⑯+CNTA⑯

注 ※部のCNTAによる運転禁止設定中は，以下の運転指令を受け付けます。
・リモコンからの個別運転指令,室外からの試運転指令およびオプションからの運転指令

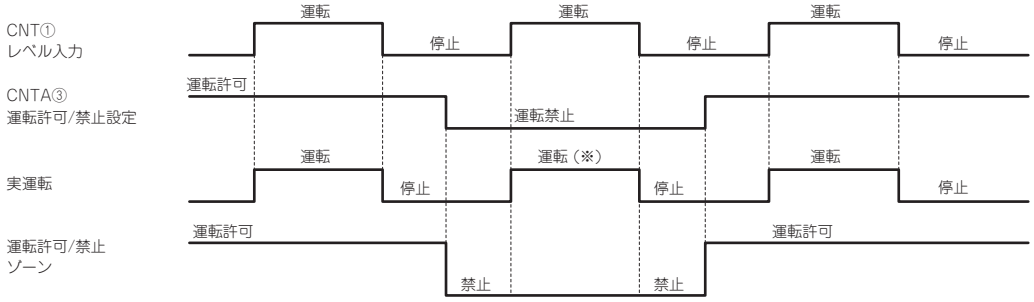
参考:上記記号および組合せ記号の説明

1. CNT"番号"の場合，CNT"番号"採用しCNTAを無効とする。
2. CNTA"番号"の場合，CNTA"番号"採用しCNTを無効とする。
3. CNT"番号"／CNTA"番号"の場合，CNT"番号"とCNTA"番号"は共に独立した機能とする。
4. CNT"番号"+CNTA"番号"の場合，CNT"番号"とCNTA"番号"は競合機能
5. CNT"番号">CNTA"番号"の場合，CNT"番号"はCNTA"番号"より機能の優先順位が高い。
6. CNT"番号"<CNTA"番号"の場合，CNTA"番号"はCNT"番号"より機能の優先順位が高い。

（上記"番号"の部分には,①～⑯の番号が入ります。）

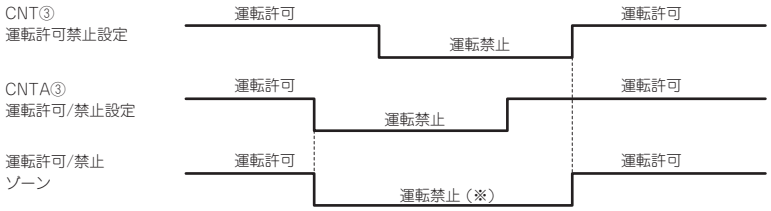
⑼ CNTとCNTAでの優先順位例

（ⅰ） CNT①運転停止レベル＞CNTA③運転許可／禁止レベルの場合



（※）CNTレベル入力をCNTA運転禁止よりも優先する。

(ii) CNT③運転許可／禁止レベル + CNTA③運転許可／禁止レベルの場合



（※）運転禁止ゾーンはCNT運転禁止ゾーンとCNTA運転禁止ゾーンのOR判定とする。

⑶0 グリル昇降制御

・子リモコンでは操作できません。親リモコンで操作してください。
・オートリフトモード中は、エアコンは運転可能です。（除く上昇・下降中）

(a) オートリフトモード

リモコンの「グリル自動昇降」を押すことにより、室内ユニットは停止し、オートリフトモードになります。

(b) グリル下降制御

リモコンの下降信号により、設定された長さに相当する時間分、グリルが下降します。
設定された長さに相当する時間以上になった場合、それ以上グリルは下降しません。

(c) グリル上昇制御

リモコンの上昇信号により、グリルが上昇します。パネルスイッチが ON になるまでか，または、設定された長さに相当する時間分、グリルが上昇し、グリル収納制御を行います。

(d) グリル収納制御

グリル上昇制御でパネルスイッチが ON になるか、設定された長さに相当する時間になったら、グリル収納制御を行います。収納位置を補正するため、下降・上昇制御を 2 回繰り返します。

(e) ワイヤゆるみ検知機構

(i) グリル停止中に、ワイヤ緩み検知スイッチが OFF の場合は、グリル上昇制御・下降制御を行いません。
(ii) グリル上昇制御・下降制御・グリル収納制御中に、ワイヤ緩み検知スイッチが OFF した場合は、1 秒後にグリル昇降モータを OFF します。
(iii) (ii)でモータ停止後、ワイヤ緩み検知スイッチが ON になると、再度リモコンにより上昇制御・下降制御を行います。

(f) グリル開時のエラー表示（お掃除パネル対応機のみ）

エアコン運転中に 1 秒以上パネルスイッチ〔PS〕が開を検知した場合エアコンを停止し，リモコンに E21 を表示します。
注　リモコンによる自動下降制御で，自動昇降モードに入っている場合は除きます。

⑶1 複数台制御 ―― 1 リモコンによる 16 台グループ制御

(a) 機　　能

1個のリモコンスイッチで複数台のユニット（室内ユニット・最大16台）をグループ制御できます。リモコンスイッチでセットした「運転モード」でグループの全ユニットは号機No.順に順次運転・停止させることができます。
各ユニットのサーモ，保護機能は独立して機能します。
注　号機No.は室内制御基板上のロータリスイッチSW1，SW2，ディップスイッチSW5-2で設定します。

(b) リモコンへの表示

(i) **センターまたはリモート別，暖房準備：**運転中のユニットでリモートモードの（リモートモードが無い時は，センターモード）最若号機ユニットの表示
(ii) **点検表示，フィルターサイン：**いずれか初発のユニット対応で表示

(c) 接続ユニットの確認

・RC-DX3Fリモコン
リモコンのTOP画面より「メニュー」→「サービス設定」→「サービス・メンテナンス」→「サービスパスワード」入力→「エアコンNo.表示」の順にボタンをタッチして行くと接続室内ユニットが表示されます。

(d) 異常時

(i) グループの一部ユニットに異常が発生した場合（保護装置作動）当該ユニットは異常停止しますが，他の正常なユニットはそのまま運転を継続します。

(ii) 配線要領

各ユニットの室内・外接続線は各ユニット毎に通常と同じ配線をしてください。グループ制御用にリモコンの端子台（X，Y）を使用し各室内ユニット間に渡り配線をしてください。

リモコン信号用配線は電源電線または他の電気機械器具電線（AC100V以上）とは分離して配線してください。

(32) お掃除パネル対応機能制御

(a) フィルタサイン

(i) 運転時間（「運転／停止」スイッチがONとなっている時間）が下記設定時間になると，リモコンの液晶に「フィルタ清掃」を表示します。（運転・停止に関係なく，故障時，集中制御時も表示します。）

注　フィルタサインの時間設定は，ワイヤードリモコン室内機能「フィルタサイン設定」により下表のように設定可能です。

フィルタサイン設定	機　　能
設定１	設定時間：1,000時間
設定２	設定時間：2,000時間
設定３	設定時間：2,500時間
設定４	設定時間：2,500時間（ユニット停止）

注(1) 設定4では，設定時間経過後フィルタ清掃を表示させ，更に24時間（停止中も含む）経過後ユニットを停止します。
(2) RC-DX3Fリモコンは工場出荷時の設定はされていません。

(ii) フィルタサインが点灯すると，お掃除パネルは，表示部に黄色を点灯します。RC-DX3Fリモコンは，「ホコリを回収してください」を表示します。

(33) ハイパワー運転

最大能力で，最長15分間運転します。

(34) 省エネ運転

設定温度を冷房28℃，暖房22℃，自動25℃で固定して運転します。

ワイヤードリモコンの機能設定「冷房/暖房ファン制御：設定風量」で，サーモOFFする場合，室内ファンをULoで運転します。

(35) ピークカットタイマー

最大能力を制限することで消費電力を削限します。

(36) ウォームアップ制御

運転開始設定時間にお部屋が設定温度近くになるように，マイコンが運転開始時間を予測して，5 ～ 60分前から運転を開始します。

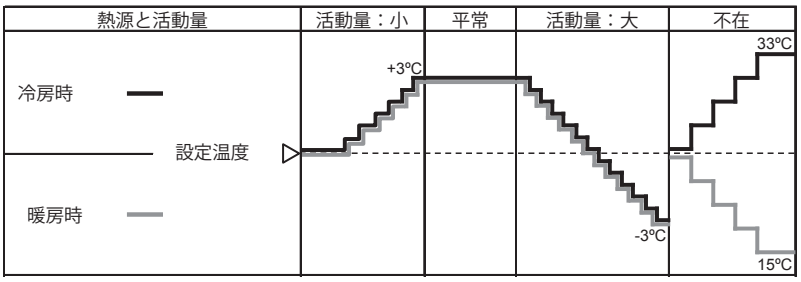
㈶ 人感センサ制御

人感センサにより人の有無および活動量をセンサで判定し，下記制御を行います。

① パワーコントロール制御（省エネ制御/快適制御）

人感センサにより人の活動量および人の有無を検知し，設定温度を補正します。

運転モード（自動／冷房／暖房）と制御

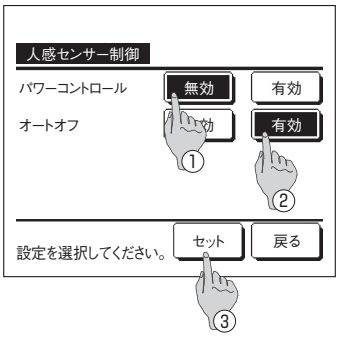


② オートオフ制御

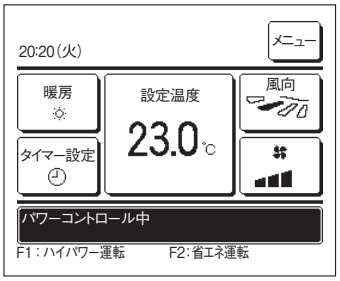
1時間不在の場合は，運転を停止して運転待機状態となります。待機状態が12時間継続した場合は，運転を停止します。

⒜ RC-DX3Fから設定する場合

設定は、TOP画面の「メニュー」より「メニュー画面」→「サービス設定」→「据付設定」→「サービスパスワード」→「据付設定メニュー」→「人感センサー設定」の順に選択し、有効・無効の設定をしてください。
次に「メニュー画面」→「省エネ設定」→「人感センサー制御」を選択します。

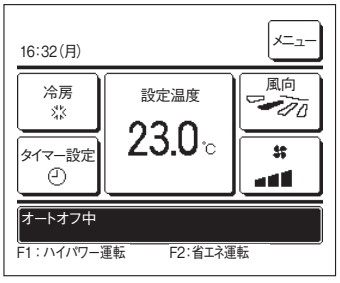


①パワーコントロールの有効/無効を設定します。
②オートオフの有効/無効を設定します。
③各項目設定後、セットボタンをタッチしてください。
省エネ設定メニュー画面に戻ります。



・パワーコントロール有効の場合

設定温度を補正中はメッセージ表示部に「パワーコントロール中」を表示します。



・オートオフ有効の場合

『運転待機』･･･エアコンは停止しますが、人が戻ると運転を再開します。
メッセージ表示部に「オートオフ中」を表示します。
『完全停止』･･･エアコンを停止します。人が戻っても運転を再開しません。
メッセージ表示部の「オートオフ中」表示が消え、運転ランプが消灯します。

(b) ワイヤレスリモコンから設定する場合

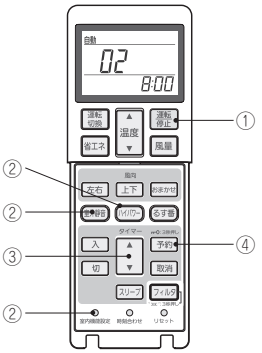
(i) 室内機能設定のしかた

① 運転/停止を押し、停止状態にします。

② 室内機能設定スイッチを押しながら、(ii)項に示すボタンを押します。

③ 選択ボタン▲、▼で設定を変更します。

④ 予約ボタンを押します。
リモコン信号受信部より、ピッピッと２回ブザーが鳴り、
LEDは２秒毎に４回点滅します。



(ii) 設定内容

ボタン	番号表示部	機能設定
室外静音	00	人感センサ設定：無効
	01	人感センサ設定：有効
ハイパワー	00	人感センサ制御：無効
	01	人感センサ制御：パワーコントロールのみ
	02	人感センサ制御：オートオフのみ
	03	人感センサ制御：パワーコントロール＋オートオフ

(38) 省エネモード設定（RC-DX3F のみ）

リモコンの設定温度と室温に応じて自動的に出力を制御します。「省エネモード」と「エコレベル」を設定することで設置状況に応じた省エネ運転を行います。詳細は室外ユニット技術資料を参照してください。

(a) 省エネモード

(i) エコ

省エネ効果の最も高いモードです。建物内の冷暖房需要が少ない場合に適しています。

(ii) バランス

能力と省エネ運転の間で最もバランスのとれたモードです。建物内の各部屋で冷暖房の需要が異なる場合に適しています。

(iii) スタンダード

能力が最大化されるモードです。建物内の冷暖房需要が多い場合に適しています。

(b) エコレベル

下記4つのエコレベルから選択してください。

省エネ性能：レベル4 > レベル3 > レベル2 > レベル1

エコレベルは「エコモード」「スタンダードモード」の場合に選択できます。

(39) 安全遮断弁チェック運転（RC-DX3F のみ）

安全遮断弁の動作確認を自動的に実施します。

詳細は安全対策マニュアル「安全遮断弁チェック運転」を参照してください。

(40) 安全システム試運転（RC-DX3F のみ）

安全対策システムの試運転を行います。実際に冷媒漏えいを検知した際と同様の動作をします。

詳細は安全対策マニュアル「安全対策機器の接続確認」を参照してください。

⑷1 安全システムメンテナンス（RC-DX3F のみ ）

安全対策機器に関わる下記の操作を行います。
詳細は安全対策マニュアル「メンテナンス」を参照してください。

メンテナンス項目

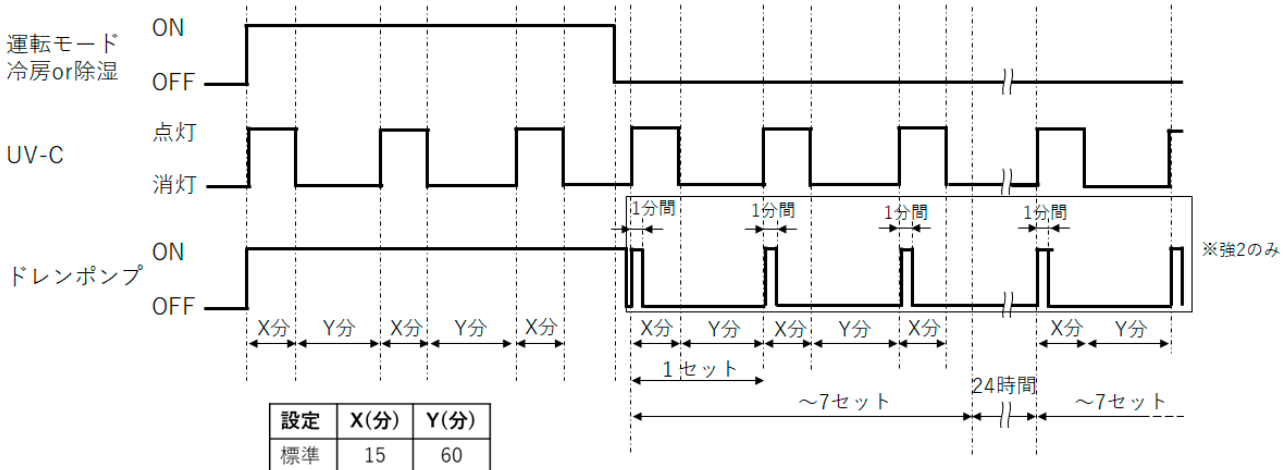
	項目		説明
1	安全システム接続状態確認		安全対策機器の接続状態を表示します。
2	遮断弁メンテナンス	遮断弁状態	安全遮断弁の状態を表示します。
		コイル交換表示リセット	ガス配管側の電磁弁コイルを交換した場合に、通電時間をリセットしてください。
		遮断弁交換表示リセット	安全遮断弁を交換した場合にリセットしてください。
3	冷媒センサ積算時間保存		冷媒検知警報器の通信基板を変更する場合に使用します。 [基板交換前]冷媒センサの使用時間を保存する。 [基板交換後]冷媒センサの使用時間を転送する。
4	冷媒センサ積算時間リセット		冷媒センサ内蔵室内ユニットの冷媒センサを交換した場合に使用します。 冷媒センサ交換後にリセットしてください。 〔備考〕冷媒検知警報器を交換した場合は本操作によるリセットは不要です。
5	室内設定保存		冷媒センサ内蔵室内ユニット（床置形および給気処理ユニットを除く）の制御基板を交換する場合に使用します。 [基板交換前]室内設定を保存する。 [基板交換後]保存データを転送する。
6	室内直結冷媒センサ積算時間リセット		冷媒センサ内蔵室内ユニット（床置形および給気処理ユニットを除く）の冷媒センサを交換した場合に使用します。 冷媒センサ交換後にリセットしてください。

⑷2 ドレンクリーン (UV-C) 機能（FDT のみ）

冷房・除湿運転中、および運転停止後に、ドレン水のスライム発生を抑制するUV-Cを照射します。
下記(a)の照射動作を繰返し、この動作を最大9日間継続します。

ⓐ 照射時間設定

標準：15分照射/60分停止の繰返し
強１：30分照射/60分停止の繰返し
強２：30分照射/60分停止の繰返し＋UV-C照射開始時にドレンポンプ1分間ON



設定	X(分)	Y(分)
標準	15	60
強１	30	60
強２	30	60

(b) 照射積算時間リセット

照射積算時間を0時間にリセットすることができます。UV-Cを交換した場合にリセットしてください。

［補足］ 交換時期と表示

積算照射時間が10,000時間以上になるとUV-Cの交換が必要となり、リモコンにメンテナンスコードM53が表示されます。

(43) インターロック制御

R32ビル用マルチ機の室内ユニットはインターロック機能が有効になっています。

インターロックが解除されていない場合、空調システムは運転できません。解除には(a),(b)のいずれかが必要です。

詳細は安全対策マニュアル「室内ユニットのインターロック検査」を参照してください。

(a) 以下の全ての安全対策機器を室内ユニットに接続する。(自動的に解除されます)

ー安全遮断弁

ー冷媒検知警報器（冷媒センサ内蔵室内ユニットは不要）

ー ecoタッチリモコン(RC-DX3F)

(b) インターロックピンによる解除

(i) 解除仕様

インターロック解除接続コネクタが短絡された場合、インターロックが解除されます。

(ii) 解除コネクタ

室内ユニット機種	インターロック解除接続コネクタ	
	LXZ	LXZA以降
FDT, FDTSC	CNOP	
FDTC	CNF	CNOP
FDTW	CNOP2	CNMA

(44) 冷媒漏えい検知（RC-DX3F のみ）

冷媒漏えい検知器が冷媒漏えいを検知した場合、以下の動作を行います。

詳細は安全対策マニュアル「冷媒漏えい時について」を参照してください。

(a) 冷媒センサ内蔵室内ユニットまたは冷媒検知警報器が接続された室内ユニット

リモコンにエラーコード(E23)を表示し、異常停止します。

ただし、室内ユニットは以下の場合に送風運転を行います。

・安全遮断弁が接続されていない

・冷媒検知警報器が共有設定されている

・床置きユニット（FDFL,FDFU）

(b) 上記以外の室内ユニット

リモコンにエラーコード(E24)を表示し、異常停止します。

ただし、床置きユニットと同じ部屋に設置され、冷媒検知警報器が共有設定されている場合は、送風運転します。

(45) 疑似異常発報制御

試運転などの異常時の信号確認を簡単に行います。

(a) 開始条件

(i) 冷房試運転を行います。

(ii) 冷房試運転開始30分以内に「フィルタサインリセット」を操作します。

(b) 制御内容

異常停止“E-8”を発信して運転停止します。

(c) 終了条件

異常表示は、運転/停止スイッチで復帰します。

注 ecoタッチリモコンに異常履歴が記憶されます。確認終了後は異常履歴表示画面から消去してください。

9.2 リモコン機能

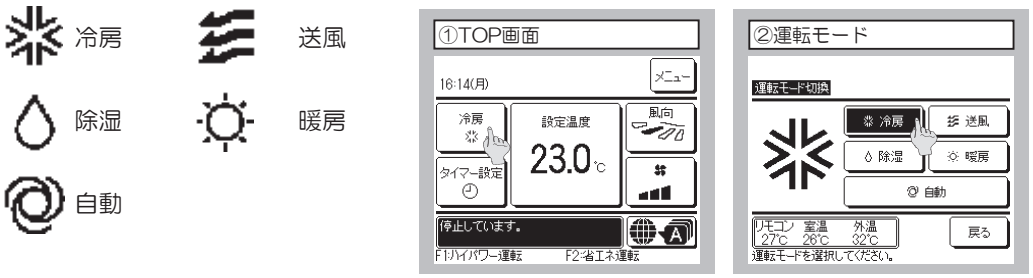
● RC-DX3F リモコンの場合

(a) リモコンの運転モード選択

(i) TOP画面上より「運転モード」ボタンをタッチしてください。

(ii) 「運転モード」選択画面が表示されますので，ご希望の運転モードをタッチしてください。

(iii) 運転モード選択後，TOP画面に戻ります。



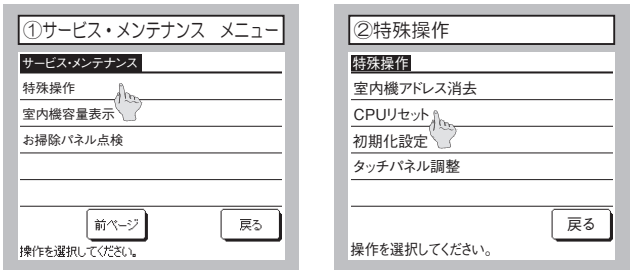
注(1) 室内ユニット-室外ユニットの組合せにより，選択できない運転モードは表示されません。
(2) 自動を選択すると，室温と外温に応じて，冷房・暖房自動切換運転を行います。

(b) CPUリセット

下記手順にてリモコンよりCPUをリセットしてください。

(i) TOP画面の「メニュー」より「サービス設定」→「サービス・メンテナンス」を選択し，サービスパスワードを入力します。

(ii) 「サービス・メンテナンス メニュー」より「特殊操作」→「CPUリセット」の順に選択すると接続している室内ユニット・室外ユニットのマイコンがリセット(停電復帰状態)されます。

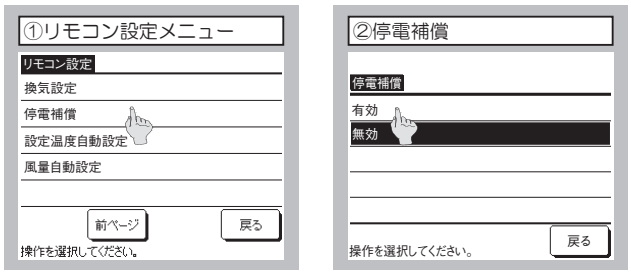


(c) 停電補償機能

下記手順にてリモコンより停電補償機能を有効設定してください。

(i) TOP画面上の「メニュー」より「サービス設定」→「リモコン設定」を選択し，サービスパスワードを入力します。

(ii) 「リモコン設定 メニュー」より「停電補償」を選択し「有効」に設定してください。運転中に停電した場合は，停電復旧(電源投入後の制御終了)後に，停電前の状態に戻ります。



●常にリモコンの状態を記憶しており停電から復帰後，記憶内容により運転を再開します。ただしタイマーモードはキャンセルされますが，ウィークリータイマー，ピークカットタイマーおよび室外静音タイマーについては下記内容となります。

・時計機能が有効の場合：設定された内容により機能します。

・時計機能が無効の場合：時計機能を再設定し，リモコンの機能設定によりウィークリータイマー，ピークカットタイマーおよび室外静音タイマーの設定を「有効」にすると記憶された内容で機能します。

●停電補償で記憶される内容は以下のとおりです。

注　⑥，⑦項は停電補償有効・無効にかかわらず記憶されます。

① 停電時　運転中／停止中
時刻切タイマーモード，時間タイマーモードで運転中は，停止中を記憶します。

② 運転モード

③ 風量モード

④ 室温設定

⑤ ルーバのオートスイング／停止
ただし停止位置(4位置)はキャンセルされます。

⑥ 「お掃除パネル設定」「管理者設定」「据付設定」「室内設定」により設定された内容は，室内ユニットが記憶します。

⑦ ウィークリータイマー，ピークカットタイマー，室外静音タイマー

⑧ リモコン設定

(d) 注意喚起表示

下記(ⅰ)～(ⅲ)が表示される場合，以下のとおり確認，処置してください。

(ⅰ) 室内機確認注意喚起



●リモコンと室内ユニット間の通信が確立できない場合に表示します。
システム（室内ユニット，室外ユニット，リモコン）として正しく接続されているか，室外ユニットの電源が接続されているかを確認してください。

(ⅱ) タイマー時刻設定警告



●時刻未設定でタイマー設定をしたときに表示します。
時刻設定を行ってください。時刻設定を行わないとタイマー設定が出来ません。

(ⅲ) 誤接続



●リモコンに空調機以外のものが接続されたとき本表示を行います。
リモコンの接続先を確認してください。

(e) グルーピング設定

冷媒検知警報器、安全遮断弁を複数の室内ユニットで共有することができます。
詳細は安全対策マニュアル「安全対策機器の共有設定」を参照してください。

(f) 機能設定一覧

● RC-DX3F リモコンの場合

接続する機種により設定できる項目が異なります。

PJZ000Z390

設定および表示項目			詳細設定
1.リモコンネットワーク			
1	複数室内機制御		リモコン1台(リモコンネットワーク内)に最大 16台室内ユニットを制御できます。 室内ユニット側にアドレスを設定できます。
2	親子リモコン設定		リモコンネットワーク内に 2 個のリモコン (含むワイヤレスリモコン) を接続できます。片側を「親」とし、片側を「子」として設定します。
2.TOP 画面・スイッチ操作			
1	メニュー		制御 ・ 設定 ・ 詳細設定等の項目を追加します。
2	運転モード		冷房 ・ 暖房 ・ 送風 ・ 自動 ・ 除湿を設定します。
3	設定温度		室温を 0.5℃単位で設定します。
4	風向		風向を設定します。お任せ気流の有効 / 無効を設定します (FDK の場合) 。
5	風量		風量を設定します。
6	タイマー設定		タイマー運転を設定します。
7	運転 / 停止スイッチ		運転を開始します。 / 停止します。
8	F1 スイッチ		F1 スイッチの割付られた機能で運転、操作を行います。
9	F2 スイッチ		F2 スイッチの割付られた機能で運転、操作を行います。
10	言語切換		リモコンに表示する言語を選択します。 ・選択できる言語は下記です。 英語 / 日本語 ドイツ語 / フランス語 / スペイン語/ ポルトガル語 / 中国語
3. 便利機能			
1	フリーフロー設定		各ルーバの可動範囲 (上限位置ー下限位置) を設定します。 FDK の場合は左限位置 ー 右限位置も設定します。
2	エアフレックス (風よけ) 設定 エアフレックスパネル組合せの場合		・詳細設定 : 各運転モード、各吹出口のエアフレックス (風よけ) 機構動作の有効 ・ 無効を設定できます。 ・ON/OFF 切換 : 詳細設定で、有効にされている各吹出口のエアフレックス ON/OFF(作動中/停止中)を切換えます。
3	サーマルセンサ制御		室内ユニットのサーマルセンサ制御を設定します。
4	タイマー設定	時間入タイマー	停止後、運転させたい時間を設定します。 ・1 ～ 12 時間の範囲を 1 時間単位で設定可能です。 ・運転開始時の運転モード ・ 設定温度 ・ 風量を設定できます。
		時間切タイマー	停止後、停止させたい時間を設定します。 ・1 ～ 12 時間の範囲を 1 時間単位で設定可能です。
		時刻入タイマー	運転開始時刻を設定します。 ・設定時刻は 5 分単位で設定可能です。 ・1 回のみ / 毎日の切換が可能です。 ・運転開始時の運転モード ・ 設定温度 ・ 風量を設定できます。
		時刻切タイマー	運転停止時刻を設定します。 ・設定時刻は 5 分単位で設定可能です。 ・1 回のみ / 毎日の切換が可能です。
		ウィークリータイマー	1 週間の入タイマーまたは切タイマーを設定します。 ・1 日最大 8 パターンまで設定可能です。 ・設定時刻は 5 分単位で設定可能です。 ・祭日および臨時休業など、休日設定が可能です。 ・運転開始時間の運転モード ・ 設定温度 ・ 風量を設定できます。
		タイマー設定内容確認	各タイマーの設定内容を一覧できます。
5	おこのみ設定 管理者パスワード		おこのみ設定運転で使用する運転モード、設定温度、風量、風向を設定します。おこのみ設定 1、おこのみ設定 2 のそれぞれに設定が可能です。
6	るす番運転 管理者パスワード		お部屋を留守にするとき、お部屋は著しく高温 / 低温にならないように温度を保ちます。 ・外温と制御温度により冷房 / 暖房を行います。 ・設定温度、風量の設定が可能です。
7	換気 換気機器組合せの場合		換気の ON/OFF 操作を行います。 [メニュー] ⇒ [サービス設定] ⇒ [リモコン設定] ⇒ [換気設定] の設定が必要です。 ・換気設定を「 単独操作 」に設定した場合、換気機器の運転 / 停止ができます。
8	言語切換設定		リモコンに表示する言語を選択します。 ・選択できる言語は下記です。 英語 / 日本語 ドイツ語 / フランス語 / スペイン語 / ポルトガル語 / 中国語
9	室外静音設定		室外ユニットの静音性を優先して運転します。 ・室外静音運動の開始 ・ 停止を設定します。

設定および表示項目			詳細内容
10	室内機無線LAN設定		無線LANを介した専用アプリによる室内ユニット操作の有効/無効を設定します。
11	省エネモード設定		室内ユニットの省エネモードを設定します。
12	見てみて		室内温度、室外温度、運転時間、消費電力量を表示します。 ・ 室内ユニット―室外ユニットの組合せによっては表示できない場合があります。
13	消費電力量表示		今日、今週、今年の消費電力量をグラフで表示します。 昨日、先週、昨年と比較することができます。 ・ 室内ユニット―室外ユニットの組合せによっては表示できない場合があります。
4. 省エネ設定			管理者パスワード
1	切忘れ防止タイマー		運転を開始してから停止するまでの時間を設定します。 ・ 設定時間は 30 ～ 240 分 (10 分単位) まで選択可能です。 ・ 設定「有効」の場合、毎回、タイマーが作動します。
2	ピークカットタイマー		能力を制御する運動の開始時刻と停止時刻、能力制限率を設定します。 ・ 1日最大 4 パターンまで設定可能です。 ・ 設定時刻は 5 分単位で設定可能です。 ・ 能力制御率は 0,40 ～ 80% (20%単位) から選択可能です。 ・ 祭日および臨時休業など、休日設定が可能です。
3	設定温度自動復帰		設定時刻後に設定した温度に戻ります。 ・ 暖房モード / 冷房モード 他、各々設定可能です。 ・ 設定時間は 20 ～ 120 分 (10 分単位) まで設定可能です。 ・ 設定時刻は 10 分単位で設定可能です。
4	人感センサ制御		人感センサを使用の場合、パワーコントロールとオートオフの有効 / 無効を設定します。
	人感センサがある場合		パワーコントロールの冷房時 / 暖房時設定温度を設定します。
5. お手入れ			
1	フィルタサイン リセット	フィルタサインの解除	フィルタサインの解除を行います。
		次回清掃日の設定	次回清掃日の設定を行います。
2	グリル昇降	ラクリーナパネル制御 ラクリーナパネル 組合せの場合	ラクリーナパネル　グリルの昇降操作をします。 [メニュー] ⇒ [サービス設定] ⇒ [据付設定] ⇒ [グリルの昇降操作] の設定が必要です。
		降下長設定 管理者パスワード	グリル昇降長さを設定します。 ・ 0.1 ～ 4.0mの範囲で設定できます。 ・ 設定長さは 0.1m単位で設定可能です。 ・ 接続室内ユニットごとに設定できます。
		ダスト回収リセット お掃除パネル組合せの場合	ダスト回収後にダスト回収タイマーをリセットします。
3	お掃除パネル設定 管理者パスワード	お掃除自動設定	自動清掃の有効 / 休止を設定します。
		掃除時間帯設定	自動清掃を開始する時間帯を設定します。
		清掃間隔設定	自動清掃する最小の間隔を設定します。
		ダスト回収設定	ダストの回収時期を設定します。
		ブラシ清掃回数設定	ブラシの清掃回数を設定します。
		ブラシ移動速さ	ブラシ移動速さを設定します。
		ブラシ往復数	ブラシ往復数を設定します。
6. ユーザ設定			
1	初期設定	時刻設定	現在の日付・時刻を設定および修正を行います。 ・ 80 時間以内の停電の場合、内蔵バックアップ電源の働きにより時計は動き続けます。
		時刻表示設定	時刻表示のあり / なし、12 H / 24 H、AM/PM 位置、を設定します。
		サマータイム補正	現在時刻に対し、＋ 1 時間の補正を行います。
		コントラスト調整	液晶の濃度の調整を行います。
		バックライト	バックライトの有効 / 無効、点灯時間を設定します。
		ブザー音	タッチパネル操作時のブザー音のあり / なしを設定します。
		運転ランプ輝度	運転ランプの輝度の調整を行います。

設定および表示項目				詳細内容
2	管理者設定 管理者パスワード	操作制限設定		・ 操作の許可 / 禁止を設定します。 [運転 / 停止][設定温度切換][運転モード切換][風向切換] [風量切換][ハイパワー運転][省エネ運転][見てみて][タイマー設定] [消費電力量表示] [サーマルセンサ制御] ・ 操作時の管理者パスワード要求を設定します。 [フリーフロー設定][グリル降下長設定] [ウィークリータイマー設定][言語切換設定] [エアフレックス（風よけ）設定]
		室外静音タイマー		室外ユニットの静音性を優先して運転する時間帯を設定します。 ・ 静音運転開始時刻と終了時刻を設定可能です。 ・ 設定時刻は 5 分単位で設定可能です。
		設定温度範囲		設定温度範囲を制限します。 ・ 運転モードによる温度範囲の制限が可能です。
		温度設定刻み切換		設定温度の刻み（0.5℃ / 1.0℃）を設定します。
		設定温度表示切換		設定温度の仕方を切り換えます。
		リモコン表示設定		リモコン名称、室内ユニット名称を登録します。 室温表示のあり / なしを設定します。 点検コード、暖房準備、除霜運転中、自動冷暖の表示、リモコン・室温・外温表示のあり / なしを設定します。
		管理者パスワード変更		管理者パスワードの変更を行います。
				管理者パスワードのリセットを行います。
		スイッチ機能変更		F1、F2スイッチの機能を設定します。 設定できる機能 [エアフレックス ON/OFF] [ハイパワー運転][省エネ運転][室外静音制御][るす番運転] [おこのみ設定運転 1][おこのみ設定運転 2][フィルタサインリセット] [グリル昇降][消費電力量表示] [サーマルセンサ制御]
		冷媒検知警報器設定		リモコンで冷媒検知警報器を設定します。 設定できる項目 [ブザー音][LED輝度][冷媒農度しきい値]
		リモコンアラーム音確認		リモコンの警報機能を確認します。
		遮断弁チェック運転		遮断弁チェック運転を行います。
		遮断弁チェック運転結果		遮断弁チェック運転の結果を表示します。
7.サービス設定				
1	据付設定 サービスパスワード	据付日登録		据付日を登録した場合、点検表示を行います。
		サービス情報入力		リモコンに連絡先を登録することができます。 ・ 連絡先を半角26文字相当以内で登録できます。 ・ 連絡先TEL番号を13文字以内で登録できます。
		試運転		試運転の開始 / 停止を制御できます。
			冷房試運転	設定 5℃ 30 分間運転します。
			ドレンポンプ試運転	ドレンポンプのみを運転します。
			お掃除試運転	フィルタ清掃 ブラシ清掃運転します。 お掃除パネル組合せの場合
			安全システム試運転	冷媒漏洩検知時の各機器（室外ユニット、室内ユニット、リモコン、安全対策機器）の動作確認運転します。
		ダクト機静圧補正		機外静圧補正機能付ダクト形室内ユニット組合せの場合に操作できます。 ・ 接続室内ユニット毎に個別に設定できます。
		自動アドレス変更		個別発停マルチシリーズ自動アドレス番号を変更することができます。
		親室内機アドレス設定		個別発停マルチシリーズ 設定された親ユニットのみ運転モード変更を許可し、親を設定したユニットは親ユニットから送られた運転モードに従って運転します。
		バックアップ制御		1 台のリモコンに室内ユニット 2 台（2 グループ）が接続されている時にローテーション運転、キャパシティバックアップ運転、フォルトバックアップ運転の有効 / 無効が設定できます。

設定および表示項目			詳細設定
1	据付設定 サービスパスワード	人感センサ設定 人感センサ付パネルの組合せの場合	リモコンに接続された室内ユニットの人感センサ検知の有効/無効を設定します。 無効の場合は、省エネ設定の人感センサ制御を行うことができません。
		リモコンアラーム音設定	リモコンの警報機能の有効 / 無効を設定します。
		サーマルセンサ設定	サーマルセンサの有効 / 無効を設定します。
		ドレンクリーン(UV-C)設定	ドレンクリーン (UV-C) の有効 / 無効を設定します 。
		グリル昇降操作	ラクリーナパネル操作を有効に設定します。 ラクリーナパネル組合せの場合
2	リモコン設定 サービスパスワード	リモコン親子設定	リモコン親子設定の変更ができます。
		吸込センサ制御	1 台のリモコンに複数室内ユニットが接続されている場合、サーモ判定に用いる吸込センサを選択できます。 ・ 個別 / 親機 / 平均の選択が可能です。
		リモコンセンサ	リモコンセンサに切替えるモードを設定できます。 冷房 / 暖房で切替可能です。
		リモコンセンサ補正	リモコンセンサ検知温度を補正できます。 冷房 / 暖房　別々に補正可能です。
		運転モード選択	各運転モード毎に有効 / 無効を設定できます。
		設定温度単位	設定温度の単位を設定します。 ・℃ / ℉の選択が可能です。
		ファン速度	ファン速度の選択が可能です。
		外部入力設定	1 つのリモコンに複数室内ユニットが接続された場合、CnT入力の適用範囲が設定されます。
		上下ルーバ制御	上下ルーバの[4 位置停止] / [フリー停止]の切換ができます。
		左右ルーバ制御	左右ルーバの[固定位置停止] / [フリー停止]の切換ができます。
		換気設定	換気ユニット組合せ制御が設定できます。
		停電補償	停電復帰した場合の制御内容を設定できます。
		設定温度自動設定	設定温度自動の有効 / 無効を選択できます。
		風量自動設定	風量自動の有効 / 無効を選択できます。
3	室内設定 サービスパスワード	風速設定	室内ユニットの風量タップを設定します。
		フィルタサイン	フィルタサイン点灯タイマーの設定が換えられます。
		外部入力 1 設定	外部入力 1 の制御内容を換えられます。
		外部入力 1 方式切換	外部入力 1 の信号方式を換えられます。
		外部入力 2 設定	外部入力 2 の制御内容を換えられます。
		外部入力 2 方式切換	外部入力 2 の信号方式を換えられます。
		暖房室温補正	暖房サーモ判定値を 0 ～+ 3℃の範囲で補正できます。
		吸込温度補正	吸込センサー検知温度を± 2℃の範囲で補正できます。
		冷房ファン制御	冷房サーモOFF時のファン制御を変更できます。
		暖房ファン制御	暖房サーモOFF時のファン制御を変更できます。
		フロスト防止温度	冷房中室内ユニットの凍結防止制御の判定温度を変更できます。
		フロスト防止制御	冷房中室内ユニットの凍結防止制御作動後のファンタップアップを変更できます。
		ドレンポンプ運転	冷房・除湿以外の運転モードでのドレンポンプ運転範囲を設定できます。
		冷房ファン残留運転	冷房停止 ・ 冷房サーモOFF後のファン残留運転を設定できます。
		暖房ファン残留運転	暖房停止 ・ 暖房サーモOFF後のファン残留運転を設定できます。
		暖房ファン間欠	暖房停止 ・ 暖房サーモOFFファン残留運転後のファン運転を設定できます。
		送風サーモ運転	送風時のサーキュレータ運転を設定できます。
		外調機設定	マルチユニット外調機単独運転時の圧力制御を変更できます。

設定および表示項目				詳細内容
3	室内設定 サービスパスワード	運転モード自動設定		運転モード自動判定方法を 3 種類から選択できます。
		サーモ判定切換		サーモ判定を室外温度で補正することができます。
		風量自動切換		風量自動運転における自動切換範囲を設定できます。
		室内過負荷アラーム		運転開始 30 分後、設定温度と吸込温度の差が過負荷アラームで設定した温度差以上ある場合、外部出力（CNT-5）から過負荷アラーム信号を送信します。
		外部出力設定		外部出力1～4に割当てる機能を換えられます。
		デフロスト時ファン制御		デフロスト運転時のファン回転数を設定します。
4	サービス・メンテナンス サービスパスワード	エアコンNo. 表示		リモコン 1 台に 16 台の室内ユニットを接続できます。個別送風運転で確認できます。
		次回点検日		次回の点検日を登録することができます。点検日に連絡先の表示をします。
		運転データ表示		室内ユニット＋室外ユニットの運転データをモニターすることができます。
		点検表示		
			異常履歴表示	過去の異常履歴（点検コード・発生時間）を表示します。
			異常時運転データ表示	直前の異常発生時の運転データを表示します。
			異常時運転データ消去	異常時運転データが消去されます。
			定期点検リセット	定期点検タイマーをリセットします。
		室内設定保存		接続室内ユニット基板設定内容をリモコンへバックアップすることができます。
		特殊操作		[室内アドレス消去][CPUリセット][初期化設定][タッチパネル調整]の操作ができます。
		室内機容量表示		リモコンに接続されている室内アドレス番号とその形式、容量を表示します。
		安全システムメンテナンス		リモコンで安全対策機器のメンテナンスを行います。
			遮断弁メンテナンス	安全遮断弁の状態確認、コイル交換表示のリセット、遮断弁交換表示のリセットを行います。
			安全システム接続状態確認	室内ユニットと安全対策機器の接続状態を表示します。
			冷媒センサ積算時間保存	冷媒センサの積算時間をリモコンに保存、転送します。
			冷媒センサ積算時間リセット	冷媒センサの積算時間をリセットします。
		UV-Cメンテナンス		ドレンクリーン（UV-C）のメンテナンスを行います。
			照射設定	ドレンクリーン（UV-C）の照射時間を設定します。
			照射積算時間リセット	ドレンクリーン（UV-C）の積算時間をリセットします。
		お掃除パネル点検		お掃除パネルの詳細点検操作ができます。
8.困ったときは・・・				
1	連絡先表示			登録した連絡先・TEL番号、サービスフロントセンターフリーコールを表示します。 QRコードでインターネット接続⇒点検コード内容を検索できます。
2	サービスを依頼される前にQ＆A			Q＆Aが表示されます。
9.点検表示				
	点検表示確認			異常発生時の表示
10.パソコン接続				
	USB接続			ウィークリータイマー設定他、パソコンから一括設定ができます。

◆組合せ室内・室外ユニットの仕様により、本内容が機能しない場合もあります。

10. 電装品故障診断要領

10.1 故障診断の基本

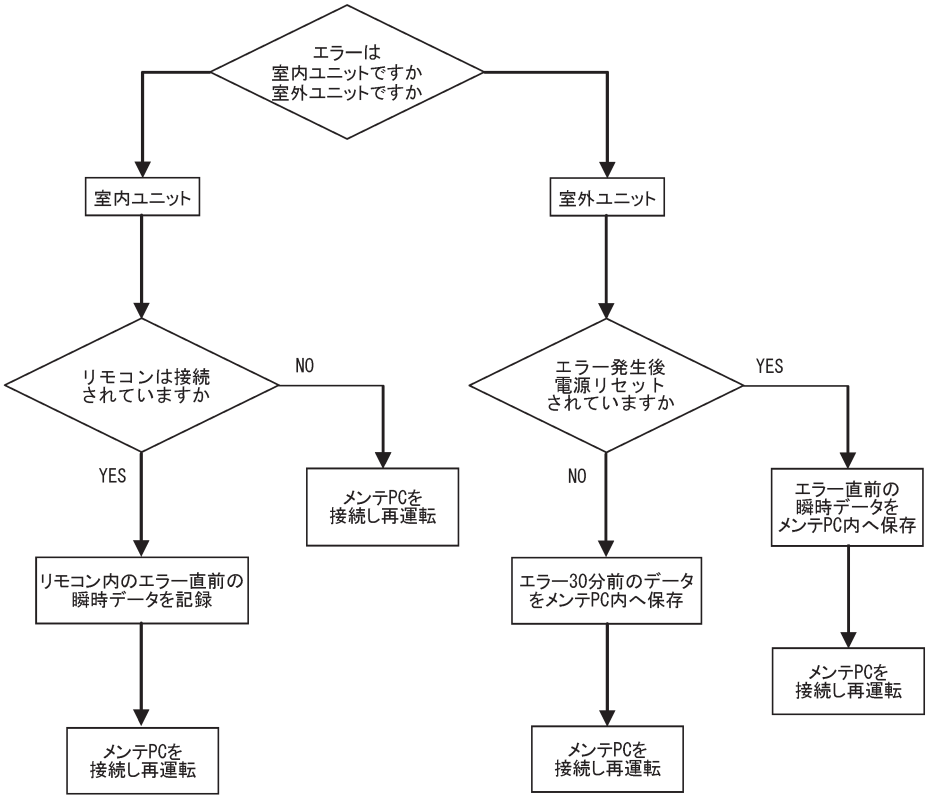
故障診断の基本はメンテ PC を接続してデータを確認／分析／記録することです。

現地に着いたら必ずメンテ PC を接続して作業してください。

エラーデータの分析方法（基本的な進め方）

- エラーは運転中に発生したのか停止時に発生したのか
- 室外ユニット／室内ユニットの設置条件によるものか（冷媒量，配管長，ショートサーキット，フィルタのつまり等）
- 設置上の初歩的なミスはないか（アドレスミスや配管と配線のテレコ等）
- ハード面（部品）の故障かどうか（SV 本体，コイル，キャピラリ，逆止弁，センサ等）
- 要注意部品かどうか

  圧縮機，インバータ基板，室外 DC ファンモータ
- 電装品部品の故障かどうか



10.2 故障診断の内容

(1) 点検表示一覧

(a) エラーコード

リモコン表示	7 セグメント表示	内容	分類	記載ページ
なし	−	運転するが，冷えない	システム異常	224･225
なし	−	運転するが，暖まらない	システム異常	226･227
なし	−	漏電ブレーカ作動	システム異常	228
なし	−	音・振動が非常に大きい（その 1）	現地設置不良	229
なし	−	音・振動が非常に大きい（その 2）	ユニット異常	230
なし	−	音・振動が非常に大きい（その 3）	ユニット異常	231
なし	−	ルーバモータが回らない	ルーバモータ異常	232
なし	−	ラクリーナパネルが動かない	ラクリーナモータ異常	233
なし	−	電源系統異常（室内基板への電源供給）	配線接続不良	234･235
なし	−	電源系統異常（リモコンへの電源供給）	配線不良	236
なし	−	内機確認中	通信不良	237~241
無表示	−	〔無表示〕	通信不良	242
E1	−	リモコン通信回路不良	通信異常	243･244
E2	−	室内アドレス重複	アドレス設定不良	245
E3	−	室外・信号系統異常	アドレスペアリング設定不良	246
E5	−	運転中に通信異常	通信異常	247
E6	−	室内熱交温度センサ不良	センサ断線	248
E7	−	室内吸込温度センサ不良	センサ断線	249
E9	−	ドレン不良（ドレンポンプ搭載機）	システム異常	250
E10	−	1 リモコン複数台制御時接続台数オーバ（17 台以上）	通信異常	251
E11	−	室内ユニットアドレス設定不良	アドレス設定不良	252
E12	−	室内ユニットでのアドレス設定不良	アドレス設定不良	253
E16	−	室内ファンモータ異常	室内ファンモータ異常	254･255
E18	−	親子室内アドレス設定不良	システム異常	256
E19	−	運転チェックモード異常	設定不良	257
E20	−	室内ファンモータ回転数異常	室内ファンモータ異常	258･259
E23	−	冷媒漏えい	システム異常	260･261
E24	−	他室内ユニット冷媒漏えい検知	システム異常	262
E28	−	リモコン温度センサ断線	センサ断線	263
E63	E63	緊急停止	現地設定不良	264

(b) メンテナンスコード

機器に不具合が発生した場合、リモコンにメンテナンスコード(M**)が表示される場合があります。
メンテナンスコードが表示されている間は、機器が正しく動作しなくなる可能性がありますので、下表に記載の対処表方法にしたがって機器のメンテナンスを行ってください。

リモコン表示	内容	メンテナンスコードが出る原因	メンテナンスコードを無視したときのリスク	対処方法
M01	お掃除パネル ブラシ(D→C)異常停止（T-PSCLS-5BW以降の場合）	ブラシがC側へ移動中に異常停止	フィルタ清掃できない。	お掃除パネルに付属の取扱説明書をご確認ください。
	お掃除パネル点検（T-PSCLS-3BWの場合）	室内ユニットとお掃除パネルの通信不良	フィルタ清掃できない。	お掃除パネルに付属の取扱説明書をご確認ください。
M02	お掃除パネル ブラシ(C→D)異常停止	ブラシがD側へ移動中に異常停止	フィルタ清掃できない。	お掃除パネルに付属の取扱説明書をご確認ください。
M03	お掃除パネル 位置検知スイッチ異常1	ブラシがC→D側に移動中にC側の位置検知スイッチがON	フィルタ清掃できない。	お掃除パネルに付属の取扱説明書をご確認ください。
M04	お掃除パネル 位置検知スイッチ異常2	ブラシがD→C側に移動中にD側の位置検知スイッチがON	フィルタ清掃できない。	お掃除パネルに付属の取扱説明書をご確認ください。
M06	お掃除パネル 位置検知スイッチ異常3	C側とD側の位置検知スイッチが同時にONしている	フィルタ清掃できない。	お掃除パネルに付属の取扱説明書をご確認ください。
M07	室内過負荷アラーム	室温とリモコン設定温度の温度差が大きい。	室温が設定温度に到達しない。	・省エネモード、エコレベルを適切に設定する。
M09	ドレンモータ過電流検知	ドレンポンプが詰まっている状態でドレンポンプを動かそうとしている。	・ドレンポンプが故障する。 ・ドレン異常により運転停止する。	・ドレンポンプの詰まりを解消する。 ・ドレンパンを清掃する。
M10	お掃除パネル通信異常	室内ユニットとお掃除パネルの通信不良	フィルタ清掃できない。	お掃除パネルに付属の取扱説明書をご確認ください。
M11	冷媒センサ故障	冷媒センサの故障	・冷媒が漏えいした場合、冷媒漏えいに気が付けない。 ・冷媒漏えい時の安全対策が機能しない。	・冷媒検知警報器（床置き機の場合は冷媒センサ）を交換する。
M12	冷媒センサ外れ	冷媒センサが外れている。 冷媒センサが断線している。	・冷媒が漏えいした場合、冷媒漏えいに気が付けない。 ・冷媒漏えい時の安全対策が機能しない。	・冷媒検知警報器（床置き機の場合は冷媒センサ）の配線を修復する。 ・冷媒検知警報器（床置き機の場合は冷媒センサ）を交換する。
M13	遮断弁チェック運転 液・ガス遮断弁異常	遮断弁チェック運転を実施した結果、液・ガス遮断弁に異常を検出した。	冷媒漏えい時に、遮断弁が閉止できず、室内に冷媒が漏えいする可能性が有る。	①ガス遮断弁前後の温度センサの取付状態を確認。 ②液・ガス遮断弁コイルの弁本体への取付状態を確認。 ③液・ガス遮断弁コイルコネクタの基板への取付状態を確認。 ④遮断弁チェック運転を再実施し、閉弁時の弁作動音・弁前後の温度差を確認。弁作動音・弁前後の温度差が確認できた場合は終了し、確認できない場合は⑤へ進む。 ⑤液・ガス遮断弁のコイルを交換。 ⑥遮断弁チェック運転を再実施し、閉弁時の弁作動音・弁前後の温度差を確認。弁作動音・弁前後の温度差が確認できた場合は終了し、確認できない場合は⑦へ進む。 ⑦遮断弁本体を交換。

リモコン表示	内容	メンテナンスコードが出る原因	メンテナンスコードを無視したときのリスク	対処方法
M14	遮断弁チェック運転 液遮断弁異常	遮断弁チェック運転を実施した結果、液遮断弁に異常を検出した。	冷媒漏えい時に、遮断弁が閉止できず、室内に冷媒が漏えいする可能性が有る。	①ガス遮断弁前後の温度センサの取付状態を確認 ②液遮断弁コイルの弁本体への取付状態を確認 ③液遮断弁コイルコネクタの基板への取付状態を確認 ④遮断弁チェック運転を再実施し、閉弁時の弁作動音・弁前後の温度差を確認。弁作動音・弁前後の温度差が確認できた場合は終了し、確認できない場合は⑤へ進む。 ⑤液遮断弁のコイルを交換。 ⑥遮断弁チェック運転を再実施し、閉弁時の弁作動音・弁前後の温度差を確認。弁作動音・弁前後の温度差が確認できた場合は終了し、確認できない場合は⑦へ進む。 ⑦遮断弁本体を交換。
M15	遮断弁チェック運転 ガス遮断弁異常	遮断弁チェック運転を実施した結果、ガス遮断弁に異常を検出した。	冷媒漏えい時に、遮断弁が閉止できず、室内に冷媒が漏えいする可能性が有る。	①ガス遮断弁前後の温度センサの取付状態を確認 ②ガス遮断弁コイルの弁本体への取付状態を確認 ③ガス遮断弁コイルコネクタの基板への取付状態を確認 ④遮断弁チェック運転を再実施し、閉弁時の弁作動音・弁前後の温度差を確認。弁作動音・弁前後の温度差が確認できた場合は終了し、確認できない場合は⑤へ進む。 ⑤ガス遮断弁のコイルを交換。 ⑥遮断弁チェック運転を再実施し、閉弁時の弁作動音・弁前後の温度差を確認。弁作動音・弁前後の温度差が確認できた場合は終了し、確認できない場合は⑦へ進む。 ⑦遮断弁本体を交換。
M19	ドレンポンプ詰まり検知	ドレンポンプが詰まり、ドレンパンにドレン水が溜まっている。	ドレン異常により運転停止する。	・ドレンポンプの詰まりを解消する。 ・ドレンポンプが故障している場合は交換する。 ・ドレンパンを清掃する。
M21	グリル開検知	運転中にグリル開を検知。	フィルタ清掃できない。	お掃除パネルに付属の取扱説明書をご確認ください。
M24	他室内ユニット冷媒漏えい (応急運転)	他室内ユニットで冷媒漏えいが発生し、応急運転を実施している。	応急運転が終了した後、空調機が運転できなくなる。	E23(冷媒漏えい異常)が表示されている室内ユニットを探して、冷媒漏えい箇所を修復する。
M27	湿度センサ断線・短絡	湿度センサ、または、配線が断線または短絡している。	・湿度センサを使う空調機の制御が機能しない。 ・室内ユニットが結露する。	・湿度センサの配線を修復する。 ・湿度センサを交換する。
M28	自身のインターロック	リモコンに接続された室内ユニット自身のインターロックが解除されていない。	圧縮機の運転が許可されず、空調運転ができない。	①安全対策システムが必要な室内ユニットの場合 エコタッチリモコン、冷媒検知警報器、安全遮断弁が正しく接続されていることを確認する。 ②安全対策システムが必要であるが、エコタッチリモコン、冷媒検知警報器、安全遮断弁が電気的に接続されていない場合（①とグルーピング処理している場合） 室内ユニット制御基板に、インターロック解除ピンを挿入する。 （詳細は安全対策マニュアル、室内ユニット据付説明書参照） ②安全対策システムが不要な室内ユニットの場合 室内ユニット制御基板に、インターロック解除ピンを挿入する。 （詳細は安全対策マニュアル、室内ユニット据付説明書参照）

リモコン表示	内容	メンテナンスコードが出る原因	メンテナンスコードを無視したときのリスク	対処方法
M29	他室内ユニットのインターロック	同じ冷媒系統内で他の室内ユニットのインターロックが解除されていない。	圧縮機の運転が許可されず、空調運転ができない。	①安全対策システムが必要な室内ユニットの場合。 エコタッチリモコン、冷媒検知警報器、安全遮断弁が正しく接続されていることを確認する。 ②安全対策システムが必要であるが、エコタッチリモコン、冷媒検知警報器、安全遮断弁が電気的に接続されていない場合（①とグルーピング処理している場合） 室内ユニット制御基板に、インターロック解除ピンを挿入する。 （詳細は安全対策マニュアル、室内ユニット据付説明書参照） ②安全対策システムが不要な室内ユニットの場合 室内ユニット制御基板に、インターロック解除ピンを挿入する。 （詳細は安全対策マニュアル、室内ユニット据付説明書参照）
M31	遮断弁チェック運転開始条件不成立	外気温度が適用範囲外(0～43℃)	遮断弁チェック運転が実施できない。	・外気温度：0～43℃の範囲でチェック運転を実施する。
M32	遮断弁チェック運転開始条件不成立	ガス遮断弁の温度センサがホルダから外れている可能性が有り。	遮断弁チェック運転が実施できない。	・ガス遮断弁の前後の温度センサの取付状態を確認する
M33	遮断弁チェック運転実施不可・中断	・遮断弁チェック運転開始時にいずれかの室内ユニットが運転中。 ・何らかの理由で遮断弁チェック運転中に圧縮機が停止した。	遮断弁チェック運転が実施できない。	・全ての室内ユニットが停止となっていることを確認する。 （遮断弁チェック運転は、全ての室内ユニットが停止状態からスタート） ・全ての室内ユニットが停止状態で開始している場合、遮断弁チェック運転中に異常停止したことが原因と考えられるため、サービスコールしてください。
M41	冷媒検知警報器通信異常	室内ユニットと冷媒検知警報器の通信不良	冷媒漏えい時に、遮断弁が閉止できず、室内に冷媒が漏えいする可能性が有る。	・室内ユニットと冷媒検知警報器の接続を確認する。 ・M41が消えない場合は冷媒検知警報器を交換する。 対処によってM41が消えた後、必ず接続確認を行ってください。 接続確認方法は安全対策マニュアルを参照してください。
M42	安全遮断弁通信異常	室内ユニットと安全遮断弁の通信不良	冷媒漏えい時に、遮断弁が閉止できず、室内に冷媒が漏えいする可能性が有る。	・室内ユニットと安全遮断弁の接続を確認する。 ・M42が消えない場合は安全遮断弁を交換する。 対処によってM41が消えた後、必ず接続確認を行ってください。接続確認方法は安全対策マニュアルを参照してください。
M51	冷媒センサ交換時期	冷媒センサの交換時期に到達	・冷媒検知警報器が故障する可能性がある。故障すると、冷媒漏えい時の安全対策が正常に機能しなくなります。	・冷媒検知警報器（床置き機の場合は冷媒センサ）を交換する。
M52	冷媒センサ交換予告	冷媒センサの交換時期が近い。 (積算時間が交換時期の6か月前になったとき)	・交換時期までに交換しなかった場合、M51が表示される。	・リモコンの予告表示を停止する。 ・冷媒検知警報器（床置き機の場合は冷媒センサ）を交換する。
M53	ドレンクリーン(UV-C)交換時期	ドレンクリーン(UV-C)のLEDモジュールの交換時期への到達。	・ドレン異常になる可能性がある。	・UV-C照射時間が10000時間以上のときはUV-Cを交換する。 UV-C交換後、リモコンからUV-C照射時間をリセットする。
M54	安全遮断弁交換時期	・安全遮断弁のコイルの交換時期到達。 ・安全遮断弁本体の交換時期到達。	・安全遮断弁が故障する可能性がある。遮断弁が故障すると、冷媒漏えい時の安全対策が正常に機能しなくなります。	「コイル通電時間」と「開閉時間」をリモコンで確認する。 ・「コイル通電時間」が2万時間以上の場合、安全遮断弁のコイルを交換する。 その後、リモコンで「コイル交換通知」をリセットする。 ・「開閉回数」が7500回以上の場合、シャットオフバルブキットを交換する。 その後、リモコンで「SOV交換通知書」をリセットする。 詳細は安全対策マニュアルを参照ください。

リモコン表示	内容	メンテナンスコードが出る原因	メンテナンスコードを無視したときのリスク	対処方法
M61	室内直結冷媒センサ故障	室内ユニット内蔵の冷媒センサ（床置形および給気処理ユニットを除く）の故障	・冷媒が漏えいした場合、冷媒漏えいに気が付けない。 ・冷媒漏えい時の安全対策が機能しない。	・冷媒センサを交換する。
M62	室内直結冷媒センサ外れ	室内ユニット内蔵の冷媒センサ（床置形および給気処理ユニットを除く）が外れている。または、断線している。	・冷媒が漏えいした場合、冷媒漏えいに気が付けない。 ・冷媒漏えい時の安全対策が機能しない。	・冷媒センサの配線を修復する。 ・冷媒センサの配線を交換する。
M63	室内直結冷媒センサ交換時期	室内ユニット内蔵の冷媒センサ（床置形および給気処理ユニットを除く）の交換時期に到達。	・冷媒漏えい時の安全対策が正常に機能しなくなる。	・冷媒センサを交換する。
M64	室内直結冷媒センサ交換予告	室内ユニット内蔵の冷媒センサ（床置形および給気処理ユニットを除く）の交換時期が近い。（積算時間が交換時期の6か月前になったとき）	・交換時期までに交換しなかった場合、M63が表示される。	・リモコンの予告表示を停止する。 ・冷媒センサを交換する。

(2) 故障診断

表示 リモコン:なし	LED	緑	赤	内容 運転するが，冷えない（1/2）
	室内	連続点滅	消灯	
	室外	連続点滅	消灯	

1．対象機種

全機種

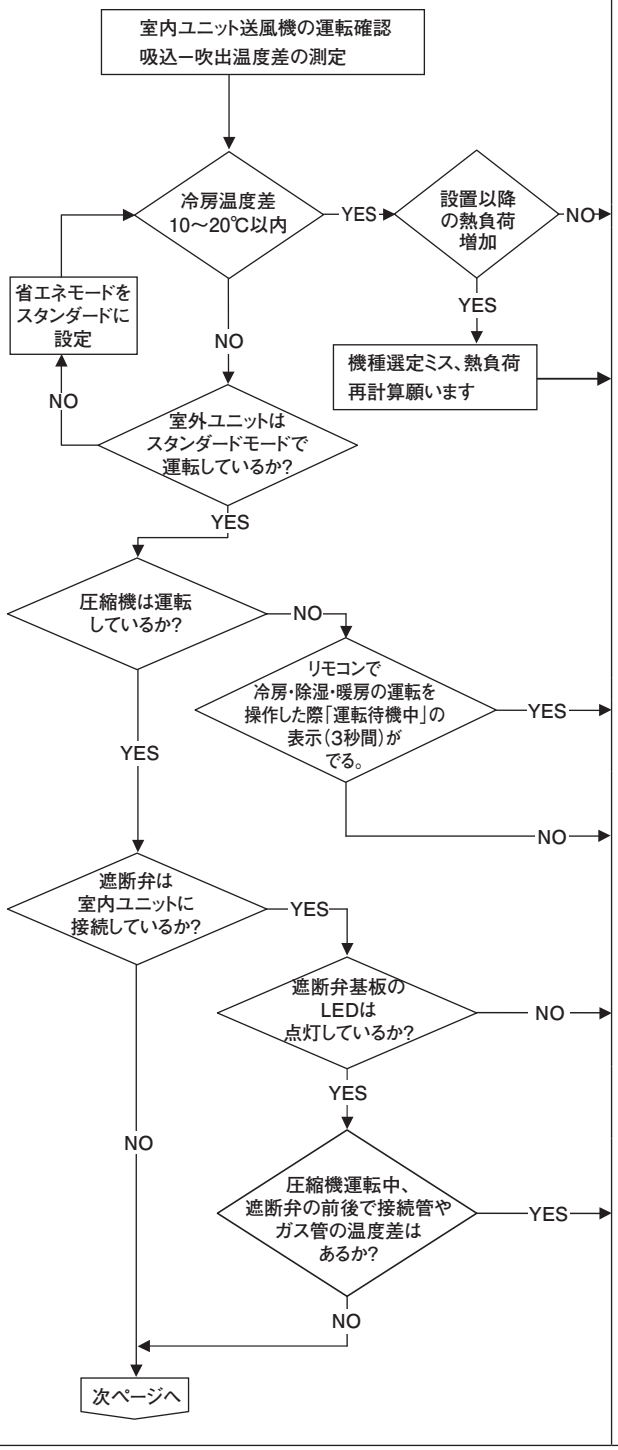
2．異常検出方法

3．異常発生条件

4．予想原因

・圧縮機の圧縮不良
・膨張弁動作不良

5．故障診断と処置

診　断	処　置
	正常です。 （本ユニットは，電源リセット後再スタートする場合圧縮機ドーム温度検知によりソフトスタートします。） 増設の検討が必要です。 圧縮機の冷凍機油保護制御が作動しています。 制御内容は，マイコン制御機能の圧縮機始動制御をご覧ください。 異常検出制御により圧縮機を停止させている可能性があります。 マイコン制御機能の圧縮機回転数による異常停止制御の内容をご確認ください。 ・室内ユニットと遮断弁間の配線接続を確認してください。 ・LED が点灯しない場合、基板が故障している可能性があります。遮断弁基板を交換してください。 配管の温度差により遮断弁が閉止している可能性があります。 ・コイルが正常であることを確認してください。 ・弁本体の動作を確認してください。

注記：

表示
リモコン:なし

LED	緑	赤
室内	連続点滅	消灯
室外	連続点滅	消灯

内容
運転するが，冷えない（2/2）

1．対象機種

全機種

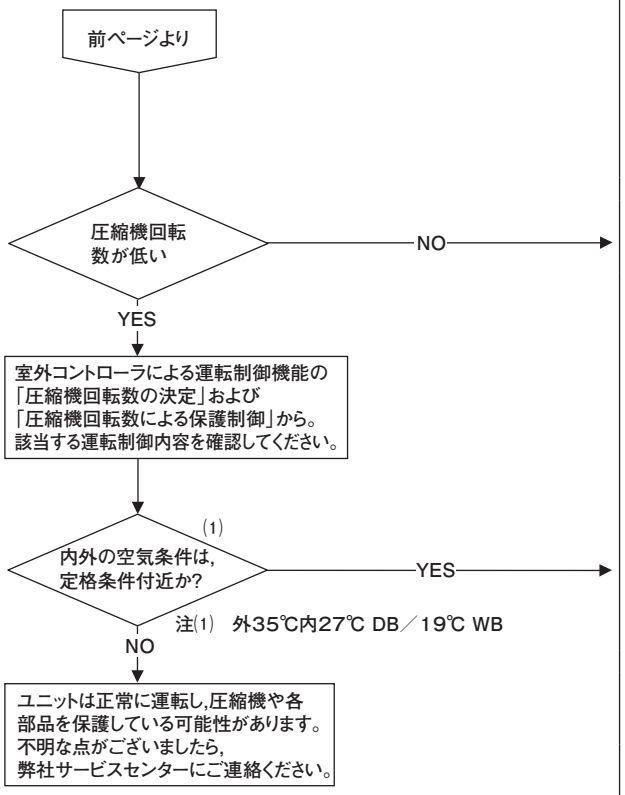
2．異常検出方法

3．異常発生条件

4．予想原因

・圧縮機の圧縮不良
・膨張弁動作不良

5．故障診断と処置

診　断	処　置
	下記点検を行う ・軽度フィルタの詰り ・軽度熱交換器の汚れ ・軽度ショートサーキット ・軽度冷媒量過不足 ・圧縮機圧縮不良 該当する運転制御より原因と思われる箇所の点検を行う。 下記は参考にしてください。 ・重度のフィルタ詰り ・重度の熱交換器の汚れ ・重度のショートサーキット ・重度の冷媒量過不足 ・圧縮機保護始動中 ・室内ユニットファンタップ ・サイレントモードの有効設定

注記：

表示 リモコン:なし	LED	緑	赤	内容 運転するが，暖まらない（1/2）
	室内	連続点滅	消灯	
	室外	連続点滅	消灯	

1．対象機種

全機種

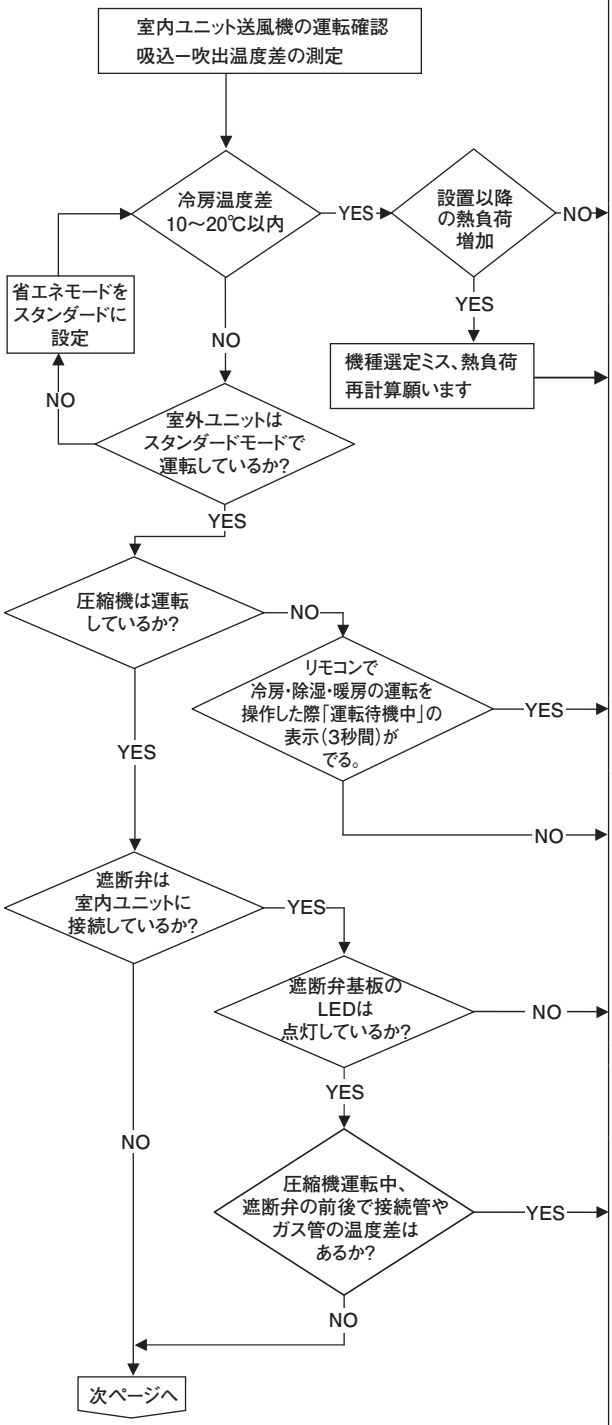
2．異常検出方法

3．異常発生条件

4．予想原因

・四方切換弁動作不良
・圧縮機の圧縮不良
・膨張弁動作不良

5．故障診断と処置

診　断	処　置
	正常です。 （本ユニットは，電源リセット後再スタートする場合圧縮機ドーム下温度検知によりソフトスタートします。） 増設の検討が必要です。 圧縮機の冷凍機油保護制御が作動しています。 制御内容は，マイコン制御機能の圧縮機始動制御をご覧ください。 異常検出制御により圧縮機を停止させている可能性があります。 ・室内ユニットと遮断弁間の配線接続を確認してください。 ・LED が点灯しない場合、基板が故障している可能性があります。遮断弁基板を交換してください。 配管の温度差により遮断弁が閉止している可能性があります。 ・コイルが正常であることを確認してください。 ・弁本体の動作を確認してください。

注記：

表示
リモコン:なし

LED	緑	赤
室内	連続点滅	消灯
室外	連続点滅	消灯

内容
運転するが，暖まらない（2/2）

1．対象機種

全機種

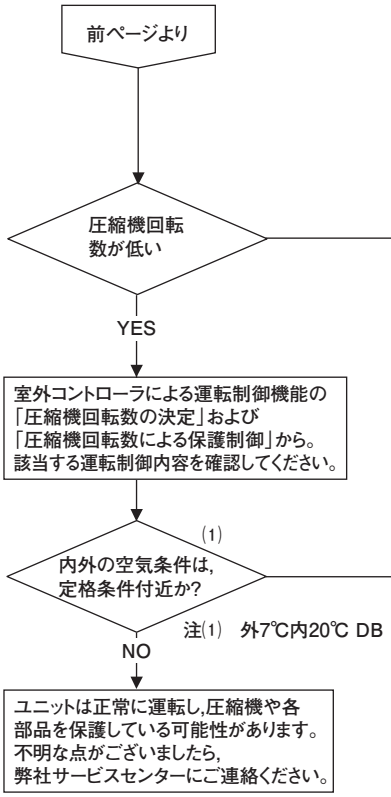
2．異常検出方法

3．異常発生条件

4．予想原因

・四方切換弁動作不良
・圧縮機の圧縮不良
・膨張弁動作不良

5．故障診断と処置

診　断	処　置
	下記点検を行う ・軽度フィルタの詰り ・軽度熱交換器の汚れ ・軽度ショートサーキット ・軽度冷媒量過不足 ・圧縮機圧縮不良 該当する運転制御より原因と思われる箇所の点検を行う。 下記は参考にしてください。 ・重度のフィルタ詰り ・重度の熱交換器の汚れ ・重度のショートサーキット ・重度の冷媒量過不足 ・圧縮機保護始動中 ・室内ユニットファンタップ ・サイレントモードの有効設定

注記：

表示
リモコン:なし

LED	緑	赤
室内	消灯	消灯
室外	消灯	消灯

内容

漏電ブレーカ作動

1. 対象機種

全機種

2. 異常検出方法

3. 異常発生条件

4. 予想原因

・圧縮機不良
・ノイズ

5. 故障診断と処置

診　断	処　置
圧縮機の絶縁抵抗,端子間抵抗OK? → NO	圧縮機交換※
※　抵抗値は室外ユニット技術資料参照	
YES → 各ハーネス類は絶縁が確保されているか? 板金などの噛み込みはないか? → NO	絶縁抵抗確保
YES → 室外アース線／漏電しゃ断器チェック	

室外アース線／漏電しゃ断器チェック

①アース線は，室外ユニットのアースねじ部から配電盤のアース端子まで，単独の線で工事してください。(他のアース線との接続はしないでください。)
②漏電しゃ断器自体の誤作動を防止するため，高調波対応品であるか確認してください。

※圧縮機の絶縁抵抗について
●据付直後，もしくは元電源を切った状態で長時間放置した場合，圧縮機に冷媒が溜まることにより，絶縁抵抗が数MΩまで低下することがあります。絶縁抵抗が小さく，漏電ブレーカが作動する場合は，以下の事項を確認ください。
①電源を投入し，6時間程度経過後，絶縁抵抗が復帰するか確認する。
電源を投入することにより，圧縮機に通電加熱を行い，圧縮機に溜まった冷媒を蒸発させます。
②漏電ブレーカが高調波対応品であるか確認する。
本ユニットはインバータを装備しており，漏電ブレーカの誤動作を防止するため，高調波対応品を使用してください。

注記：

表示 リモコン:なし	LED	緑	赤	内容 音・振動が非常に大きい（その 1）
	室内	ー	ー	
	室外	ー	ー	

1. 対象機種

全機種

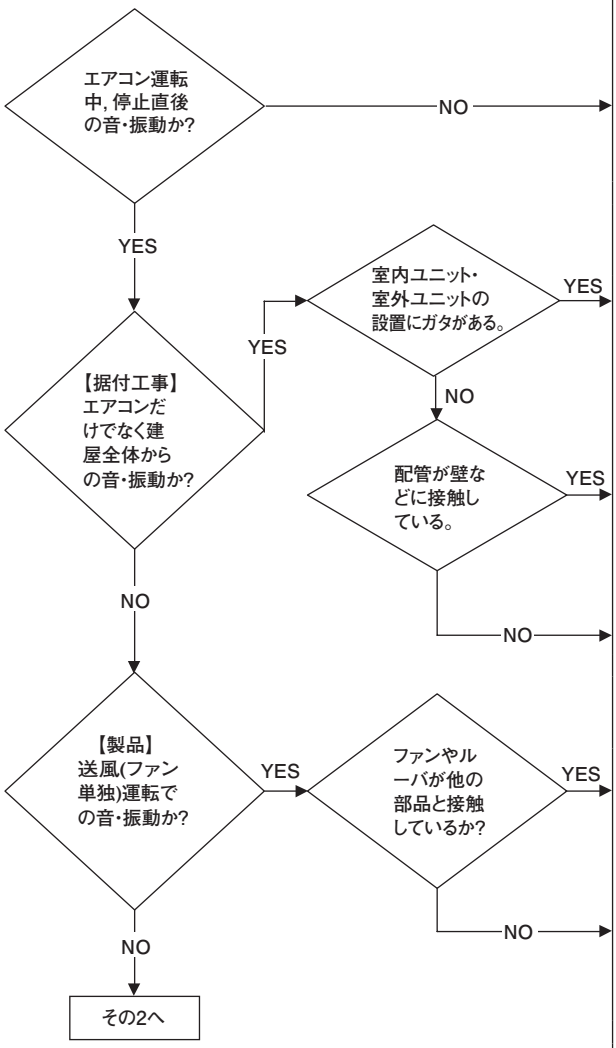
2. 異常検出方法

3. 異常発生条件

4. 予想原因

①据付工事不良
・設置時の防振対策不良
・取付面の強度不足
②製品不良
・工場出荷前／後不良
③運転調整不良
・冷媒の過多／不足など

5. 故障診断と処置



注記：

表示 リモコン:なし	LED	緑	赤	内容 音・振動が非常に大きい（その2）
	室内	ー	ー	
	室外	ー	ー	

1. 対象機種

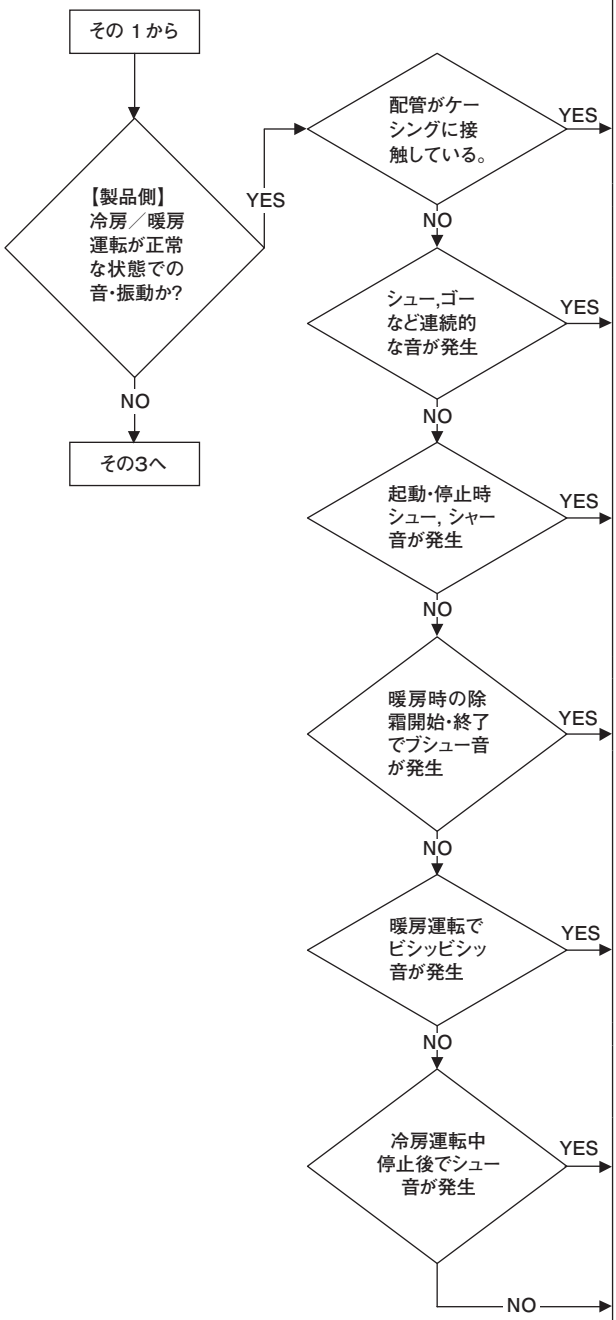
全機種

2. 異常検出方法

3. 異常発生条件

4. 予想原因

5. 故障診断と処置

診　断	処　置
	ケーシングに接触しないように配管引き回しを修正します。 エアコン内部の配管中をガス冷媒や液冷媒が流れることで発生する音・振動です。特に冷房中や暖房時の除霜中は発生しやすく異常ではありません。 冷媒が流れ始めたり流れが止まることで発生する音・振動です。異常ではありません。 暖房時の除霜開始・終了では四方弁の切替えによって冷媒の流れ方向を反転させています。この際，配管内に大きな圧力変化が起きるためブシューといった音色の音が発生します。また，上記のシャー，シュー音も発生します。異常ではありません。 暖房運転開始・停止後や除霜中において，急激な温度変化により樹脂部品が収縮・膨張することで発生する音です。異常ではありません。 室内ユニットドレン水を排出するドレンポンプの運転音です。冷房運転停止後も5分（FDU8,10HP：20分）間運転します。異常ではありません。 減圧(膨張弁)，キャピラリ部など発生源と考えられる部位に防音用ダンパシーラントを貼付けてください。

注記：

表示
リモコン:なし

LED	緑	赤
室内	ー	ー
室外	ー	ー

内容
音・振動が非常に大きい（その3）

1. 対象機種

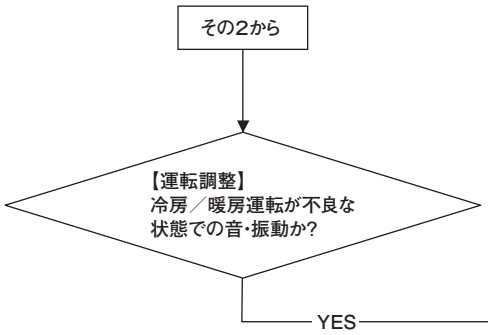
全機種

2. 異常検出方法

3. 異常発生条件

4. 予想原因

5. 故障診断と処置

診　断	処　置
	冷房／暖房運転で温度が適正でない不良な状態の場合，以下の懸念があります。 ・冷媒の過多充填 ・冷媒の不足充填 ・空気，窒素などの混入 このため，冷媒回収，真空乾燥，冷媒再充填を実施してください。 ※音・振動はさまざまなことが原因となって発生するため，上記の内容に当てはまらない場合があると思われます。 その場合，以下の点を確認・メモした後弊社に相談願います。 ・室内／室外ユニット ・冷房／暖房／送風 ・起動／停止／運転中 ・運転状態（室内外温度，圧力） ・発生時間 ・圧縮機回転数，熱交センサ温度，電子膨張弁開度等のリモコンによる運転データ ・音色 ・その他気付き事項

注記：

表示
リモコン:なし

LED	緑	赤
室内	連続点滅	消灯
室外	連続点滅	消灯

内容

ルーバモータが回らない

1. 対象機種

FDT, FDTC, FDTW, FDTSC シリーズ

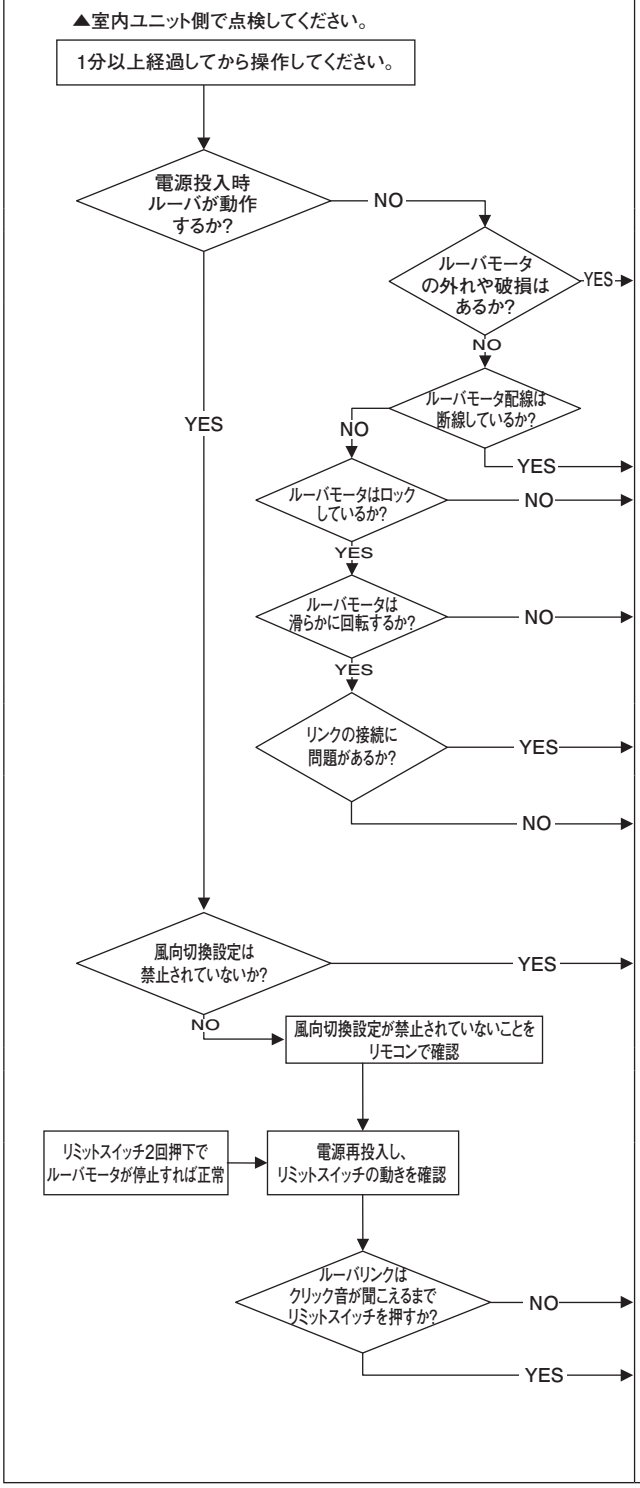
2. 異常検出方法

3. 異常発生条件

4. 予想原因

・ルーバモータ不良
・ルーバモータ配線断線
・リミットスイッチ不良
・室内ユニット制御基板不良

5. 故障診断と処置



注記：

表示
リモコン:なし

LED	緑	赤
室内	消灯	消灯
室外	消灯	消灯

内容

ラクリーナパネルが動かない

1. 対象機種

FDT，FDTW シリーズのみ

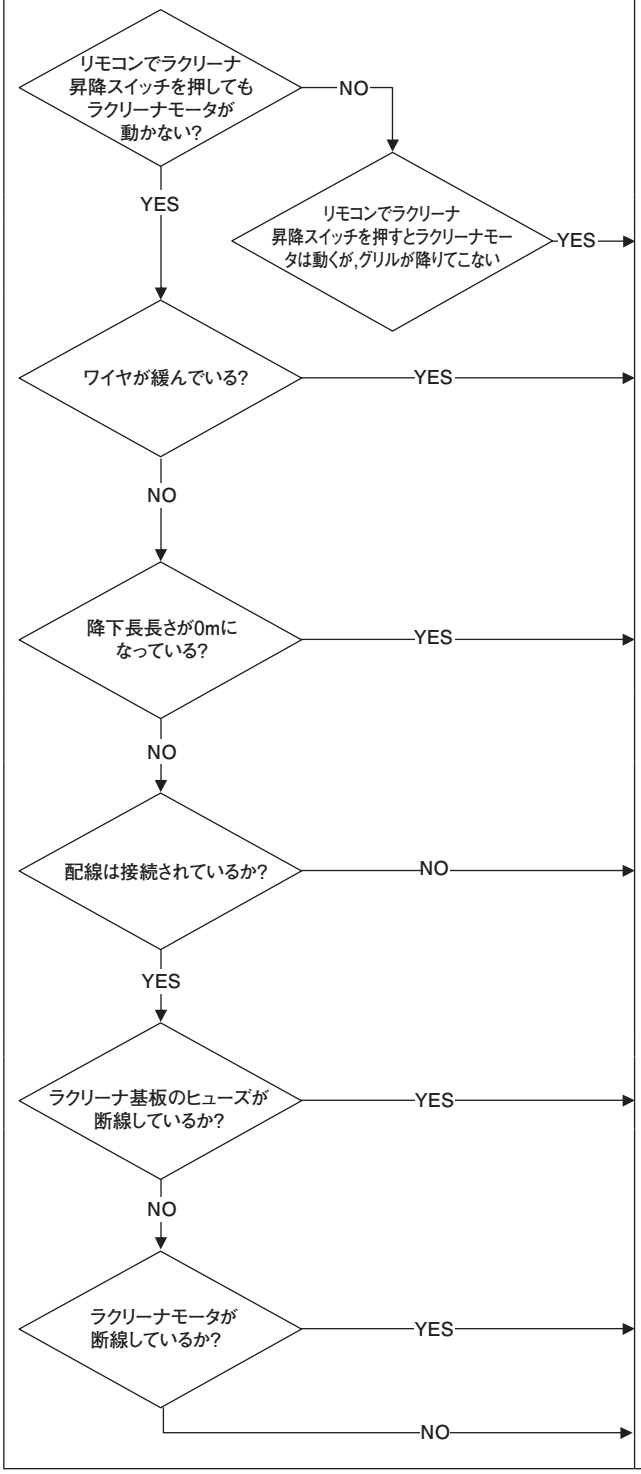
2. 異常検出方法

3. 異常発生条件

4. 予想原因

・ワイヤゆるみ検知機構が働いている
・誤配線
・誤接続
・ラクリーナモータ不良
・ワイヤの絡まり
・ヒューズ切れ

5. 故障診断と処置



注記：

表示 リモコン:なし	LED	緑	赤	内容	**電源系統異常** **(室内基板への電源供給)**
	室内	消灯	消灯		
	室外	連続点滅	2回点滅		

1. 対象機種

FDT, FDTC, FDTSC シリーズ

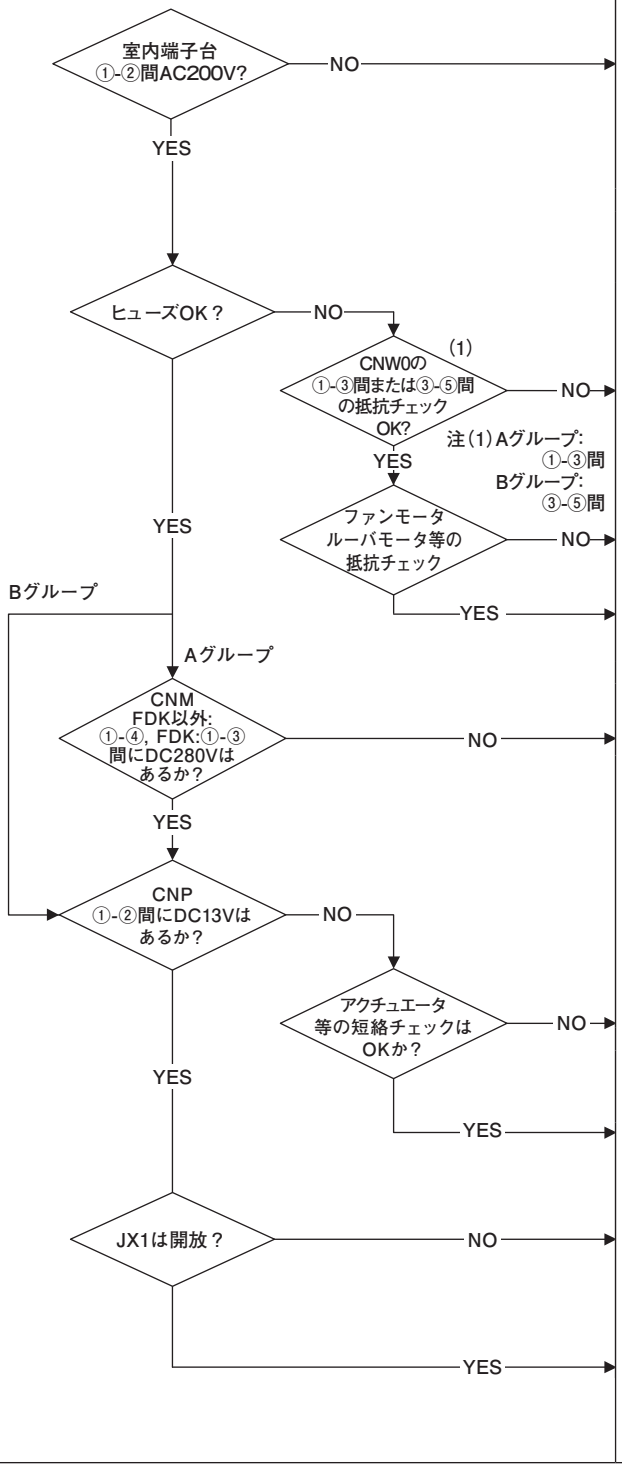
2. 異常検出方法

3. 異常発生条件

4. 予想原因

- 渡り配線，誤接続または断線
- ヒューズの断線
- 室内ユニット基板故障
- ハーネス断線

5. 故障診断と処置



注記：A グループ：FDT, FDTC シリーズ
B グループ：FDTSC シリーズ

表示 リモコン:なし	LED	緑	赤	内容	**電源系統異常** **(室内基板への電源供給)**
	室内	消灯	消灯		
	室外	連続点滅	2回点滅		

1. 対象機種

FDTW シリーズ

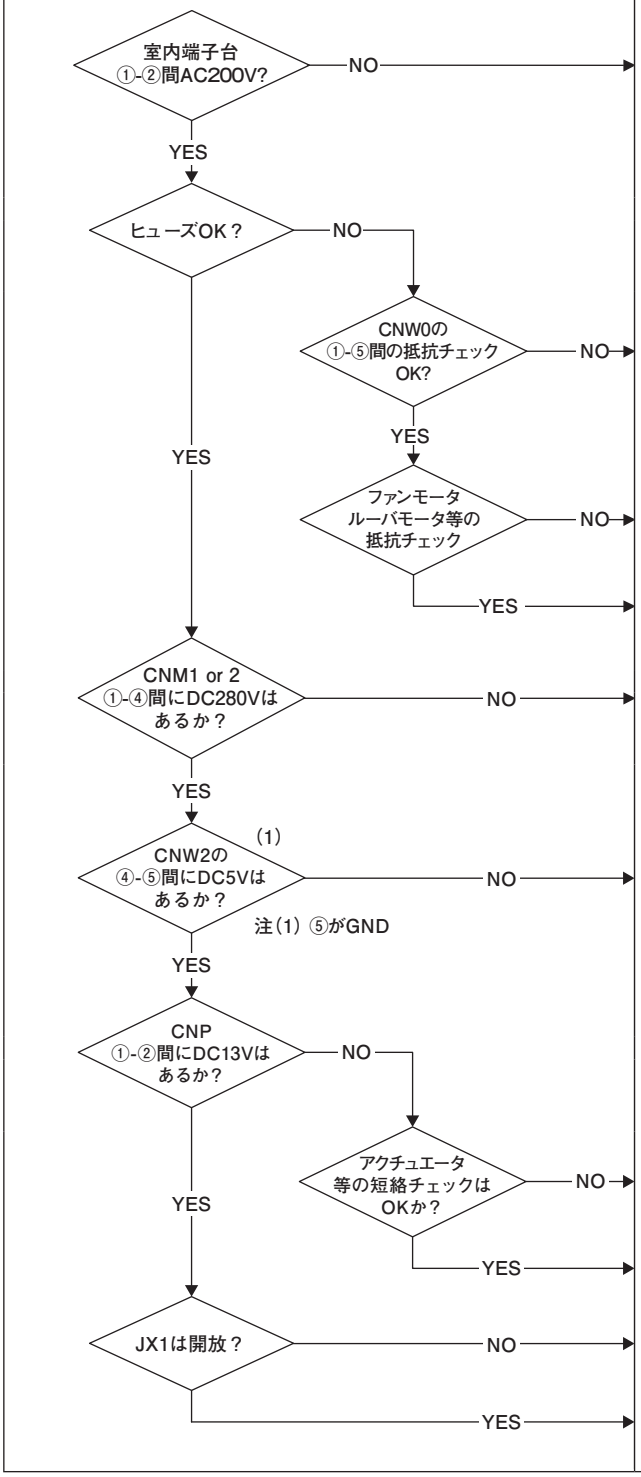
2. 異常検出方法

3. 異常発生条件

4. 予想原因

- 渡り配線，誤接続または断線
- ヒューズの断線
- 室内ユニット制御基板故障
- ハーネス断線
- 室内ユニット電源基板故障

5. 故障診断と処置



注記：

表示
リモコン:なし

LED	緑	赤
室内	連続点滅	3回点滅
室外	連続点滅	2回点滅

内容

電源系統異常
（リモコンへの電源供給）

1. 対象機種

全機種

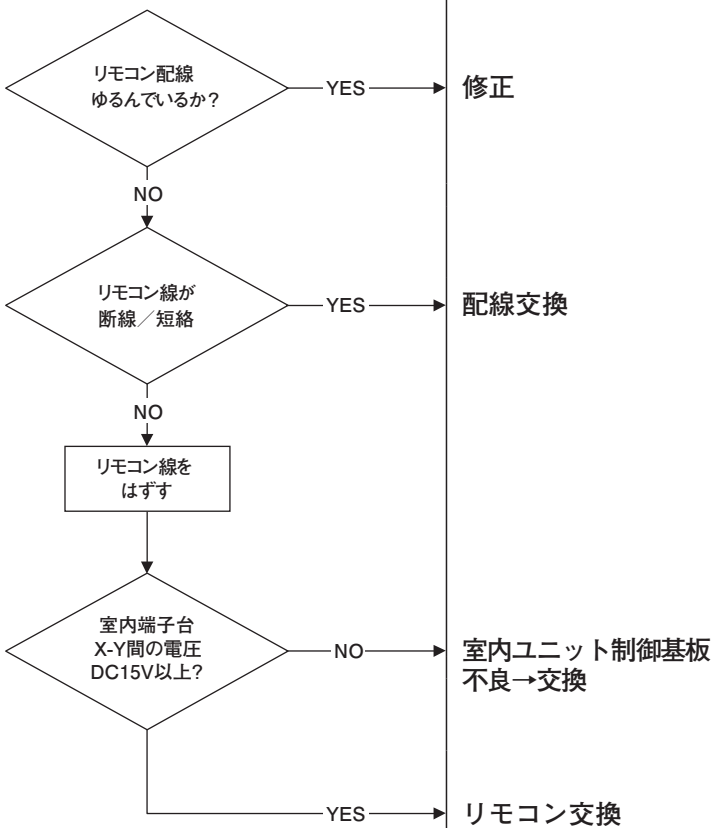
2. 異常検出方法

3. 異常発生条件

4. 予想原因

・リモコン線断線／短絡
・リモコン不良
・室内ユニット基板故障
・ハーネス断線

5. 故障診断と処置



注記：

表示 リモコン:内機確認中	LED	緑	赤	内容 内機確認中
	室内	連続点滅	消灯	
	室外	連続点滅	2回点滅	

1. 対象機種

全機種
（電源投入後２分待ってもリコモンLCD「内機確認中」表示のままの場合）

2. 異常検出方法

3. 異常発生条件

4. 予想原因

・ヒューズの断線
・ノイズフィルタの故障
・基板間の接続
・室内ユニット制御基板故障
・リモコン不良
・リモコン線断線
・室外ユニット制御基板故障

5. 故障診断と処置

診　断	処　置
電源投入後2分待ってもリモコンLCD内機確認中表示のまま → 一旦ブレーカをしゃ断し3分後に再度ブレーカを投入する。	
正常復帰? YES	正常
NO	
室外ｺﾝﾄﾛｰﾗの電源ヒューズは溶断しているか? (1) YES	電源ヒューズ交換へ → 次ページ参照
注(1)　対応する室外ユニットのみ	
NO	
ノイズフィルタ2次側にAC200V あるか? NO	ノイズフィルタ交換
YES	
ノイズフィルタ･インバータ基板間の接続線は良いか? NO	正しく接続する。
YES	
室内緑LEDは点滅しているか? NO	室内ユニット制御基板不良→交換
YES	
室外赤LEDは2回点滅しているか? NO	室内ユニット制御基板交換 リモコン不良→交換 リモコン線Ｙ断線→交換
YES	
室内･室外接続線は正規に接続されているか? NO	室内・外接続線修正
YES	
室外側端子台Ⓐ1, Ⓑ1間 DC20V あるか？ NO	室外ユニット制御基板交換
YES	
室内側端子台Ⓐ,Ⓑ間 DC20V あるか？ NO	接続線不良（断線） ノイズ
YES	室内ユニット制御基板不良→交換

注記：通信中に異常が発生した場合は故障記号 E5 を表示します。（室外赤 LED2 回点滅）点検要領は上記と同一です。（ただし，接続関連は除く）また，E5 発生後電源リセットした場合，異常が継続しておればリモコン LCD「内機確認中」表示になります。短時間（1 分以内）にブレーカ電源投入を繰り返すと内機確認中表示することがあります。この場合，ブレーカを OFF して 3 分お待ちください。

表示 リモコン:内機確認中	LED	緑	赤	内容 内機確認中
	室内	連続点滅	消灯	
	室外	連続点滅	2回点滅	

1. 対象機種

全機種
(ヒューズ溶断の場合,
電源ヒューズ交換前の
インバータ点検方法)

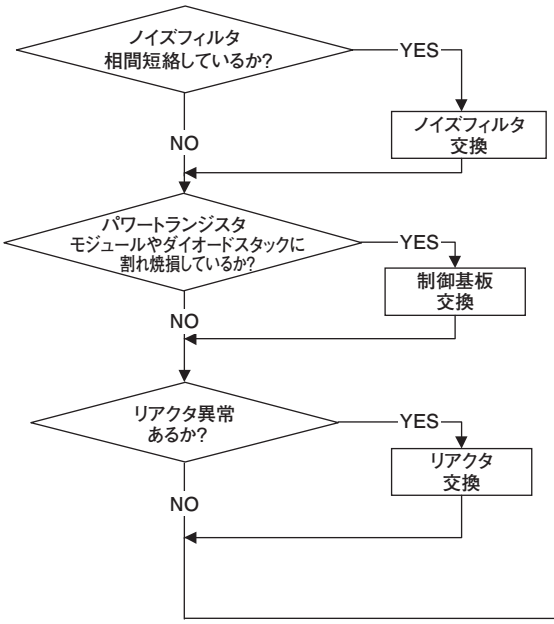
2. 異常検出方法

3. 異常発生条件

4. 予想原因

・ヒューズの断線
・ノイズフィルタの故障
・インバータ不良
・リアクタ不良

5. 故障診断と処置

診　断	処　置
	ヒューズ交換

注記：

表示 リモコン:内機確認中	LED	緑	赤	内容 内機確認中
	室内	連続点滅	消灯	
	室外	連続点滅	2回点滅	

1. 対象機種

全機種
（電源投入後２分待っても リモコン LCD「内機確認中」表示のままの場合）

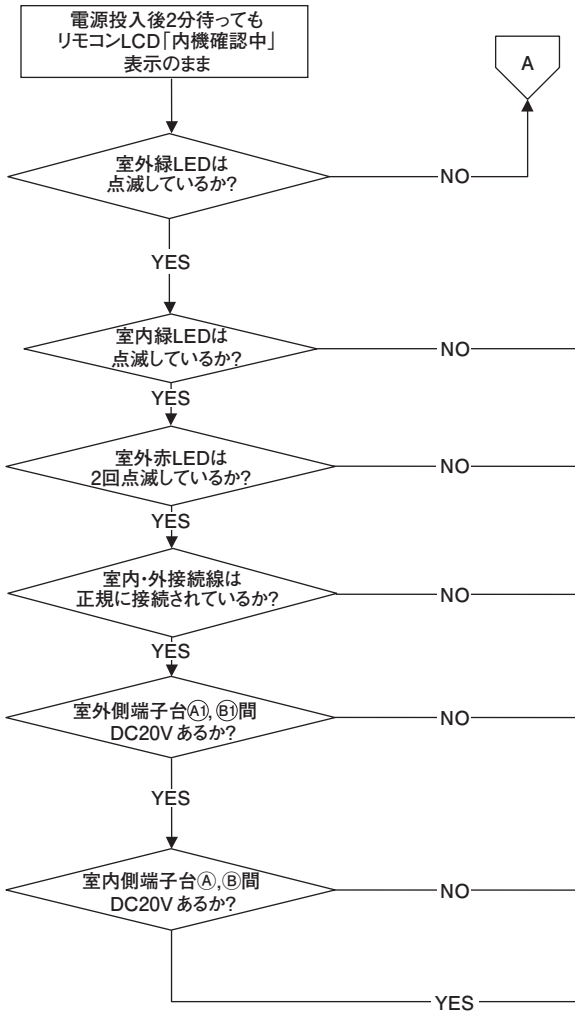
2. 異常検出方法

3. 異常発生条件

4. 予想原因

・基板間の接続
・室内ユニット制御基板故障
・リモコン不良
・リモコン線断線
・室外ユニット制御基板故障

5. 故障診断と処置



診　断	処　置

注記：

表示 リモコン:内機確認中	LED	緑	赤	内容 内機確認中
	室内	消灯	消灯	
	室外	消灯	消灯	

1. 対象機種

全機種
（室外ユニット制御基板LEDが消灯している場合の診断）

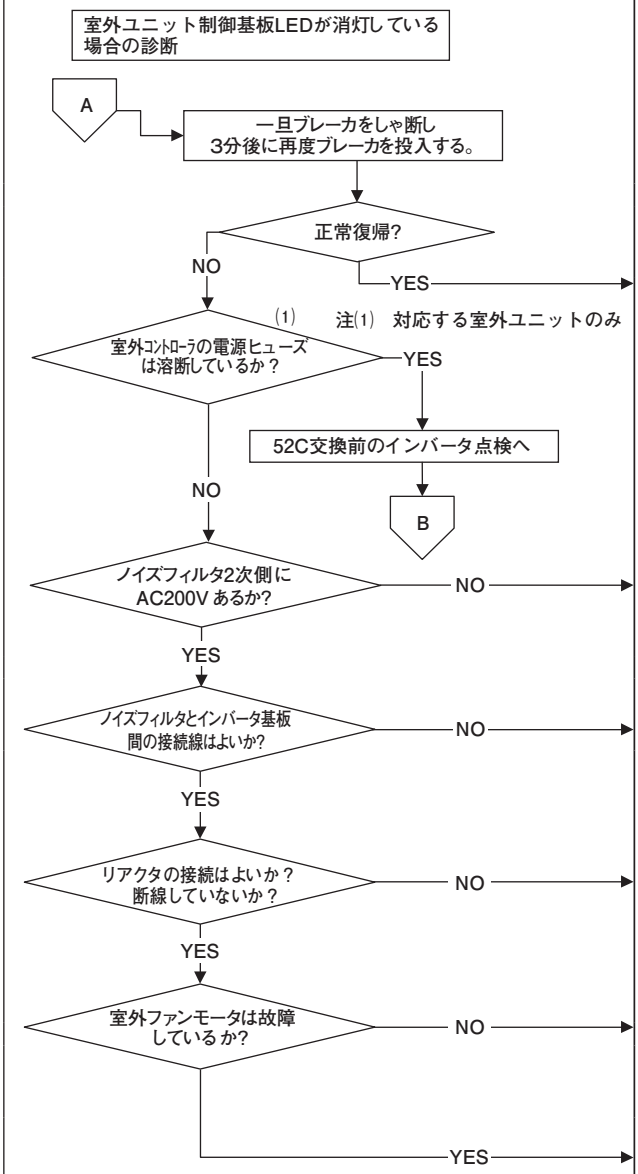
2. 異常検出方法

3. 異常発生条件

4. 予想原因

・ノイズフィルタの故障
・基板間の接続
・室外ユニット制御基板故障
・ノイズによる誤作動
・リアクタ不良
・室外ファンモータ不良

5. 故障診断と処置



注記：

表示 リモコン:内機確認中	LED	緑	赤	内容 内機確認中
	室内	消灯	消灯	
	室外	消灯	消灯	

1. 対象機種

全機種
(ヒューズ溶断の場合,
電源ヒューズ交換前の
インバータ点検方法)

2. 異常検出方法

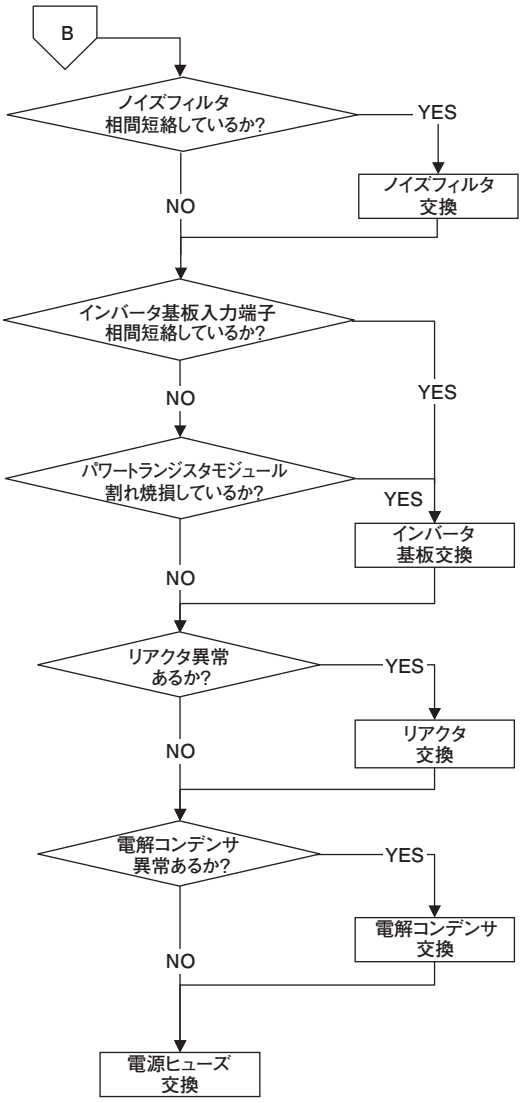
3. 異常発生条件

4. 予想原因

・ヒューズの断線
・ノイズフィルタの故障
・インバータ不良
・リアクタ不良
・電解コンデンサ不良

5. 故障診断と処置

診　断	処　置



注記：

表示 リモコン:無表示	LED	緑	赤	内容 〔無表示〕
	室内	消灯	消灯	
	室外	消灯	消灯	

1. 対象機種

全機種
（電源投入後リモコン無表示の場合）

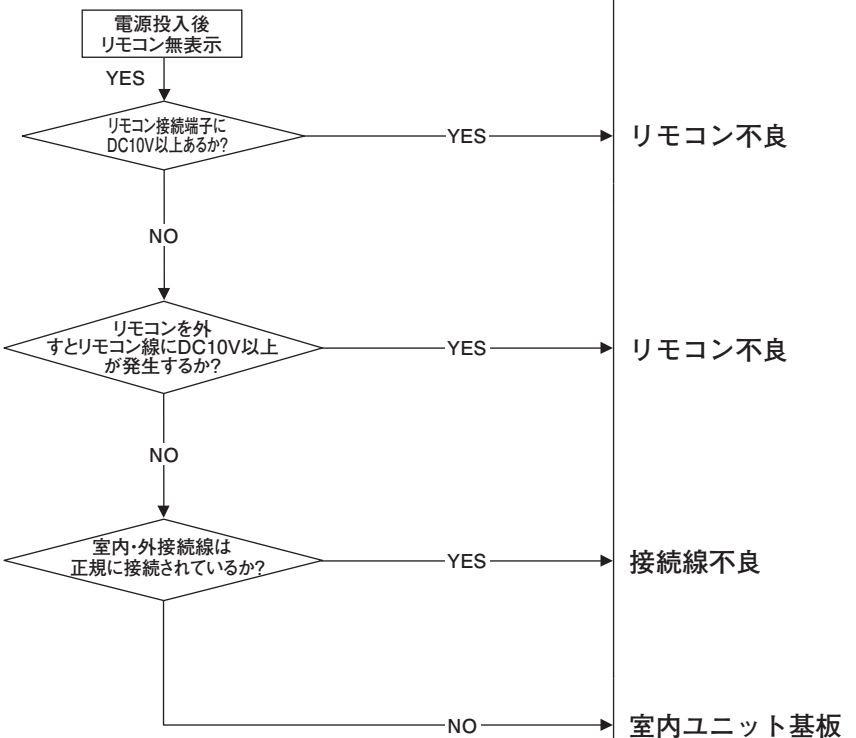
2. 異常検出方法

3. 異常発生条件

4. 予想原因

・ヒューズの断線
・ノイズフィルタの故障
・基板間の接続
・室内ユニット基板故障
・リモコン不良
・リモコン線断線
・室外ユニット制御基板故障

5. 故障診断と処置

診　断	処　置
	

注記：

表示 リモコン:E1	LED	緑	赤	内容 リモコン通信回路不良
	室内	連続点滅	消灯	
	室外	連続点滅	消灯	

1. 対象機種

ドレンポンプ搭載機

2. 異常検出方法

リモコンー室内ユニット間の通信が運転中に2分以上正常にできない場合(リモコンでのみ検出)

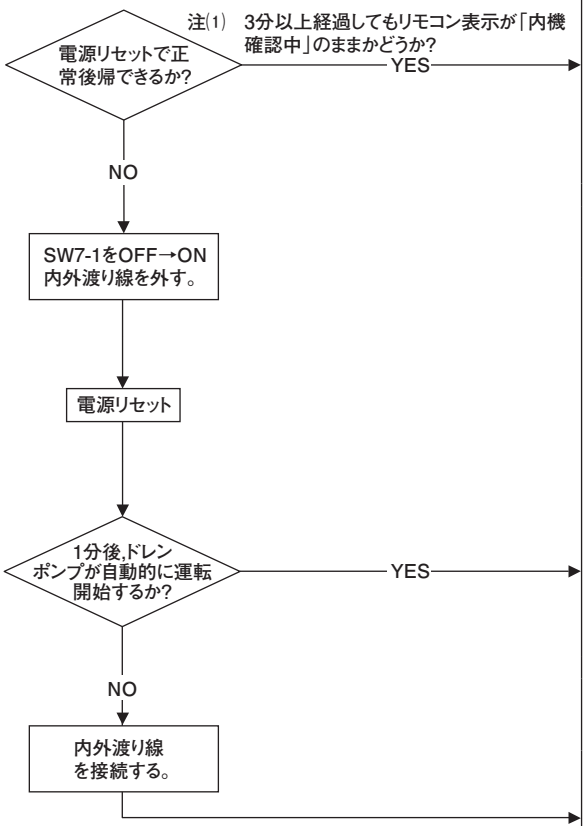
3. 異常発生条件

同上

4. 予想原因

・リモコンー室内ユニット間通信回路不良
・ノイズ
・室内ユニット制御基板不良
・リモコン不良

5. 故障診断と処置

診　断	処　置
	

注記：室内側ではリモコンと 180 秒間正常に通信できない場合，室内ユニットの基板は自動的にリセットスタートします。

表示 リモコン：E1	LED	緑	赤
	室内	連続点滅	消灯
	室外	連続点滅	消灯

内容

リモコン通信回路不良

1. 対象機種

ドレンポンプ不搭載機種

2. 異常検出方法

リモコンー室内ユニット間の通信が運転中に2分以上正常にできない場合
（リモコンでのみ検出）

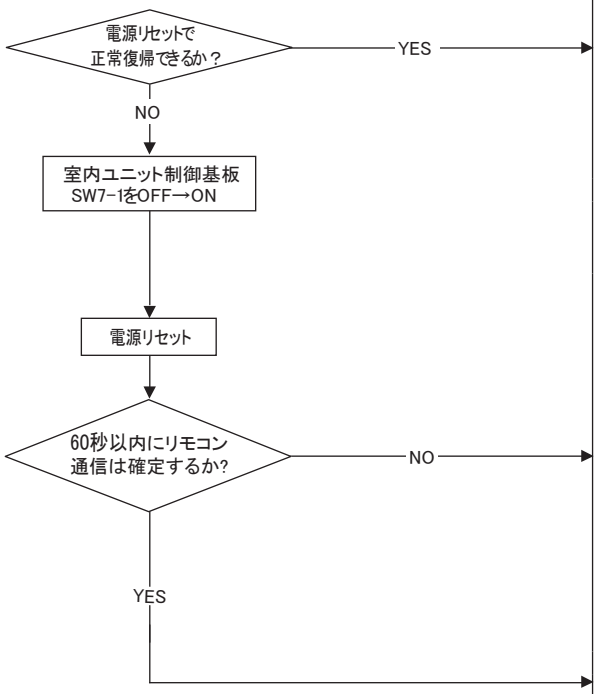
3. 異常発生条件

同上

4. 予想原因

・リモコンー室内ユニット間通信回路不良
・ノイズ
・室内制御基板不良
・リモコン不良

5. 故障診断と処置

診 断	処 置
	ノイズによる誤作動 （周辺環境確認） リモコン不良または 室内制御基板不良→ 交換 E5（運転中に通信異常） 診断へ移動

注記：室内側ではリモコンと180秒間正常に通信できない場合，室内ユニットの基板は自動的にリセットスタートします。

表示
リモコン:E2
7セグメント:－

LED	緑	赤
室内	連続点滅	1回点滅
室外	連続点滅	消灯

内容

室内アドレス重複

1. 対象機種

全機種

2. 異常検出方法

同一系統内で室内ユニットが**129台以上接続**
室内アドレス重複

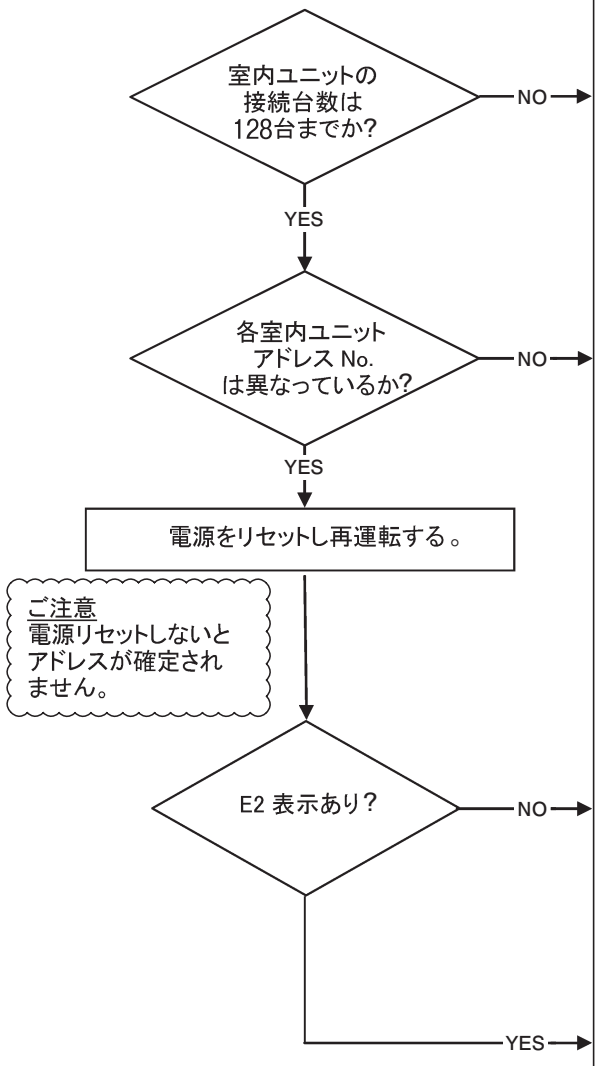
3. 異常発生条件

同上

4. 予想原因

①室内接続台数制限オーバー
②室内アドレスNo.重複
③室内ユニット制御基板不良

5. 故障診断と処置



注記:

表示 リモコン:E3/5 7セグメント:−	LED	緑	赤	内容
	室内	連続点滅	2回点滅	室外・信号系統異常
	室外	連続点滅	消灯	

1．対象機種

全機種

2．異常検出方法

同一系統内に室外ユニットがない

3．異常発生条件

同上

4．予想原因

・室外ユニットの電源未投入
・室内・外ユニットのペアリング不適合
・室内ユニット制御基板不良
・室外ユニット制御基板不良
・現地配線未接続

5．故障診断と処置

診　断	処　置
E3は室内外の通信が一度も成立しない時に発生する通信エラーです。一旦室内外の通信が成立すればE5となります。共に，現地通信用配線を確認してください。	
電源リセットし再運転する。	
E3/E5発生 NO	ノイズによる一過性の誤動作，ノイズ源あれば修正
YES	
スーパーリンク回路の保護ヒューズ切れ YES	予備回路に変更
NO	
室内ユニット制御基板LED OKか? NO	室内ユニット制御基板交換
YES	
室外ユニット電源確認OKか? NO	修正
YES	
室内に設定した室外アドレスはOKか? NO	修正
YES	
スーパーリンク信号線接続はOKか? NO	修正
YES	室外ユニット制御基板交換

注記：

表示 リモコン:E5	LED	緑	赤	内容
	室内	連続点滅	下記参照	運転中に通信異常
	室外	連続点滅	2回点滅	

1. 対象機種

全機種

2. 異常検出方法

室内～室外が2分以上正常に通信ができない場合

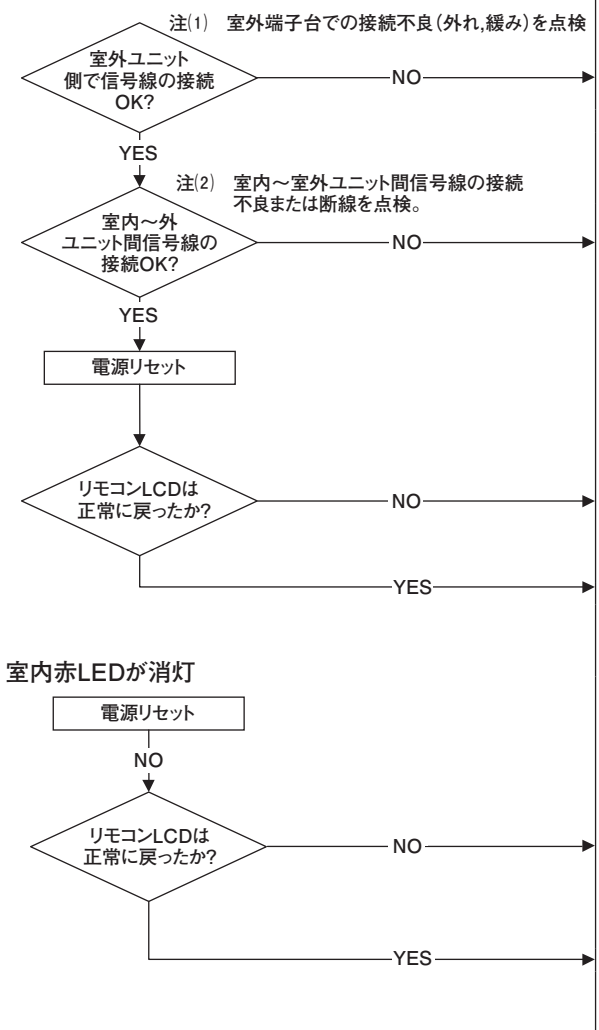
3. 異常発生条件

運転中に同上を検知

4. 予想原因

・号機設定ミス
・リモコン配線断線
・リモコン配線接続不良
・室外ユニット制御基板不良
・ノイズによる誤作動

5. 故障診断と処置



注記：ポンプダウンスイッチを押すと，室内ユニットとの通信をキャンセルするため，リモコンには“伝送異常・E5”が表示されますが異常ではありません。

表示
リモコン:E6

LED	緑	赤
室内	連続点滅	1回点滅
室外	連続点滅	消灯

内容

室内熱交温度センサ不良

1. 対象機種

全機種

2. 異常検出方法

室内熱交温度センサ
(Thi-R1, R2, R3)
の異常低温および異常高温(抵抗)を検知

3. 異常発生条件

・温度センサが,圧縮機ON2分後20秒間に断線を連続5秒間検知
・冷房運転で圧縮機ON2分後20秒間に短絡を連続5秒間検知

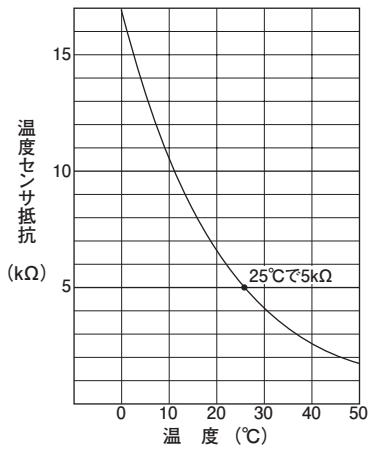
4. 予想原因

・室内熱交温度センサコネクタ不良
・室内熱交温度センサ不良
・室内ユニット制御基板故障

5. 故障診断と処置

診　断	処　置
室内熱交温度センサコネクタの接続はOKか? → NO	修正→コネクタ接続
YES → 室内熱交温度センサの特性はOKか? → NO	室内熱交温度センサ不良→交換
YES	室内ユニット制御基板不良→交換 (室内熱交温度センサ入力回路不良)

室内熱交温度センサ(Thi-R1,R2,R3)
温度ー抵抗特性



注記：

表示 リモコン:E7	LED	緑	赤
	室内	連続点滅	1回点滅
	室外	連続点滅	消灯

内容

室内吸込温度センサ不良

1. 対象機種

全機種

2. 異常検出方法

室内吸込温度センサ（Thi-A）の異常低温および異常高温（抵抗）を検知

3. 異常発生条件

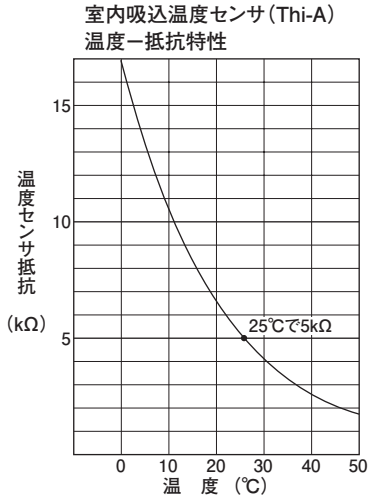
・温度センサが断線を連続5秒間検知

4. 予想原因

・吸込温度センサコネクタ不良
・吸込温度センサ不良
・室内ユニット制御基板故障

5. 故障診断と処置

診　断	処　置
吸込温度センサコネクタの接続はOKか? → NO	修正→コネクタ接続
YES → 吸込温度センサの特性はOKか? → NO	吸込温度センサ不良→交換
YES	室内ユニット制御基板不良→交換 （吸込温度センサ入力回路不良）



注記：

表示 リモコン:E9	LED	緑	赤	内容	ドレン不良 （ドレンポンプ搭載機）
	室内	連続点滅	1回点滅		
	室外	連続点滅	消灯		

1．対象機種

全機種

2．異常検出方法

フロートスイッチ作動

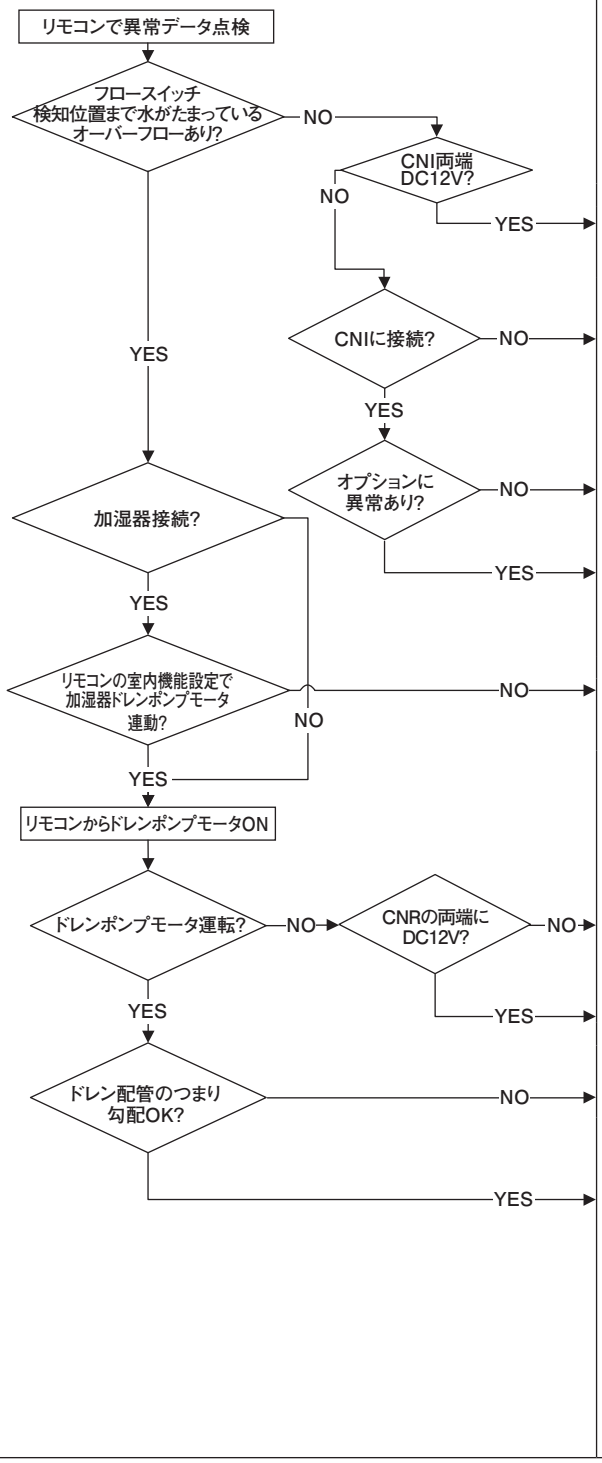
3．異常発生条件

フロートスイッチ開を3秒間連続検知したとき，またはフロートスイッチの未接続時・断線時。

4．予想原因

・室内ユニット制御基板不良
・フロートスイッチ設定ミス
・加湿器ドレンポンプモータ連動設定ミス
・オプション設定ミス
・ドレン配管ミス
・ドレンポンプモータ不良
・ドレンポンプモータ配線不良

5．故障診断と処置

診　断	処　置
	

注記：電源投入時に発生した場合は，フロートスイッチの断線・接点不良が考えられます。点検修正（交換）してください。

表示 リモコン:E10	LED	緑	赤	内容 1リモコン複数台制御時 接続台数オーバ（17台以上）
	室内	連続点滅	消灯	
	室外	連続点滅	消灯	

1. 対象機種

全機種

2. 異常検出方法

1リモコンで室内ユニット17台以上を検知したとき

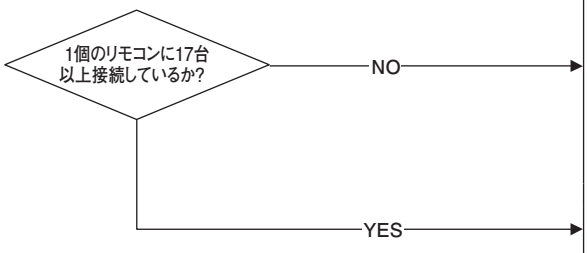
3. 異常発生条件

同上

4. 予想原因

・接続台数オーバ
・リモコン不良

5. 故障診断と処置

診　断	処　置
	リモコン不良→交換 16台以下に変更

注記：

表示	LED	緑	赤	内容
リモコン:E11 7セグメント:-	室内	連続点滅	消灯	室内ユニットアドレス設定不良
	室外	連続点滅	消灯	

1. 対象機種

全機種

2. 異常検出方法

複数室内ユニットを１リモコンで結線し、リモコンで親室内ユニットアドレス設定した場合

3. 異常発生条件

同上

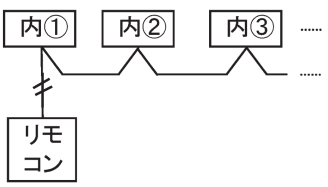
4. 予想原因

アドレス設定方法の間違い
１リモコンで複数の室内ユニットを制御する場合、親室内ユニットアドレス設定はできない。

5. 故障診断と処置

診　断	処　置
E11表示	
親室内ユニットアドレス設定が設定されているか	
NO	
YES	
親室内ユニットアドレス設定が必要か	
NO	親室内ユニットアドレス設定を解除する
YES	
リモコンに接続される室内ユニットは1台のみか	
NO	接続室内ユニットを１台にする
YES	室内ユニットの制御基板を交換

補足
親室内ユニットアドレス設定をした後に、
下図のリモコンの結線とした場合にE11となる。



注記：

表示
リモコン:E12
7セグメント:−

LED	緑	赤
室内	連続点滅	1回点滅
室外	連続点滅	消灯

内容
室内ユニットでのアドレス設定不良

1. 対象機種

全機種

2. 異常検出方法

室内ユニットでのアドレス設定時に自動と手動が混在

3. 異常発生条件

同上

4. 予想原因

室内ユニットでのアドレス設定間違い

5. 故障診断と処置

診 断	処 置
室内ユニットアドレス設定で自動･手動が混在しているか ?※ YES	アドレス設定を見直す。
NO	室内ユニット制御基板交換

※アドレス設定方法一覧（ ）内は旧SL用の数値

	新SL対応機			新SL未対応機		
	室内ユニットアドレス設定		室外ユニットアドレス設定	室内ユニットアドレス設定		室外ユニットアドレス設定
	室内No.スイッチ	室外No.スイッチ	室外No.スイッチ	室内No.スイッチ	室外No.スイッチ	室外No.スイッチ
手動アドレス（旧SL/新SL）	000~127(47)	00~31(47)	00~31(47)	00~47	00~47	00~47
1冷媒系統自動アドレス(旧SL/新SL)	000	49	49	49	49	49
複数冷媒系統自動アドレス(新SLのみ)	000	49	00~31	不可	不可	不可

注記:

表示
リモコン： E16

LED	緑	赤
室内	連続点滅	1回点滅
室外	連続点滅	消灯

内容

室内ファンモータ異常

1．対象機種

FDT，FDTCシリーズのみ

2．異常検出方法

室内ファンモータ回転数

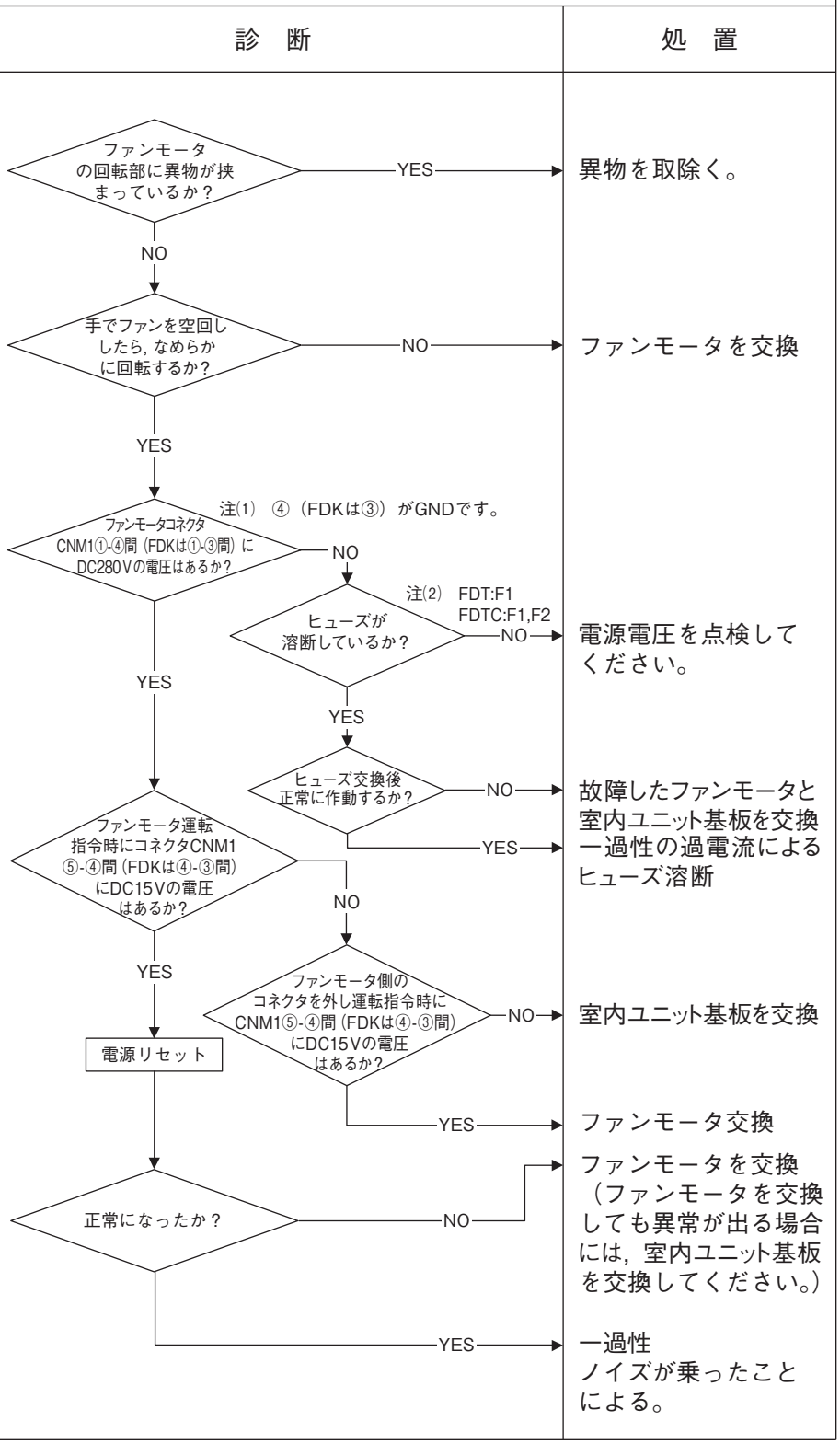
3．異常発生条件

室内ファンモータの実回転が30秒連続して200min^{-1}以下になると圧縮機，室内ファンモータを停止します。2秒遅延後自動復帰しますが60分以内に4回作動した場合。

4．予想原因

・室内ユニット基板不良
・ファンモータの回転部の異物
・ファンモータ不良
・基板の塵埃
・ヒューズ溶断
・外来ノイズ，サージ

5．故障診断と処置



注記：

表示	LED	緑	赤	内容
リモコン： E16	室内	連続点滅	※	室内ファンモータ異常
	室外	連続点滅	消灯	

※ FM1…1回点滅, FM2…2回点滅

1．対象機種

FDTWシリーズ

2．異常検出方法

室内ファンモータ回転数

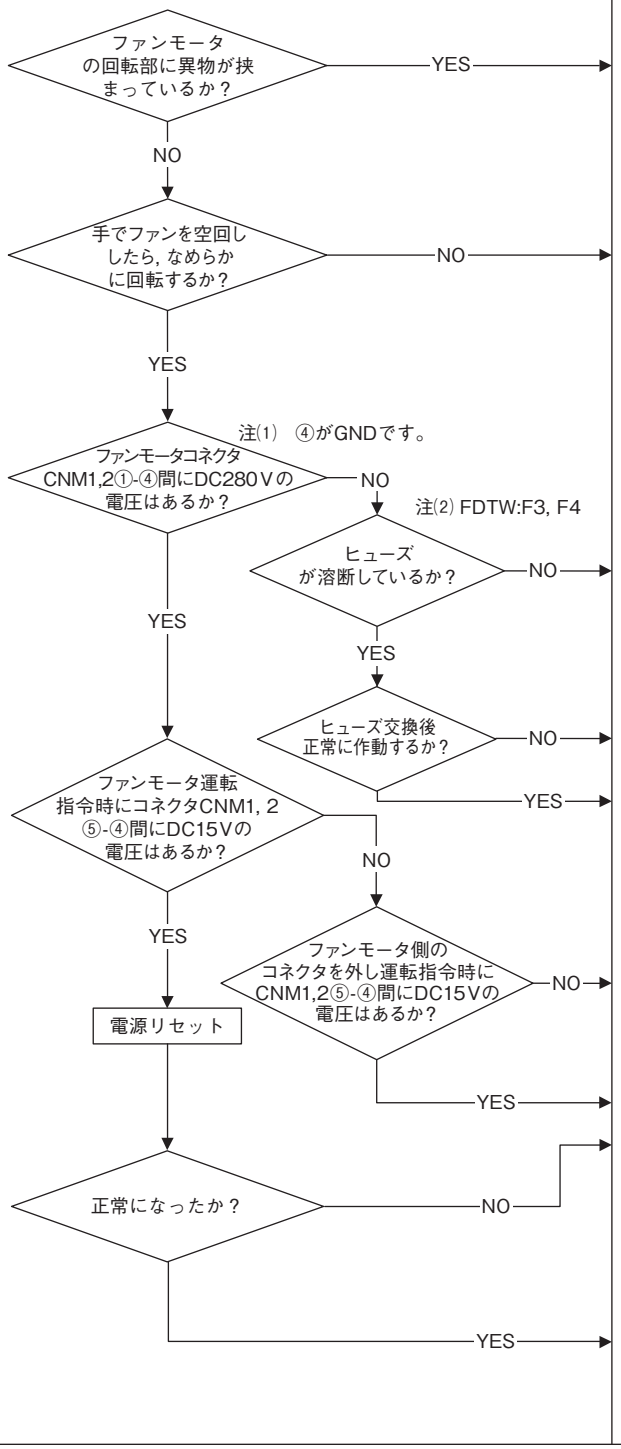
3．異常発生条件

室内ファンモータの実回転が30秒連続して200min^{-1}以下になると圧縮機，室内ファンモータを停止します。2秒遅延後自動復帰しますが60分以内に4回作動した場合。

4．予想原因

・室内制御（電源）基板不良
・ファンモータの回転部の異物
・ファンモータ不良
・基板の塵埃
・ヒューズ溶断
・外来ノイズ，サージ

5．故障診断と処置



注記：

表示 リモコン:E18	LED	緑	赤	内容 **親子室内アドレス設定不良**
	室内	連続点滅	1回点滅	
	室外	連続点滅	消灯	

1. 対象機種

全機種

2. 異常検出方法

(1)設定した親室内ユニットアドレスが、同一のSL信号線のネットワーク上に存在しない場合。
(2)子室内ユニットアドレスとして設定したアドレスを親室内ユニットアドレスとして重複して設定した場合。

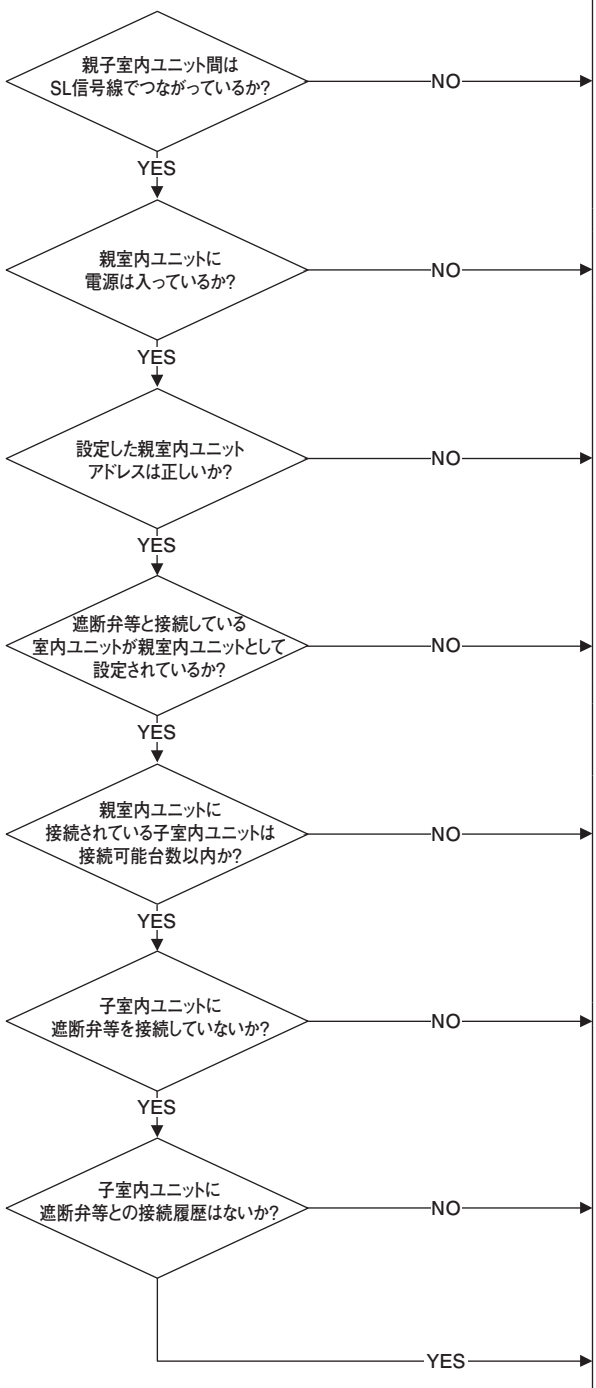
3. 異常発生条件

同上

4. 予想原因

・親室内ユニットアドレスの設定ミス
・親室内ユニットの電源が入っていない。
・親子室内ユニット間にSL信号線がつながっていない。
・子室内ユニットに遮断弁が接続されている。
・子室内ユニットまたは親室内ユニットまたは両方の制御基板が故障。

5. 故障診断と処置



注記：遮断弁等とは、遮断弁、冷媒検知警報器、分流コントローラを示す。

表示 リモコン:E19	LED	緑	赤	内容 運転チェックモード異常
	室内	連続点滅	1回点滅	
	室外	連続点滅	消灯	

1. 対象機種

全機種

2. 異常検出方法

E19 発生

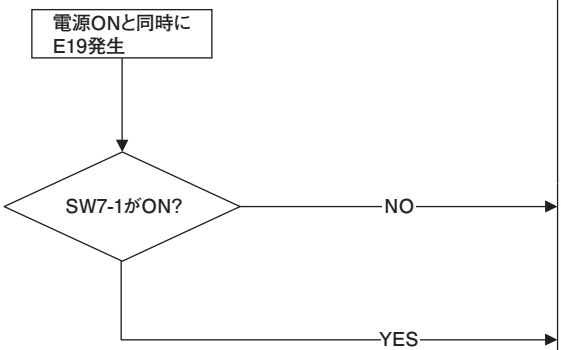
3. 異常発生条件

同上

4. 予想原因

・スイッチ SW7-1 設定間違い（スイッチSW7-1の戻し忘れ）
・室内ユニット制御基板不良（スイッチ SW7-1 不良）

5. 故障診断と処置

診　断	処　置
	室内ユニット制御基板不良→交換（スイッチ不良） SW7-1をOFFし電源をリセット

注記：

表示
リモコン： E20

LED	緑	赤
室内	連続点滅	1回点滅
室外	連続点滅	消灯

内容

室内ファンモータ回転数異常

1．対象機種

FDT，FDTCシリーズのみ

2．異常検出方法

室内ファンモータ回転数

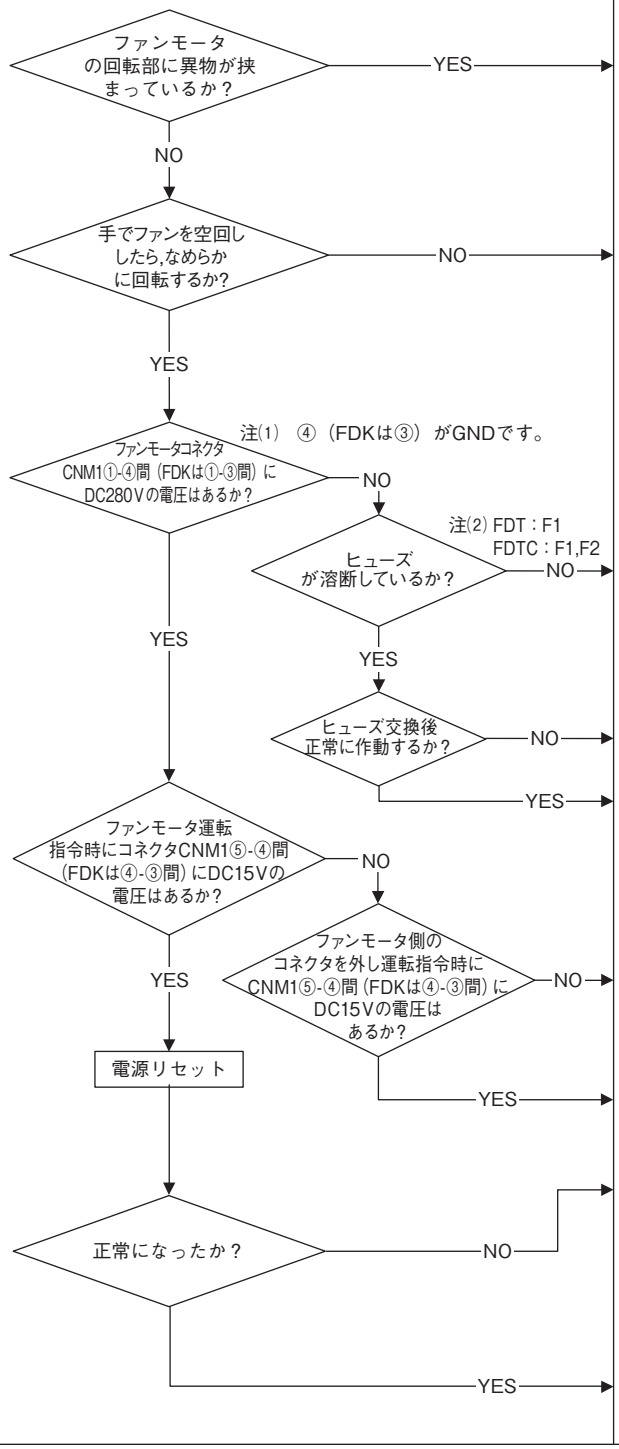
3．異常発生条件

室内ファンモータ回転指令が出力された後2分経過しても実回転数が要求回転数−50min^{-1}に達しないときは，ファンモータ回転異常を検出し停止します。

4．予想原因

・室内ユニット基板不良
・ファンモータの回転部の異物
・ファンモータ不良
・基板の塵埃
・ヒューズ溶断
・外来ノイズ，サージ

5．故障診断と処置



注記：

表示
リモコン： E20

LED	緑	赤
室内	連続点滅	※
室外	連続点滅	消灯

内容

室内ファンモータ回転数異常

※ FM1…1回点滅, FM2…2回点滅

1．対象機種

FDTWシリーズ

2．異常検出方法

室内ファンモータ回転数

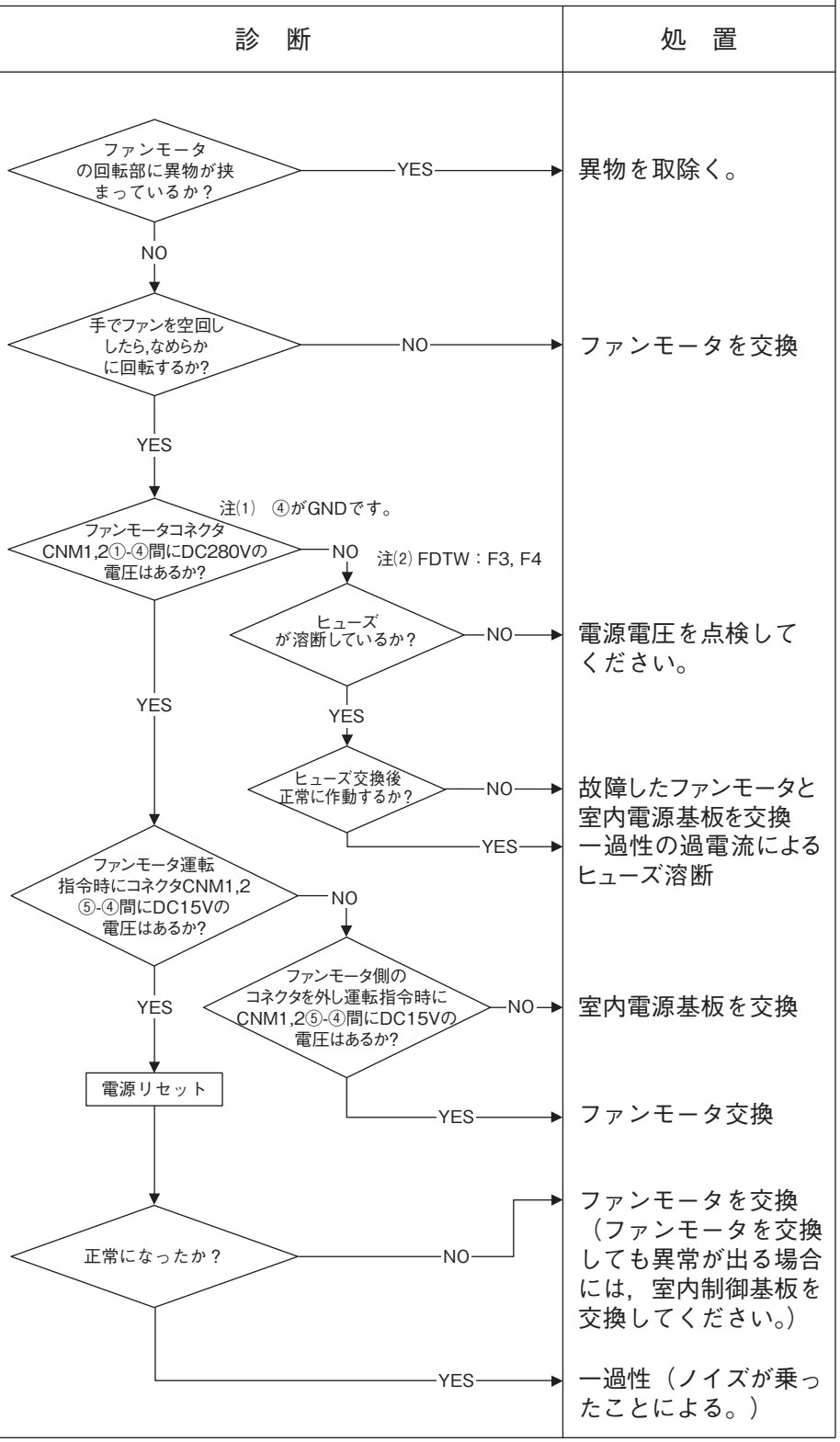
3．異常発生条件

室内ファンモータ回転指令が出力された後2分経過しても実回転数が要求回転数-50min^{-1} (FDU：500min^{-1}) に達しないときは，ファンモータ回転異常を検出し停止します。

4．予想原因

・室内制御（電源）基板不良
・ファンモータの回転部の異物
・ファンモータ不良
・基板の塵埃
・ヒューズ溶断
・外来ノイズ，サージ

5．故障診断と処置



注記：

表示 リモコン:E23 7セグメント:-/oPE09	LED	緑	赤	内容	冷媒漏えい （冷媒検知警報器接続時）
	室内	連続点滅	1回点滅		
	室外	連続点滅	消灯		

1．対象機種

全機種

2．異常検出方法

冷媒検知警報器から室内ユニットに漏えい信号が入力された

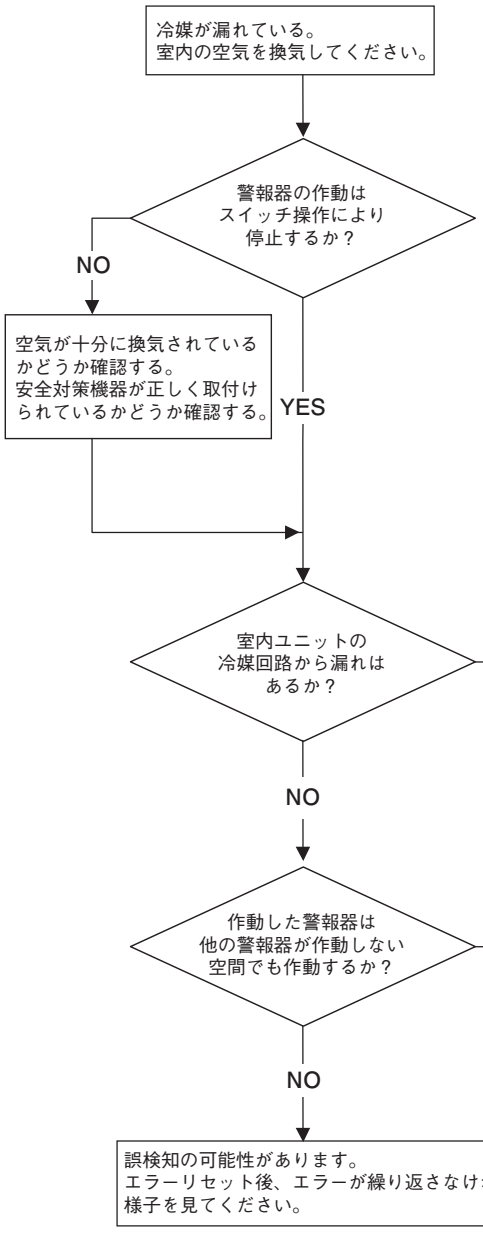
3．異常発生条件

・冷媒センサが冷媒漏えいを検知
・冷媒センサが冷媒以外のガスを検知
・冷媒センサが劣化し誤検知
・冷媒検知警報器が安全対策確認モードになっている

4．予想原因

・冷媒漏えい

5．故障診断と処置

診　断	処　置
	漏れ箇所を修復 検知器不良 →検知器交換 交換後、冷媒漏えい検知を繰り返さなければ問題なし。

注記：・7セグメントにoPE09以外のエラー表示が出る場合、このトラブルシューティングの処理後、再度そのエラーが出るか確認してください。再度エラーが出る場合は、そのエラー番号のトラブルシューティングを確認してください。
・リモコンに「E23」と表示された場合、修理を開始するまでに下記①②項を実施してください。
①実際に冷媒が漏れていた場合、燃焼器具などの火気を消して、部屋の換気をしてください。
②修理を開始するまでは電源ブレーカを遮断しないでください。
室内ユニットは異常停止しますが、漏えいした冷媒の滞留を防ぐためファンの送風運転をします。
・冷媒漏えい検知後は、換気等により冷媒濃度が下がっても冷媒検知警報器の LED は通常状態に戻りません。スイッチ3回長押しにより冷媒検知警報器を CPU リセットし、通常状態に戻してください。

表示
リモコン:E23
7セグメント:-/oPE09

LED	緑	赤
室内	連続点滅	1回点滅
室外	連続点滅	消灯

内容

冷媒漏えい（冷媒センサ内蔵室内ユニット）

1．対象機種

LXZA 以降の全機種

2．異常検出方法

内蔵の冷媒センサから室内ユニットに警報出力が入力された

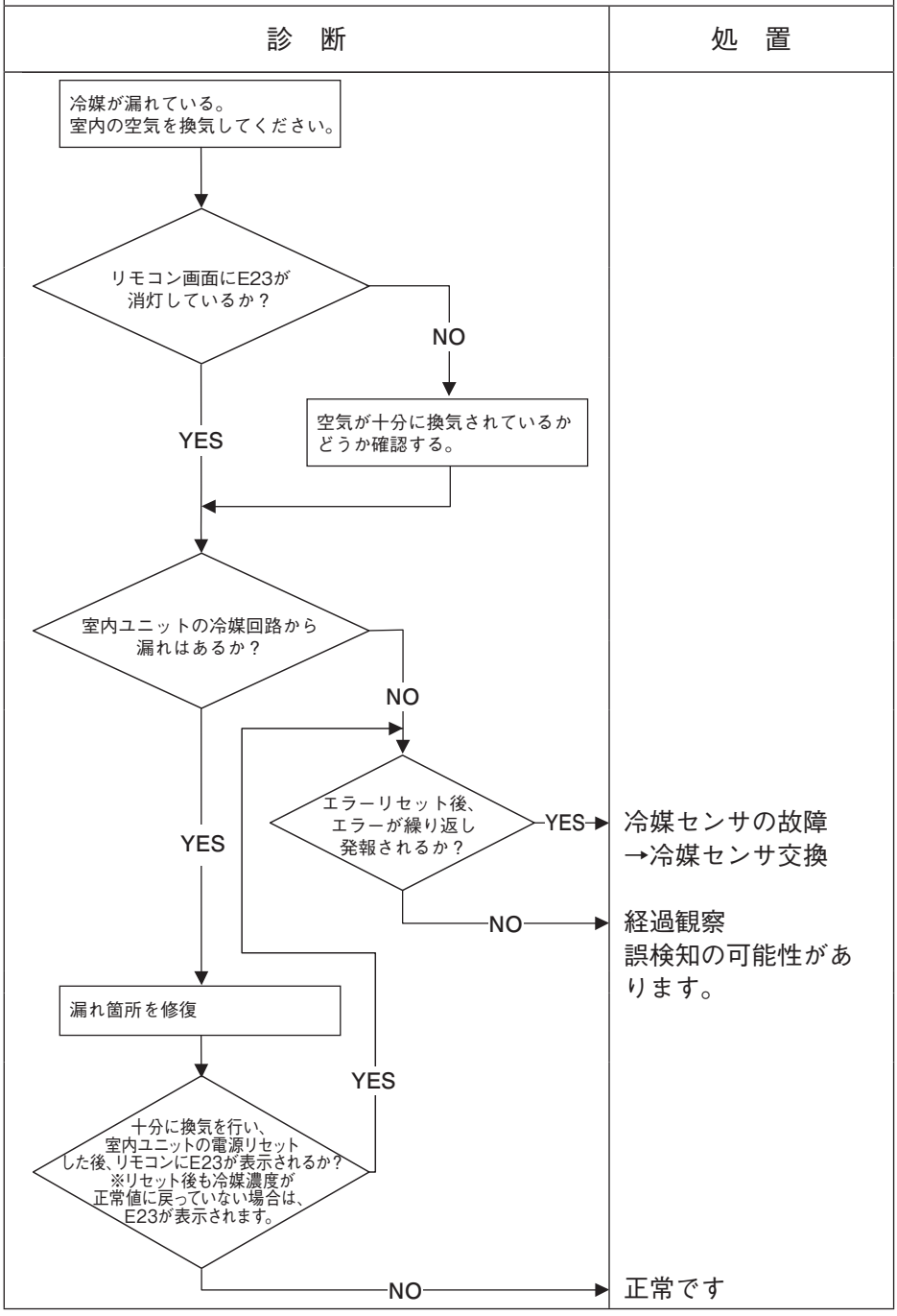
3．異常発生条件

・冷媒センサが冷媒漏えいを検知
・冷媒センサが冷媒以外のガスを検知
・冷媒センサが劣化し誤検知
・室内ユニットが安全対策確認モードになっている

4．予想原因

・冷媒漏えい

5．故障診断と処置



注記：・7セグメントにoPE09以外のエラー表示が出る場合、このトラブルシューティングの処理後、再度そのエラーが出るか確認してください。再度エラーが出る場合は、そのエラー番号のトラブルシューティングを確認してください。
・リモコンに「E23」と表示された場合、修理を開始するまでに下記①②項を実施してください。
①実際に冷媒が漏れていた場合、燃焼器具などの火気を消して、部屋の換気をしてください。
②修理を開始するまでは電源ブレーカを遮断しないでください。
室内ユニットは異常停止しますが、漏えいした冷媒の滞留を防ぐためファンの送風運転をします。

表示
リモコン:E24
7セグメント:-/oPE09

LED	緑	赤
室内	連続点滅	消灯
室外	連続点滅	消灯

内容
他室内ユニット冷媒漏えい検知

1. 対象機種

全機種

2. 異常検出方法

同じ室外ユニットに接続されている他室内ユニットが冷媒漏えいを検知した

3. 異常発生条件

・熱交換器からの冷媒漏えい
・配管接続部分からの冷媒漏えい
・冷媒センサの不良
・配線不良（故障出力を誤検知）

4. 予想原因

・熱交換器からの冷媒漏えい
・配管接続部分からの冷媒漏えい
・冷媒センサの不良
・配線不良（故障出力を誤検知）

5. 故障診断と処置

診　断	処　置
E23が表示されているリモコンを探して、 E23が表示されている室内ユニットを特定してください。 ↓ E23のフローチャートを参照してください。	

注記：・7 セグメントに oPE09 以外のエラー表示が出る場合、このトラブルシューティングの処理後、再度そのエラーが出るか確認してください。再度エラーが出る場合は、そのエラー番号のトラブルシューティングを確認してください。
・リモコンに「E23」と表示された場合、修理を開始するまでに下記①②項を実施してください。
①実際に冷媒が漏れていた場合、燃焼器具などの火気を消して、部屋の換気をしてください。
②修理を開始するまでは電源ブレーカを遮断しないでください。
室内ユニットは異常停止しますが、漏えいした冷媒の滞留を防ぐためファンの送風運転をします。

表示 リモコン:E28	LED	緑	赤	内容 リモコン温度センサ断線
	室内	連続点滅	消灯	
	室外	連続点滅	消灯	

1. 対象機種

全機種

2. 異常検出方法

リモコン温度センサ (Thc) の異常低温 (抵抗) を検知

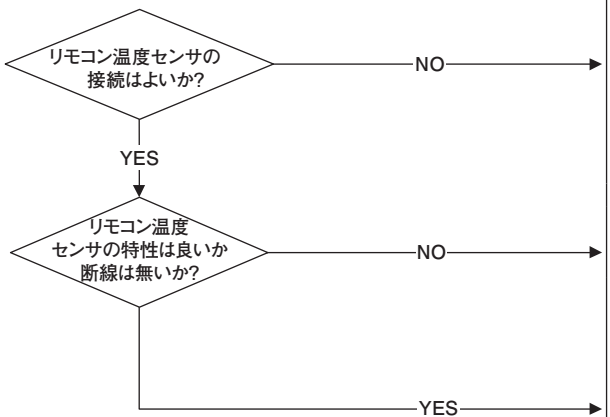
3. 異常発生条件

温度センサが-50℃以下を連続 5 秒間検知した場合は圧縮機を停止します。3 分遅延後に圧縮機を再起動させ，1 回目の検知から 60 分以内に再検知した場合。

4. 予想原因

・リモコン温度センサ接続不良
・リモコン温度センサ不良
・リモコン基板不良

5. 故障診断と処置

診　断	処　置
	修正 リモコン温度センサ不良→交換 リモコン基板不良→交換 (リモコン温度センサ入力回路不良)

リモコン温度センサ抵抗特性 (Thc)

温度 [℃]	抵抗値 (k Ω)	温度 [℃]	抵抗値 (k Ω)	温度 [℃]	抵抗値 (k Ω)	温度 [℃]	抵抗値 (k Ω)
0	16.33	14	8.235	30	4.027	46	2.094
1	15.52	16	7.503	32	3.699	48	1.938
2	14.76	18	6.843	34	3.401	50	1.794
4	13.35	20	6.248	36	3.130	52	1.663
6	12.09	22	5.711	38	2.883	54	1.542
8	10.97	24	5.225	40	2.658	56	1.432
10	9.956	26	4.786	42	2.453	58	1.330
12	9.050	28	4.388	44	2.266	60	1.237

注記：リモコンセンサ無効→有効切替えの 10 秒間以降は，断線しても E28 は表示しません。同時に使用するセンサをリモコン→室内吸込温度センサに変更します。リモコンセンサを有効にしても点検表示の吸込温度表示は室内吸込温度センサの値となります。

表示	LED	緑	赤	内容
リモコン:E63 7セグメント:E63	室内	連続点滅	消灯	緊急停止
	室外	連続点滅	1回点滅	

1. 対象機種

室内ユニット

2. 異常検出方法

室内ユニット基板CNT端子への接点入力

3. 異常発生条件

同上

4. 予想原因

・緊急停止要因の発生
・リモコン基板不良
・室内制御基板不良

5. 故障診断と処置

診 断	処 置
停止 30 分前データをメンテ PC に保存する。	運転状態の確認，記録 運転中か電源投入時かを確認する。
リモコンに緊急停止「有効」となってないか? NO	リモコン基板交換
YES	
室内基板CNTに接点信号が入っているか? NO	室内制御基板交換
YES	緊急停止発生原因を調査する （設備業者と打合せする時，停止30分前のデータがあるほうがよい。）

注記：緊急停止を検知した室内ユニットが指令し，全停止となる。

10.3 室内ユニット基板交換要領

お願い **ワイヤードリモコン使用機種は制御基板交換後，電源を投入した後に「リモコンによる機能設定」を参照し室内ユニットの機能や用途に合せて設定を行ってください。**

(1) FDT，FDTC シリーズ

安全上のご注意

- 交換工事は、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ確実に行なってください。
- ここに示した注意事項は、安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
  表示と意味は次のようになっています。

⚠ 警告	誤った作業を行った時に、死亡や重傷等の重大な結果に結び付く可能性が大きいもの。
⚠ 注意	誤った作業を行った時に、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があるもの。

- 基板交換完了後、試運転を行い異常がないことを確認してください。

⚠ 警　告

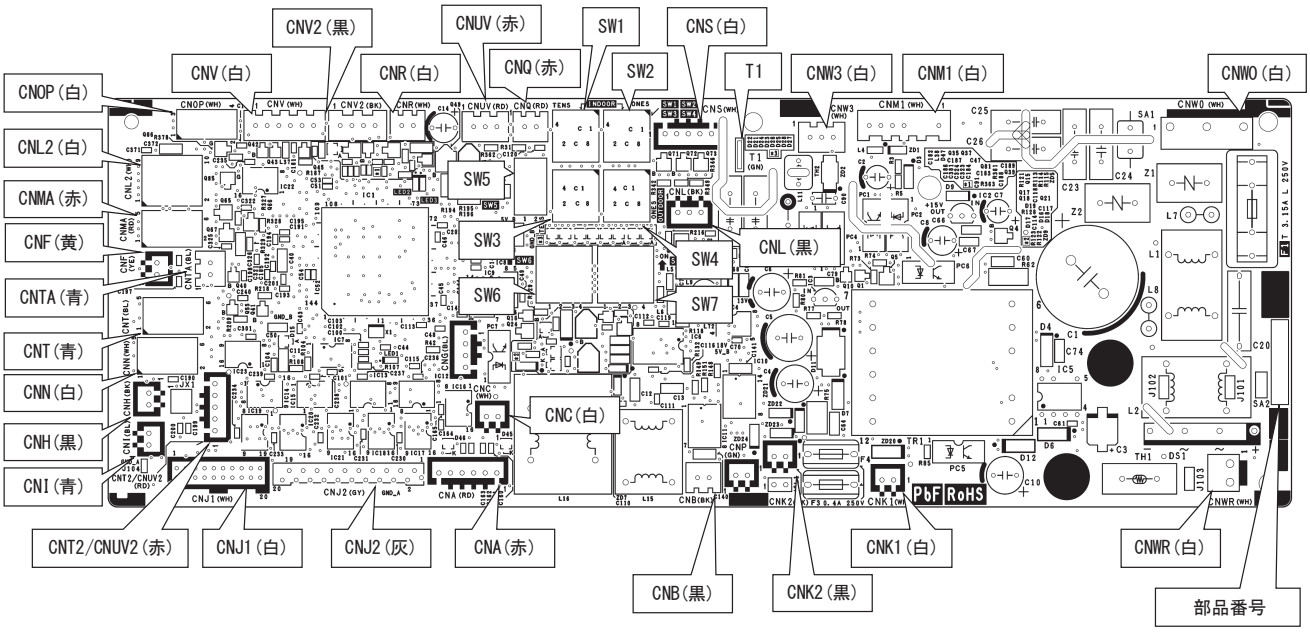
- 交換作業は、販売店または専門業者に依頼する。
  ご自分で作業をされ不備があると、感電や火災の原因になります。
- 作業は、この交換要領書に従って確実に行う。
  作業に不備があると、感電や火災の原因になります。
- 元電源を切った後、交換工事をする。（電源を切って 1 分以上経過後に実施してください。）
  通電状態での基板交換は、感電・故障・動作不良の原因になります。ファンモータ他の接続機器破壊の原因になります。
- 配線は確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。
  接続や固定が不完全な場合は、発熱・火災の原因になります。
- 基板交換の作業終了後、電源投入前に基板と配線が正しく接続されていることを確認する。
  交換作業に不備があると、感電や火災の原因になります。

⚠ 注　意

- 基板にコネクタを接続する際は、基板が変形しないように接続する。破損・故障の原因になります。
- コネクタは、確実に挿入しストッパーを掛ける。火災・動作不良の原因になります。
- 配線は、かみ込んだり、つっぱらないように結束する。断線・変形して不具合・感電の原因になることがあります。

本品は、共通基板です。基板の種類により部品実装が異なります。
本要領書にて設定を行って基板交換してください。

① 基板にコネクタ接続されている配線を全て取外した後、基板を交換してください。
② 基板は、配線類をかみ込まないように固定してください。
③ スイッチ設定は、交換する基板と同一設定としてください。
④ CNOPのジャンパコネクタが接続されている場合は、新しい基板に付け替えてください。
⑤ 基板へコネクタを接続してください。基板上のコネクタ色と配線コネクタ色を合わせて接続してください。



PSC012D244

(2) FDTW シリーズ

(a) 制御基板

安全上のご注意

- 交換工事は、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ確実に行なってください。
- ここに示した注意事項は、安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
  表示と意味は次のようになっています。

⚠ 警告	誤った作業を行った時に、死亡や重傷等の重大な結果に結び付く可能性が大きいもの。
⚠ 注意	誤った作業を行った時に、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があるもの。

- 基板交換完了後、試運転を行い異常がないことを確認してください。

⚠ 警 告

- 交換作業は、販売店または専門業者に依頼する。
  ご自分で作業をされ不備があると、感電や火災の原因になります。
- 作業は、この交換要領書に従って確実に行う。
  作業に不備があると、感電や火災の原因になります。
- 元電源を切った後、交換工事をする。(電源を切って１分以上経過後に実施してください。)
  通電状態での基板交換は、感電・故障・動作不良の原因になります。ファンモータ他の接続機器破壊の原因になります。
- 配線は確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。
  接続や固定が不完全な場合は、発熱・火災の原因になります。
- 基板交換の作業終了後、電源投入前に基板と配線が正しく接続されていることを確認する。
  交換作業に不備があると、感電や火災の原因になります。

⚠ 注 意

- 基板にコネクタを接続する際は、基板が変形しないように接続する。破損・故障の原因になります。
- コネクタは、確実に挿入しストッパーを掛ける。火災・動作不良の原因になります。
- 配線は、かみ込んだり、つっぱらないように結束する。断線・変形して不具合・感電の原因になることがあります。

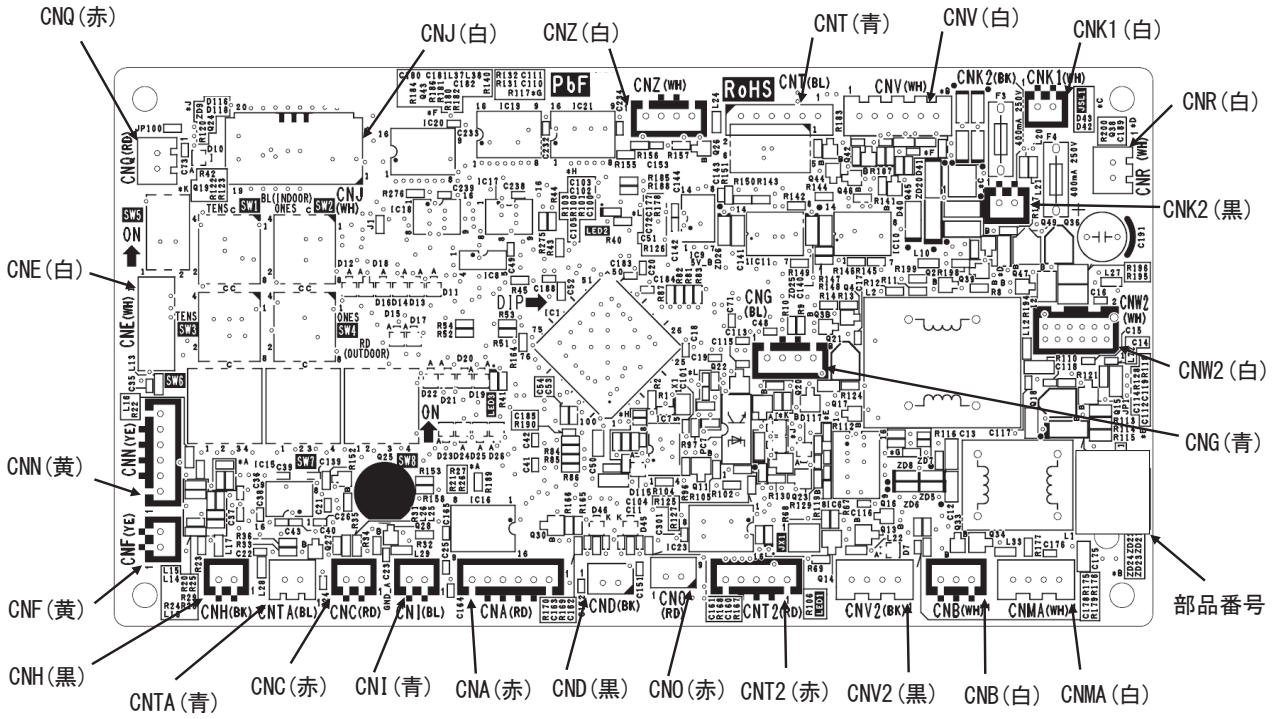
本品は、共通基板です。本要領書にて設定を行って基板交換してください。

(i)基板を交換してください。

① 基板にコネクタ接続されている配線を全て取外した後、基板を交換してください。
② 基板は、配線類をかみ込まないように固定してください。
③ スイッチ設定は、交換する基板と同一設定としてください。
④ CNZのジャンパコネクタが接続されている場合は、新しい基板に付け替えてください。
⑤ 基板へコネクタ接続してください。基板上のコネクタ色と配線コネクタ色を合わせて接続してください。

(ii)制御基板

基板の種類により部品実装が異なります。



PSC012D259

(b) 電源基板

安全上のご注意

- 交換工事は、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ確実に行なってください。
- ここに示した注意事項は、安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
  表示と意味は次のようになっています。

⚠ 警告	誤った作業を行った時に、死亡や重傷等の重大な結果に結び付く可能性が大きいもの。
⚠ 注意	誤った作業を行った時に、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があるもの。

- 基板交換完了後、試運転を行い異常がないことを確認してください。

⚠ 警 告

- 交換作業は、販売店または専門業者に依頼する。
  ご自分で作業をされ不備があると、感電や火災の原因になります。
- 作業は、この交換要領書に従って確実に行う。
  作業に不備があると、感電や火災の原因になります。
- 元電源を切った後、交換工事をする。（電源を切って１分以上経過後に実施してください。）
  通電状態での基板交換は、感電・故障・動作不良の原因になります。ファンモータ他の接続機器破壊の原因になります。
- 配線は確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。
  接続や固定が不完全な場合は、発熱・火災の原因になります。
- 基板交換の作業終了後、電源投入前に基板と配線が正しく接続されていることを確認する。
  交換作業に不備があると、感電や火災の原因になります。

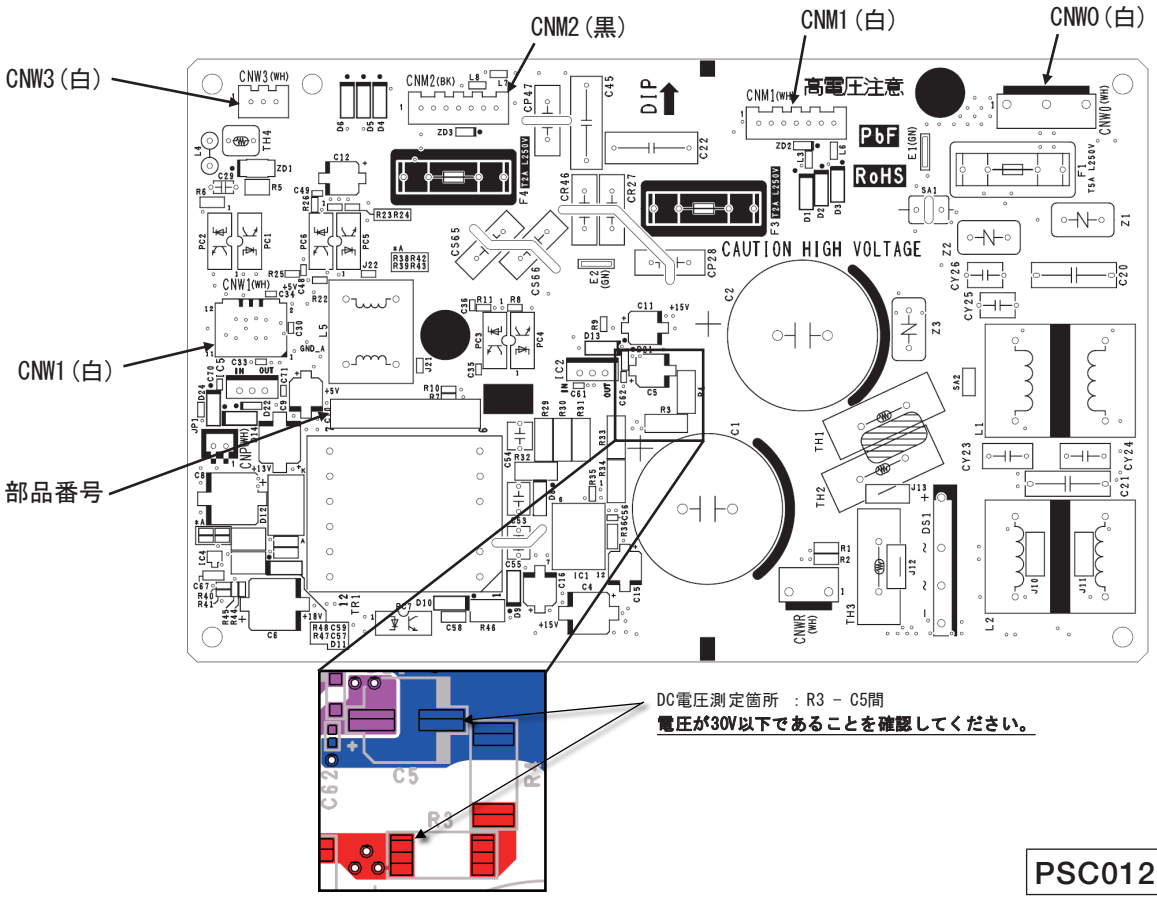
⚠ 注 意

- 基板にコネクタを接続する際は、基板が変形しないように接続する。破損・故障の原因になります。
- コネクタは、確実に挿入しストッパーを掛ける。火災・動作不良の原因になります。
- 配線は、かみ込んだり、つっぱらないように結束する。断線・変形して不具合・感電の原因になることがあります。

本品は、共通基板です。本要領書にて設定を行って基板交換してください。

（i）基板を交換してください。
① 交換作業は，電源を切って 3 分後に実施してください。
（電源 OFF 直後はコンデンサが放電されておらず，高電圧状態で危険なため，基板に触らないでください。）
② （ii）に示すとおりハーネスが接続されている状態で，DC 電源電圧を測定し，30V 以下であることを確認してください。
③ 基板にコネクタ接続されている配線を全て取外した後、基板を交換してください。
④ 基板は、配線類をかみ込まないように固定してください。
⑤ 基板へコネクタ接続してください。基板上のコネクタ色と配線コネクタ色を合わせて接続してください。

（ii）電源基板
基板の種類により部品実装が異なります。



PSC012D256

(3) FDTSC シリーズ

安全上のご注意

- 交換工事は、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ確実に行なってください。
- ここに示した注意事項は、安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
  表示と意味は次のようになっています。

⚠ 警告	誤った作業を行った時に、死亡や重傷等の重大な結果に結び付く可能性が大きいもの。
⚠ 注意	誤った作業を行った時に、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があるもの。

- 基板交換完了後、試運転を行い異常がないことを確認してください。

⚠ 警 告

- 交換作業は、販売店または専門業者に依頼する。
  ご自分で作業をされ不備があると、感電や火災の原因になります。
- 作業は、この交換要領書に従って確実に行う。
  作業に不備があると、感電や火災の原因になります。
- 元電源を切った後、交換工事をする。（電源を切って１分以上経過後に実施してください。）
  通電状態での基板交換は、感電・故障・動作不良の原因になります。ファンモータ他の接続機器破壊の原因になります。
- 配線は確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。
  接続や固定が不完全な場合は、発熱・火災の原因になります。
- 基板交換の作業終了後、電源投入前に基板と配線が正しく接続されていることを確認する。
  交換作業に不備があると、感電や火災の原因になります。

⚠ 注 意

- 基板にコネクタを接続する際は、基板が変形しないように接続する。破損・故障の原因になります。
- コネクタは、確実に挿入しストッパーを掛ける。火災・動作不良の原因になります。
- 配線は、かみ込んだり、つっぱらないように結束する。断線・変形して不具合・感電の原因になることがあります。

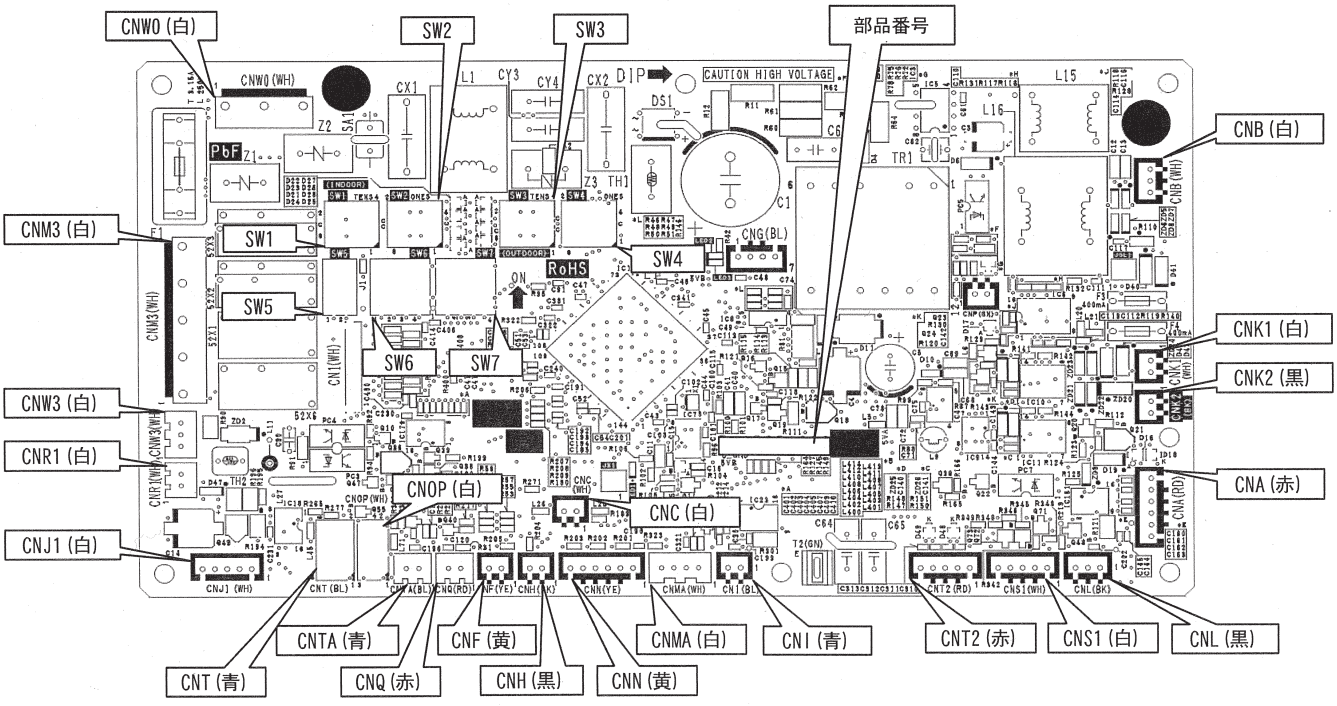
本品は、共通基板です。本要領書にて設定を行って基板交換してください。

(i)基板を交換してください。

① 基板にコネクタ接続されている配線を全て取外した後、基板を交換してください。
② 基板は、配線類をかみ込まないように固定してください。
③ スイッチ設定は、交換する基板と同一設定としてください。
④ CNOPのジャンパコネクタが接続されている場合は、新しい基板に付け替えてください。
⑤ 基板へコネクタ接続してください。基板上のコネクタ色と配線コネクタ色を合わせて接続してください。

(ii)制御基板

基板の種類により部品実装が異なります。



PSC012D230A

■制御切換えスイッチ（交換する基板と設定を同一にしてください。）

1）アドレス設定・仕様切換えスイッチ設定をしてください。
交換する基板と同一設定としてください。

項目	スイッチ	制御内容	
アドレス	SW1,2（青）	室内アドレス　00～99	
	SW5-2	OFF	室内アドレス　100未満
		ON	室内アドレス　100以上
	SW3,4（緑）	室外アドレス	

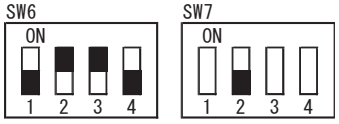
項目	スイッチ	制御内容	
新旧	SW5-1	OFF	新旧SL通信自動判定
		ON	旧SL通信に固定
試運転	SW7-1	OFF	通常運転
		ON	運転チェック/ドレンポンプ試運転

2）容量設定

容量切換えスイッチ(SW6,7)により容量を設定してください。
交換する基板と同一になります。

機種設定	SW6				SW7
	-1	-2	-3	-4	2
P22	－	－	－	－	－
P28	○	－	－	－	－
P36	－	○	－	－	－
P45	－	－	○	－	－
P56	－	○	○	－	－
P71	－	－	－	○	－
P80	○	－	－	○	－
P90	－	○	－	○	－
P112	○	○	－	○	－
P140	－	－	○	○	－
P160	○	－	○	○	－
P224	－	○	○	○	
P280	○	○	○	○	

○：ON　　－：OFF

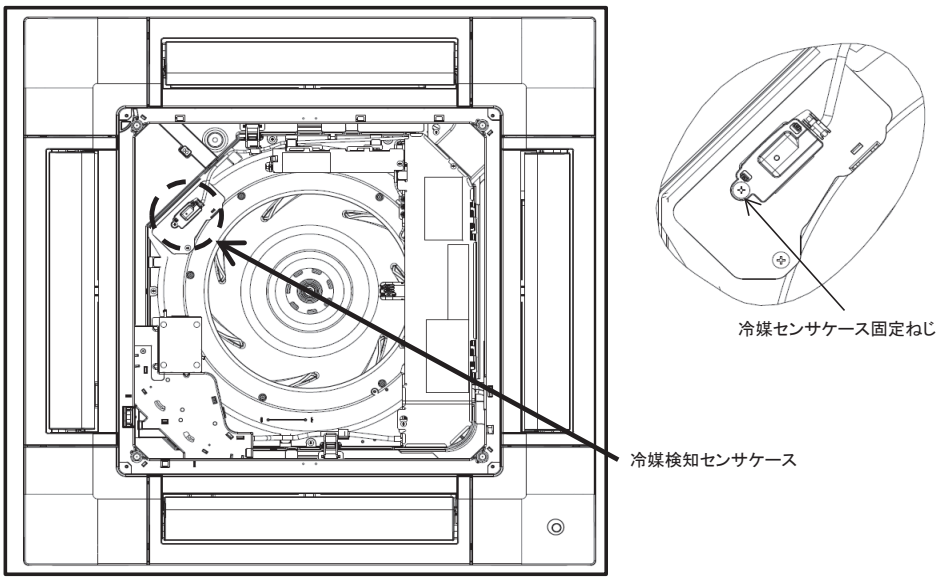


（P56の場合）

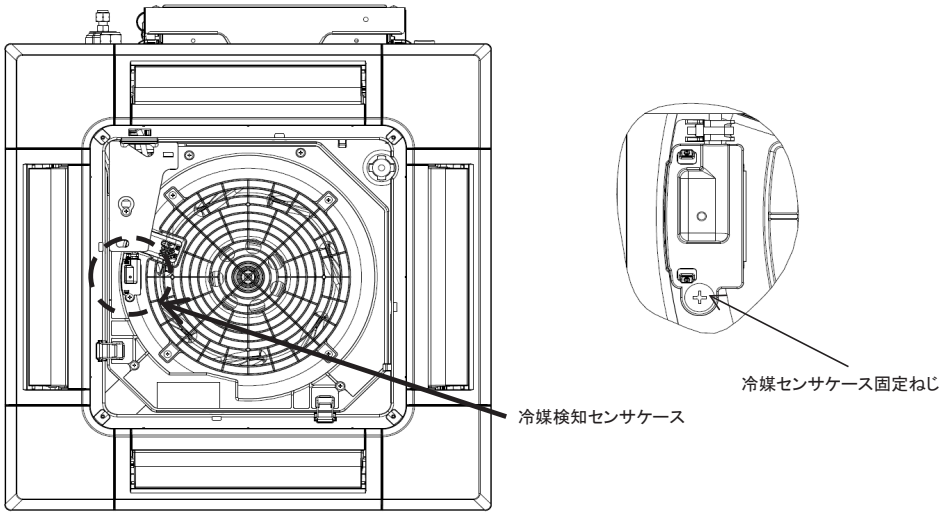
■冷媒センサの交換手順

1）室内ユニット内蔵の冷媒センサを交換する際は、グリルを取外してください。
2）続いて、下図に示す固定ねじ（1 本）を取外し、冷媒センサケースを取外してください。

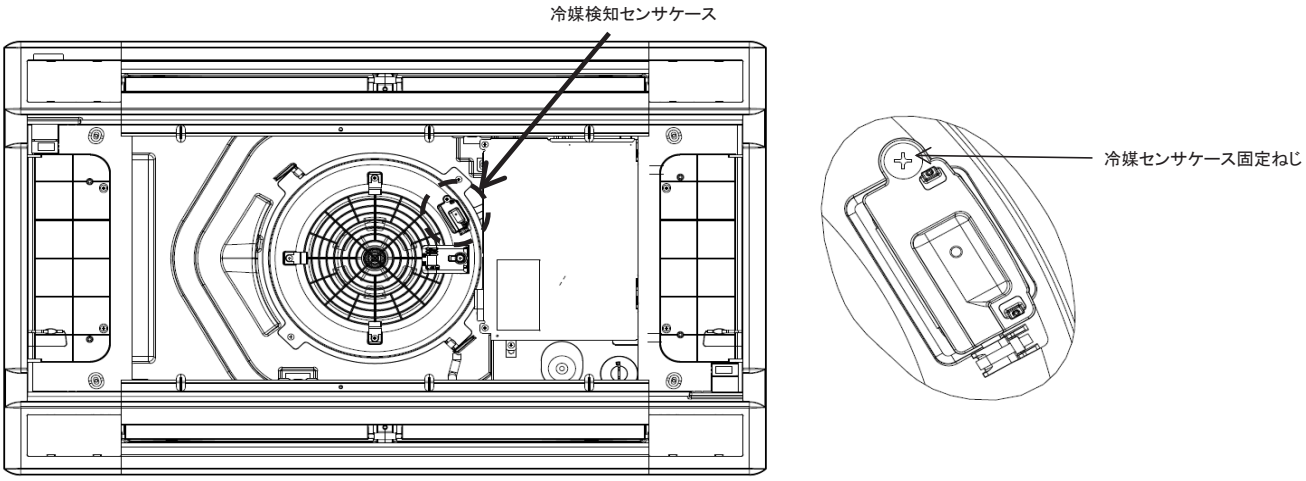
(a) FDT



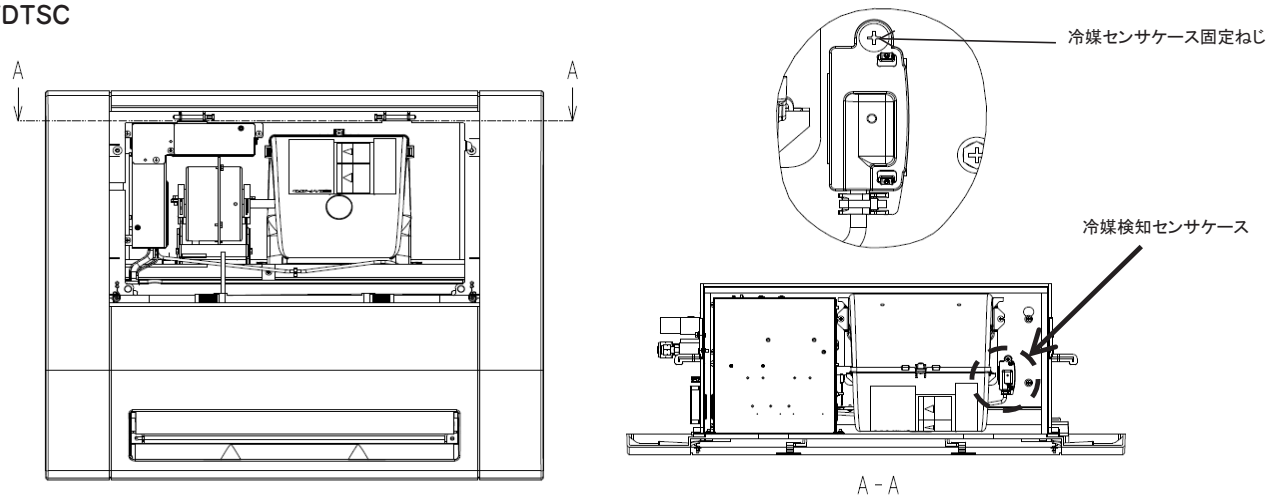
(b) FDTC



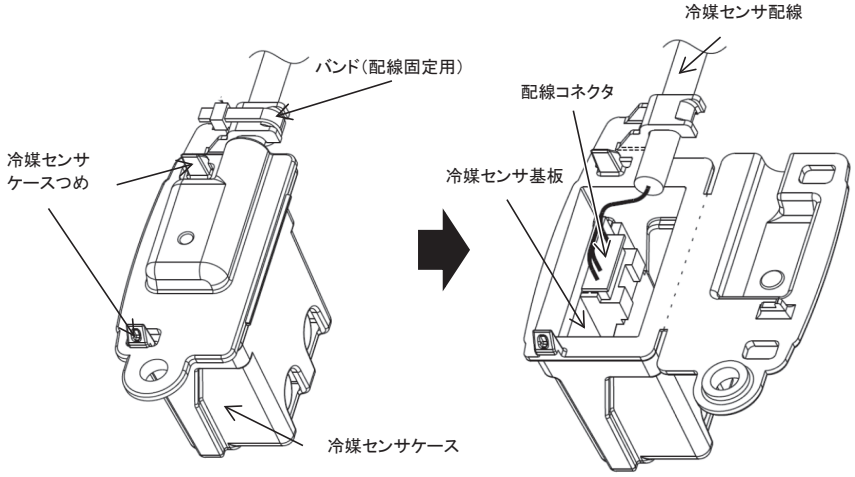
(c) FDTW28-80



(d) FDTSC



３）冷媒センサケース上部のつめ（2 か所）を外し、ケースのふたを取外してください。
４）冷媒センサ基板の配線コネクタを取外し、基板を交換してください。
※基板が取外しにくい場合は、配線固定用バンドを切断してください。
　その場合は、基板交換後、配線を新しいバンドで確実に固定してください。



10.4 リモコンによる異常運転データの確認

異常発生時の運転データを記憶し，リモコンから異常運転データの確認ができます。

(1) RC-DX3Fリモコンの場合

〔操作手順〕

①TOP画面の「メニュー」より「メニュー画面」→「サービス設定」→「サービス･メンテナンス」→「サービスパスワード入力」→「点検表示」→「異常時運転データ表示」の順に選択します。

②リモコンに接続されている室内ユニットが１台の場合は，以下の表示となります。

1. 異常がある場合：「データ読込み中」の後，異常時の運転データが表示されます。
   表示内容
   ・異常コード
   ・番号およびデータ項目
2. 異常がない場合：「異常なし」を表示し，本モードを終了します。

③リモコンに接続されている室内ユニットが複数台の場合は，以下の表示となります。

1. 異常がある場合：「室内機選択」画面で対象室内ユニットを選択→「データ読込み中」の後，異常時の運転データが表示されます。
   表示内容
   ・室内機 No.
   ・異常コード
   ・番号およびデータ項目
2. 異常がない場合：「異常なし」を表示し，本モードを終了します。

注(1)「室内機選択」画面で接続台数が１ページを超える場合は，「次ページ」を選択してください。

④ 運転／停止 ボタンを押すと，TOP画面に戻ります。

◎設定の途中で，「戻る」をタッチすると，一回前の設定画面に戻ります。

注(1) 異常運転データの確認は，リモコン2台で室内ユニットを運転する場合，親リモコンのみ操作可能です。（子リモコンからの操作はできません。）

■異常運転データ(機種により該当するデータがないものは，その項目は表示されません。)

番号	項目
01	運転モード
02	設定温度
03	吸込温度
04	リモコン温度
05	室内熱交温度1
06	室内熱交温度2
07	室内熱交温度3
08	室内ファン速度
09	要求周波数
10	アンサー周波数
11	室内EEV開度
12	吹出
13	相対湿度
14	室内機運転時間
15	冷房運転積算時間
16	暖房運転積算時間
21	外気温度
22	室外熱交温度1
23	室外熱交温度2

番号	項目
24	室外熱交温度3
25	室外熱交温度4
26	コンプ回転数
27	コンプ回転数2
28	高圧圧力
29	低圧圧力
30	吐出管温度
31	吐出管温度2
32	ドーム下温度
33	ドーム下温度2
34	THO-SC
35	THO-S
36	THO-H
37	電流
38	電流2
39	SH 制御
40	SH
41	TDSH
42	TDSH 2

番号	項目
43	外 EEVH1
44	外 EEVH2
45	外 EEVSC
46	外 EEVL1
47	外 EEVL2
48	保護制御
49	室外ファン速度
50	63H1
51	デフロスト
52	室外機運転時間
53	コンプ運転時間
54	コンプ運転時間2
55	外ファン運転積算時間1
56	外ファン運転積算時間2
57	52C ON/OFF 回数
58	室外機省エネモード
59	室外機エコレベル

48 保護制御 （上記異常運転データ）詳細

圧縮機回転数保護制御内容
異常検知制御内容

【リモコン運転データ表示】
・解除時まで表示
・重複時は，表示データの一番若い番号を表示する。

【共通事項】
暖房時：室内回転数ダウン信号による保護制御中の場合は“4”を表示する。
冷房･除湿時：室内回転数ダウン信号による保護制御中の場合は“8”を表示する。

表示内容	No
正常	“0”
吐出管温度保護	“1”
吐出管温度異常	“2”
カレントセーフ	“3”
高圧保護	“4”
高圧異常	“5”
低圧保護	“6”
低圧異常	“7”
アンチフロストまたは露付き保護	“8”
カレントカット	“9”
パワートランジスタ保護	“10”
パワートランジスタ異常（過熱）	“11”
圧力比制御	“12”
出力カットオフ（ノイズ停止）	“13”
露付き保護	“14”
２次ＣＴセーフ	“15”
圧縮機ロック停止または脱調停止	“16”
起動不良停止	“17”
アクティブフィルタ異常	“18”

⑵ RC-D4Gリモコンの場合

[操作手順]

①[点検]ボタンを押します。表示が「運転データ表示▼」となります。

②[▼]ボタンを一度押して，「エラーデータ表示▲」に切換えます。

③[セット]ボタンを押すと，異常運転データ表示モードに入ります。

④リモコンに接続されている室内ユニットが1台の場合は，以下の表示となります。

1. 異常履歴がある場合：エラーコードと「データ確認中」を表示します。
   「例」「E8」（エラーコード）
   「データ確認中」（データを読み込む間点滅表示）
   続いて，データが表示されます。⑧へお進みください。
2. 異常履歴がない場合：「異常なし」を3秒間表示し，本モードを終了します。

⑤リモコンに接続されている室内ユニットが複数台の場合は，以下の表示となります。

1. 異常履歴がある場合：接続されている室内ユニットの中で，最も小さい室内アドレス番号とその室内ユニットのエラーコードを表示します。
   「例」「E8」「内000▲」（点滅）
2. 異常履歴がない場合：アドレス番号表示のみとなります。

⑥[▲][▼]ボタンで，表示したい室内アドレスを選びます。

⑦[セット]により確定します。（室内アドレスが点滅から点灯に変わります。）
   「例」「E8」
   「内000」（選択した室内アドレスを2秒間点灯）→「E8」
   「データ確認中」（データを読み込む間点滅表示）続いて，データが表示されます。
   異常履歴がない室内ユニットを撰択した場合は，「異常なし」を3秒間表示し，室内アドレス表示に戻ります。

⑧[▲][▼]ボタンにより，異常運転データを確認できます。データ項目は下表をご覧ください。

注⑴ 機種により該当するデータがないものは，その項目は表示されません。

⑨室内ユニットを変更する場合は，[エアコンNo.]ボタンを押すことにより，室内ユニット選択表示に戻ります。

⑩[運転／停止]ボタンを押すと，終了します。

◎設定の途中で，[リセット]ボタンを押すと，一回前の設定画面に戻ります。

注⑴ 異常運転データの確認は，リモコン2台で室内ユニットを運転する場合，親りモコンのみ操作可能です。（子リモコンからの操作はできません。）

■異常運転データ

番号	データ項目
01	運転モード
02	設定温度
03	吸込空気温度
05	室内熱交温度（Thi-R1）
06	室内熱交温度（Thi-R2）
07	室内熱交温度（Thi-R3）
08	室内ファン速調
09	要求周波数
10	アンサー周波数
11	室内膨張弁開度
12	室内運転積算時間
21	外気温度
22	室外熱交温度（Tho-R1）
23	室外熱交温度（Tho-R2）
24	圧縮機周波数
25	高圧
26	低圧
27	吐出管温度
28	ドーム下温度
29	CT 電流
30	SH 制御値
31	実 SH
32	実 TDSH
33	圧縮機保護ステータスNo.
34	室外ファン速調
35	63H1 ON／OFF
36	デフロスト　ON／OFF
37	圧縮機運転積算時間
38	室外膨張弁開度（EEVC）
39	室外膨張弁開度（EEVH）

33 圧縮機保護ステータスNo.（左記異常運転データ）詳細

圧縮機回転数保護制御内容
異常検知制御内容

【リモコン運転データ表示】
・解除時まで表示
・重複時は，表示データの一番若い番号を表示する。

【共通事項】
[暖房時]：室内回転数ダウン信号による保護制御中の場合は“4”を表示する。
[冷房･除湿時]：室内回転数ダウン信号による保護制御中の場合は“8”を表示する。

表示内容	No
正常	“0”
吐出管温度保護	“1”
吐出管温度異常	“2”
カレントセーフ	“3”
高圧保護	“4”
高圧異常	“5”
低圧保護	“6”
低圧異常	“7”
アンチフロストまたは露付き保護	“8”
カレントカット	“9”
パワートランジスタ保護	“10”
パワートランジスタ異常（過熱）	“11”
圧力比制御	“12”
出力カットオフ（ノイズ停止）	“13”
露付き保護	“14”
2次CTセーフ	“15”
圧縮機ロック停止または脱調停止	“16”
起動不良停止	“17”
アクティブフィルタ異常	“18”

11. 別 売 品

目 次

11. 1　ワイヤレスキット ····· 275
(1)　FDT シリーズ ····· 275
(2)　FDTC シリーズ ····· 285
(3)　FDTW シリーズ ····· 295
(4)　FDTSC シリーズ ····· 305
11. 2　人感センサキット ····· 315
(1)　FDTW シリーズ（LB-TW-6W） ····· 315
(2)　FDTSC シリーズ（LB-KIT2） ····· 319
(3)　共通事項（取扱方法） ····· 327
11. 3　コンパクトリモコン（RCH-D3） ····· 329
11. 4　スーパーリンクアダプタ（SC-ADNA） ····· 333
11. 5　FDT お掃除ラクリーナパネル（T-PSCLS-6AW） ····· 335

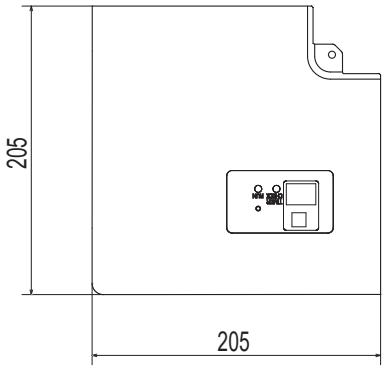
11.1 ワイヤレスキット

(1) FDT シリーズ
ワイヤレスリモコン（RCN-D5）・ワイヤレス受信部（LA-T-5BW1，LA-T-5SB1）

(a) 仕様

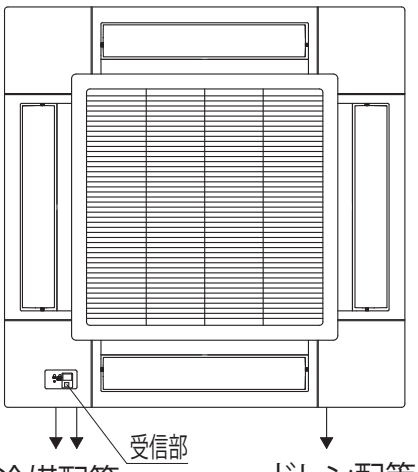
PJF000Z631

受信部



(単位:mm)

ワイヤレス受信部取付位置



注 図の位置にのみ受信部は取付可能です。

受信部基板上のスイッチ設定

SW1	複数台設置時の混信誤動作防止	[ON:通常] OFF:切換
SW2	受信部の親子切換	[ON:親] OFF:子
SW3	ブザー音	[ON:有り] OFF:無し
SW4	停電補償	ON:有効 [OFF:無効]

出荷時設定: □ で囲まれた設定

お願い ○ワイヤレスリモコンを正しくエアコンの受信部に向けて操作してください。
○操作距離は受信部照明度、部屋壁面の反射状態により変化します。
○受信部に直射日光・照明等の強い光が当たっている場合、操作距離の縮小、また、受信不良が起こる場合があります。

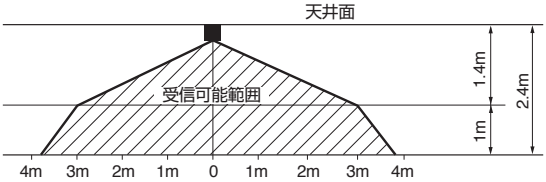
ワイヤレス受信部の据付

ワイヤレス受信部を下記場所に設置しないでください。
ワイヤレス受信部の故障や変形の原因になることがあります。

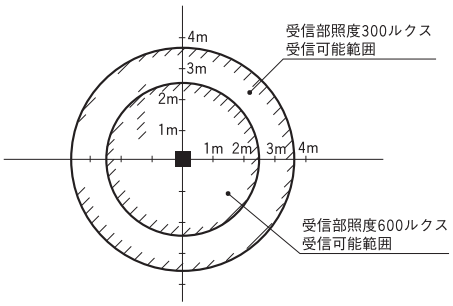
（1）直射日光の当たる場所
（2）発熱器具の近く
（3）湿気の多い所・水の掛る所
（4）取付面が発熱・結露する場所
（5）油の飛沫や蒸気が直接触れる場所
（6）取付面に凹凸がある所
（7）室内ユニットの吹出し空気が当たる場所
（8）蛍光灯（特にインバータタイプ）の近く
　　あるいは、直接日光が受信部に当たる場所
（9）他の赤外線通信機器の光線が受信部に当たる場所
（10）ワイヤレスリモコンの操作場所から見て、障害物に
　　隠れてしまう場所

ワイヤレスリモコンの操作距離

① 標準的な受信距離
　[条件] 受信部照明度300ルクス
　　（一般事務所で受信部周辺1m以内の天井面に照明がない場合）



② 平面から見たときの受信部照度と受信距離の関係
　[条件] 天井高さ2.4m、床面より1mの
　　高さより、ワイヤレスリモコン操作した
　　場合の受信部照度と受信距離
　　との関係を右図に示します。
　　照度が2倍になると受信距離は
　　2／3となります。



③ 複数台近接設置時の注意
　[条件] 受信部照明度300ルクス
　　（一般事務所で受信部周辺1m以内の天井面に照明がない場合）
　[複数台近接設置]ワイヤレスリモコン使用時の同一動作を防止できる
　　最小距離は5mです。

(b) 据付説明書

PJF012D034B A

安全上のご注意

●工事の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しく据付工事をしてください。
いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
⚠ **警告**　誤った取り扱いをしたときに、死亡や重傷などの重大な結果に結びつく可能性が大きいもの。
⚠ **注意**　誤った取り扱いをしたときに、傷害を負う可能性、または物的損害の可能性があるもの。
状況によっては重大な結果に結び付く可能性があるもの。
●本文中に使われる「絵表示」の意味は次の通りです。

⃠	絶対にしないでください。	❗	必ず指示どおりに行ってください。

●お使いになる方は、この説明書をいつでも見られるところに大切に保管してください。移設･修理の場合、工事される方にお渡しください。また、お使いになる方が代わる場合、新しくお使いになる方にお渡しください。

⚠ 警告

❗ **●据付は、お買上げの販売店または専門業者に依頼する。**
ご自分で据付工事をされ不備があると、感電、火災、故障の原因になります。

❗ **●据付工事は、この据付説明書に従って確実に行う。**
据付に不備があると感電、火災、故障の原因になります。

❗ **●据付工事部品は必ず付属品および指定部品を使用する。**
当社指定の部品を使用しないと、落下、火災、感電の原因になります。

❗ **●据付は、重量に十分耐える所に確実に行う。**
強度が不足している場合は、本機の落下などにより、ケガの原因になります。

❗ **●電気工事は電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」、「内線規程」および据付説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用する。**
電源回路容量不足や施工不備があると感電、火災などの原因になります。

❗ **●据付工事は、必ず電源をしゃ断して行う。**
感電、故障や動作不良の原因になります。

⃠ **●改造は絶対にしない。**
感電、火災、故障の原因になります。

❗ **●修理・点検に際して「電源ブレーカ」を必ず OFF にする。**
修理・点検にあたって、電源ブレーカが ON のままだと、感電およびケガの原因になります。

⃠ **●特殊環境、可燃性ガスの発生・流入・滞留・漏れのおそれがあるところへ設置しない。**
油・蒸気・有機溶剤・腐食ガス（アンモニア・硫黄化合物・酸など）の多いところや、酸性やアルカリ性の溶液･特殊なスプレーなどを頻繁に使うところで使用すると、著しい性能の低下・腐食による感電、火災、故障の原因になります。

⃠ **●大量の水蒸気が発生するところ・結露するところには設置しない。**
感電、火災、故障の原因になります。

⃠ **●洗濯室など水のかかる所では使用しない。**
感電、火災、故障の原因になります。

⃠ **●ぬれた手で操作しない。**
感電の原因になることがあります。

⚠ 警告

●本機を水洗いしない。
感電、火災、故障の原因になります。

●配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。
接続や固定が不完全な場合は、発熱、火災等の原因になります。

●病院・通信事業所などに据付ける場合、ノイズに対する備えを行うこと。
インバータ機器・自家発電機・高周波医療機器・無線通信機器などの影響により、誤動作や故障の原因になります。
リモコン側から医療機器・通信機器への影響により、医療行為の妨げ・映像放送の乱れや雑音の弊害が生じる原因になります。

●基板のケースを取外したまま放置しない。
水分・ホコリ・虫などが混入すると、感電・火災・故障の原因になります。

⚠ 注意

●ワイヤレスキットを下記場所に設置しない。
ワイヤレスキット故障や変形の原因になることがあります。

⑴ 直射日光の当たる場所
⑵ 発熱器具の近く
⑶ 湿気の多い所・水のかかる所
⑷ 取付面が発熱・結露する場所
⑸ 油の飛沫や蒸気が直接触れる場所
⑹ 取付面に凹凸がある所
⑺ 室内ユニットの吹出空気が当たる場所
⑻ 蛍光灯(特にインバータタイプ)の近くあるいは、直射日光が受光アダプタに当たる場所
⑼ 他の赤外線通信機器の光線が受光アダプタに当たる場所
⑽ ワイヤレスリモコンの操作場所から見て、障害物に隠れてしまう場所

① 付属品

次の付属品を確かめてください。

ワイヤレス受信部

① 受信部		1
② 据付説明書 (本紙)		1

ワイヤレスリモコン (別売品)
RCN-D5

① ワイヤレスリモコン		1
② リモコン用ホルダ		1
③ 同上用木ねじ		2
④ リモコン用電池		2
⑤ 取扱説明書		1

② 取付前の準備

現地設定

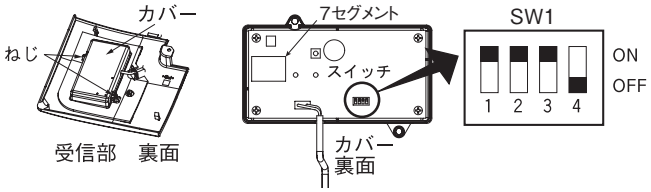
受信部基板上のスイッチの設定は右記の通りです。
なお、出荷時の設定は [ ] で囲まれた設定になっています。

SW1-1	複数台設置時の混信誤動作防止	[ON : 通常]	OFF : 切換え
SW1-2	受信部の親子切換え	[ON : 親]	OFF : 子
SW1-3	ブザー音	[ON : 有効]	OFF : 無効
SW1-4	停電補償	ON : 有効	[OFF : 無効]

② 取付前の準備の続き

現地設定の変更方法

1. 受信部裏面のねじ(2 本)を外し、カバーを取外してください。
2. カバー裏面の基板上のスイッチを変更してください。



3. SW1-1 を OFF にする場合はワイヤレスリモコン側も設定変更してください。
   設定変更は、本説明書 **④ワイヤレスリモコン** の **混信防止設定** をご覧ください。

※受信可能範囲は、本説明書 **⑤受信部** をご覧ください。

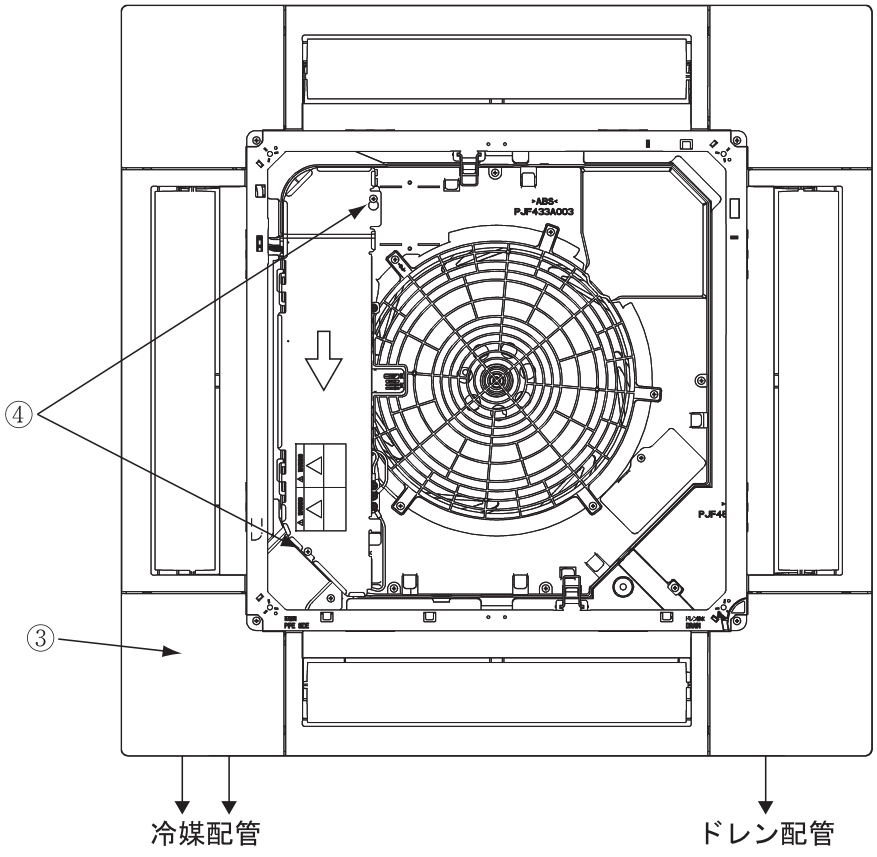
複数リモコン使用時の親子設定

1 つのグループに対して最大 2 個まで受信部・ワイヤードリモコンを接続できます。
その際は 2 つの受信部・ワイヤードリモコンのうち、いずれか一方の基板上のスイッチを変更し、子機設定とする必要があります。
ワイヤードリモコンの設定変更は、ワイヤードリモコン付属の説明書をご覧ください。

③ 受信部の取付

取付前の準備

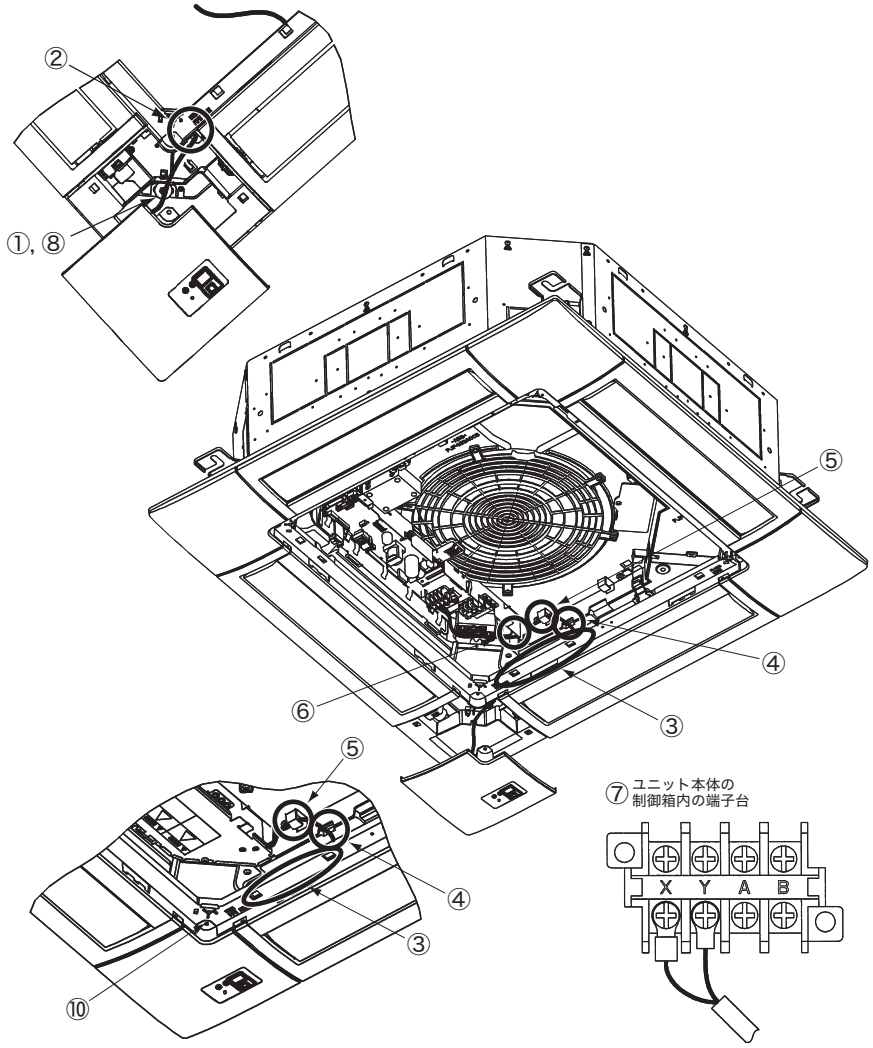
①パネルに付属の据付説明書に従って、パネルをユニット本体に取付けてください。
②吸込グリルを取外してください。
③冷媒配管部のコーナリッドを取外してください。
④ユニット本体の制御箱の蓋のねじ (2本) を緩め、図の矢印方向に蓋をスライドさせて取外してください。



③ 受信部の取付の続き

受信部の取付

①パネル固定用ボルトを緩めて、パネルとユニット本体との隙間を開けてください。
②受信部の配線を開口部に通してください。
③パネルのユニット側にあるフックに配線を引掛けてください。
④図の位置より配線を引出してください。
⑤配線をユニット本体のフックに引掛けてください。
⑥図の位置より配線を制御箱の中に通してください。
⑦配線の丸端子を制御箱内の端子台（X、Y）に接続してください。配線に極性はありません。
⑧パネル固定用ボルトを締付けてください。
⑨受信部をパネルに取付けてください。
⑩パネルに付属のねじで受信部を固定してください。
⑪配線を噛込まないように、ユニット本体の制御箱の蓋を取付け、ねじ (2本) を締付けてください。

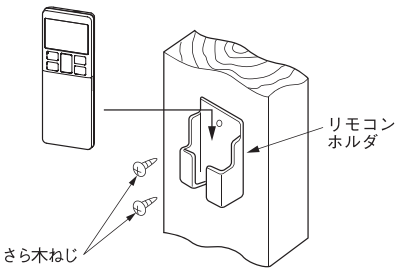


④ ワイヤレスリモコン

リモコンホルダの据付

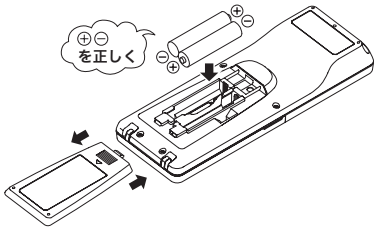
リモコンホルダを付属のねじで固定してください。

※ホルダ取付時の注意
・垂直になるよう調節してください。
・ねじ頭が出ないようにしてください。
・土壁等へは取付けないでください。



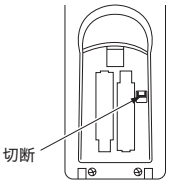
電池の入れ方

1. 裏蓋を外します。
2. 乾電池を入れます。(単四 2 本)
3. 裏蓋を取付けます。



混信防止設定

1. リモコンの裏蓋をはずし、乾電池を取外す。
2. 乾電池横の切換え線をニッパ等で切断する。
3. 乾電池を入れて、裏蓋を取付ける。



リモコンの設定変更

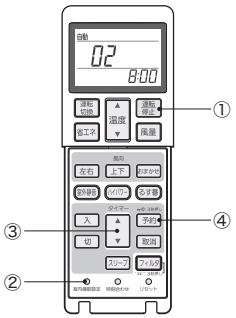
自動運転の設定変更のしかた
ビル空調・ガスヒートポンプシリーズ (除く冷暖フリーマルチ) は自動運転ができません。
これらの機種に使用する場合は、リモコンを自動運転無効の設定にしてください。
運転切換ボタンを押しながらリセットスイッチを押すか、運転切換ボタンを押しながら電池を投入すると、自動運転が無効となります。

※注意：一度電池を取外すと初期設定 (工場出荷時設定) へ戻ります。
電池を取外した時は、再度上記操作を行ってください。



室内機能設定

1. 室内機能設定のしかた
   ① 運転 / 停止を押し、停止状態にする。
   ② 室内機能設定スイッチを押しながら、2 項に示すボタンを押す。
   ③ 選択ボタン▲、▼で設定を変更する。
   ④ 予約ボタンを押す。
   リモコン信号受信部より、ピッピッと 2 回ブザーが鳴り、
   LED は 2 秒毎に 4 回点滅します。



④ ワイヤレスリモコンの続き

2. 設定内容
機能設定が可能な項目は下記となります。

ボタン	番号表示部	機能設定
風量	00	風速設定:標準
	01	風速設定:設定1　※
	02	風速設定:設定2　※
運転切換	00	暖房室温補正:無効
	01	暖房室温補正:+1℃
	02	暖房室温補正:+2℃
	03	暖房室温補正:+3℃
フィルタ	00	フィルタサイン表示:なし
	01	フィルタサイン表示:180時間
	02	フィルタサイン表示:600時間
	03	フィルタサイン表示:1000時間
	04	フィルタサイン表示:1000時間後運転停止
上/下	00	ドラフト防止設定(エアフレックス設定):無効
	01	ドラフト防止設定(エアフレックス設定):有効
室外静音	00	人感センサ設定:無効
	01	人感センサ設定:有効
ハイパワー	00	人感センサ制御:無効
	01	人感センサ制御:パワーコントロールのみ
	02	人感センサ制御:オートオフのみ
	03	人感センサ制御:パワーコントロール+オートオフ
入	00	冷房ファン残留運転:無効
	01	冷房ファン残留運転:0.5時間
	02	冷房ファン残留運転:2時間
	03	冷房ファン残留運転:6時間
切	00	暖房ファン残留運転:無効
	01	暖房ファン残留運転:0.5時間
	02	暖房ファン残留運転:2時間
	03	暖房ファン残留運転:6時間
るす番	00	リモコン信号受信部LED:輝度明
	01	リモコン信号受信部LED:輝度暗
	02	リモコン信号受信部LED:消灯
省エネ	0.1	グリル自動昇降降下長:0.1m
	0.2	グリル自動昇降降下長:0.2m
	・	・
	・	・
	2.0	グリル自動昇降降下長:2.0m
	・	・
	・	・
	3.9	グリル自動昇降降下長:3.9m
	4.0	グリル自動昇降降下長:4.0m
運転/停止	50	グリル自動昇降周波数:50Hz
	60	グリル自動昇降周波数:60Hz

※　詳細は198ページを参照ください。

⑤ 受信部

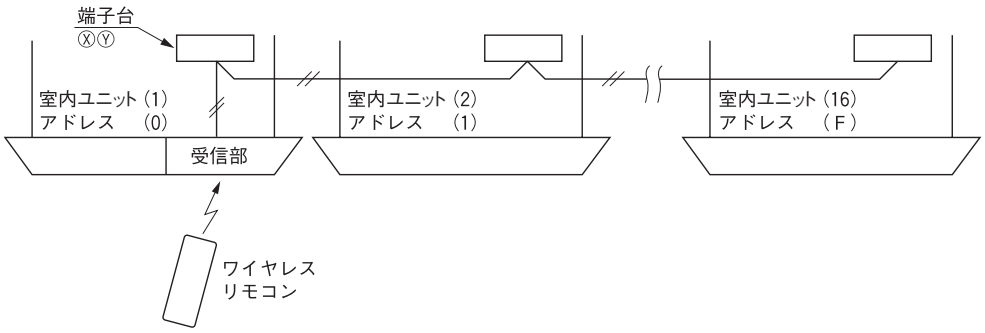
1 リモコンによる複数台室内ユニット制御

1. 1 つのリモコンで複数台のユニット（最大 16 台）を
   グループ制御できます。
   同一モード、同一室温設定で運転します。
2. グループ制御用に各室内ユニット間を
   2 心のリモコン線にて渡り配線してください。

渡り配線の太さと長さの制限（最大 600m）	
標準	0.3mm^2 × 100m 以内
	0.5mm^2 × 200m 以内
	0.75mm^2 × 300m 以内
	1.25mm^2 × 400m 以内
	2.0mm^2 × 600m 以内

店舗シリーズの場合

室内基板上のロータリスイッチＳＷ２により、リモコン通信アドレスを重複しないよう「0」～「F」に
設定してください。

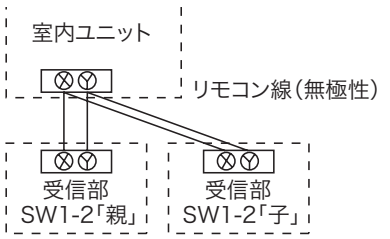


ビル空調・ガスヒートポンプシリーズの場合

室内・室外Ｎｏ. を手動アドレス設定にてセットしてください。
室内ユニット基板上のロータリスイッチＳＷ1、ＳＷ2により、室内Ｎｏ. を重複しないように設定してください。

複数リモコン使用時の親子設定

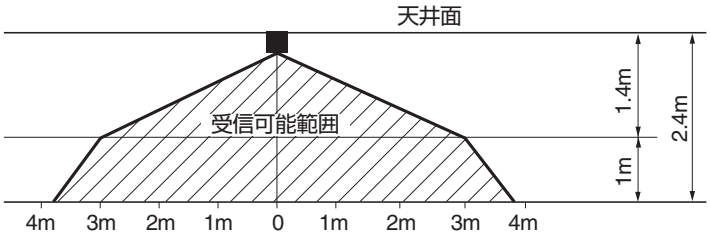
室内ユニット１台（または１グループ）に対して最大２個までのリモコンを接続できます。



スイッチ	設定	機能内容
SW1-2	ON	親リモコン
	OFF	子リモコン

ワイヤレスリモコンの操作距離

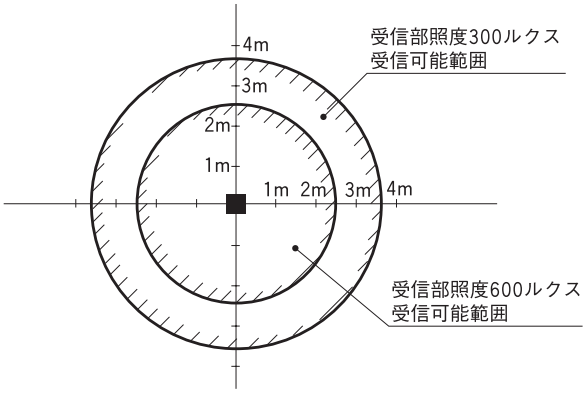
1. 標準的な受信距離
   ［条件］受信部照明度300ルクス
   （一般事務所で受信部周辺 1m 以内の天井面に照明がない場合）



⑤ 受信部の続き

2. 平面から見たときの受信部照度と受信距離の関係

［条件］天井高さ 2.4m、床面より 1.0m の高さより、リモコン操作した場合の受信部照度と受信距離との関係。照度が 2 倍になると受信距離は 2 ／ 3 となる。



3. 複数台近接設置の注意

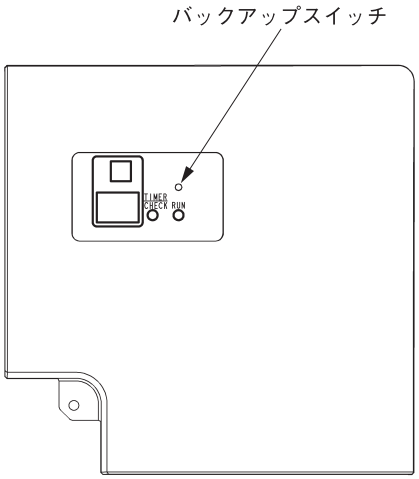
［条件］　受信部照明度300ルクス
（一般事務所で受信部周辺 1m 以内の天井面に照明がない場合）

［複数台近接設置］リモコン使用時の同一動作を防止できる最小距離は 5 mです。

バックアップスイッチ操作

受信部の表面にバックアップスイッチを装備しています。
ワイヤレスリモコンで操作ができない場合（電池切れ、紛失、故障）に応急的に使用してください。
操作は手で直接してください。

1. 停止中に押すことにより自動モード（冷専は冷房モード）で運転します。
   風量「急」温度設定「23℃」ルーバ「水平」
2. 運転中に押すことにより「停止」します。
3. 2 秒以上押し続けてから離した場合、
   ラクリーナパネル上昇となります。



冷房試運転操作

- 受信部バックアップスイッチを押しながら、リモコンにて冷房運転を送信してください。
- 試運転時に受信部バックアップスイッチを押すと試運転が解除されます。
- 試運転時、正常に動作しない場合は、室内・室外ユニットに貼付の結線銘鈑の点検表示を参照し、点検してください。

2 桁表示の見方

受信部は 2 桁表示（7 セグメント）を装備しています。

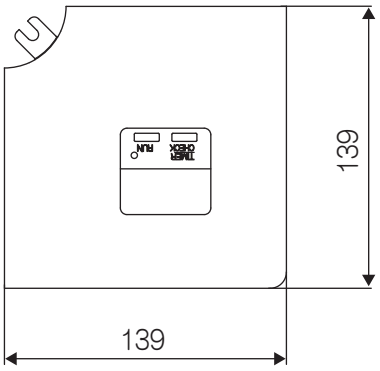
1. 表示は電源投入後 1 時間表示します。
2. リモコンから「停止」送信または、バックアップスイッチ「停止」操作後 3 分間表示します。
3. 上記の表示は、運転開始とともに消灯します。
4. 異常履歴がない場合は接続台数分のアドレスを表示します。
5. 異常履歴が残っている場合は、履歴の内容を表示します。
6. 異常履歴は、バックアップスイッチを押しながらリモコンから「停止」送信によりクリアされます。

⑵ FDTC シリーズ
ワイヤレスリモコン（RCN-D5）・ワイヤレス受信部（LA-TC-5W1）

ⓐ 仕様

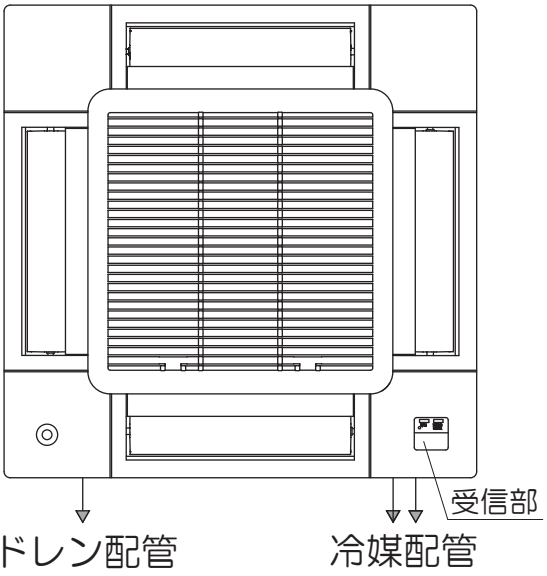
PJF000Z633

ワイヤレス受信部



（単位：mm）

ワイヤレス受信部取付位置



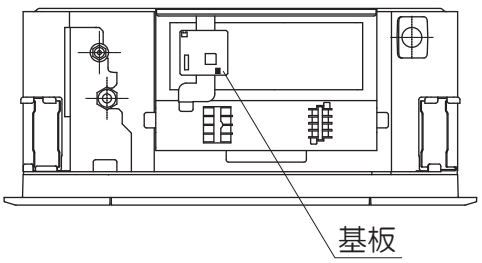
注 図の位置にのみ受信部は取付可能です。

基板上のスイッチ設定

SW1-1	複数台設置時の混信誤動作防止	[ON：通常] OFF：切換え
SW1-2	受信部の親子切換え	[ON：親] OFF：子
SW1-3	ブザー音	[ON：有効] OFF：無効
SW1-4	停電補償	ON：有効 [OFF：無効]

出荷時設定：［　］で囲まれた設定

基板取付位置



お願い　○ワイヤレスリモコンを正しくエアコンの受信部に向けて操作してください。
○操作距離は受信部照明度、部屋壁面の反射状態により変化します。
○受信部に直射日光・照明等の強い光が当たっている場合、操作距離の縮小、また、受信不良が起こる場合があります。

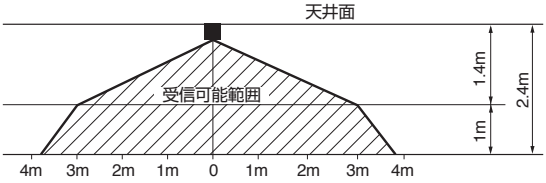
ワイヤレス受信部の据付

ワイヤレス受信部を下記場所に設置しないでください。
ワイヤレス受信部の故障や変形の原因になることがあります。

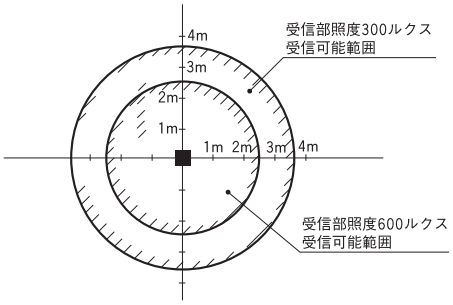
（1）直射日光の当たる場所
（2）発熱器具の近く
（3）湿気の多い所・水の掛る所
（4）取付面が発熱・結露する場所
（5）油の飛沫や蒸気が直接触れる場所
（6）取付面に凹凸がある所
（7）室内ユニットの吹出し空気が当たる場所
（8）蛍光灯（特にインバータタイプ）の近く
　　あるいは、直接日光が受信部に当たる場所
（9）他の赤外線通信機器の光線が受信部に当たる場所
（10）ワイヤレスリモコンの操作場所から見て、障害物に
　　隠れてしまう場所

ワイヤレスリモコンの操作距離

① 標準的な受信距離
　[条件] 受信部照明度300ルクス
　　（一般事務所で受信部周辺1m以内の天井面に照明がない場合）



② 平面から見たときの受信部照度と受信距離の関係
　[条件] 天井高さ2.4m、床面より1mの
　　高さより、ワイヤレスリモコンを操作した
　　場合の受信部照度と受信距離
　　との関係を右図に示します。
　　照度が2倍になると受信距離は
　　2／3となります。



③ 複数台近接設置時の注意
　[条件] 受信部照明度300ルクス
　　（一般事務所で受信部周辺1m以内の天井面に照明がない場合）
　[複数台近接設置]ワイヤレスリモコン使用時の同一動作を防止できる
　　最小距離は5mです。

(b) 据付説明書

PJF012D505A A

安全上のご注意

●工事の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しく据付工事をしてください。
いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
⚠ **警告**　誤った取扱をしたときに、死亡や重傷などの重大な結果に結びつく可能性が大きいもの。
⚠ **注意**　誤った取扱をしたときに、傷害を負う可能性、または物的損害の可能性があるもの。
状況によっては重大な結果に結び付く可能性があるもの。
●本文中に使われる「絵表示」の意味は次の通りです。

⃠	絶対にしないでください。	❗	必ず指示どおりに行ってください。

●お使いになる方は、この説明書をいつでも見られるところに大切に保管してください。移設・修理の場合、工事される方にお渡しください。また、お使いになる方が代わる場合、新しくお使いになる方にお渡しください。

⚠ 警告

❗ **●据付は、お買上げの販売店または専門業者に依頼する。**
ご自分で据付工事をされ不備があると、感電、火災、故障の原因になります。

❗ **●据付工事は、この据付説明書に従って確実に行う。**
据付に不備があると感電、火災、故障の原因になります。

❗ **●据付工事部品は必ず付属品および指定部品を使用する。**
当社指定の部品を使用しないと、落下、火災、感電の原因になります。

❗ **●据付は、重量に十分耐える所に確実に行う。**
強度が不足している場合は、本機の落下などにより、ケガの原因になります。

❗ **●電気工事は電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」、「内線規程」および据付説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用する。**
電源回路容量不足や施工不備があると感電、火災などの原因になります。

❗ **●据付工事は、必ず電源をしゃ断して行う。**
感電、故障や動作不良の原因になります。

⃠ **●改造は絶対にしない。**
感電、火災、故障の原因になります。

❗ **●修理・点検に際して「電源ブレーカ」を必ず OFF にする。**
修理・点検にあたって、電源ブレーカが ON のままだと、感電およびケガの原因になります。

⃠ **●特殊環境、可燃性ガスの発生・流入・滞留・漏れのおそれがあるところへ設置しない。**
油・蒸気・有機溶剤・腐食ガス（アンモニア・硫黄化合物・酸など）の多いところや、酸性やアルカリ性の溶液・特殊なスプレーなどを頻繁に使うところで使用すると、著しい性能の低下・腐食による感電、火災、故障の原因になります。

⃠ **●大量の水蒸気が発生するところ・結露するところには設置しない。**
感電、火災、故障の原因になります。

⃠ **●洗濯室など水のかかる所では使用しない。**
感電、火災、故障の原因になります。

⃠ **●ぬれた手で操作しない。**
感電の原因になることがあります。

⚠ 警告

●本機を水洗いしない。
感電、火災、故障の原因になります。

●配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。
接続や固定が不完全な場合は、発熱、火災等の原因になります。

●病院・通信事業所などに据付ける場合、ノイズに対する備えを行うこと。
インバータ機器・自家発電機・高周波医療機器・無線通信機器などの影響により、誤動作や故障の原因になります。
リモコン側から医療機器・通信機器への影響により、医療行為の妨げ・映像放送の乱れや雑音の弊害が生じる原因になります。

●基板のケースを取外したまま放置しない。
水分・ホコリ・虫などが混入すると、感電・火災・故障の原因になります。

⚠ 注意

●ワイヤレスキットを下記場所に設置しない。
ワイヤレスキット故障や変形の原因になることがあります。

⑴ 直射日光の当たる場所
⑵ 発熱器具の近く
⑶ 湿気の多い所・水のかかる所
⑷ 取付面が発熱・結露する場所
⑸ 油の飛沫や蒸気が直接触れる場所
⑹ 取付面に凹凸がある所
⑺ 室内ユニットの吹出空気が当たる場所
⑻ 蛍光灯(特にインバータタイプ)の近く あるいは、直射日光が受光アダプタに当たる場所
⑼ 他の赤外線通信機器の光線が受光アダプタに当たる場所
⑽ ワイヤレスリモコンの操作場所から見て、障害物に隠れてしまう場所

① 付属品

次の付属品を確かめてください。

ワイヤレス受信部
LA-TC-5W1

① 受信部		1	⑤ ブラケット取付用ねじ		1
② 基板		1	⑥ 配線（通信用）		1
③ 基板取付用サポート		2	⑦ 配線（受信用）		1
④ ブラケット（板金）		1	⑧ 据付説明書		1

ワイヤレスリモコン（別売品）
RCN-D5

① ワイヤレスリモコン		1
② リモコン用ホルダ		1
③ 同上用木ねじ		2
④ リモコン用電池		2
⑤ 取扱説明書		1

② 取付前の準備

基板の設定

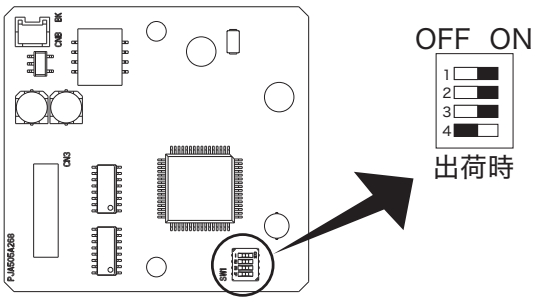
付属品の基板上のスイッチの設定は
右記の通りです。
なお、出荷時の設定は [ ] で囲まれた
設定になっています。

SW1-1	複数台設置時の混信誤動作防止	[ON：通常] OFF：切換え
SW1-2	受信部の親子切換え	[ON：親] OFF：子
SW1-3	ブザー音	[ON：有効] OFF：無効
SW1-4	停電補償	ON：有効 [OFF：無効]

② 取付前の準備の続き

現地設定の変更方法

1. 付属品の基板上のスイッチを変更してください。



複数リモコン使用時の親子設定

1 つのグループに対して最大 2 個まで
ワイヤレスリモコン（受信部）・ワイヤードリモコンを接続できます。
その際は、いずれか一方を、子機設定とする必要があります。
ワイヤードリモコンの設定変更は、ワイヤードリモコン付属の説明書をご覧ください。

2. SW1 を OFF にする場合はワイヤレスリモコン側も設定変更 してください。
設定変更は、本説明書 **④ワイヤレスリモコン** の **混信防止設定** をご覧ください。

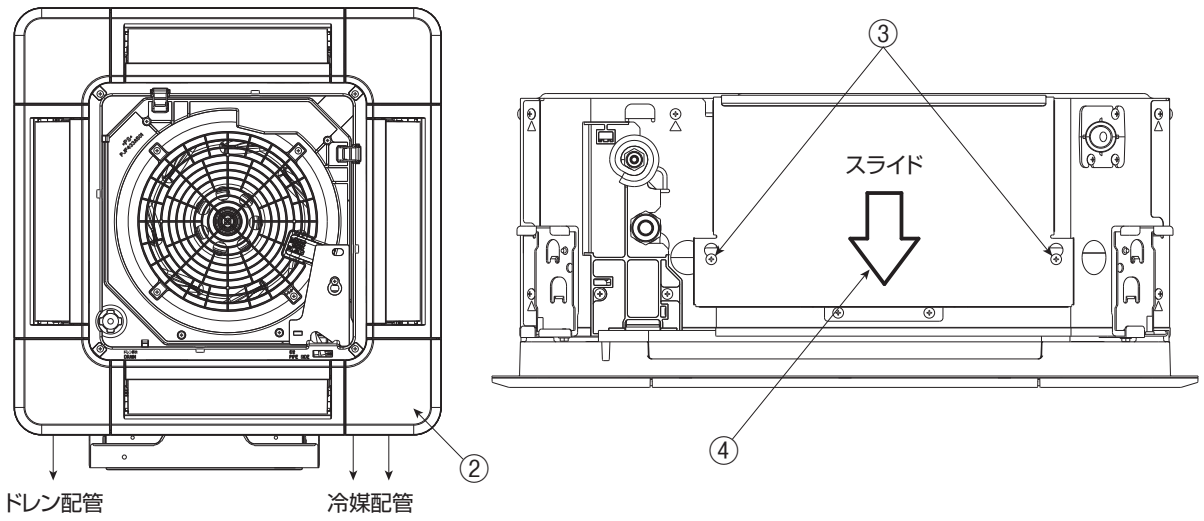
※受信可能範囲は、本説明書 **⑤受信部** をご覧ください。

③ 受信部の取付

本ワイヤレスキットの受信部は、対応パネルのコーナリッドと交換することにより取付可能です。

取付前の準備

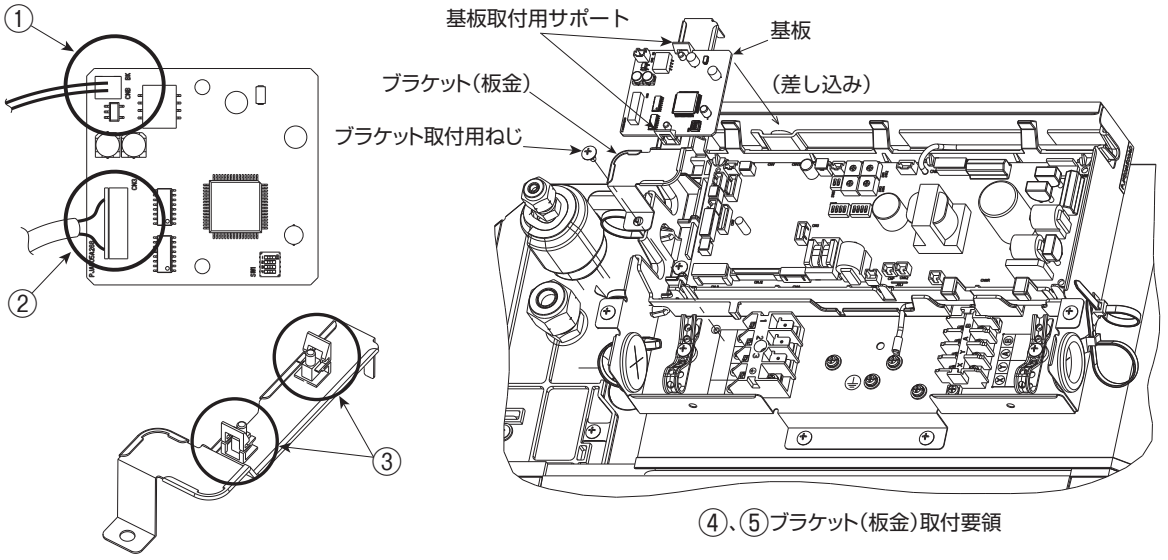
① パネル据付説明書に従って、吸込グリルを取外してください。
② 冷媒配管側のコーナリッドを取外してください。
③ ユニット本体の制御箱の蓋のねじ（2 本）を緩めてください。
④ 制御箱の蓋を図の矢印方向にスライドさせて、取外してください。



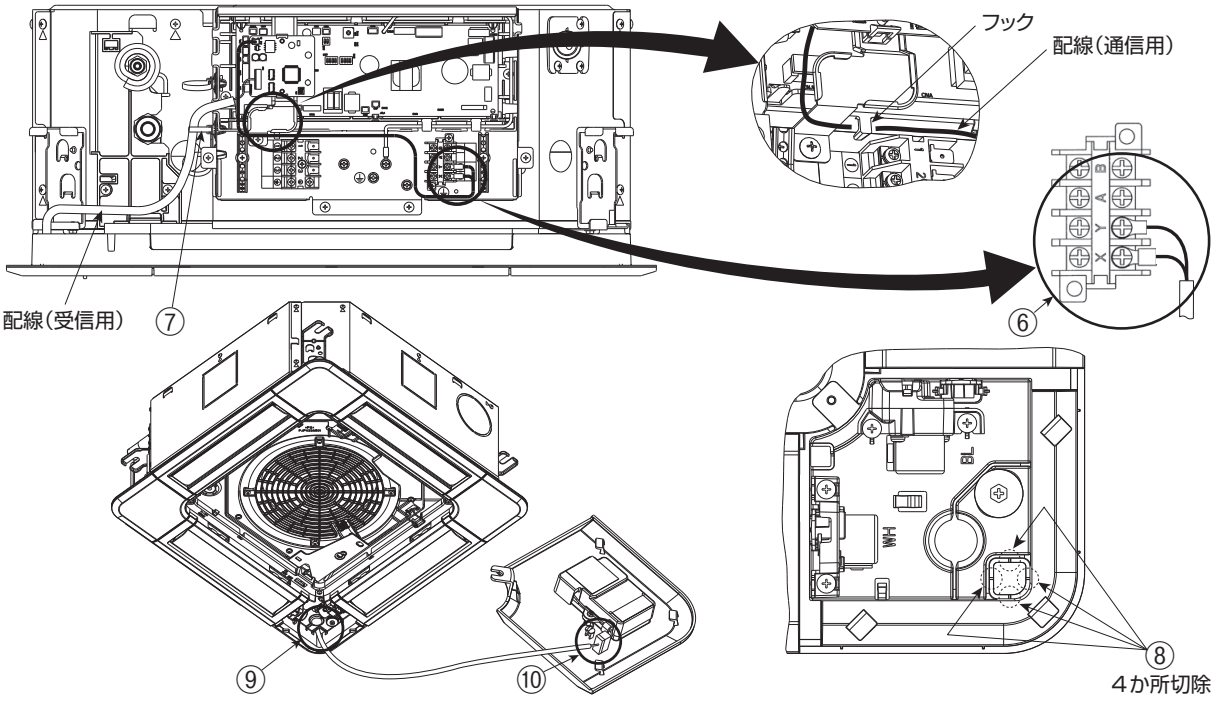
③ 受信部の取付の続き

受信部の取付

① 配線（通信用）のコネクタを基板の CNB に接続してください。
② 配線（受信用）のコネクタを基板の CN3 に接続してください。
③ ブラケット（板金）に基板取付用サポートを取付けてください。
④ 基板取付用サポートに基板を取付けてください。
⑤ 図のようにブラケット（板金）を制御箱片側に差込み、もう片側をねじで締付けてください。
⑥ 配線（通信用）の丸端子を制御箱内の端子台（X、Y）に接続してください。配線に極性はありません。
⑦ 図のように配線をバンドで固定してください。
⑧ 図に示すパネルのハーフブランク（4か所）を切除してください。
⑨ 配線（受信用）をパネル開口部に通してください。
⑩ 配線（受信用）と受信部のコネクタを接続してください。
⑪ 受信部をパネル据付説明書に従って、パネルに取付けてください。
⑫ 配線を噛込まないように制御箱の蓋を取付け、ねじ（2 本）で締付けてください。



④、⑤ブラケット(板金)取付要領

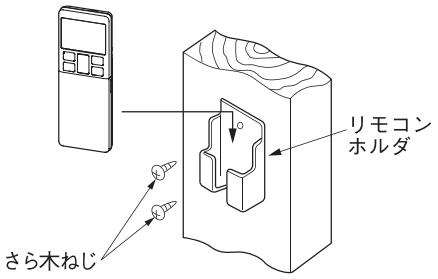


④ ワイヤレスリモコン

リモコンホルダの据付

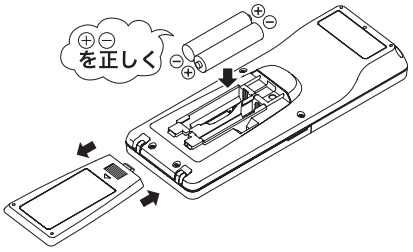
リモコンホルダを付属のねじで固定してください。

※ホルダ取付時の注意
・垂直になるよう調節してください。
・ねじ頭が出ないようにしてください。
・土壁等へは取付けないでください。



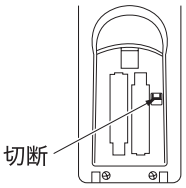
電池の入れ方

1. 裏蓋を外します。
2. 乾電池を入れます。(単四 2 本)
3. 裏蓋を取付けます。



混信防止設定

1. リモコンの裏蓋をはずし、乾電池を取外す。
2. 乾電池横の切換え線をニッパ等で切断する。
3. 乾電池を入れて、裏蓋を取付ける。



リモコンの設定変更

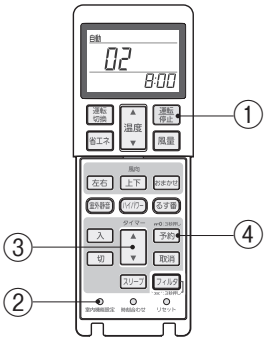
自動運転の設定変更のしかた
ビル空調・ガスヒートポンプシリーズ (除く冷暖フリーマルチ) は自動運転ができません。
これらの機種に使用する場合は、リモコンを自動運転無効の設定にしてください。
運転切換ボタンを押しながらリセットスイッチを押すか、運転切換ボタンを押しながら電池を投入すると、自動運転が無効となります。

※注意：一度電池を取外すと初期設定 (工場出荷時設定) へ戻ります。
電池を取外した時は、再度上記操作を行ってください。



室内機能設定

1. 室内機能設定のしかた
   ① 運転 / 停止を押し、停止状態にする。
   ② 室内機能設定スイッチを押しながら、2 項に示すボタンを押す。
   ③ 選択ボタン▲、▼で設定を変更する。
   ④ 予約ボタンを押す。
   リモコン信号受信部より、ピッピッと 2 回ブザーが鳴り、
   LED は 2 秒毎に 4 回点滅します。



④ ワイヤレスリモコンの続き

2. 設定内容
機能設定が可能な項目は下記となります。

ボタン	番号表示部	機能設定
風量	00	風速設定：標準
	01	風速設定：設定１　※
	02	風速設定：設定２　※
運転切換	00	暖房室温補正：無効
	01	暖房室温補正：＋ 1℃
	02	暖房室温補正：＋ 2℃
	03	暖房室温補正：＋ 3℃
フィルタ	00	フィルタサイン表示：なし
	01	フィルタサイン表示：18　0 時間
	02	フィルタサイン表示：60　0 時間
	03	フィルタサイン表示：100　0 時間
	04	フィルタサイン表示：100　0 時間後運転停止
上 / 下	00	ドラフト防止設定（エアフレックス設定）：無効
	01	ドラフト防止設定（エアフレックス設定）：有効
室外静音	00	人感センサ設定：無効
	01	人感センサ設定：有効
ハイパワー	00	人感センサ制御：無効
	01	人感センサ制御：パワーコントロールのみ
	02	人感センサ制御：オートオフのみ
	03	人感センサ制御：パワーコントロール＋オートオフ
入	00	冷房ファン残留運転：無効
	01	冷房ファン残留運転：0.5 時間
	02	冷房ファン残留運転：2 時間
	03	冷房ファン残留運転：6 時間
切	00	暖房ファン残留運転：無効
	01	暖房ファン残留運転：0.5 時間
	02	暖房ファン残留運転：2 時間
	03	暖房ファン残留運転：6 時間
るす番	00	リモコン信号受信部 LED：輝度明
	01	リモコン信号受信部 LED：輝度暗
	02	リモコン信号受信部 LED：消灯
省エネ	0.1	グリル自動昇降降下長：0.1 m
	0.2	グリル自動昇降降下長：0.2 m
	・	・
	・	・
	2.0	グリル自動昇降降下長：2.0 m
	・	・
	・	・
	3.9	グリル自動昇降降下長：3.9 m
	4.0	グリル自動昇降降下長：4.0 m
運転 / 停止	50	グリル自動昇降周波数：50Hz
	60	グリル自動昇降周波数：60Hz

※　詳細は198ページを参照ください。

⑤ 受信部

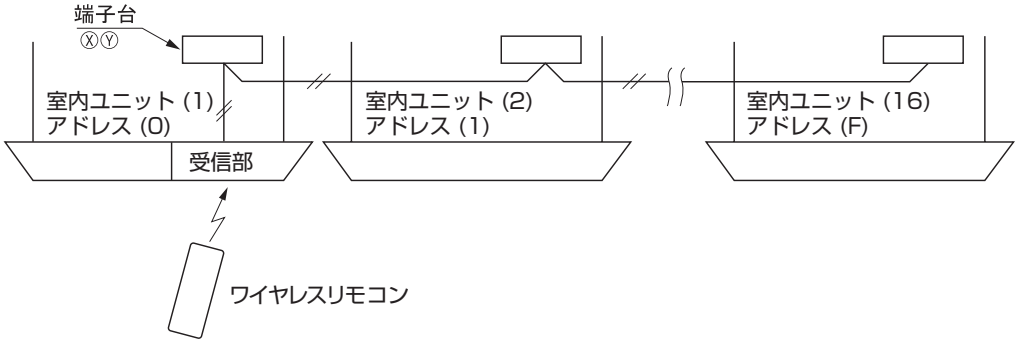
1リモコンによる複数台室内ユニット制御

1. 1つのリモコンで複数台のユニット（最大16台）を
   グループ制御できます。
   同一モード、同一室温設定で運転します。
2. グループ制御用に各室内ユニット間を
   2心のリモコン線にて渡り配線してください。

渡り配線の太さと長さの制限（最大600m）	
標準	0.3mm^2 × 100m以内
	0.5mm^2 × 200m以内
	0.75mm^2 × 300m以内
	1.25mm^2 × 400m以内
	2.0mm^2 × 600m以内

店舗シリーズの場合

室内基板上のロータリスイッチSW2により、リモコン通信アドレスを重複しないよう「0」～「F」に設定してください。

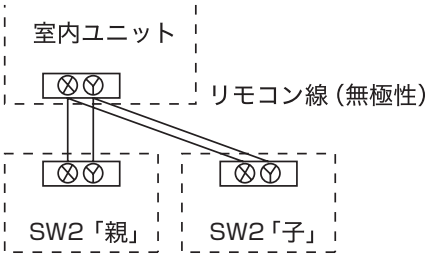


ビル空調・ガスヒートポンプシリーズの場合

室内・室外No.を手動アドレス設定にてセットしてください。
室内ユニット基板上のロータリスイッチSW1、SW2により、室内No.を重複しないように設定してください。

複数リモコン使用時の親子設定

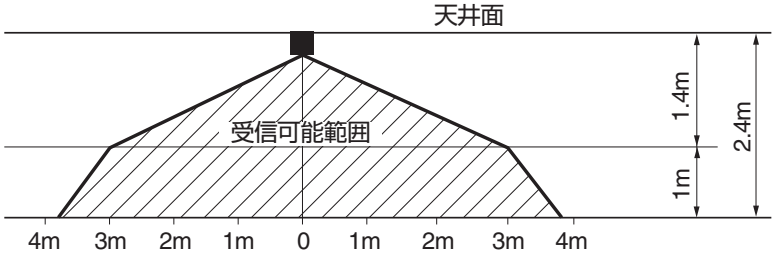
室内ユニット1台（または1グループ）に対して最大2個までのリモコンを接続できます。



スイッチ	設定	機能内容
SW2	ON	親リモコン
	OFF	子リモコン

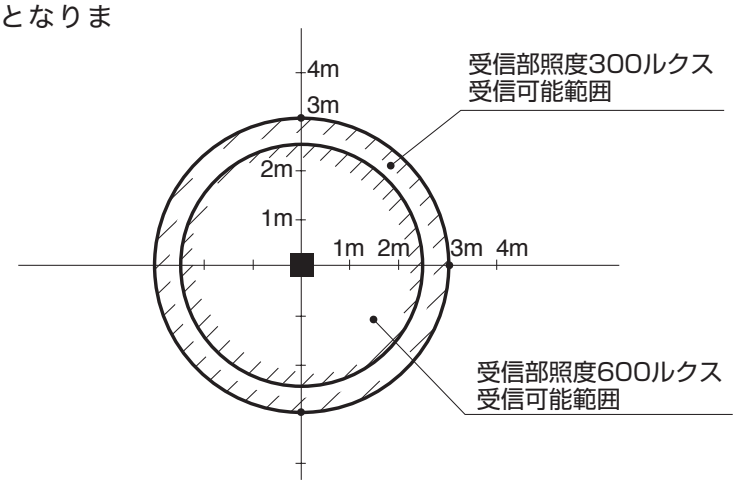
ワイヤレスリモコンの操作距離

1. 標準的な受信距離
   ［条件］受信部照明度 300 ルクス
   （一般事務所で受信部周辺1m以内の天井面に照明がない場合）



⑤ 受信部の続き

2. 平面から見たときの受信部照度と受信距離の関係
［条件］天井高さ 2.4m、床面より 1m の高さより、リモコン操作した場合の受信部照度と受信距離との関係を右図に示します。 照度が 2 倍になると受信距離は 2 ／ 3 となります。

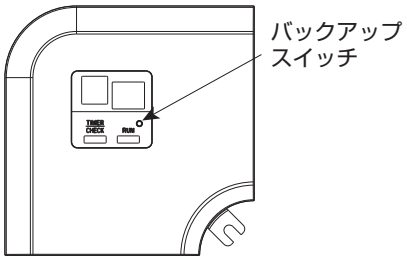


3. 複数台近接設置の注意
［条件］受信部照明度 300 ルクス
（一般事務所で受信部周辺 1m 以内の天井面に照明がない場合）
［複数台近接設置］リモコン使用時の同一動作を防止できる最小距離は 5m です。

バックアップスイッチ操作

表面受信部にバックアップスイッチを装備しています。
ワイヤレスリモコン操作ができない場合（電池切れ、紛失、故障）に応急的に使用してください。
操作は手で直接操作してください。

1. 停止中に押すことにより自動モード（冷専は冷房モード）で運転します。
風量「急」 温度設定「23℃」 ルーバ「水平」
2. 運転中にバックアップスイッチを押すことにより「停止」します。



冷房試運転操作

- 受信部バックアップスイッチを押しながら、リモコンにて冷房運転を送信してください。
- 試運転時に受信部バックアップスイッチを押すと試運転が解除されます。
- 試運転時、正常に動作しない場合は、室内・室外ユニットに貼付の結線銘鈑の点検表示を参照し、点検してください。

2 桁表示の見方

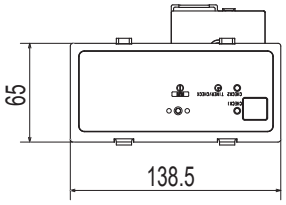
受信部は 2 桁表示（7 セグメント）を装備しています。

1. 表示は電源投入後 1 時間表示します。
2. リモコンから「停止」送信または、バックアップスイッチ「停止」操作後 3.5 秒間表示します。
3. 上記の表示は、運転開始とともに消灯します。
4. 異常履歴がない場合は接続台数分のアドレスを表示します。
5. 異常履歴が残っている場合は、履歴の内容を表示します。
6. 異常履歴は、バックアップスイッチを押しながらリモコンから「停止」送信によりクリアされます。

(3) FDTW シリーズ
ワイヤレスリモコン（RCN-D5）・ワイヤレス受信部（LA-TW/A）
(a) 仕様

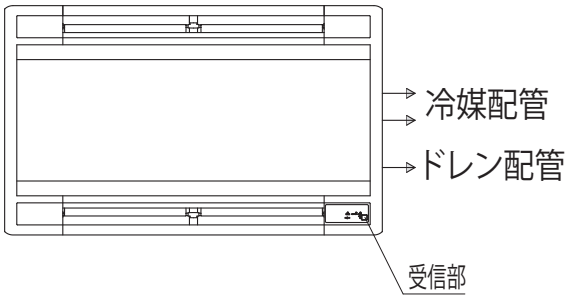
PJB001Z797 B

受信部



(単位:mm)

ワイヤレス受信部取付位置



注 図の位置にのみ受信部は取付可能です。

受信部基板上のスイッチ設定

SW1-1	複数台設置時の混信誤動作防止	[ON:通常] OFF:切換え
SW1-2	受信部の親子切換え	[ON:親] OFF:子
SW1-3	ブザー音	[ON:有り] OFF:無し
SW1-4	停電補償	ON:有効 [OFF:無効]
SW1-5	点検表示	[ON:有効] OFF:無効
SW1-6	機種	ON:FDK [OFF:FDTW]

出荷時設定: □ で囲まれた設定

お願い ○ワイヤレスリモコンを正しくエアコンの受信部に向けて操作してください。
○操作距離は受信部照明度、部屋壁面の反射状態により変化します。
○受信部に直射日光・照明等の強い光が当たっている場合、操作距離の縮小、また、受信不良が起こる場合があります。

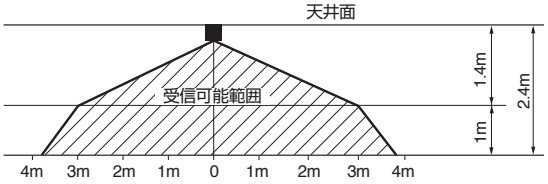
ワイヤレス受信部の据付

ワイヤレス受信部を下記場所に設置しないでください。
ワイヤレス受信部の故障や変形の原因になることがあります。

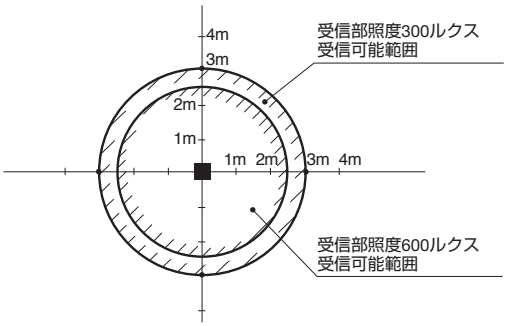
（1）直射日光の当たる場所
（2）発熱器具の近く
（3）湿気の多い所・水の掛る所
（4）取付面が発熱・結露する場所
（5）油の飛沫や蒸気が直接触れる場所
（6）取付面に凹凸がある所
（7）室内ユニットの吹出し空気が当たる場所
（8）蛍光灯（特にインバータタイプ）の近く
　　あるいは、直接日光が受信部に当たる場所
（9）他の赤外線通信機器の光線が受信部に当たる場所
（10）ワイヤレスリモコンの操作場所から見て、障害物に
　　隠れてしまう場所

ワイヤレスリモコンの操作距離

① 標準的な受信距離
　[条件] 受信部照明度300ルクス
　　（一般事務所で受信部周辺1m以内の天井面に照明がない場合）



② 平面から見たときの受信部照度と受信距離の関係
　[条件] 天井高さ2.4m、床面より1mの
　　高さより、ワイヤレスリモコン
　　操作した場合の受信部照度と
　　受信距離との関係を右図に示します。
　　照度が2倍になると受信距離は2／3
　　となります。



③ 複数台近接設置時の注意
　[条件] 受信部照明度300ルクス
　　（一般事務所で受信部周辺1m以内の天井面に照明がない場合）
　[複数台近接設置]ワイヤレスリモコン使用時の同一動作を防止できる
　　最小距離は5mです。

(b) 据付説明書

PJB012D307

安全上のご注意

●工事の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しく据付工事をしてください。
いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
⚠ **警告**　誤った取り扱いをしたときに、死亡や重傷などの重大な結果に結びつく可能性が大きいもの。
⚠ **注意**　誤った取り扱いをしたときに、傷害を負う可能性、または物的損害の可能性があるもの。
状況によっては重大な結果に結び付く可能性があるもの。
●本文中に使われる「絵表示」の意味は次の通りです。

⃠	絶対にしないでください。	❗	必ず指示どおりに行ってください。

●お使いになる方は、この説明書をいつでも見られるところに大切に保管してください。移設･修理の場合、工事される方にお渡しください。また、お使いになる方が代わる場合、新しくお使いになる方にお渡しください。

⚠ 警告

❗ **●据付は、お買上げの販売店または専門業者に依頼する。**
ご自分で据付工事をされ不備があると、感電、火災、故障の原因になります。

❗ **●据付工事は、この据付説明書に従って確実に行う。**
据付に不備があると感電、火災、故障の原因になります。

❗ **●据付工事部品は必ず付属品および指定部品を使用する。**
当社指定の部品を使用しないと、落下、火災、感電の原因になります。

❗ **●据付は、重量に十分耐える所に確実に行う。**
強度が不足している場合は、本機の落下などにより、ケガの原因になります。

❗ **●電気工事は電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」、「内線規程」および据付説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用する。**
電源回路容量不足や施工不備があると感電、火災などの原因になります。

❗ **●据付工事は、必ず電源をしゃ断して行う。**
感電、故障や動作不良の原因になります。

⃠ **●改造は絶対にしない。**
感電、火災、故障の原因になります。

❗ **●修理・点検に際して「電源ブレーカ」を必ず OFF にする。**
修理・点検にあたって、電源ブレーカが ON のままだと、感電およびケガの原因になります。

⃠ **●特殊環境、可燃性ガスの発生・流入・滞留・漏れのおそれがあるところへ設置しない。**
油・蒸気・有機溶剤・腐食ガス（アンモニア・硫黄化合物・酸など）の多いところや、酸性やアルカリ性の溶液･特殊なスプレーなどを頻繁に使うところで使用すると、著しい性能の低下・腐食による感電、火災、故障の原因になります。

⃠ **●大量の水蒸気が発生するところ・結露するところには設置しない。**
感電、火災、故障の原因になります。

⃠ **●洗濯室など水のかかる所では使用しない。**
感電、火災、故障の原因になります。

⃠ **●ぬれた手で操作しない。**
感電の原因になることがあります。

⚠ 警告

●本機を水洗いしない。
感電、火災、故障の原因になります。

●配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。
接続や固定が不完全な場合は、発熱、火災等の原因になります。

●病院・通信事業所などに据付ける場合、ノイズに対する備えを行うこと。
インバータ機器・自家発電機・高周波医療機器・無線通信機器などの影響により、誤動作や故障の原因になります。
リモコン側から医療機器・通信機器への影響により、医療行為の妨げ・映像放送の乱れや雑音の弊害が生じる原因になります。

●基板のケースを取外したまま放置しない。
水分・ホコリ・虫などが混入すると、感電・火災・故障の原因になります。

⚠ 注意

●ワイヤレスキットを下記場所に設置しない。
ワイヤレスキット故障や変形の原因になることがあります。

⑴ 直射日光の当たる場所
⑵ 発熱器具の近く
⑶ 湿気の多い所・水のかかる所
⑷ 取付面が発熱・結露する場所
⑸ 油の飛沫や蒸気が直接触れる場所
⑹ 取付面に凹凸がある所
⑺ 室内ユニットの吹出空気が当たる場所
⑻ 蛍光灯(特にインバータタイプ)の近くあるいは、直射日光が受光アダプタに当たる場所
⑼ 他の赤外線通信機器の光線が受光アダプタに当たる場所
⑽ ワイヤレスリモコンの操作場所から見て、障害物に隠れてしまう場所

① 付属品

次の付属品を確かめてください。

ワイヤレス受信部
LA-TW

① 受信部		1
② パーツセット		1
③据付説明書		1

① 配線クランプ		2
② 同上ねじ		2
③グロメット		1

ワイヤレスリモコン (別売品)
RCN-D5

① ワイヤレスリモコン		1
② リモコン用ホルダ		1
③ 同上用木ねじ		2
④ リモコン用電池		2
⑤ 取扱説明書		1

② 取付前の準備

受信部の設定

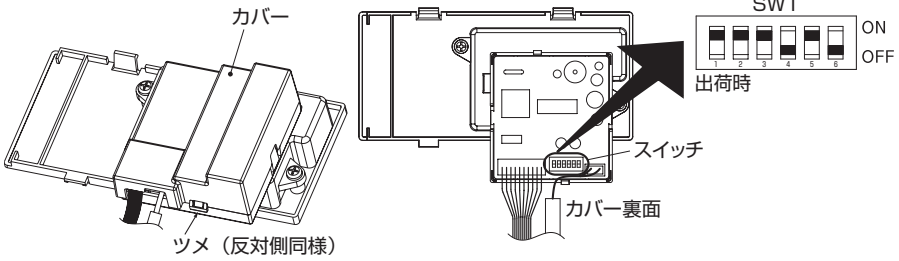
受信部基板上のスイッチの設定は右記の通りです。
なお、出荷時の設定は [ ] で囲まれた設定になっています。

SW1-1	複数台設置時の混信誤動作防止	[ON : 通常] OFF : 切換え
SW1-2	受信部の親子切換え	[ON : 親] OFF : 子
SW1-3	ブザー音	[ON : 有り] OFF : 無し
SW1-4	停電補償	ON : 有効 [OFF : 無効]
SW1-5	点検表示	[ON : 有効] OFF : 無効
SW1-6	機種	ON : FDK [OFF : FDTW]

② 取付前の準備の続き

現地設定の変更方法

1. 受信部裏面のカバーを取外してください。
2. カバー裏面の基板上のスイッチを変更してください。



3. SW1-1 を OFF にする場合はリモコン側も設定変更 してください。
   設定変更は、本説明書 **④ワイヤレスリモコン** の **混信防止設定** をご覧ください。

※受信可能範囲は、本説明書 **⑤受信部** をご覧ください。

複数リモコン使用時の親子設定

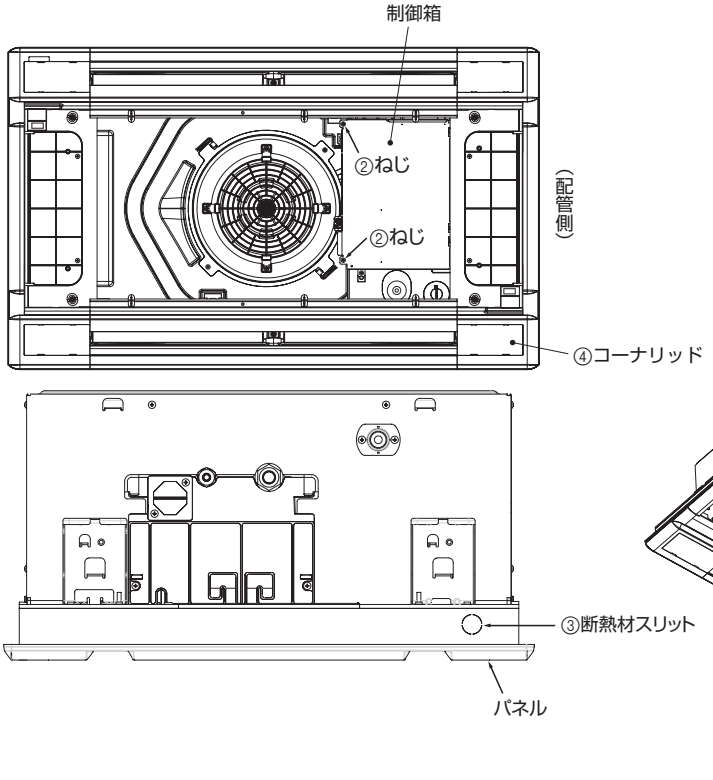
1つのグループに対して最大2個まで受信部・ワイヤードリモコンを接続できます。
その際は2つの受信部・ワイヤードリモコンのうち、いずれか一方の基板上のスイッチを変更し、子機設定とする必要があります。
ワイヤードリモコンの設定変更は、ワイヤードリモコン付属の説明書をご覧ください。

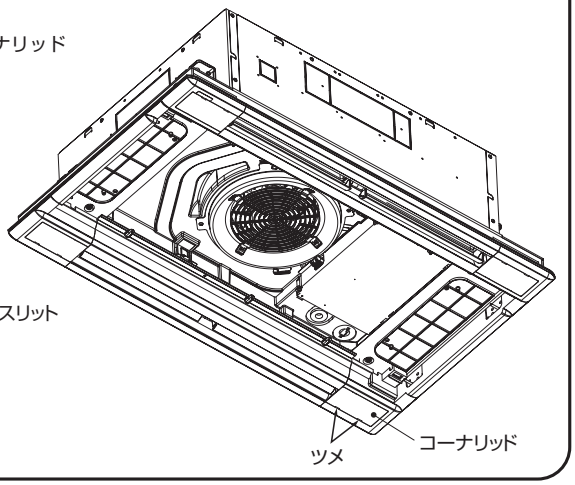
③ 受信部の取付

本ワイヤレスキットの受信部は、対応パネルのコーナリッドと交換することにより取付可能です。

取付前の準備

① サービスパネルとエアフィルタを取外してください。
② エアコン本体の制御箱の蓋（ねじ2個）を取外してください。
③ パネル側面に貼り付けられた断熱材のスリットを切取ってください。
④ コーナリッドのツメをマイナスドライバー等で取外してください。



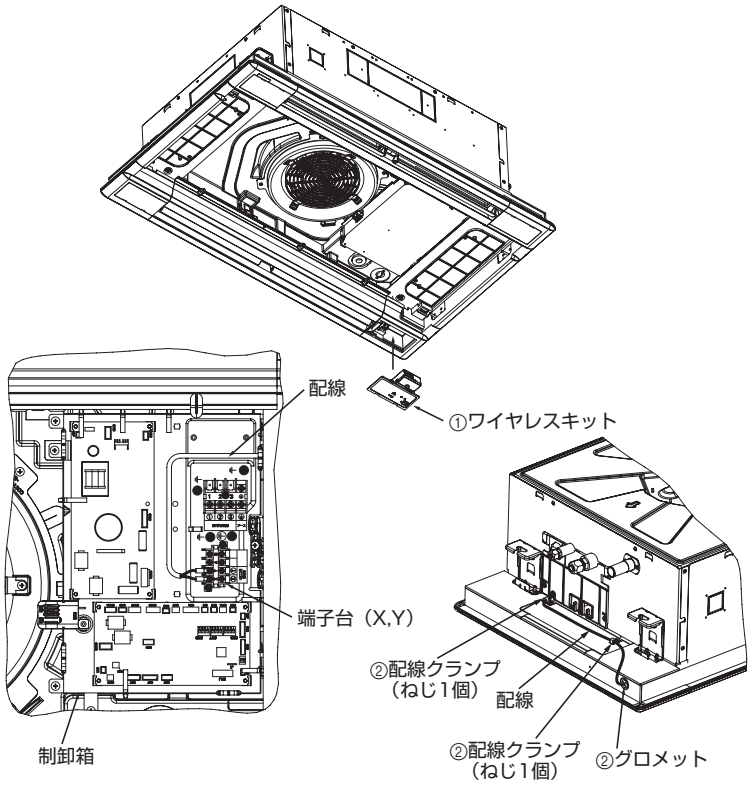


③ 受信部の取付の続き

受信部の取付

① 下図に示すようにワイヤレスキットをパネルに取付けてください。
② グロメットおよび配線クランプを取付けてください。
③ ワイヤレスキットの配線を下図に示すように、コントロールボックスに入れてください。
④ 配線を制御箱内の端子台 (X、Y) に接続してください。(無極性)
⑤ 制御箱の蓋を外したねじ (2 本) を用いて取付けてください。

※ ご注意 : 取付の際、配線をはさまないようにしてください。

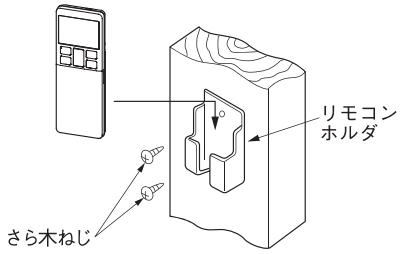


④ ワイヤレスリモコン

リモコンホルダの据付

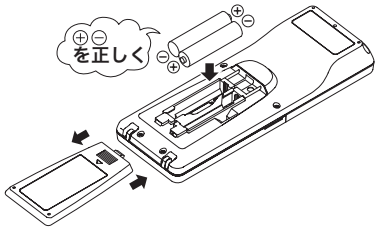
リモコンホルダを付属のねじで固定してください。

※ホルダ取付時の注意
・垂直になるよう調節してください。
・ねじ頭が出ないようにしてください。
・土壁等へは取付けないでください。



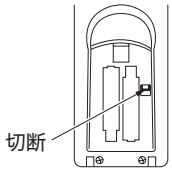
電池の入れ方

1. 裏蓋を外します。
2. 乾電池を入れます。(単四 2 本)
3. 裏蓋を取付けます。



混信防止設定

1. リモコンの裏蓋をはずし、乾電池を取外す。
2. 乾電池横の切換え線をニッパ等で切断する。
3. 乾電池を入れて、裏蓋を取付ける。



リモコンの設定変更

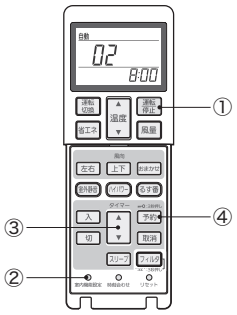
自動運転の設定変更のしかた
ビル空調・ガスヒートポンプシリーズ (除く冷暖フリーマルチ) は自動運転が
できません。
これらの機種に使用する場合は、リモコンを自動運転無効の設定にしてください。
運転切換ボタンを押しながらリセットスイッチを押すか、運転切換ボタンを
押しながら電池を投入すると、自動運転が無効となります。

※注意：一度電池を取外すと初期設定 (工場出荷時設定) へ戻ります。
電池を取外した時は、再度上記操作を行ってください。



室内機能設定

1. 室内機能設定のしかた
   ① 運転 / 停止を押し、停止状態にする。
   ② 室内機能設定スイッチを押しながら、2 項に示すボタンを押す。
   ③ 選択ボタン▲、▼で設定を変更する。
   ④ 予約ボタンを押す。
   リモコン信号受信部より、ピッピッと 2 回ブザーが鳴り、
   LED は 2 秒毎に 4 回点滅します。



④ ワイヤレスリモコンの続き

2. 設定内容
機能設定が可能な項目は下記となります。

ボタン	番号表示部	機能設定
風量	00	風速設定：標準
	01	風速設定：設定1　※
	02	風速設定：設定2　※
運転切換	00	暖房室温補正：無効
	01	暖房室温補正：+1℃
	02	暖房室温補正：+2℃
	03	暖房室温補正：+3℃
フィルタ	00	フィルタサイン表示：なし
	01	フィルタサイン表示：180時間
	02	フィルタサイン表示：600時間
	03	フィルタサイン表示：1000時間
	04	フィルタサイン表示：1000時間後運転停止
上/下	00	ドラフト防止設定（エアフレックス設定）：無効
	01	ドラフト防止設定（エアフレックス設定）：有効
室外静音	00	人感センサ設定：無効
	01	人感センサ設定：有効
ハイパワー	00	人感センサ制御：無効
	01	人感センサ制御：パワーコントロールのみ
	02	人感センサ制御：オートオフのみ
	03	人感センサ制御：パワーコントロール+オートオフ
入	00	冷房ファン残留運転：無効
	01	冷房ファン残留運転：0.5時間
	02	冷房ファン残留運転：2時間
	03	冷房ファン残留運転：6時間
切	00	暖房ファン残留運転：無効
	01	暖房ファン残留運転：0.5時間
	02	暖房ファン残留運転：2時間
	03	暖房ファン残留運転：6時間
るす番	00	リモコン信号受信部LED：輝度明
	01	リモコン信号受信部LED：輝度暗
	02	リモコン信号受信部LED：消灯
省エネ	0.1	グリル自動昇降降下長：0.1m
	0.2	グリル自動昇降降下長：0.2m
	・	・
	・	・
	2.0	グリル自動昇降降下長：2.0m
	・	・
	・	・
	3.9	グリル自動昇降降下長：3.9m
	4.0	グリル自動昇降降下長：4.0m
運転/停止	50	グリル自動昇降周波数：50Hz
	60	グリル自動昇降周波数：60Hz

※　詳細は198ページを参照ください。

⑤ 受信部

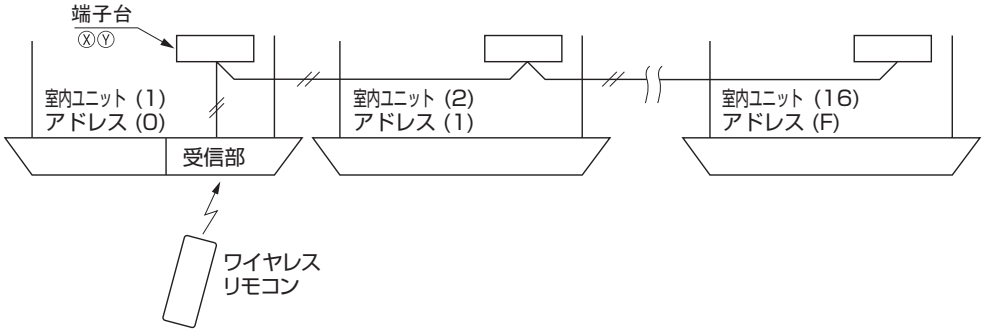
1リモコンによる複数台室内ユニット制御

1. 1つのリモコンで複数台のユニット（最大16台）を
   グループ制御できます。
   同一モード、同一室温設定で運転します。
2. グループ制御用に各室内ユニット間を
   2心のリモコン線にて渡り配線してください。

渡り配線の太さと長さの制限（最大600m）	
標準	0.3mm^2 × 100m以内
	0.5mm^2 × 200m以内
	0.75mm^2 × 300m以内
	1.25mm^2 × 400m以内
	2.0mm^2 × 600m以内

店舗シリーズの場合

室内基板上のロータリスイッチSW2により、リモコン通信アドレスを重複しないよう「0」～「F」に
設定してください。

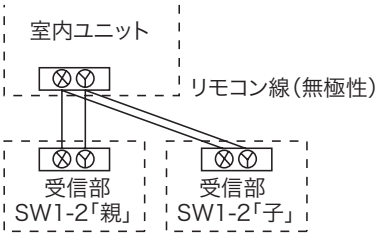


ビル空調・ガスヒートポンプシリーズの場合

室内・室外No.を手動アドレス設定にてセットしてください。
室内ユニット基板上のロータリスイッチSW1、SW2により、室内No.を重複しないように設定してください。

複数リモコン使用時の親子設定

室内ユニット1台（または1グループ）に対して最大2個までのリモコンを接続できます。



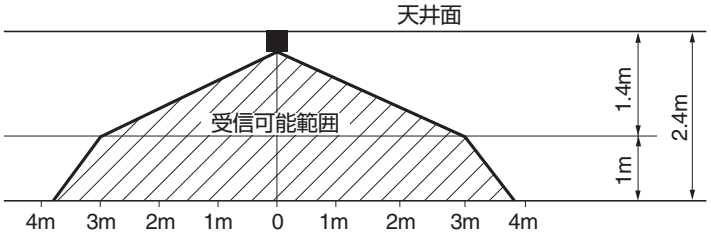
スイッチ	設定	機能内容
SW1-2	ON	親リモコン
	OFF	子リモコン

ワイヤレスリモコンの操作距離

1. 標準的な受信距離

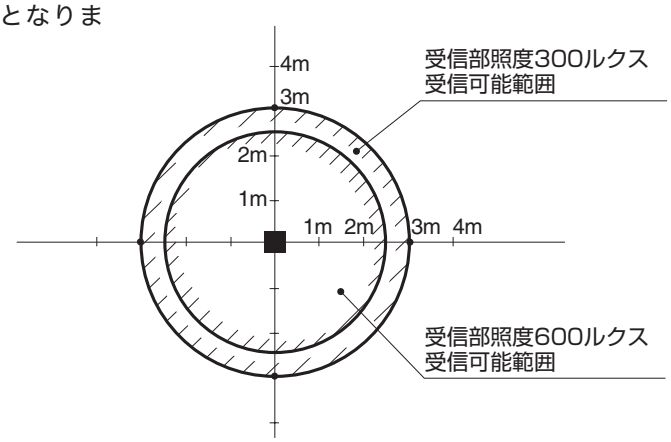
［条件］受信部照明度300ルクス

（一般事務所で受信部周辺1m以内の天井面に照明がない場合）



⑤ 受信部の続き

2. 平面から見たときの受信部照度と受信距離の関係
   [条件] 天井高さ 2.4m、床面より 1m の高さより、リモコン操作した場合の受信部照度と受信距離との関係を右図に示します。 照度が 2 倍になると受信距離は 2 ／ 3 となります。

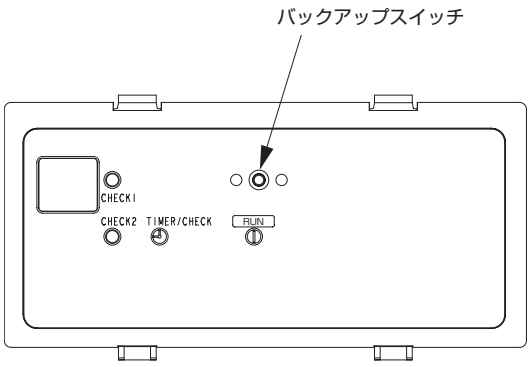


3. 複数台近接設置の注意
   [条件] 受信部照明度 300 ルクス
   (一般事務所で受信部周辺 1m 以内の天井面に照明がない場合)
   [複数台近接設置] リモコン使用時の同一動作を防止できる最小距離は 5m です。

バックアップスイッチ操作

表面受信部にバックアップスイッチを装備しています。
ワイヤレスリモコン操作ができない場合 (電池切れ、紛失、故障) に応急的に使用してください。
操作は手で直接操作してください。

1. 停止中に押すことにより自動モード (冷専は冷房モード) で運転します。
   風量「急」 温度設定「23℃」 ルーバ「水平」
2. 運転中に押すことにより「停止」します。
3. ラクリーナパネル使用時、2 秒以上押し続けてから離した場合、自動昇降パネル上昇となります。



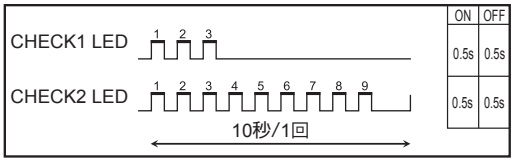
冷房試運転操作

- 受信部バックアップスイッチを押しながら、リモコンにて冷房運転を送信してください。
- 試運転時に受信部バックアップスイッチを押すと試運転が解除されます。
- 試運転時、正常に動作しない場合は、室内・室外ユニットに貼付の結線銘鈑の点検表示を参照し、点検してください。

点検表示の見方

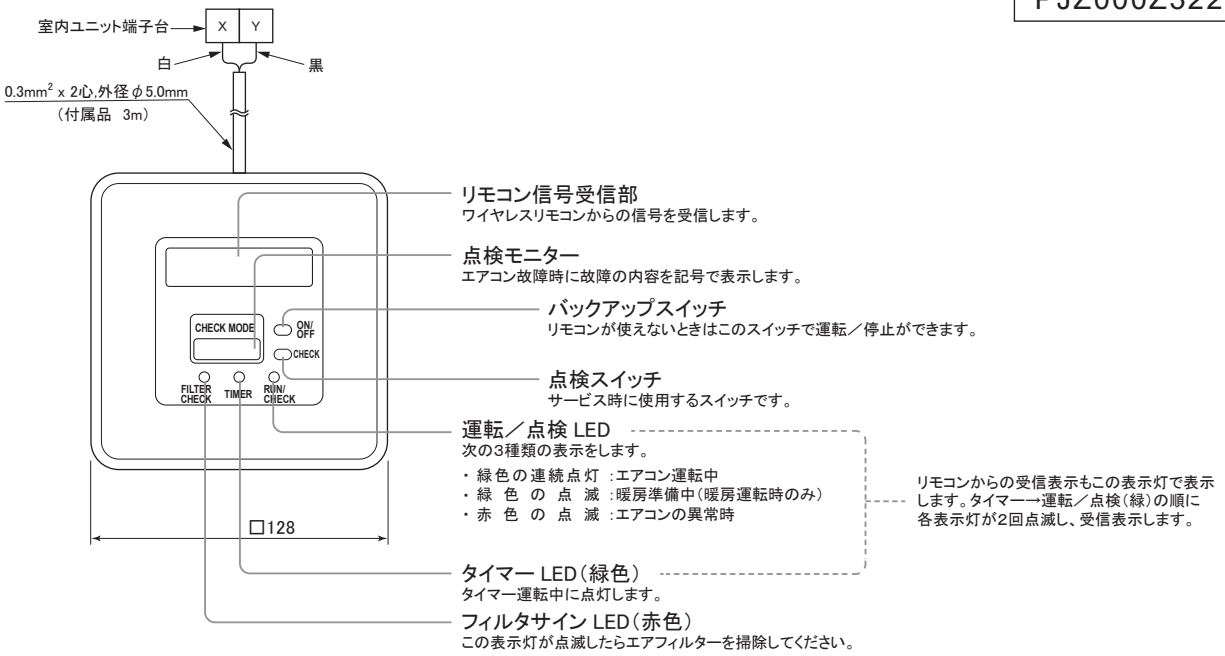
- 点検 LED 表示 “CHECK1” ／ “CHECK2” の LED がエラーコードの “十の位” ／ “一の位” の数だけ点滅します。

例 : E39のとき

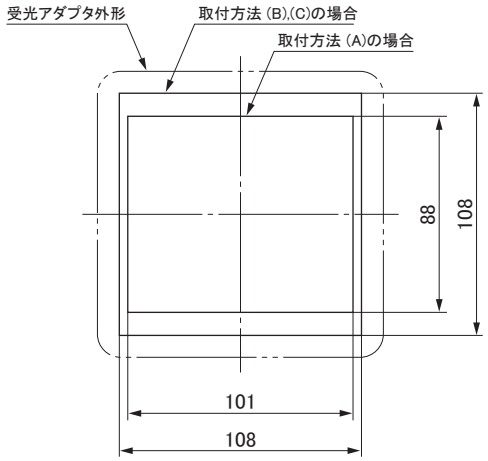


(4) FDTSC シリーズ
RCN-KIT4
(a) 仕様

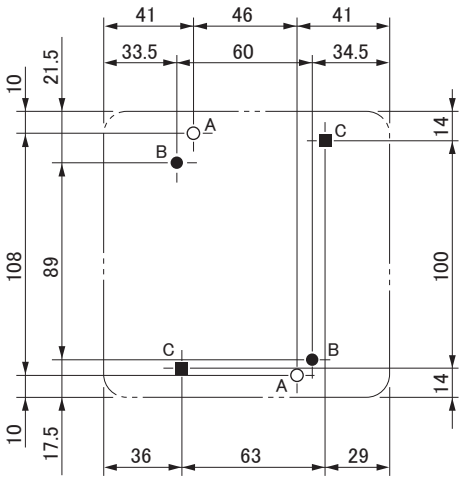
PJZ000Z322



天井あるいは壁面の開口寸法



受光アダプタ取付寸法



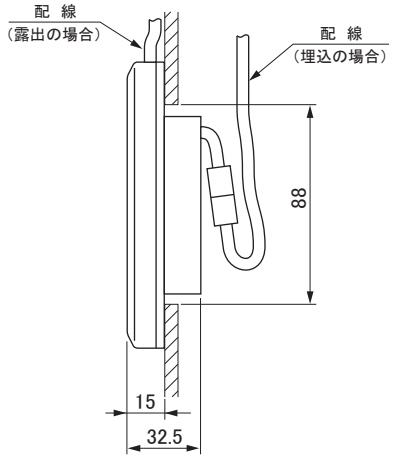
○印:(A)天井あるいは壁面への木ネジによる直接取付。
●印:(B)JISボックス(客先手配品)による取付。
■印:(C)付属ブラケットによる取付。

（単位:mm）

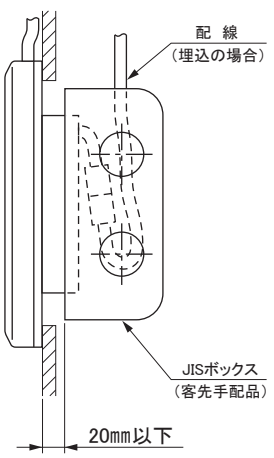
受光アダプタ取付方法

天井あるいは壁面への取付方法として下図に示す3種類の取付が可能です。
設置場所に応じて選んでください。

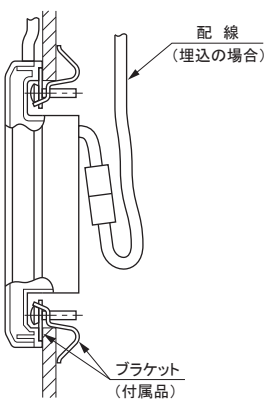
(A)木ねじによる直接取付



(B)JISボックス(客先手配)による取付



(C)付属ブラケットによる取付



ワイヤレスキットの据付

ワイヤレスキットを下記場所に設置しないでください。
ワイヤレスキットの故障や変形の原因になることがあります。

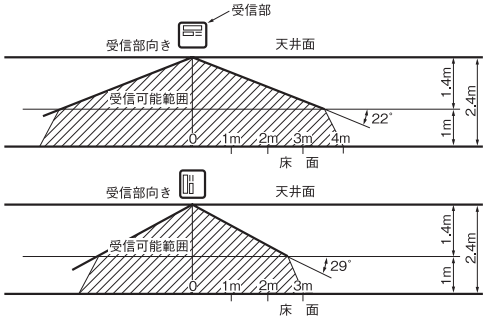
(1) 直射日光の当たる場所
(2) 発熱器具の近く
(3) 湿気の多い所・水の掛る所
(4) 取付面が発熱・結露する場所
(5) 油の飛沫や蒸気が直接触れる場所
(6) 取付面に凹凸がある所
(7) 室内ユニットの吹出し空気が当たる場所
(8) 蛍光灯（特にインバータタイプ）の近く
あるいは，直射日光が受光アダプタに当たる場所
(9) 他の赤外線通信機器の光線が受光アダプタに当たる場所
(10) ワイヤレスリモコンの操作場所から見て、障害物に隠れてしまう場所

ワイヤレスリモコンの操作距離

天井面に取付けた場合

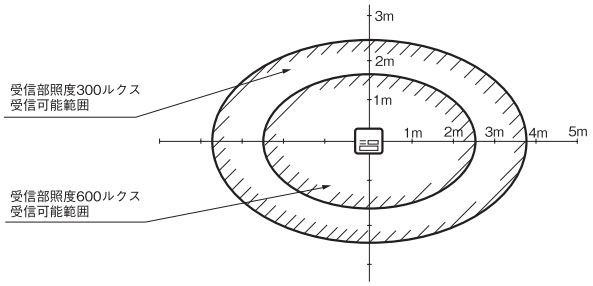
① 標準的受信距離

条件 受信部照度 300 ルクス（一般事務所で受信アダプタ周辺１ｍ以内の天井面に照明がない場合）



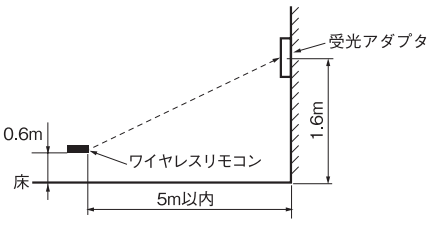
② 平面から見た時の受信部照度と受信距離の関係

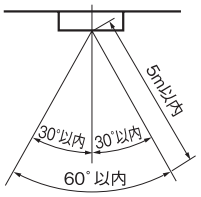
条件 天井高さ2．4m、床面より1ｍの高さより、リモコン操作した場合の受信部照度と受信距離との関係。
照度が2倍になると受信距離は2/3となる。



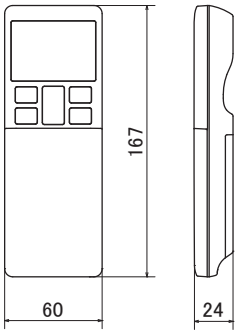
壁面に取付けた場合

条件 受信部照度 800 ルクス

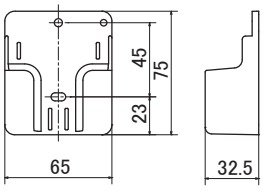




リモコン



リモコン用ホルダ



注）リモコン用として単4乾電池が2個付属しています。

お願い
○リモコンを正しくエアコンの受信部に向けて操作してください。
○操作距離は受信部照明度、部屋壁面の反射状態により変化します。
○受信部に直射日光・照明等の強い光が当たっている場合、操作距離の縮小や受信不良が起こる場合があります。

PJZ012D111

(b) 据付説明書

安全上のご注意

●工事の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しく据付工事をしてください。
いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
⚠ **警告**　誤った取り扱いをしたときに、死亡や重傷などの重大な結果に結びつく可能性が大きいもの。
⚠ **注意**　誤った取り扱いをしたときに、傷害を負う可能性、または物的損害の可能性があるもの。
状況によっては重大な結果に結び付く可能性があるもの。
●本文中に使われる「絵表示」の意味は次の通りです。

⃠	絶対にしないでください。	❗	必ず指示どおりに行ってください。

●お使いになる方は、この説明書をいつでも見られるところに大切に保管してください。移設･修理の場合、工事される方にお渡しください。また、お使いになる方が代わる場合、新しくお使いになる方にお渡しください。

⚠ 警告

❗ **●据付は、お買上げの販売店または専門業者に依頼する。**
ご自分で据付工事をされ不備があると、感電、火災、故障の原因になります。

❗ **●据付工事は、この据付説明書に従って確実に行う。**
据付に不備があると感電、火災、故障の原因になります。

❗ **●据付工事部品は必ず付属品および指定部品を使用する。**
当社指定の部品を使用しないと、落下、火災、感電の原因になります。

❗ **●据付は、重量に十分耐える所に確実に行う。**
強度が不足している場合は、本機の落下などにより、ケガの原因になります。

❗ **●電気工事は電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」、「内線規程」および据付説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用する。**
電源回路容量不足や施工不備があると感電、火災などの原因になります。

❗ **●据付工事は、必ず電源をしゃ断して行う。**
感電、故障や動作不良の原因になります。

⃠ **●改造は絶対にしない。**
感電、火災、故障の原因になります。

❗ **●修理・点検に際して「電源ブレーカ」を必ず OFF にする。**
修理・点検にあたって、電源ブレーカが ON のままだと、感電およびケガの原因になります。

⃠ **●特殊環境、可燃性ガスの発生・流入・滞留・漏れのおそれがあるところへ設置しない。**
油・蒸気・有機溶剤・腐食ガス（アンモニア・硫黄化合物・酸など）の多いところや、酸性やアルカリ性の溶液･特殊なスプレーなどを頻繁に使うところで使用すると、著しい性能の低下・腐食による感電、火災、故障の原因になります。

⃠ **●大量の水蒸気が発生するところ・結露するところには設置しない。**
感電、火災、故障の原因になります。

⃠ **●洗濯室など水のかかる所では使用しない。**
感電、火災、故障の原因になります。

⃠ **●ぬれた手で操作しない。**
感電の原因になることがあります。

⚠ 警告

●本機を水洗いしない。
感電、火災、故障の原因になります。

●配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。
接続や固定が不完全な場合は、発熱、火災等の原因になります。

●病院・通信事業所などに据付ける場合、ノイズに対する備えを行うこと。
インバータ機器・自家発電機・高周波医療機器・無線通信機器などの影響により、誤動作や故障の原因になります。
リモコン側から医療機器・通信機器への影響により、医療行為の妨げ・映像放送の乱れや雑音の弊害が生じる原因になります。

●基板のケースを取外したまま放置しない。
水分・ホコリ・虫などが混入すると、感電・火災・故障の原因になります。

⚠ 注意

●ワイヤレスキットを下記場所に設置しない。
ワイヤレスキット故障や変形の原因になることがあります。

⑴ 直射日光の当たる場所
⑵ 発熱器具の近く
⑶ 湿気の多い所・水のかかる所
⑷ 取付面が発熱・結露する場所
⑸ 油の飛沫や蒸気が直接触れる場所
⑹ 取付面に凹凸がある所
⑺ 室内ユニットの吹出空気が当たる場所
⑻ 蛍光灯(特にインバータタイプ)の近くあるいは、直射日光が受光アダプタに当たる場所
⑼ 他の赤外線通信機器の光線が受光アダプタに当たる場所
⑽ ワイヤレスリモコンの操作場所から見て、障害物に隠れてしまう場所

① 付属品

次の付属品を確かめてください。

① 受光アダプタ		1
② 配線 (3m)		1
③ パーツセット (A)		1
④ パーツセット (B)		1
⑤ パーツセット (C)		1
⑥ 据付説明書 (本紙)		1

① ワイヤレスリモコン(RCN-D5)		1
② リモコン用ホルダ		1
③ 同上用木ねじ		2
④ リモコン用電池		2
⑤ 取扱説明書		1

① 受光アダプタ用ねじ		2
② バンド		1
③ クランプ		5
④ 同上用ねじ		5

① 受光部取付用ブラケット		1
② 同上用ねじ		2
③ 取付金具		2
④ JISボックス取付用ねじ		2

② 取付前の準備

現地設定

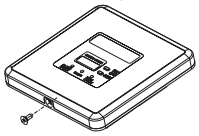
受信基板上のスイッチの設定は右記の通りです。
なお、出荷時の設定は [　　] で囲まれた設定になっています。

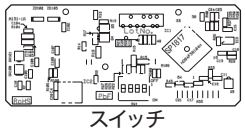
SW1-1	複数台設置時の混信誤動作防止	[ON : 通常]	OFF : 切換え (2ch)
SW1-2	受信部の親子切換え	[ON : 親]	OFF : 子
SW1-3			
SW1-4	停電補償	ON : 有効	[OFF : 無効]

② 取付前の準備の続き

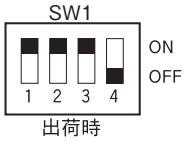
現地設定の変更方法

1. 受信部下面のねじ(1 本)を外し、基板を取外してください。
2. 基板上(7 セグメント表面側)のスイッチを変更してください。





スイッチ



出荷時

3. SW1-1 を OFF にする場合はワイヤレスリモコン側も設定変更してください。
   設定変更は、本説明書 **④ワイヤレスリモコン** の **混信防止設定** をご覧ください。

※受信可能範囲は、本説明書 **⑤受信部** をご覧ください。

複数リモコン使用時の親子設定

1 つのグループに対して最大 2 個まで受信部・ワイヤードリモコンを接続できます。
その際は 2 つの受信部・ワイヤードリモコンのうち、いずれか一方の基板上のスイッチを変更し、子機設定とする必要があります。
ワイヤードリモコンの設定変更は、ワイヤードリモコン付属の説明書をご覧ください。

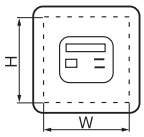
③ 受信部の取付

天井あるいは、壁面 (以後あわせて壁面と呼ぶこととします) への取付方法として下記3種類の取付が可能です。
設置場所に応じて選んでください。

〈取付け方法〉 (A) 壁面への木ねじによる直接取付
(B) JIS ボックス (現地手配) による取付
(C) 付属ブラケットによる取付

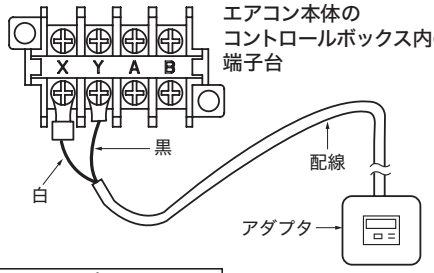
(1) 壁面への穴あけ (壁面開口)

取付用の穴を付属配線 (3 m) で接続可能な壁面位置に、右表の寸法にてあけてください。



(A) 壁面への木ねじによる直接取付	88mm(H)×101mm(W)
(B) JIS ボックスによる取付 (C) 付属ブラケットによる取付	108mm(H)×108mm(W)

(2) 受光アダプタ用配線



⚠注意
配線を端子台 200V に接続しないこと。
プリント基板が焼損します。

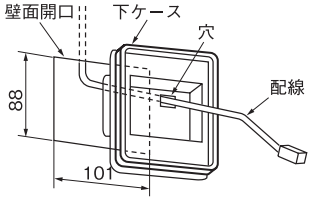
(3) 受光アダプタ取付

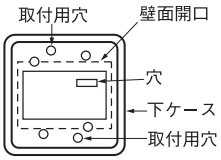
側面についているねじをはずし、上ケースと下ケースに分割してください。
下記4種 (A～D) のうちのいずれかの方法により取付けてください。

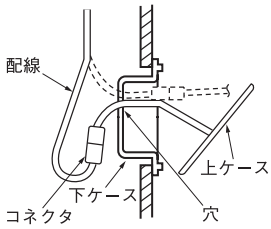
(A) 壁面への木ねじによる直接取付

▷ 壁面が木製などのもので、直接木ねじにより取付けても強度的に問題のない場合にこの方法で取付けてください。

① 配線を裏面側から下ケースの穴に通してください。
② 下ケースを壁面開口にはめてください。この時、下ケース後面凸部と壁面開口とのすきまは両側ともできるだけ等しくなる様にしてください。
③ 上図 2 か所の取付用穴を用いて付属の木ねじにより下ケースを壁に固定してください。(他の 4 か所の穴は使用しません。)
④ 配線と上ケースから出ている配線とをコネクタにより接続してください。







③ 受信部の取付の続き

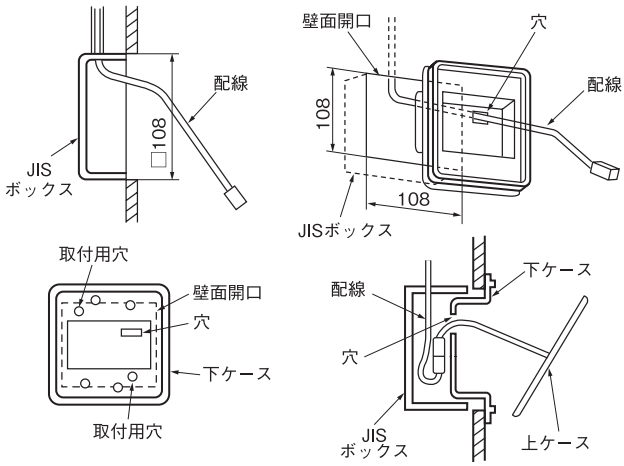
⑤ 接続したコネクタを①項にて配線を通した下ケースの穴より裏側へ出してください。
⑥ 上ケースを下ケースに元通りはめ込み、ねじをしめてください。

(B)　JIS ボックスによる取付（JIS ボックス：現地手配）

① JIS ボックスと配線をあらかじめ設置しておきます。

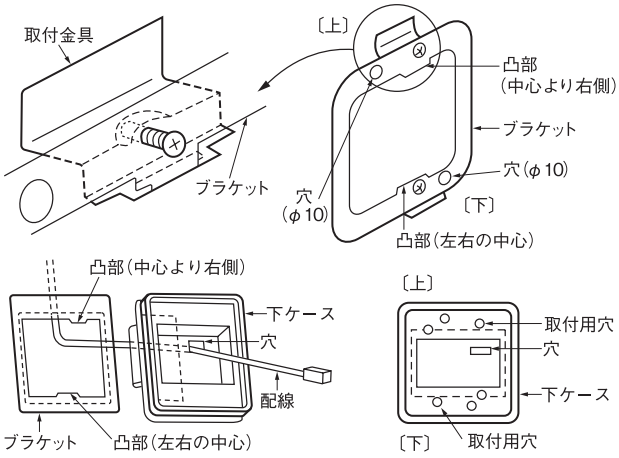
〔使用可能 JIS ボックス〕
JIS C 8435
埋込用四角アウトレットボックス中浅形
JIS C 8340
中形四角アウトレットボックス

② 配線を裏面側から下ケースの穴に通してください。
③ 右図 2 か所の取付用穴を用いて付属しているねじにより下ケースは JIS ボックスに固定してください。(他の 4 か所の穴は使用しません。)
④ 配線と上ケースから出ている配線とをコネクタにより接続してください。
⑤ 接続したコネクタを②項にて配線を通した下ケースの穴より、下ケースと JIS ボックスの間へ入れていください。
⑥ 上ケースを下ケースに元通りはめ込み、ねじをしめてください。



(C)　付属ブラケットによる取付

① 右図の様に付属ブラケットの凸部 (2 か所) に取付金具を引掛け、ねじにより仮止めしてください。(ブラケットには上下および表裏があります。上下凸部の位置およびブラケットにあるφ10 の穴と取付金具の取付面との位置関係を右図にてご確認願います。)
② 壁面開口より取付金具の端部を壁面裏側へ入れ、さらにねじを締めてブラケットを壁面に固定してください。
③ 配線を裏面側から下ケースの穴に通してください。
④ 下ケースをブラケットにはめ込み、右図 2 か所の取付用穴を用いて下ケースをブラケットに固定してください。(他の 4 か所の穴は使用しません)
⑤ 以降 (A) の①～⑥を参照して取付けてください。

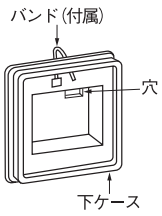


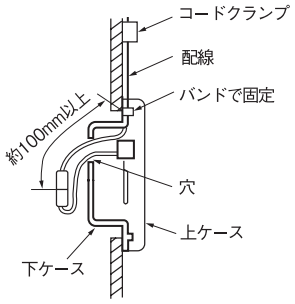
③ 受信部の取付の続き

(D)　配線露出取付

配線を露出させて取付ける場合は下記の通りに行なってください。

① 上ケース側面の薄肉部をニッパ、ナイフ等で切取った後、ヤスリ等でバリを取ってください。(この部分に配線を通します。)
② 下ケースの配線取出部の穴に付属のバンドを通します。
③ 3 項の受光アダプタ取付方法 (A ～ C) のいずれかの方法に従い、下ケースを壁面に固定してください。ただし、配線は下ケースの穴に通さないでください。
④ バンドでの固定部から配線のコネクタの先端までの長さを 100 mm以上とした状態でバンドにより配線を固定してください。(ただし、JIS ボックスにより下ケースを取付けた場合は約 100 mmとしてください。)
⑤ 配線と上ケースより出ている配線をコネクタにより接続してください。
⑥ 接続したコネクタおよび不要な配線を下ケースの穴より裏側へ出してください。
⑦ 上ケースを下ケースに元通りはめ込み、ねじを締めてください。
⑧ 配線は付属のコードクランプで適宜固定してください。



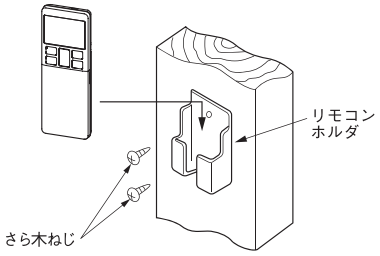


④ ワイヤレスリモコン

リモコンホルダの据付

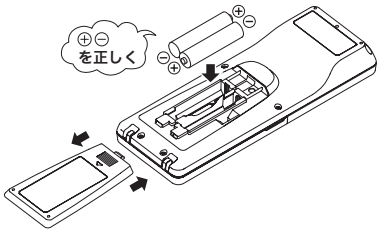
1. リモコンホルダを付属のねじで固定してください。

※ホルダ取付時の注意
・垂直になるよう調節してください。
・ねじ頭が出ないようにしてください。
・土壁等へは取付けないでください。



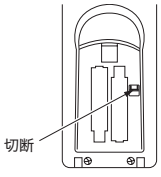
電池の入れ方

1. 裏蓋を外します。
2. 乾電池を入れます。(単四 2 本)
3. 裏蓋を取付けます。



混信防止設定

1. リモコンの裏蓋をはずし、乾電池を取外す。
2. 乾電池横の切換え線をニッパ等で切断する。
3. 乾電池を入れて、裏蓋を取付ける。



④ ワイヤレスリモコンの続き

リモコンの設定変更

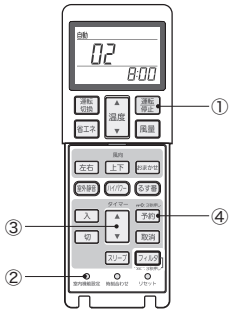
自動運転の設定変更のしかた
ビル空調・ガスヒートポンプシリーズ（除く冷暖フリーマルチ）は自動運転ができません。
これらの機種に使用する場合は、リモコンを自動運転無効の設定にしてください。
運転切換ボタンを押しながらリセットスイッチを押すか、運転切換ボタンを押しながら電池を投入すると、自動運転が無効となります。

※注意：一度電池を取外すと初期設定（工場出荷時設定）へ戻ります。
電池を取外した時は、再度上記操作を行ってください。



室内機能設定

1. 室内機能設定のしかた
① 運転 / 停止を押し、停止状態にする。
② 室内機能設定スイッチを押しながら、2 項に示すボタンを押す。
③ 選択ボタン▲、▼で設定を変更する。
④ 予約ボタンを押す。
リモコン信号受信部より、ピッピッと 2 回ブザーが鳴り、
LED は 2 秒毎に 4 回点滅します。



2. 設定内容
機能設定が可能な項目は下記となります。

ボタン	番号表示部	機能設定	ボタン	番号表示部	機能設定
風量	00	風速設定　標準	入	00	冷房ファン残留運転　無効
	01	風速設定　設定1　※		01	冷房ファン残留運転　0.5時間
	02	風速設定　設定2　※		02	冷房ファン残留運転　2時間
運転切換	00	暖房室温補正　無効		03	冷房ファン残留運転　6時間
	01	暖房室温補正　+1℃	切	00	暖房ファン残留運転　無効
	02	暖房室温補正　+2℃		01	暖房ファン残留運転　0.5時間
	03	暖房室温補正　+3℃		02	暖房ファン残留運転　2時間
フィルタ	00	フィルタサイン表示　なし		03	暖房ファン残留運転　6時間
	01	フィルタサイン表示　180時間	るす番	00	リモコン信号受信部LED　輝度明
	02	フィルタサイン表示　600時間		01	リモコン信号受信部LED　輝度暗
	03	フィルタサイン表示　1000時間		02	リモコン信号受信部LED　消灯
	04	フィルタサイン表示　1000時間後運転停止	省エネ	0.1	グリル自動昇降降下長　0.1m
上/下	00	ドラフト防止設定（エアフレックス設定）　無効		0.2	グリル自動昇降降下長　0.2m
	01	ドラフト防止設定（エアフレックス設定）　有効		・	・
室外静音	00	人感センサ設定　無効		・	・
	01	人感センサ設定　有効		2.0	グリル自動昇降降下長　2.0m
ハイパワー	00	人感センサ制御　無効		・	・
	01	人感センサ制御 パワーコントロールのみ		・	・
				3.9	グリル自動昇降降下長　3.9m
	02	人感センサ制御 オートオフのみ		4.0	グリル自動昇降降下長　4.0m
	03	人感センサ制御 パワーコントロール+オートオフ	運転/停止	50	グリル自動昇降周波数　50Hz
				60	グリル自動昇降周波数　60Hz

※　詳細は198ページを参照ください。

⑤ 受信部

1 リモコンによる複数台室内ユニット制御

① 1 つのリモコンで複数台のユニット（最大 16 台）をグループ制御できます。
同一モード、同一室温設定で運転します。

② グループ制御用に各室内ユニット間を
2 心のリモコン線にて渡り配線してください。

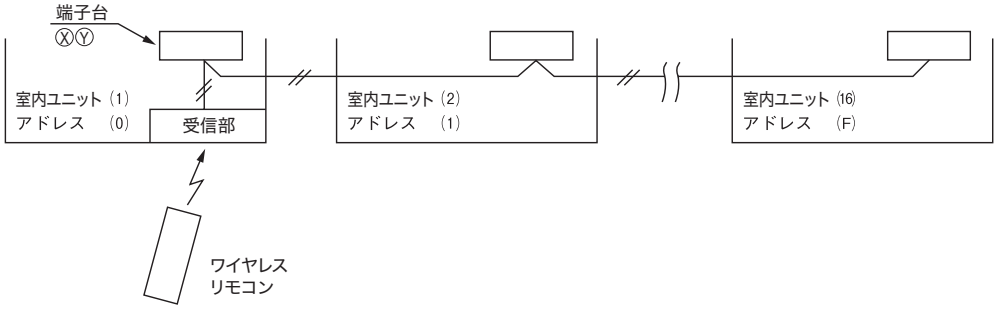
渡り配線の太さと長さの制限（最大 600m）

標準	0.3mm^2 × 100m 以内
	0.5mm^2 × 200m 以内
	0.75mm^2 × 300m 以内
	1.25mm^2 × 400m 以内
	2.0mm^2 × 600m 以内

⑤ 受信部の続き

店舗シリーズの場合

③ 室内基板上のロータリスイッチSW２により、リモコン通信アドレスを重複しないよう「0」～「F」に設定してください。

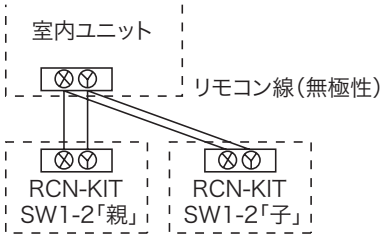


ビル空調・ガスヒートポンプシリーズの場合

④ 室内・室外No. を手動アドレス設定にてセットしてください。
室内ユニット基板上のロータリスイッチSW1、SW2により、室内No. を重複しないように設定してください。

複数リモコン使用時の親子設定

室内ユニット１台（または１グループ）に対して最大２個までのリモコンを接続できます。

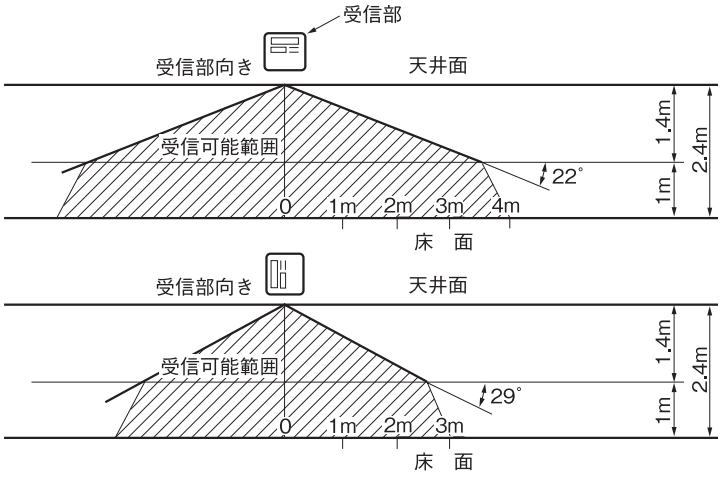


スイッチ	設定	機能内容
SW1-2	ON	親リモコン
	OFF	子リモコン

天井面に取付けた場合

① 標準的受信距離

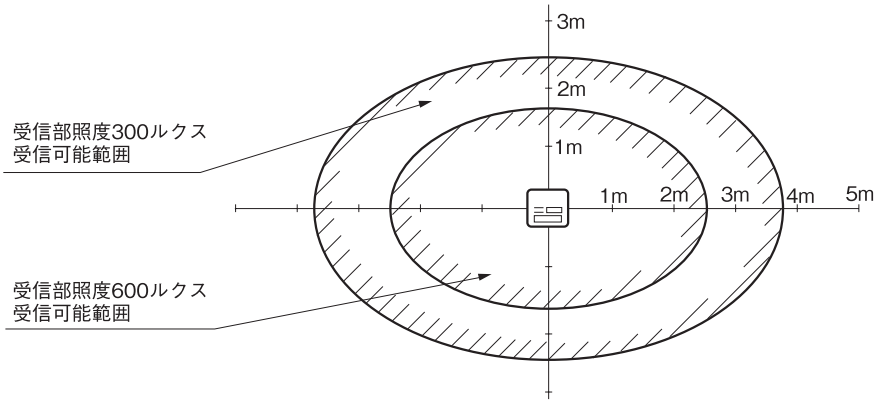
条件 受信部照明度 **300 ルクス**（一般事務所で受信アダプタ周辺１m以内の天井面に照明がない場合）



② 平面から見た時の受信部照度と受信距離の関係

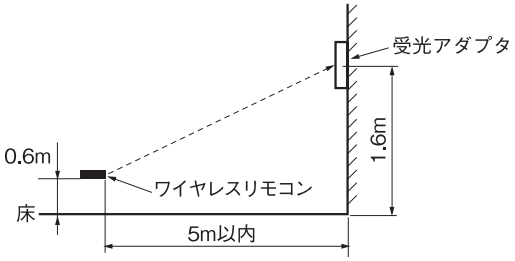
条件 天井高さ 2.4 m、床面より１mの高さより、リモコン操作をした場合の受信部照度と受信距離との関係。照度が２倍になると受信距離は 2/3 となる。

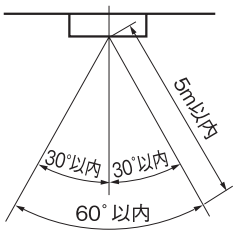
⑤ 受信部の続き



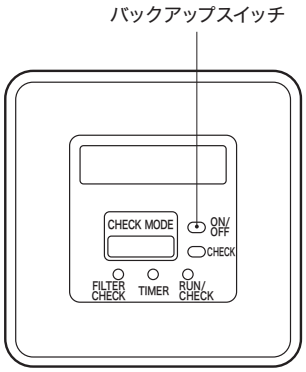
壁面に取付けた場合

条件 受信部照度 **800 ルクス**





バックアップスイッチ操作



表面受信部にバックアップスイッチを装備しています。
ワイヤレスリモコン操作ができない場合（電池切れ、紛失、故障）に
応急的に使用してください。
操作は手で直接操作してください。

⑴ 停止中に押すことにより自動モード（冷専は冷房モード）で運転します。
　風量「急」 温度設定「23℃」 ルーバ「水平」
⑵ 運転中にバックアップスイッチを押すことにより「停止」します。
⑶ ラクリーナパネル使用時、2 秒以上押し続けてから離した場合、
　ラクリーナパネル上昇となります。

冷房試運転操作

- 受信部バックアップスイッチを押しながら、リモコンにて冷房運転を
  送信してください。
- 試運転時に受信部バックアップスイッチを押すと試運転が解除されます。
- 試運転時、正常に動作しない場合は、室内・室外ユニットに貼付の
  結線銘鈑の点検表示を参照し、点検してください。

6 桁表示の見方

受信部は 6 桁表示（7 セグメント）を装備しています。

⑴ 表示は電源投入後 1 時間表示します。
⑵ エアコン停止中に、ワイヤレスリモコン「停止」信号送信により 3.5 秒間表示します。
⑶ 上記の表示は、運転開始により消灯します。
⑷ 異常履歴がない場合は、接続台数分のアドレスを表示します。
⑸ 異常履歴が残っている場合は、履歴の内容を表示します。
⑹ 異常履歴は、バックアップスイッチを押しながらワイヤレスリモコン「停止」信号送信により
　クリアされます。

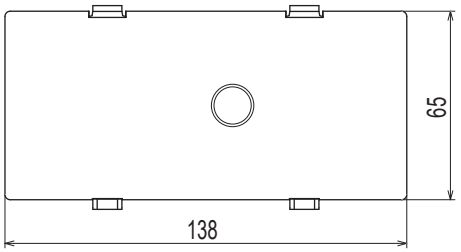
11.2 人感センサキット

(1) FDTW シリーズ（LB-TW-6W）

(a) 仕様

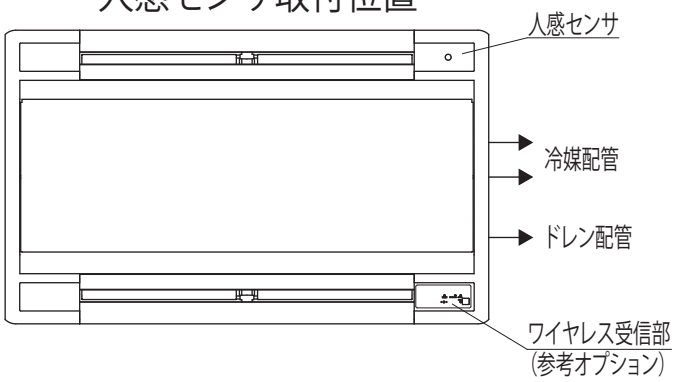
PJB001Z817

センサ部



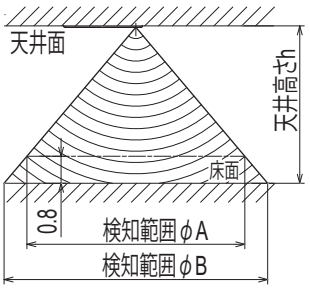
(単位:mm)

人感センサ取付位置



人感センサの据付

人感センサを下記場所に設置しないでください。
人感センサの故障や変形の原因になることがあります。
（1）直射日光の当たる場所
（2）発熱器具の近く
（3）湿気の多い所・水の掛る所
（4）取付面が発熱・結露する場所
（5）油の飛沫や蒸気が直接触れる場所
（6）取付面に凹凸がある所
（7）室内ユニットの吹出し空気が当たる場所
（8）蛍光灯（特にインバータタイプ）の近く
あるいは、直接日光がセンサ部に当たる場所
（9）他の赤外線通信機器の光線がセンサ部に当たる場所
（10）長時間振動が加わる状態
（11）静電気や強い電磁波のある場所
（12）塵埃の多い場所、レンズ面に汚れおよび損傷を与える恐れのある場所



天井高さh[m]	2.7	3.5	4.0
検知範囲φA[m]	4.5	6.4	7.6
検知範囲φB[m]	6.4	8.3	9.5

記事
1.据付高さは4m以内としてください。
センサ感度が鈍くなり、検知しにくくなります。

(b) 据付説明書

PJB012D310A

⚠ 警告

●室内ユニットのコントロールボックス内にあるプリント基板に配線を接続し、基板に負荷がかからないように、配線を確実に固定する。
接続や固定が不完全な場合は、異常発熱や火災の原因になります。

●電気配線作業の際は、必ず電源を OFF にすること。
電気配線作業にあたって電源が ON のままだと、感電・故障・誤作動の原因になります。

⚠ 注意

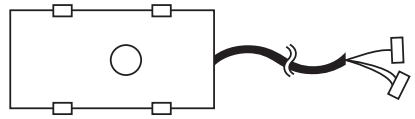
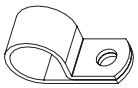
●人感センサキットを下記場所に設置しない。
人感センサキット故障や変形の原因、誤検知・検知不能・特性劣化を招く恐れがあります。

(1) 直射日光の当たる場所
(2) 発熱器具の近く
(3) 湿気の多い所・水のかかる所
(4) 取付面が発熱・結露する場所
(5) 油の飛沫や蒸気が直接触れる場所
(6) 取付面に凹凸がある所
(7) 室内ユニットの吹出空気が当たる場所
(8) 蛍光灯(特にインバータタイプ)の近くあるいは、直射日光が当たる場所
(9) 他の赤外線通信機器の光線が受光アダプタに当たる場所
(10) 長時間振動が加わる場所
(11) 静電気や強い電磁波のある場所
(12) 塵埃の多い場所､レンズ面に汚れおよび損傷を与える恐れのある場所

●人感センサをカバーを付けずに放置しない。
カバーを取外す場合は、梱包や袋を使用して人感センサを保護してください。水やほこりとの接触をさけてください。

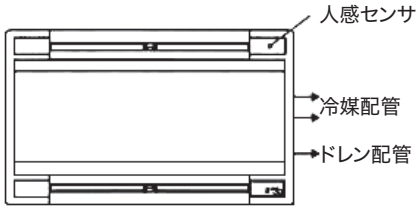
① 付属品

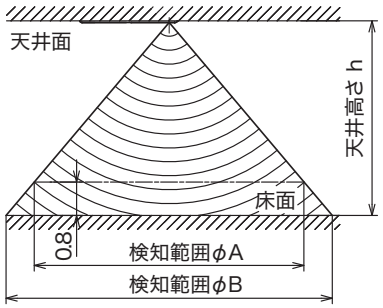
次の付属品を確かめてください。

受信部	グロメット	配線クランプ	ねじ	説明書
				

② 人感センサ据付場所、検知範囲

・据付高さは床面より4m以内としてください。
センサ感度が鈍くなり、検知しにくくなります。
・周囲との温度差のある物体が動くことにより、センサが検知します。
・小さな子供や動きの少ない乳児は検知できない場合があります。





高さ h〔m〕	2.7	3.5	4.0
検知範囲 φA〔m〕	4.5	6.4	7.6
検知範囲 φB〔m〕	6.4	8.3	9.5

③ 受信部の取付＜パネル吊り込み前の作業＞

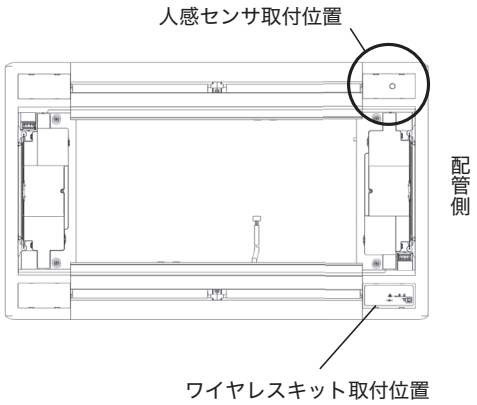
※**注意：** 下図に示すコーナーリッド部にのみ、人感センサを取付けることが可能です。
受信部の取付向きに注意してください。

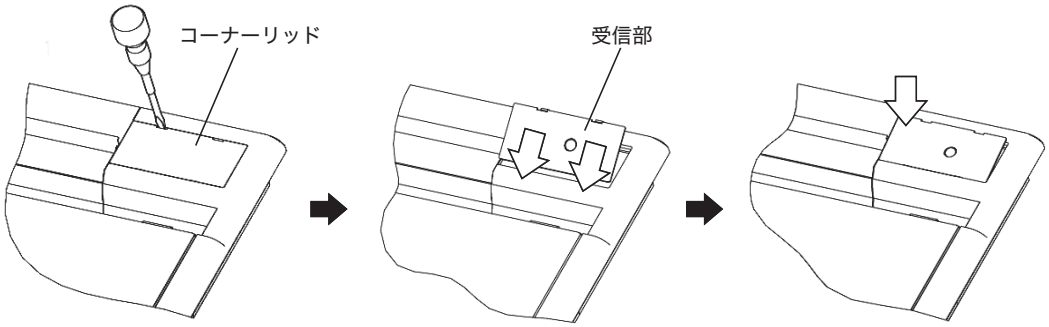
① 人感センサ取付位置のコーナーリッドを取外してください。
溝に工具を挿し、フレームを傷付けないように軽く外側に倒してください。

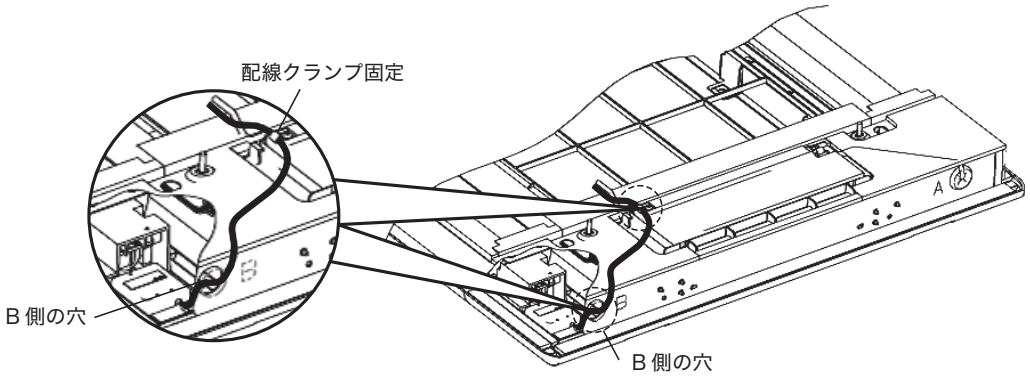
② パネル側面に貼付けられた断熱材のスリット（丸穴（φ 25）、B側）を切取り、付属のグロメットを取付けてください。

③ 受信部の配線を B 側の穴に通した後、受信部のツメ部（2 か所)をフレームに挿しながら外側を押込み取付けます。

④ パネル天井裏側図に示すように配線を通し、付属の配線クランプ・ねじにて固定します。





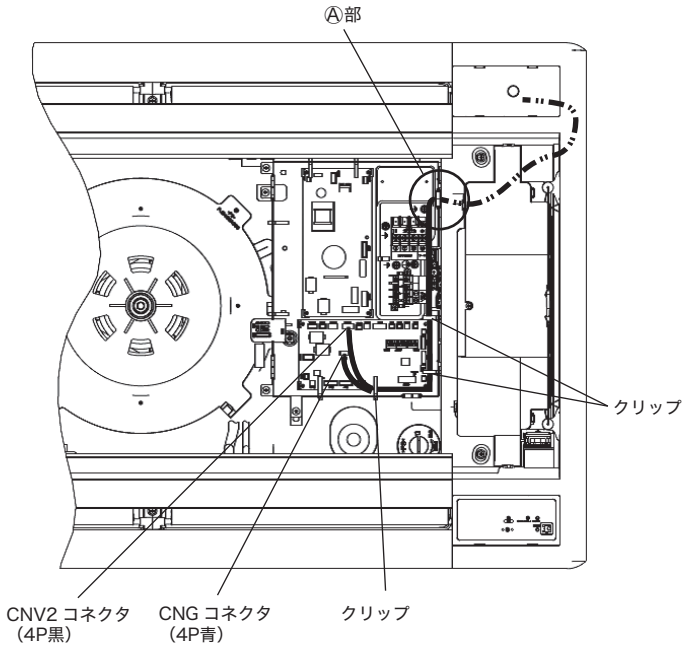


④ パネル付属の説明書を参照して、室内ユニットへパネルを装着してください。

※**注意：** パネル取付時、配線を挟込まないようにしてください。

⑤ コントロール ボックス内の配線接続

① サービスパネルとエアフィルタを取外してください。
② ユニット本体のコントロール ボックスの蓋を取外してください。(ねじ 2 か所)
③ Ⓐ部から配線をコントロール ボックス内へ入れてください。
④ 配線をクリップ (3 か所) で固定してください。
⑤ CNG コネクタ (4P 青) を制御基板に接続してください。
⑥ CNV2 コネクタ (4P 黒) を制御基板に接続してください。

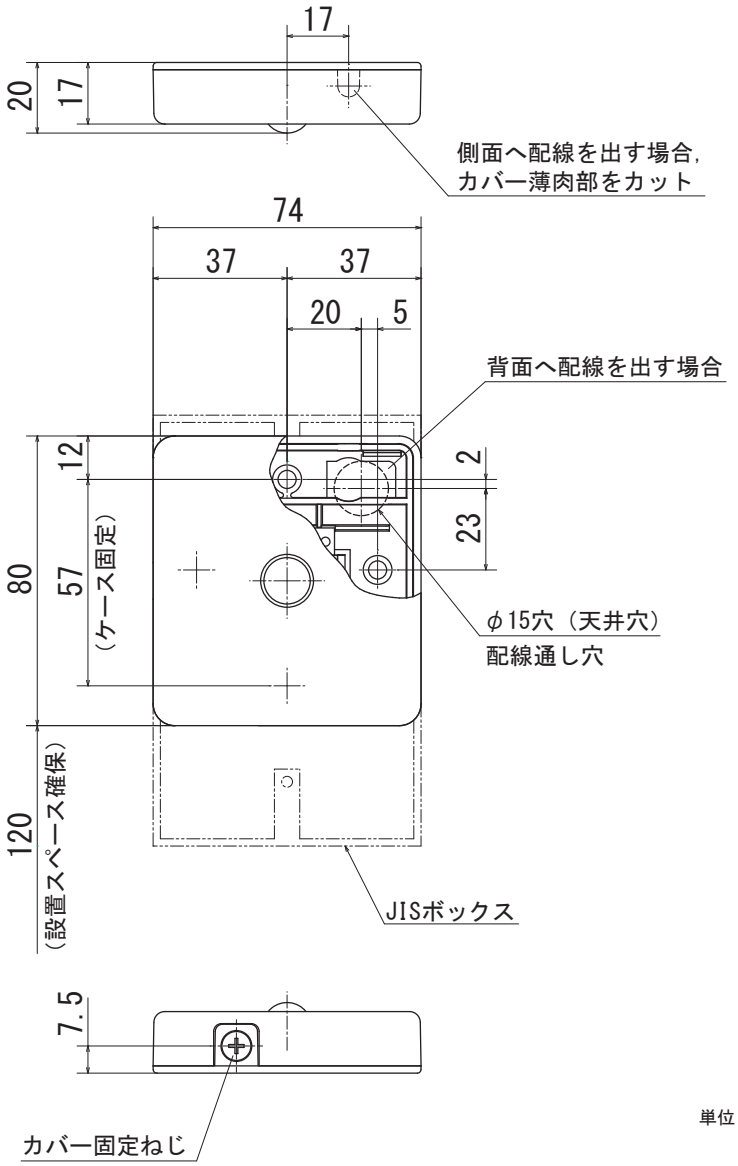


⑵ FDTSC シリーズ（LB-KIT2）

ⓐ 仕様

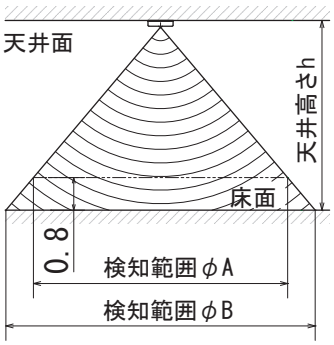
PJZ000Z340

外 形 図



単位：mm

検知範囲



記事

1．据付高さは４ｍ以内としてください。
　センサ感度が鈍くなり，検知しにくくなります。
2．接続配線（現地調達）は0.2mm^2×3心以上（赤，白，黒）の
　信号用配線を使用してください。配線長さは最大８ｍです。
3．本製品は壁面にも設置可能ですが、天井面設置を推奨します。
4．壁面設置の場合，検知範囲は正面で５ｍ，左右約１００°です。
5．詳細は据付説明書を参照してください。

天井高さh[m]	2.7	3.5	4.0
検知範囲φA[m]	4.5	6.4	7.6
検知範囲φB[m]	6.4	8.3	9.5

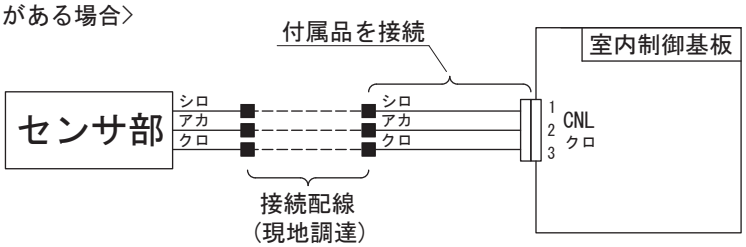
人感センサの据付

人感センサを下記場所に設置しないでください。
人感センサの故障や変形の原因になることがあります。

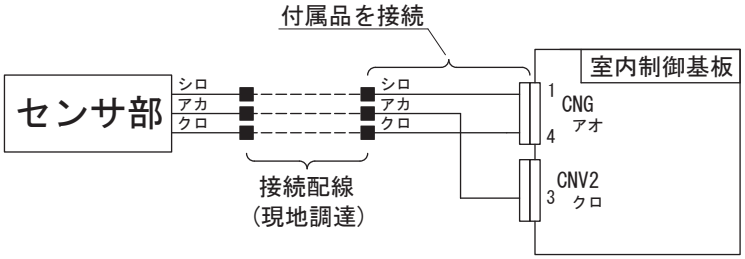
（１）直射日光の当たる場所
（２）発熱器具の近く
（３）湿気の多い所・水の掛る所
（４）取付面が発熱・結露する場所
（５）油の飛沫や蒸気が直接触れる場所
（６）取付面に凹凸がある所
（７）室内ユニットの吹出し空気が当たる場所
（８）蛍光灯（特にインバータタイプ）の近く
　　あるいは，直接日光がセンサ部に当たる場所
（９）他の赤外線通信機器の光線がセンサ部に当たる場所
（１０）長時間振動が加わる状態
（１１）静電気や強い電磁波のある場所
（１２）塵埃の多い場所，レンズ面に汚れおよび損傷を与える恐れのある場所
（１３）電源配線などの強電圧線と並走させないこと

配線接続

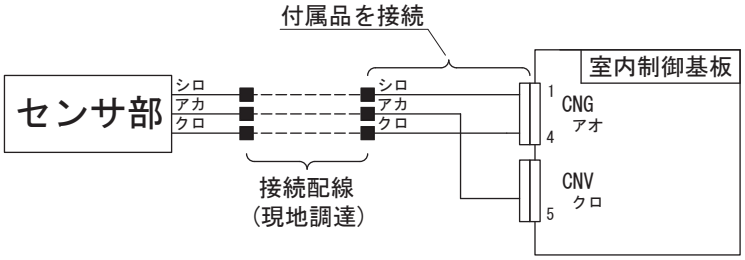
〈CNLコネクタがある場合〉



〈CNLコネクタがない場合〉
（DCモータ機の場合）［記事5参照］



〈CNLコネクタがない場合〉
（ACモータ機の場合）［記事5参照］



(b) 据付説明書

PJZ012D133

⚠ 警告

●室内ユニットのコントロールボックス内にあるプリント基板に配線を接続し、基板に負荷がかからないように、配線を確実に固定する。
接続や固定が不完全な場合は、異常発熱や火災の原因になります。

●電気配線作業の際は、必ず電源を OFF にすること。
電気配線作業にあたって電源が ON のままだと、感電・故障・誤作動の原因になります。

⚠ 注意

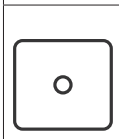
●人感センサキットを下記場所に設置しない。
人感センサキット故障や変形の原因、誤検知・検知不能・特性劣化を招く恐れがあります。

(1) 直射日光の当たる場所
(2) 発熱器具の近く
(3) 湿気の多い所・水のかかる所
(4) 取付面が発熱・結露する場所
(5) 油の飛沫や蒸気が直接触れる場所
(6) 取付面に凹凸がある所
(7) 室内ユニットの吹出空気が当たる場所
(8) 蛍光灯(特にインバータタイプ)の近くあるいは、直射日光が当たる場所
(9) 他の赤外線通信機器の光線が受光アダプタに当たる場所
(10) 長時間振動が加わる場所
(11) 静電気や強い電磁波のある場所
(12) 塵埃の多い場所、レンズ面に汚れおよび損傷を与える恐れのある場所
(13) 室内ユニットの電源線などの強電圧線と並走する場所

●人感センサをカバーを付けずに放置しない。
カバーを取外す場合は、梱包や袋を使用して人感センサを保護してください。水やほこりとの接触をさけてください。

① 取付前の準備

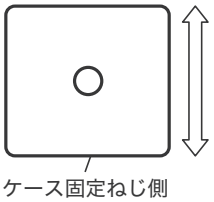
次の付属品を確かめてください。

受信部	配線〈1〉	配線〈2〉	配線〈3〉	木ねじ 2 本	説明書
	室内ユニット基板に CNL コネクタがある場合 (FDT・FDK・FDTC) 	室内ユニット基板に CNV2 コネクタがある場合 	室内ユニット基板に CNV コネクタがある場合 (FDTSC・FDFL・FDFU) 		

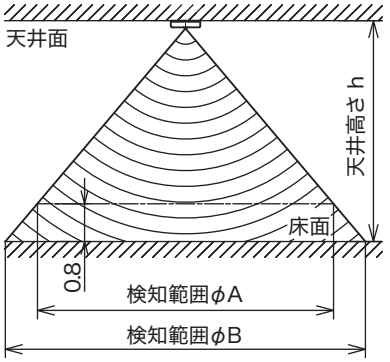
※受信部と室内ユニット間の中継配線は現地手配してください。(0.2mm^{2}以上 3心 (赤、白、黒) 通信用ケーブル 最大8m)

② 人感センサ検知範囲・設置場所

・据付高さは床面より4m以内としてください
センサ感度が鈍くなり、検知しにくくなります。
・周囲との温度差のある物体が動くことにより、センサが検知します。
・⇦⇨印方向の動きをより検知します。
・小さな子供や動きの少ない乳児は検知できない場合があります。
・本製品は壁面にも設置可能ですが、天井面設置を推奨します。
・壁面設置の場合、検知範囲は正面で約 5m、左右約 100° です。



高さ h (m)	2.7	3.5	4.0
検知範囲 φA (m)	4.5	6.4	7.6
検知範囲 φB (m)	6.4	8.3	9.5



③ 受信部の取付

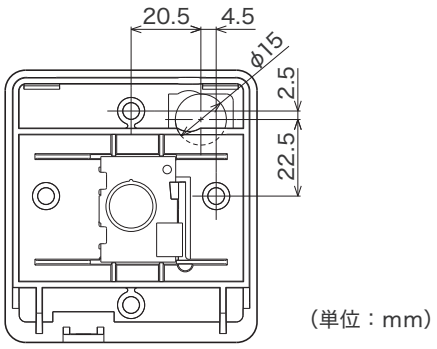
天井面あるいは壁面（以後あわせて天井面と呼ぶこととします）への取付方法として、下記 3 種類の取付が可能です。設置場所に応じて選んでください。

〈取付方法〉

(A) 天井面への木ねじによる直接取付、配線を天井面内に収める場合

(B) 天井面への木ねじによる直接取付、配線を部屋内にはわせる場合

(C) JIS ボックス（現地手配）による取付の場合

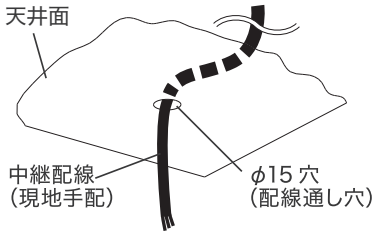


（単位：mm）

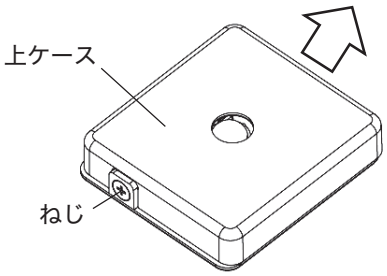
中継配線の取出穴とねじ取付穴との位置関係

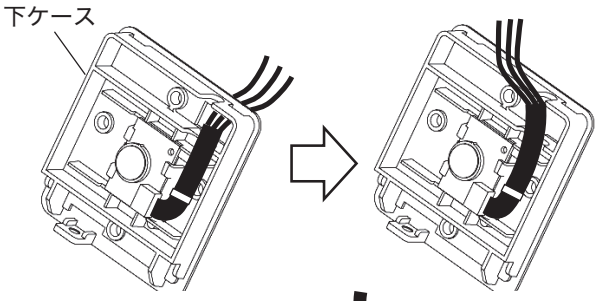
(A) の場合

▶天井面に、人感センサキットを直接木ねじで取付けても強度的に問題ない場合はこの方法で取付けてください。

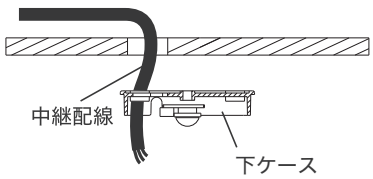


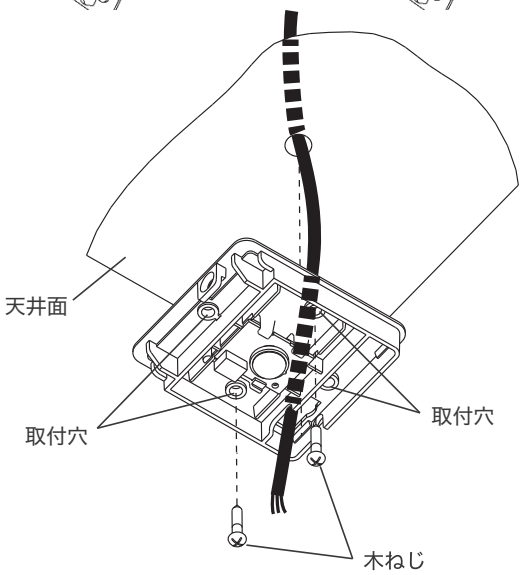
① 現地手配の中継配線をあらかじめ設置しておきます。
② 受信部側面のねじを外し、上ケースを矢印の方向へスライドさせ取外します。
③ 受信部側の配線を下図のように手前へ取出してください。
④ 中継配線を下ケース穴に通してください。





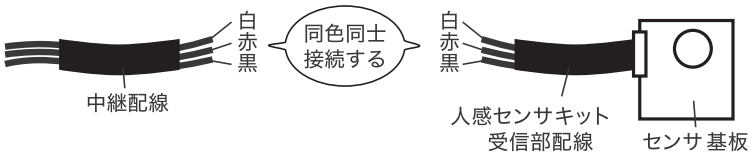
⑤ 下ケースを天井面に固定する際は、右図の取付穴（4 か所）のうち、対辺 2 か所を付属の木ねじにより締めつけてください。



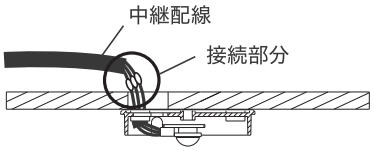


③ 受信部の取付の続き

⑥ 圧着端子等を用いて、現地手配の中継配線と受信部の配線を同色同士で接続してください。



⑦ 配線の接続部分を天井面の内側へ入れてください。
⑧ 下ケースの配線貫通穴をパテでシールしてください。
⑨ 配線をかみこまないよう注意しながら上ケースを下ケースにはめ込み、ねじを締めてください。

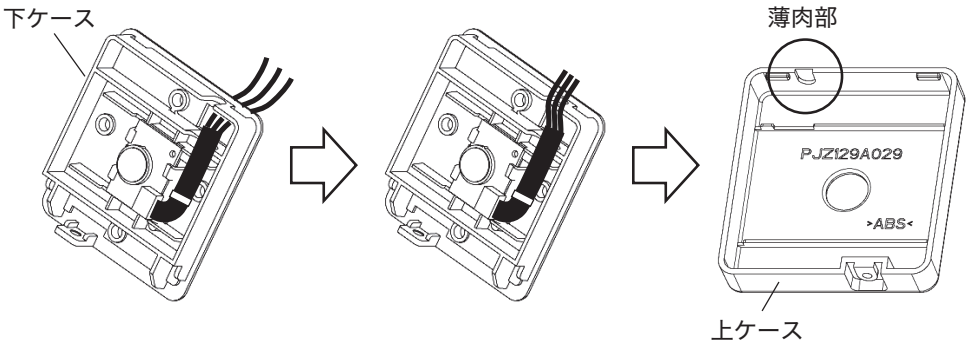


注意：トラッキング防止のため、接続部分にほこり等がつもらないよう施工してください。

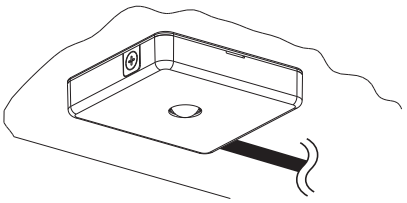
(B) の場合

►天井面に、人感センサ キットを直接木ねじで取 付けても強度的に問題ない場合はこの方法で取付けてください。

① 受信部側面のねじを外し、上ケースを矢印の方向へスライドさせ取外します。(A ②と同じ)
② 受信部の配線を側面方向へ取出します。
上ケースの薄肉部を削り取って使用してください。



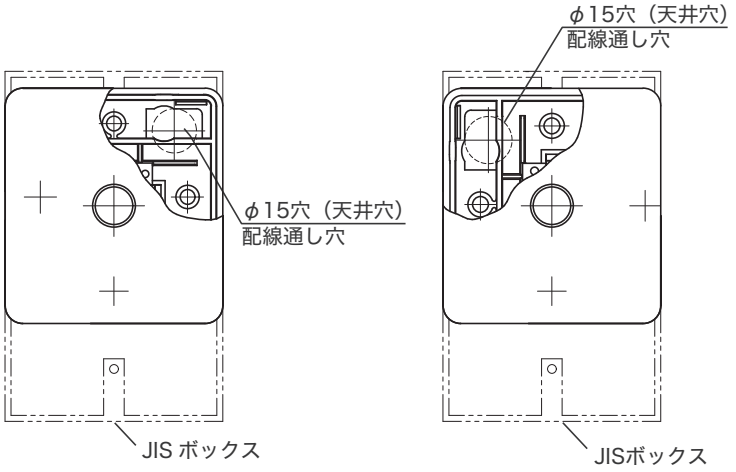
③ 下ケースを天井面に固定する際は、取付穴(4か所)のうち、対辺2か所を付属の木ねじによりしめつけてください。((A) ⑤と同じ)
④ 圧着端子等を用いて現地手配の中継配線と受信部の配線を同色同士で接続してください。
((A) ⑥と同じ)
⑤ 配線をかみこまないように注意しながら上ケースを下ケースにはめ込み、ねじをしめてください。((A) ⑨と同じ)
⑥ ②で切取った部分をパテでシールしてください。



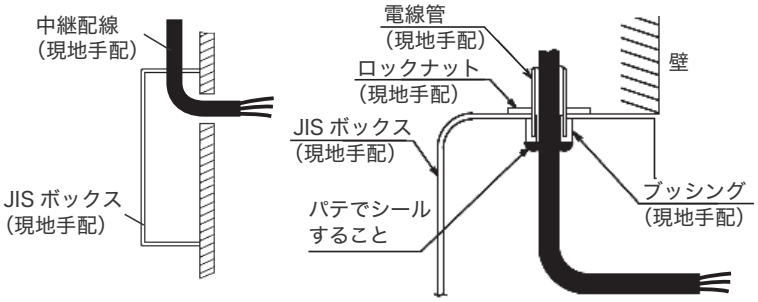
③ 受信部の取付の続き

（C）の場合

① JIS ボックスと現地手配の中継配線をあらかじめ設置しておきます。中継配線引込口はパテでシールしてください。（右図参照）



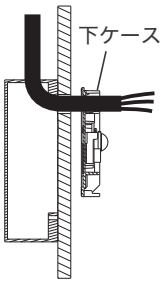
JIS ボックスと配線通し穴との位置関係

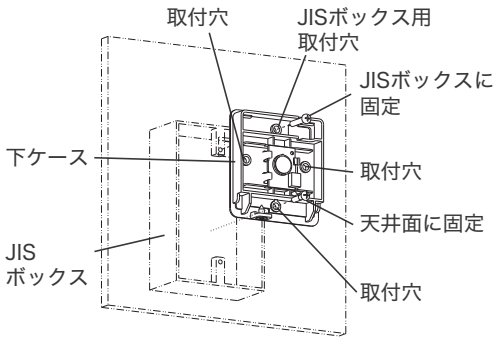


② 受信部側面のねじを外し、上ケースを矢印の方向へスライドさせ取外します。（(A)②と同じ）

③ 受信部側の配線を手前へ取出してください。（(A) ③と同じ）

④ 中継配線を JIS ボックス側から下ケース穴に通してください。



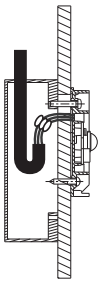


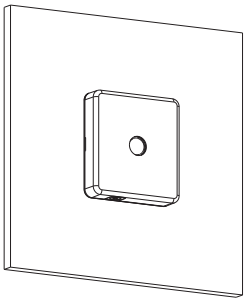
⑤ 右図の取付穴（1 か所）を用いて、下ケースを JIS ボックスに固定してください。

⑥ 現地手配の中継配線と受信部側の配線を同色同士で接続してください。（(A) ⑥と同じ）

⑦ 配線の接続部分を④項で配線を通した下ケースの穴より、下ケースと JIS ボックスとの間へ入れてください。

⑧ 配線をかみこまないように注意しながら 上ケースを下ケースにはめ込み、ねじを締めてください。（(A) ⑨と同じ）





④ 本体コントロールへの配線接続

注意：人感センサ付属配線は、室内ユニットの機種ごとに使用する配線が異なります。配線取付前に、確認してください。

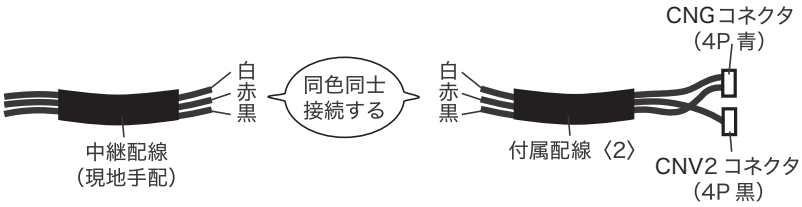
〈室内ユニット基板に CNL コネクタがある場合 (FDT・FDK・FDTU)〉

① 現地手配の中継配線と、人感センサ付属配線〈1〉を同色同士で接続してください。
② ユニット本体のコントロールボックスの蓋を取外してください。
③ CNL コネクタ (3P 黒) を基板へ接続してください。



〈室内ユニット基板に CNV2 コネクタがある場合〉

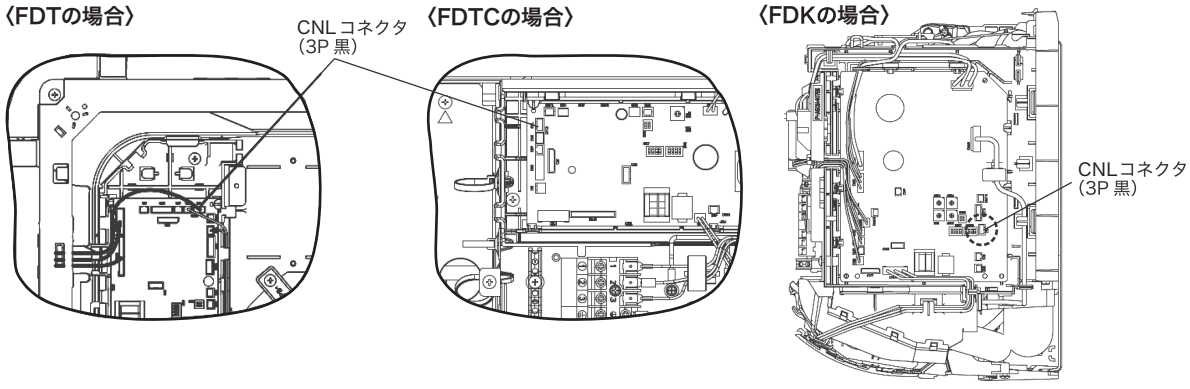
① 現地手配の中継配線と、人感センサ付属配線〈2〉を同色同士で接続してください。
② ユニット本体のコントロールボックスの蓋を取外してください。
③ CNG コネクタ (4P 青) を制御基板へ接続してください。
④ CNV2 コネクタ (4P 黒) を制御基板へ接続してください。



〈室内ユニット基板に CNV コネクタがある場合 (FDTSC・FDFL・FDFU)〉

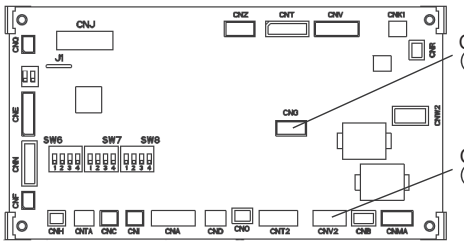
① 現地手配の中継配線と、人感センサ付属配線〈2〉を同色同士で接続してください。
② ユニット本体のコントロールボックスの蓋を取外してください。
③ CNG コネクタ (4P 青) を制御基板へ接続してください。
④ CNV コネクタ (5P 黒) を制御基板へ接続してください。





④ 本体コントロールへの配線接続の続き

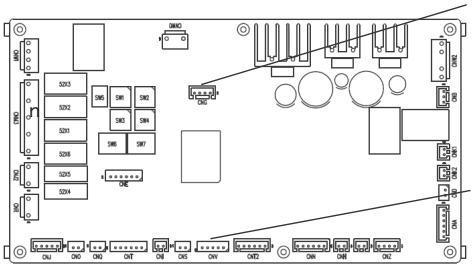
〈室内基板に CNV2 コネクタがある場合〉



CNGコネクタ
(4P 青)

CNV2 コネクタ
(4P 黒)

〈FDTSC・FDFL・FDFUの場合〉



CNGコネクタ
(4P 青)

CNVコネクタ
(5P 黒)

(3) **共通事項（取扱方法）**

PJZ012D133

ご使用上のご注意

⚠ 警告

●子供・病気の方など 補助を必要とする人が使う場合、周囲の人が十分注意する。
異常や人感センサ制御などにより空調機が停止した場合、体調不良や事故の原因になることがあります。

お知らせ

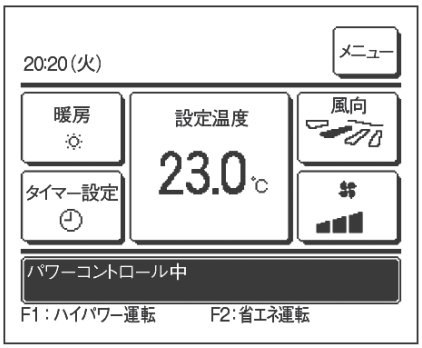
・検知エリアの隅では人を検知しにくくなります。
・周囲と温度差のある物体が動く場所に据付けた場合「人がいる」と検知する場合があります。
・設定温度の補正に伴い、肌寒く感じる場合があります。

本品は、赤外線センサを利用して検知範囲内の人の活動量を検知し、エアコンの制御を補助するものです。
リモコンからご希望の制御を設定して頂き、ご使用ください。

室内ユニット制御	検知状況	制御内容	ecoタッチリモコン表示
①パワーコントロール	活動量が多い時	快適性を重視して室温設定を下げる。	パワーコントロール中
	活動量が少ない時	省エネ重視して室温設定を上げる。	パワーコントロール中
②オートオフ	検知無し 1 時間経過	運転停止＋待機状態	オートオフ中
	検知無し 1 ～ 50 時間経過	運転停止	ー
①＋②	上記の組合せ	上記のいずれか	上記のいずれか
全て無効（出荷時）	ー	標準制御	ー

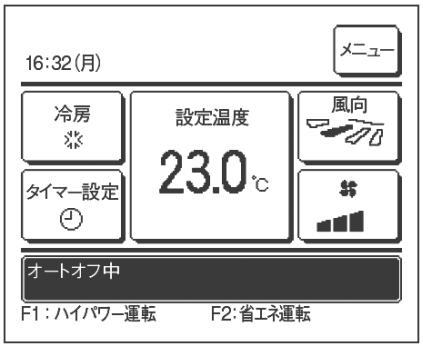
センサ未接続・センサ不良の場合は活動量検知無し（少ない）状況の制御になります。

設定方法は、次項を参照してください。



・パワーコントロール有効の場合
人感センサにより人の活動量を検知し、設定温度を補正します。
（リモコンの設定温度は補正された温度で表示されます。）
冷房時 33 ℃、暖房時 15 ℃まで設定温度を段階的に補正します。
設定温度を補正中はメッセージ表示部に「パワーコントロール中」を表示します。

・冷房暖房設定温度（RC-DX3C 以降）
上記設定温度を 1 ℃きざみで設定することができます。
冷房：25 ℃～ 35 ℃（初期設定は 33 ℃）
暖房：10 ℃～ 20 ℃（初期設定は 15 ℃）



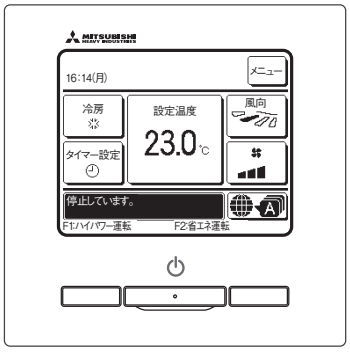
・オートオフ有効の場合
人が不在となって、1 時間経過すると『運転待機』状態となります。運転待機時間が 1 ～ 50 時間経過すると『完全停止』します。
『運転待機』…エアコンは停止しますが、人が戻ると運転を再開します。
メッセージ表示部に「オートオフ中」を表示します。
『完全停止』…エアコンを停止します。人が戻っても運転を再開しません。
メッセージ表示部の「オートオフ中」表示が消え、運転ランプが消灯します。

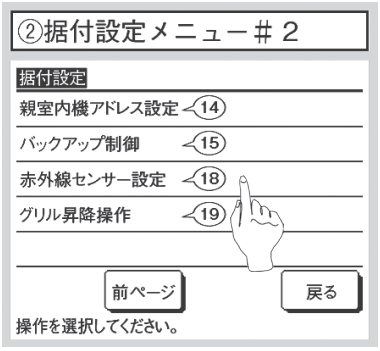
・運転待機時間 (RC-DX3C 以降)
冷房時、暖房時の運転待機時間（初期設定は 12 時間）は
1 ～ 50 時間 (1 時間きざみ）で設定することができます。

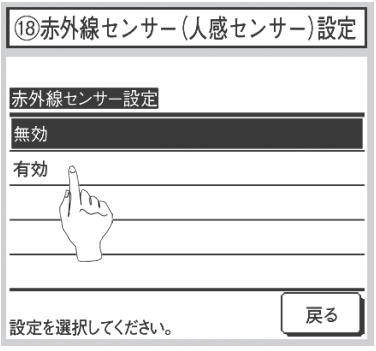
制御設定 <ecoタッチリモコンから設定する場合>

●ecoタッチリモコン付属の据付説明書を参照して、赤外線センサ（人感センサ）を有効に設定する。

TOP 画面 **メニュー** ⇒ **サービス設定** ⇒ **据付設定** ⇒ **サービスパスワード**







●ecoタッチリモコン付属の取扱説明書を参照して、制御モードを設定する。

■赤外線センサ（人感センサ）制御

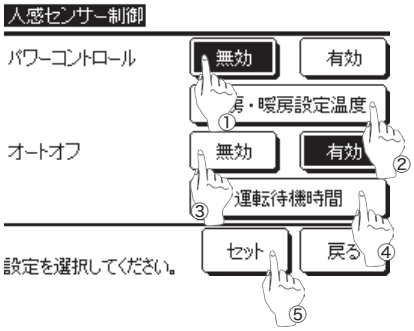
人感センサにより人の有無・活動量をセンサで判定し、各制御を行います。

■リモコンが子リモコン設定されている場合、赤外線センサ（人感センサ）制御の設定はできません。

TOP 画面 **メニュー** ⇒ **省エネ設定** ⇒ **管理者パスワード** ⇒ **赤外線センサー制御**

または **人感センサー制御** を選択してください。

赤外線センサー制御画面と現在の設定内容が表示されます。



① パワーコントロールの有効 / 無効を設定します。
② 冷房・暖房設定温度タッチしてください。▲▼ボタンで設定温度を設定し、セットボタンをタッチしてください。設定温度が仮決定します。
③ オートオフの有効 / 無効を設定します。
④ 運転待機時間をタッチしてください。▲▼ボタンで待機時間を設定し、セットボタンをタッチしてください。
運転待機時間が仮決定します。
⑤ 各項目設定後、セットボタンをタッチしてください。人感センサ制御が決定し、省エネ設定メニュー画面に戻ります。

※②、④は RC-DX3C 以降のみ設定できます。

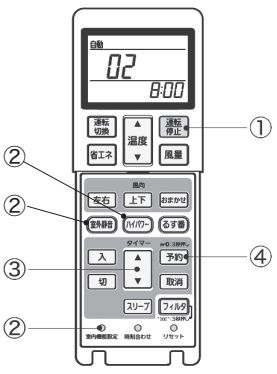
※⑤を実施しないと本制御は実行されません。

制御設定 <ワイヤレスリモコンから設定する場合>

●ワイヤレスリモコン付属の据付説明書を参照して、**室内機能設定** の人感センサを有効に設定する。

室内機能設定

1. 室内機能設定のしかた
① 運転／停止を押し、停止状態にする。
② 室内機能設定スイッチを押しながら、2 項に示すボタンを押す。
③ 選択ボタン▲、▼で設定番号を選択する。
④ 予約ボタンを押す。
リモコン信号受信部より、ピッピッと 2 回ブザーが鳴り、LED は 2 秒毎に 4 回点滅します。



2. 設定内容

ボタン	番号表示部	機能設定
室外静音	00	人感センサ設定：無効
	01	人感センサ設定：有効
ハイパワー	00	人感センサ制御：無効
	01	人感センサ制御：パワーコントロールのみ
	02	人感センサ制御：オートオフのみ
	03	人感センサ制御：パワーコントロール＋オートオフ

11.3 コンパクトリモコン（RCH-D3）

PJZ012D068A

室内ユニットの据付説明書と共にお読みください。

⚠警告

- **配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。**
  接続や固定が不完全な場合は、発熱、火災等の原因になります。
- **元電源を切った後に電気工事をする。**
  感電、故障や動作不良の原因になります。

⚠注意

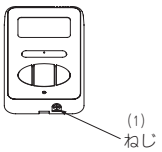
- **下記の様な所にリモコンを設置しない。**
  リモコンの故障や変形の原因になることがあります。
  (1) 直射日光の当たる場所　(4) 取付面が発熱・結露する場所
  (2) 発熱器具の近く　(5) 油の飛沫や蒸気が直接触れる場所
  (3) 湿気の多い所・水の掛る所　(6) 取付面に凹凸がある所
- **リモコンの上ケースを取外したまま放置しない。**
  上ケースを取外した場合は、内蔵の基板にゴミや水分等が付着しないように、梱包箱或いは梱包袋に入れて保護してください。

付属品	リモコン本体、 木ねじ（φ3.5 × 16） 2 本
客先手配品	リモコンコード （2 心）(「2. リモコンコードを延長する場合の注意」を参照ください。) ［ 埋込取付の場合 ］ JIS ボックス、M4 ねじ（2 本） ［ 露出取付の場合 ］ コードクランプ （適時）

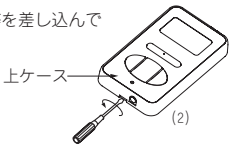
1. 取付要領

埋込取付の場合

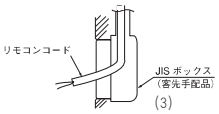
(1) リモコンの下面のねじを必ず外してください。



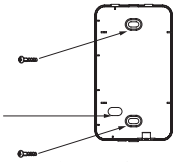
(2) リモコンの上ケースを外してください。
リモコン下面の凹部にマイナスドライバー等を差し込んで軽くねじり、ケースを外します。

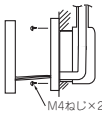


(3) JIS ボックスとリモコンコードをあらかじめ埋込んでおきます。
［ 使用可能 JIS ボックス ］
JIS C 8336　1 個用スイッチボックス



(4) M4 ねじ 2 本（推奨長さ 12～16mm）を用意して、下ケースを JIS ボックスに取付けてください。
ねじ穴の周囲の壁の高さより、ねじ頭の大きなねじを、使用しないでください。



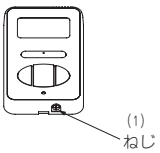


(5) リモコンコードを端子台に接続してください。
リモコンの端子（X，Y）と室内ユニットの端子（X，Y）とを接続してください。
（X，Y の極性はありません。）

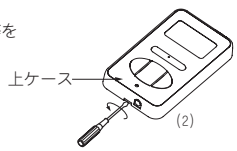
(6) リモコンコードが噛みこまない様に、上ケースを元通り取付け、外したねじで固定してください。

露出取付の場合

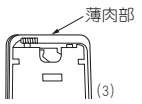
(1) リモコンの下面のねじを必ず外してください。



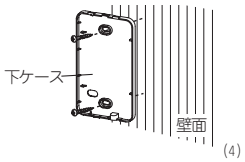
(2) リモコンの上ケースを外してください。
リモコン下面の凹部にマイナスドライバー等を差し込んで軽くねじり、ケースを外します。



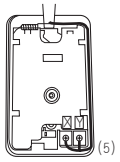
(3) リモコンコードの取出方向は、上部中央から可能です。
リモコン上ケースの上方の薄肉部をニッパ・ナイフ等で切り取った後、ヤスリ等でバリを取ってください。



(4) リモコンの下ケースを付属の木ねじ2本で平らな壁に取付けます。



(5) リモコンコードを端子台に接続してください。
リモコンの端子（X，Y）と室内ユニットの端子（X，Y）とを接続してください。(X，Y の極性はありません。)
配線経路は右図の通りとなります。



リモコンケース内を通る配線は、0.3mm^2（推奨）～最大 0.5mm^2 以下としてください。
また、シース部を皮むきしてください。
各配線の皮むき長さは、下記の通りです。

X 配線：160mm
Y 配線：150mm



(6) リモコンコードが噛みこまない様に、上ケースを元通り取付け、外したねじで固定してください。

(7) 露出取付の場合は、リモコンコードがたるまないように、コードクランプ等で壁面に固定します。

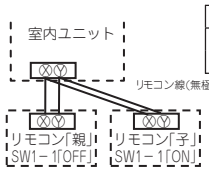
2. リモコンコードを延長する場合の注意　最大総延長 600m

(1) リモコンコードは 0.3mm^2×2 心です。
延長距離が 100m を超える場合は、下記サイズに変更してください。
ただし、リモコンケース内を通る配線は0.3mm^2（推奨）～最大0.5mm^{2}以下とし、リモコン外部の近傍で配線接続により、サイズ変更してください。配線接続する際は、水分等が浸入しない様な処置を行ってください。また、配線の接続は、接触不良のない様確実に行ってください。
100～200m 以内 ……0.5mm^2 × 2 心
300m 以内 ……0.75mm^2 × 2 心
400m 以内 ……1.25mm^2 × 2 心
600m 以内 ……2.0mm^2 × 2 心

3. 複数リモコン使用時の親子設定

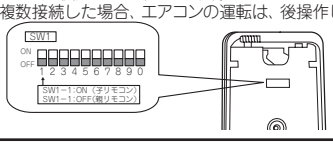
(1) 室内ユニット 1 台（または1グループ）に対して最大2個までのリモコンを接続できます。

スイッチ	設定	機能内容
SW1−1	ON	子リモコン
	OFF	親リモコン



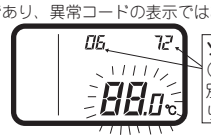
(2) 子リモコンの切換スイッチ SW1-1 を「子」(ON) に設定してください。工場出荷時は「親」(OFF)設定です。

(注)・リモコンセンサ有効設定は親リモコンのみ可能です。
・親リモコンを室温検知させる位置に取付けてください
・リモコンを複数接続した場合、エアコンの運転は、後操作したリモコンに従います。



4. 電源投入時の表示

(1) 電源投入時、最初の２秒間全点灯した後、下記表示となります。
リモコン LCD 上部に表示される番号は、ソフトウェアの管理番号を表示させて
いるものであり、異常コードの表示ではありません。



ソフトウェア管理番号
（左記記号は一例です。
別の番号が出る場合もあ
ります。）

(2) その後、リモコンと室内ユニットの通信が確定するまで、リモコンには、「88.0℃」
が点滅します。

(3) 室内ユニット１台（または１グループ）に、１個のリモコンを接続する場合は、
必ず親リモコン（出荷時設定）としてください。
子リモコンにすると通信ができません。

(4) リモコンと室内ユニットの通信ができない
状態が30 分程度続くと、「 E」表示がでます。
室内ユニットおよび室外ユニットの配線、および
リモコンの親子設定等をご確認願います。



5. 吸込温度の確認方法

リモコン操作により、吸込温度の確認ができます。

(1) **エアコンNo ボタンを５秒以上押す。**
温度設定表示部に、「88」が点滅します。
（データを読み込む間約２秒間点滅）
↓
その後、吸込温度を表示します。
（例）吸込温度：「27℃」（点灯）
（注）吸込温度は、通常の場合室内ユニットの吸込温度を表示しますが、リモコ
ンセンサ有効の場合は、リモコンセンサ検知温度が表示されます。



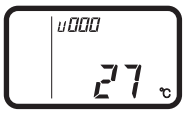
(2) **運転／停止 ボタンを押す。**
終了します。

【リモコンセンサが無効で､一つのリモコンに複数台の室内ユニットが接続されている場合】

(1) **エアコンNo ボタンを５秒間押す。**
室内ユニットNo表示部：「U 000」（点滅）
（接続されている室内ユニットの､最も若い番号を表示）

(2) **TEMP △ または TEMP▽ ボタンを押す。**
室内ユニットの番号を選びます。

(3) **MODE ボタンを押す。**
室内ユニットNoを確定します。



（例）室内ユニットNo表示部：「U 000」
温度設定表示部に､「88」が点滅します｡（データを読み込む間約2～10秒間点滅）
その後、吸込温度を表示します。 **エアコンNo** ボタンを押すと、室内ユニット選択表示
（例「U 000」）に戻ります。

(4) **運転／停止 ボタンを押す。**
終了します。

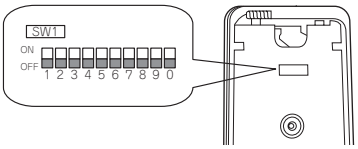
6. 機能設定

リモコンと室内ユニットの各機能は、リモコンと室内ユニットを接続した際に、標準的な使い方である初期設定に自動的に設定されます。標準的な使い方をする場合は、設定の変更はいりません。
ただし、「○」印の初期設定を変更したい場合は、その機能番号の項目のみ、設定を変更してください。**設定内容は記録して保管してください。**

(1) 基板上の切換えスイッチによる機能設定項目

スイッチNo	設定	設定内容	初期設定
SW1－1	ON	子リモコン	
	OFF	親リモコン	○
SW1－2	ON	リモコンセンサ有効	
	OFF	リモコンセンサ無効	○
SW1－3	ON	「運転切換」ボタン禁止	
	OFF	「運転切換」ボタン有効	○
SW1－4	ON	「運転／停止」ボタン禁止	
	OFF	「運転／停止」ボタン有効	○

スイッチNo	設定	設定内容	初期設定
SW1－5	ON	「温度設定」ボタン禁止	
	OFF	「温度設定」ボタン有効	○
SW1－6	ON	「風量調整」ボタン禁止	※注１
	OFF	「風量調整」ボタン有効	※注１
SW1－7	ON	停電補償有効	
	OFF	停電補償無効	○
SW1－8, 9, 0	ON OFF	未使用	



・子リモコンは SW1-1 以外は設定無効です。
・風量1速の室内ユニットは「風量調整」ボタン有効にはできません。

(2) ボタン操作による機能設定項目

分類	機能番号	機能	設定番号	設定	初期設定	備考
リモコン機能	01	室内ファン速度	01	ファン速度３速	※注１	ファン風量が、急－強－弱の３速となります。
			02	ファン速度２速（Hi-Lo）	※注１	ファン風量が、急－弱の２速となります。
			03	ファン速度２速（Hi-Me）		ファン風量が、急－強の２速となります。
			04	ファン１速	※注１	ファン風量が１速のみで固定されます。
	03	冷房時 リモコンセンサ	01	リモコンセンサ補正なし	○	
			02	リモコンセンサ＋３．０℃		冷房時、リモコンセンサ有効の場合、＋３．０℃温度補正する。
			03	リモコンセンサ＋２．０℃		冷房時、リモコンセンサ有効の場合、＋２．０℃温度補正する。
			04	リモコンセンサ＋１．０℃		冷房時、リモコンセンサ有効の場合、＋１．０℃温度補正する。
			05	リモコンセンサ－１．０℃		冷房時、リモコンセンサ有効の場合、－１．０℃温度補正する。
			06	リモコンセンサ－２．０℃		冷房時、リモコンセンサ有効の場合、－２．０℃温度補正する。
			07	リモコンセンサ－３．０℃		冷房時、リモコンセンサ有効の場合、－３．０℃温度補正する。
	04	暖房時 リモコンセンサ	01	リモコンセンサ補正なし	○	
			02	リモコンセンサ＋３．０℃		暖房時、リモコンセンサ有効の場合、＋３．０℃温度補正する。
			03	リモコンセンサ＋２．０℃		暖房時、リモコンセンサ有効の場合、＋２．０℃温度補正する。
			04	リモコンセンサ＋１．０℃		暖房時、リモコンセンサ有効の場合、＋１．０℃温度補正する。
			05	リモコンセンサ－１．０℃		暖房時、リモコンセンサ有効の場合、－１．０℃温度補正する。
			06	リモコンセンサ－２．０℃		暖房時、リモコンセンサ有効の場合、－２．０℃温度補正する。
			07	リモコンセンサ－３．０℃		暖房時、リモコンセンサ有効の場合、－３．０℃温度補正する。
	05	換気設定	01	換気接続なし	○	
			02	エアコンと連動		シングル機は室内基板 CnT、マルチ機は室内基板 CND に換気機器を接続すると、室内ユニットの運転に連動し、換気機器の運転／停止を行います。
	06	「自動」運転設定	01	「自動」運転有効	※注１	
			02	「自動」運転無効	※注１	「自動」運転不可
室内機能	07	運転許可 / 禁止	01	無効	○	
			02	有効		運転許可／禁止制御を有効にします。
	08	外部入力切替	01	レベル入力	○	
			02	パルス入力		
	09	高天井設定	01	標準	注２	
			02	高天井１	注２	
			03	高天井２	注２	
	10	冷房時 ファン残留運転	01	残留運転なし	○	冷房停止後、ファン残留運転なし。
			02	０．５時間		冷房停止後、０．５時間ファン残留運転する。
			03	１時間		冷房停止後、１時間ファン残留運転する。
			04	６時間		冷房停止後、６時間ファン残留運転する。
	11	暖房時 ファン残留運転	01	残留運転なし	○	暖房停止、または暖房サーモ OFF 後、ファン残留運転なし。
			02	０．５時間		暖房停止、または暖房サーモ OFF 後、０．５時間ファン残留運転する。
			03	２時間		暖房停止、または暖房サーモ OFF 後、２時間ファン残留運転する。
			04	６時間		暖房停止、または暖房サーモ OFF 後、６時間ファン残留運転する。
	12	暖房室温補正	01	補正なし	○	
			02	室温補正＋３．０℃		暖房時の設定温度を＋３．０℃補正します。
			03	室温補正＋２．０℃		暖房時の設定温度を＋２．０℃補正します。
			04	室温補正＋１．０℃		暖房時の設定温度を＋１．０℃補正します。
	13	暖房ファン制御	01	弱風	○	暖房サーモ OFF 時、弱風で運転します。
			02	設定風量		暖房サーモ OFF 時、設定風量で運転します。電気集塵機を取付けた場合は「設定風量」に設定してください。
			03	間欠運転		暖房サーモ OFF 時、間欠運転します。
			04	停止		暖房サーモ OFF 時、ファンは停止します。 リモコンセンサ有効時は、自動的に「停止」に設定されます。本体サーモの時は、設定しないでください。
	14	吸込温度補正	01	補正なし	○	
			02	吸込温度補正＋２．０℃		室内ユニットの吸込温度を＋２．０℃補正します。
			03	吸込温度補正＋１．５℃		室内ユニットの吸込温度を＋１．５℃補正します。
			04	吸込温度補正＋１．０℃		室内ユニットの吸込温度を＋１．０℃補正します。
			05	吸込温度補正－１．０℃		室内ユニットの吸込温度を－１．０℃補正します。
			06	吸込温度補正－１．５℃		室内ユニットの吸込温度を－１．５℃補正します。
			07	吸込温度補正－２．０℃		室内ユニットの吸込温度を－２．０℃補正します。

注１：「※」印の初期設定は、接続される室内ユニットおよび室外ユニットにより異なり、下記の通り自動判別されます。

スイッチNo 機能番号	機能	設定	機種
SW1－6	風量調整	「風量調整」ボタン禁止	室内ファン風量切換えが１速のみの機種
		「風量調整」ボタン有効	室内ファン風量切換えが２速または３速の機種
リモコン機能 01	室内ファン速度	ファン速度３速	室内ファン風量３速の機種
		ファン速度２速（Hi-Lo）	室内ファン風量２速の機種
		ファン速度２速（Hi-Me）	
		ファン１速	室内ファン風量切換えが１速のみの機種
リモコン機能 06	「自動」運転設定	「自動」運転有効	「自動」モード選択可能な機種
		「自動」運転無効	「自動」モードの無い機種

注２：高天井設定時のファンタップ

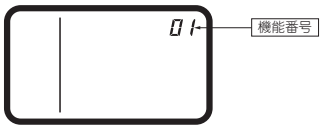
ファンタップ	室内風量設定		
	急－強－弱	急－弱	急－強
標準	Hi － Me － Lo	Hi － Lo	Hi － Me
高天井１・２	UHi － Hi － Me	UHi － Me	UHi － Hi

機種によって、初期設定が高天井設定の機種もあります。

注３：ツイン・トリプル・ダブルツイン機の場合、室内機能設定は親室内ユニット・子室内ユニット各々設定してください。ただし、「07 運転許可／禁止」「08 外部入力切替」は親室内ユニットのみで設定可能です。

7. ボタン操作による機能設定の仕方

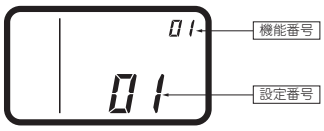
(1) **エアコンを停止させて、エアコンNoとMODEボタンを同時に長押しする。**
右上に、機能番号「01」が点滅します



(2) **TEMP△またはTEMP▽ボタンを押す。**
機能番号を選択します。

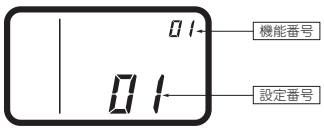
(3) **MODEボタンを押す。**
機能番号を確定する。

(4) **【リモコン機能（01～06）を選んだ場合】**
① 選択した機能番号の現在の設定番号が点滅します。
（例）
機能番号：「01」（点灯）
設定番号：「01」（点滅）

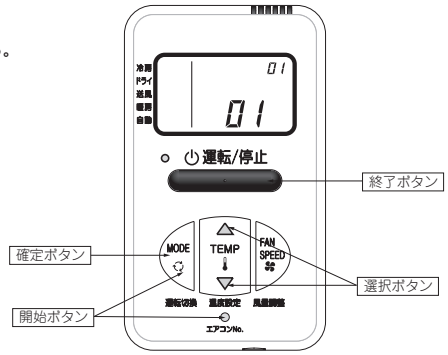


② **TEMP△またはTEMP▽ボタンを押す。**
設定番号を選択します。

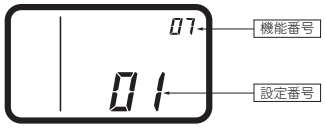
③ **MODEボタンを押す。**
設定が完了します。
確定した機能番号と、設定番号をデータを送信する間約3～20秒間点灯します。
（例）
機能番号：「01」（3～20秒間点灯）
設定番号：「01」（3～20秒間点灯）



その後、機能番号の点滅表示(1)に戻りますので、
続けて設定する場合は、同じ要領で設定してください。
終了する場合は、(5)へお進みください。

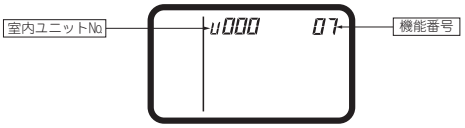


【室内機能（07～14）を選んだ場合】
① **温度設定表示部に、「88」が点滅します。**
（データを読み込む間約2～10秒点滅）
↓
その後、選択した機能番号の現在の設定番号が点滅します。
（例）
機能番号：「07」（点灯）
設定番号：「01」（点滅）



② へお進みください。

【注意】
a. 一つのリモコンに、室内ユニットを複数台接続している場合は、下記表示となります。
室内ユニットNo表示部：「U 000」（点滅）
（接続されている室内ユニットの、最も若い番号を表示。）

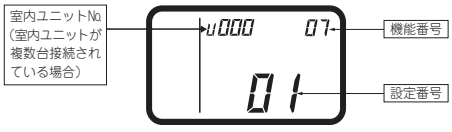


b. TEMP△またはTEMP▽ボタンを押す。
設定したい室内ユニットの番号を選びます。
「U ALL」を選択すると、全台同一の設定ができます。

c. MODEボタンを押す。
室内ユニットNoを確定します。
温度設定表示部に、「88」が点滅します。（データを読み込む間2～10秒点滅）
エアコンNoボタンを押すと室内ユニット選択表示（例「U 000」点滅）に戻ります。

② **TEMP△またはTEMP▽ボタンを押す。**
設定番号を選択します。

③ **MODEボタンを押す。**
設定が完了します。
確定した室内ユニットNo、機能番号、設定番号をデータを送信する間約3～20秒間点灯します。
（例）
室内ユニットNo：「U 000」（3～20秒間点灯）
機能番号：「07」（3～20秒間点灯）
設定番号：「01」（3～20秒間点灯）



その後、機能番号の点滅表示(1)に戻りますので、続けて設定する場合は、同じ要領で設定してください。終了する場合は、(5)へお進みください。

(5) **運転／停止ボタンを押す**
設定を終了します。

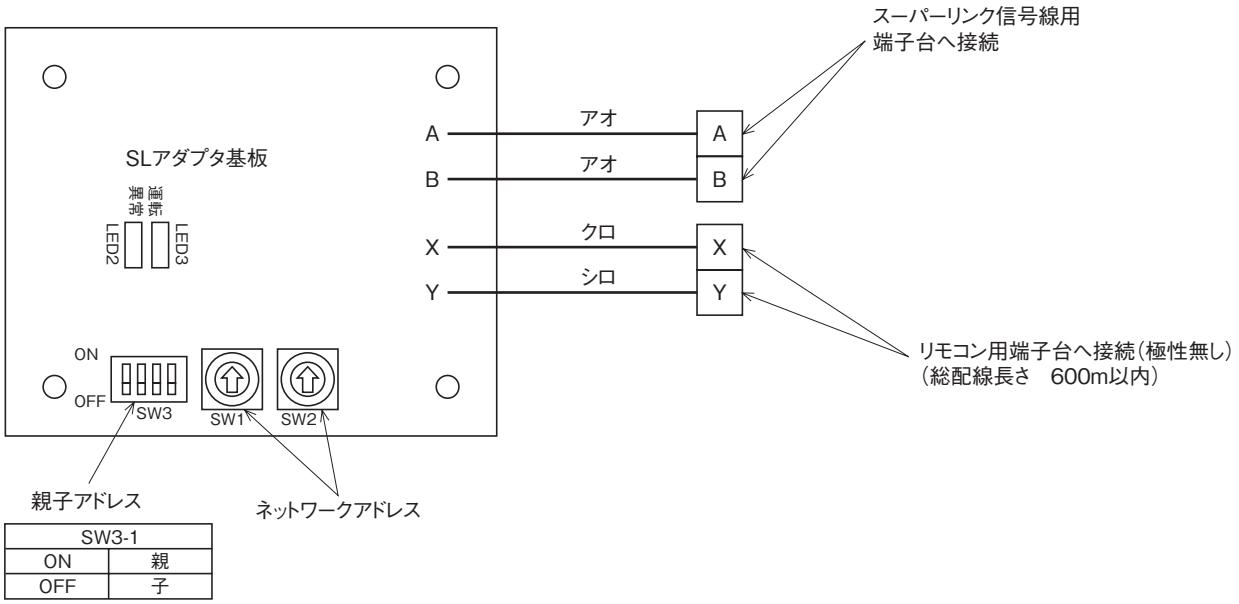
・設定の途中で、運転／停止ボタンを押しても終了します。ただし、設定が完了していない内容は無効となりますのでご注意ください。
・設定内容は、コントローラ内部に記憶され停電しても保存されております。

【現在設定の確認方法】
上記操作により、「機能番号」を選び、MODEボタンを押した時に、最初に表示される「設定番号」が、現在設定されている内容です。
（ただし、「U ALL」（全台）を選んだ場合は、室内ユニットNoの最も若い機種の設定番号が表示されます。）

11.4 スーパーリンクアダプタ（SC-ADNA）

仕　様		機能	
名　称	スーパーリンクアダプタ		(1) スーパーリンクオプションからの設定内容を各室内ユニットに送信 (2) スーパーリンクオプションからのデータ要求に対し優先室内ユニットのデータを返信 (3) 接続室内ユニットの異常状態を点検コードでスーパーリンクオプションに送信
形　式	SC-ADNA		
適用機種	室外-室内　2心通信仕様		
外形寸法（mm）	プリント基板　65×80×20 板金ボックス100×85×35		
制御可能な室内機台数	最大16台 （同一運転モード）		

接続要領



SW3-1	
ON	親
OFF	子

●信号線

0.75mm^2～1.25mm^{2}のシールド線（MVVS 2心）

注(1)　線径が0.75mm^{2}時で1500mまで，1.25mm^{2}時で1000mまでとなります。
2.0mm^{2}は使用しないでください。誤動作となる場合があります。

注(2)　シールド線は，両端をアースしてください。
アースの方法は次ページの取付要領を参照してください。

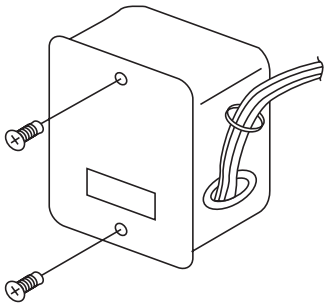
リモコンコードを延長する場合の注意

●コードは必ずシールド線を使用してください。
- 0.3mm^2×2心

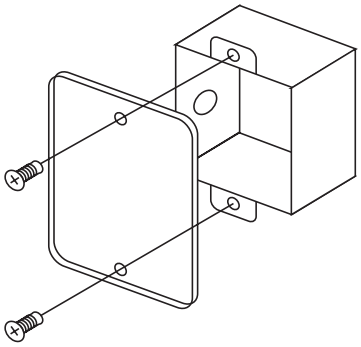
注(1)　延長距離が100mを超える場合は下記のサイズに変更してください。但し，リモコンケース内を通る配線は最大0.5mm^{2}以下とし，リモコン外部の近傍で配線接続により，サイズを変更してください。
100～200m以内…0.5mm^2×2心
～300m以内…0.75mm^2×2心
～400m以内…1.25mm^2×2心
～600m以内…2mm^2×2心

取付要領

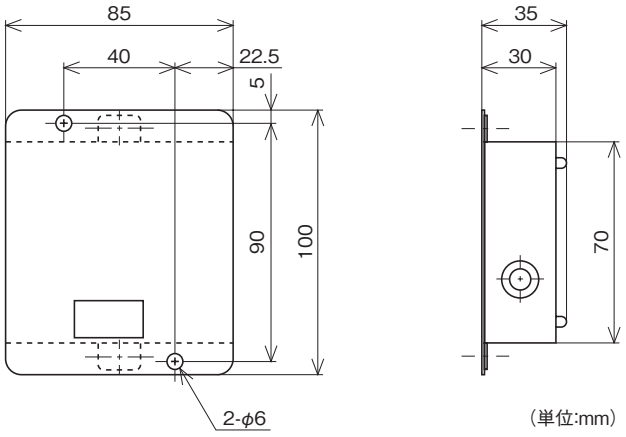
► 室内ユニット外へ設置する場合は，板金カバーを取付けてください。



► リモコン背面へ取付の場合は，直接リモコン下ケースへ取付けてください。



板金ボックス外形図



（単位:mm）

11.5 FDT お掃除ラクリーナパネル（T-PSCLS-6AW）

(1) 据付説明書

PJF012D052

本説明書は、お掃除ラクリーナパネルの据付方法を記載してあります。
室内ユニットの据付説明書と共にお読みください。

⚠ 警　告

●配線は、確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。
接続や固定が不完全な場合は、発熱、火災等の原因になります。

●元電源を切った後に電気工事をする。また、ぬれた手で操作などしない。
感電、故障や動作不良の原因になります。

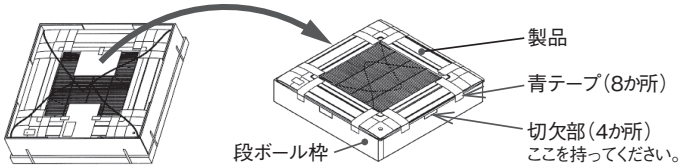
⚠ 注　意

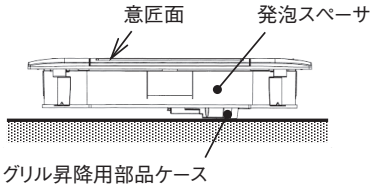
●次の場所への設置は避けてください。故障の原因になります。
・油煙が発生する作業場や水蒸気の発生、湿気の多いところ　・粉が浮遊する作業場や細かなホコリが大量に発生するところ
・タバコの煙が多いところ　・化粧品・特殊なスプレーを使用するところ

●温度制御が重要なところへの設置は避けてください。トラブルの原因になります。
エアコン運転中にフィルタ清掃を開始すると、風量Lo・風向制御停止となります。

注　意

製品を梱包から取出す際は、段ボール枠と共に取出して、平らな場所に置いてください。
段ボール枠は製品に青テープで固定されています。段ボール枠の切欠部を持って取出してください。
グリル昇降用部品ケースが製品の面より突出しているため、段ボール枠なしに意匠面を上にして製品を置くと、
クリル昇降用部品やそれを固定している発泡スペーサが破損します。

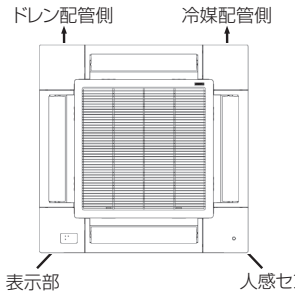




お願い　<ラクリーナ(グリル昇降)について>

・吸込グリルの動作範囲の周辺および下方30cm以内に障害物を置かないでください。
・電源投入前にお掃除ラクリーナパネルを取付けた場合、リモコンによる吸込グリルの昇降動作はできません。
・電源投入前に吸込グリルを収納する場合は、付属のクランプで仮固定する事ができます。
・電源投入後は付属のクランプを外してあることを確認してから昇降動作を行ってください。
・吸込グリル取付け後の初回はリモコンで「上げる」の操作を行い、吸込グリルを正規位置に収納してください。
（マイコンが収納位置を記憶します。）
・ワイヤーは、折り曲げ、ねじり、噛み込み等により傷つけたり、たばこ等の火が触れないようにしてください。

❶ 据付の前に



付属品

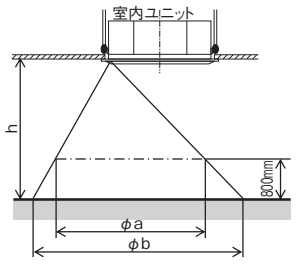
取扱説明書	1 冊	
据付説明書	1 枚	
ボルト	4 本	室内ユニットへの固定用
ストラップ	4 本	コーナリッド落下防止用
ねじ	4 本	コーナリッド固定用 ※
クランプ	4 本	吸込グリル仮固定用

※：電源投入前に吸込グリルを仮固定する際に使用する
クランプを固定するためにも流用します。

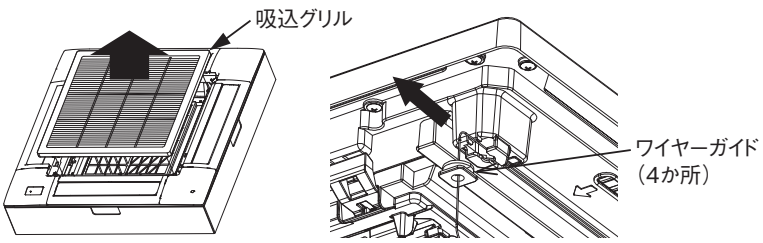
・据付はこの説明書に従って正しく行ってください。
・付属品を確認してください。
・人感センサの検知範囲の目安は以下のとおりです。

人感センサ検知範囲の目安

天井高さ　h [m]	2.7	3.5	4.0
検知範囲①　φa [m]	約4.5	約6.4	約7.6
検知範囲②　φb [m]	約6.4	約8.3	約9.5

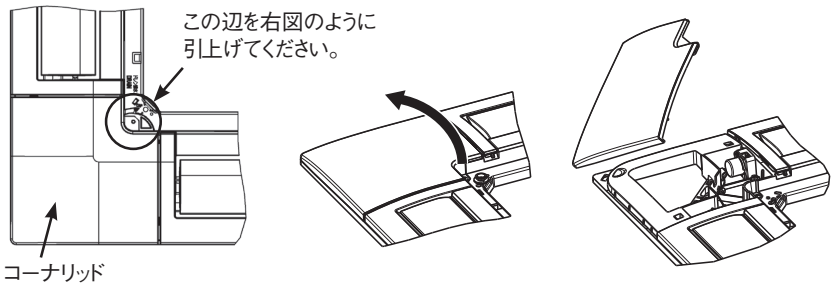


❷ 吸込グリルの取外し



1. 吸込グリルを持ち上げて、吸込グリルを開けます。
2. 吸込グリルのコーナに取付けてあるワイヤーガイドを外側にスライドして外してください。（4か所）
3. 吸込グリル内側のダストボックスの固定に使用している段ボールと青テープを取外してください。

❸ コーナリッドの取外し

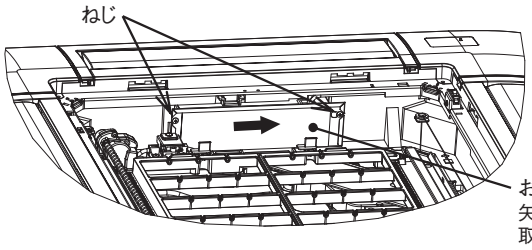


・コーナリッドを矢印の方向へ引上げて取外してください。（4 コーナとも）

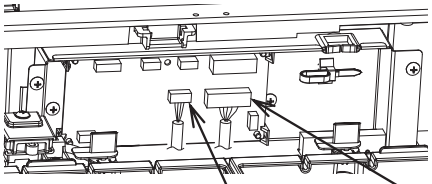
ご注意

表示部および人感センサ部は、コーナリッド内で配線が接続されています。

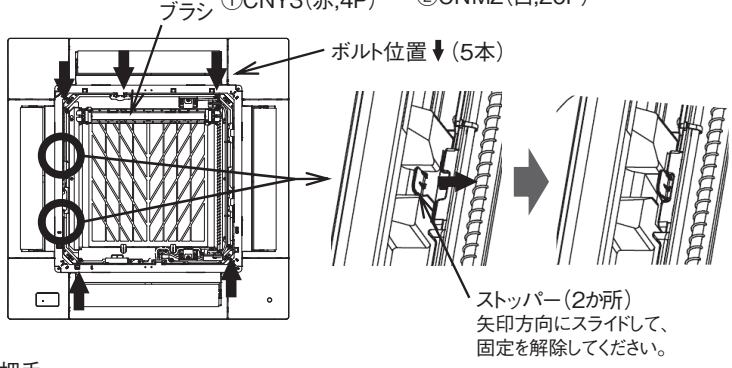
❹ お掃除ユニットの取外し



1. お掃除用制御箱の蓋を取外してください。
ねじ(2本)を緩め、蓋を図の矢印の方向にスライドして取外してください。

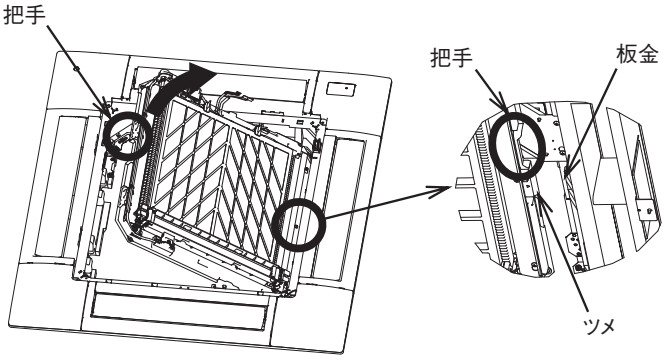


2. お掃除用制御箱内のコネクタを外してください。
①CNY3（赤，4P）：ブラシ位置検知スイッチ線
②CNM2（白，20P）：ブラシモータ線



3. ボルト(5本)を取外してください。

4. 仮固定ストッパー(2か所)を図の矢印の方向にスライドして、固定を解除してください。



5. 把手を持って、ストッパー側から引上げてください。
反対側はお掃除ユニットのツメがパネル本体の板金に引掛かっています。

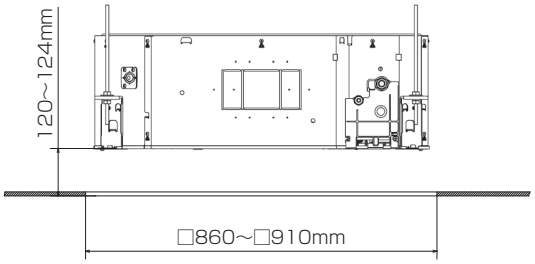
6. ツメを板金から外し、お掃除ユニットをパネル本体から取外してください。

ご注意

シャフトやブラシを持たないでください。
フィルタ清掃が正常に動かなくなります。

7. お掃除ユニットは、フィルタ側を上にして平らな場所に置いてください。
平らな場所には置くことができます。

❺ 室内ユニットの取付レベルの確認



室内ユニット取付高さは、パネル取付後にコーナ開口部より微調整ができます。

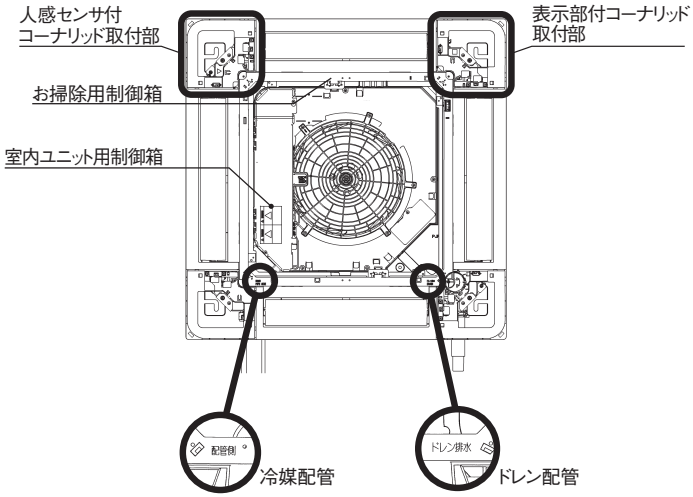
標準パネルよりも+110mm高く

・お掃除ラクリーナパネルの場合、標準パネルの据付に対し、天井裏高さが110mm増します。
天井下面と室内ユニット下面の差は120~124mmの範囲内としてください。
・天井開口は標準パネルと同一の□860~□910mmの範囲にしてください。

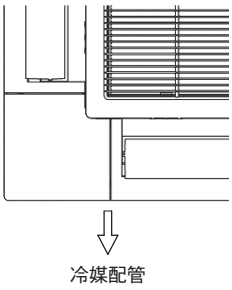
ご注意

パネル本体取付の際、室内ユニットの天井からの高さはパネル本体に無理な荷重がかからない高さにしてください。フィルタ清掃が正しくできなかったり、吸込グリルが正しく閉じないことがあります。

❻ パネル本体の取付方向

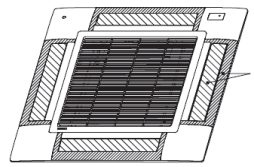


・パネル本体の取付方向は室内ユニットに対し方向性があります。
・パネル本体は、図に示す方向で取付けてください。
・パネル本体の「ドレン排水」と室内ユニットドレン配管の位置を合わせてください。
・パネル本体の「配管側」と室内ユニット冷媒配管の位置を合わせてください。

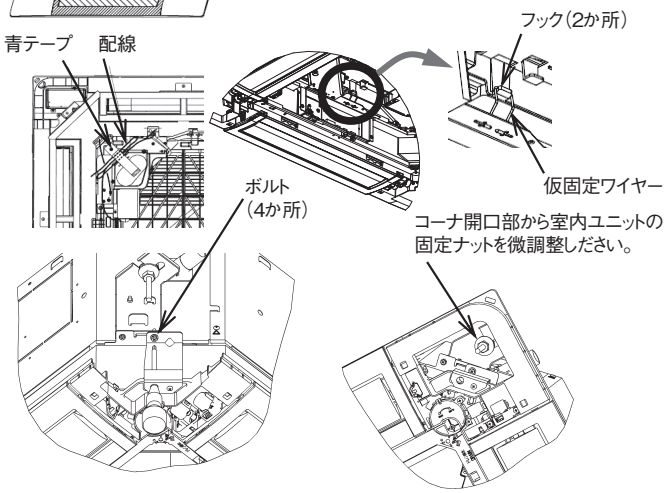


吸込グリルに方向性があります。
一方向にしか取付けられません。

❼ パネル本体の取付



斜線部(それぞれ4か所)は可動します。
手で無理に動かすと破損します。



ご注意

吹出口のルーバ(▨部)と吹出口周囲のエアフレックス(▨部)は可動する部品です。
手で無理に動かすと破損します。パネル本体を持つ際は取扱に注意してください。

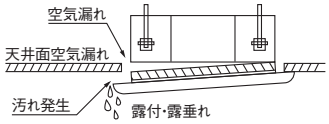
1. パネル本体の裏側で配線が青テープで固定されています。青テープを剥がしてください。
2. パネル本体の仮固定ワイヤーを室内ユニットのフック(2か所)に引掛けて、パネル本体を室内ユニットに吊るします。
3. 付属のボルト(4本)で、パネル本体と室内ユニットを固定してください。
室内ユニットの水平度、ドレン配管などに影響がなければ、パネル本体を取付けたまま室内ユニットの据付高さを微調整できます。

ご注意

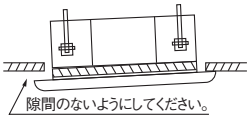
パネル本体取付の際、室内ユニットの天井からの高さはパネル本体に無理な荷重がかからない高さにしてください。フィルタ清掃が正しくできなかったり、吸込グリルやエアフレックスを閉じることができない恐れがあります。

ご注意

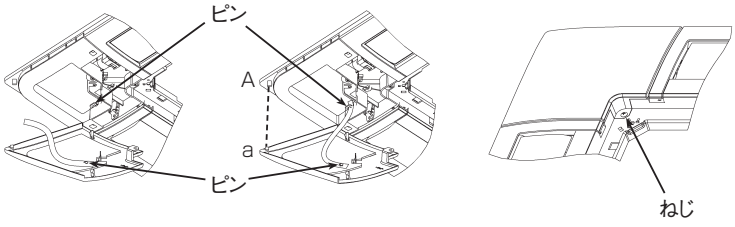
・吊りボルトの締込が不十分な場合、下図のような不具合発生の原因となりますので確実に締込んでください。



・吊りボルトを締込んでも天井面とパネルとの間に隙間ができる場合は、室内ユニットの高さを再調整してください。

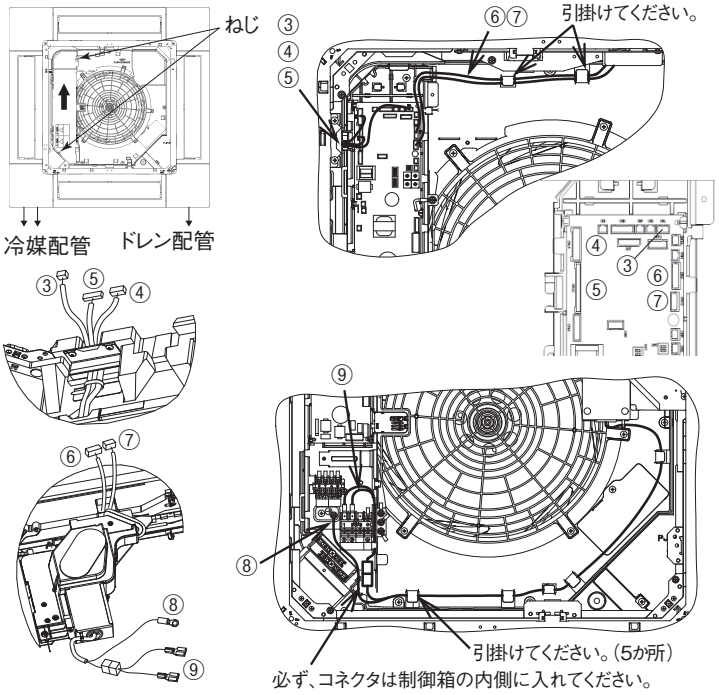


⑧ コーナリッドの取付



1. 付属のストラップをコーナリッドのピンに折り返して引掛けてください。
2. コーナリッドに取付けたストラップの反対側をパネル本体のピンに引掛けてください。
3. コーナリッドのa部をパネル本体のA部に挿入して、コーナリッドのツメ（2か所）をはめてください。
4. 付属のねじで固定してください。

⑨ 電気配線工事（パネルと室内ユニットとの接続）

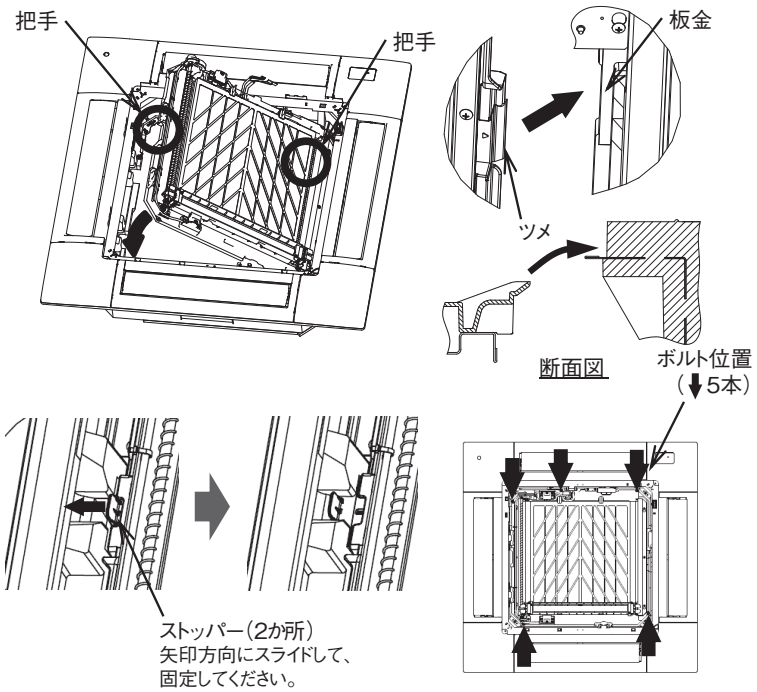


1. 室内ユニットの制御箱の蓋のねじ(2本)を緩め、蓋を図の矢印の方向にスライドして取外してください。
2. パネル本体の配線を室内ユニットに接続してください。
＜信号線＞
③CNL（黒，３P）：人感センサ線
④CNJ1（白，20P）：ルーバモータ線
⑤CNJ2（白，20P）：エアフレックスモータ線
⑥CNV（白，６P）：ラクリーナ基板線
⑦CNV2（黒，４P）：お掃除基板線
＜電源線＞
⑧ファストン端子（２個）：ラクリーナ電源線
⑨丸端子（１個）：アース線

ご注意
アース線は、所定の箇所に接続してください。

3. 室内ユニットの制御箱の蓋を取付け、ねじ(2本)を締付けてください。
4. 室内ユニットの形式、製造号機を取扱説明書裏ページ等へ控えてください。
（お掃除ユニットを取付けると室内ユニットの装置銘鈑が見え難くなります。）

⑩ お掃除ユニットの取付



1. お掃除ユニットの把手(2か所)を持って、取付てください。

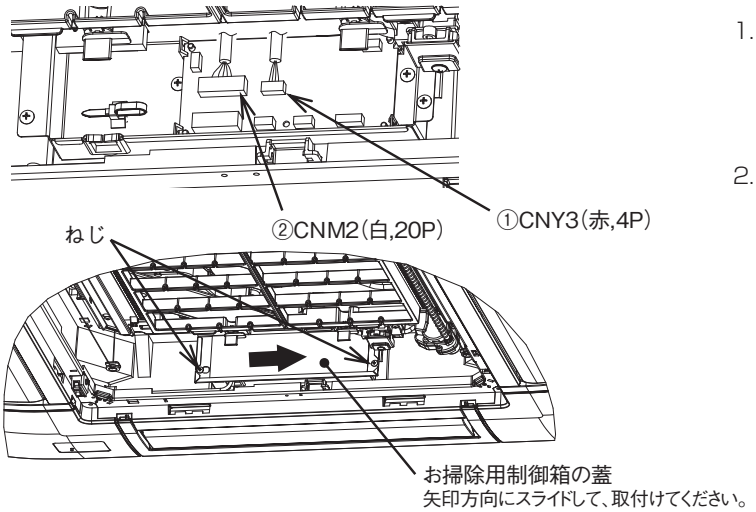
ご注意
シャフトやブラシを持たないでください。
フィルタ清掃が正常に動かなくなります。

2. お掃除ユニットのツメをパネル本体の板金部に乗るように、お掃除ユニットをパネル本体に収めてください。
3. お掃除ユニットのシャフト側をパネル本体に収めてください。

ご注意
お掃除ユニットをパネル本体に収める際、
ワイヤを噛込まないよう注意してください。

4. 仮固定ストッパー(2か所)を矢印の方向にスライドして、仮固定してください。
5. ボルト(5本)で固定してください。

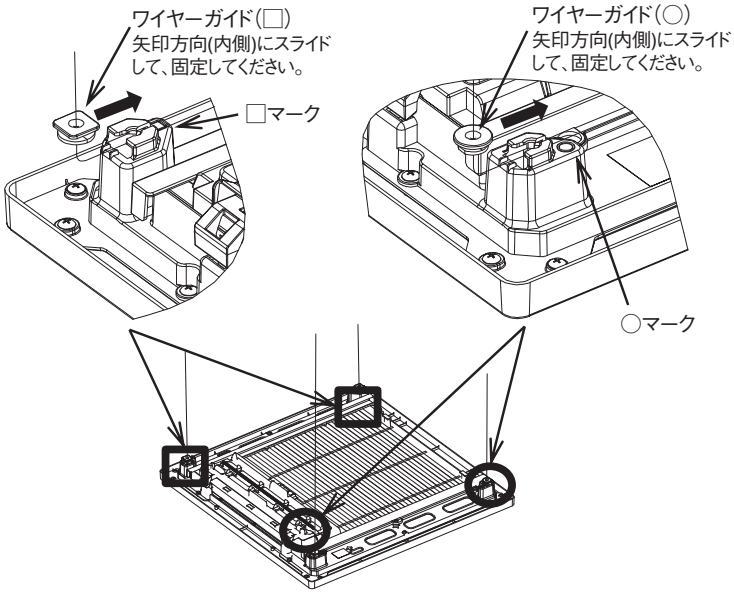
⓫ 電気配線工事（パネルとお掃除ユニットとの接続）



1. お掃除用制御箱内の配線を接続してください。
   ①CNY3(赤,4P):ブラシ位置検知スイッチ線
   ②CNM2(白,20P):ブラシモータ線

2. お掃除用制御箱の蓋を取付けてください。
   蓋を図の矢印の方向にスライドし、ねじ(2本)を締付けてください。

⓬ 吸込グリルの取付



1. ワイヤーガイドを吸込グリルに取付けてください。
   ワイヤーガイドの形状と取付部のマークの形状を合わせてください。
   形状が異なる組合せでは取付けることができません。

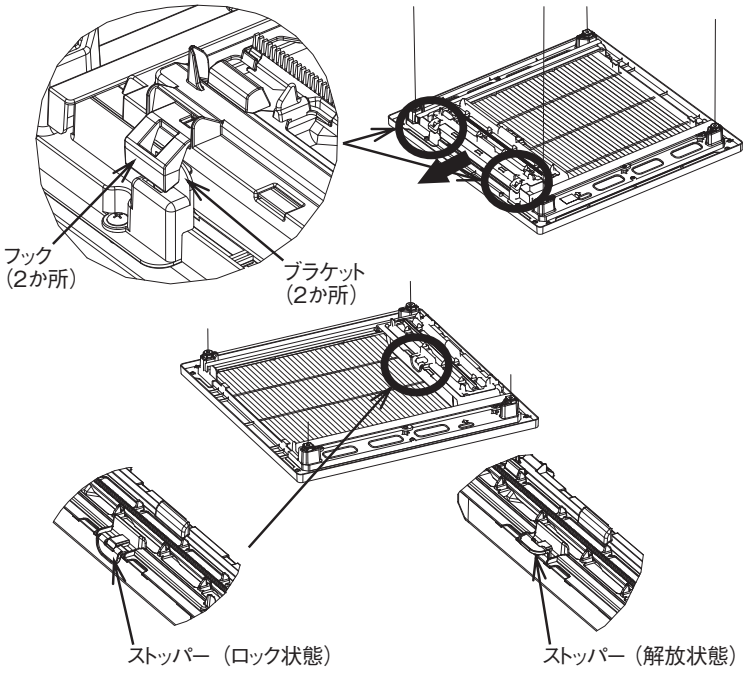
ご注意

吸込グリルの取付には方向性があります。
正しい方向に取付けないと、フィルタ清掃ができません。

ご注意

ワイヤーガイドは確実に取付けてください。また、ワイヤーが他の部品に絡まっていないか確認してください。
吸込グリルの昇降ができなくなったり、吸込グリルが脱落する恐れがあります。

⓭ ダストボックスの確認



1. ダストボックス蓋のフック(2か所)が吸込グリルのブラケットに引掛かっていることを確認してください。
   引掛かっていない場合は、ダストボックスを矢印の方向に移動し、フックを引掛けてください。

ご注意

ダストボックス蓋のフックが引掛かっていない状態で吸込グリルを閉じると、正しくフィルタ清掃できません。
最悪の場合、お掃除ユニットが破損します。

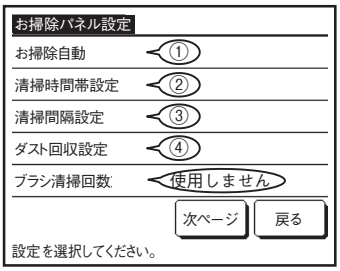
2. ダストボックス蓋のストッパ(1か所)がロックされ、ダストボックス（透明）が出てこないことを確認してください。

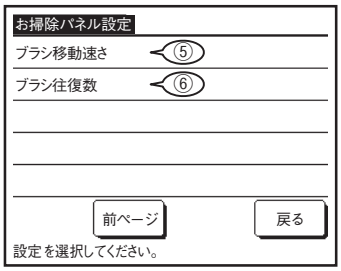
⑭ ecoタッチリモコンによる各種設定

フィルタ清掃などお掃除ラクリーナパネルの機能や吸込グリルの昇降、人感センサを使用した制御を使用するには、ecoタッチリモコンでの設定が必要です。必ず、本項の設定をしてください。

<お掃除機能の設定>　　詳細はecoタッチリモコンの取扱説明書をご覧ください。

TOP画面 メニュー ⇒ お手入れ ⇒ お掃除パネル設定 ⇒ 管理者パスワード入力





ご注意

必ず、①お掃除自動を有効に設定してください。
フィルター清掃しません。

①お掃除自動

お掃除機能の有効/休止を設定します。

休止を選択した場合、お掃除に関する全ての機能が使用できませんので、ご注意ください。

制御有効：お掃除に関する全ての制御が有効になります。自動フィルタ清掃などお掃除の機能を有効にします。

制御休止：お掃除に関する全ての制御が休止になります。
フィルタ清掃しなくなり、お掃除の機能が全て使えなくなります。ecoタッチリモコンやバックアップスイッチでの操作も全てできなくなります。

②清掃時間帯設定

自動でフィルタ清掃を開始する時間帯を設定します。

設定した時間帯のエアコンが停止しているときにフィルタ清掃を開始します。

A：0:00 ～ 6:00
B：6:00 ～ 12:00
C：12:00 ～ 18:00
D：18:00 ～ 24:00
E：時刻指定 … フィルタ清掃を開始する時刻を5分単位で設定できます。設定した時刻にフィルタ清掃を開始します。

③清掃間隔設定

フィルタ清掃する間隔を設定します。

設定した期間中に1回もエアコンを運転していない場合、設定した間隔でフィルタ清掃しません。

ただし、エアコンを運転していない期間が連続7日経過すると、自動でフィルタ清掃します。

A：毎日…… 1日1回、フィルタ清掃します。
B：2日毎 … 2日1回、フィルタ清掃します。
C：3日毎 … 3日1回、フィルタ清掃します。

④ダスト回収設定

ダスト回収(ダストボックス内に溜まったホコリを廃棄)をお知らせする時期を設定します。

パネル表示部の表示灯(黄)が点灯し、ecoタッチリモコンにダスト回収の時期であることを表示します。

A：半年毎
B：1年毎
C：2年毎
D：日付指定 … 設定した日にちにダスト回収時期をお知らせします。

参考

一般事務所１年分のホコリを想定しています。
ホコリの多少により設定してください。

⑤ブラシ移動速さ設定

フィルタ清掃するブラシの移動速さを設定します。（工場出荷時の設定はB：ふつう）

カッコ内の時間は、ブラシが1往復する時間です。

A：ゆっくり　（約45分）
B：ふつう　（約30分）
C：少し はやい（約17分）
D：はやい　（約8分）

参考

ホコリがフィルタに残る場合、A：ゆっくりに設定すると改善される場合があります。

⑥ブラシ往復数設定

フィルタ清掃1回にブラシが往復する回数を設定します。（工場出荷時の設定は1回）

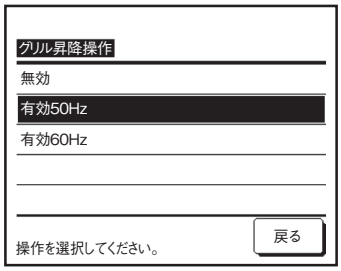
1～3回で設定できます。

1回のフィルタ清掃に要する時間は設定した⑤ブラシ移動速さの時間と　⑥ブラシ往復数の積になります。

例）ブラシ移動速さ：ふつう（約30分）、ブラシ往復数：2回に設定した場合。
約30分 × 2往復 = 約60分 … フィルタ清掃開始して完了するまでに要する時間（1回のフィルタ清掃の時間）

＜吸込グリル昇降の設定＞

TOP画面 メニュー ⇒ サービス設定 ⇒ 据付設定 ⇒ サービスパスワード入力 ⇒ グリル昇降操作



据付場所の電源周波数をタッチしてください。

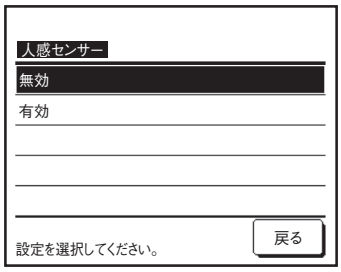
ご注意

必ず、設定してください。
吸込グリルを昇降できません。

吸込グリル下降長さを設定する場合はecoタッチリモコンの取扱説明書をご覧ください。
（工場出荷時の設定は2m）

＜人感センサーの設定＞

TOP画面 メニュー ⇒ サービス設定 ⇒ 据付設定 ⇒ サービスパスワード入力 ⇒ 人感センサー設定



有効 をタッチしてください。

ご注意

必ず、設定してください。
人感センサの機能が使えません。

人感センサを使用した制御の設定はecoタッチリモコンの取扱説明書をご覧ください。

＜エアフレックス(風よけ)について＞

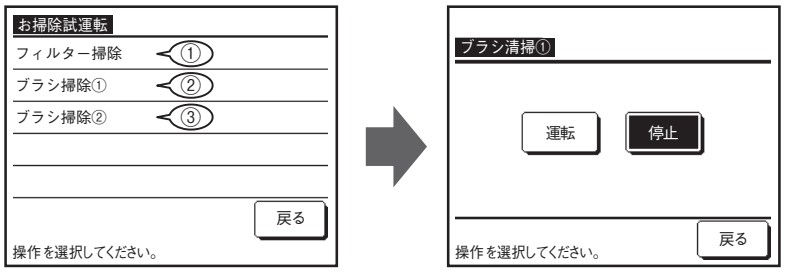
エアフレックス(風よけ)の設定は特に必要ありません。
ecoタッチリモコンのF1スイッチで、エアフレックス(風よけ)をON/OFFできます。
ただし、吹出口ごとや運転モードによりエアフレックス(風よけ)のON/OFFを変更する場合はecoタッチリモコンでの設定が必要です。ecoタッチリモコンの取扱説明書をご覧ください。

⑮ ecoタッチリモコンによる動作確認など

ecoタッチリモコンを使用して、フィルタ清掃の実施や各動作の確認をすることができます。

1. 試運転

TOP画面 メニュー ⇒ サービス設定 ⇒ 据付設定 ⇒ サービスパスワード入力 ⇒ 試運転 ⇒ お掃除試運転



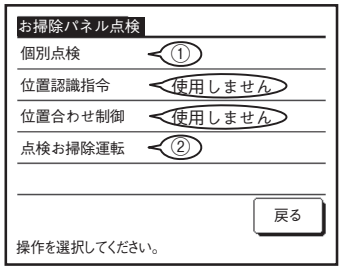
①フィルター清掃
フィルタ清掃します。フィルタ清掃中は吸込グリルの昇降ができません。
フィルタ清掃を実施中、パネル表示部の表示灯は下記のように作動します。完了すると全て消灯します。
表示灯(緑)：点灯 ／ 表示灯(黄)：消灯

②ブラシ清掃①
ブラシやクシに残っているホコリを除去したり、フィルタに残っているホコリを除去するため、
ブラシが移動速さC：少し はやいでランダムに往復を繰り返します。（約12分）
ブラシ清掃①を実施中、パネル表示部の表示灯は下記のように作動します。完了すると全て消灯します。
表示灯(緑)：点灯 ／ 表示灯(黄)：連続点滅

③ブラシ清掃②
ブラシやクシに残っているホコリを除去したり、フィルタに残っているホコリを除去するため、
ブラシが設定した移動速さでランダムにブラシ清掃①より少ない往復数で往復を繰り返します。
（所要時間はブラシ移動速さによる）
ブラシ清掃②を実施中、パネル表示部の表示灯は下記のように作動します。完了すると全て消灯します。
表示灯(緑)：点灯 ／ 表示灯(黄)：連続点滅

2. 点検

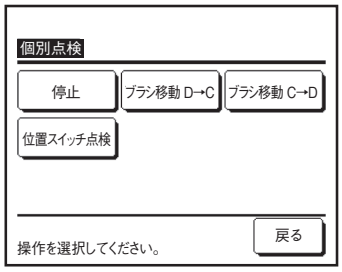
TOP画面 [メニュー] ⇒ [サービス設定] ⇒ [サービス･メンテナンス] ⇒ サービスパスワード入力 ⇒ [お掃除パネル点検]



※位置認識指令と位置合わせ制御は本製品では使用しません。
旧型のお掃除ラクリーナパネルで使用します。

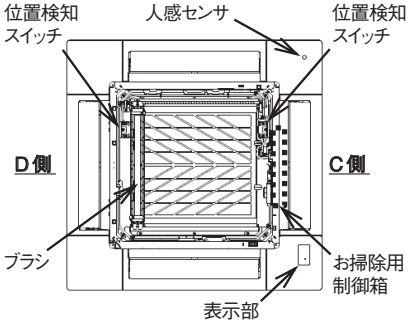
①個別点検

ブラシを移動させたり、位置検知スイッチの点検をすることができます。



ブラシ移動 D→C： ブラシがD側→C側に移動します。
ブラシがC側端に到達すると停止します。
また、[停止]をタッチするとタッチした時点の位置で停止します。
表示灯(緑)：1回点滅 ／ 表示灯(黄)：連続点滅

ブラシ移動 C→D： ブラシがC側→D側に移動します。
ブラシがD側端に到達すると停止します。
また、[停止]をタッチするとタッチした時点の位置で停止します。
表示灯(緑)：2回点滅 ／ 表示灯(黄)：連続点滅



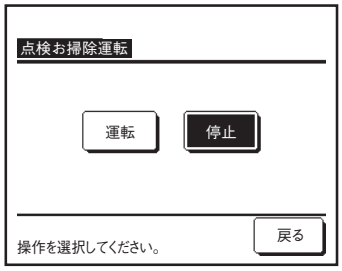
位置スイッチ点検： 表示灯(緑)と表示灯(黄)が3秒間点滅します。その後、
位置検知スイッチ(D側)をON中は表示灯(緑)が点灯します。
位置検知スイッチ(C側)をON中は表示灯(黄)が点灯します。
[停止]をタッチするか、5分経過すると終了します。

ご注意

吸込グリルを開いた状態でブラシ移動した場合、移動の途中など、ブラシがD側端にない状態(表示灯(黄)：連続点滅)で吸込グリルを閉じないでください。正しくフィルタ清掃できません。
最悪の場合、お掃除ユニットが破損します。

②点検お掃除運転

フィルタ清掃を開始します。フィルタ清掃中に吸込グリルの昇降ができます。
また、お掃除ユニットの動作を点検する場合など、吸込グリルを開いた状態でフィルタ清掃ができます。



表示灯(緑)：点灯 ／ 表示灯(黄)：連続点滅

ご注意

吸込グリルを開いた状態で点検お掃除運転した場合、フィルタ清掃の途中など、ブラシがD側端にない状態(表示灯(黄)：連続点滅)で吸込グリルを閉じないでください。正しくフィルタ清掃できません。
最悪の場合、お掃除ユニットが破損します。

③バックアップスイッチでの点検

バックアップスイッチで下記の点検動作ができます。動作内容はecoタッチリモコンを使用した場合と同じです。

バックアップスイッチのON時間	点検内容	表示灯(緑)	表示灯(黄)
3秒未満	点検お掃除運転	点灯	連続点滅
3～6秒	ブラシ移動D→C	1回点滅	連続点滅
6～10秒	ブラシ移動C→D	2回点滅	連続点滅
10秒以上	位置スイッチ点検	※	

※：表示灯(緑)と表示灯(黄)が3秒間点滅します。その後、
位置検知スイッチ(D側)をON中は表示灯(緑)が点灯します。
位置検知スイッチ(C側)をON中は表示灯(黄)が点灯します。
再び、バックアップスイッチを押すか、5分経過すると終了します。

ご注意

点検動作中は、ブラシがD側端部にない(表示灯(黄)：連続点滅)状態でグリルを昇降できます。（通常はできません。）
表示灯(黄)が連続点滅しているときは吸込グリルを閉じないでください。
正しくフィルタ清掃できません。最悪の場合、お掃除ユニットが破損します。
必ず、表示灯(黄)が消灯しているのを確認してから、吸込グリルを閉じてください。表示灯(黄)が連続点滅してる場合は、消灯してから吸込グリルを閉じてください。（個別点検の[ブラシ移動 C→D]をタッチしてください。）

ダスト回収時期に到達した場合は表示灯(黄)は点灯します。
ダスト回収し、フィルタサインをリセットした後、表示灯(黄)が連続点滅するか確認してください。

PJF012A026A△A

安全上のご注意

■ご使用の前に，この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ正しくお使いください。お掃除ラクリーナパネル関連事項を抜粋しています。必ずエアコンの取扱説明書「安全上のご注意」もお読みください。
■ここに示した注意事項は，「⚠警告」，「⚠注意」に区分していますが，誤った取扱をしたときに，死亡や重傷等の重大な結果に結び付く可能性が大きいものを特に「⚠警告」の欄にまとめて記載しています。しかし，「⚠注意」の欄に記載した事項でも，状況によっては重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので，必ず守ってください。
■絵表示の例


△記号は，危険・警告・注意を促す内容があることを告げるものです。図の中に具体的な禁止内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。


○記号は，禁止の行為であることを告げるものです。図の中や近傍に具体的な禁止内容が描かれています。


●記号は，行為を強制したり指示したりする内容を告げるものです。図の中に具体的な指示内容（左図の場合はアースを行なってください）が描かれています。

■お読みになった後は，お使いになる方がいつでも見られる所に必ず保管してください。また，お使いになる方が代わる場合は，必ず本書をお渡しください。

据付上の注意事項

⚠警告

据付は，販売店または専門業者に依頼する。
ご自分で据付工事をされ不備があると，水漏れや感電，火災，エアコン落下によるケガの原因になります。

⚠注意

次の場所への設置は避けてください。故障の原因になります。
- 油煙が発生する作業場
- 粉が浮遊する作業場
- タバコの煙が多いところ
- 水蒸気の発生，湿気の多いところ
- 化粧品・特殊なスプレーを使用するところ
- 細かいホコリが多いところ

温度制御が重要なところへの設置は避けてください。
トラブルの原因になります。
エアコン運転中にフィルタ清掃を開始すると，風量 Lo・風向制御停止となります。24 時間運転等のところでは，フィルタ清掃中運転状態（能力低下）が変わります。尚，フィルタ清掃中は表示部に緑が点灯します。

使用上の注意事項

⚠警告

エアコンおよびリモコンを水洗いしない。
エアコンおよびリモコン内部に水が浸入して絶縁不良になります。

可燃性のもの（ヘアスプレーや殺虫剤など）はエアコンの近くで使用しない。ベンジン・シンナーで室内ユニット，パネルをふかない。
引火・感電・ひび割れの原因になります。

⚠注意

濡れた手でスイッチを操作しない。
感電の原因になることがあります。

濡れたフィルタを使用しない。
フィルタを洗った時は乾かしてから装着してください。

eco タッチリモコンの日付・時刻設定をする。
日付・時刻設定をしないと制御タイマが正しく動作しません。

ダストボックスを外して使用しない。
ダスト回収後の装着忘れにご注意ください。

特殊用途には使用しない。
動植物の飼育や栽培などの用途に使用すると，微生物繁殖の原因になることがあります。

定期点検を行う。
1 年 1 回以上，フィルタのホコリ取残し，ダストボックスが満杯でないか点検をしてください。

移設・修理時の注意事項

⚠警告

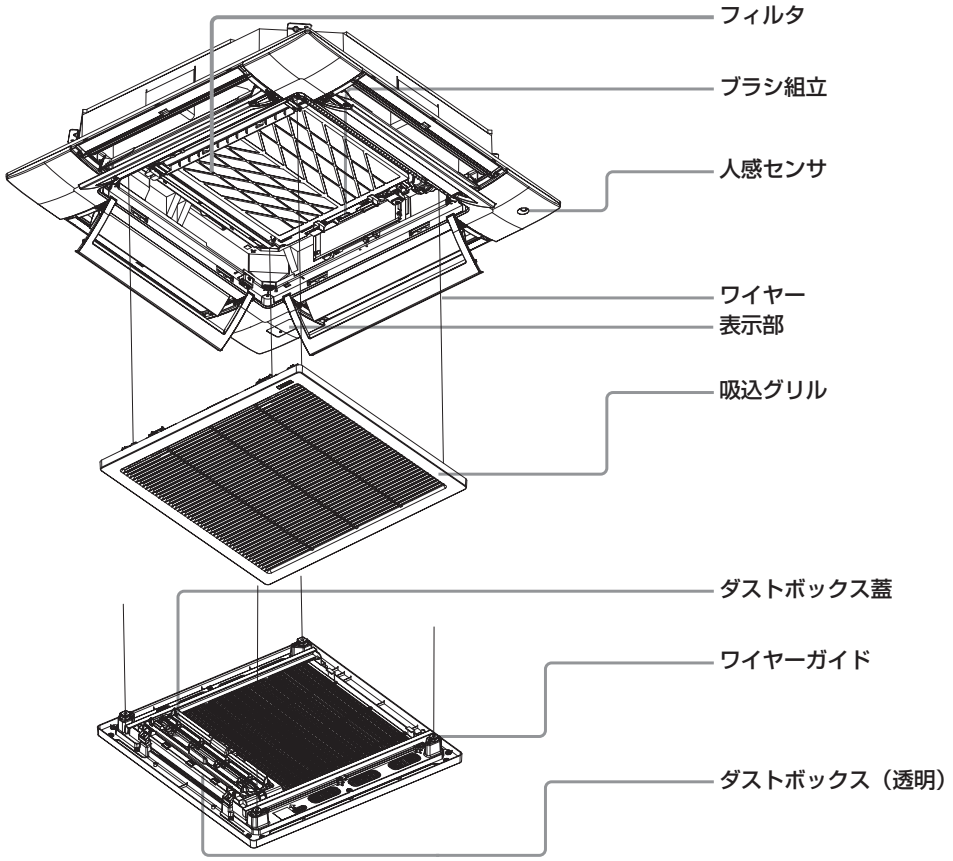
改修は絶対にしない。また，修理はお買い上げの販売店に相談する。
部品の交換は，お買い上げの販売店に相談してください。
修理に不備があると水漏れや感電，火災などの原因になります。

エアコンを移動再設置する場合は，販売店または専門業者に相談する。
据付に不備があると水漏れや感電，火災などの原因になります。

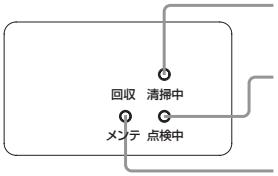
室内ユニットの修理・点検作業に際して「室内ユニット電源ブレーカ」を必ず落とす。
点検･修理にあたって，室内ユニットの電源ブレーカが ON のままだと，感電および室内ユニットのファン回転による受傷の原因になります。

各部のなまえ

• 下図は吸込グリルが下がった状態を示します。



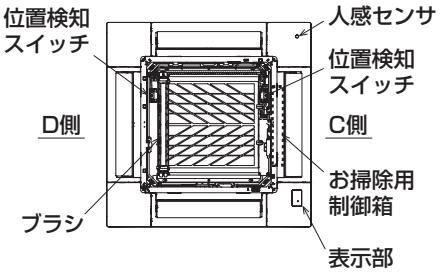
■表示部



バックアップスイッチ

表示灯（緑）：清掃／点検
フィルター清掃中に点灯します。
点検動作中は点滅します。

表示灯（黄）：ダスト回収／メンテナンス
ダストボックス内のホコリの回収時期に点灯します。
メンテナンスが必要なときに点滅します。
メンテナンスコードにより点滅回数が異なります。



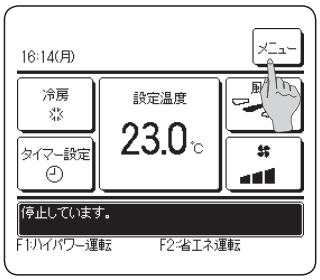
表示内容

No.	表示灯（緑）	表示灯（黄）	eco タッチリモコンの表示	内　容
1	点灯	消灯	フィルター清掃中　○○% 現在、グリル昇降できません	フィルタ清掃（お掃除運転）中で、○○%完了しています。 吸込グリルの昇降ができません。
2	成り行き	点灯	ダスト回収　ここをタッチしてください	ダスト回収時期になりました。 ダスト回収をしてください。
3	点灯	連続点滅	フィルター清掃中　○○%	点検お掃除運転を実施中で、○○%完了しています。 吸込グリルの昇降ができます。
4	点灯	連続点滅		ブラシ清掃①を実施中です。 吸込グリルの昇降ができます。
5	点灯	連続点滅		ブラシ清掃②を実施中です。 吸込グリルの昇降ができます。
6	1回点滅	消灯	M01	D側→C側へのブラシの移動が正しく終了しませんでした。
7	2回点滅	消灯	M02	C側→D側へのブラシの移動が正しく終了しませんでした。
8	3回点滅	消灯	M03	C側→D側へブラシが移動中にC側の位置検知スイッチがONしました。
9	4回点滅	消灯	M04	D側→C側へブラシが移動中にD側の位置検知スイッチがONしました。
10	5回点滅	成り行き	M21	吸込グリルが正しくパネル本体に収納されていません。
11	6回点滅	消灯	M06	2つ位置検知スイッチが同時にONになっています。

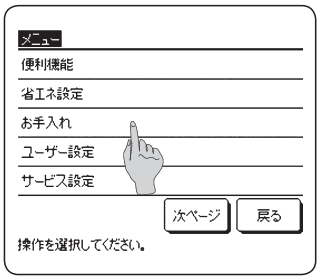
・空欄は成り行きの表示をします。
・No.6～11の処置方法は423ページをご覧ください。

フィルター清掃運転の設定

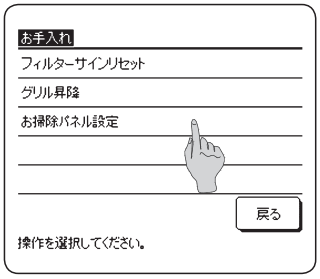
ecoタッチリモコンは液晶部をタッチすると画面が明るくなります。日付・時刻の両方を正しくセットしてください。
セットされていないと制御タイマが正しく作動しません。
日付・時刻の設定は，ecoタッチリモコンの取扱説明書をご覧ください。「メニュー⇒初期設定⇒時刻設定」
フィルター清掃運転に関する設定は，ecoタッチリモコンから設定ができます。なお，本取扱説明書のecoタッチリモコンの表示はRC-DX3C以降の場合です。リモコンの形式が異なる場合はリモコンの取扱説明書をご覧ください。



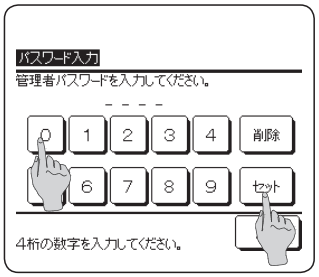
1 TOP画面上の メニュー をタッチしてください。



2 メニュー画面で お手入れ をタッチします。



3 お手入れ画面で お掃除パネル設定 をタッチします。

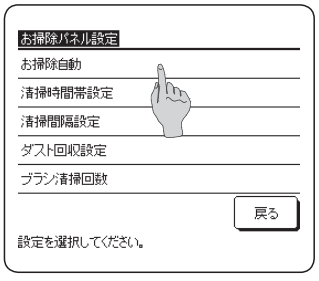


4 管理者パスワード入力画面を表示します。

管理者パスワード（数字4桁）入力後， セット をタッチしてください。
パスワードがわからない場合，異なった場合は，設定変更ができません。

お知らせ

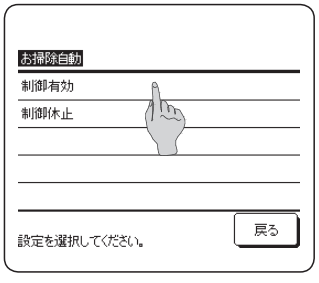
・工場出荷時に設定されている管理者パスワードは，据付工事説明書を参照ください。
また管理者パスワードを忘れた場合も，据付工事説明書を参照し，管理者パスワードの初期化を行ってください。



5 お掃除パネル設定メニュー画面を表示します。

設定する項目をタッチしてください。
①お掃除自動…… お掃除機能の有効/休止を設定します。
②清掃時間帯設定…… フィルタ清掃を開始する時間帯を設定します。
③清掃間隔設定…… フィルタ清掃する間隔を設定します。
④ダスト回収設定…… ダスト回収をお知らせする時期を設定します。
⑤ブラシ清掃回数…… 本製品では使用しません。旧型のお掃除ラクリーナパネルで使用します。
⑥ブラシ移動速さ設定… フィルタ清掃するブラシの移動速さを設定します。
⑦ブラシ往復数設定…… フィルタ清掃１回にブラシが往復する回数を設定します。

■お掃除自動設定のしかた



1 お掃除自動制御の有効/休止を設定します。

制御有効： お掃除に関する全ての制御が有効になります。フィルタ清掃などお掃除の機能を有効にします。
制御休止： お掃除に関する全ての制御が休止になります。
フィルタ清掃しなくなり、お掃除の機能が全て使えなくなります。ecoタッチリモコンやバックアップスイッチでの操作が全てできなくなります。

休止を選択した場合、お掃除に関する全ての機能が使用できませんので、ご注意ください。

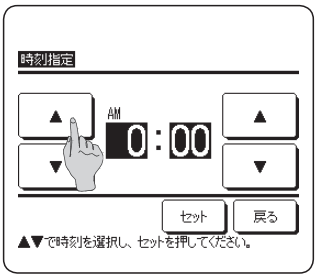
■清掃時間帯設定のしかた



1 自動でフィルタ清掃を開始する時間帯を設定します。

設定された時間帯内の任意の時刻に自動清掃を開始します。
エアコンの停止している時間を見計らって開始します。
エアコンが運転している場合は，風量を弱まで下げ，ルーバ停止し，フィルタ清掃を行います。
フィルタ清掃中はモータ音が発生します。
フィルタ清掃が気にならない時間帯（通常不在の）を選択してください。

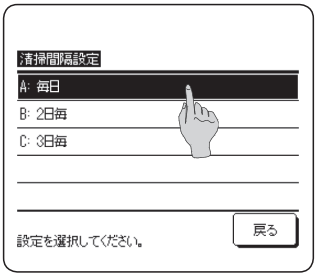
「E：時刻指定」を選択することにより，お掃除自動運転を開始する時刻を指定することができます。（☞2 へ）



2 清掃時間帯設定において，時刻指定を選択すると，時刻設定画面を表示します。

▲ ▼ で，ご希望の時刻（5分単位）に合わせてください。
ご希望の時刻に設定後，セット をタッチしてください。

■清掃間隔設定のしかた

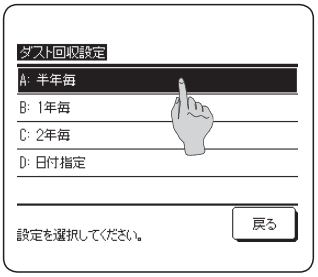


1 フィルタ清掃する間隔を設定します。

A：毎日　　…1日1回、フィルタ清掃します。
B：2日毎　…2日1回、フィルタ清掃します。
C：3日毎　…3日1回、フィルタ清掃します。

設定した期間中に1回もエアコンを運転していない場合、設定した間隔でフィルタ清掃しません。
ただし、エアコンを運転していない期間が連続7日経過すると、自動でフィルタ清掃します。

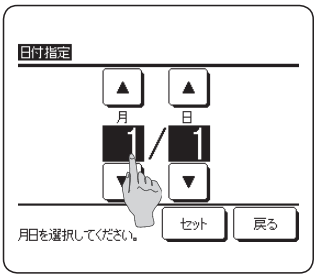
■ダスト回収設定のしかた



1 ダスト回収をお知らせする時期を設定します。

設定された日になると，ecoタッチリモコンに「ダスト回収　ここをタッチしてください。」を表示し、表示部の表示灯（黄）が点灯します。
一般事務所1年分のホコリを想定しています。ホコリの多少により設定してください。

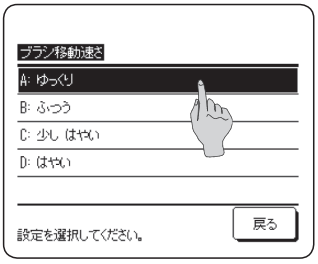
「D：日付指定」を選択することにより，ダスト回収時期を日付指定することができます。（☞2 へ）



2 ダスト回収設定において，日付指定を選択すると，日付設定画面を表示します。

▲ ▼ で，ご希望の日付に合わせてください。
ご希望の日付に設定後，セット をタッチしてください。
設定した日付になると，「ダスト回収　ここをタッチしてください。」を表示します。

■ブラシ移動速さの設定のしかた



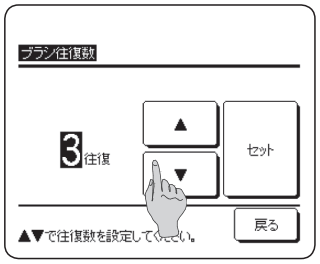
1 フィルタ清掃するブラシの移動速さを設定します　。

A：ゆっくり　　（約45分）
B：ふつう　　（約30分）
C：少し はやい　（約17分）
D：はやい　　（約8分）

カッコ内の時間は、ブラシが1往復する時間です。

ホコリがフィルタに残る場合、『A：ゆっくり』に設定すると改善される場合があります。

■ブラシ往復数の設定のしかた



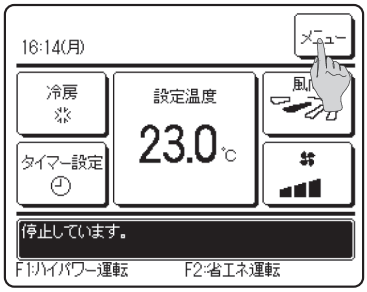
1 フィルタ清掃１回にブラシが往復する回数を設定します。

１～３回で設定できます。
フィルタ清掃する時間は設定した⑥ブラシ移動速さの時間と⑦ブラシ往復数の積になります。

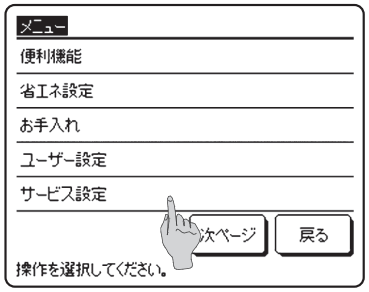
例）ブラシ移動速さ：ふつう（約30分）、ブラシ往復数：２回に設定した場合。

約30分 × ２往復 = 約60分 …フィルタ清掃開始して完了するまでの時間（１回のフィルタ清掃時間）

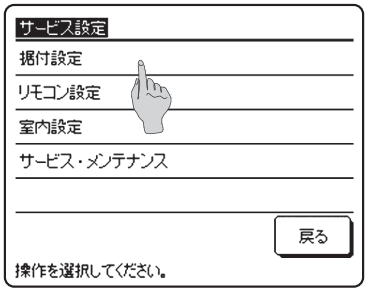
お掃除ラクリーナパネルの試運転



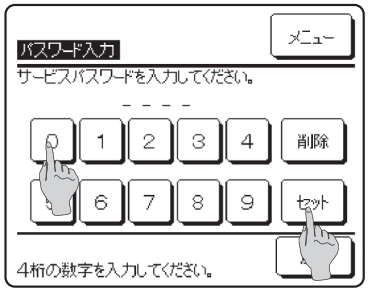
1
メニューをタッチする
メニュー設定画面に切換わります。



2
サービス設定をタッチする
サービス設定画面に切換わります。

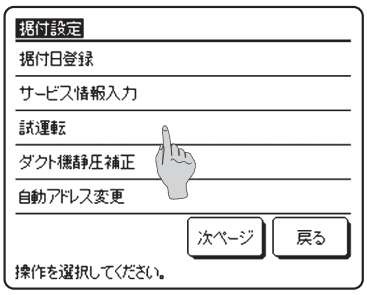


3
据付設定をタッチする
パスワード入力画面に切換わります。

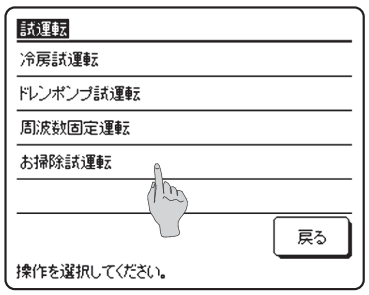


4
サービスパスワードを入力する

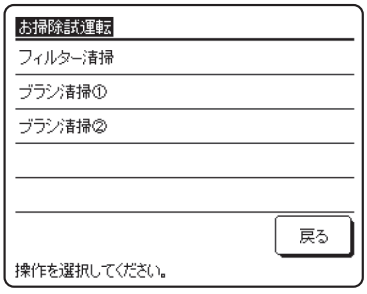
5
セットをタッチする
据付設定画面に切換わります。



6
試運転をタッチする
試運転画面に切換わります。



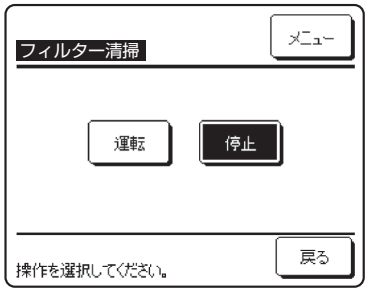
7
お掃除試運転をタッチする
お掃除試運転画面に切換わります。



(1)

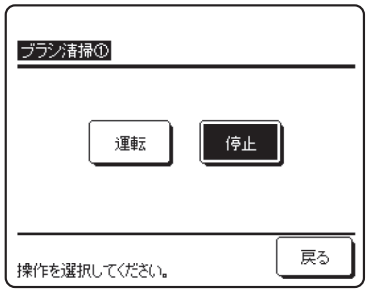
(2)

(1)フィルター清掃



フィルタ清掃をおこないます。

(2)ブラシ清掃①またはブラシ清掃②



ブラシ清掃①または
ブラシ清掃②を
おこないます。

フィルタ清掃：　設定したブラシ移動速さでフィルタ清掃します。フィルタ清掃中は吸込グリルの昇降ができません。フィルタ清掃中、表示部の表示灯は下記のように作動します。完了すると全て消灯します。
　　表示灯（緑）：点灯 ／ 表示灯（黄）：消灯

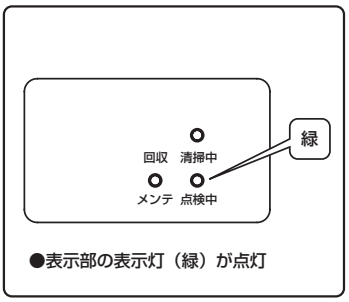
ブラシ清掃①　：ブラシやクシに残っているホコリを除去したり、フィルタに残っているホコリを除去するため、ブラシが移動速さC：少し はやいでランダムに往復を繰り返します。（約12分）
　　表示灯（緑）：点灯 ／ 表示灯（黄）：連続点滅

ブラシ清掃②　：ブラシやクシに残っているホコリを除去したり、フィルタに残っているホコリを除去するため、ブラシが設定した移動速さでランダムにブラシ清掃①より少ない往復数で往復を繰り返します。
　　表示灯（緑）：点灯 ／ 表示灯（黄）：連続点滅

お知らせ

フィルタ清掃の時間は設定したブラシ移動速さとブラシ往復数により異なります。

フィルタ清掃中



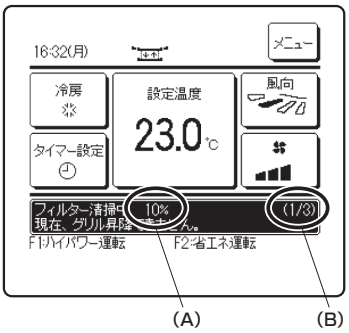
●表示部の表示灯（緑）が点灯

フィルタ清掃中は，表示部の表示灯（緑）が点灯します。

フィルタ清掃中もエアコン運転は可能ですが，風量はLoでの運転になります。

フィルタ清掃中は，ルーバ制御が実行されません。
（設定内容は記憶され，フィルタ清掃終了後に実行されます　）

フィルタ清掃中は，モータやブラシの作動音が発生します。



ecoタッチリモコンに、「フィルター清掃中 ○○%」と表示します。
フィルタ清掃が完了するまでグリル昇降はできません。

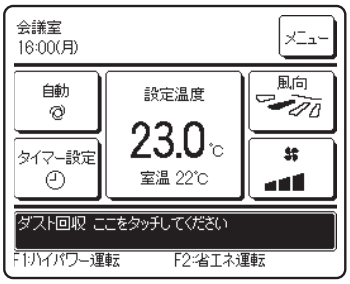
A：フィルタ清掃全工程の進捗率を表示します。
　100%になると完了し、グリル昇降ができるようになります。

B：実施中のブラシ往復数／設定したブラシ往復数を表示します。
　"1"は1往復目、"3"は設定した往復数を表しています。

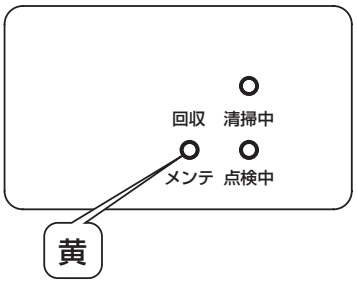
ダスト回収のしかた

ダスト回収時期をお知らせするため，設定時間に達すると表示がでます。

■ecoタッチリモコン



■表示部の表示灯（黄）が点灯

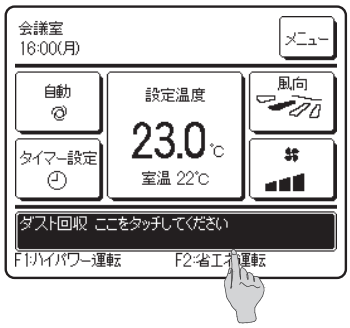


ダスト回収のしかた

吸込グリルを下げてからダスト回収してください。室内ユニットの下方に障害物がないことを確認してから，吸込グリルを下げてください。

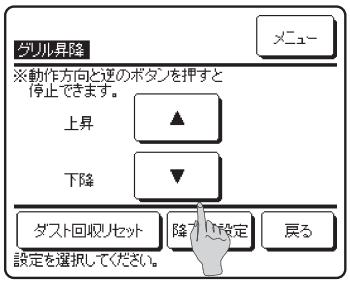
ecoタッチリモコンに複数台の室内ユニットを接続している場合，室内機選択画面を表示します。ダスト回収する室内機を選択してください。
グリル昇降画面に切換わります。

1）ダスト回収時期のお知らせが表示されたときに吸込グリルを下げる場合

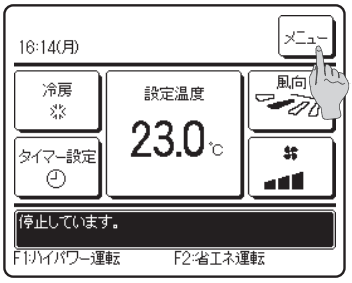


1 吸込グリルを下げる

“ここをタッチしてください。”を
タッチする
↓
▼ をタッチする

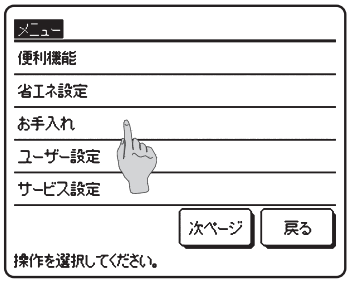


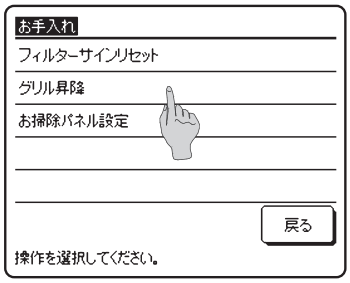
2）メニュー画面から吸込グリルを下げる場合

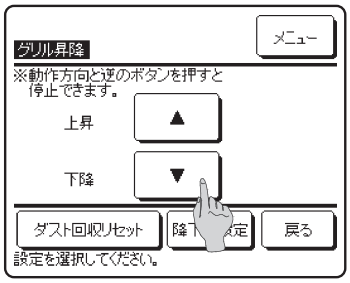


1 吸込グリルを下げる

メニュー をタッチする
↓
お手入れ をタッチする
↓
グリル昇降 をタッチする
↓
▼ をタッチする







ご注意

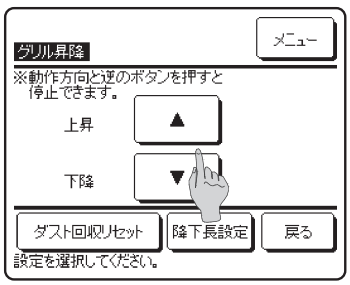
- グリル昇降 をタッチしてもグリル昇降画面に移行しない(「操作無効です。」が表示される)場合、グリル昇降操作が"無効"になっています。
  据付説明書に従い、吸込グリル昇降の設定をしてください。
- 吸込グリルを降下させている間は、ホコリの飛散防止のため、ファンが回転しルーバおよびエアフレックス（ON 設定の場合）が開きます。
  （風量：弱、ルーバ位置：①※上限位置）

3）F1またはF2スイッチにグリル昇降を割り当てたときに吸込グリルを下げる場合

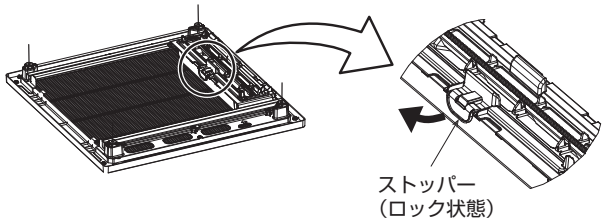


1 吸込グリルを下げる

F1：スイッチを押す。
↓
▼ をタッチする

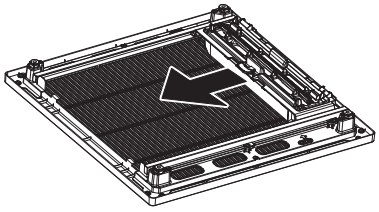


※F1スイッチにグリル昇降を割り当てた場合



2 ダストボックス蓋のストッパーのロックを外す

ダストボックス蓋のストッパー（1か所）のロックを外してください。

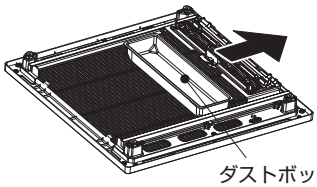


3 ダストボックスを取外す

ダストボックス（透明）を図の矢印の方向に引出して、吸込グリルから取外してください。

4 ホコリを回収する

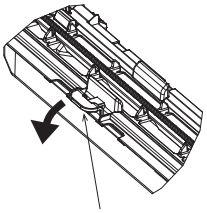
ダストボックス（透明）内のホコリを回収してください。



5 ダストボックスをセットする

ダストボックス（透明）を吸込グリルの上に置き、図の矢印の方向に押して、ダストボックス蓋にセットしてください。

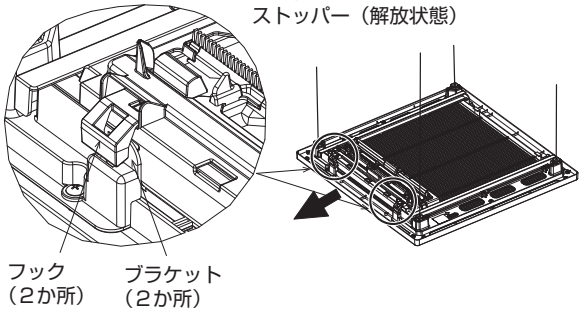
ダストボックス（透明）は、吸込グリルにセットする方向性はありません。



6 ダストボックス蓋のストッパをロックする

ダストボックス蓋のストッパー（1か所）をロックしてください。

ダストボックス（透明）が出てこないことを確認してください。



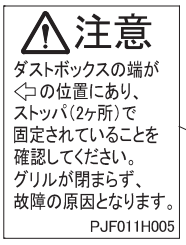
7 ダストボックス蓋の位置と固定を確認する

ダストボックス蓋の端部が吸込グリルの矢印の位置になっていることを確認してください。

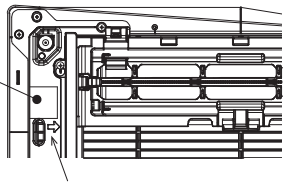
また、ダストボックス蓋のフック（2か所）が吸込グリルのブラケットに引掛かっていることを確認してください。
引掛かっていない場合は、ダストボックス蓋を図の矢印の方向に移動し、端部が吸込グリルの矢印位置にして、フックを引掛けてください。

ご注意

ダストボックス蓋のフックが引掛かっていない状態でグリルを閉じると、正しくフィルタ清掃できません。最悪の場合、お掃除ユニットが破損します。



注意ラベル

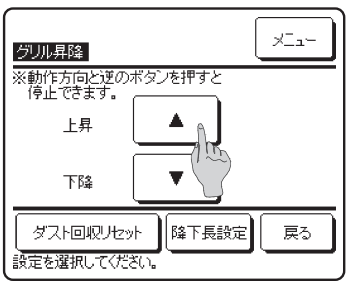


8 吸込グリルを上げる

▲ をタッチして、吸込グリルを閉じてください。

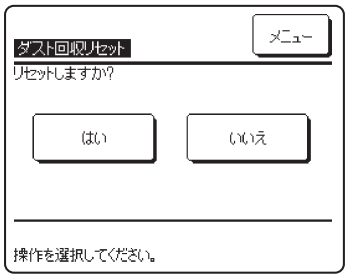
ご注意

吸込グリルを閉じる前に、表示部の表示灯（黄）が点滅していないことを確認してください。
通常は表示灯(黄)が点滅することはありません。表示灯（黄）が点滅している場合、ブラシは所定の位置にありません。
そのまま吸込グリルを閉じると正しくフィルタ清掃できません。
最悪の場合、お掃除ユニットが破損します。



ダスト回収時期に到達した場合は表示灯（黄）は点灯します。

ダスト回収し、フィルタサインをリセットした後、表示灯（黄）が連続点滅するか確認してください。



9 ダスト回収リセット

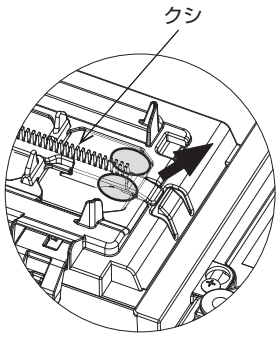
ダスト回収が終了したら，**ダスト回収リセット**をタッチしてください。
はいをタッチしてください。

⚠ 注意　ダスト回収を行わずにエアコンの運転を続けると，エアコンが停止する場合があります。
またホコリが落ちてきたり故障の原因になりますので必ずダスト回収を行ってください。

クシ，フィルタ，ブラシの取外し方・取付方

クシ，フィルタ，ブラシを取外す際は、吸込グリルを下げて行ってください。
吸込グリルの昇降方法は eco タッチリモコンの取扱説明書をご覧ください。

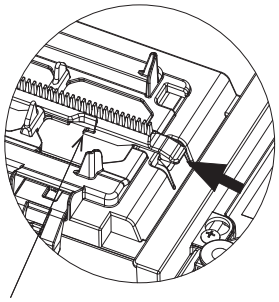
1）クシ
クシにホコリが堆積しているとブラシのホコリを除去できず、そのホコリをフィルタに再付着させることがあります。
また、eco タッチリモコンに「M 01」または「M 02」が表示されたとき、クシとブラシ、ブラシとフィルタの抵抗により正常にフィルタ清掃できない場合があります。
そのようなときは、クシに付着しているホコリを除去してください。クシは水洗いもできます。

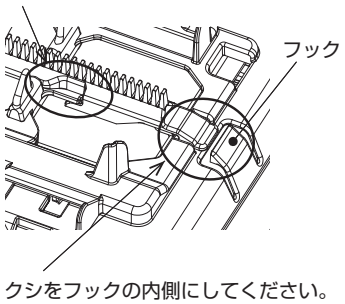




1 取外し方

図の⬭部分を持って、矢印の方向(斜め上方向)にブラシだけを引上げるとダストボックス蓋からクシが外れます。





2 取付方

クシを図のようにダストボックス蓋の上に乗せ、矢印の方向にカチッと音がするまでスライドしてください。

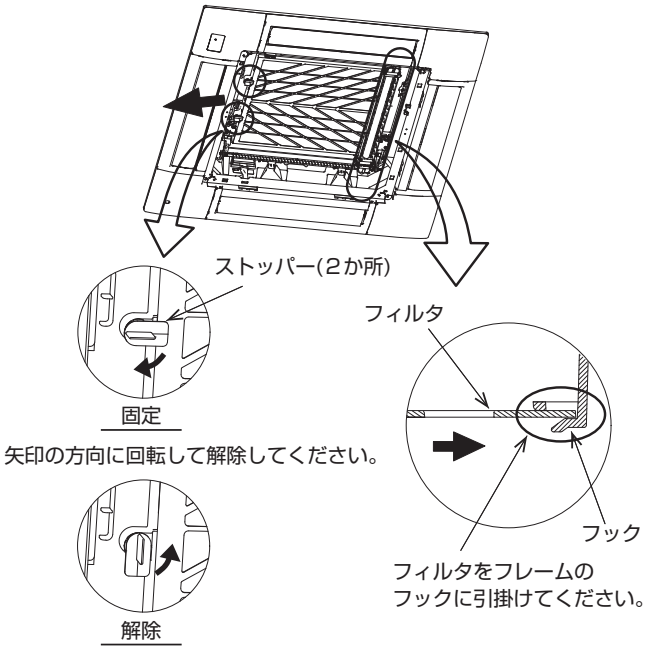
クシのツメ(5か所)全てがダストボックス蓋に引掛かっていることを確認してください。
また、クシがフックよりも内側にあるようにしてください。
なお、クシを水洗いした場合は水分を十分に取除いてください。

ご注意

クシを濡れたまま取付けるとホコリが固着し、フィルタ清掃に悪影響を与える可能性があります。

2）フィルタ

自動のフィルタ清掃で取りきれないホコリもあります。そのようなホコリが堆積すると、フィルタが室内ユニットに吸込空気を通さなくなり、エアコンがエラー停止する場合があります。
また、eco タッチリモコンに「M 01」または「M 02」が表示されたとき、ブラシとフィルタの抵抗により正常にフィルタ清掃できない場合があります。
そのようなときは、フィルタに付着しているホコリを除去してください。フィルタは水洗いもできます。
フィルタの取外しは高所作業です。



1 取外し方

ストッパーを90度以上回転して、フィルタを図の矢印の方向に引き出してください。
(ストッパーの回転方向はどちらでも可)。

2 取付方

フィルタを図の矢印の方向に差し込んでください。
(フィルタに方向性はありません)

フィルタがフックに引掛かっていることを確認してください。

ストッパーを図の位置まで回転して、フィルタが確実に引っ掛かるようにしてください。

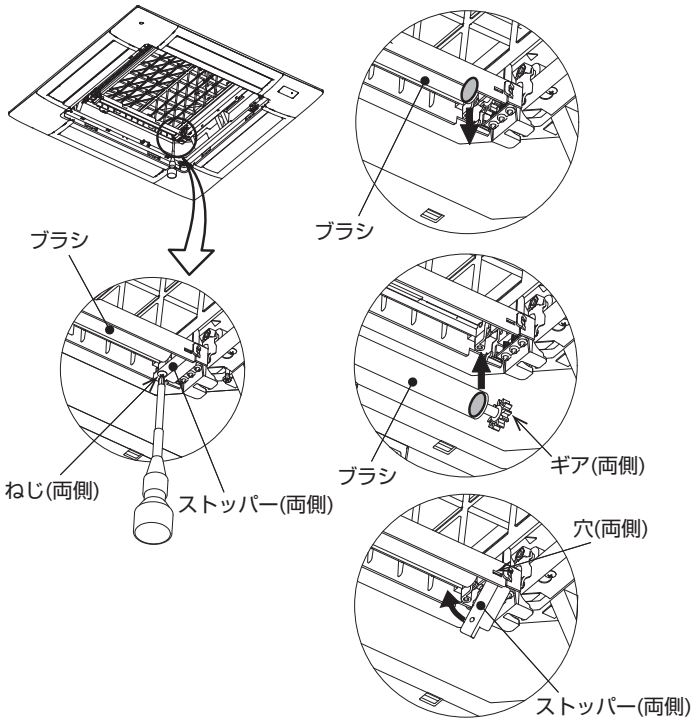
なお、フィルタを水洗いした場合は水分を十分に取除いさてください。

ご注意

フィルタを濡れたまま取付けるとホコリが固着し、フィルタ清掃に悪影響を与える可能性があります。

3）ブラシ

ブラシにホコリが堆積していると、そのホコリをフィルタに再付着させることがあります。
また、eco タッチリモコンに「M 01」または「M 02」が表示されたとき、ブラシとフィルタの抵抗により正常にフィルタ清掃できない場合があります。
そのようなときは、ブラシに付着しているホコリを除去してください。ブラシは水洗いもできます。
ブラシの取外しは高所作業で、工具 (ドライバー) が必要です。



1 取外し方

ストッパー(2個)を取外します。
ストッパーはねじ(1個)で固定されています。

ブラシの図の(軸の根本)辺りを持って下方向に引っ張って取外してください。

2 取付方

ブラシの図の(軸の根本)辺りとギアを上方向に押し込んで、ギアの軸部をはめてください。
カクッという感触があります。ブラシは落下しません。
ストッパー(2個)を取付けてください。
ストッパーの凸部を穴に差込んでから、図の矢印の方向に倒してください。

ねじ(2個)で固定してください。

なお、ブラシを水洗いした場合は水分を十分に取除いてください。

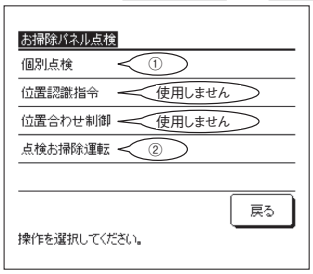
ご注意

ブラシを濡れたまま取付けるとホコリが固着し、フィルタ清掃に悪影響を与える可能性があります。

動作確認など

本項の操作で動作確認などが可能です。

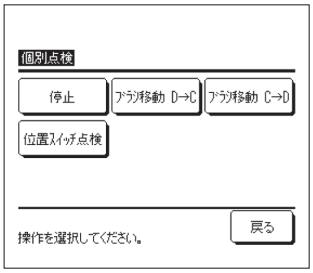
TOP画面 メニュー ⇒ サービス設定 ⇒ サービス・メンテナンス ⇒ サービスパスワード入力 ⇒ お掃除パネル点検



※位置認識指令と位置合わせ制御は本製品では使用しません。
旧型のお掃除ラクリーナパネルで使用します。

①個別点検

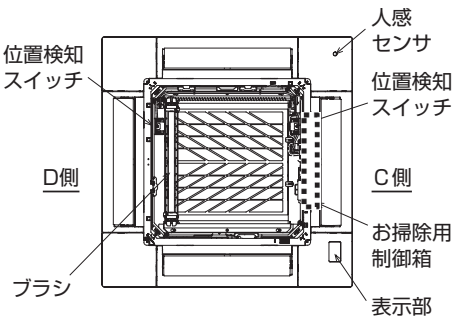
ブラシを移動させたり、位置検知スイッチの点検をすることができます。



ブラシ移動 D→C：ブラシがD側→C側に移動します。
ブラシがC側端に到達すると停止します。
また、停止 をタッチするとタッチした時点の位置で停止します。
表示灯（緑）：1回点滅 ／ 表示灯（黄）：連続点滅

ブラシ移動 C→D：ブラシがC側→D側に移動します。
ブラシがD側端に到達すると停止します。
また、停止 をタッチするとタッチした時点の位置で停止します。
表示灯（緑）：2回点滅 ／ 表示灯（黄）：連続点滅

位置スイッチ点検：表示灯（緑）と表示灯（黄）が3秒間点滅します。その後、位置検知スイッチ（D側）をON中は表示灯（緑）が点灯します。
位置検知スイッチ（C側）をON中は表示灯（黄）が点灯します。
停止 をタッチするか、5分経過すると終了します。

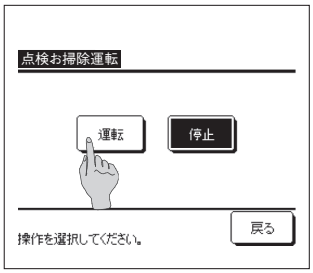


ご注意

吸込グリルを開いた状態でブラシ移動した場合、移動の途中など、ブラシがD側端にない状態（表示灯（黄）：連続点滅）で吸込グリルを閉じないでください。
正しくフィルタ清掃できません。最悪の場合、お掃除ユニットが破損します。

②点検お掃除運転

フィルタ清掃を開始します。フィルタ清掃中に吸込グリルの昇降ができます。
また、お掃除ユニットの動作を点検する場合など、吸込グリルを開いた状態でフィルタ清掃ができます。



ご注意

吸込グリルを開いた状態で点検お掃除運転した場合、フィルタ清掃の途中など、ブラシがD側端にない状態（表示灯（黄）：連続点滅）で吸込グリルを閉じないでください。正しくフィルタ清掃できません。最悪の場合、お掃除ユニットが破損します。

③バックアップスイッチでの点検

バックアップスイッチで下記の点検動作ができます。動作内容はecoタッチリモコンを使用した場合と同じです。

バックアップスイッチのON時間	点検内容	表示灯(緑)	表示灯(黄)
3秒未満	点検お掃除運転	点灯	連続点滅
3～6秒	ブラシ移動D→C	1回点滅	連続点滅
6～10秒	ブラシ移動C→D	2回点滅	連続点滅
10秒以上	位置スイッチ点検	※	

※表示灯（緑）と表示灯（黄）が3秒間点滅します。その後、位置検知スイッチ（D側）をON中は表示灯（緑）が点灯します。
位置検知スイッチ（C側）をON中は表示灯（黄）が点灯します。再度、バックアップスイッチを押すか5分経過すると終了します。

ご注意

点検動作中は、ブラシがD側端部にない（表示灯（黄）：連続点滅）状態でグリルを昇降できます。（通常はできません。）
表示灯（黄）が連続点滅しているときは吸込グリルを閉じないでください。
正しくフィルタ清掃できません。最悪の場合、お掃除ユニットが破損します。
必ず、表示灯（黄）が消灯しているのを確認してから、吸込グリルを閉じてください。表示灯（黄）が連続点滅してる場合は、消灯してから吸込グリルを閉じてください。（個別点検の ブラシ移動 C→D をタッチしてください。）

ダスト回収時期に到達した場合は表示灯（黄）は点灯します。
ダスト回収し、フィルタサインをリセットした後、表示灯（黄）が連続点滅するか確認してください。

保守点検について

本機は自動でエアフィルタ清掃を行うため，普段のフィルタのお手入れは不要です。ただし，環境条件や使用条件によっては，想定している交換周期よりも早く消耗が進みフィルタの目詰まり等の影響がでる場合がありますので，下記の点検周期での保守点検を行ってください。

■点検と保全周期の目安について

保全周期は保証期間を示しているものではありませんので注意ください。
頻繁な発停のない通常の使用において，10時間/日，2,500時間/年と仮定した場合です。運転状況により異なりますので保守契約時にご確認ください。

主要部品	点検周期	保全周期 交換または修理	部品番号
ルーバ用モータ	1年	20,000 時間	SSA512T096
エアフレックス用モータ			SSA512T049
吸込グリル昇降用モータ			SSA511T029C
ブラシ移動シャフト用モータ			SSA512T067
ブラシ移動シャフト	1年	5年	PJF271A012
ブラシ移動ナット			PJF914C001
ブラシ移動シャフト用軸受			PJF935D001
ブラシ移動シャフト用ギア			PJF273A004 PJF273A009
ブラシ用ギア			PJF273J001
ブラシストッパー			PJF129A103
クシ			PJF129A105
ダストボックス蓋			PJF112A004
ダストボックス (透明)			PJF142A035
表示基板	1年	25,000 時間	PJA505A272
お掃除基板			PJA505A271H
吸込グリル昇降基板			PJZ505A033Z

主要部品	点検周期	交換周期	部品番号
フィルタ	1年	3年	PJF437A010A
ブラシ	1年	3年	PJF271A015

注意：部品番号は 2020 年4月現在のものです。予告なく変更することがあります。
最新の部品番号は販売店にお問い合わせください。

この表は一般的な使用条件下における定期点検の周期（点検周期）および部品交換などの目安を示しています。適切な保全設計（保守点検費用の予算化など）のためにお役立てください。建築物衛生法（ビル管法）の対象設備に該当する場合は，法規に従った保守点検も実施してください。「保全周期」および「交換周期」は，使用条件（運転時間が長い）や使用環境（高温・多湿・ホコリの量・油雰囲気など）がきびしくなると短縮する必要があります。

■エラー表示

リモコン		制御内容	表示部	
			表示灯(緑)	表示灯(黄)
メンテナンス表示	M01	ブラシ組立のD→C移動中に規定時間内に位置検知スイッチ1(C側)を検知しない場合。	1回点滅	消灯
	M02	ブラシ組立のC→D移動中に規定時間内に位置検知スイッチ2(D側)を検知しない場合。	2回点滅	消灯
	M03	ブラシ組立のC→D移動中に位置検知スイッチ1(C側)がONした場合。	3回点滅	消灯
	M04	ブラシ組立のD→C移動中に位置検知スイッチ2(D側)がONした場合。	4回点滅	消灯
	M06	ブラシ組立が移動中、位置検知スイッチ1と位置検知スイッチ2が同時にONした場合。	6回点滅	消灯
	M21	1秒以上パネルスイッチが開を検知した場合。	5回点滅	消灯
—		グリル降下中にブラシ組立が移動している場合。（※） 位置検知スイッチがD側、C側どちらも押されていない場合。	消灯	連続点滅

パネル表示部のバックアップスイッチ

バックアップスイッチON時間	制御	内容
3秒未満	点検お掃除運転	点検お掃除運転(点検)
3秒以上6秒未満	ブラシ移動(D→C)	ブラシ移動D→C(点検)
6秒以上10秒未満	ブラシ移動(C→D)	ブラシ移動C→D(点検)
10秒以上	位置検知スイッチ点検	位置検知スイッチ点検

※：表示灯（黄）が連続点灯中にグリルを閉じないでください。
個別点検のブラシ移動（C→D）でブラシ組立をD側に移動させ、表示灯（黄）が消灯したのを確認後、グリルを閉じてください。

三菱重工サーマルシステムズ株式会社　〒100-8332　東京都千代田区丸の内３-２-３
三菱重工冷熱株式会社　〒108-0023　東京都港区芝浦２-11-５

●製品の仕様は改良のため予告なしに変更することがあります。